

Oracle® Universal Content Management

Site Studio デザイナ・ガイド

10g リリース 3 (10.1.3.3.3)

部品番号 : B51306-01

2008 年 12 月

Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド, 10g リリース 3 (10.1.3.3.3)

部品番号 : B51306-01

原本名 : Oracle Universal Content Management Site Studio Designer Guide, 10g Release 3 (10.1.3.3.3)

原本著者 : Sean Cearley

原本協力者 : Brian Cheyne

Copyright © 1996, 2008, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかるとして使用する場合、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	xv
対象読者	xvi
ドキュメントのアクセシビリティについて	xvi
関連ドキュメント	xvi
表記規則	xvii
サポートおよびサービス	xvii
1 概要	
1.1 Site Studio について	1-2
1.2 デザイナ、マネージャおよびコントリビュータ	1-3
1.3 再利用可能なレイアウト・ページ	1-3
1.4 パラメータ化されたフラグメント	1-4
1.5 Content Server と Site Studio	1-4
1.6 今回のリリースの新機能	1-5
1.7 作業の開始	1-6
2 デザイナのスタート・ガイド	
2.1 デザイナの起動	2-2
2.2 デザイナのメイン・ウィンドウ	2-2
2.3 サイト接続マネージャ	2-3
2.4 「Site Hierarchy」 ペイン	2-4
2.5 レイアウト・ページ	2-5
2.6 「Properties」 ペイン	2-6
2.7 「Site Assets」 ペイン	2-7
2.8 ツールボックス	2-7
2.9 Create Hyperlink Wizard	2-8
2.10 フラグメント・エディタ	2-9
2.11 コントリビューション・リージョンと要素	2-10
2.12 コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント	2-11
2.13 マネージャでの作業	2-13
2.14 コントリビュータでの作業	2-14
2.14.1 コントリビュータの起動	2-14
2.14.2 コントリビュータのインタフェース	2-16
2.14.3 コントリビュータとワークフロー	2-17
2.15 コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」 ページ	2-17

3 デザイナのカスタマイズ

3.1	デザイナのペインのカスタマイズ	3-2
3.1.1	ペインの表示または非表示	3-2
3.1.2	ペインのサイズ変更	3-2
3.1.3	ペインの移動または別の枠線へのドッキング	3-3
3.2	「Customize」ダイアログ・ボックスの使用	3-3
3.3	新規メニューの作成	3-4
3.4	ツールバーのカスタマイズ	3-5
3.4.1	ツールバーの表示と非表示	3-5
3.4.2	新規ツールバーの作成	3-5
3.4.3	ツールバーのリセット	3-6
3.5	「Tools」メニューへのショートカットの追加	3-7
3.6	キーボード・ショートカットの割当て	3-8
3.7	メニューのカスタマイズ	3-9
3.7.1	ポップアップ・メニューへのコマンドの追加	3-9
3.7.2	ポップアップ・メニューからのコマンドの削除	3-9
3.7.3	メニューの表示の制御	3-10
3.8	表示オプションの設定	3-10
3.9	「Source」ビューのコードの書式設定	3-11
3.10	警告メッセージの表示または非表示	3-11
3.11	その他のオプションの設定	3-12
3.12	ログ・ファイル設定の変更	3-12

4 サイトの計画

4.1	コンテンツ・サーバーへの Web サイトの格納	4-2
4.1.1	コンテンツ・サーバーのインストールと実行	4-2
4.1.2	必須およびオプションのコンポーネント	4-3
4.1.3	コンテンツ・サーバーでの複数サイトの実行	4-3
4.1.4	スクリプト・オプション	4-3
4.1.5	外部ファイルの参照	4-3
4.1.6	別のサーバーへの Web サイトのコピー	4-4
4.2	サイト階層の計画	4-4
4.2.1	階層の深さ	4-5
4.2.2	セクション名	4-5
4.2.3	ナビゲーション	4-5
4.2.4	Web サイト・アドレス	4-5
4.2.5	プライマリおよびセカンダリ・レイアウト・ページ	4-5
4.2.6	レイアウト・ページの再利用	4-6
4.2.7	リージョン・コンテンツの再利用と共有	4-6
4.2.8	サイト階層を変更する役割のマネージャへの委任	4-6
4.3	レイアウト・ページへのコンテンツの追加	4-7
4.3.1	レイアウト・ページへのコンテンツの直接追加	4-7
4.3.2	レイアウト・ページへのコンテンツのフラグメントとしての追加	4-7
4.4	コントリビューション・モデルの作成	4-8
4.4.1	サイトのコンテンツをどの程度までユーザーに提供させるか	4-8
4.4.2	ユーザーにどの程度まで制御させるか	4-8
4.4.3	各ユーザーに異なるセキュリティ・アクセス権を付与するか	4-9

4.4.4	コントリビュータにネイティブ・ドキュメントを発行させるか	4-9
4.4.5	コントリビューション・プロセスをどのように調整するか	4-9
4.5	Site Studio でのファイルの管理	4-10
4.5.1	レイアウト・ページ	4-10
4.5.2	コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント	4-11
4.5.3	フラグメントとフラグメント・ライブラリ	4-11
4.5.4	追加のサイト・アセット (イメージ、CSS、スクリプトなど)	4-12
4.6	HCSP、JSP および ASP の Web サイト	4-12
4.7	HCSP サイト	4-13
4.8	JSP サイト	4-13
4.8.1	コンテンツ・サーバーでの JSP の構成	4-13
4.8.2	JSP レイアウト・ページ	4-14
4.8.3	JSP フラグメント	4-14
4.9	ASP サイト	4-15
4.9.1	サーバーでの ASP の構成	4-15
4.9.2	ASP レイアウト・ページ	4-15
4.9.3	ASP フラグメント	4-16

5 Web サイトの作成

5.1	サイト接続	5-2
5.1.1	新規サイト接続の作成	5-2
5.1.2	サイト接続の編集	5-4
5.1.3	サイト接続の削除	5-4
5.2	サイト・アドレス指定	5-5
5.2.1	サイトへのドメイン名のマッピング	5-5
5.2.1.1	デザイナーを使用したドメイン名のマッピング	5-6
5.2.1.2	「Manage Web Site Addresses」 ページを使用したドメイン名のマッピング	5-6
5.2.2	サイト・アドレスに使用されるパスの変更	5-7
5.3	プロジェクト・ファイル	5-8
5.3.1	プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータの指定	5-9
5.3.2	デザイナーでのプロジェクト・ステータスの表示	5-9
5.3.3	プロジェクト・ファイルに対する変更のコミット	5-10
5.3.4	プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示	5-10
5.4	サイト階層	5-10
5.4.1	サイト階層へのセクションの追加	5-11
5.4.2	サイト階層のセクション名の変更	5-12
5.4.3	サイト階層のセクションの並替え	5-12
5.4.4	サイト階層からのセクションの削除	5-13
5.4.5	サイト・ナビゲーションへのセクションの表示	5-13
5.4.6	エラー・ハンドラ・セクションの指定	5-14
5.4.7	サイトまたはセクションのセキュリティの変更	5-15
5.4.8	Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集	5-16
5.4.9	セクションのカスタム・プロパティの定義	5-18
5.4.10	サイト階層の展開と縮小	5-19
5.4.11	デザイナーでのサイト階層のリフレッシュ	5-20
5.5	レイアウト・ページ	5-20
5.5.1	サイト階層へのホームページの追加	5-22

5.5.2	サイト階層へのプライマリ・ページの追加	5-23
5.5.3	サイト階層へのセカンダリ・ページの追加	5-25
5.5.4	サイト階層からのレイアウト・ページの削除	5-26
5.5.5	レイアウト・ページのプロパティの表示	5-26
5.5.6	レイアウト・ページのコンテンツ情報ページの表示	5-27
5.5.7	Web サイト上のレイアウト・ページの表示	5-27
5.5.8	レイアウト・ページのステージ	5-27
5.5.8.1	レイアウト・ページへのコンテンツの直接追加	5-28
5.5.8.2	レイアウト・ページへのフラグメントの追加	5-28
5.5.8.3	レイアウト・ページへのコントリビューション・リージョンの追加	5-29
5.6	サイト・アセット	5-30
5.6.1	サイト・アセットの必須メタデータ	5-31
5.6.2	「Site Assets」 ペインについて	5-32
5.6.3	サイト・アセットの表示	5-33
5.6.4	サイト・アセットの追加	5-33
5.6.4.1	新規サイト・アセットの追加	5-34
5.6.4.2	既存のコンテンツ・サーバー・ファイルのアセットへの変換	5-34
5.6.5	サイト・アセットの編集	5-35
5.6.6	サイト・アセットの削除	5-36
5.6.7	サイト・アセット・カテゴリの変更	5-36
5.6.7.1	カテゴリの追加	5-37
5.6.7.2	カテゴリの削除	5-37
5.6.7.3	カテゴリの編集	5-38
5.7	サイト・レポート	5-39
5.7.1	サイト・オブジェクト・レポート	5-39
5.7.2	サイト使用状況レポート	5-40
5.7.3	コンテンツ追跡レポート	5-40
5.7.4	Web サイト・オブジェクト・レポートの表示	5-41
5.7.4.1	デザイナーでのレポートの表示	5-41
5.7.4.2	「Site Studio Administration」 ページでのレポートの表示	5-41
5.7.5	Web サイト使用状況レポートの表示	5-42
5.7.5.1	デザイナーでのレイアウト・ページのレポートの表示	5-42
5.7.5.2	デザイナーでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示	5-42
5.7.5.3	Web ページでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示	5-42
5.7.5.4	他のすべてのファイルのレポートの表示	5-43
5.7.6	コンテンツ追跡レポートの表示	5-43
5.7.6.1	ファイルが表示される Web ページでのレポートの表示	5-43
5.7.6.2	サイトにおけるすべてのファイルのレポートの表示	5-43
5.8	Web サイトの開始と停止	5-44
5.8.1	Web サイトの停止	5-44
5.8.2	停止サイト用の一時ページの構成	5-44

6 レイアウト・ページの設計

6.1	レイアウト・ページのオープンと表示	6-2
6.2	「Source」ビュー、「Design」ビューおよび「Preview」	6-2
6.2.1	「Source」ビュー	6-3
6.2.2	「Design」ビュー	6-4
6.2.3	Preview	6-6
6.3	レイアウト・ページの編集	6-6
6.4	テキストの操作	6-7
6.4.1	書式設定ツールバーでのテキストの書式設定	6-7
6.4.2	書式設定ツールバーについて	6-7
6.4.3	HTML ツールバーについて	6-9
6.4.4	「Properties」ペインでのテキストの書式設定	6-10
6.4.5	テキストへの CSS クラスの適用	6-10
6.5	グラフィックの操作	6-11
6.5.1	グラフィックの追加	6-11
6.5.2	グラフィックのサイズ変更	6-12
6.5.3	グラフィックの削除	6-13
6.6	ハイパーリンクの操作	6-13
6.6.1	別のセクションに対するリンクの作成	6-14
6.6.2	データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントに対するリンクの作成	6-15
6.6.3	URL に対するリンクの作成	6-17
6.6.4	ハイパーリンクの編集	6-18
6.6.5	ハイパーリンクの削除	6-18
6.6.6	デフォルトのリンク形式の選択	6-19
6.6.7	ハイパーリンクの形式	6-20
6.7	HTML 表の操作	6-21
6.7.1	デザイナの表について	6-22
6.7.2	表の追加	6-24
6.7.3	表のサイズ変更	6-25
6.7.4	表への行の追加	6-25
6.7.5	表への列の追加	6-26
6.7.6	表のセルの分割とマージ	6-26
6.7.7	表の行のサイズ変更	6-27
6.7.8	表の列のサイズ変更	6-28
6.7.9	表の枠線の表示と非表示	6-28
6.7.10	表の削除	6-29
6.8	「Properties」ペイン	6-29
6.9	Web ページの変更の比較	6-30
6.9.1	Web ページの比較時における差異の色分け	6-31
6.9.2	変更比較機能の使用	6-31
6.10	フラグメントとコントリビューション・リージョンの追加	6-33
6.10.1	フラグメント	6-33
6.10.2	コントリビューション・リージョン	6-33

7 フラグメントの操作

7.1	フラグメントについて	7-2
7.2	フラグメントの追加と編集	7-2
7.3	ツールボックスのフラグメント	7-2
7.4	ツールボックスのフラグメントのフィルタ	7-4
7.5	レイアウト・ページへのフラグメントの追加	7-4
7.6	フラグメントのプレビュー	7-5
7.6.1	フラグメントのプレビュー	7-5
7.6.2	フラグメントの異なるパラメータの選択	7-6
7.6.3	フラグメント追加時の異なるパラメータの選択	7-6
7.6.4	レイアウト・ページでのフラグメントのパラメータの変更	7-7
7.7	フラグメントの編集	7-7
7.7.1	フラグメントのコピーの編集	7-8
7.7.2	フラグメントの編集	7-9
7.8	新規フラグメントの作成	7-10
7.9	レイアウト・ページのフラグメントの削除	7-11
7.10	ツールボックスのフラグメントの削除	7-11
7.11	フラグメント・エディタの使用	7-12
7.11.1	フラグメント・エディタの起動	7-13
7.11.2	フラグメント・プロパティの指定	7-13
7.11.3	フラグメントに関連付けられたアイコンの変更	7-14
7.11.4	フラグメント・スニペットの追加と編集	7-15
7.11.5	フラグメント・アセットの追加と編集	7-17
7.11.5.1	アセットの追加	7-17
7.11.5.2	アセットの編集	7-18
7.11.5.3	アセットの削除	7-18
7.11.6	フラグメント・パラメータの追加と編集	7-19
7.11.6.1	フラグメントのパラメータの編集	7-19
7.11.6.2	フラグメントへの新規パラメータの追加	7-20
7.11.7	フラグメント要素の追加と編集	7-22
7.11.7.1	フラグメントへの要素の追加	7-22
7.11.7.2	フラグメントの要素の編集	7-23
7.11.7.3	フラグメントの要素の削除	7-23
7.12	フラグメント・ライブラリ	7-23
7.12.1	フラグメント・ライブラリについて	7-24
7.12.2	フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存	7-24
7.12.3	読取り専用フラグメント・ライブラリの設定	7-25
7.12.4	フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード	7-26
7.12.4.1	フラグメント・ライブラリのダウンロード	7-26
7.12.4.2	フラグメント・ライブラリのアップロード	7-26
7.12.5	「Manage Fragment Libraries」ページを使用したフラグメントのデプロイ	7-27
7.12.5.1	サーバーへのフラグメント・ライブラリのデプロイ	7-27
7.12.5.2	サーバーでの JSP フラグメントの構成	7-27

8 コントリビューションの設定

8.1	設計者 - コントリビュータ・モデル	8-2
8.1.1	手順 1: レイアウト・ページへのコントリビューション・リージョンおよびフラグメントの追加	8-3
8.1.2	手順 2: 各リージョンへのコンテンツの割当て	8-4
8.1.3	手順 3: レイアウト・ページの表示とマネージャおよびコントリビュータへの通知	8-5
8.1.4	手順 4: コントリビュータ・アプリケーションを使用した Web ページの更新	8-6
8.1.5	手順 5: Web ブラウザでの完成した Web ページの表示	8-7
8.2	マネージャおよびコントリビュータの役割	8-7
8.3	デザイナーでのコントリビューションの設定	8-7
8.4	コントリビュータ専用セクションの指定	8-8
8.5	コントリビュータへの情報提供	8-9

9 コントリビューション・リージョンの操作

9.1	コントリビューション・リージョンの設定	9-2
9.2	コントリビューション・リージョンの追加	9-2
9.3	コントリビューション・リージョンの編集	9-4
9.4	コントリビューション・リージョンの削除	9-4
9.5	コントリビューション・リージョンの移動またはサイズ調整	9-5
9.6	コントリビュータによるリージョン内のメタデータの変更の許可	9-5
9.7	コントリビュータによるリージョン・コンテンツの切替えの許可	9-6
9.8	コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可	9-8
9.8.1	コントリビュータによる新規ファイルに対するリンクの作成の許可	9-8
9.8.2	コントリビュータによる動的リストへのファイルの追加の許可	9-9
9.8.3	動的リストでのコントリビュータ用のリンク・オプション	9-10
9.8.4	置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定	9-11
9.8.5	ターゲット・セクションの理解	9-12
9.8.6	ターゲット・セクションを指定する場所	9-12
9.8.7	Site Studio によるターゲット・セクションの評価方法	9-13

10 リージョン・コンテンツの操作

10.1	リージョン・コンテンツについて	10-2
10.2	リージョン・コンテンツに関する考慮事項	10-2
10.3	コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て	10-3
10.4	各リージョンに対する一意のデータ・ファイルの生成	10-5
10.5	サイト階層にリージョン・コンテンツが存在するかどうかの確認	10-6
10.6	コントリビュータ・データ・ファイルの操作	10-8

11 要素の操作

11.1	要素の概要	11-2
11.2	ツールバーの要素	11-3
11.3	WYSIWYG 要素の操作	11-3
11.3.1	コントリビューション・リージョンへの WYSIWYG 要素の追加	11-4
11.3.2	WYSIWYG 要素の編集および削除	11-5
11.3.3	WYSIWYG 要素のアクション	11-6
11.4	プレーン・テキスト要素の操作	11-9
11.4.1	コントリビューション・リージョンへのプレーン・テキスト要素の追加	11-9

11.4.2	プレーン・テキスト要素の編集および削除	11-10
11.5	イメージ要素の操作	11-10
11.5.1	コントリビューション・リージョンへのイメージ要素の追加	11-11
11.5.2	イメージ要素の編集および削除	11-12
11.6	カスタム要素の操作	11-12
11.6.1	コントリビューション・リージョンへのカスタム要素の追加	11-13
11.6.2	カスタム要素の編集および削除	11-14
11.7	要素で使用可能なオプション	11-14
11.7.1	コントリビュータへのリンク作成の許可	11-15
11.7.2	コントリビュータ用の問合せテキストの指定	11-16
11.7.3	新規ファイルのメタデータの指定	11-17
11.7.4	コントリビュータ用の追加のアクセシビリティの設定	11-18
11.7.5	コントリビュータ用の CSS クラスの設定	11-18
11.7.6	コントリビュータ用の HTML タグの定義	11-19

12 カスタム・フォームとスクリプトの操作

12.1	カスタム・フォームとスクリプトの概要	12-2
12.2	カスタム要素フォーム	12-2
12.3	プロパティ・フォーム	12-3
12.4	デフォルトの検証オプション	12-3
12.5	Adobe Flash ファイルのサンプル・フォーム	12-4
12.6	Site Studio のサンプル・フォーム	12-5
12.6.1	イメージ・プロパティ・フォーム (ss_img_properties_form.hcsp)	12-5
12.6.2	表のプロパティ・フォーム (ss_table_properties_form.hcsp)	12-6
12.6.3	表のセルのプロパティ・フォーム (ss_td_properties_form.hcsp)	12-6
12.6.4	汎用プロパティ・フォーム (ss_generic_properties_form.hcsp)	12-7
12.6.5	要素の検証	12-8

13 ネイティブ・ドキュメントの操作

13.1	ネイティブ・ドキュメントの概要	13-2
13.2	ネイティブ・ドキュメントの要件	13-2
13.3	ネイティブ・ドキュメント用の変換テンプレートの指定	13-3
13.4	Dynamic Converter テンプレートの選択ルール	13-4
13.5	ネイティブ・ドキュメントのフラグメント	13-5

14 リストの操作

14.1	リストの概要	14-2
14.2	静的リスト	14-2
14.2.1	レイアウト・ページへの静的リストの追加	14-3
14.2.2	静的リストの編集および削除	14-4
14.2.3	静的リストのアクション	14-5
14.3	動的リスト	14-6
14.3.1	レイアウト・ページへの動的リストの追加	14-7
14.3.2	動的リストの編集および削除	14-8
14.3.3	動的リストのアクション	14-9

15 マネージャの設定

15.1	Site Studio マネージャの概要	15-2
15.2	マネージャの表示場所と表示時間の選択	15-2
15.3	マネージャの表示時間	15-2
15.4	サイトへのマネージャの追加	15-3
15.4.1	デフォルト設定によるマネージャの追加	15-3
15.4.2	カスタム設定によるマネージャの追加	15-3
15.5	マネージャ設定ファイルの作成	15-4
15.6	マネージャ設定のカスタマイズ	15-5
15.7	マネージャ設定ファイルの説明	15-7

16 ワークフロー

16.1	ワークフローの概要	16-2
16.2	ワークフローのタイプ	16-2
16.3	ワークフローのロール	16-2
16.4	コントリビュータのワークフローの使用状況	16-3
16.5	ワークフローの例	16-3
16.5.1	ワークフローのコントリビュータ・データ・ファイル	16-3
16.5.2	ワークフローのネイティブ・ドキュメント	16-4
16.5.3	ワークフローのイメージ	16-5
16.6	ワークフローの設定	16-5

17 サイトのレプリケート

17.1	レプリケーションの概要	17-2
17.1.1	レプリケーション・プロセス	17-2
17.1.2	レプリケーションの対象	17-3
17.1.3	含まれるリビジョン	17-3
17.1.4	エクスポートのその他の設定	17-3
17.2	レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成	17-4
17.3	ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定	17-5
17.4	インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成	17-7
17.4.1	ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定	17-7
17.4.2	ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定	17-8
17.5	サイト・レプリケーションの開始	17-10
17.6	環境プロパティの指定	17-10
17.7	サイトの各セクションのレプリケート	17-11
17.8	Site Studio レプリケータの使用	17-11
17.8.1	手順 1: ソース・サーバーと Web サイトの選択	17-12
17.8.2	手順 2: ターゲット・サーバーの選択	17-13
17.8.3	手順 3: レプリケートするアイテムの選択	17-15
17.8.4	手順 4: Site Studio レプリケータの終了	17-16
17.8.5	サーバー接続の変更	17-17
17.8.6	環境プロパティの上書き	17-18

18 サイトのバックアップ

18.1	バックアップの対象	18-2
18.2	サイトのバックアップ	18-2
18.3	サイトのリストア	18-3
18.4	サーバー構成の詳細の表示	18-5

A ユーザー・インタフェース

A.1	「Customize」ダイアログ・ボックス	A-3
A.1.1	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Commands」タブ	A-4
A.1.2	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Toolbars」タブ	A-5
A.1.3	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Tools」タブ	A-7
A.1.4	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Keyboard」タブ	A-8
A.1.5	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Menu」タブ	A-10
A.1.6	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Options」タブ	A-11
A.1.7	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Source View」タブ	A-12
A.1.8	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Warning Dialogs」タブ	A-14
A.1.9	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Miscellaneous」タブ	A-15
A.1.10	「Customize」ダイアログ・ボックス: 「Log File」タブ	A-16
A.2	「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックス	A-17
A.3	「Site Connection Details」ダイアログ・ボックス	A-18
A.4	「Create New Site」ダイアログ・ボックス	A-19
A.5	「Site Addresses」ダイアログ・ボックス	A-20
A.6	「Choose Default Link Format」ダイアログ・ボックス	A-21
A.7	「Define Environment Properties」ダイアログ・ボックス	A-22
A.8	「New Section」ダイアログ・ボックス	A-23
A.9	「Define Custom Section Properties」ダイアログ・ボックス	A-24
A.10	「Define Custom Section Property」ダイアログ・ボックス	A-25
A.11	「Select (Home) Layout Page」ダイアログ・ボックス	A-26
A.12	「Select (Primary) Layout Page」ダイアログ・ボックス	A-28
A.13	「Select (Secondary) Layout Page」ダイアログ・ボックス	A-30
A.14	「Site Asset Categories」ダイアログ・ボックス	A-32
A.15	「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス	A-33
A.16	「Select Site」ダイアログ・ボックス	A-34
A.17	「Select Section」ダイアログ・ボックス	A-35
A.18	Create Hyperlink Wizard	A-35
A.18.1	Create Hyperlink Wizard - 「Choose Type」	A-36
A.18.2	Create Hyperlink Wizard - 「Choose Section」	A-37
A.18.3	Create Hyperlink Wizard - 「Choose Format」	A-38
A.18.4	Create Hyperlink Wizard - 「Confirmation」	A-40
A.18.5	Create Hyperlink Wizard - 「Choose Region Content」	A-41
A.18.6	Create Hyperlink Wizard - 「Choose Target Section」	A-42
A.19	「Contribution Region」ダイアログ・ボックス	A-43
A.20	「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス	A-45
A.21	「Region Content Options」ダイアログ・ボックス	A-46
A.22	「Choose Document Types」ダイアログ・ボックス	A-47
A.23	「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス	A-48
A.24	「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス	A-48
A.25	「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックス	A-49

A.26	「WYSIWYG Element」 ダイアログ・ボックス	A-51
A.27	「Plain Text Element」 ダイアログ・ボックス	A-54
A.28	「Image Element」 ダイアログ・ボックス	A-56
A.29	「Custom Element」 ダイアログ・ボックス	A-58
A.30	「Custom Element Settings」 ダイアログ・ボックス	A-59
A.31	「Region Content Options」 ダイアログ・ボックス	A-60
A.32	「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス	A-62
A.33	「Select CSS Classes」 ダイアログ・ボックス	A-63
A.34	「WYSIWYG Element Validation」 ダイアログ・ボックス	A-64
A.35	「Plain Text Element Validation」 ダイアログ・ボックス	A-65
A.36	「Select HTML Tags」 ダイアログ・ボックス	A-66
A.37	「Image Element Validation」 ダイアログ・ボックス	A-67
A.38	「Advanced Element Validation」 ダイアログ・ボックス	A-68
A.39	「Static List Element」 ダイアログ・ボックス	A-69
A.40	「Static List Element Validation」 ダイアログ・ボックス	A-71
A.41	「Dynamic List Element」 ダイアログ・ボックス	A-72
A.42	「Region Content Options」 ダイアログ・ボックス	A-74
A.43	「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス	A-75
A.44	「Assign Region Content」 ダイアログ・ボックス	A-76
A.45	「Choose Region Content」 ダイアログ・ボックス	A-78
A.46	「Generate Unique Region Content」 ダイアログ・ボックス	A-79
A.47	フラグメント・エディタ	A-80
A.48	「Properties for Fragment」 ダイアログ・ボックス	A-82
A.49	「Fragment Assets」 ダイアログ・ボックス	A-83
A.50	「Fragment Elements」 ダイアログ・ボックス	A-84
A.51	「Fragment Parameters」 ダイアログ・ボックス	A-85
A.52	「Edit Query Text」 ダイアログ・ボックス	A-87
A.53	「New Option」 ダイアログ・ボックス	A-88
A.54	「Snippet Properties」 ダイアログ・ボックス	A-89
A.55	「Fragment Parameter Values」 ダイアログ・ボックス	A-91
A.56	「Fragment Preview」 ダイアログ・ボックス	A-92
A.57	「Save Fragment」 ダイアログ・ボックス	A-93
A.58	「Site Studio Administration」 ページ	A-94
A.59	「Manage Web Sites」 ページ	A-96
A.60	「Manage Site」 ページ	A-97
A.61	「Manage Web Site Addresses」 ページ	A-98
A.62	「Manage Fragment Libraries」 ページ	A-99
A.63	「Set Project Default Document Information」 ページ	A-100
A.64	「Manage Site Replication」 ページ	A-101
A.65	「Add Export Archive」 ページ	A-102
A.66	「Edit Export Archive」 ページ	A-104
A.67	「Add Import Archive」 ページ	A-105
A.68	「Edit Import Archive」 ページ	A-106
A.69	「Backup and Restore」 ページ	A-107
A.70	「Web Site Backup Archives」 ページ	A-108
A.71	「Backup Archive Information」 ページ	A-110
A.72	「Server Configuration Details」 ページ	A-111
A.73	「General Component Information」 ページ	A-112

B サンプル・フラグメント

B.1	ナビゲーション・フラグメント	B-2
B.1.1	ブレットドクラム・プレーン	B-3
B.1.2	エクスプローラ・メニュー・バー	B-3
B.1.3	ログイン・サンプル	B-3
B.1.4	ナビゲーション・ホーム・ロゴ	B-4
B.1.5	水平方向のナビゲーション・マルチ	B-4
B.1.6	垂直方向のナビゲーション・マルチ	B-5
B.1.7	水平方向のナビゲーション・プレーン	B-5
B.1.8	垂直方向のナビゲーション・プレーン	B-6
B.1.9	トップ・ナビゲーション・タブ	B-6
B.1.10	水平方向のナビゲーション・ラップ	B-6
B.1.11	検索ボックス・プレーン	B-7
B.1.12	検索結果ページ	B-7
B.1.13	検索結果プレーン	B-8
B.1.14	サイト・マップ・プレーン	B-8
B.1.15	サイト・マップ・ツリー	B-9
B.1.16	垂直方向のメニュー・バー	B-9
B.1.17	ASP ブレットドクラム・プレーン	B-9
B.1.18	ASP ブレットドクラム・プレーン (サーバー)	B-10
B.1.19	ASP エクスプローラ・メニュー・バー	B-10
B.1.20	水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ	B-10
B.1.21	垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ	B-11
B.1.22	ASP 検索ボックス・プレーン	B-11
B.1.23	ASP 検索ボックス・プレーン (サーバー)	B-12
B.1.24	ASP 検索結果プレーン	B-12
B.1.25	ASP サイト・マップ・プレーン	B-13
B.1.26	CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント)	B-13
B.1.27	CSP サンプル・ナビゲーション (サーバー)	B-14
B.1.28	JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ	B-14
B.1.29	水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン	B-15
B.1.30	垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン	B-15
B.1.31	JSP 検索ボックス・プレーン	B-15
B.1.32	JSP 検索結果ページ	B-16
B.1.33	JSP サイト・マップ・プレーン	B-17
B.1.34	IDOC ブレットドクラム・プレーン	B-17
B.1.35	IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ	B-17
B.1.36	水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ	B-18
B.1.37	水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン	B-18
B.1.38	IDOC トップ・ナビゲーション・タブ	B-19
B.1.39	IDOC 検索ボックス・プレーン	B-19
B.1.40	IDOC サイト・マップ・プレーン	B-19
B.1.41	RSET ブレットドクラム・プレーン	B-20
B.1.42	水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ	B-20
B.1.43	水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン	B-21
B.1.44	RSET サイト・マップ・プレーン	B-21

B.2	動的リスト・フラグメント	B-21
B.2.1	動的リスト一般	B-22
B.2.2	動的リスト・ページ	B-22
B.2.3	動的リスト・プレーン	B-22
B.2.4	ASP 動的リスト・ページ	B-23
B.2.5	ASP 動的リスト・シンプル	B-23
B.2.6	CSP サンプル動的リスト	B-24
B.2.7	JSP 動的リスト・プレーン	B-24
B.3	静的リスト・フラグメント	B-25
B.3.1	静的リスト・サンプル	B-25
B.3.2	静的リスト一般	B-25
B.3.3	ASP 静的リスト・サンプル	B-26
B.4	その他のフラグメント	B-26
B.4.1	コピーライト・サンプル	B-26
B.4.2	動的変換	B-26
B.4.3	動的変換 IFrame	B-27
B.4.4	エラー・ハンドラ・メッセージ	B-27
B.4.5	Flash サンプル	B-27
B.4.6	ロゴ・サンプル	B-27
B.4.7	ランダム変換	B-28
B.4.8	ASP エラー・ハンドラ・メッセージ	B-28
B.4.9	CSP サンプル・ページ・タイトル	B-28
B.4.10	PageHitCount	B-29
B.4.11	Site Studio マネージャ	B-29

C サード・パーティ・ライセンス

C.1	Apache Software License	C-2
C.2	W3C Software Notice and License	C-2
C.3	Zlib License	C-3
C.4	General BSD License	C-3
C.5	General MIT License	C-4
C.6	Unicode License	C-4
C.7	その他の帰属	C-5

用語集

索引

はじめに

『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』では、Site Studio で管理される Web サイトを設計する管理者に有用な情報を提供します。

対象読者

このドキュメントは、Site Studio で管理される組織の Web サイトを設計する、組織内のユーザーを対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

関連ドキュメント

詳細は、Oracle Site Studio ドキュメント・セットの次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle Universal Content Management Site Studio インストラクション・ガイド』
- 『Oracle Site Studio Tutorial Setup Guide』
- 『Oracle Universal Content Management Site Studio チュートリアル』
- 『Oracle Universal Content Management Site Studio コントリビュータ・ガイド』
- 『Oracle Universal Content Management Site Studio マネージャ・ガイド』
- 『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』
- 『Oracle Site Studio リリース・ノート』

表記規則

このマニュアルでは次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。
イタリック体	イタリックは、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

この項の内容は次のとおりです。

- 1-2 ページの「[Site Studio](#) について」
- 1-3 ページの「[デザイナー、マネージャおよびコントリビュータ](#)」
- 1-3 ページの「[再利用可能なレイアウト・ページ](#)」
- 1-4 ページの「[パラメータ化されたフラグメント](#)」
- 1-4 ページの「[Content Server](#) と [Site Studio](#)」
- 1-5 ページの「[今回のリリースの新機能](#)」
- 1-6 ページの「[作業の開始](#)」

1.1 Site Studio について

Site Studio は、エンタープライズ規模の Web サイトを設計、構築および管理するための包括的なアプローチを提供する、柔軟で強力な Web 開発プログラムです。このソフトウェアは、従来の単なる HTML エディタやスクリプト・エディタとは異なり、Web サイト作成機能やコンテンツ管理機能をすべて内部に統合しています。

Site Studio は、Site Studio の 3 つの異なるユーザーに対応する 3 つのアプリケーション（デザイナー、マネージャおよびコントリビュータ）から構成されます。

デザイナー・アプリケーションは、個人ユーザー（設計者）がサイトを作成、設計および配信できる開発環境を提供します。**マネージャ**・アプリケーションは、サイトの構造を管理する 1 人以上のサイト・マネージャが使用できる Web ベースのサイト管理コンソールを提供します。**コントリビュータ**・アプリケーションは、組織内の任意のユーザーが Web サイトをいつでも更新できるような独自の機会を提供します。

これらのアプリケーションは別個のものですが、相互に緊密に統合されています。デザイナーで実行されるタスクはマネージャとコントリビュータに影響し、マネージャで実行されるタスクはコントリビュータに影響します。

Site Studio では、いくつかの新しい概念が Web サイト開発プロセスに導入されています。サイトの構築を開始すると、サイト階層、再利用可能なレイアウト・ページ、パラメータ化されたフラグメント、コントリビューション・リージョンなどが出現します。最終的には、大規模な組織のニーズさえ満足させる、適切に構成されたユーザー・フレンドリな Web サイトを非常に簡単に作成できることがわかるはずです。

サイトを設計した後は、グローバル変更によるコンテンツの複製や、パブリッシュ・ボトルネックによる遅延の発生を回避しながら、そのサイトが成長するのを確認できます。グローバル変更とパブリッシュ・ボトルネックの問題は、次のように大規模な企業の多くの Web サイトに悪影響を及ぼします。

- **グローバル変更**: 多くの企業サイトは、いつかは企業、製品または Web サイト自体の根本的な変更を経験します。このような変更では、通常、サイトのすべてのページを更新する必要があるため、大規模な Web 開発作業が発生します。ページ数が数百や数千に達するようであれば、作業への意欲はすぐに減退してしまいます。多くの Web サイトでは、このような変更に対応する柔軟性がないため、変更が発生すると大規模な Web 開発作業が必要になるのが普通です。
- **パブリッシュ・ボトルネック**: ほとんどの企業サイトは、内部、外部サイトともに従業員が頻繁に更新するには適していないため、通常は古いコンテンツが含まれます。プレス・リリースの追加、販促商品の削除、社長メッセージの改訂などが必要とされる場合、Web マスターや Web チームに通知する必要があります。組織のすべてのユーザーが更新のために同じソースにアクセスすると、Web マスターや Web チームが使用できなくなる可能性があります。ボトルネックが発生し、そのため企業に深刻な結果をもたらす遅延が引き起こされます。

1.2 デザイナ、マネージャおよびコントリビュータ

Site Studio は、Site Studio の 3 つの異なるユーザーに対応する次の 3 つのアプリケーションから構成されます。

- **デザイナー**: 個人ユーザー（設計者）がサイトを設計、構築および管理できる開発環境を提供するアプリケーション
- **マネージャ**: マネージャがサイト階層を変更できる環境を提供する Web ベースのアプリケーション
- **コントリビュータ**: コントリビュータが Web サイトのコンテンツを追加および編集できるコンテキスト内編集環境を提供するアプリケーション

設計者は、通常、Web マスター、Web 開発者、サイト管理者、または同様の役職にあるその他のユーザーです。マネージャは、通常、部課長です。コントリビュータは、技術者の側面の薄い、マーケティング担当チームや広報担当チームのメンバーなどです。一般的に、1 人の設計者が複数のマネージャおよびコントリビュータと共同で作業します。

サイト設計者は、作業時間の多くをデザイナー・アプリケーションの使用に費やします（マネージャおよびコントリビュータ・アプリケーションは、主にサイトのプレビューまたはテストに使用します）。各マネージャは、作業時間の多くをマネージャ・アプリケーションの使用に費やしますが、簡単な編集のためにコントリビュータ・アプリケーションを使用することもあります。各コントリビュータは、通常、コントリビュータ・アプリケーションのみを使用します。もちろん、（小規模な組織でよくあることですが）同じ個人ユーザーが Web サイトの設計、管理および投稿を行うこともできます。

これらのアプリケーションは別個のものですが、相互に緊密に統合されています。デザイナーで実行される多くのタスク（マネージャ・フラグメントまたはコントリビューション・リージョンの設定など）は、マネージャおよびコントリビュータの外観と動作に直接影響します。

1.3 再利用可能なレイアウト・ページ

ほとんどの Web サイトは、HTML またはスク립トベースの単一の Web ページを作成することから始まります。サイトのルック・アンド・フィールを設計し、サイト・ナビゲーションを決定します。コンテンツは、通常、テキストとグラフィックの組合せであり、最後に追加します。サイトの成長に応じて、最初のページを新しい名前前で保存し、将来の Web ページの基本テンプレートとして使用できます（これらの Web ページは、すべてハイパーリンクで結合されます）。

このアプローチがうまくいくのは、Web サイトにグローバル変更が発生するまでです。グローバル変更が発生すると、サイト上のすべてのページに個別の編集が必要になります。これに対応するため、多くの大規模 Web サイトでは、動的インクルードやデータベース駆動型の Web ページを使用したモジュール方式のアプローチを採用しています。その結果、Web ブラウザによるリクエスト時にコンテンツの各部分が組み合され、単一の Web ページとして表示されます。これにより、頻繁に変更されるサイト・ナビゲーション、広告、ヘッダーとフッター、および情報は、一度更新するだけで即座にサイトに反映できます。ただし、これには多くの開発作業と調整作業が必要になります。

Site Studio では、同様のアプローチを使用しますが、再利用可能なレイアウト・ページという一歩進んだ機能を提供しています。レイアウト・ページは、標準的な Web ページの背景情報（ルック・アンド・フィール）を提供しますが、ページのコンテンツの大部分は各コントリビュータが自由に作成および編集できます。

プライマリおよびセカンダリ・ページの再利用

Site Studio には、プライマリ・ページとセカンダリ・ページという 2 種類のレイアウト・ページがあります（2-4 ページの「[Site Hierarchy](#)」ペインを参照）。Web サイトでは、この 2 種類のレイアウト・ページの一方または両方を再利用できます。プライマリ・ページを再利用すると、1 つのレイアウト・ページを編集するだけで、Web サイトの複数のセクション（または Web サイト全体）のルック・アンド・フィールを変更できます。結果は、パブリッシュによる遅延なしで即座に参照できます。

セカンダリ・レイアウト・ページも再利用できます。その場合、このページは、各コントリビュータによりサイトに追加される新規コンテンツのテンプレートとして機能します。セカンダリ・ページは、このように、設計者が新しいコンテンツごとに新規 Web ページを手動で作成することなく Web サイトを拡張できるように設計されています。

1.4 パラメータ化されたフラグメント

フラグメントは、Web ページのコンテンツを編成、管理および配信するのに役立つため、Site Studio に欠かせない要素です。定義としては、フラグメントは、テキストおよびコードと、そのコードに関連するファイル（グラフィック、Cascading Style Sheet (CSS)、カスタム・スクリプトなど）のコンテナです。

Web ページに表示されるタイトル、グラフィック、フッター、サイト・ナビゲーションなどのすべての要素は、フラグメントとして作成できます。同じソースの異なるコンテンツを表示するのにレイアウト・ページを再利用できるように、通常であれば扱いにくくまとまりのない情報を管理する方法として、個々のフラグメントを再利用できます。

フラグメントを再利用する鍵は、それらをパラメータ化することです。つまり、フラグメントを使用するたびに変更できる個別のパラメータを追加することです。パラメータを使用すると、フラグメントをレイアウト・ページに適用するたびに、フラグメントの外観を変更できます。

フラグメントは、Site Studio の強力で柔軟な機能です。デザイナーには、フラグメントのサンプル・ライブラリが付属しており、HTML やスクリプトについてまったく知らなくてもすぐに使用を開始できます。

これらのフラグメントは、必要に応じてカスタマイズするか、XML、Idoc スクリプト、JavaScript、および（オプションの）JSP や ASP などの各言語の適切な構文に従って新しく作成できます。詳細は、[第 7 章「フラグメントの操作」](#)を参照してください。

1.5 Content Server と Site Studio

Content Server は、Web サイトのメイン・リポジトリです。Content Server により、組織内のすべてのユーザーは、コンテンツを簡単に投稿し、多様なライブラリ・サービスでコンテンツを効率的に管理して、任意の場所にあるコンテンツに安全にアクセスできます。

Content Server のコンポーネントの 1 つである Site Studio では、管理対象コンテンツ、Idoc スクリプト、セキュリティ、ワークフローなど、コンテンツ・サーバーが提供する必要のある多くの組み込みのサービスを導入しています。コンテンツ・サーバーの「[Site Studio Administration](#)」ページを使用して、コンポーネントの多くのタスクを管理できます（2-17 ページの「[コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページ](#)」を参照）。

Site Studio は、Dynamic Converter や Check Out and Open などの他のコンポーネントとも連携して動作するため、ユーザーは、Web サイトにネイティブ・ドキュメント（Microsoft Word、Excel、PowerPoint など）をシームレスに組み込むことができます。Dynamic Converter は、ネイティブ・ドキュメントを Web ページに変換し、Web サイトに表示するために使用します。Check Out and Open は、ドキュメントが表示される Web ページで直接コンテキスト内チェックアウト・オプションを提供するために使用します。

各コントリビュータがサイトにコンテンツを簡単に発行できるように、Folders などのコンポーネントを有効化することも可能です。

フォルダに割り当てられたメタデータを構成して、フォルダに追加されたコンテンツがサイトの一部として認識されるようにする必要があります。必須メタデータの詳細は、5-31 ページの「[サイト・アセットの必須メタデータ](#)」を参照してください。

Content Server と前述のコンポーネントの使用経験は、Site Studio で Web サイトを作成および管理する際に役立ちます。詳細は、Content Server のヘルプを参照してください。

1.6 今回のリリースの新機能

Site Studio 7.7 および以前の 10gR3 リリースとの比較

今回の Site Studio リリースには、最新のコントリビュータ・アプリケーションが含まれています。このアプリケーションは、以前の Windows および Internet Explorer 専用の ActiveX ベースのアプリケーションにかわるものです。新しいコントリビュータ・アプリケーションは、JavaScript ベースであり、Microsoft Internet Explorer 6.0 以上または Firefox 2.0 以上が稼働する任意のシステムで使用できます。(生成される Web ページは、Microsoft Internet Explorer 5.5 以上、Netscape Navigator 7.0 以上、または Mozilla Firefox 1.0.7 以上で閲覧できます。)

Site Studio 7.7 より前のリリースとの比較

Site Studio 7.7 以上 (10gR3 を含む) には、製品の利便性とパフォーマンスを向上する次のような複数の新機能および拡張機能が含まれます。

- **Site Studio マネージャ**: サイト・マネージャは、マネージャという新しい Web ベースのサイト管理アプリケーションを使用して、サイトの階層構造や外観を変更できます。たとえば、サイト・マネージャは、セクションの追加と削除、サイトおよびセクション・プロパティの変更、各セクションへの異なるレイアウト・ページの割当てなどを実行できます。以前のリリースでは、これらの作業を実行できるのは設計者のみでした。マネージャで使用できるオプションは、コントリビュータの動作と同じように、デザイナーでの設定に基づきます。詳細は、[第 15 章「マネージャの設定」](#) および『Oracle Universal Content Management Site Studio マネージャ・ガイド』を参照してください。
- **コンテンツ追跡レポート**: 基本の Web サイト・レポート (Web サイト・オブジェクト・レポートおよび Web サイト使用状況レポート) に加え、コンテンツの一部が何度表示されたかを確認できるレポートを参照できます。これらのレポートは、サイト階層のどのセクションが使用され、どのセクションが使用されていないかを識別するのに役立ちます。このすべての機能は、新しい Content Tracker 統合により可能になります。詳細は、5-39 ページの「[サイト・レポート](#)」を参照してください。
- **サイト・レプリケーションの環境プロパティ**: サイトをレプリケートする場合、レプリケートされるプロパティを詳細に制御できます。ホスティング環境に関連付けられた環境プロパティを指定することで、それらのプロパティは次のサーバーにレプリケートされなくなります。また、特定の環境プロパティを上書きして、レプリケーション・プロセスをより詳細に調整することも可能です。これらの機能は、Site Studio のライフサイクル管理機能全体に追加されます。詳細は、[第 17 章「サイトのレプリケート」](#) を参照してください。
- **DBSearch および FAST との互換性**: Site Studio は、コンテンツ・サーバーの DBSearch および Fast Search & Transfer 検索エンジンと互換性があります。FAST のリアルタイム検索とフィルタ・テクノロジ・ソリューションを使用して、コンテンツ・サーバーのパフォーマンスを (したがって Web サイトのパフォーマンスを) 向上できます。詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio インストレーション・ガイド』を参照してください。

1.7 作業の開始

Site Studio では、Web サイトを構築および管理する新しい方法が提供されます。次に、Web サイトの構築に関連する一般的な手順（ステージ）の簡単なまとめを示します。このまとめは、すぐに製品の使用を開始して Web サイトを構築する際に役立つガイドラインとして使用できます。

ステージ	説明
サイトの計画	<p>サイトの構築を開始する前に、Site Studio の各機能（デザイナー、コントリビュータ、レイアウト・ページ、フラグメント、コントリビューション・リージョンなど）を慎重に調査して、組織でこれらの機能を最大限活用する方法を決定する必要があります。</p> <p>第4章「サイトの計画」を参照してください。</p>
サイト接続の作成	<p>Site Studio で作成した Web サイトは、コンテンツ・サーバーに格納されます。サイトを作成および管理するには、デザイナーでサイト接続を使用してサーバーに接続し、変更を行ってからサイトとの接続を切断する必要があります。サイト接続は、Web サイトをホストするコンテンツ・サーバーへのショートカットのように動作します。</p> <p>5-2 ページの「サイト接続」を参照してください。</p>
サイト階層の作成	<p>サイト階層は、セクション（Products、Services、About Us など）とレイアウト・ページ（Web ページに対応）で構成される Web サイトの構造です。サイト階層を使用して、セクション、サブセクションおよびレイアウト・ページを追加することでサイトを編成します。Site Studio では、サイト階層を使用して、サイト・ナビゲーション、レイアウト・ページ、フラグメントおよびリージョン・コンテンツを管理します。</p> <p>5-10 ページの「サイト階層」を参照してください。</p>
ホームページの作成	<p>すべてのホームページと同様に、Site Studio のホームページは、Web サイトへのエントリ・ポイントになります。ホームページには、通常、サイトのメイン・セクションへのリンクが含まれます。Site Studio では、ホームページは他の任意のレイアウト・ページと同じように動作します。他のページとの違いは、ホームページをセクションではなく Web サイトのルートに追加することです。Site Studio では、ナビゲーション・フラグメントの多くはこのページへの便利なリンクが含まれます。</p> <p>5-22 ページの「サイト階層へのホームページの追加」を参照してください。</p>
プライマリ・ページの作成	<p>サイト階層の各セクションには、関連するプライマリ・ページが存在する必要があります。プライマリ・ページは、そのセクションのランディング・ページ（デフォルト・ページ）のように動作します。サイトに別の Web ページを追加するには、サイト階層に新規セクションを追加してから、各セクションにプライマリ・ページを関連付けます。</p> <p>または、セカンダリ・ページを追加して各コントリビュータに新規ページの追加を許可することで、新規 Web ページを作成することも可能です。プライマリ・ページとセカンダリ・ページは、両方とも Web サイトの複数のセクションで再利用できます。</p> <p>5-23 ページの「サイト階層へのプライマリ・ページの追加」を参照してください。</p>
プライマリ・ページのルック・アンド・フィールの設計	<p>レイアウト・ページの設計は、テキスト、イメージおよびコードをページに直接追加する一般的な Web ページの設計によく似ています。Site Studio では、ツールバーと「Properties」ペインを使用してこの作業を行います。また、フラグメントやコントリビューション・リージョンの形式でレイアウトにコンテンツを追加することもできます（次の2つのステージを参照）。</p> <p>第6章「レイアウト・ページの設計」を参照してください。</p>

ステージ	説明
フラグメントの追加	<p>フラグメントは、HTML、スクリプト・コード、イメージ、Cascading Style Sheet (CSS)などをまとめて格納するコンテナです。これにより、コンテンツや機能をレイアウト・ページから分離して管理します。フラグメントは、動的コンテンツ（サイト・ナビゲーションやページ・バナーなど）を複数のレイアウト・ページで共有する場合に特に便利です。ツールボックスのサンプル・フラグメントを使用およびカスタマイズするか、フラグメント・エディタを使用して独自のフラグメントを作成できます。</p> <p>第7章「フラグメントの操作」を参照してください。</p>
コントリビューション機能の追加	<p>コントリビューション機能により、サイトのユーザー（サイト・マネージャおよびサイト・コントリビュータ）は、設計者、Webマスター、Web管理者などの支援を受けることなく自分自身でサイトを更新できます。サイト・コントリビューション機能を有効化するには、マネージャ・アプリケーションを含む1つ以上のフラグメント、またはコントリビューション要素を含む1つ以上のコントリビューション・リージョン（あるいはその両方）を追加します。サイトを Site Studio のコントリビューション・モデルに近づけるほど、より自由に情報を移動できます。</p> <p>第8章「コントリビューションの設定」を参照してください。</p>
新規コントリビュータ・コンテンツ用のセカンダリ・ページの作成	<p>前のステージで説明したとおり、サイトへの新規ファイル（データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の追加を各コントリビュータに許可する場合、そのコンテンツを処理するためにサイト階層にセカンダリ・ページを追加する必要があります。セカンダリ・ページは、WebサイトのWebページになるもう1つのタイプのレイアウト・ページです。</p> <p>ただし、セカンダリ・ページには、プライマリ・ページとは異なる用途があります。セカンダリ・ページは、コントリビュータにより導入される新規コンテンツ（具体的には、新規コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント）用として使用されます。セカンダリ・ページは、Webサイトのすべての新規コンテンツに対して新しいWebページを作成しなくて済むように、これらのファイルのテンプレートまたは背景として機能します。</p> <p>9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照してください。</p>
ユーザーへのサイトの配信	<p>設計者は、Webサイトに関する作業に最初から最後までかかわります。しかし、コントリビュータまたはマネージャは、途中から作業に参加するため、Site Studioの動作方法や作業を開始する場所がわかりません。設計者は、サイトを配信するときに、サイト・マネージャやコントリビュータにこの情報を提供する必要があります。</p> <p>8-9 ページの「コントリビュータへの情報提供」を参照してください。</p> <p>サイトの配信では、別のコンテンツ・サーバー（通常はコントリビューション・サーバー）へのサイトのレプリケートが関連することもあります。</p> <p>第17章「サイトのレプリケート」を参照してください。</p>

デザイナのスタート・ガイド

サイトの作成者（設計者）は、デザイナ・アプリケーションで作業する時間が多くなります。デザイナは、Site Studio のインストール時にマシン上にローカルにインストールします（『Oracle Universal Content Management Site Studio インストール・ガイド』を参照）。

デザイナで、サイト階層を構築し、サイトのルック・アンド・フィール全体を作成します。設計者は、ページ・レイアウト、サイト・ナビゲーション、およびフラグメントとコントリビューション・リージョンの使用について方針決定を行います。

この項の内容は次のとおりです。

- 2-2 ページの「[デザイナの起動](#)」
- 2-2 ページの「[デザイナのメイン・ウィンドウ](#)」
- 2-3 ページの「[サイト接続マネージャ](#)」
- 2-4 ページの「[「Site Hierarchy」 ペイン](#)」
- 2-5 ページの「[レイアウト・ページ](#)」
- 2-6 ページの「[「Properties」 ペイン](#)」
- 2-7 ページの「[「Site Assets」 ペイン](#)」
- 2-7 ページの「[ツールボックス](#)」
- 2-8 ページの「[Create Hyperlink Wizard](#)」
- 2-9 ページの「[フラグメント・エディタ](#)」
- 2-10 ページの「[コントリビューション・リージョンと要素](#)」
- 2-11 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント](#)」
- 2-13 ページの「[マネージャでの作業](#)」
- 2-14 ページの「[コントリビュータでの作業](#)」
- 2-17 ページの「[コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」 ページ](#)」

2.1 デザイナの起動

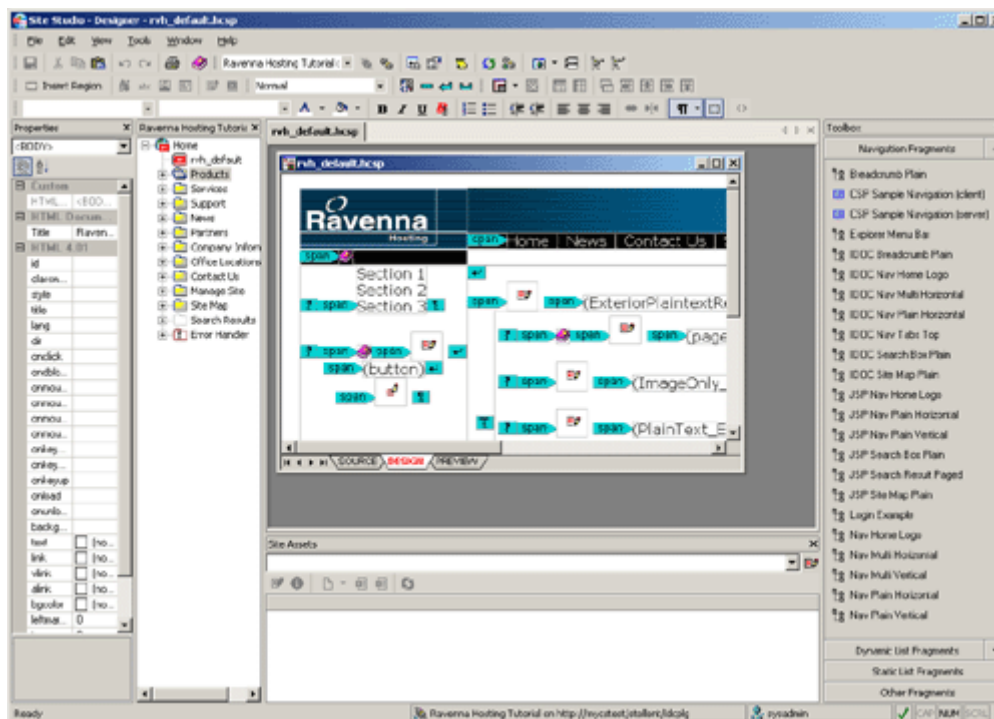
Site Studio デザイナを起動するには、「スタート」メニューで「プログラム」→「Oracle Universal Content Management」→「Site Studio 10gR3」→「Site Studio Designer」を選択します。

デザイナを最初に起動すると、空のサイト階層と作業領域が表示され、Web サイトの作成を促すプロンプトが表示されます。その後は、デザイナで最後に作業していた Web サイトが表示されます。

2.2 デザイナのメイン・ウィンドウ

デザイナ・インタフェースは、サイト構造、ページ・レイアウト、ナビゲーションおよびコントリビューションを含むサイトのすべての構成要素を設定および管理できる環境を提供します。最初にデザイナを起動すると、左側に「Site Hierarchy」および「Properties」ペイン、中央に作業領域、その下に「Site Assets」ペイン、右側に「Toolbox」が表示されます。

図 2-1 Site Studio デザイナのインタフェース



それぞれの説明は次のとおりです。

- 「Site Hierarchy」ペインは、サイトの構造を編成する場合に使用します。このペインには、ホームページ、個々のセクション、および各セクションに関連付けられたレイアウト・ページが含まれます。
- 「Properties」ペインは、サイトの様々な設定（サイト階層、レイアウト・ページ、個々のHTML タグやスクリプト・タグの情報など）を参照および編集する場合に使用します。
- 作業領域は、レイアウト・ページとフラグメントを参照および編集する場合に使用します（ここでは、Ravenna Web サイトが中央に表示されています）。作業時間のほとんどは、この作業領域でレイアウト・ページやフラグメントを編集することに費やされます。
- 「Site Assets」ペインは、サイトに属するファイル（レイアウト・ページ、データ・ファイル、CSS ファイル、イメージ、スクリプトなど）を編成する場合に使用します。このペインを使用すると、各ファイルを迅速かつ簡単に表示、編集および編成できます。

- 「Toolbox」ペインは、サイトのフラグメントを作成、編集および管理する場合に使用します。

各ペインと作業領域の配置は、単なるデフォルトです。これらの配置は変更して、好みのインタフェースにカスタマイズできます。詳細は、第3章「[デザイナーのカスタマイズ](#)」を参照してください。

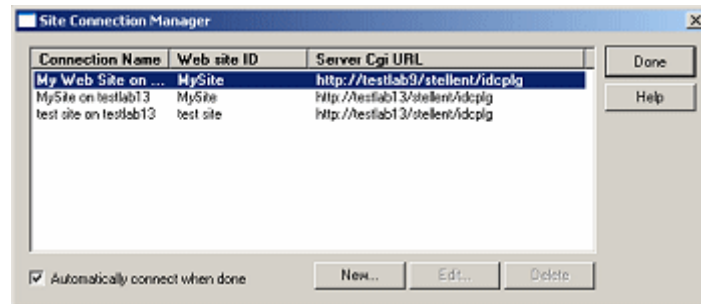
2.3 サイト接続マネージャ

デザイナーで最初に行う作業は、コンテンツ・サーバーでの Web サイトの作成です。これを行うには、「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスに名前と場所を入力します (A-17 ページの「[Site Connection Manager](#) ダイアログ・ボックス」を参照)。このダイアログ・ボックスにアクセスするには、「File」→「Site」を選択するか、ツールバーの「Site Connection Manager」アイコン (図 2-2) をクリックします。

図 2-2 「Site Connection Manager」アイコン

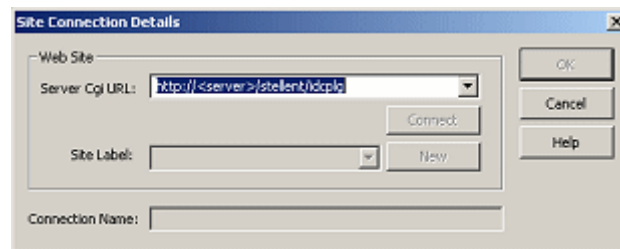


図 2-3 「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックス



最初に表示したとき、このダイアログ・ボックスは空です。「New」ボタンをクリックして、「Site Connection Details」ダイアログ・ボックスを表示します (A-18 ページの「[Site Connection Details](#) ダイアログ・ボックス」を参照)。

図 2-4 「Site Connection Details」ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスで、(サイトをホストする) コンテンツ・サーバーのサーバー CGI URL、サイトのラベル、および接続名 (サイトへの接続に使用できる事実上のショートカット) を指定します。

この指定後は、メニューを使用するか、「File」→「Site」→「Recent Sites」を選択してデザイナーで簡単にサイトを開くことができます。

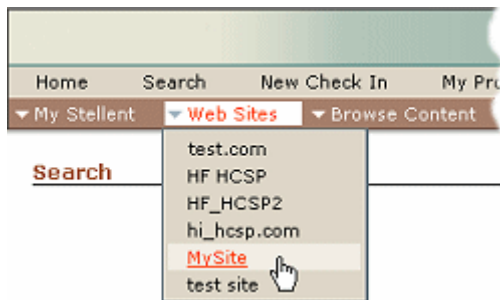
図 2-5 使用可能なサイトが表示されたデザイナーのメニュー



コンテンツ・サーバーでは、Site Studio により、Web サイトのプロジェクト・ファイルが作成され、それが新規プロジェクト・ファイル用に指定されたメタデータとともにチェックインされます (5-9 ページの「プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータの指定」を参照)。

作成された新規サイトは、コンテンツ・サーバーの「Web Sites」メニューに表示されます。このメニューを使用して、設計者、コントリビュータおよびサイト訪問者は、簡単にサイトを開くことができます (次の図を参照)。

図 2-6 コンテンツ・サーバーの「Web Sites」メニュー

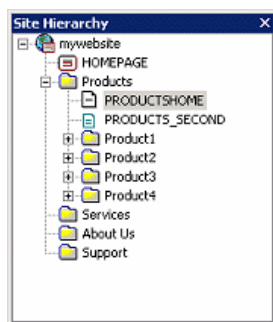


詳細は、5-2 ページの「サイト接続」を参照してください。

2.4 「Site Hierarchy」 ペイン

Web サイトの名前と場所を指定したら、サイトの構築を開始できます。これを行うには、「Site Hierarchy」ペインでホームページを作成し、次に個々のセクション (Products、Services、About Us など) を作成します。

図 2-7 「Site Hierarchy」 ペイン



サイト階層は、Web サイトの基本構造であり、最終的にはサイトの他の多くの操作 (コンテンツの編成方法や Site Studio でのプレゼンテーションの制御方法など) に影響します。

セクションを追加したら、各セクションにレイアウト・ページを追加できます。レイアウト・ページは、次の2つに分類されます。

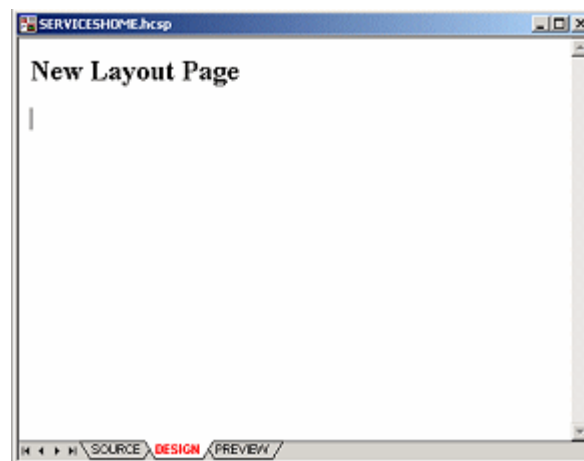
- **プライマリ**:プライマリ・ページは、サイト階層の1つのセクションに関連付けられたレイアウト・ページです。サイトの該当セクションに移動すると、このページが表示されます(従来のサイトのデフォルト・ページとほぼ同じです)。プライマリ・ページは、セクションごとに必要です。
- **セカンダリ**:セカンダリ・ページも、サイト階層の1つのセクションに関連付けることができます。ただし、その主な目的は、コントリビュータにより追加される新規ファイル(コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント)の背景として機能することです。

セクションにプライマリ・ページとセカンダリ・ページのどちらを追加するかにかかわらず、3つのオプションを選択できます。つまり、完全に新規のレイアウト・ページを作成するか、既存のレイアウト・ページを再利用するか、または既存のレイアウト・ページに基づいて新規レイアウト・ページを作成できます。詳細は、5-10 ページの「[サイト階層](#)」を参照してください。また、マネージャ・アプリケーションを使用して、サイト階層の変更とレイアウト・ページの割当てを行うことも可能です(2-13 ページの「[マネージャでの作業](#)」を参照)。

2.5 レイアウト・ページ

設定作業と設計作業の大部分は、レイアウト・ページで行います。レイアウト・ページは、「Site Hierarchy」ペインから開きます(2-4 ページの「[Site Hierarchy](#) ペイン」を参照)。

図 2-8 「Design」ビューのレイアウト・ページ



レイアウト・ページは、デザイナーの作業領域に表示されます。タイトル・バーには、コンテンツ ID と、レイアウト・ページのファイル拡張子が表示されます。(この情報は、レイアウト・ページを追跡するのに便利です。)

Windows エクスプローラで既知のファイル・タイプのファイル拡張子を非表示にするよう選択している場合、タイトル・バーにファイル拡張子は表示されません。レイアウト・ページには、テキスト、グラフィック、表、コントリビューション・リージョン、フラグメントなど、Web サイトに表示するすべての構成要素を挿入できます(第 6 章「[レイアウト・ページ的设计](#)」を参照)。この環境は、Web ページの構成に使用される HTML エディタやスクリプト・エディタによく似ています。

レイアウト・ページを編集する場合、「Source」、「Design」および「Preview」という3つのビューを使用できます。

- **Source:** 「Source」ビューでは、レイアウト・ページの背後に存在するコードを直接編集できます。このビューを使用して、「Design」ビューでは使用できないアクションを実行します。色分けされたテキストにより、個々のタグやスクリプトを簡単に特定できます。

注意: 「Source」ビューの一部のコードは、フラグメント、コントリビューション・リージョンおよびその他の主要機能に関連して Site Studio により自動生成されます。このようなコードを変更または削除すると、対応する機能を破損する可能性があります。

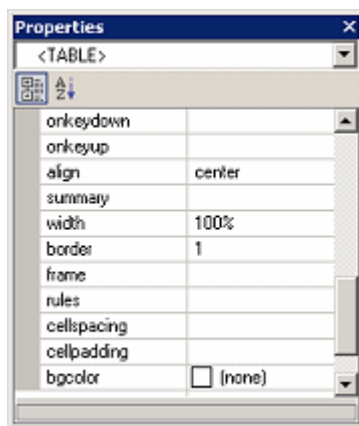
- **Design:** 「Design」ビューでは、レイアウト・ページの WYSIWYG (What You See Is What You Get) ビューを参照できます。このビューでは、編集しながらページの見たい目を確認できるワード・プロセッサ環境でレイアウト・ページを簡単に構成できます。このビューには、フラグメント、コントリビューション・リージョンおよびスクリプトを示すのに使用される特殊なアイコンやビジュアル要素が含まれます。
- **Preview:** 「Preview」では、レイアウト・ページが Web サイトに表示されたときの状態を確認できます (Web ブラウザを使用して表示した場合とほぼ同じです)。

2.6 「Properties」 ペイン

「Properties」ペインには、サイト階層と各レイアウト・ページに関する有益な情報が表示されます。サイト階層に関しては、階層名、CGI URL、ホームページなどが表示されます。レイアウト・ページに関しては、HTML タグ、スクリプト・タグ、フラグメントなどの情報が表示されます。内部で何が起きているかを確認し、特定のタグを正確に編集できるように、レイアウト・ページのプロパティは「Design」ビューでの作業に従って表示されます。

次の図は、HTML <TABLE> タグ (一番上のドロップダウン・リストに表示) の属性を示しています。

図 2-9 HTML <TABLE> タグのプロパティ



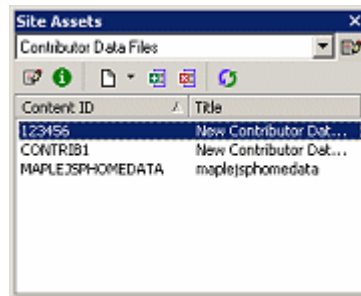
「Design」ビューでレイアウト・ページの異なる領域をクリックすると、別の属性を持つ別のタグがかわりに表示されます。ドロップダウン・リストから親タグを選択して、その属性を参照することもできます。

マネージャ・アプリケーションを使用して、サイト階層に関連するプロパティ (Label、Contributor-Only、UrlPageName など) を変更することも可能です (2-13 ページの「[マネージャでの作業](#)」を参照)。

2.7 「Site Assets」 ペイン

「Site Assets」 ペインには、サイトで使用されるすべてのファイルが表示されます。ファイルは、その用途に基づいてグループ化されます（レイアウト・ページ、コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントなど）。

図 2-10 コントリビュータ・データ・ファイルが表示された「Site Assets」 ペイン

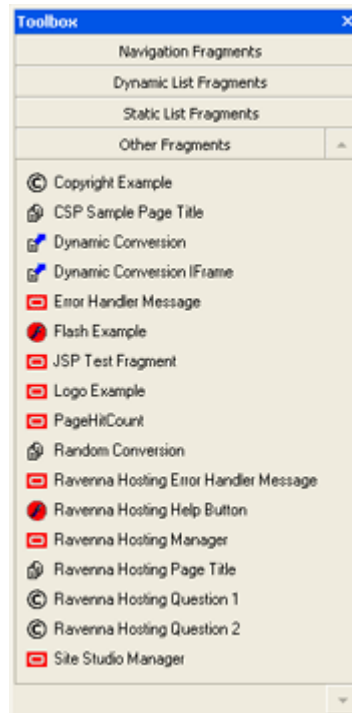


「Site Assets」 ペインを使用すると、サイトで使用するファイルを迅速かつ簡単に参照、編集および管理できます（5-30 ページの「[サイト・アセット](#)」を参照）。「Site Assets」は、サイト・レプリケーションまたはサイト・バックアップを目的としてサイトにファイルを追加する場合にも便利です。

2.8 ツールボックス

ツールボックスには、レイアウト・ページに追加できるフラグメントが含まれます。フラグメントは、テキスト、グラフィック、スクリプト、および Web ページに機能を追加する他のすべての構成要素のコンテナです。デザイナーを最初に起動すると、次のように Site Studio に付属するデフォルトのフラグメントが表示されます。

図 2-11 デザイナーのツールボックス



フラグメントには、ナビゲーション・フラグメント、動的リスト・フラグメント、静的リスト・フラグメント、およびその他のフラグメントという4つのカテゴリがあります。各カテゴリには、複数のスクリプト言語で記述された様々なフラグメントが含まれます（付録B「[サンプル・フラグメント](#)」を参照）。各フラグメントは、そのまま使用することも、コピーして編集することもできます。また、完全に新規のフラグメントを作成することも可能です。

レイアウト・ページにフラグメントを追加するのは簡単です。レイアウト・ページでフラグメントを表示する場所にカーソルを置き、ツールボックスの適切なフラグメントをクリックするだけです。多くのフラグメントには、レイアウト・ページに追加する前にフラグメントの表示をカスタマイズできる追加オプション（パラメータ）が含まれます。

詳細は、7-2 ページの「[フラグメントの追加と編集](#)」を参照してください。

2.9 Create Hyperlink Wizard

他のセクション、他のファイル、および他の Web サイトに対するリンクを作成するには、Create Hyperlink Wizard を使用します。この4または5ステップのウィザードにより（ステップ数は選択するオプションに応じて異なります）、必要な手順を順番に実行して Site Studio でハイパーリンクを作成できます。

このウィザードの実行中には、リンクの構造とリンクのターゲットとなるコンテンツに関する多くのオプションが提供されます。

図 2-12 Create Hyperlink Wizard



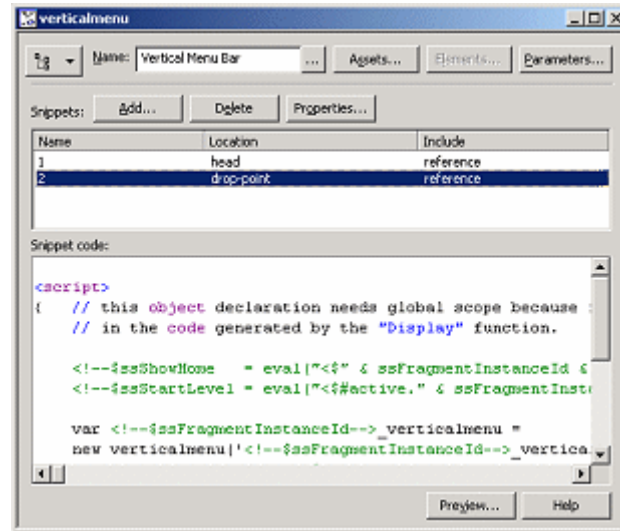
このウィザードは、挿入ツールバーの「**Create Hyperlink**」ボタンを使用して起動します（6-13 ページの「[ハイパーリンクの操作](#)」を参照）。

注意：各コントリビュータは、この同じウィザードを使用してコントリビュータ・アプリケーションでハイパーリンクを作成します。設計者は、コントリビューション・リージョンで要素を設定するときに、コントリビュータが使用できるオプションを制御できます。

2.10 フラグメント・エディタ

フラグメント・エディタは、フラグメントの作成と編集に使用します。フラグメントを編集するには、フラグメントを右クリックし、ポップアップ・メニューから「Edit」または「Copy and Edit」（読取り専用フラグメントの場合）を選択します。これにより、フラグメント・エディタにフラグメントが表示されます。新規フラグメントを作成するには、「File」→「Fragments」→「New」を選択します。

図 2-13 フラグメント・エディタ



フラグメントは、単純なコピーライト文から複雑な一連のスクリプト関数まで、多くの形式で表現されます。任意のコード部分をフラグメントに変換できます。フラグメント・エディタは、このコードと、フラグメントを構成する次の各部分を管理するのに役立ちます。

- **プロパティ**: フラグメントのプロパティは、名前、タイプ、スクリプト言語など、フラグメントを識別する特性です。
- **スニペット**: スニペットは、フラグメントを構成するコードの個々の断片です（この断片は単なるテキストの場合もあります）。このコードは、フラグメント・エディタの「Source」ビューまたは「Design」ビューで作成および編集できます（レイアウト・ページの「Source」および「Design」ビューと同様です）。フラグメントにスクリプト・コードが含まれる場合、正しいスクリプト構文を理解する必要があります。
- **アセット**: アセットは、フラグメント内から参照されるファイルです。グラフィック、Cascading Style Sheet (CSS) または JavaScript ファイルは、すべて一般的に使用されるアセットです。フラグメントに追加されたアセットは、そのフラグメントの一部となります。
- **要素**: 要素は、静的リストの生成に使用されるフラグメントに追加します。要素をこのように使用することで、各コントリビュータは、リストの編集、新規行の追加、行の削除などを行うことができます。
- **パラメータ**: パラメータは、フラグメントの外観と動作を制御する属性です。フラグメントの作成時にパラメータの独自のセットを指定して、フラグメントをレイアウト・ページに追加する際にそれらのパラメータを選択できます。

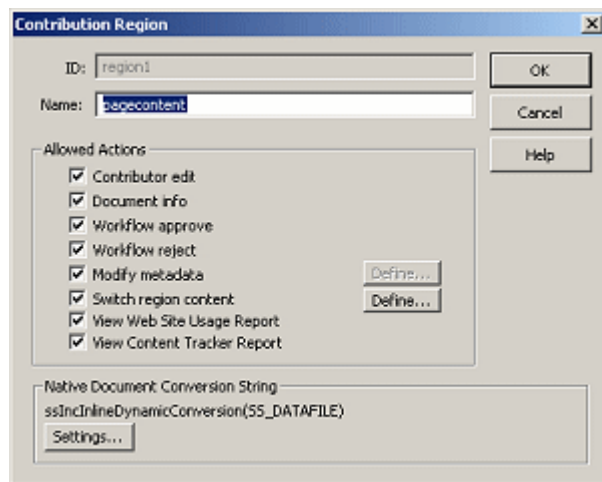
フラグメント・エディタの詳細は、7-12 ページの「[フラグメント・エディタの使用](#)」を参照してください。

2.11 コントリビューション・リージョンと要素

コントリビューション・リージョンは、各コントリビューターが編集できるレイアウト・ページの領域です。実際には、コントリビューション・リージョンは、その部分が Web ページの編集可能な場所であることをコントリビューター・アプリケーションに指示しています。

コントリビューション・リージョンを追加するには、デザイナーでレイアウト・ページを開き、リージョンを開始する場所にカーソルを置いて、ツールバーの「Insert Region」ボタンをクリックします。これにより、「Contribution Region」ダイアログ・ボックスが表示されます。





図 2-14 「Contribution Region」ダイアログ・ボックス



コントリビューション・リージョンを追加したら、リージョンに 1 つ以上の要素を追加します (リージョンにネイティブ・ドキュメントを割り当てる予定がなければ、要素は必要ありません)。各要素は、コントリビューターにフィールドとして表示され、ユーザーはテキストやグラフィックを追加、削除および編集できます。

コントリビューション・リージョンには、次の 4 種類の要素を追加できます。

ツールバー・アイコン 要素タイプ

	WYSIWYG 要素では、コントリビューターの書式設定オプション (太字、斜体、色、書体、箇条書きリストなど) が最も多く提供されます。
	プレーン・テキスト要素では、いくつかの編集オプション (切り取り、コピー、貼付けなど) が提供されるのみで、コントリビューターの書式設定オプションは提供されません。
	イメージ要素では、コントリビューターのイメージ処理オプション (置換、サイズ変更など) が提供されます。
	カスタム要素により、設計者は、ユーザーが様々な種類のコンテンツ (マルチメディア、ビデオ、ソース・コードなど) を追加できるように、コントリビューターのカスタム・インターフェース (Web ベース・フォーム) を作成できます。

通常、要素は、ツールバーからレイアウト・ページのコントリビューション・リージョンに直接追加します。ただし、要素を使用する別の方法として、静的リスト・フラグメントに要素を挿入することもあります (14-3 ページの「レイアウト・ページへの静的リストの追加」を参照)。

2.12 コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント

コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント（リージョン・コンテンツとも呼ばれる）は、コントリビュータがサイトに発行するコンテンツを格納するために使用されます。どちらのファイルも、プライマリ・ページのコントリビューション・リージョンに直接割り当てるか、ハイパーリンクまたは動的リストのターゲットとして追加できます（この場合、ファイルはセカンダリ・ページに表示されます）。

ただし、2つのファイルを開いて編集する方法は次のようにそれぞれ異なります。

- **コントリビュータ・データ・ファイル:** コントリビュータ・データ・ファイルは、**Site Studio** で導入されている（XML ベースの）ファイルであり、コントリビュータ・アプリケーションで開いて編集するように設計されています。このファイルは、即座に更新されて **Web** ページに追加されます。
- **ネイティブ・ドキュメント:** ネイティブ・ドキュメントは、サード・パーティ製のファイルであり、それを最初に作成したときのアプリケーション（たとえば、**Word** ドキュメントの場合は **Microsoft Word**）を使用して参照および編集します。ファイルは、閉じられると（**Dynamic Converter** を使用して）**Web** ページに変換され、**Web** ページで使用できるようになります。

サイトでこれらのファイルを使用するには、レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを作成し、そのリージョンにデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てる必要があります。データ・ファイルを使用する場合、各リージョンに1つ以上の要素を追加する必要もあります（2-10 ページの「[コントリビューション・リージョンと要素](#)」を参照）。各要素は、コントリビュータ・アプリケーションにフィールドとして表示され、ユーザーはコンテンツを追加および編集できます。各要素内でコントリビュータが使用できる書式設定オプションは、制御可能です。

コントリビューション・リージョンを設定したら、「Assign Region Content」ダイアログ・ボックス (図 2-15) を使用してこれらのファイルのいずれかをリージョンに割り当てます。「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスは、「Assign Region Content」アイコン (図 2-16) をクリックすることでいつでも使用できます。このダイアログ・ボックスを最初に起動すると、左側にサイト階層が表示され、右側に 1 つ以上のコントリビューション・リージョンを含んだレイアウト・ページが表示されます。

図 2-15 「Assign Region Content」ダイアログ・ボックス



図 2-16 「Assign Region Content」アイコン



赤い「Contribution Region」ボックスが各リージョンに重ねて表示されます (図 2-15)。このボックスは、リージョンにデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てると (セカンダリ・ページの場合、リージョンを置換え可能として指定すると)、すぐに緑色に変化します (9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照)。

また、該当セクションのページ上のすべてのコントリビューション・リージョンにコンテンツが割り当てられると、このダイアログ・ボックスの左側にあるサイト階層フレームの赤い X アイコン (図 2-17) がフォルダ・アイコン (図 2-18) に変化します。

図 2-17 赤い X アイコン



図 2-18 フォルダ・アイコン



リージョンごとに、新しいデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを指定するか、既存のファイルを再利用できます。Web サイトの特定のページに一意の新規コンテンツを表示する場合は、新規ファイルを指定する必要があります。Web サイトの複数のページに同じコンテンツを表示する場合は、既存のファイルを再利用します（レイアウト・ページを再利用する場合の方針決定と同様です）。

注意： コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントは、他のコンテンツ・アイテムのようにコンテンツ・サーバーに格納されます。したがって、設計者はファイルごとに異なるメタデータまたはセキュリティを選択できるため、コントリビュータが閲覧できる内容は、それぞれのログイン資格証明に基づいて制限されます。

コントリビュータによるファイルの作成の許可

設計者は、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントをリージョンに割り当てる以外に、各コントリビュータが Web サイトに独自のデータ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントを作成することを許可できます。

これにより、サイトにまったく新しい側面が追加されます。つまり、新しいコンテンツが作成されるたびに設計者が新規セクションやレイアウト・ページを作成することなく、サイトは成長を続けることが可能になります。これを行うには、サイトへの新規ファイルの追加を各コントリビュータに許可し（要素で許可されるアクションの 1 つ）、それらのファイルを表示できるサイト上の領域（セカンダリ・ページにおける置換え可能なリージョン）を設定する必要があります。

詳細は、9-9 ページの「[コントリビュータによる動的リストへのファイルの追加の許可](#)」を参照してください。

2.13 マネージャでの作業

デザイナを使用して Web サイトを作成およびデプロイしたら、そのサイトを管理するユーザーにサイトの管理責任を譲渡することができます。サイトの管理は、マネージャ・アプリケーションで行います。

図 2-19 Site Studio マネージャ・アプリケーション



マネージャを使用するには、マネージャ機能が有効化されている Web ページに移動します（第 15 章「[マネージャの設定](#)」を参照）。実装方法に応じて、マネージャは常に表示されるか、またはコントリビューション・モードでのみ表示されます。マネージャは、各ページまたはサイトの指定セクションから起動できます。

マネージャでは、サイト階層、セクションに関連付けられたレイアウト・ページ、セクションのプロパティなどを変更できます。サイト・マネージャは、効果的にサイトを管理するため、マネージャでのみ作業するか、マネージャとコントリビュータの両方で作業するかを選択できます。

マネージャおよびコントリビュータ・アプリケーションをサイトに導入する場合、2つのアプリケーションを使用する方法と、2つのアプリケーションを各マネージャとコントリビュータが併用する方法について検討します。設計者は、状況に応じて、マネージャとコントリビュータにその役割と責任に関する情報を提供する必要があります。

マネージャの使用方法的詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio マネージャ・ガイド』を参照してください。

2.14 コントリビュータでの作業

デザイナーで Web サイトを作成およびデプロイしたら、そのサイトでコンテンツを追加および更新するユーザーに権限を譲渡することができます。これらのユーザーは、コントリビュータと呼ばれ、コントリビュータ・アプリケーションを使用してサイトを更新します。

サイトの設計者もコントリビュータ・アプリケーションを使用できますが、頻繁に使用するのには、サイト・コントリビューションをテストする場合、サイトにサンプル・ページを移入する場合、または破損したページを修正する場合です。

コントリビュータを起動するには、(デザイナーで設定された) 編集可能なコントリビューション・リージョンを含む Web ページに移動し、ビューをコントリビューション・モードに変更します。これにより、コントリビュータ・アプリケーションが起動します (状況により、セキュリティ認証の受諾または Web サイトへのログイン、あるいはその両方を求めるプロンプトが表示されます)。その後、ページ上のコントリビューション・グラフィックをクリックして、コントリビュータでそのページの編集を開始できます。

次の項で、コントリビュータの概要情報について説明します。

- 2-14 ページの「[コントリビュータの起動](#)」
- 2-16 ページの「[コントリビュータのインタフェース](#)」
- 2-17 ページの「[コントリビュータとワークフロー](#)」

2.14.1 コントリビュータの起動

コントリビュータ・アプリケーションを起動するには、コントリビューション・リージョンが含まれる Web ページに移動し、キーボードのキーストロークの組合せを使用してコントリビューション・モードを有効にします。(デフォルトは、**[Ctrl]+[Shift]+[F5]** です。つまり、**[Ctrl]** キー、**[Shift]** キーおよび **[F5]** キーを同時に押します。) その後、ログイン資格証明を入力するよう求められます。

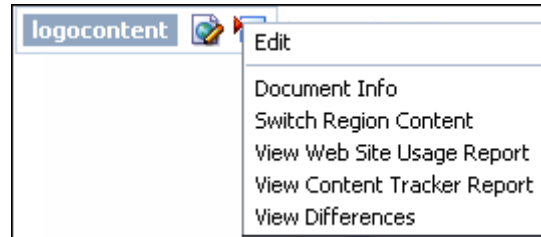
コントリビューション・モードに入っていることは、画面の一番上にある細長い「Contribution Mode」バーからわかります。また、編集可能なリージョンごとに1つずつ、ページ上に1つ以上のコントリビューション・グラフィック (図 2-20) も表示されます。

図 2-20 コントリビューション・グラフィック



各グラフィックは、コントリビュータまたはサード・パーティ・アプリケーション（ネイティブ・ドキュメントの使用時）で開いて編集できるコントリビューション・リージョンの場所を示します。リージョン名が最初にリストされ、次に編集アイコンとメニュー・アイコンが続きます。リージョンを編集するには、編集アイコンをクリックするか、メニュー・アイコンをクリックして「Edit」を選択します。

図 2-21 コントリビューション・アイコンのメニュー



次のことに注意してください。

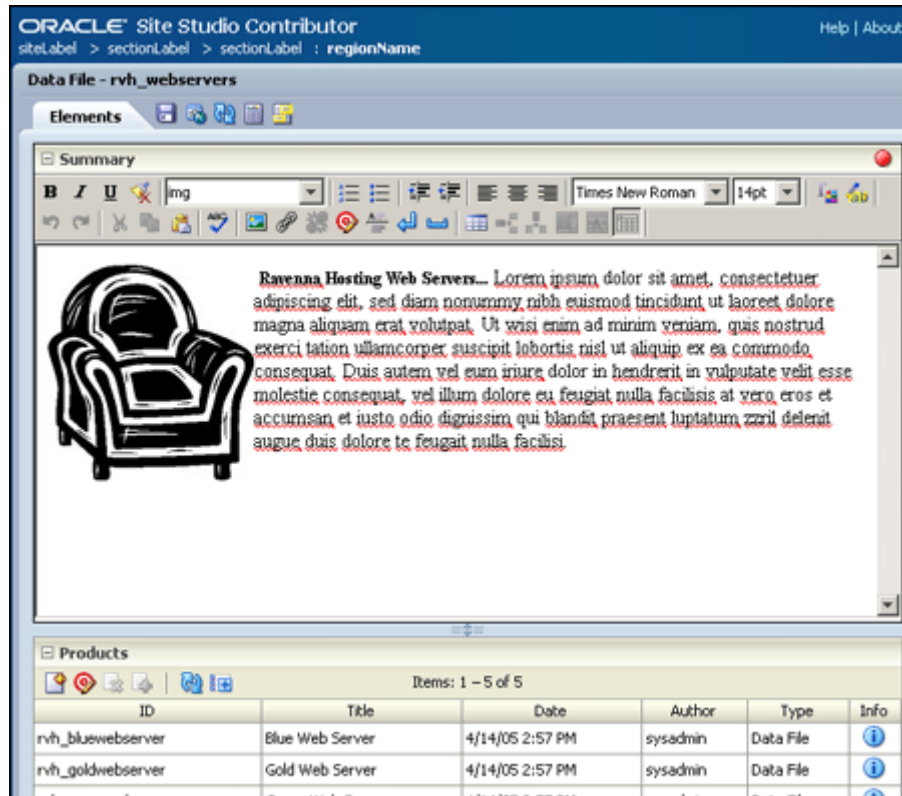
- 最初にコントリビューション・モードに移行すると、コントリビュータ・アプリケーションのセキュリティ認証を受けるよう求められます。また、状況によってはコントリビュータとしてサイトにログインするよう求められます。
- コントリビューション・アイコンの数は、コントリビュータのログイン資格証明に応じて変化します（設計者がサイトのファイルごとに異なるセキュリティを設定している場合）。
- デフォルトのキーストロークの組合せ（[Ctrl]+[Shift]+[F5]）を変更する方法の詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio インストレーション・ガイド』を参照してください。
- どの Web ページにコントリビューション・リージョンが含まれるか、およびそのうちのどのリージョンを編集する必要があるかを指示するため、設計者は、Web ページの URL を転送するか、ワークフローを使用してコントリビュータに通知する必要があります。

2.14.2 コントリビュータのインタフェース

コントリビュータのインタフェースは、ワード・プロセッサ・プログラムのインタフェースとよく似ています。テキスト、イメージ、ハイパーリンクなどを追加、削除および編集できます。単純または複雑なリストを管理できるリスト・オプションもあります。コントリビュータの外観と動作は、デザイナーで各コントリビューション・リージョンおよび要素がどのように設定されているかによって変化します。

次の図では、コントリビュータに WYSIWYG エディタと動的リストの 2 つのセクションが含まれています。

図 2-22 コントリビュータのインタフェース



これらの設定は、デザイナーで（特に WYSIWYG 要素で）指定します。各設定により、Web ページの特定の部分を各コントリビュータにどの程度まで制御させるかを決定します。

サイトの設計者は、コントリビュータのインタフェースを平易で単純なものに、または高度で強力なものにするように、コントリビューション・リージョンを設定および変更できます。

2.14.3 コントリビュータとワークフロー

サイトにコンテンツを投稿する以外に、各コントリビュータは、コンテンツの確認と承認を担当することがあります。この作業は、組織のレビューアが単独で担当することもあります。コンテンツを確認および承認するプロセスは、ワークフローと呼ばれます。

ワークフローは、コンテンツ・サーバーの既存のワークフロー機能を使用して Site Studio で作成します。この作業に慣れていれば、ワークフロー・プロセスを迅速にサイトに導入できるはずです。ワークフローは、リージョンに割り当てられたリージョン・コンテンツに対して有効化できます。コントリビュータが Web ページに新規データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを追加すると、コンテンツは自動的にワークフローに移行します（ページは稼働状態になりません）。

ワークフローに参加する場合、レビューアは、ワークフローの電子メール・メッセージにあるリンクをクリックし、確認が必要な Web ページに移動します（ページはコントリビューション・モードに移行します）。レビューアは、ワークフローのコントリビューション・アイコン (図 2-23) を右クリックし、「Approve Document」、「Reject Document」または「Edit」を選択できます。

図 2-23 ワークフローのコントリビューション・アイコン



レビューアが「Approve Document」をクリックすると、ワークフローの次のレビューアに同様の電子メール・メッセージが送信されます。レビューアがワークフローの最後のレビューアの場合、「Approve Document」をクリックすると、コンテンツは実際の（稼働状態の）Web サイトに表示されます。

レビューアが「Reject Document」をクリックすると、ワークフローの前のレビューアに電子メールが送信されます。レビューアが「Edit」をクリックすると、コンテンツを編集できるようにコントリビュータが起動します。詳細は、16-3 ページの「[コントリビュータのワークフローの使用状況](#)」を参照してください。

完全なワークフロー・プロセスは、Content Server でのワークフローの設定方法に応じて変化します。詳細は、[第 16 章「ワークフロー」](#)を参照してください。

2.15 コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページ

「Site Studio Administration」ページは、コンテンツ・サーバーへの Site Studio コンポーネントのインストール時に作成され、「Content Server Administration」ページからアクセスできます。

このページを使用して、Web サイトを管理し、状況によってはデザイナーで実行するのと同じタスクを実行できます。「Site Studio Administration」ページの使用により、Web サイトに関する情報の表示、サイトの開始と停止、サイトのレプリケート、サイトのアップグレードなどが可能になります。

このページには、次のオプションがあります。

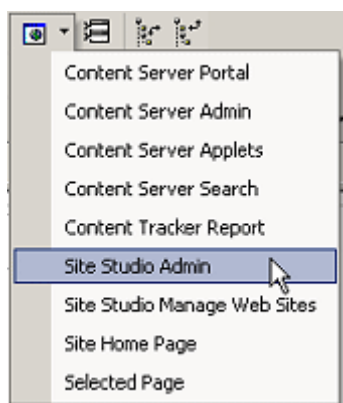
- **Manage Web Site:** 「Manage Web Sites」ページを開きます。このページで、各サイトの表示、ナビゲーションの更新、サイト・レポートの表示、サイトの停止と開始、およびサイトのリロードを行うことができます。詳細は、A-96 ページの「[「Manage Web Sites」ページ](#)」を参照してください。
- **Manage Web Site Addresses:** 「Manage Web Site Addresses」ページを開きます。このページで、Web サイトを示すドメイン・アドレスを追加できます。詳細は、A-98 ページの「[「Manage Web Site Addresses」ページ](#)」を参照してください。
- **Manage Fragment Libraries:** 「Manage Fragment Libraries」ページを開きます。このページで、フラグメント・ライブラリをデプロイし、必要に応じて JSP サポートを構成できます。詳細は、A-99 ページの「[「Manage Fragment Libraries」ページ](#)」を参照してください。

- **Set Default Project Document Information:** 「Set Project Default Document Information」ページを開きます。このページで、(デザイナーで作成した) 新規プロジェクト・ファイルに割り当てるデフォルト・メタデータを指定できます。詳細は、A-100 ページの「[Set Project Default Document Information](#)」ページを参照してください。
- **Manage Site Replication:** 「Manage Site Replication」ページを開きます。このページで、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートできます。詳細は、A-101 ページの「[Manage Site Replication](#)」ページを参照してください。
- **Backup and Restore:** 「Backup and Restore」ページを開きます。このページで、Web サイトのバックアップの作成や、Web サイトのバックアップからのリストアを行うことができます。詳細は、A-107 ページの「[Backup and Restore](#)」ページを参照してください。
- **General Component Information:** 「General Component Information」ページを開きます。このページで、サイトに関する有益な情報 (バージョン、Site Studio 固有のメタデータ、ディレクトリ・パスなど) を参照できます。詳細は、A-112 ページの「[General Component Information](#)」ページを参照してください。

詳細は、A-94 ページの「[Site Studio Administration](#)」ページを参照してください。

デザイナーの「View pages」ボタンの横にある下向き矢印をクリックすると、「Site Studio Administration」ページを簡単に表示できます。

図 2-24 デザイナからの「Site Studio Administration」ページの表示



これにより、サイトをホストするコンテンツ・サーバー (デザイナーにおける接続先) の「Site Studio Administration」ページが表示されます。

デザイナのカスタマイズ

デザイナ・インタフェースにより、Web サイトを作成および管理するための優れた作業環境が提供されます。最初にデザイナを起動すると、4つの主な作業領域が表示されます。つまり、左側に「Site Hierarchy」ペインと「Properties」ペイン、中央に作業領域と「Site Assets」ペイン、右側に「Toolbox」が表示されます（2-2 ページの「デザイナのメイン・ウィンドウ」を参照）。

作業領域と各ペインの配置は、単なるデフォルトです。一般的なアプリケーションのように、インタフェースは必要に応じてすべてカスタマイズできます。たとえば、各ペインの隠蔽、移動およびサイズ変更を行うことや、使用可能なメニューとツールバーの変更、キーボード・ショートカットの追加または変更を行うことが可能です。

この項の内容は次のとおりです。

- 3-2 ページの「デザイナのペインのカスタマイズ」
- 3-3 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックスの使用」
- 3-4 ページの「新規メニューの作成」
- 3-5 ページの「ツールバーのカスタマイズ」
- 3-7 ページの「「Tools」メニューへのショートカットの追加」
- 3-8 ページの「キーボード・ショートカットの割当て」
- 3-9 ページの「メニューのカスタマイズ」
- 3-10 ページの「表示オプションの設定」
- 3-11 ページの「「Source」ビューのコードの書式設定」
- 3-11 ページの「警告メッセージの表示または非表示」
- 3-12 ページの「その他のオプションの設定」
- 3-12 ページの「ログ・ファイル設定の変更」

3.1 デザイナのペインのカスタマイズ

デザイナでは、各ウィンドウおよびペインの外観を変更して、作業環境を変更できます。たとえば、次のことを実行できます。

- 3-2 ページの「ペインの表示または非表示」
- 3-2 ページの「ペインのサイズ変更」
- 3-3 ページの「ペインの移動または別の枠線へのドッキング」

3.1.1 ペインの表示または非表示

デザイナのペインおよびツールバーの表示と非表示を切り替えるには、次の手順を実行します。

1. 「View」をクリックします。
2. インタフェースに表示する項目または表示しない項目をクリックします。

「Site Hierarchy」ペイン、「Properties」ペイン、「Site Assets」ペイン、ツールボックス、ステータス・バー、標準ツールバー、サイト・ツールバー、書式設定ツールバーおよび表ツールバーの表示と非表示を切り替えることができます。

図 3-1 インタフェース項目の表示と非表示



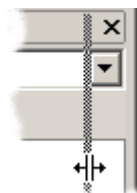
3. 選択したウィンドウまたはツールバーが、デザイナ・インタフェースに表示されるか、非表示になります。

3.1.2 ペインのサイズ変更

デザイナのペインのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. ペインの枠線の上にマウス・カーソルを置きます。
2. 枠線をクリックしてドラッグし、ペインのサイズを変更します。

図 3-2 ペインの枠線のドラッグ

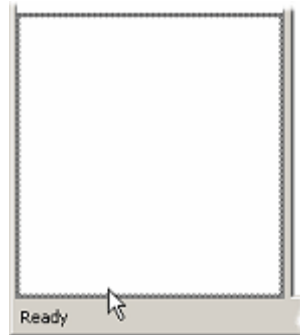


3.1.3 ペインの移動または別の枠線へのドッキング

デフォルトでは、「Site Hierarchy」ペインと「Properties」ペインは左側にドッキングしており、「Toolbox」は右側にドッキングしています。これらのペインは移動することが可能で、デザイナーの別の枠線にドッキングすることもできます。

1. 移動するペインのタイトル・バーを選択します。
2. ペインをクリックして別の場所にドラッグし、マウス・ボタンを離します。
3. 別の枠線にウィンドウをドッキングするには、ペインをクリックして新しい枠線までドラッグし、領域を囲むグレーのボックスが表示されたらマウス・ボタンを離します。

図 3-3 ペインのドッキング

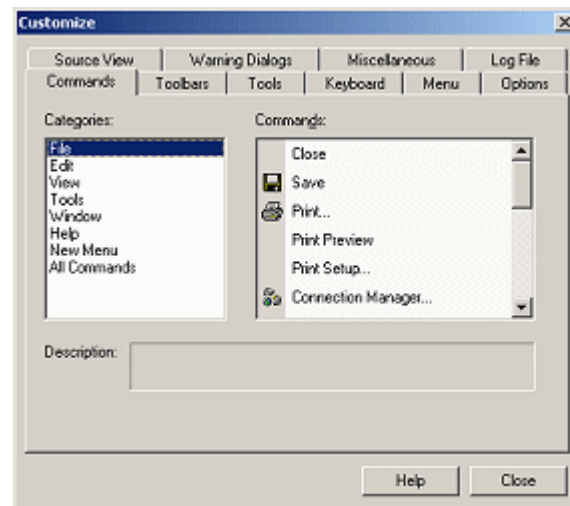


3.2 「Customize」ダイアログ・ボックスの使用

各ペインのサイズや場所を変更できるだけでなく、デザイナー・インタフェースをカスタマイズできます。「Customize」ダイアログ・ボックスで、キーボード・コマンド、右クリック・メニュー、外部アプリケーションへのショートカットなどをカスタマイズできます。「Customize」ダイアログ・ボックスを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
「Customize」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 3-4 「Customize」ダイアログ・ボックス



2. 必要な変更を行って「Close」をクリックします。

ダイアログのタブ

「Customize」ダイアログ・ボックスには、次のタブがあります。

- **Commands:** このタブは、メニュー・バーにメニューを追加する場合や、メニューおよびツールバーにコマンドを追加する場合に使用します。3-4 ページの「[新規メニューの作成](#)」を参照してください。
- **Toolbars:** このタブは、ツールバーをカスタマイズする場合に使用します。3-5 ページの「[ツールバーのカスタマイズ](#)」を参照してください。
- **Tools:** このタブは、外部アプリケーションへのショートカットを追加する場合に使用します。ショートカットは、「Tools」メニューに表示されます。3-7 ページの「[「Tools」メニューへのショートカットの追加](#)」を参照してください。
- **Keyboard:** このタブは、デザイナのコマンドにキーボード・ショートカットを割り当てる場合に使用します。3-8 ページの「[キーボード・ショートカットの割当て](#)」を参照してください。
- **Menu:** このタブは、デザイナのメニューをカスタマイズする場合に使用します。3-9 ページの「[メニューのカスタマイズ](#)」を参照してください。
- **Options:** このタブは、画面上のヒント、ツールバーの大きなアイコン、およびパーソナライズ・メニューを表示する場合に使用します。3-10 ページの「[表示オプションの設定](#)」を参照してください。
- **Source View:** このタブは、レイアウト・ページの「Source」ビューに表示されるテキストのフォント、サイズ、およびその他の書式設定を制御する場合に使用します。3-11 ページの「[「Source」ビューのコードの書式設定](#)」を参照してください。
- **Warning Dialogs:** このタブは、デザイナでの作業時に表示される警告の表示と非表示を切り替える場合に使用します。3-11 ページの「[警告メッセージの表示または非表示](#)」を参照してください。
- **Miscellaneous:** このタブは、デザイナの起動時におけるその他の特定のオプションを指定する場合に使用します。3-12 ページの「[その他のオプションの設定](#)」を参照してください。
- **Log File:** このタブは、ロギング・オプションを指定する場合に使用します。3-12 ページの「[ログ・ファイル設定の変更](#)」を参照してください。

3.3 新規メニューの作成

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Commands」タブ（A-4 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Commands」タブ](#)」を参照）では、デザイナのメニュー・バーで使用できるメニューとコマンドを参照できます。新規メニューを作成して、このタブに表示されているメニューのコマンドを移入できます。「Toolbars」タブのオプションと組み合わせると、よく使用するコマンドがまとめて表示された新規ツールバーを作成できます（この場合もこのタブのコマンドをコピーします）。

新規メニューを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Commands」タブの「Categories」で、「New Menu」をクリックします。
3. 「Commands」で、「New Menu」をクリックし、マウス・ボタンを押したままにします。
小さなアイコンが表示されます。
4. アイコンをメニュー・バーにドラッグします。マウス・ボタンを離します。
メニュー・バーに「New Menu」というメニューが表示されます。
5. メニュー・バーの「New Menu」をクリックすると、メニュー名の下に空の領域が表示されます。
他のメニューからこの領域にコマンドをドラッグ・アンド・ドロップし、メニューを作成できます。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

注意

- 作成したメニューの名前は、メニューを右クリックしてポップアップ・メニューの「**Button Appearance**」をクリックすることで変更できます。
- 「**Toolbars**」タブで新規ツールバーを作成する方法の詳細は、3-5 ページの「[ツールバーのカスタマイズ](#)」を参照してください。ツールバーを作成したら、「**Commands**」タブのコマンドをそのツールバーにドラッグ・アンド・ドロップできます。（ドラッグ・アンド・ドロップを使用する場合、コマンドは新規ツールバーにコピーされます。コマンドは、元のメニューでも引き続き使用できます。）
- デザイナの右クリック・ポップアップ・メニューをカスタマイズする方法の詳細は、3-9 ページの「[メニューのカスタマイズ](#)」を参照してください。
- 作成したメニューを削除するには、メニューをクリックし、マウス・ボタンを押したままメニュー・バーからドラッグして、別の場所でマウス・ボタンを離します。

3.4 ツールバーのカスタマイズ

「**Customize**」ダイアログ・ボックスの「**Toolbars**」タブ（A-5 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Toolbars」タブ](#)」を参照）では、デザイナーで使用できるツールバーの表示と非表示を切り替えるオプションを設定できます。新規ツールバーを作成して「**Commands**」タブのコマンドを移入することや、作成した新規ツールバーを削除することもできます。また、元のツールバーから以前に削除したアイコンを復元することも可能です。

次のことを実行できます。

- 3-5 ページの「[ツールバーの表示と非表示](#)」
- 3-5 ページの「[新規ツールバーの作成](#)」
- 3-6 ページの「[ツールバーのリセット](#)」

3.4.1 ツールバーの表示と非表示

ツールバーの表示と非表示を切り替えるには、次の手順を実行します。

1. 「**View**」→「**Customize**」をクリックします。
2. 「**Toolbars**」タブをクリックします。
 - ツールバーを表示するには、適切なチェック・ボックスを選択します。
 - ツールバーを非表示にするには、適切なチェック・ボックスを選択解除します。
3. 「**Close**」をクリックして「**Customize**」ダイアログ・ボックスを閉じます。

「**View**」メニューのドロップダウン・リストで適切なツールバーの名前をクリックし、ツールバーの表示と非表示を直接切り替えることもできます。ツールバー・アイコンに説明テキストを表示する場合は、「**Show text labels**」を選択します。

3.4.2 新規ツールバーの作成

新規ツールバーを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「**Toolbars**」タブで、「**New**」をクリックします。
2. 「**Toolbar Name**」ダイアログ・ボックスで、新規ツールバーの名前を入力し、「**OK**」をクリックします。

新規ツールバーの名前が「**Toolbars**」列に表示されます。ツールバー・アイコン（[図 3-5](#)）が名前の反対側に表示されます。

図 3-5 ツールバー・アイコン



3. 「Toolbars」タブから、デザイナの他のツールバーと関連する適切な位置にツールバー・アイコンをドラッグします。マウス・ボタンを離すと、ツールバー・アイコンは、空のツールバーを示すように変化します (図 3-6)。

図 3-6 空のツールバー・アイコン



4. 新規ツールバーにコマンドを移入するには、「Commands」タブを表示してツールバーに追加する個々のコマンドを識別し、各アイコンを「Commands」ボックスから新規ツールバーにドラッグします。(他のツールバーのコマンドをドラッグ・アンド・ドロップすることもできます。) マウス・ボタンを離すと、各コマンドのアイコンまたはテキストが新規ツールバーに表示されます。(アイコンはコピーされるだけで、元のメニューとの関連付けは維持されます。)

5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

ツールバーを作成したら、アイコンまたはテキストを右クリックしてポップアップ・メニューの「Button Appearance」をクリックすることで、そのツールバーをさらにカスタマイズできます。

デザイナに付属している元のツールバーは、いずれも削除できません。自分で作成したツールバーを削除するには、「Toolbars」タブでそのツールバーを選択し、「Delete」ボタンをクリックします。

3.4.3 ツールバーのリセット

デザイナに付属している元のツールバーからアイコンを削除した場合、それらのアイコンはいつでもツールバーに復元できます。

ツールバーをリセットするには、次の手順を実行します。

1. 「Toolbars」タブで、復元するツールバーを選択し、「Reset」をクリックします。
ツールバーに元から関連付けられているすべてのアイコンが表示されます。
2. すべてのツールバーを復元するには、「Reset All」をクリックします。
3. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

注意: 「Reset」および「Reset All」コマンドは、デザイナに付属しているツールバーのデフォルト・セットにのみ適用されます。新規ツールバーを作成し、後でそのツールバーからアイコンを削除した場合、アイコンを復元する唯一の方法は、「Commands」タブに再度移動し、「Commands」ボックスからツールバーに同じアイコンをドラッグ・アンド・ドロップすることです。

3.5 「Tools」メニューへのショートカットの追加

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Tools」タブ（A-7ページの「**「Customize」ダイアログ・ボックス：「Tools」タブ**」を参照）では、外部アプリケーションに即座にアクセスできるように、デザイナーの「Tools」メニューに外部アプリケーションへのショートカットを追加できます。

ツールへのショートカットを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Tools」タブをクリックします。
3. 「Menu Contents」ペインの上にあるアイコン・バーの「New」（[図 3-7](#)）をクリックします。

図 3-7 「New Shortcut」アイコン



ペインにツールのプレースホルダが表示されます。

「Command」テキスト・フィールドにカーソルを配置し、「Tools」メニューで使用するアプリケーションの実行可能ファイルのフルパスを入力します。

または

「Command」テキスト・フィールドにカーソルを配置し、フィールドの反対側の「Open」ボタン（[図 3-8](#)）をクリックします。「Open」ダイアログ・ボックスで、追加するアプリケーションの実行可能ファイルを検索します。ファイルを選択し、「Open」をクリックします。

図 3-8 「Open」アイコン



「Command」行に実行可能ファイルのフルパスを入力するかわりに、実行可能ファイルの名前のみを入力し、「Initial Directory」フィールドに実行可能ファイルのディレクトリを入力することもできます。

4. 「Arguments」フィールドを使用して、アプリケーションに特定のファイルを開くよう指示できます。引数として、実行可能ファイルのフルパスとファイル名を指定し、その後に関開くドキュメントのフルパスとファイル名を指定する必要があります。この場合、実行可能ファイルのパスはスラッシュで区切り、2つのパスの間に空白を入れ、ドキュメントのパスは引用符で囲む必要があります。たとえば、次のようになります。

```
C:/Program Files/Office/winword.exe "C:¥Documents¥sa.doc"
```

5. 「Command」フィールドに実行可能ファイルの名前を単独で入力した場合（手順3）のみ、「Initial Directory」フィールドに実行可能ファイルのディレクトリを入力します。それ以外の場合、このフィールドは空白のままとします。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

これで、アプリケーションのショートカットを「Tools」メニューで使用できます。引数を入力した場合、「Tools」メニューでアプリケーションを選択すると、そのアプリケーションが起動するだけでなく、引数で指定したドキュメントも開かれます。

ツールは、「Menu Contents」ペインのツールを選択して「Delete」（[図 3-9](#)）をクリックすることでいつでも削除できます。

図 3-9 「Delete」アイコン



「Tools」メニューに表示されるツールの順序を変更するには、「Move Up」または「Move Down」アイコン（それぞれ[図 3-10](#) および [図 3-11](#)）をクリックします。

図 3-10 「Move Up」アイコン



図 3-11 「Move Down」アイコン



3.6 キーボード・ショートカットの割当て

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Keyboard」タブ（A-8 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Keyboard」タブ](#)」を参照）では、デザイナーのメニューのコマンドにキーボード・ショートカットを割り当てることができます。デフォルトで、多くのコマンドに1つ以上のキーボード・ショートカットが割り当てられています。これらのキーボード・ショートカットは、変更または削除することや、新規に追加することができます。

キーボード・ショートカットを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Keyboard」タブをクリックします。
3. 「Category」で、ショートカットの割当て先となるコマンドを含むメニューを選択します。
4. 「Commands」で、ショートカットの割当て先となるコマンドを選択します。

コマンドの説明は、「Description」パネルに表示されます。割当て済のキーボード・ショートカットは、「Current Keys」に表示されます。

5. デザイナーでの作業時にキーボード・ショートカットを一般的に使用する場合、「Set Accelerator For」ドロップダウン・リストから「Default」を選択します。特にレイアウト・ページでの作業時にのみキーボード・ショートカットを使用する場合、「Layout Page」を選択します。
6. 「Press New Shortcut Key」テキスト・ボックスにカーソルを配置します。次に、キーボードで、ショートカットとして割り当てる実際のキーまたはキーの組合せを押します。

[Shift]、[Ctrl] または [Alt] キーと別の文字を組み合わせるには、[Shift]、[Ctrl] または [Alt] の次にその文字を押します。

7. 「Assign」ボタンをクリックします。
8. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

3.7 メニューのカスタマイズ

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Menu」タブ（A-10 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Menu」タブ](#)」を参照）では、デザイナのポップアップ・メニューの動作をカスタマイズできます。

次のことを実行できます。

- 3-9 ページの「[ポップアップ・メニューへのコマンドの追加](#)」
- 3-9 ページの「[ポップアップ・メニューからのコマンドの削除](#)」
- 3-10 ページの「[メニューの表示の制御](#)」

3.7.1 ポップアップ・メニューへのコマンドの追加

ポップアップ・メニューにコマンドを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Menu」タブをクリックします。
3. 「Select Context Menu」で、カスタマイズするポップアップ・メニューを選択します。
ポップアップ・メニューが「Customize」ダイアログ・ボックスの左上に表示されます。
4. 「Customize」ダイアログ・ボックスで、「Commands」タブをクリックします。
5. 「Categories」で、適切なメニューを選択します。「Commands」で、ポップアップ・メニューに追加するコマンドを選択します。コマンドをポップアップ・メニューにドラッグし、メニュー上で表示する場所に配置します。マウス・ボタンを離します。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

3.7.2 ポップアップ・メニューからのコマンドの削除

ポップアップ・メニューからコマンドを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Menu」タブをクリックします。
3. 「Select Context Menu」で、編集するポップアップ・メニューを選択します。
ポップアップ・メニューが「Customize」ダイアログ・ボックスの左上に表示されます。
4. ポップアップ・メニューで、削除するコマンドを右クリックし、表示されたポップアップ・メニューの「Delete」をクリックします。
5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

削除したコマンドをポップアップ・メニューに復元するには、「Select Context Menu」ドロップダウン・リストからメニューを選択し、「Reset」ボタンをクリックします。

3.7.3 メニューの表示の制御

画面上のメニューの表示は、2つの方法で制御できます。メニューの周囲に表示される影の表示または非表示の切替えと、メニューの展開方法の制御を行うことができます。これらのオプションが適用されるのは、メニュー・バーのメニューと、「Site Hierarchy」ペインのセクションまたはレイアウト・ページを右クリックした場合、あるいはツールボックスのフラグメントを右クリックした場合に表示されるポップアップ・メニューです。

画面上のメニューの表示方法を制御するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Menu」タブをクリックします。
3. 「Select Context Menu」で、任意のポップアップ・メニューを選択します。

注意： どのメニューを選択しても、手順4の選択はデザイナーのすべてのメニューに適用されます。

4. 「Menu Animations」で、使用するアニメーションを選択します。
 - **None:** メニュー・コマンドのリストが通常どおりに表示されます。
 - **Unfold:** メニュー・コマンドのリストが左上から右下に開きます。
 - **Slide:** メニュー・コマンドのリストが上から下に開きます。
 - **Fade:** メニュー・コマンドのリストが画面上に徐々に表示されます。
5. メニューの周囲に影の効果を表示するには、「Menu shadows」チェック・ボックスを選択します。影の効果を非表示にするには、チェック・ボックスの選択を解除します。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

デザイナーのメニュー・バーのメニューをカスタマイズする方法の詳細は、3-4 ページの「[新規メニューの作成](#)」を参照してください。

3.8 表示オプションの設定

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Options」タブ（A-11 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Options」タブ](#)」を参照）では、画面上のヒント、ツールバーの大きなアイコン、パーソナライズ・メニューなどの表示設定を制御できます。

表示オプションを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Options」タブをクリックします。
3. カーソルを上にしたときにアイコンを識別するためのポップアップ・テキストを表示する場合、「Toolbar」の「Show ScreenTips on toolbars」を選択します。画面上のヒントに、コマンドに割り当てられたショートカット・キーも表示する場合、「Show shortcut keys in ScreenTips」を選択します。大きなアイコンを表示する場合、「Large Icons」を選択します。
4. 自分の使用頻度に関連した順序でメニュー・コマンドを表示する場合、「Personalized Menus and Toolbars」の「Menus show recently used commands first」チェック・ボックスを選択します。

このオプションを選択した場合、「Show full menus after a short delay」も選択できます。

5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

「Reset my usage data」ボタンをクリックすることで、いつでもデザイナーを元の状態に戻すことができます。

3.9 「Source」ビューのコードの書式設定

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Source View」タブ（A-12 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Source View」タブ](#)」を参照）では、「Source」ビューで参照したときのレイアウト・ページのコードの表示方法を変更できます。フォントの種類およびサイズを変更することや、自動書式設定オプションを適用することができます。

「Source」ビューに表示されるコードを書式設定するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Source View」タブをクリックします。
3. 「Editor」で、「Font」ドロップダウン・リストから使用可能なフォントを選択し、「Size」ドロップダウン・リストから表示するコードのフォント・サイズを選択します。
4. 「Automatic Formatting」で、「Apply automatic formatting when switching to Source view」を選択すると、このタブのオプションに従ってコードが自動的に書式設定されます。

各書式設定オプションの詳細は、A-12 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Source View」タブ](#)」を参照してください。

5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

3.10 警告メッセージの表示または非表示

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Warning Dialogs」タブ（A-14 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Warning Dialogs」タブ](#)」を参照）では、デザイナーでの作業時にどの警告メッセージを表示し、どのメッセージを非表示にするかを制御できます。

警告メッセージの表示と非表示を切り替えるには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Warning Dialogs」タブをクリックします。
3. 表示する警告メッセージのチェック・ボックスを選択し、表示しない警告メッセージのチェック・ボックスを選択解除します。
すべてのメッセージを表示する場合は「Check All」を、すべてのメッセージを非表示にする場合は「Clear All」をクリックします。
4. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

注意： デフォルトでは、デザイナーの最初の実行時に一部の警告メッセージが表示されます。

3.11 その他のオプションの設定

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Miscellaneous」タブ（A-15 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Miscellaneous」タブ](#)」を参照）では、デザイナの様々なオプション（最後に作業していたサイトに接続するかどうか、サイトに無関係のフラグメントがツールボックスに表示されないようにするかどうかなど）を変更できます。

デザイナのその他のオプションを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Miscellaneous」タブをクリックします。
3. 現在のサイトと同じ言語（HCSP/JSP または ASP）で記述されているフラグメントのみをツールボックスに表示する場合、「**Filter fragments in other languages**」を選択します。
4. 現在のサイトに属している（コンテンツ・サーバーの他のサイトに属していない）フラグメントのみをツールボックスに表示する場合、「**Filter libraries from other sites**」を選択します。

サイトの一部として識別されないフラグメント・ライブラリのフラグメントは、ツールボックスに表示されなくなります。フラグメントをサイトの一部にするには、そのフラグメントをサイト・アセットとして「**Fragment Libraries**」カテゴリに追加します（5-33 ページの「[サイト・アセットの追加](#)」を参照）。

5. 自分で作成したフラグメントのみをツールボックスに表示する（Site Studio に付属するデフォルトのフラグメントを表示しない）場合、「**Filter default libraries**」を選択します。
6. デザイナの起動時に、最後に作業していたサイトに自動的に接続する場合、「**Reconnect at startup**」を選択します。
7. デザイナのステータス・バーにプロジェクト・ステータス・アイコンを表示する場合、「**Enable project status checking**」を選択します。（詳細は、5-9 ページの「[デザイナでのプロジェクト・ステータスの表示](#)」を参照してください。）
8. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

3.12 ログ・ファイル設定の変更

「Customize」ダイアログ・ボックスの「Log File」タブ（A-16 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Log File」タブ](#)」を参照）では、ログ・ファイルを作成するタイミングと、ログ・ファイルの詳細度を指定できます。

ログ・ファイル設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「View」→「Customize」をクリックします。
2. 「Log File」タブをクリックします。
3. デザイナを起動するたびに新規ログ・ファイルを作成する場合、「**Reset log file each time Designer starts**」チェック・ボックスを選択します。
4. コンテンツ・サーバーとのすべての通信に関する詳細なログを作成する場合、「**Log details of all communication with the Content Server**」チェック・ボックスを選択します。
5. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

サイトの計画

計画作業は、**Site Studio** で適切な **Web** サイトを構築するための鍵となります。レイアウト・ページにテキスト、グラフィック、スクリプトを挿入する前に、次のことを検討する必要があります。サイトの機能や役割は何でしょうか。サイトは、部門レベルのサイト、企業全体のサイト、内部サイト、外部サイトのいずれでしょうか。どのくらいの数のユーザーがサイトを訪問するでしょうか。どのくらいの数のユーザーがサイトの構築に協力するでしょうか。コントリビュータごとに異なるセキュリティ・アクセス・レベルを使用するでしょうか。サイトをレプリケートまたはパブリッシュする予定はあるでしょうか。サイトは相当な規模に成長することが見込まれるでしょうか。

これらはすべて作業の開始前に検討する必要がある重要な問題です。ユーザー固有のニーズを予測することはできませんが、サイトを開発する前に検討する必要があるいくつかの主なポイントについて提案することは可能です。

- 4-2 ページの「[コンテンツ・サーバーへの Web サイトの格納](#)」
- 4-4 ページの「[サイト階層の計画](#)」
- 4-7 ページの「[レイアウト・ページへのコンテンツの追加](#)」
- 4-8 ページの「[コントリビューション・モデルの作成](#)」
- 4-10 ページの「[Site Studio でのファイルの管理](#)」
- 4-12 ページの「[HCSP、JSP および ASP の Web サイト](#)」
- 4-13 ページの「[HCSP サイト](#)」
- 4-13 ページの「[JSP サイト](#)」
- 4-15 ページの「[ASP サイト](#)」

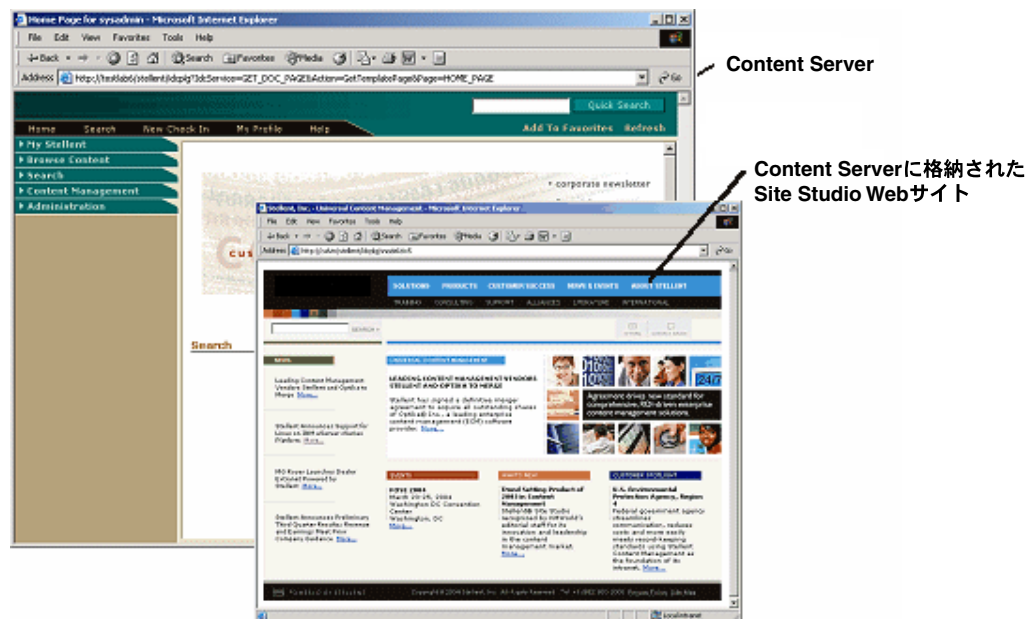
まだ読んでいない場合、『[Oracle Universal Content Management Site Studio チュートリアル](#)』に目を通してください。このガイドには、サイト設計のベスト・プラクティスを使用した完全に機能する **Web** サイトや、レイアウト・ページ、フラグメント、コントリビューション・リージョンの使用方法などに関する具体例が含まれます。

4.1 コンテンツ・サーバーへの Web サイトの格納

Site Studio は、1つのコンポーネントと3つのアプリケーション（デザイナー、コントリビュータおよびマネージャ）で構成されます。コンポーネントは、コンテンツ・サーバーにアップロードされて有効化されます。デザイナーおよびコントリビュータ・アプリケーションは、サイトの作成と管理に使用されるコンピュータにインストールされます。マネージャは、Web ベースのアプリケーションであり、インストールされません。

Site Studio で作成した Web サイトは、コンテンツ・サーバーにより格納、管理および提供されます。

図 4-1 Content Server における Site Studio で作成された Web サイト



コンテンツ・サーバーに格納された Web サイトでは、メタデータ、リビジョン履歴、セキュリティ、ワークフロー、Idoc スクリプトなどの多くの組み込みのコンテンツ管理機能を使用できます。ただし、これらの機能を使用して Web ページを適切に提供するには、次のことに注意する必要があります。

- 4-2 ページの「コンテンツ・サーバーのインストールと実行」
- 4-3 ページの「必須およびオプションのコンポーネント」
- 4-3 ページの「コンテンツ・サーバーでの複数サイトの実行」
- 4-3 ページの「スクリプト・オプション」
- 4-3 ページの「外部ファイルの参照」
- 4-4 ページの「別のサーバーへの Web サイトのコピー」

4.1.1 コンテンツ・サーバーのインストールと実行

Content Server は、サイトをホストする Web サーバーにインストールして実行する必要があります。以前にコンテンツ・サーバーをソース・ドキュメントの格納と管理のみに使用していた場合、Content Server に Web サイトを格納することは、組織にとって新しい作業となる可能性があります。

サイトで外部ユーザーに対応する場合、特にその目的でコンテンツ・サーバーの新規インスタンスを作成し、そのサーバーにサイトのコピーを作成できます（4-4 ページの「別のサーバーへの Web サイトのコピー」を参照）。

4.1.2 必須およびオプションのコンポーネント

サイトでネイティブ・ドキュメントを使用する場合、Dynamic Converter コンポーネントと Check Out and Open (COAO) コンポーネントをアップロードして有効化する必要があります。Dynamic Converter は、ネイティブ・ドキュメントを Web ページに変換し、サイトに含めるために使用します。Check Out and Open は、各コントリビュータが Web サイトでネイティブ・ドキュメントを簡単に編集できるように、迅速で容易なチェックアウトを行うためのオプションをコントリビューション・アイコンに追加します。

4.1.3 コンテンツ・サーバーでの複数サイトの実行

同じコンテンツ・サーバーに複数の Web サイトを格納できます。ただし、これを行う場合、(ファイルの異なるターゲット・ロケーションを指定するなどして) ユーザーをある Web サイトから別の Web サイトに間違えて移動させることのないように、Web サイト名、各サイトに関連付けられたファイル、および各サイトに割り当てられたメタデータに注意する必要があります。

また、コンテンツ・サーバーに格納されたフラグメントや他のアセットの使用方法にも注意する必要があります。(フラグメントのコピーを編集するのではなく) 別の設計者により作成されたフラグメントを編集する場合、編集後のフラグメントは、そのフラグメントを現在使用しているすべての Web サイトに影響します。

4.1.4 スクリプト・オプション

Site Studio の多くの機能 (特にレイアウト・ページとフラグメント) は、コンテンツ・サーバー環境の HTML、XML、JavaScript および Idoc スクリプトに大きく依存しています。各種の機能を使用およびカスタマイズするには、これらのスクリプト言語を使用して適切な構文に準拠する必要があります。

これらの言語に加え、JSP と ASP も使用できます。サイト接続マネージャを使用して最初に Web サイトを作成する場合、スクリプト言語を指定する必要があります。新しいレイアウト・ページとフラグメントを作成する場合も、スクリプト言語を指定する必要があります。また、フラグメントの設計方法も言語によって多少異なります (4-12 ページの「[HCSP、JSP および ASP の Web サイト](#)」を参照)。

重要: JSP と Idoc スクリプトは、(Java ServerBean の使用により) .jsp 拡張子付きでレイアウト・ページにインクルードできますが、JSP を .hcsp (Idoc スクリプト) 拡張子付きでレイアウト・ページにインクルードすることはできません。

4.1.5 外部ファイルの参照

グラフィック、スクリプト、Cascading Style Sheet (CSS)、または Web サイトから参照する関連ファイルは、すべてコンテンツ・サーバーにチェックインし、コンテンツ・サーバーで使用できるようにする必要があります。また、サイトをレプリケート、パブリッシュまたはバックアップする予定の場合、これらのファイルがサイトの一部として認識されていることを確認する必要があります (各ファイルのメタデータが Web サイトと一致する必要があります)。これを行うのに最も適切な方法は、デザイナーの「[Site Assets](#)」ペインを使用してこれらのファイルを追加することです (5-30 ページの「[サイト・アセット](#)」を参照)。

4.1.6 別のサーバーへの Web サイトのコピー

Site Studio で作成された Web サイトは、コンテンツ・サーバーに格納され、そこで管理されます。サイトのコピーを作成して、別のコンテンツ・サーバー、純粹な Web サーバー、またはバックアップを格納したアーカイブ・ロケーションに配置できます。これは、サイトの開発とサイトの構築を区別する目的で、またはサイトを高性能なサーバーにパブリッシュして広く公開する目的で行います。

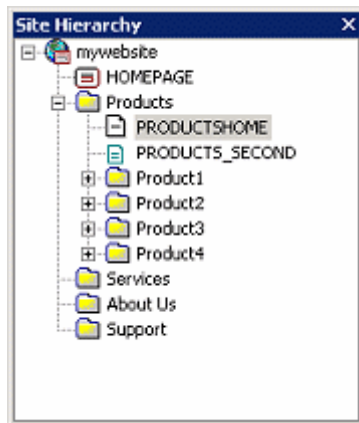
また、バックアップ・コピーを使用すると、サイトを簡単にパッケージし、(CD や DVD を使用して、または Web を経由して) ある場所から別の場所へ転送することができます。詳細は、[第 17 章「サイトのレプリケート」](#) および [第 18 章「サイトのバックアップ」](#) を参照してください。

コンテンツ・サーバーから純粹な Web サーバー (コンテンツ・サーバーが稼働していない Web サーバー) にサイトをコピーするには、Site Studio Publishing Utility を使用する必要があります。

4.2 サイト階層の計画

サイト階層は、Web サイトのフレームワークです。Web ページの作成を開始する前に、時間をかけて階層を計画する必要があります。サイト階層は、サイトのコンテンツの編成および管理に役立つだけでなく、Site Studio が特定のタスクを自動化する際にも使用されます。

図 4-2 「Site Hierarchy」 ペイン



サイト階層を作成する前に次のことを検討してください。

- 4-5 ページの「階層の深さ」
- 4-5 ページの「セクション名」
- 4-5 ページの「ナビゲーション」
- 4-5 ページの「Web サイト・アドレス」
- 4-5 ページの「プライマリおよびセカンダリ・レイアウト・ページ」
- 4-6 ページの「レイアウト・ページの再利用」
- 4-6 ページの「リージョン・コンテンツの再利用と共有」
- 4-6 ページの「サイト階層を変更する役割のマネージャへの委任」

4.2.1 階層の深さ

サイト階層の作成時における最初の選択の1つは、階層をどの程度深くするかということです。フラットな階層では、情報が最上位レベルと同等かそれに近い位置に配置されます。この階層は、情報を比較的少ないカテゴリにグループ化できる小規模な組織に適しています。

深い階層では、情報が複数のレベルに配置され、様々なカテゴリにグループ化されます。この階層は、大規模な組織や、Web サイトの拡張が見込まれる組織に適しています。もちろん、階層を深くすればするほど、サイト・ナビゲーションは複雑になります。

4.2.2 セクション名

サイト階層には、Products、Services、About Us などの名前を持つ個々のセクションが含まれます。これらの名前は重要です。これらの名前は、サイトのコンテンツの編成に役立つだけでなく、訪問者が参照するサイトのナビゲーションにも表示されます。それぞれの名前が、対応するセクションの内容を反映しているかどうかを確認するために、各名前を定期的に再検討することをお勧めします。

4.2.3 ナビゲーション

設計者はサイト階層を使用してサイトを管理しますが、訪問者は階層を使用してコンテンツを参照および検索します。Site Studio では、レイアウト・ページにナビゲーション・フラグメントを追加すると、フラグメントによってサイト階層が読み取られ、サイト・ナビゲーション全体を構成するリンクが生成されます。サイトのセクションの追加、削除および名前変更は簡単で、これらの変更はサイト・ナビゲーションに反映されます。サイト階層を構成する際には、訪問者の観点から慎重に検討する必要があります。

4.2.4 Web サイト・アドレス

もう1つ、サイト階層の編成時に検討する必要があることは、コントリビュータとサイト訪問者が Web ブラウザのアドレス・バーで参照する Web サイト・アドレスです。デフォルトでは、サイト階層のセクションに割り当てられた名前（ラベル）が使用されます。

必要に応じて、各セクションに異なるパス名およびページ名を指定することで、これらの値を上書きできます（5-7 ページの「[サイト・アドレスに使用されるパスの変更](#)」を参照）。前もってこれらの名前を計画することで、サイト・アドレスまたはアドレスで使用されるパスを後から変更することを最小限にとどめることができます。これらを後から変更すると、コントリビュータやサイト訪問者が使用するハイパーリンクの破損またはショートカットの欠落につながる可能性があります。

4.2.5 プライマリおよびセカンダリ・レイアウト・ページ

レイアウト・ページを操作する方法はいくつかあります。サイトのセクションごとに、1つのプライマリ・ページと1つのセカンダリ・ページを割り当てることができます。プライマリ・ページは、Web サイトのそのセクションに移動したときに、ユーザーが最初に目にする Web ページです（従来の Web サイトのデフォルト・ページとほぼ同じです）。

一方、セカンダリ・ページは、コントリビュータによりサイトに追加される新規コンテンツが表示される Web ページです。そのため、セカンダリ・レイアウト・ページは、コントリビュータが新規コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントをサイトに追加する場合にのみ必要です（9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照）。

プライマリ・ページのみで構成されたサイトを作成することもできますが、サイトを拡張する場合、新規プライマリ・ページを含んだ新規セクションを作成する必要があります。セカンダリ・ページを使用すれば、サイトはコントリビュータにより発行されるコンテンツに基づいて自然に成長するため、設計者は何もする必要がありません。サイトは、セカンダリ・ページの使用によりスケーラビリティが大幅に向上します。

4.2.6 レイアウト・ページの再利用

サイト階層を構築する場合、セクションごとに新規レイアウト・ページを作成するか、他のセクションですでに使用されているレイアウト・ページを再利用できます。どちらの方法にもメリットがあります。

- セクションごとに新しく一意のレイアウト・ページを作成すると、レイアウト・ページ的设计の柔軟性が向上します。一意的设计を作成するか、既存のレイアウトを変更して、レイアウト・ページに表示するコンテンツに対応します。ただし、サイトに重大なグローバル変更を行う場合、複数のレイアウト・ページを変更する必要があります。これは、繰返しの多い作業となり、間違いや一貫性のない状態が発生しやすくなります。

複数のレイアウト・ページを選択する場合、1つまたは少数のフラグメントのみをグローバル変更すれば済むように、できるかぎり参照スニペットを含むフラグメントを再利用してください。

- レイアウト・ページを再利用すると、Web サイトのルック・アンド・フィールを1つまたは少数のレイアウト・ページの形式に維持できます。また、レイアウト・ページの変更は即座にサイト全体に反映されます。ただし、セクションの特定のレイアウト・ページのルック・アンド・フィールをカスタマイズする能力は制限されます。

一般的に、サイトの似通ったセクション（企業の製品ラインなど）ではレイアウト・ページを再利用するのが適しており、大幅に異なるセクション（社歴やプレス・リリースなど）では一意のレイアウト・ページを使用するのが適しています。サイトでは、一意のレイアウト・ページと再利用するレイアウト・ページの適切な配分を見つける必要があります。

4.2.7 リージョン・コンテンツの再利用と共有

コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント（リージョン・コンテンツとも呼ばれる）は、コンテンツ・サーバーの単一の Web サイトおよび複数の Web サイト全体で共有および再利用できます。これらのアイテムをサイトに追加する場合、表示する場所となるターゲット・セクションを自分で指定するか、Site Studio に表示する場所の決定を任せることができます（9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照）。

コンテンツ・サーバーで現在 Web サイトに関連付けられていないコンテンツでも、サイトに追加できます。同じドキュメントを、それぞれ独自のルック・アンド・フィールで、複数のバージョンを作成することなく異なるサイトに表示できます。

ただし、この方法を選択する場合、そのコンテンツが Web サイトや一般公開に適していることを確認する必要があります（これを保証するため、ワークフローを実装できます）。また、コンテンツが表示される各セクションに、置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページがあることも確認する必要があります。

注意： Web サイトの複数のセクションで同じデータ・ファイルを再利用する場合、各コントリビューション・リージョンと、データ・ファイルが表示されるそのリージョン内の要素で同じ名前を使用する必要があります。

4.2.8 サイト階層を変更する役割のマネージャへの委任

設計者は、サイト階層を自分で作成および管理するか、その役割をサイト・マネージャに委任することができます。サイト・マネージャは、マネージャ・アプリケーションを使用して、セクションの作成、セクションの変更、レイアウト・ページの割当てなどを行うことができます。

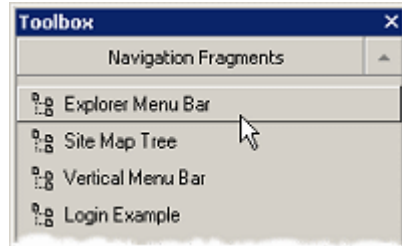
これらの変更により、サイトの外観と動作が大きく変化する可能性があります。これらの変更と、それによるサイト構造、ワークフロー、レプリケーション、コントリビュータの役割などに対する影響について検討する必要があります。

マネージャ・アプリケーションの設定方法の詳細は、[第 15 章「マネージャの設定」](#)を参照してください。

4.3 レイアウト・ページへのコンテンツの追加

サイト階層を作成したら、レイアウト・ページを追加できます。各レイアウト・ページで、標準的な Web ページの構成要素（タイトル、本文テキスト、グラフィック、背景色など）を追加できます。または、ツールボックスを使用して、フラグメントの形式で同じコンテンツを追加できます。

図 4-3 ツールボックスからレイアウト・ページへのフラグメントの追加



コンテンツを直接追加するか、フラグメントの形式で追加するかは、実際の状況と個人的な好みによります。

- 4-7 ページの「[レイアウト・ページへのコンテンツの直接追加](#)」
- 4-7 ページの「[レイアウト・ページへのコンテンツのフラグメントとしての追加](#)」

4.3.1 レイアウト・ページへのコンテンツの直接追加

レイアウト・ページに直接追加するコンテンツには、背景情報と、サイト全体にわたり変化しない（静的な）コンテンツを格納できます。たとえば、背景色、グラフィックおよび HTML 表（コンテンツの位置決めで使用）です。

このタイプのコンテンツを含むレイアウト・ページを再利用すると、サイトの 1 つのセクション（またはサイト全体）に適用される特定のルック・アンド・フィールを 1 つの領域で定義できるため、非常に便利です。

4.3.2 レイアウト・ページへのコンテンツのフラグメントとしての追加

フラグメントは、一般的に、レイアウト・ページとは別に管理するコンテンツに対して使用します。フラグメントには、コピーライト文のように簡単なものから、JavaScript メニューのように複雑なものまであります。フラグメントは、動的コンテンツまたはカスタム・スクリプトで作成されたコンテンツを管理する場合に特に役立ちます。フラグメントの数とその複雑さは、サイトの状況に応じて変化します。

サイトにコンテンツを追加する場合、どちらの方法にもそれぞれ固有のメリットがありますが、どちらもサイトを作成および管理するためのモジュール方式のアプローチを提供します。コンテンツは 1 つの場所で作成および管理され、その結果は複数の場所に反映されます。

4.4 コントリビューション・モデルの作成

サイト階層を計画して各ページのコンテンツを準備したら、コントリビューション・モデル、つまり、ユーザー（コントリビューターとマネージャ）によるサイトへのコンテンツの配置方法について検討する必要があります。コントリビューション・モデルを検討する場合、次の質問に回答する必要があります。

- 4-8 ページの「サイトのコンテンツをどの程度までユーザーに提供させるか」
- 4-8 ページの「ユーザーにどの程度まで制御させるか」
- 4-9 ページの「各ユーザーに異なるセキュリティ・アクセス権を付与するか」
- 4-9 ページの「コントリビューターにネイティブ・ドキュメントを発行させるか」
- 4-9 ページの「コントリビューション・プロセスをどのように調整するか」

4.4.1 サイトのコンテンツをどの程度までユーザーに提供させるか

設計者は、背景色、位置決め of の仕組み（HTML 表）、サイト・ナビゲーション、カスタム・スクリプトなどをサイトに追加する必要があります。ただし、各 Web ページのコンテンツの大部分は、コントリビューターやマネージャが作成および編集できます。

Site Studio の機能を真に活用するには、できるかぎり Web サイトの多くの部分をこれらのユーザーに開放する必要があります。これにより、Web サイトに一般的に付随するボトルネックや遅延なしに、Web サイトを継続的に更新できます。

4.4.2 ユーザーにどの程度まで制御させるか

すべてのレイアウト・ページには、1 つの大きなコントリビューション・リージョンを割り当てるか、複数の小さなコントリビューション・リージョンを割り当てることができます。リージョン内には、1 つ以上の要素を割り当てることが可能で、各要素はコントリビューター・アプリケーションでフィールドとして表示されます。このフィールドで、ユーザー（各コントリビューター）はコンテンツを追加および編集できます。

テキストやグラフィックの追加と編集、リストの更新といった特殊な用途に使用できる様々なタイプの要素があります。特定の書式属性の有効と無効は、切り替えることができます（書体、フォント・サイズ、イメージ、表、カスタム・プロパティの選択など）。これらの選択は、任意の Web ページをどの程度コントリビューターに制御させるかに応じて変化します。また、設計者は、検証機能または独自の検証スクリプトを使用して、追加されるコンテンツを管理できます。

これ以外に、設計者は、サイト階層の変更をユーザーに許可するために、1 つ以上のページでマネージャ・アプリケーションを有効化できます。

この制御の程度は、組織のスタイル・ガイドラインに基づいて、サイトの一貫性を損わないように調整する必要があります。

4.4.3 各ユーザーに異なるセキュリティ・アクセス権を付与するか

設計者は、各ユーザーにサイトへのアクセス権を付与する前に、個々のユーザー、ユーザーの組織内での役割、および Web パブリッシングに関するユーザーの知識を把握する必要があります。すべてのユーザーに Web サイトのすべてのコントリビューション・リージョンに対する同じアクセス権を付与することも、制限されたアクセス権と完全なアクセス権をユーザーごとに個別に付与することもできます。

たとえば、マーケティング部門のメンバーには Web ページ全体への完全なアクセス権を付与し、他のすべての部門にはそのページの一部のみに対するアクセス権を付与することができます。これを行うには、レイアウト・ページに複数のコントリビューション・リージョンを設定し、各リージョンに異なるコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当て、(コンテンツ・サーバーのメタデータ・フレームワークを使用して) それらのファイルに一意のセキュリティ・メタデータを割り当てます。

結果として、Web ページでファイルの横にコントリビューション・グラフィック (図 4-4) が表示されるのは、コントリビュータが編集権限を保持するファイルのみとなります。

図 4-4 コントリビューション・グラフィック



4.4.4 コントリビュータにネイティブ・ドキュメントを発行させるか

各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用してコンテンツを追加および編集する以外に、サイトにネイティブ・ドキュメント (Microsoft Word、Excel、PowerPoint などのアプリケーションで作成されたドキュメント) を追加することもできます。これらのドキュメントは、Dynamic Converter の使用により Web ページに変換されます。

各コントリビュータは、(リージョンに割り当てる、ハイパーリンク・ウィザードを使用する、動的リストに追加するなどの方法を通じて) 新規および既存のネイティブ・ドキュメントを直接 Web サイトに追加できます。また、コンテンツ・サーバーにおける既存の方法を使用してドキュメントをチェックインすることも可能です (Content Server の「Check In」ページ、WebDAV Client、Folders など)。

各コントリビュータは、(コントリビューション・グラフィックのメニュー・アイコンにある「Check Out and Open」オプションとコントリビュータ・アプリケーションのドキュメント編集機能を使用することで) Web サイトから直接ネイティブ・ドキュメントを編集できます。

Web サイトに対するネイティブ・ドキュメントの発行をコントリビュータに許可する場合 (これもコントリビューション・リージョン、要素およびリスト・フラグメントで制御します)、設計者は、ネイティブ・ドキュメントの使用法と、適用されるスタイル・ガイドラインについてコントリビュータに情報を提供する必要があります。

4.4.5 コントリビューション・プロセスをどのように調整するか

1 人のユーザーが Web サイトの設計者、マネージャおよびコントリビュータを兼ねている場合、そのユーザーはサイトを更新する必要がある時期と場所を把握しています。設計者が 1 人のコントリビュータまたはマネージャと共同で作業をする場合、サイトで必要な更新について通知する必要があります。特に、サイトに対する一定の変更に関してコントリビュータやマネージャに通知する必要があります。逆に、コントリビュータも、新規コンテンツを追加したときに設計者に連絡する必要があります。

設計者が複数のユーザーと共同で作業をする場合、コミュニケーションはすぐに複雑になる可能性があります。設計者は、ユーザー間になんらかの効率的なコミュニケーション手段を導入する必要があります。解決策の 1 つは、ワークフローを使用した正式なレビュー・プロセスを導入することです。

コントリビュータに Site Studio の動作方法の概要を伝える場合、状況に応じて各コントリビュータに『Oracle Universal Content Management Site Studio コントリビュータ・ガイド』を配布できます。

4.5 Site Studio でのファイルの管理

Site Studio で Web サイトを構築する場合、多くのファイルを扱います。一部のファイルは Site Studio に付属するもので、それ以外はユーザーが作成します。ファイルは、すべてコンテンツ・サーバーに格納されます。サイトの管理を容易にするため、これらのファイルの名前と場所には特に注意を払う必要があります。

- 4-10 ページの「[レイアウト・ページ](#)」
- 4-11 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント](#)」
- 4-11 ページの「[フラグメントとフラグメント・ライブラリ](#)」
- 4-12 ページの「[追加のサイト・アセット \(イメージ、CSS、スクリプトなど\)](#)」

これらのファイルを管理する場合、「Site Assets」 ペインやサイト・レポートなどの Site Studio の新機能を使用できます。

4.5.1 レイアウト・ページ

レイアウト・ページは、Web ページに似ています (デザイナーにおけるレイアウト・ページは、Web サイトの Web ページになります)。レイアウト・ページは、サイト階層内の個々のセクションに関連付けられます。各セクションには、1つのプライマリ・ページと1つのセカンダリ・ページを関連付けることができます。

レイアウト・ページは、簡単に再利用できるため、サイトの Web ページのテンプレートのように動作します。最終的なレイアウト・ページの数が多くなるか少なくなるかは、各レイアウト・ページをどの程度再利用するかに応じて異なります。

レイアウト・ページそれ自体は、.hcsp、.jsp または .asp という拡張子を持つファイルであり、管理対象コンテンツ・アイテムとしてコンテンツ・サーバーに格納されます。レイアウト・ページには、HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプトと、オプションで JSP および ASP が含まれます。

新規レイアウト・ページを作成すると、「Websites」、「Website Section」、「Website Object Type」などの特定のメタデータが Site Studio によってファイルに自動的に割り当てられ、そのファイルはサイトの一部として認識されます。ファイルには、名前、コンテンツ ID、セキュリティなどの他のメタデータを選択できます。名前は、各ファイルを編成するのに役立つため、特に重要です。

ネーミング規則は、レイアウト・ページがサイトのどこでどのように使用されているかを判別するのに役立ちますが、その多くはレイアウト・ページを再利用するかどうかに依存します。

セクションごとに一意のレイアウト・ページを使用する場合、通常は、Web サイトとセクションを反映した名前を使用し、そのページがプライマリ・ページとセカンダリ・ページのどちらであるかを示します。たとえば、Company という Web サイトの Products というセクションにある、プライマリ (1st) のレイアウト・ページに対しては、company_prod_layout_1st という名前を使用できます。セカンダリ・ページには、company_prod_layout_2nd という名前を使用できます。

一方、サイト全体でレイアウト・ページを再利用する場合、通常は、各ページの用途やコンテンツを反映した名前を使用します。たとえば、左側に垂直メニュー・バーが含まれる、最上位レベルの各セクションで使用されるレイアウト・ページに対しては、main_section_left_nav や TopLevelWithLNav などの名前を使用できます。セカンダリ・ページには、main_section_2nd や MainSectionNoLeftNav などの名前を使用できます。

名前を付ける方法はいくつもあります。最も適切な方法は、Web サイトの現状とレイアウト・ページの使用状況に応じて変化します。

注意：レイアウト・ページのコンテンツ ID は、30 文字以下で指定します。これは、コンテンツ・サーバーの dDocName メタデータ・フィールドの文字制限です。

4.5.2 コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント

データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントは、各コントリビュータがサイトに追加してサイト上で管理するファイルです。データ・ファイルは、コントリビュータ・アプリケーションを使用してリージョンに発行されるコンテンツを格納した XML ファイルです。ネイティブ・ドキュメントは、サード・パーティ・アプリケーション（Microsoft Word、Excel、PowerPoint など）を使用して作成されたファイルです。ネイティブ・ドキュメントは、Web サイトで閲覧できるように、Dynamic Converter を使用して Web ページに変換されます。

コントリビュータがサイトの特定部分を編集するためには、各コントリビューション・リージョンにリージョン・コンテンツ（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）が割り当てられている必要があります。設計者とコントリビュータは、コンテンツを作成してリージョンに割り当てることができます（9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照）。

設計者は、サイトでコンテンツを再利用するかどうかに応じて、各リージョンに一意のデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てるか、各リージョンに同じファイルを割り当てることができます。ファイルの作成時に、ファイルの名前とメタデータを選択します。レイアウト・ページと同様に、使用する名前は、サイトで各ファイルを管理する際に役立ちます。また、レイアウト・ページと同様に、選択する名前は、コンテンツをどの程度再利用するかに応じて異なります。

データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントに割り当てるコンテンツ・サーバーのメタデータ（特にセキュリティ・グループ）は、ログイン資格証明に基づいて一部のコントリビュータにのみファイルの使用を許可する場合に重要となります。

4.5.3 フラグメントとフラグメント・ライブラリ

フラグメントは、HTML、Idoc スクリプト、JavaScript および参照ファイル（グラフィック、CSS、インクルードなど）と、オプション言語である JSP および ASP のコンテナです。

フラグメントの仕様は、XML で記述され、フラグメント・ライブラリに格納されます（選択した場合は他のフラグメントも一緒に格納されます）。フラグメント・ライブラリは、その内容を記述した単一の XML ファイルと、各フラグメントで使用されるすべてのアセットを格納した ZIP ファイルで構成されます。フラグメント・ライブラリは、コンテンツ・サーバーに格納されます。各ライブラリは、Site Studio コンポーネントをインストールすると自動的にチェックインされます。

独自のフラグメントを作成する場合、それらのフラグメント用の独自のフラグメント・ライブラリを作成する必要があります。これには次のように多くのメリットがあります。

- フラグメントの場所を簡単に追跡および整理できます。
- 独自のフラグメント・ライブラリに格納されたフラグメントは、簡単に移動、コピーまたはバックアップできます。
- 別の設計者により作成されたフラグメントを不注意で変更することがなくなります（このような変更は、そのフラグメントを現在使用している Web サイトに影響します）。
- 既存のフラグメントから新規フラグメントを作成した場合、必要に応じて元のフラグメントに戻ることが容易です。

詳細は、7-23 ページの「[フラグメント・ライブラリ](#)」を参照してください。

4.5.4 追加のサイト・アセット（イメージ、CSS、スクリプトなど）

レイアウト・ページ、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントおよびフラグメント・ライブラリの管理に加え、レイアウト・ページで使用されるイメージ、Cascading Style Sheet (CSS)、カスタム・スクリプトなどの他のサポート・ファイルも追跡する必要があります。これらのファイルは、サイト・アセットとも呼ばれ、デザイナーの「Site Assets」ペインを使用して追加および編集できます。（「Site Assets」ペインでは、レイアウト・ページ、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントなどの他のファイルも管理できます。）

サイトの一部として認識されるように、これらのファイルに必要なメタデータ（特に「Websites」メタデータ）が含まれていることは重要です。「Site Assets」ペインを使用してこれらのファイルを追加すれば、必要なメタデータは自動的に割り当てられます。ファイルがサイトの一部であると認識されると、そのファイルはサイト使用状況レポート、サイト・レプリケーション、パブリッシング、および実行されるすべてのバックアップとリストアに含まれます。結果として、サイトはその場所にかかわらず完全な状態のまま維持されます。

詳細は、5-30 ページの「[サイト・アセット](#)」を参照してください。

4.6 HCSP、JSP および ASP の Web サイト

Site Studio で Web サイトを作成する前に、使用するサーバー側スクリプト言語、つまり、HCSP (Idoc スクリプト)、JSP または ASP について知っておく必要があります。スクリプト言語の選択は、将来の他の選択（サイトへのレイアウト・ページ、フラグメントおよびスクリプトの追加など）に影響を及ぼすため、重要です。

第一に、新規 Web サイトを作成する場合、最初に選択するものの1つがサイトのタイプ (HCSP/JSP または ASP) です (5-2 ページの「[新規サイト接続の作成](#)」を参照)。サイト・タイプは、デザイナーでの他の選択に影響します。たとえば、HCSP/JSP を選択した場合、新規レイアウト・ページの作成時には HCSP または JSP を、新規フラグメントの作成時には Idoc または JSP を選択することになります。一方、サイト・タイプとして ASP を選択した場合、レイアウト・ページおよびフラグメントの作成時には ASP を選択することになります。

次の項で、各サイト・タイプについて説明します。

- 4-13 ページの「[HCSP サイト](#)」
- 4-13 ページの「[JSP サイト](#)」
- 4-15 ページの「[ASP サイト](#)」

次のことに注意してください。

- Idoc と JSP は、どちらもコンテンツ・サーバー環境で実行可能なため、HCSP/JSP としてグループ化しています (JSP ページでは、Java ServerBean を使用して Idoc サービスをコールします)。これに対し、ASP は、コンテンツ・サーバー環境で実行できないため、単独で扱います。
- デザイナーでの作業時に、Web サイトと同じ言語で記述されていないフラグメントをツールボックスで非表示にできます (3-12 ページの「[その他のオプションの設定](#)」を参照)。
- HCSP、JSP および ASP の違いについては、『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』を参照してください。

4.7 HCSP サイト

Idoc スクリプト (Site Studio でのファイル拡張子は .hjsp) は、Site Studio で新規サイト、新規レイアウト・ページおよび新規フラグメントを作成する際のデフォルト選択です。Idoc スクリプトは、Content Server およびその多くのサービスと連携して動作する強力な言語です。

また、Idoc スクリプトは、比較的わかりやすい言語です。すでに Idoc スクリプトを使用してビジネス・コンテンツを管理している場合、それと同じいくつかの技術および操作を Site Studio Web サイトでも使用できます。

サイト・タイプとして HCSP を選択すると、レイアウト・ページとフラグメントを HTML、XML、JavaScript および Idoc スクリプトで作成できます。また、JSP や ASP と比較して、ツールボックスのサンプル・フラグメントを最も多く選択できます。詳細は、付録 B「サンプル・フラグメント」を参照してください。

HCSP レイアウト・ページに JSP または ASP スクリプト (あるいはこれらの言語で記述されたフラグメント) を追加することはできません。

4.8 JSP サイト

JSP は、Site Studio でサーバー側スクリプト言語として使用できます。JSP は、この言語の使用経験があり、Site Studio での使用を希望する場合には非常に有益です。作成済の既存の JSP サイトから特定の機能や操作を実装して、Site Studio Web サイトに追加することも可能です。

JSP は、コンテンツ・サーバーの Java ServerBean を使用してコンテンツ・サーバー環境で実行できます。そのため、HCSP と JSP は、Site Studio の多くの領域でグループ化されています。

サイトに JSP を選択すると、レイアウト・ページとフラグメントを HTML、XML、JavaScript、JSP および Idoc スクリプトで作成できます。つまり、JSP レイアウト・ページには、JSP と Idoc スクリプトの両方のフラグメントを追加できます。JSP レイアウト・ページに ASP (または ASP フラグメント) を追加することはできません。

JSP では、次のことを検討する必要があります。

- 4-13 ページの「コンテンツ・サーバーでの JSP の構成」
- 4-14 ページの「JSP レイアウト・ページ」
- 4-14 ページの「JSP フラグメント」

4.8.1 コンテンツ・サーバーでの JSP の構成

JSP の使用を開始する前に、および Site Studio をインストールする前に、コンテンツ・サーバーで JSP サポートを有効化する必要があります。有効化したら、コンテンツ・サーバーのコンテンツやサービスにアクセスし、それらを変更できます (パーソナライズ、セキュリティ定義、事前定義済の変数など)。詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio インストール・ガイド』および Content Server のオンライン・ヘルプを参照してください。

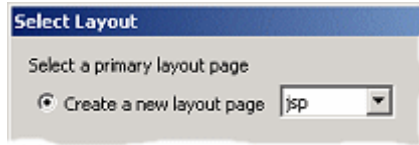
Site Studio コンポーネントのインストール後に JSP グループを有効化する場合、JSP フラグメントを正しく機能させるために JSP サポートを構成する必要があります (7-27 ページの「[Manage Fragment Libraries](#)」ページを使用したフラグメントのデプロイ) を参照)。

4.8.2 JSP レイアウト・ページ

デザイナーで JSP レイアウト・ページを作成すると、そのファイルは Site Studio によって .jsp ファイル拡張子付きでコンテンツ・サーバーにチェックインされます（これに対し、Idoc ページの場合は .hjsp ファイル拡張子が付きます）。ファイル拡張子により、JSP はサーバーで正しく実行されるため、この拡張子は重要です。

「Select Layout」ダイアログ・ボックスでレイアウト・ページに「jsp」を指定します。

図 4-5 「Select Layout」ダイアログ・ボックスでの JSP の選択



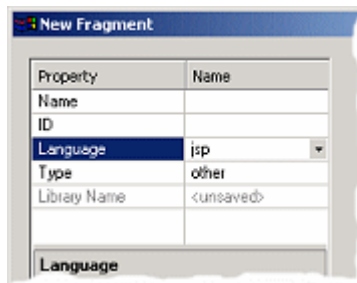
JSP レイアウト・ページで作業していると、コンテンツ・サーバーの Idoc サービスのコールが必要になることがあります。これを行うには、レイアウト・ページやフラグメントに直接 Idoc スクリプトを追加するのではなく、ServerBean を使用します。詳細は、Content Server のマニュアルを参照してください。

4.8.3 JSP フラグメント

フラグメント・エディタでは、一般的に、フラグメントに格納される 1 つ以上のスニペットに直接コードを追加します（7-15 ページの「フラグメント・スニペットの追加と編集」を参照）。グラフィック、CSS、JavaScript などのサポート・ファイルは、アセットに変換し、各スニペット内から参照できます（7-17 ページの「フラグメント・アセットの追加と編集」を参照）。

JSP (JavaServer Pages) フラグメントを作成する場合、最初に「New Fragment」プロパティ・ダイアログ・ボックスで選択した JSP に「jsp」と指定する必要があります。

図 4-6 「New Fragment」プロパティ・ダイアログ・ボックス



フラグメント・エディタで、JSP ファイルにコードを記述し、そのファイルをフラグメントのアセットに設定して、そのアセットをインライン・フラグメント・スニペットから参照する必要があります。使用例を参照するには、ツールボックスの JSP サンプル・フラグメントを開いてください。詳細は、付録 B「サンプル・フラグメント」を参照してください。

作成した JSP フラグメントは、JSP レイアウト・ページにのみ追加できます。

4.9 ASP サイト

ASP は、Site Studio でサーバー側スクリプト言語として使用できます。ASP は、この言語の使用経験があり、Site Studio での使用を希望する場合には非常に有益です。作成済の既存の ASP Web サイトから特定の機能や操作を実装して、Site Studio Web サイトに追加することも可能です。

ASP では、SOAP コンポーネントと IdcCommandX を使用してコンテンツ・サーバー・サービスをリクエストします（この動作は、Idoc サービスをリクエストしてコンテンツ・サーバー環境で実行される JSP ページとは異なります）。このため、ASP は、Site Studio では独自のカテゴリに分類され、Idoc スクリプトや JSP と組み合されることはありません。

サイトに ASP を選択すると、レイアウト・ページとフラグメントを HTML、XML、JavaScript および ASP で作成できます。ASP では、次のことを検討する必要があります。

- 4-15 ページの「サーバーでの ASP の構成」
- 4-15 ページの「ASP レイアウト・ページ」
- 4-16 ページの「ASP フラグメント」

4.9.1 サーバーでの ASP の構成

ASP の使用を開始する前に、および Site Studio をインストールする前に、ASP が適切に実行されるようにサーバーを構成する必要があります。

リリース 7.5 より前の Content Server を実行している場合、コンテンツ・サーバーに SOAP コンポーネントと IdcCommandX をインストールする必要があります。（どちらもサポート・サイトからダウンロードして使用できます。）リリース 7.5 以上の Content Server を実行している場合、SOAP 機能は製品に組み込まれています。

また、Microsoft Internet Information Server (IIS) の Websites フォルダを有効化して、スクリプトを実行し、アプリケーション・オブジェクトを作成する必要があります。

この作業が完了したら、デザイナーで ASP サイト、ASP レイアウト・ページおよび ASP フラグメントを作成できます。

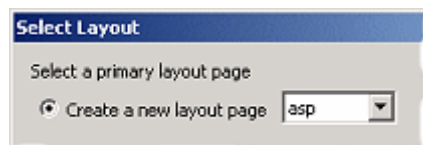
注意： Microsoft Windows Server 2003 を使用している場合、ASP サポートを有効化し、Site Studio で相対パス（..¥.¥websites¥ など）を使用できるようにサーバーを構成する必要があります。詳細は、Microsoft Internet Information Server のヘルプの親パスに関するドキュメントを参照してください。

4.9.2 ASP レイアウト・ページ

デザイナーで ASP レイアウト・ページを作成すると、そのファイルは Site Studio によって .asp ファイル拡張子付きでコンテンツ・サーバーにチェックインされます（これに対し、Idoc ページの場合は .hcsp ファイル拡張子が付きます）。ファイル拡張子により、ASP はサーバーで正しく実行されるため、この拡張子は重要です。

新規レイアウト・ページを作成する場合、「Select Layout」ダイアログ・ボックスではすでに「asp」が選択されています。この値は、「Create New Site」ダイアログ・ボックスで選択されたサイトのタイプから継承されます（5-2 ページの「新規サイト接続の作成」を参照）。

図 4-7 「Select Layout」ダイアログ・ボックス



4.9.3 ASP フラグメント

フラグメント・エディタでは、一般的に、フラグメントに格納される1つ以上のスニペットに直接コードを追加します (7-15 ページの「[フラグメント・スニペットの追加と編集](#)」を参照)。グラフィック、CSS、JavaScript などのサポート・ファイルは、アセットに変換し、各スニペット内から参照できます (7-17 ページの「[フラグメント・アセットの追加と編集](#)」を参照)。

ASP フラグメントを作成する場合、「New Fragment」プロパティ・ダイアログ・ボックスでは言語としてすでに「asp」が選択されています。この値は、「Create New Site」ダイアログ・ボックスで選択されたサイトのタイプから継承されます (5-2 ページの「[新規サイト接続の作成](#)」を参照)。

図 4-8 「New Fragment」プロパティ・ダイアログ・ボックス



フラグメント・エディタで、ASP ファイルにコードを記述し、そのファイルをフラグメントのアセットに設定して、そのアセットをインライン・フラグメント・スニペットから参照できます。使用例を参照するには、ツールボックスの ASP サンプル・フラグメントを開いてください。詳細は、[付録 B 「サンプル・フラグメント」](#) を参照してください。

作成した ASP フラグメントは、ASP レイアウト・ページにのみ追加できます。

Web サイトの作成

Site Studio で行う最初の作業は、コンテンツ・サーバーに接続して Web サイトを作成することです。これは、デザイナの接続マネージャを使用して行います。接続マネージャで、コンテンツ・サーバーを識別し、そのサーバーで Web サイト（正確にはプロジェクト・ファイル）を作成します。また、サイトに接続するためにデザイナで使用される接続名を作成します。

この作業が完了すれば、すぐにデザイナの「Site Hierarchy」ペインを使用して独自のサイト階層を編成できます。サイト階層は、サイトの個々のセクション（*Products*、*Services*、*About Us* など）で構成されます。各セクションには、プライマリ・ページとセカンダリ・ページがあります。

設計者は、サイトとサイト階層の設定にかなりの時間を費やすことになります（後続の説明を参照）。それが終了したら、レイアウト・ページでの作業、フラグメントの追加、コントリビューションの設定に移ります。

- 5-2 ページの「[サイト接続](#)」
- 5-5 ページの「[サイト・アドレス指定](#)」
- 5-8 ページの「[プロジェクト・ファイル](#)」
- 5-10 ページの「[サイト階層](#)」
- 5-20 ページの「[レイアウト・ページ](#)」
- 5-30 ページの「[サイト・アセット](#)」
- 5-39 ページの「[サイト・レポート](#)」
- 5-44 ページの「[Web サイトの開始と停止](#)」

5.1 サイト接続

Site Studio では、コンテンツ・サーバーでサイトを作成し、そのサイトに様々なファイル（レイアウト・ページ、フラグメント、データ・ファイルなど）を関連付けます。サイトを作成するには、デザイナーでサイト接続と呼ばれるものを作成する必要があります。

デザイナーでは、コンテンツ・サーバーに格納された Web サイトへの接続とその更新にサイト接続を使用します。サイト接続の動作は、別のプログラムまたはファイルに迅速にアクセスするためにデスクトップに追加する一般的なショートカットとよく似ています。サイト接続を追加、編集および削除しても、コンテンツ・サーバーの実際の Web サイトは影響を受けません。それぞれ異なる Web サイトに接続するためのサイト接続を必要な数だけ追加できます。

サイト接続を管理するには、次の項に説明されている手順を実行します。

- 5-2 ページの「新規サイト接続の作成」
- 5-4 ページの「サイト接続の編集」
- 5-4 ページの「サイト接続の削除」

5.1.1 新規サイト接続の作成

新規 Web サイトを作成するには、コンテンツ・サーバーの Web サイトに接続してそれを更新するためのサイト接続を作成する必要があります。初めてデザイナーを起動した場合、このためのダイアログ・ボックスが自動的に表示されます。

サイト接続を作成するには、次の手順を実行します。

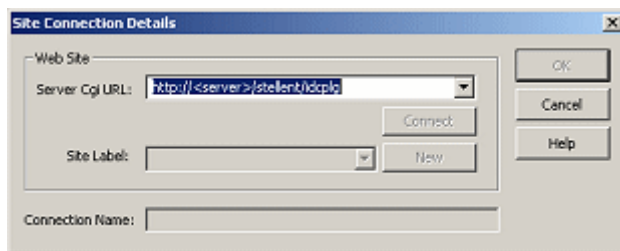
1. サイト・ツールバーの「Site Connection Manager」アイコンをクリックするか、「File」→「Site」→「Connection Manager」を選択し、「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスを表示します（A-17 ページの「「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックス」を参照）。

図 5-1 「Site Connection Manager」アイコン



2. 「New」をクリックして、「Site Connection Details」ダイアログ・ボックスを表示します（A-18 ページの「「Site Connection Details」ダイアログ・ボックス」を参照）。

図 5-2 「Site Connection Details」ダイアログ・ボックス



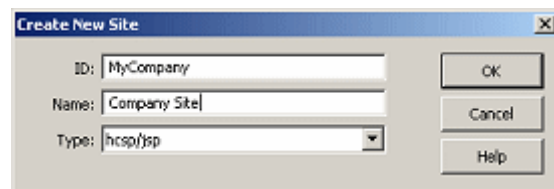
3. 「Server Cgi URL」テキスト・ボックスに、サイトをホストするコンテンツ・サーバーの CGI URL アドレスを入力します。

サーバーの完全なアドレスを入力するかわりに、メニューのプレースホルダ・アドレスのいずれかを選択できます（<server> は実際のサーバーの名前で置き換えてください）。

デフォルト・アドレスの `http://<server>/stellent/idcplg` は、Content Server リリース 7.x および 10gR3 用です。ドロップダウン・リストで使用できる他の 2 つのアドレスは、リリース 6.x 用です（Windows の場合は `http://<server>/intradoc-cgi/idc_cgi_isapi.dll`、UNIX の場合は `http://<server>/intradoc-cgi/nph-idc_cgi.exe`）。

4. 「Connect」をクリックします。場合によっては、ログイン資格証明を入力するよう求められます。
5. 「New」をクリックしてコンテンツ・サーバーに新規サイトを作成します。
「Create New Site」ダイアログ・ボックスが表示されます (図 5-3)。

図 5-3 「Create New Site」ダイアログ・ボックス



または、サーバーの既存の Web サイトを使用して新規サイト接続を作成する場合は、「Site Label」の名前のリストからサイト名を選択し、手順 10 に移動してください。

6. Web サイトの ID を入力します。(この ID は、Web サイトの URL や、サイトで参照されるファイルのメタデータなど、サイト全体で使用されます。)
7. Web サイトの名前を入力します。(この名前は、デザイナーと、コンテンツ・サーバーの「Websites」メニューに表示されます。必要に応じて、空白や特殊文字を含むわかりやすい名前を使用できます。)
8. タイプとして「hcsp/jsp」または「asp」を選択します。(このサイト・タイプは、デザイナーでの他のスクリプト関連の選択、特に新規レイアウト・ページおよびフラグメント用のスクリプト形式の選択に影響します。)

重要： このダイアログ・ボックスでの選択後に ID またはタイプを変更することはできません。

9. 「OK」をクリックして「Site Connection Details」ダイアログ・ボックスに戻ります。
10. Site Studio により、自動的に接続名が挿入されます。この接続名は、デザイナーでサイトに接続したときに表示されます (「Site Hierarchy」メニューと「Recent Sites」メニュー)。この名前をそのまま使用するか、別の名前を入力できます。
11. 「OK」をクリックして「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスに戻ります。
12. 「Automatically connect when done」を選択し (まだ選択されていない場合)、「Done」をクリックします。

デザイナーにより、コンテンツ・サーバーのサイトが開かれ、そこに格納されている使用可能なフラグメントがダウンロードされます。Web サイトは、「Site Hierarchy」ペインに表示されます。

図 5-4 「Site Hierarchy」ページの Web サイト



新規サイトのプロパティを変更するには、5-16 ページの「Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集」を参照してください。

5.1.2 サイト接続の編集

デザイナーで作成したサイト接続を編集できます。サイト接続の名前、サイト接続に関連付けられているコンテンツ・サーバー、およびサイト接続に関連付けられている Web サイトを変更できます。(サイトの ID、名前またはタイプは変更できません。)

デザイナーで現在サイトを開いている場合、サイト接続を編集するには、まずサイトとの接続を切断する必要があります。

サイト接続を編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集するサイトに現在接続している場合、サイト・ツールバーの「Disconnect」アイコン (図 5-5) をクリックするか、「File」→「Site」→「Disconnect」を選択します。

図 5-5 「Disconnect」アイコン



2. サイト・ツールバーの「Site Connection Manager」アイコン (図 5-6) をクリックするか、「File」→「Site」→「Connection Manager」を選択し、「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスを表示します (A-17 ページの「「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックス」を参照)。

図 5-6 「Site Connection Manager」アイコン



3. 接続名を選択し、「Edit」をクリックします。
4. 「Site Connection Details」ダイアログ・ボックスで (A-18 ページの「「Site Connection Details」ダイアログ・ボックス」を参照)、「Server Cgi URL」、「Site Label」または「Connection Name」の内容を必要に応じて変更します。
5. 「OK」をクリックして「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスに戻ります。
6. 編集したサイト接続が選択された状態で、「Automatically connect when done」を選択し (まだ選択されていない場合)、「Done」をクリックします。

注意: サイトの作成後に ID またはタイプを変更することはできません。これらの値は、サイト全体で使用されます。

サイト・ラベル、サイト・セキュリティ、およびその他のサイト・プロパティを変更するには、5-16 ページの「Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集」を参照してください。

5.1.3 サイト接続の削除

デザイナーで作成したサイト接続を削除できます。これにより、接続は削除されますが、コンテンツ・サーバーの実際の Web サイトは削除されません (後続の説明を参照)。デザイナーで現在サイトを開いている場合、サイト接続を削除するには、まずサイトとの接続を切断する必要があります。

サイト接続を削除するには、次の手順を実行します。

1. 編集するサイトに現在接続している場合、サイト・ツールバーの「Disconnect」アイコン (図 5-7) をクリックするか、「File」→「Site」→「Disconnect」を選択します。

図 5-7 「Disconnect」アイコン



2. サイト・ツールバーの「Site Connection Manager」アイコン (図 5-8) をクリックするか、「File」→「Site」→「Connection Manager」を選択し、「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスを表示します (A-17 ページの「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックス」を参照)。

図 5-8 「Site Connection Manager」アイコン



3. 接続名を選択し、「Delete」をクリックします。
4. 「Yes」をクリックして削除を確認します。
5. 「Done」をクリックして「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックスを閉じます。

コンテンツ・サーバーの実際の Web サイトを削除するには、サーバーにログインし、Site Studio により作成されたプロジェクト・ファイルを削除する必要があります。これを行う場合、削除中に新規バージョンのプロジェクト・ファイルが (自動的に) チェックインされないように、事前に実行中の Web サイトを停止しておく必要があります (5-44 ページの「Web サイトの開始と停止」を参照)。

5.2 サイト・アドレス指定

他の Web サイトと同様に、Site Studio では、設計者、コントリビュータおよび訪問者が Web ブラウザでサイトの場所を特定できるように、Web サイトにアドレスを関連付ける必要があります。

ドメイン名アドレスとフォルダ名アドレスという 2 種類のアドレスを使用できます。たとえば、ドメイン名アドレスは `http://www.mycompany.com` (`mycompany.com` はドメイン名)、フォルダ名アドレスは `http://UserPC/mysite` (`UserPC` はサイトをホストしているコンピュータの名前、`mysite` はサイトの ID) のようになります。

デザイナーで最初にサイトを設定すると、ホスト・コンピュータの名前とサイト ID で構成されたフォルダ名アドレスが割り当てられます。このアドレスは、部門内 Web サイトやデモンストレーション・サイトなどの内部目的に適しています。ただし、サイトをインターネット上に公開する場合、1 つ以上のドメイン名を構成してサイトに関連付けることができます。

次の項で、サイト・アドレス指定について詳細に説明します。

- 5-5 ページの「サイトへのドメイン名のマッピング」
- 5-7 ページの「サイト・アドレスに使用されるパスの変更」

5.2.1 サイトへのドメイン名のマッピング

ドメイン名は、Web サイトを識別する一意の名前です。1 つ以上のドメイン名を Site Studio Web サイトに割り当てることができますが、これは、一般的に、サイトをインターネット上に公開する場合に行います。

ドメイン名を使用するには、ドメイン名を取得してネーム・サーバーで構成し、Site Studio を使用してそのドメイン名を独自のサイトにマップします。この項では、最後の手順であるドメイン名のマッピングについてのみ説明します。ドメイン名の構成方法の詳細は、適切なサード・パーティに連絡して確認してください。

Site Studio では、次の 2 つの場所でドメイン名をマップできます。

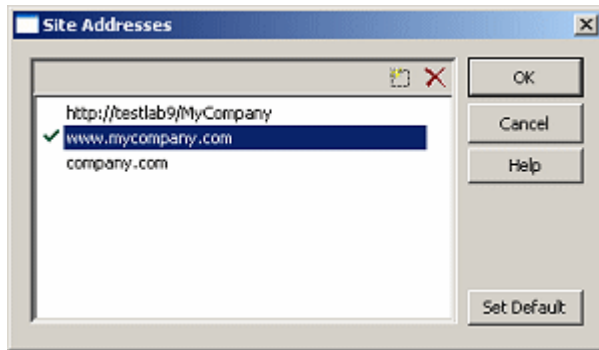
- 5-6 ページの「デザイナーを使用したドメイン名のマッピング」
- 5-6 ページの「Manage Web Site Addresses」ページを使用したドメイン名のマッピング」

5.2.1.1 デザイナを使用したドメイン名のマッピング

Site Studio デザイナを使用してドメイン名をマップするには、次の手順を実行します。

1. 「File」 → 「Site」 → 「Advanced」 → 「Edit Site Domains」 を選択します。
これにより、「Site Addresses」 ダイアログ・ボックス (図 5-9) が表示されます。詳細は、A-20 ページの「Site Addresses」 ダイアログ・ボックス」を参照してください。

図 5-9 「Site Addresses」 ダイアログ・ボックス



2. 新規ドメインを追加するには、「New Site Address」 アイコン (図 5-10) をクリックし、指定された空白に名前を入力します。

図 5-10 「New Site Address」 アイコン



3. キーボードの [Enter] を押してドメインを追加します。
追加するドメイン名ごとに前述の手順を繰り返します。
4. ドメイン名を、Site Studio で使用されるデフォルトに設定するには、「Set Default」 をクリックします。
5. 既存のドメイン名を削除するには、そのドメイン名を選択して「Delete」 アイコン (図 5-11) をクリックします。

図 5-11 「Delete」 アイコン



6. 「OK」 をクリックします。

5.2.1.2 「Manage Web Site Addresses」 ページを使用したドメイン名のマッピング

「Manage Web Site Addresses」 ページを使用してドメイン名をマップするには、次の手順を実行します。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインし、「Administration」 をクリックします。
2. 「Site Studio Administration」 をクリックして「Site Studio Administration」 ページを表示します。
3. 「Manage Web Site Addresses」 をクリックして「Manage Web Site Addresses」 ページを表示します。
4. 新規ドメインを追加するには、「Web Site」 メニューで Web サイトを選択します。

5. 「Address」フィールドにドメイン名を入力します。
6. 「Add」をクリックして Web サイトにドメイン名を追加します。
ページがリフレッシュされ、アドレスのリストに新しい Web サイト・アドレスが表示されます。
7. ドメイン名を、Site Studio で使用されるデフォルトに設定するには、名前の横の「Floating List」アイコン (図 5-12) をクリックし、「Select As Default Address」を選択します。
8. 既存のドメイン名を削除するには、名前の横の「Floating List」アイコン (図 5-12) をクリックし、「Remove Site Address」を選択します。

図 5-12 「Floating List」アイコン



サイトには複数のドメイン名をマップできます。この場合、ユーザーがサイトへのアクセスにどのドメイン名を使用しても、サイトのブラウズ中はずっとそのドメイン名が表示されます。デフォルトとして指定したドメイン名は、設計者によるサイトのプレビュー時やリージョンへのコンテンツの割当て時などに Site Studio によって使用されます。

5.2.2 サイト・アドレスに使用されるパスの変更

ドメインベース・アドレスを使用してサイトを開くと、HTTP プロトコル、ドメイン名、セクション、Web ページの順にアドレスが表示されます。たとえば、次のようになります。

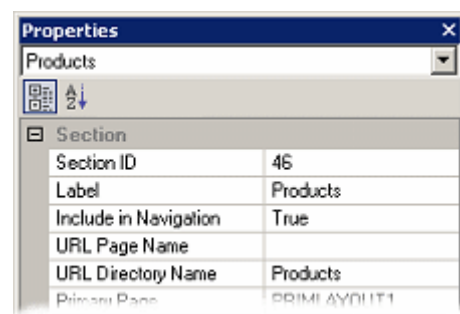
`http://www.mydomain.com/products/index.htm`

フォルダベース・アドレスを使用してサイトを開くと、HTTP プロトコル、(サイトをホストする) コンピュータの名前、Web サイトの ID、セクション、ページ名の順にアドレスが表示されます。たとえば、次のようになります。

`http://UserPC/mysite/products/index.htm`

サイトのプロパティ、セクションのプロパティ、およびレイアウト・ページのプロパティを変更することで、このパスに表示される名前を変更できます。これらの値を変更するには、「Properties」ペイン (図 5-13) を使用します。

図 5-13 「Properties」ペイン



サイト・アドレスに使用されるパス名を変更するには、次の手順を実行します。

パスの名前	URL の値を変更する方法
パススペース・アドレスのサイト ID を変更する場合	<p>サイト ID の値を上書きするには、サイト階層のルートの URL ディレクトリ名を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「Site Hierarchy」 ペインを表示します。 ■ サイトのルートをクリックします。 ■ 「Properties」 ペインを表示します。 ■ 「URL Directory Name」 に新しい値を入力します。
セクションの名前を変更する場合	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「Site Hierarchy」 ペインを表示します。 ■ 変更するセクションをクリックします。 ■ 「Properties」 ペインを表示します。 ■ 「URL Directory Name」 に新しい値を入力します。
プライマリ・ページの名前を変更する場合	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「Site Hierarchy」 ペインを表示します。 ■ 変更するレイアウト・ページをクリックします。 ■ 「Properties」 ペインを表示します。 ■ 「URL Page Name」 に新しい値を入力します。

セカンダリ・ページに使用される名前は、そのページに表示されるコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのコンテンツ ID (dDocName) です。必要に応じて、異なる値を指定できます。詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』を参照してください。URL ディレクトリ名を指定する場合、URL に影響を与えることなく何度でもセクションのラベルを変更できます。

5.3 プロジェクト・ファイル

新規 Web サイトを作成すると、Site Studio によりプロジェクト・ファイルが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされます。プロジェクト・ファイルには、サイト階層と、Web サイトに関する主な情報が格納されます。デザイナーでサイト階層を開いて編集する場合、常にプロジェクト・ファイルを編集することになります。

プロジェクト・ファイルを直接編集する必要はありませんが、プロジェクト・ファイルに影響を与える次のような手順を実行する可能性があります。

- 5-9 ページの「プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータの指定」
- 5-9 ページの「デザイナーでのプロジェクト・ステータスの表示」
- 5-10 ページの「プロジェクト・ファイルに対する変更のコミット」
- 5-10 ページの「プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示」

5.3.1 プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータの指定

Web サイトを最初に作成すると (5-2 ページの「[新規サイト接続の作成](#)」を参照)、Site Studio によりプロジェクト・ファイルが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされます。他のコンテンツ・アイテムと同様に、このファイルに割り当てる必要のあるメタデータ値が存在します。

コンテンツ・サーバーの「Set Project Default Document Information」ページを使用して、すべての新規プロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータを指定できます。





新規プロジェクト・ファイルのメタデータを指定するには、次の手順を実行します。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインし、「**Administration**」をクリックします。
2. 「**Site Studio Administration**」をクリックして「Site Studio Administration」ページを表示します。
3. 「**Set Project Default Document Information**」をクリックして、「Set Project Default Document Information」ページを表示します (A-100 ページの「[Set Project Default Document Information](#) ページ」を参照)。
4. Site Studio プロジェクト・ファイルに使用するメタデータを選択します。
5. 「**Update**」をクリックします。

5.3.2 デザイナでのプロジェクト・ステータスの表示

デザイナーでの作業時に、右下隅にプロジェクト・ステータス・アイコンが表示されます。このアイコンにより、コンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルに接続しているかどうかと、サイト階層とプロジェクト・ファイルが相互に同期しているかどうかわかります。

次に、デザイナーのプロジェクト・ステータス領域に表示される各アイコンの概要を示します。

アイコン	定義
	現在のサイト階層はコンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルと一致しています。
	現在のサイト階層はコンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルと一致していません。これを解決するには、5-20 ページの「 デザイナーでのサイト階層のリフレッシュ 」を参照してください。
	最新のステータスを確認できません。コンテンツ・サーバーが停止しているか、ネットワーク接続が失われました。これを解決するには、ネットワーク接続またはコンテンツ・サーバーを実行しているマシンをトラブルシューティングします。
	デザイナーが Web サイトに接続されていません。これを解決するには、Web サイトに再接続します (5-2 ページの「 サイト接続 」を参照)。

5.3.3 プロジェクト・ファイルに対する変更のコミット

デザイナーでサイト階層に加えた変更は、コンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルの内容に影響します。Site Studio では、10 分ごとにプロジェクト・ファイルの新規リビジョンが自動的にチェックインされます。このスケジュール間隔より早くプロジェクト・ファイルに対して変更をコミットする場合、次のようにします。

プロジェクト・ファイルに対してサイト階層の変更をコミットするには、次の手順を実行します。

1. デザイナーで、「File」→「Site」→「Advanced」→「Commit Project Changes」を選択します。
2. 確認メッセージに対して「OK」をクリックします。

注意：プロジェクト・ファイルは、Site Studio により一定の方法で管理されるため、コンテンツ・サーバーとの接続が途絶えるか、サーバーが一時的に停止しても、サイト階層の変更が失われることはありません。

5.3.4 プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示

デザイナーでは、プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページをいつでも参照できます。コンテンツ・サーバーにあるプロジェクト・ファイルの詳細の参照、メタデータの更新、ファイルのダウンロードなどの際に、コンテンツ情報ページを表示すると便利です。

プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページを表示するには、デザイナーで「File」→「Site」→「Advanced」→「View Project DOC_INFO」を選択します。

これにより、コンテンツ・サーバーにあるプロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページが表示されます。

5.4 サイト階層

サイト階層は、サイト構造の構成要素となる個々のセクションと Web ページの集合です。フォルダ階層のフォルダと同様に、サイト階層のセクションは、関連情報を格納するのに使用されます。サイト階層は、すべてのセクションを最上位に配置してフラットな階層にすることも、多くのセクションを他のセクション内に配置して深い階層にすることもできます。

設計者はサイト階層を使用して Web サイトのコンテンツを編成および分類しますが、Site Studio はサイト階層を使用して多くの内部タスクを実行します（ナビゲーション・リンクの生成やレイアウト・ページの編成など）。

サイト・ナビゲーション：サイト階層は、サイト・ナビゲーション全体の基盤となります。Site Studio では、サイト階層を読み取り、各セクションをリンクに変換します。この処理は、ナビゲーション・フラグメントの使用時に確認できます（B-2 ページの「ナビゲーション・フラグメント」を参照）。サイト階層に Products、Services、Contact Us というセクションがある場合、これらの名前はユーザーがクリック可能なナビゲーション・メニューに表示されます。

レイアウト・ページ：サイト階層は、レイアウト・ページにコンテンツ（コントリビューター・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、フラグメントなど）を表示する場合にも使用されます。Web サイトのセクションには、多くの Web ページを作成せず、1つのプライマリ・ページと1つのセカンダリ・ページのみを作成します。設計者によるサイト階層の編成に応じて、Site Studio によりプライマリ・ページまたはセカンダリ・ページでコンテンツが構成されます。

サイト階層では、一般的に次のタスクを実行します。

- 5-11 ページの「[サイト階層へのセクションの追加](#)」
- 5-12 ページの「[サイト階層のセクション名の変更](#)」
- 5-12 ページの「[サイト階層のセクションの並替え](#)」
- 5-13 ページの「[サイト階層からのセクションの削除](#)」
- 5-13 ページの「[サイト・ナビゲーションへのセクションの表示](#)」
- 5-14 ページの「[エラー・ハンドラ・セクションの指定](#)」
- 5-15 ページの「[サイトまたはセクションのセキュリティの変更](#)」
- 5-16 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」
- 5-18 ページの「[セクションのカスタム・プロパティの定義](#)」
- 5-19 ページの「[サイト階層の展開と縮小](#)」
- 5-20 ページの「[デザイナーでのサイト階層のリフレッシュ](#)」

これらのサイト階層タスクの多くは、マネージャ・アプリケーションを有効化することでサイト・マネージャに委任できます（[第 15 章「マネージャの設定」](#)を参照）。

5.4.1 サイト階層へのセクションの追加

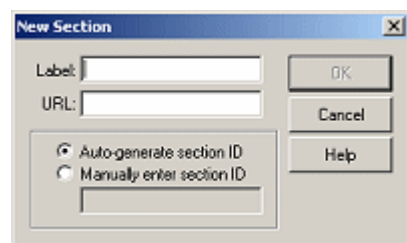
デザイナーの「Site Hierarchy」ペインを使用して、Web サイトにセクションを追加できます。

セクションを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、Web サイトを右クリックし、「**Add New Section**」を選択します。

これにより、「New Section」ダイアログ・ボックス（[図 5-14](#)）が表示されます。詳細は、[A-23 ページの「New Section」ダイアログ・ボックス](#)を参照してください。

図 5-14 「New Section」ダイアログ・ボックス



2. 「**Label**」に値を入力します。このラベルは、「Site Hierarchy」ペインとサイトのナビゲーション・メニューに表示されます。
3. 「**URL**」に値を入力します。この URL は、サイト・アドレスと、このセクションを宛先とするすべての（パスベースの）リンクで使用されます。

注意： Site Studio により、空白または特殊文字を含まない値が自動的に挿入されます。

4. このセクションの識別方法を選択します。セクション ID（ノード ID とも呼ばれる）は、このセクションを宛先とするすべての（ID ベースの）リンクで使用されます。
 - 「**Auto-generate section ID**」を選択すると、Site Studio により ID が自動的に生成されます。
 - 「**Manually enter section ID**」を選択すると、セクションに対応する独自の ID を指定できます。付属のボックスに独自の ID を入力してください。

重要：セクション ID は、コンテンツ・サーバー内で一意である必要があります。

5. 「**OK**」をクリックしてこのダイアログ・ボックスを閉じ、サイト階層に戻ります。

（ナビゲーション・フラグメントにより生成される）サイトのナビゲーション・メニューに新規セクションを表示するには、5-13 ページの「[サイト・ナビゲーションへのセクションの表示](#)」を参照してください。

サブセクション（セクション内のセクション）を追加するには、サイト階層で既存のセクションを右クリックし、「**Add New Section**」を選択します。

5.4.2 サイト階層のセクション名の変更

「Site Hierarchy」ペインを使用して、セクション名を変更できます。ID、URL、セキュリティなどの他の値は、「Properties」ペインを使用して編集できます（5-16 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」を参照）。

サイト階層のセクション名を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクションを右クリックし、「**Rename Section**」を選択します。
2. 新しいセクション名を入力し、キーボードの **[Enter]** を押すか、「Site Hierarchy」ペインの任意の場所をクリックします。
3. 変更を即座に反映するためにサイトのナビゲーションを更新するには、サイト・ツールバーの「**Update Navigation**」アイコン（[図 5-15](#)）をクリックします。ナビゲーションを更新しないと、サイトのプレビュー時に更新するよう求められます。

図 5-15 「Update Navigation」アイコン



5.4.3 サイト階層のセクションの並替え

サイト階層に表示されるセクションの順序を変更できます。この順序は、サイトにおけるサイト・ナビゲーションの表示順序に影響します。これを行うには、デザイナーの「Site Hierarchy」ペインで、右クリックしてドラッグ・アンド・ドロップするマウス操作を使用します。

サイト階層の新しい場所にセクションを移動するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクションを右クリックします。マウス・ボタンを押したまま、そのセクションをサイト階層の新しい場所にドラッグし、ボタンを離します。
2. 表示されるポップアップ・メニューで、「**Move Before**」、「**Move After**」または「**Move Into**」をクリックし、マウス・ボタンを離したときにハイライト表示されているセクションの前、後または内部にセクションを移動します。
3. 移動の警告メッセージに対して「**OK**」をクリックします。

左マウス・ボタンのドラッグ・アンド・ドロップを使用すると、前述の「**Move Into**」と同じ操作になります。

セクションの新しい順序は、ナビゲーションを更新するとすぐに Web サイト・ナビゲーションに表示されます。レイアウト・ページをプレビューすると、ナビゲーション・ファイルを更新

するよう求められます。このファイルは、サイト・ツールバーの「Update Navigation」アイコン (図 5-16) をクリックして手動で更新することもできます。

図 5-16 「Update Navigation」アイコン



5.4.4 サイト階層からのセクションの削除

デザイナーの「Site Hierarchy」ペインを使用して、Web サイトからセクションを削除できます。セクションを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、削除するセクションを右クリックし、「Delete Section」をクリックします。
2. 「OK」をクリックして削除を確認します。

このセクションがサイト・ナビゲーションに含まれる場合、ナビゲーションの更新時にリンクも Web サイトから削除されます。レイアウト・ページをプレビューすると、ナビゲーション・ファイルを更新するよう求められます。このファイルは、サイト・ツールバーの「Update Navigation」アイコン (図 5-17) をクリックして手動で更新することもできます。

図 5-17 「Update Navigation」アイコン



5.4.5 サイト・ナビゲーションへのセクションの表示

Site Studio では、サイト階層の各セクションをサイトのナビゲーション・メニューのハイパーリンクに変換します (ナビゲーション・メニューはナビゲーション・フラグメントにより作成されます)。この処理は、サイト・ナビゲーションにセクションを含めると自動的に行われます。

デフォルトでは、新規セクションはサイト・ナビゲーションに含まれないため、Web サイトにリンクとして自動的に追加されません。「Site Hierarchy」ペインで、オープン・フォルダ・アイコン (図 5-18) 付きのセクションはサイト・ナビゲーションに含まれておらず、アクティブ・フォルダ・アイコン (図 5-19) 付きのセクションはサイト・ナビゲーションに含まれています。

図 5-18 オープン・フォルダ・アイコン



図 5-19 アクティブ・フォルダ・アイコン



サイト・ナビゲーションにセクションを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクションを右クリックし、「Include Section in Navigation」をクリックします。
2. サイト・ツールバーの「Update Navigation」アイコン (図 5-20) をクリックし、このセクションへのリンクをサイト・ナビゲーションに追加します。

図 5-20 「Update Navigation」アイコン



サイト・ナビゲーションは、レイアウト・ページのプレビュー時に、`navigation.js` ファイルを再生成するようプロンプトが表示されたときに「Yes」をクリックしても更新できます。

サイト・ナビゲーションにセクションを含めるかどうかは、「Properties」ペインでも指定できます (5-16 ページの「Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集」を参照)。

ツールボックスの一部のナビゲーション・フラグメントは、階層の第2または第3レベルのセクションのみを表示するように設計されています (たとえば、B-6 ページの「垂直方向のナビゲーション・プレーン」を参照)。階層に第2または第3のレベルがない状態でこれらのフラグメントのいずれかを使用すると、ナビゲーション・メニューにセクションが表示されない可能性があります。

サイト・ナビゲーションにセクションを表示しない理由

いくつかの理由から、サイト・ナビゲーションにセクションを含めないこともあります。次に、その例を示します。

- **サイトに検索機能を追加する場合**、レイアウト・ページに検索ボックスを追加し (B-7 ページの「検索ボックス・プレーン」を参照)、検索結果を表示するためのレイアウト・ページを指定する必要があります (B-8 ページの「検索結果プレーン」を参照)。検索結果ページは、サイト・ナビゲーションに含まれていないセクションに存在する必要があります。含まれていると、ユーザーはサイト・ナビゲーションのリンクをクリックして直接検索結果ページに移動できることとなりますが、その場合、検索結果ページには何も表示されません。
- **カスタム・エラー・ページを作成する場合**、サイト階層内にカスタム・エラー・ハンドラとして機能するセクションを作成します (5-14 ページの「エラー・ハンドラ・セクションの指定」を参照)。次に、そのセクション内にカスタム・エラー・メッセージを表示するレイアウト・ページを作成します。このセクションは、サイト・ナビゲーションに含まれないようにします。含まれていると、ユーザーはサイト・ナビゲーションのリンクをクリックして直接カスタム・エラー・ページに移動できることとなりますが、その場合、カスタム・エラー・ページはユーザーにとって意味を持ちません。
- **新しい機能またはレイアウト・ページを導入する場合**、他のユーザーが未完成の作業を参照することのないように、これらの機能やページはサイト・ナビゲーションに含まれていないセクションに配置できます。機能やレイアウト・ページの準備が完了するまでテストを繰り返すことができます。その後、サイト・ナビゲーションにそのセクションを含めるか、ナビゲーションにすでに含まれているセクションにレイアウト・ページを追加できます。

サイト・ナビゲーションにセクションを含めない方法のかわりとして、セクションがコントリビューション・モードでのみ表示されるように、コントリビュータ専用セクションを作成できます (8-8 ページの「コントリビュータ専用セクションの指定」を参照)。

5.4.6 エラー・ハンドラ・セクションの指定

コンテンツ・サーバーにより生成されたエラー・メッセージが、サイトの訪問者またはコントリビュータに表示されることがあります。

たとえば、コントリビュータ・データ・ファイルの格納先となるセクションにセカンダリ・レイアウト・ページが存在しない場合、セカンダリ・ページが見つからないというメッセージが表示される可能性があります。または、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントがサイトから削除されたにもかかわらず、まだサイトの他の部分からリンクされている場合、ファイルが欠落しているというメッセージが表示される可能性があります。

このようなエラーが表示されないように、任意のセクションをエラー・ハンドラとして指定し、そのセクションにカスタム・エラー・ページ (レイアウト・ページ) を作成できます。

セクションをエラー・ハンドラとして指定するには、次の手順を実行します。

1. Web サイトに新規セクションを追加します (5-11 ページの「[サイト階層へのセクションの追加](#)」を参照)。

注意： 使用するラベルは、サイトのどこにも表示されません。

2. セクションを右クリックし、「**Set Section as Error Handler**」を選択します。
セクションのアイコンが、感嘆符付きで赤く表示されます (図 5-21)。

図 5-21 エラー・ハンドラ・セクション・アイコン



3. セクションを再度右クリックして「**Select Primary Page**」を選択し、セクションにレイアウト・ページを追加する手順を実行します (5-23 ページの「[サイト階層へのプライマリ・ページの追加](#)」を参照)。
4. レイアウト・ページで、カスタム・エラー・メッセージを作成するか、ツールボックスに付属するサンプル・フラグメントを使用します (B-27 ページの「[エラー・ハンドラ・メッセージ](#)」を参照)。

セクションをエラー・ハンドラとして指定する場合、そのセクションはサイト・ナビゲーションに含めません。

5.4.7 サイトまたはセクションのセキュリティの変更

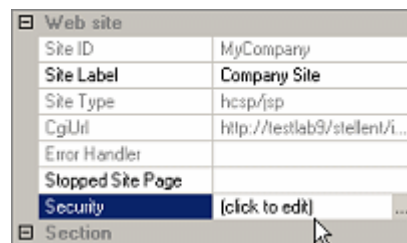
必要に応じて、特定のセクションまたはサイト全体のセキュリティを変更できます。サイトのセキュリティでは、コンテンツ・サーバーのセキュリティ・モデルを使用します。

この操作は、サイト階層へのアクセスを許可する組織内のユーザーを指定し、権限のないユーザーによるサイト階層の変更を禁止する場合に便利です。

セクションまたはサイトのセキュリティを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、サイトのルートまたはサイトの任意のセクションを選択します。
2. 「Properties」ペインを表示します。
3. 「Security」プロパティをクリックします (図 5-22)。

図 5-22 「Security」プロパティ



4. 「Additional Information」アイコン (図 5-23) をクリックして「Content Server」ダイアログ (図 5-24) を表示します。

図 5-23 「Additional Information」アイコン



図 5-24 「Content Server」ダイアログ



5. 「Security Group」メニューで、サイトまたはセクションに割り当てるグループを選択します。
6. 「Account」フィールドで、サイトまたはセクションのアカウントを指定します。
7. 「OK」をクリックします。

この手順が完了すると、サイト階層の変更権限のないユーザー（通常は設計者）は、サイトを変更できなくなります。

5.4.8 Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集

「Properties」ペインを使用すると、サイトおよび各セクションのすべてのプロパティを表示することや、特定のプロパティを変更することができます。これは、サイト階層を管理および編集する場合に便利です。

サイト・プロパティまたはサイトのセクション・プロパティを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、サイトのルートまたはサイトの適切なセクションを選択します。
2. 「Properties」ペインを開き、サイトおよび各セクションに関連するプロパティを表示します。

グレー表示されているプロパティは、「Properties」ペインでは変更できません。他のすべてのプロパティは、直接変更できます。各プロパティの値は変化する可能性があります。

Web サイト

プロパティ	定義
Site ID	サイトの ID。これは、コンテンツ・サーバーにおけるサイトの一意の識別子です。フォルダベース・アドレスを使用してサイトにアクセスする場合、この値はサイト・アドレスにも表示されます。
Site Label	Web サイトの名前（わかりやすい説明）。サイト・ラベルは、デザイナーと、コンテンツ・サーバーの「Websites」メニューに表示されます。
Site Type	サイトのスクリプト形式（HCSP/JSP または ASP）。
CgiUrl	サイトをホストするコンテンツ・サーバーの CGI URL アドレス。
Error Handler	サイトのエラー・ハンドラとして機能するセクションの名前（5-14 ページの「 エラー・ハンドラ・セクションの指定 」を参照）。
Stopped Site Page	サイトが停止したときに表示されるページ（5-44 ページの「 Web サイトの開始と停止 」を参照）。
Security	サイトのセキュリティを制御します（5-15 ページの「 サイトまたはセクションのセキュリティの変更 」を参照）。

注意：「Site ID」の値は、選択したサイトのルートで「URL Directory Name」の値を入力することにより上書きできます。これにより、フォルダベースのサイト・アドレスに表示される名前を変更できます。

セクション

プロパティ	定義
Section ID	セクションの ID（ノード ID とも呼ばれる）。これは、Site Studio がサイトのセクションを呼び出す際に使用されます。
Label	セクションに選択した名前。これは、「Site Hierarchy」ペインとサイト・ナビゲーションに表示されます。
Include in Navigation	「True」に設定すると、セクションはサイト・ナビゲーションに表示されます。「False」に設定すると、セクションはサイト・ナビゲーションに表示されません。5-13 ページの「 サイト・ナビゲーションへのセクションの表示 」を参照してください。
URL Page Name	このセクションのプライマリ・ページを示す URL。名前を指定しないと、index.htm が使用されます（5-7 ページの「 サイト・アドレスに使用されるパスの変更 」を参照）。
URL Directory Name	このセクションを示す Web サイト・アドレスの URL（5-7 ページの「 サイト・アドレスに使用されるパスの変更 」を参照）。
Primary Page	このセクションに関連付けられたプライマリ・ページ。
Primary Page Params	プライマリ・ページにコントリビューション・リージョンが含まれる場合、そのリージョンの名前と、そのリージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルがここに表示されます。
Secondary Page	このセクションに関連付けられたセカンダリ・ページ。
Secondary Page Params	セカンダリ・ページにコントリビューション・リージョンが含まれる場合、そのリージョンの名前と、そのリージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルがここに表示されます。
Replaceable Region	レイアウト・ページに置換可能なリージョンが含まれる場合、そのリージョンの名前がここに表示されます。

プロパティ	定義
Contributor-Only Section	「True」に設定すると、セクションは、Web ページをコントリビューション・モードで参照したときのみサイト・ナビゲーションに表示されます。「False」に設定すると、セクションは常にサイトに表示されます。(8-8 ページの「 コントリビュータ専用セクションの指定 」を参照してください。)
Max Age (caching)	ページをキャッシュする最大時間を指定します。 このオプションは、サイトにリバース・プロキシ・キャッシュを設定する場合に便利です。
Security	セクションのセキュリティを制御します (5-15 ページの「 サイトまたはセクションのセキュリティの変更 」を参照)。

注意：セカンダリ・ページに使用される名前（「URL Page Name」と同等）は、そのページに表示されるデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのコンテンツ ID (dDocName) から導出されます。この値の変更方法の詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』を参照してください。

カスタム・セクション・プロパティ

サイト階層に1つ以上のカスタム・セクション・プロパティを作成した場合、この第3のプロパティ・カテゴリが表示されます。カスタム・セクション・プロパティを作成すると、サイト階層のセクションごとに一意の値を指定し、レイアウト・ページおよびフラグメントでそのプロパティを参照できます。(5-18 ページの「[セクションのカスタム・プロパティの定義](#)」を参照してください。)

5.4.9 セクションのカスタム・プロパティの定義

サイト階層の各セクションには、ラベル、そのセクションに関連付けられたレイアウト・ページの名前、セキュリティなど、様々なプロパティが含まれます (5-16 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」を参照)。

これらの値とは別に、サイト階層のセクションごとにカスタム・プロパティを定義し、それらの値を読み取って実行するように Web サイトを変更できます。これは、サイト階層の特定のセクションの外観と動作をカスタマイズする場合に特に便利です (ナビゲーション・フラグメントでセクションのハイパーリンクを表示する方法を変更する場合など)。

カスタム・セクション・プロパティを定義するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの「Custom Section Properties」アイコン (図 5-25) をクリックするか、「Tools」→「Define Custom Section Properties」を選択します。

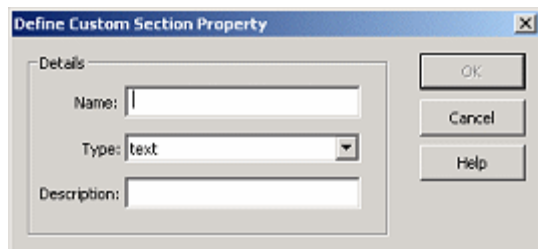
図 5-25 「Custom Properties」アイコン



2. 「Define Custom Section Properties」ダイアログ・ボックスで（A-24 ページの「[「Define Custom Section Properties」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）、**「Add」** をクリックします。

「Define Custom Section Property」ダイアログ・ボックスが表示されます（[図 5-26](#)）。詳細は、A-25 ページの「[「Define Custom Section Property」ダイアログ・ボックス](#)」を参照してください。

図 5-26 「Define Custom Section Property」ダイアログ



3. **「Name」** フィールドに名前を入力します。この名前は、サイト階層でセクションを選択したときに「Properties」ペインに表示されます。
4. **「Type」** の値を選択します。これにより、実行されるアクションが決定されます（各タイプの詳細は、A-25 ページの「[「Define Custom Section Property」ダイアログ・ボックス](#)」を参照してください）。
5. **「Description」** フィールドに説明を入力します（オプション）。これは、「Properties」ペインの一番下の説明領域に表示されます。
6. **「OK」** を 2 回クリックして各ダイアログ・ボックスを閉じ、デザイナーに戻ります。

カスタム・プロパティは、サイト階層の各セクションの「Properties」ペインに表示されます（5-16 ページの「[Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集](#)」を参照）。

カスタム・セクション・プロパティを定義したら、サイト階層を移動して各セクションの値を入力する必要があります。次に、フラグメントまたはレイアウト・ページに必要なコードを挿入し、追加したカスタム・プロパティを読み取って実行します（使用例は、B-13 ページの「[CSP サンプル・ナビゲーション \(クライアント\)](#)」を参照してください）。

5.4.10 サイト階層の展開と縮小

「Site Hierarchy」ペインのサイト階層は、すべてのセクションおよびレイアウト・ページを一度に表示するために展開することや、ビューに表示しないために縮小することができます。これを行うには、デザイナーのツールバーを使用します。

サイト階層を展開および縮小するには、次の手順を実行します。

- サイト階層を展開するには、ツールバーの「Expand Site Hierarchy」アイコン（[図 5-27](#)）をクリックします。
- サイト階層を縮小するには、ツールバーの「Collapse Site Hierarchy」アイコン（[図 5-28](#)）をクリックします。

図 5-27 「Expand Site Hierarchy」アイコン



図 5-28 「Collapse Site Hierarchy」アイコン



5.4.11 デザイナでのサイト階層のリフレッシュ

デザイナで作業していると、サイト階層がコンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルとの同期を失うことがあります。同期を行って常に最新のプロジェクト・ファイルで作業するために、デザイナでサイト階層をリフレッシュできます。

デザイナでサイト階層をリフレッシュするには、次の手順を実行します。

- デザイナ・ツールバーの「Refresh」アイコン (図 5-29) をクリックします。

図 5-29 「Refresh」アイコン



- 「Site Hierarchy」ペインでサイトのルートをクリックし、「Refresh Site Hierarchy」を選択します。

デザイナの右下隅のアイコンが「Synchronized」アイコン (図 5-30) に変化し、サイト階層がプロジェクト・ファイルと同期していることが示されます (詳細は、5-9 ページの「デザイナでのプロジェクト・ステータスの表示」を参照してください)。

図 5-30 「Synchronized」アイコン



5.5 レイアウト・ページ

サイト階層にセクションを追加したら、各セクションにレイアウト・ページを追加できます。この作業から、Site Studio で Web サイトを構築および管理するためのまったく新しいアプローチが始まります。

サイト階層の各セクションに、数百または数千にも及ぶ大量の Web ページを割り当てるかわりに、1 つまたは 2 つのレイアウト・ページを追加します。レイアウト・ページは、これまで他の Web サイトで操作してきた一般的な Web ページとは異なります。レイアウト・ページは、複数のセクションで再利用できるテンプレートに似ており、後からサイトに追加される新規コンテンツでも再利用できます。レイアウト・ページには、プライマリ・ページとセカンダリ・ページという 2 つの種類があります。

プライマリ・ページは、Web サイトの各セクションのランディング・ページ (デフォルト・ページ) のように動作します。ユーザーがリンクをクリックして特定のセクション (Products など) に移動すると、そのセクションに関連付けられたプライマリ・ページが表示されます。

セカンダリ・ページは、コントリビュータによりサイトに追加される新規コンテンツの背景として機能します。新規コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの Web サイトへの追加をコントリビュータに許可する場合、セカンダリ・ページは必須です (どちらのファイルも新規 Web ページになります)。これらのファイルは、動的リスト、検索、またはハイパーリンクのターゲットにより選択されたときに、サイトで使用可能になります。

プライマリ・ページとセカンダリ・ページにより、Web サイトが成長するための真のスケラビリティが提供されます。少数のレイアウト・ページを設定するだけで、サイト全体のリンク・アンド・フィールを (そのサイトの規模にかかわらず) 管理できます。

レイアウト・ページを使用してサイト階層を構築する場合、次のタスクを実行します。

- 5-22 ページの「[サイト階層へのホームページの追加](#)」
- 5-23 ページの「[サイト階層へのプライマリ・ページの追加](#)」
- 5-25 ページの「[サイト階層へのセカンダリ・ページの追加](#)」
- 5-26 ページの「[サイト階層からのレイアウト・ページの削除](#)」
- 5-26 ページの「[レイアウト・ページのプロパティの表示](#)」
- 5-27 ページの「[レイアウト・ページのコンテンツ情報ページの表示](#)」
- 5-27 ページの「[Web サイト上のレイアウト・ページの表示](#)」
- 5-27 ページの「[レイアウト・ページのステージ](#)」

可能であれば、最初にプライマリ・ページのみでサイトを構築し、プライマリ・ページにコントリビューション・リージョンを設定して、コントリビュータがサイトに発行するコンテンツのタイプが正確にわかるまでセカンダリ・ページは使用せずにとっておきます。その後、そのコンテンツを処理するためにセカンダリ・ページを追加します (9-11 ページの「[置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定](#)」を参照)。

サイトのセクションごとに一意のレイアウト・ページを作成するか、サイトの複数のセクションで同じレイアウト・ファイルを再利用できます。どちらの方法にもメリットとデメリットがあります。

セクションでプライマリ・ページもセカンダリ・ページも使用しない唯一の場合は、「[Select Layout](#)」ダイアログ・ボックスで外部 URL を使用するように選択した場合です。このオプションでは、セクションにレイアウト・ページのかわりに別の Web サイトの URL が挿入されます。訪問者がこのセクションのリンクをクリックすると、指定された Web サイトに移動します。(このオプションは、パートナ・サイトまたは同じ組織内の部門レベルのサイトにリンクする場合に便利です。)

これらのレイアウト・ページ・タスクの多くは、マネージャ・アプリケーションを有効化することでサイト・マネージャに委任できます (第 15 章「[マネージャの設定](#)」を参照)。

注意：レイアウト・ページは、「[Site Hierarchy](#)」ペインにコンテンツ ID 別に表示されます。ただし、コンテンツ ID は、Web サイトまたは Web サイト URL のどこにも表示されません。

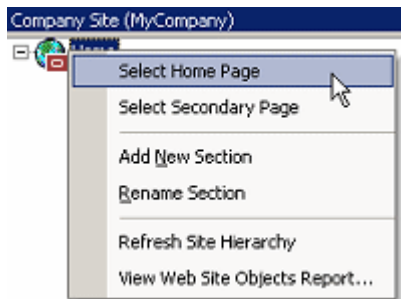
5.5.1 サイト階層へのホームページの追加

Web サイトのホームページは、エントリ・ポイントとして機能し、通常はサイトのメイン・セクションへのリンクを含みます。ホームページは、サイト階層にプライマリ・ページを追加するのと同じ方法で追加します。

サイト階層にホームページを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」 ペインで、Web サイトを右クリックし、ポップアップ・メニューから「Select Home Page」を選択します。

図 5-31 ポップアップ・メニューの「Select Home Page」オプション



2. 「Select (Home) Layout Page」ダイアログ・ボックスで (A-26 ページの「[Select \(Home\) Layout Page](#)」ダイアログ・ボックス) を参照)、ホームページの作成方法を選択します。

- **Create a new layout page:** 新規レイアウト・ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。ファイル拡張子として、「**hcsp**」、「**jsp**」または「**asp**」を選択します。

使用可能な拡張子は、サイトの作成時に選択したサイト・タイプに依存します。

- **Select existing layout page from the content server:** コンテンツ・サーバーの既存のレイアウト・ページがこのセクションに関連付けられます。メニューのレイアウト・ページを選択するか、「<Choose From Server>」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
- **Create a new layout from an existing one:** 別のレイアウト・ページに基づいて新規 HCSP、JSP または ASP ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、Web サイトに関連付けられます。新規レイアウト・ページの作成に使用するレイアウト・ページは、次の 2 つのソースから取得できます。
 - **stored in the content server:** コンテンツ・サーバーに格納されたレイアウト・ページが使用されます。レイアウト・ページが最近作成したものである場合、メニューからレイアウト・ページを選択します。メニューに存在しない場合、「<Choose From Server>」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
 - **stored on the file system:** ファイル・システムに格納されたレイアウト・ページが使用されます。このオプションは、ファイル・システムに (サード・パーティ・エディタなどを使用して) レイアウト・ページを作成しており、その設計をこのレイアウト・ページで使用する場合に便利です。ファイルには、適切なファイル拡張子 (hcsp、jsp または asp) が付けられている必要があります。

3. 同じレイアウト・ページを Web サイトのこのセクション以下のすべてのセクションで使用する場合、「**Apply recursively to all subsections**」ボックスを選択します。(これにより、サイト階層全体でレイアウト・ページを再利用する場合と同じアクションが実行されます。)

4. 「OK」をクリックして「Select Layout (Home Page)」ダイアログ・ボックスを閉じます。

ここまでの選択によっては、既存のレイアウト・ページを選択するか、新規レイアウト・ページにメタデータを割り当てるためのコンテンツ・サーバーの画面が表示されることがあります。

「Site Hierarchy」ペインで、新しいホームページが Web サイトのすぐ下に表示されます。

サイト階層のルートにセカンダリ・ページを追加し、コントリビュータにより追加される新規ファイルの背景として使用することも可能です (5-25 ページの「[サイト階層へのセカンダリ・ページの追加](#)」を参照)。

Site Studio により、ユーザーをこのページに誘導する Home という値が Web サイトに自動的に割り当てられます。この値を変更する場合、「Site Hierarchy」ペインで Web サイトを選択し、「Properties」ペインを開いて、「Label」に異なる値を入力します。

ホームページは、プライマリ・ページやセカンダリ・ページとは次の点で異なります。第 1 に、ホームページは、セクションではなくサイトのルートに関連付けられます。第 2 に、一部のナビゲーション・フラグメントのホームページ・リンクによる移動先は、他のレイアウト・ページではなくこのページです。第 3 に、コンテンツ・サーバーの「Websites」メニューによる移動先は、Web サイトのこのページです。

レイアウト・ページに割り当てる名前とメタデータ値 (コンテンツ ID、タイプ、タイトル、セキュリティ・グループなど) には細心の注意を払う必要があります。これにより、特にレイアウト・ページをサイト階層で再利用する場合に、レイアウト・ページの管理性が向上します。

注意： ホームページを作成すると、Site Studio により自動的に HCSP、JSP または ASP レイアウト・ページが生成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、Web サイトに関連付けられます。「Select Layout」ダイアログ・ボックスの「Create a new layout from an existing one stored on the file system」オプションを使用して) デザイナの外部でホームページを作成する場合、ファイルに HCSP、JSP または ASP ファイル拡張子が付けられていることを確認してください。

5.5.2 サイト階層へのプライマリ・ページの追加

サイト階層の各セクションには、そのセクションのデフォルト・ページ (ランディング・ページ) として機能するプライマリ・ページを含める必要があります。

プライマリ・ページを追加する場合、新規レイアウト・ページを作成するか、既存のレイアウト・ページを使用するか、または既存のレイアウト・ページに基づいて新規レイアウト・ページを作成することができます。

サイト階層にプライマリ・ページを追加するには、次の手順を実行します。

- 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクションを右クリックし、「Select Primary Page」を選択します。
- 「Select (Primary) Layout Page」ダイアログ・ボックスで (A-28 ページの「[Select \(Primary\) Layout Page](#)」ダイアログ・ボックス」を参照)、このセクションのプライマリ・ページの作成方法を選択します。
 - **Create a new layout page:** 新規レイアウト・ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。ファイル拡張子として、「**hcsp**」、「**jsp**」または「**asp**」を選択します。使用可能な拡張子は、サイトの作成時に選択したサイト・タイプに依存します。
 - **Select existing layout page from the content server:** コンテンツ・サーバーの既存のレイアウト・ページがこのセクションに関連付けられます。メニューのレイアウト・ページを選択するか、「<Choose From Server>」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。

- **Create a new layout from an existing one:** 別のレイアウト・ページに基づいて新規 HCSP、JSP または ASP ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。新規レイアウト・ページの作成に使用するレイアウト・ページは、次の 2 つのソースから取得できます。
 - **stored in the content server:** コンテンツ・サーバーに格納されたレイアウト・ページが使用されます。レイアウト・ページが最近作成したものである場合、メニューからレイアウト・ページを選択します。メニューに存在しない場合、「<Choose From Server>」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
 - **stored on the file system:** ファイル・システムに格納されたレイアウト・ページが使用されます。このオプションは、ファイル・システムに（サード・パーティ・エディタなどを使用して）レイアウト・ページを作成しており、その設計をこのレイアウト・ページで使用する場合に便利です。ファイルには、適切なファイル拡張子（hcsp、jsp または asp）が付けられている必要があります。
 - **Use an external URL:** レイアウト・ページのかわりに別の Web サイトの Web ページが使用されます。結果として、このセクションにアクセスした訪問者は、ここで指定された Web ページ URL に転送されます。（このオプションは、プライマリ・ページにのみ適用され、ホームページまたはセカンダリ・ページでは使用できません。）
3. 同じプライマリ・ページを Web サイトのこのセクション以下のすべてのセクションで使用する場合、「**Apply recursively to all subsections**」ボックスを選択します。（これにより、サイト階層全体でレイアウト・ページを再利用する場合と同じアクションが実行されます。）
 4. 「OK」をクリックして「**Select Layout (Primary Page)**」ダイアログ・ボックスを閉じます。

ここまでの選択によっては、既存のレイアウト・ページを選択するか、新規レイアウト・ページにメタデータを割り当てるためのコンテンツ・サーバーの画面が表示されることがあります。

デザイナーの「Site Hierarchy」ペインにプライマリ・ページが表示されます。

すべてのレイアウト・ページは、Web サイトで動作するためには、（作成中のサイトのタイプに応じて）HCSP、JSP または ASP ファイル拡張子を持ち、コンテンツ・サーバーにチェックインする必要があります。「Select Layout」ダイアログ・ボックスを使用すると、デザイナーによりこの処理が自動的に行われます。

レイアウト・ページに割り当てる名前とメタデータ値（コンテンツ ID、タイプ、タイトル、セキュリティ・グループなど）には細心の注意を払う必要があります。これにより、特にレイアウト・ページをサイト階層で再利用する場合に、レイアウト・ページの管理性が向上します。

5.5.3 サイト階層へのセカンダリ・ページの追加

サイト階層の各セクション（サイトのルートを含む）では、Web サイトへの新規ファイル（データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の追加をコントリビュータに許可する場合、セカンダリ・ページが必要です（9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照）。セカンダリ・ページは、コントリビュータによりサイトに追加される新規コンテンツの背景として機能します。

セカンダリ・ページを追加する場合、新規レイアウト・ページを作成するか、既存のレイアウト・ページを使用するか、または既存のレイアウト・ページに基づいて新規レイアウト・ページを作成することができます。

サイト階層にセカンダリ・ページを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なセクション（またはルート）を右クリックし、「**Select Secondary Page**」を選択します。
2. 「Select (Secondary) Layout Page」ダイアログ・ボックスで（A-30 ページの「[Select \(Secondary\) Layout Page](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）、このセクションのセカンダリ・ページの作成方法を選択します。
 - **Create a new layout page:** 新規レイアウト・ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。ファイル拡張子として、「**hcsp**」、「**jsp**」または「**asp**」を選択します。使用可能な拡張子は、サイトの作成時に選択したサイト・タイプに依存します。
 - **Select existing layout page from the content server:** コンテンツ・サーバーの既存のレイアウト・ページがこのセクションに関連付けられます。メニューのレイアウト・ページを選択するか、「**<Choose From Server>**」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
 - **Create a new layout from an existing one:** 別のレイアウト・ページに基づいて新規 HCSP、JSP または ASP ページが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされて、このセクションに関連付けられます。新規レイアウト・ページの作成に使用するレイアウト・ページは、次の 2 つのソースから取得できます。
 - **stored in the content server:** コンテンツ・サーバーに格納されたレイアウト・ページが使用されます。レイアウト・ページが最近作成したものである場合、メニューからレイアウト・ページを選択します。メニューに存在しない場合、「**<Choose From Server>**」を選択してこのダイアログ・ボックスの終了時にコンテンツ・サーバーで検索します。
 - **stored on the file system:** ファイル・システムに格納されたレイアウト・ページが使用されます。このオプションは、ファイル・システムに（サード・パーティ・エディタなどを使用して）レイアウト・ページを作成しており、その設計をこのレイアウト・ページで使用する場合に便利です。ファイルには、適切なファイル拡張子（**hcsp**、**jsp** または **asp**）が付けられている必要があります。
3. 同じセカンダリ・ページを Web サイトのこのセクション以下のすべてのセクションで使用する場合、「**Apply recursively to all subsections**」ボックスを選択します。（これにより、サイト階層全体でレイアウト・ページを再利用する場合と同じアクションが実行されます。）
4. 「**OK**」をクリックして「Select Layout (Secondary Page)」ダイアログ・ボックスを閉じます。

ここまでの選択によっては、既存のレイアウト・ページを選択するか、新規レイアウト・ページにメタデータを割り当てるためのコンテンツ・サーバーの画面が表示されることがあります。

デザイナーの「Site Hierarchy」ペインにセカンダリ・ページが表示されます。

セカンダリ・ページは、コントリビュータによりサイトに追加される新規ファイルの背景として機能します。レイアウト・ページは、サイトに追加される各新規データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントで再利用されるため、それぞれのセクションに複数の Web ページを作成する必要はなく、かわりに 1 つのプライマリ・ページと 1 つのセカンダリ・ページを作成すれば済みます。9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照してください。

既存のレイアウト・ページから新規レイアウトを作成するオプションは、新規セカンダリ・ページを作成する場合には特に便利です。同じセクションのプライマリ・ページのルック・アンド・フィールを再作成することなく、プライマリ・ページを基盤としてセカンダリ・ページのルック・アンド・フィールを生成できます。その後、セカンダリ・ページを開き、リージョン・コンテンツを割り当て、いずれかのリージョンを置換え可能なリージョンとして指定します。

すべてのレイアウト・ページは、Web サイトで動作するためには、(作成中のサイトのタイプに応じて) HCSP、JSP または ASP ファイル拡張子を持ち、コンテンツ・サーバーにチェックインする必要があります。「Select Layout」ダイアログ・ボックスを使用すると、デザイナーによりこの処理が自動的に行われます。

レイアウト・ページに割り当てる名前とメタデータ値 (コンテンツ ID、タイプ、タイトル、セキュリティ・グループなど) には細心の注意を払う必要があります。これにより、特にレイアウト・ページをサイト階層で再利用する場合に、レイアウト・ページの管理性が向上します。

5.5.4 サイト階層からのレイアウト・ページの削除

「Site Hierarchy」ペインの右クリック・メニューを使用して、レイアウト・ページを削除できます。あるセクションからレイアウト・ページを削除しても、そのレイアウト・ページが使用されている他のセクションからは削除されません。また、サイト階層のすべてのセクションからレイアウト・ページを削除しても、コンテンツ・サーバーからは削除されません。

サイト階層のセクションからレイアウト・ページを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、レイアウト・ページを右クリックし、「Delete」を選択します。
2. 「OK」をクリックして削除を確認します。

5.5.5 レイアウト・ページのプロパティの表示

「Properties」ペインを使用して、レイアウト・ページのプロパティを表示できます。コンテンツ・サーバーのレイアウト・ページに割り当てられた実際のメタデータ値を確認する場合に、プロパティを参照すると便利です。

レイアウト・ページのプロパティを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、適切なプライマリまたはセカンダリ・レイアウト・ページを選択します。
2. 「Properties」ペインを開き、プロパティのリストを下にスクロールします。(「Properties」ペインが表示されていない場合、「View」→「Properties」を選択します。)
3. 「Primary Page」または「Secondary Page」で、ドキュメント名 (dDocName)、タイトル (dDocTitle) およびタイプ (dDocType) のプロパティに加え、他の多くのメタデータ値を参照できます。

レイアウト・ページに割り当てられたメタデータを更新する方法の詳細は、5-27 ページの「レイアウト・ページのコンテンツ情報ページの表示」を参照してください。

セクションと Web サイトのプロパティを表示および編集する方法の詳細は、5-16 ページの「Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集」を参照してください。

5.5.6 レイアウト・ページのコンテンツ情報ページの表示

必要に応じて、レイアウト・ページのコンテンツ情報ページを参照できます。このページでは、コンテンツ・サーバーに含まれる機能を使用して、メタデータの更新、電子メールによるファイル・リンクの送信、メール配信のサブスクライブなどを実行できます。

コンテンツ情報ページは、「Site Hierarchy」ペインを使用して表示できます。

レイアウト・ページのメタデータを更新するには、「Site Hierarchy」ペインで適切なレイアウト・ページを右クリックし、「View Document Info」を選択します。

5.5.7 Web サイト上のレイアウト・ページの表示

サイト階層でセクションやレイアウト・ページを編成していると、Web サイトが Web ブラウザにどのように表示されるかを確認したいときがあります。これを行うには、デザイナーの「View pages」機能を使用します。

Web サイト上のレイアウト・ページを表示するには、次の手順を実行します。

- 「Site Hierarchy」ペインで適切なレイアウト・ページを選択し、サイト・ツールバーのブラウザ・プレビュー・アイコン (図 5-32) をクリックします。

図 5-32 ブラウザ・プレビュー・アイコン



- 「Site Hierarchy」ペインで適切なレイアウト・ページを右クリックし、「View in Browser」を選択します。

レイアウト・ページの表示に加え、アイコンの横のメニューを使用すると、「Content Server Administration」ページや「Site Studio Administration」ページ (A-94 ページの「Site Studio Administration」ページ) を参照)などを迅速かつ簡単に表示できます。

レイアウト・ページの保存済のバージョンや未保存のバージョンをプレビューするには、レイアウト・ページ・ウィンドウの一番下の「Preview」タブを使用します (6-6 ページの「Preview」を参照)。

5.5.8 レイアウト・ページのステージ

レイアウト・ページは、一般的に3つのステージで構成されます。初めに、比較的単純なコンテンツをレイアウト・ページに直接追加します。このコンテンツは、Web ページの背景 (HTML 表、背景色、グラフィックなど) として機能します。

次に、機能または操作 (ナビゲーション・メニュー、ブレッドクラム、企業ロゴなど) の基本的なパッケージであるフラグメントを追加します。

最後に、コントリビューション・リージョンを追加し、各コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションを使用して独自にサイトを更新できるように各リージョンにコンテンツを割り当てます。

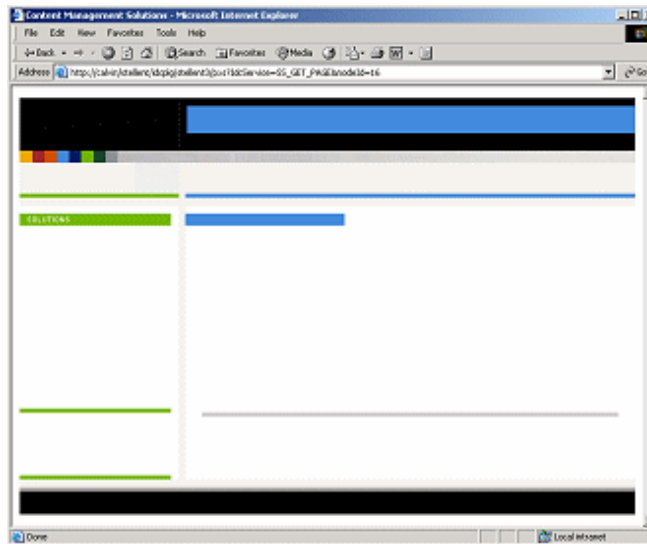
次に、例としてインターネット Web サイトを使用し、これらの各フェーズについて説明します。

- 5-28 ページの「レイアウト・ページへのコンテンツの直接追加」
- 5-28 ページの「レイアウト・ページへのフラグメントの追加」
- 5-29 ページの「レイアウト・ページへのコントリビューション・リージョンの追加」

5.5.8.1 レイアウト・ページへのコンテンツの直接追加

サイトの基本となるルック・アンド・フィールを作成する場合、通常、HTML 表と背景色、グラフィック、テキストを組み合わせ、レイアウト・ページに直接追加することから始めます。これらの情報は、静的であり、サイト全体を通じて同じ場所に配置されます。第6章「レイアウト・ページ的设计」を参照してください。

図 5-33 背景情報が含まれた初期レイアウト・ページ的设计

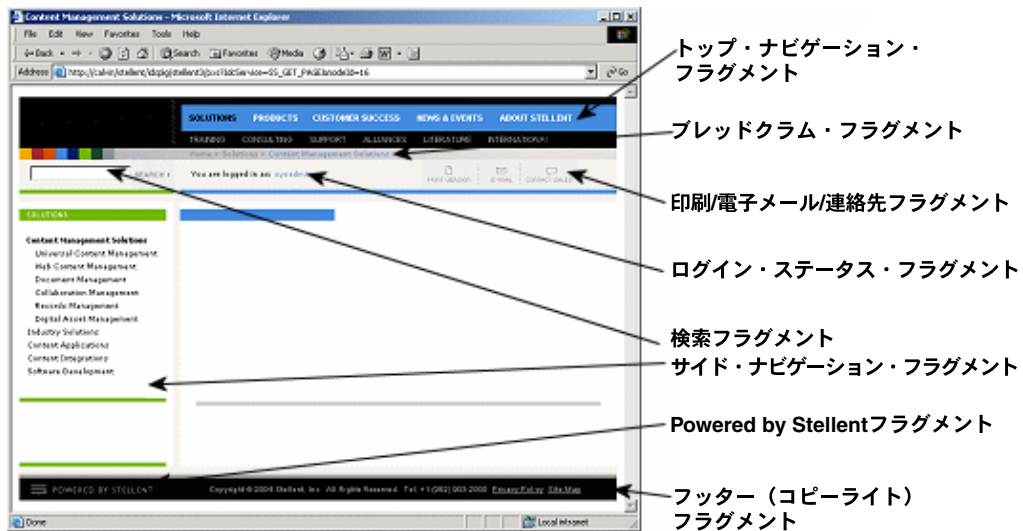


背景の表、色およびグラフィックを含むレイアウト・ページ

5.5.8.2 レイアウト・ページへのフラグメントの追加

次の手順では、サイト・ナビゲーション（メニュー、ブレッドクラム、検索など）とその他の便利な機能を追加します。これらの機能は、フラグメントとして作成し、レイアウト・ページに追加できます。これらの機能は、フラグメントとして、レイアウト・ページとは別に管理できます。第7章「フラグメントの操作」を参照してください。

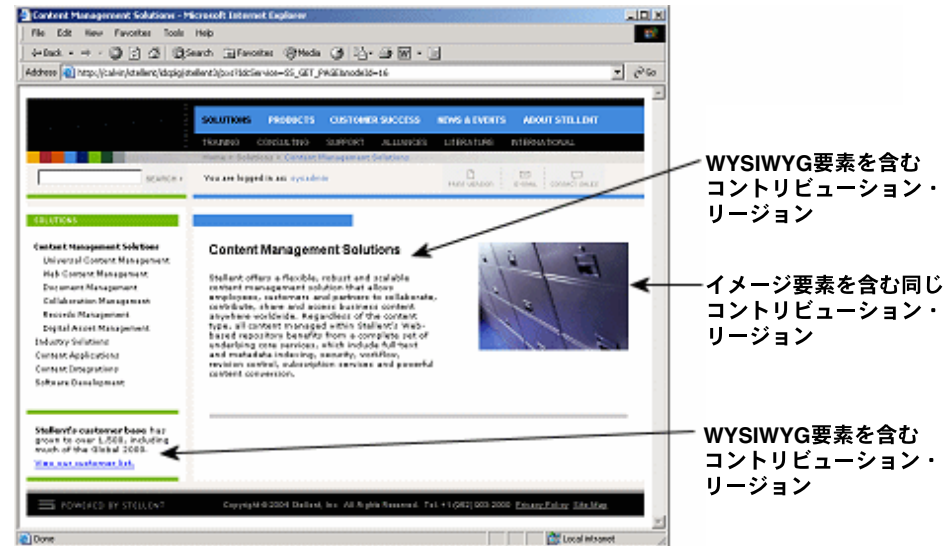
図 5-34 フラグメントが含まれたレイアウト・ページ



5.5.8.3 レイアウト・ページへのコントリビューション・リージョンの追加

次の手順では、コントリビューション用の領域を指定します。この領域では、各コントリビューターが Web サイトの Web ページを編集できます。一般的に、コントリビューション・リージョンは、レイアウト・ページのボディに追加するか、コントリビューターがサイトを更新できる大きな領域に追加します。第 8 章「コントリビューションの設定」を参照してください。

図 5-35 コントリビューション・リージョンが含まれたレイアウト・ページ



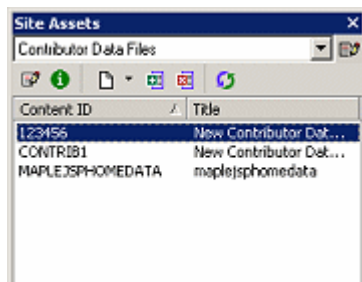
コントリビューター・データ・ファイルとコントリビューター・アプリケーションを使用する場合、コントリビューション・リージョンに1つ以上の要素を追加します。ネイティブ・ドキュメントを使用する場合、コントリビューション・リージョンにネイティブ・ドキュメントを割り当てます。各コントリビューターは、関連付けられたアプリケーションを使用してそのドキュメントを編集します。

コントリビューション・リージョンのより高度な使用方法では、動的または静的リスト・フラグメントをコントリビューション・リージョンに追加します。これにより、各コントリビューターは、ファイルのリストを編集することや、要素の新しい行および列をリストに追加することができます。

5.6 サイト・アセット

サイト・アセットは、Web サイトによって使用されるファイルです。レイアウト・ページ、ネイティブ・ドキュメント、グラフィック、CSS およびスクリプトは、すべて一般的に使用されるサイト・アセットです。サイト・アセットは、デザイナーの「Site Assets」ペインを使用して追加、編集および整理できます。

図 5-36 デザイナーの「Site Assets」ペイン



「Site Assets」ペインは、Web サイトで使用される様々なファイルを追跡し、表示や編集のためにそれらのファイルに迅速かつ簡単にアクセスする際に役立ちます。ファイルをサイトの一部として宣言し、それらのファイルをサイト・レポート、サイト・レプリケーション、サイト・バックアップなどに含める場合にも「Site Assets」ペインを使用します。

次の項で、「Site Assets」ペインについて詳細に説明します。

- 5-31 ページの「[サイト・アセットの必須メタデータ](#)」
- 5-32 ページの「[「Site Assets」ペインについて](#)」
- 5-33 ページの「[サイト・アセットの表示](#)」
- 5-33 ページの「[サイト・アセットの追加](#)」
- 5-35 ページの「[サイト・アセットの編集](#)」
- 5-36 ページの「[サイト・アセットの削除](#)」
- 5-36 ページの「[サイト・アセット・カテゴリの変更](#)」

5.6.1 サイト・アセットの必須メタデータ

Site Studio では、コンポーネントをインストールすると、コンテンツ・サーバーに次のメタデータ値が作成されます。コンテンツ・サーバーのファイルが Web サイトに属していると識別されるためには、このメタデータが必要です。

これらのメタデータ値は、「Site Assets」 ペイン、サイト・レプリケーション・ツール、サイト・バックアップなどで使用されます。

メタデータ	定義
Websites	Web サイトに関連するファイルの識別に使用されます。
Website Section	特定の Web サイト・セクションに関連するファイルの識別に使用されます。
Website Object Type	現在のファイル・タイプの識別に使用されます。次のタイプがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Data File: コントリビュータ・データ・ファイルに使用 ■ Layout File: レイアウト・ページに使用 ■ Native Document: ネイティブ・ドキュメントに使用 ■ Fragment: フラグメントに使用 ■ Image: イメージに使用 ■ Script: スクリプトに使用 ■ Stylesheet: スタイルシートに使用 ■ Project: Site Studio プロジェクト・ファイルに使用 ■ Custom Element Form: カスタム要素フォームに使用 ■ Properties Form: プロパティ・フォームに使用 ■ Validation Script: 検証スクリプトに使用 ■ Manager Settings: マネージャ設定に使用 ■ Other: 他のすべてのタイプに使用

5.6.2 「Site Assets」 ペインについて

「Site Assets」 ペインでは、サイトに属するファイル（グラフィック、スクリプト、CSS ファイルなど）を迅速かつ簡単に表示および編集できます。「Site Assets」 ペインでの作業時には、次のオプションを使用できます。

オプション	説明
 (プルダウン・メニューの横)	「Site Asset Categories」 ダイアログ・ボックスが表示されます (A-32 ページの「 Site Asset Categories 」 ダイアログ・ボックス) を参照)。このダイアログ・ボックスでは、既存のカテゴリをカスタマイズすることや、新規カテゴリを「Site Assets」 ペインに追加することができます (5-36 ページの「 サイト・アセット・カテゴリの変更 」を参照)。
 (ツールバー内)	デザイナーを使用して (ネイティブ・ドキュメントの場合はサード・パーティ・アプリケーションと Check Out and Open を使用して)、選択したサイト・アセットを編集できます。サード・パーティ・アプリケーションを特定できないグラフィックやファイルには、この編集オプションは使用できません。
	サイト・アセットのコンテンツ情報ページが表示されます。
	新規サイト・アセットを作成します。新規アセットの作成時には、次の 2 つのオプションを使用できます。 New: 完全に新規のサイト・アセットを作成し、Web サイトと同じメタデータとともにコンテンツ・サーバーにチェックインします。 Copy: 既存のファイルに基づいて新規サイト・アセットを作成し、Web サイトと同じメタデータとともにチェックインします。次の 2 つのオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ from Server: コンテンツ・サーバーの既存のファイルを使用します。 ■ from Local: ローカル・ファイル・システムの既存のファイルを使用します。
	コンテンツ・サーバーから現在のサイトに既存のファイルを追加します。そのコンテンツ・アイテムのメタデータは、現在の Web サイトに一致するように変更されます。
	サイト・アセットを削除します。元のファイルは、コンテンツ・サーバーから削除されません。
	「Site Assets」 ペインをリフレッシュします。

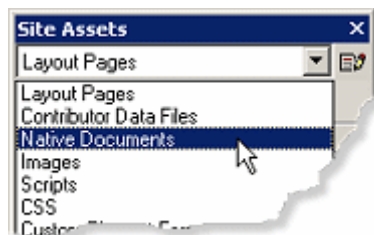
5.6.3 サイト・アセットの表示

「Site Assets」ペインには、その使用状況（特に「Website Object Type」メタデータ値）に基づいてサイト・アセットが表示されます。カテゴリを選択することで、そのカテゴリに属するアセットを参照できます。

サイト・アセットを表示するには、次の手順を実行します。

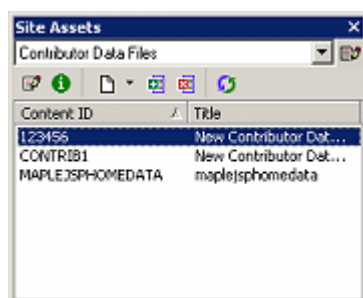
1. デザイナで「Site Assets」ペインを開きます。
2. 一番上のメニューをクリックし、表示するカテゴリを選択します。

図 5-37 サイト・アセット・カテゴリの選択



3. そのカテゴリのサイト・アセットが表示されます (図 5-38)。

図 5-38 カテゴリに含まれるサイト・アセット



「Site Assets」ペインのツールバー・オプションが使用できるようになります (5-32 ページの「Site Assets」ペインについて)を参照)。

5.6.4 サイト・アセットの追加

デザイナーまたはコントリビュータを使用してサイトにレイアウト・ページ、データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを追加すると、そのファイルはサイトの一部として認識されるようになり、サイト・アセットと呼ばれます。サイトに独自のファイルを追加し、それらを「Site Assets」ペインを使用してサイト・アセットにすることも可能です。

「Site Assets」ペインは、グラフィック、スクリプト、Cascading Style Sheet (CSS) などのサポート・ファイルを追加する場合に特に便利です。「Site Assets」ペインを使用してこれらのファイルを追加することで、各ファイルはサイトの一部として認識されるようになり (ファイルのメタデータはサイトに一致します)、特にサイト・レプリケーション、サイト・バックアップ、パブリッシングなどを使用してサイトを移動する場合にファイルの管理が容易になります。

次の操作を実行できます。

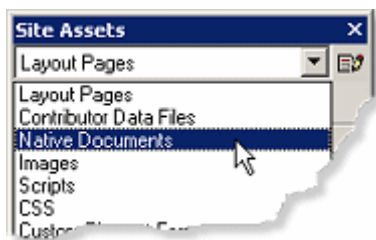
- 5-34 ページの「新規サイト・アセットの追加」
- 5-34 ページの「既存のコンテンツ・サーバー・ファイルのアセットへの変換」

5.6.4.1 新規サイト・アセットの追加

新規サイト・アセットを追加するには、次の手順を実行します。

1. デザイナで「Site Assets」ペインを開きます。
2. 一番上のメニューをクリックし、使用するアセットのカテゴリを選択します。

図 5-39 サイト・アセット・カテゴリの選択



3. 「Create New」アイコン (図 5-40) をクリックします。

図 5-40 「Create New」アイコン



4. 完全に新規のファイルを作成するには、「New」を選択して作成するファイルのタイプを選択します (使用可能なタイプは、手順 2 で選択したサイト・アセット・カテゴリに応じて変化します)。これにより、新規ファイルをチェックインするためのチェックイン画面が表示されます。

または

別のファイルのコピーを作成してアセットにするには、「Copy」をクリックして次のいずれかを選択します。

- **from Server:** コンテンツ・サーバーに格納された既存のファイルをコピーします。これにより、ファイルを選択してチェックインできるコンテンツ・サーバーのダイアログ・ボックスが表示されます。
- **from Local:** ファイル・システムに格納された既存のファイルをコピーします。これにより、ファイル・システムのファイルを選択してチェックインできる「Open」ダイアログ・ボックスが表示されます。

「Site Assets」ペインに戻り、新規サイト・アセットを確認します。

5.6.4.2 既存のコンテンツ・サーバー・ファイルのアセットへの変換

コンテンツ・サーバーの既存のファイルを変換するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Assets」ペインで、一番上のメニューをクリックし、適切なアセットのカテゴリを選択します。
2. 「Add to site」アイコン (図 5-41) をクリックします。

図 5-41 「Add to site」アイコン



3. 検索結果ページで、アセットにするファイルを選択します。
「Site Assets」ペインに戻り、サイト・アセットを確認します。

コンテンツ・サーバーの既存のファイルをサイトに追加すると、ファイルをサイトに表示できるように、Site Studio によりファイルのメタデータが更新されます。

ファイルを簡単に編成および編集できるように、Site Studio にはサイト・アセットとして追加できるいくつかのサンプル・フォームとスクリプトが付属しています（第 12 章「カスタム・フォームとスクリプトの操作」を参照）。

既存のフラグメントをサイト・アセットとして「Fragment Libraries」カテゴリに追加することもできます。これにより、実際に使用中のフラグメントのみをデザイナーのツールボックスに表示できます（7-4 ページの「ツールボックスのフラグメントのフィルタ」を参照）。

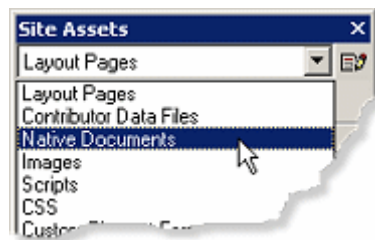
5.6.5 サイト・アセットの編集

「Site Assets」ペインを使用して、レイアウト・ページ、スクリプト、Cascading Style Sheet (CSS) などのサイト・アセットを簡単に編集できます。ただし、編集機能で編集できるのは、Site Studio または関連するサード・パーティ・アプリケーションにより認識されているファイルのみです。たとえば、レイアウト・ページ、スクリプト、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントなどは編集できますが、グラフィックや認識されないメディアは編集できません。

サイト・アセットを編集するには、次の手順を実行します。

1. デザイナで「Site Assets」ペインを開きます。
2. 一番上のメニューをクリックし、編集するアセットのカテゴリを選択します。

図 5-42 サイト・アセット・カテゴリの選択



3. 「Edit」アイコン（図 5-43）をクリックします。

図 5-43 「Edit」アイコン



- テキストベースのファイル（HTML や XML など）を編集する場合、デザイナーの組込みのテキスト・エディタが起動します。
- サポート対象のネイティブ・ドキュメントを編集する場合、そのファイルに関連付けられたサード・パーティ・アプリケーションが起動します。

「Edit」ボタンが無効の場合（グラフィックや認識されないメディアなどの場合）、「Doc Info」アイコン（図 5-44）をクリックし、コンテンツ情報ページでそのファイルをチェックアウトしてから、編集してチェックインすることができます。

図 5-44 「Doc Info」アイコン



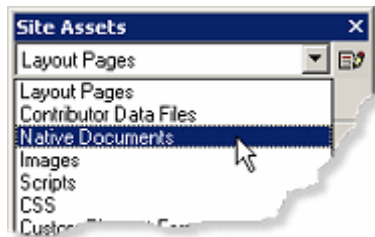
5.6.6 サイト・アセットの削除

「Site Assets」 ペインを使用して、サイトから簡単にサイト・アセットを削除できます。これを行うと、ファイルはサイトの一部として認識されなくなります。ただし、コンテンツ・サーバーのファイルは削除されません。

サイト・アセットを削除するには、次の手順を実行します。

1. デザイナで「Site Assets」 ペインを開きます。
2. 一番上のメニューをクリックし、削除するアセットのカテゴリを選択します。

図 5-45 サイト・アセット・カテゴリの選択



3. 「Remove」 アイコン (図 5-46) をクリックします。

図 5-46 「Remove From Site」 アイコン



「Site Assets」 ペインからファイルが削除されます。

コンテンツ・サーバーのファイルを削除するには、「Doc Info」 アイコン (図 5-47) をクリックし、コンテンツ情報ページでファイルを削除します。

図 5-47 「Doc Info」 アイコン



5.6.7 サイト・アセット・カテゴリの変更

「Site Assets」 ペインのカテゴリ分類は、単なるデフォルトです。新規カテゴリの追加、カテゴリの順序の変更、カテゴリの基準の変更などを行うことができます。これを行うには、「Site Asset Categories」 ダイアログ・ボックスを使用します。

次の操作を実行できます。

- 5-37 ページの「カテゴリの追加」
- 5-37 ページの「カテゴリの削除」
- 5-38 ページの「カテゴリの編集」

5.6.7.1 カテゴリの追加

新規カテゴリを追加するには、次の手順を実行します。

1. デザイナで「Site Assets」ペインを開きます。
2. メニューの右側にある「Edit Site Asset Categories」アイコン (図 5-48) をクリックします。

図 5-48 「Edit Site Asset Categories」アイコン



これにより、「Site Asset Categories」ダイアログ・ボックスが表示されます (A-32 ページの「[Site Asset Categories] ダイアログ・ボックス」を参照)。

3. 「New Asset Category」アイコン (図 5-49) をクリックします。

図 5-49 「New Asset Category」アイコン



4. 指定された空白に新規カテゴリの名前を入力し、キーボードの **[Enter]** を押します。
5. 「Description」フィールドに説明的な名前を入力します。
6. 「Web Site Object Type」の値を選択します。
7. このカテゴリに表示されるファイルを絞り込む場合、「Query Text」フィールドに問合せを入力します。

「Additional Information」アイコン (図 5-50) をクリックして「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを表示します (A-48 ページの「[Edit Query Text] ダイアログ・ボックス」を参照)。このダイアログ・ボックスで、問合せを作成、テストおよび取得し、「OK」をクリックします。

図 5-50 「Additional Information」アイコン



8. 「Define」をクリックして、このカテゴリに追加される新規サイト・アセットで使用可能にするメタデータと、このカテゴリに追加される新規サイト・アセットに (デフォルトで) 割り当てるメタデータを指定します (A-33 ページの「[Enable Metadata Modification] ダイアログ・ボックス」を参照)。
9. 終了したら、「OK」をクリックして「Site Assets」ペインに戻ります。

5.6.7.2 カテゴリの削除

カテゴリを削除するには、次の手順を実行します。

1. デザイナで「Site Assets」ペインを開きます。
2. メニューの右側にある「Edit Site Asset Categories」アイコン (図 5-51) をクリックします。

図 5-51 「Edit Site Asset Categories」アイコン



これにより、「Site Asset Categories」ダイアログ・ボックスが表示されます (A-32 ページの「[Site Asset Categories] ダイアログ・ボックス」を参照)。

3. 「Delete Asset Category」アイコン (図 5-52) をクリックします。

図 5-52 「Delete Site Asset Category」アイコン



4. 「OK」をクリックして「Site Assets」ペインに戻ります。

5.6.7.3 カテゴリの編集

カテゴリを編集するには、次の手順を実行します。

1. デザイナで「Site Assets」ペインを開きます。
2. メニューの右側にある「Edit Site Asset Categories」アイコン (図 5-53) をクリックします。

図 5-53 「Edit Site Asset Categories」アイコン



これにより、「Site Asset Categories」ダイアログ・ボックスが表示されます (A-32 ページの「Site Asset Categories」ダイアログ・ボックスを参照)。

3. 編集するカテゴリを選択し、次のフィールドに新しい値を入力します。
 - **Description:** サイト・アセット・カテゴリの説明に使用します。
 - **Website Object Type:** このカテゴリに表示するアセットのタイプを指定します。
 - **Query Text:** 「Site Assets」ペインにアイテムを表示するためにコンテンツ・サーバーで実行する問合せを指定します。

「Additional Information」アイコン (図 5-54) をクリックして「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを表示します (A-48 ページの「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを参照)。このダイアログ・ボックスで、問合せを指定、テストおよび取得します。

図 5-54 「Additional Information」アイコン



- **Metadata:** 使用可能にするメタデータと、このカテゴリに追加される新規サイト・アセットに割り当てるデフォルトのメタデータを指定します。
4. 「OK」をクリックして「Site Assets」ペインに戻ります。

「Reset to Default」をクリックすると、製品をインストールしたときの元の状態にサイト・アセット・カテゴリを戻すことができます。

5.7 サイト・レポート

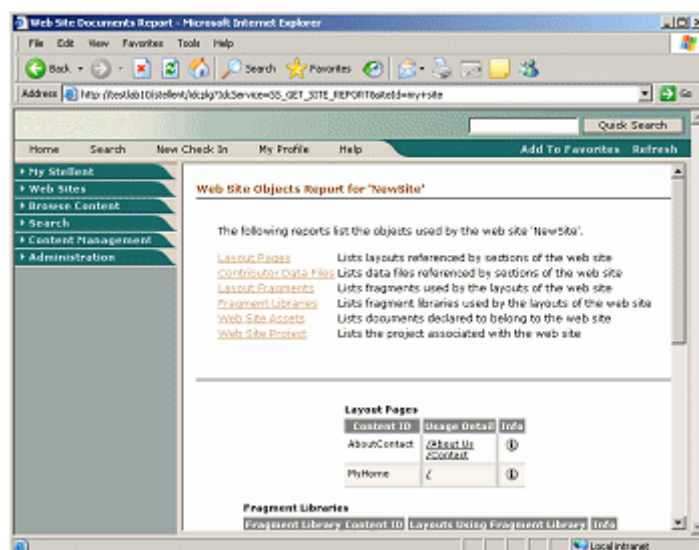
大規模な Web サイトまたは複数のサイトを管理していると、サイトに関連付けられているファイルの数、それらのファイルの使用場所、特定のユーザーによるそれらのファイルの閲覧頻度などを確認したいときがあります。たとえば、特定のデータ・ファイルの存在するサイト上の場所や、そのファイルの閲覧頻度などです。これは、ネイティブ・ドキュメント、フラグメント、スクリプトなどでも同様です。

これらの情報を確認する方法の 1 つは、Site Studio のサイト・レポート機能を使用することです。サイト・レポートは、必要に応じてオンラインで参照するか、印刷により出力できます。

次の 3 つのタイプのレポートを参照できます。

- 5-39 ページの「[サイト・オブジェクト・レポート](#)」
- 5-40 ページの「[サイト使用状況レポート](#)」
- 5-40 ページの「[コンテンツ追跡レポート](#)」

5.7.1 サイト・オブジェクト・レポート



サイト・オブジェクト・レポートには、サイトで使用されているすべてのファイルが表示されます。このレポートでは、ファイルがカテゴリ別に表示されます（レイアウト・ページ、コンテンツリビュータ・データ・ファイル、フラグメント・ライブラリなど）。

詳細は、5-41 ページの「[Web サイト・オブジェクト・レポートの表示](#)」を参照してください。

5.7.2 サイト使用状況レポート

The document was declared in the following web sites:

Web Site	Usage Detail																
My New Site (newsite)	Found 3 occurrences																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Section ID</th> <th>Usage Location</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>67</td> <td>index</td> </tr> <tr> <td>69</td> <td>default</td> </tr> <tr> <td>69</td> <td>default</td> </tr> </tbody> </table>	Section ID	Usage Location	67	index	69	default	69	default								
	Section ID	Usage Location															
67	index																
69	default																
69	default																
Ravena Hosting (RHM)	Found 8 occurrences																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Section ID</th> <th>Usage Location</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9313</td> <td>Services</td> </tr> <tr> <td>9314</td> <td>Services/CaseStudy</td> </tr> <tr> <td>9315</td> <td>Services/Hosting</td> </tr> <tr> <td>9316</td> <td>Services/Project Management</td> </tr> <tr> <td>9317</td> <td>Services/Development</td> </tr> <tr> <td>9319</td> <td>Support</td> </tr> <tr> <td>9324</td> <td>Company Information</td> </tr> </tbody> </table>	Section ID	Usage Location	9313	Services	9314	Services/CaseStudy	9315	Services/Hosting	9316	Services/Project Management	9317	Services/Development	9319	Support	9324	Company Information
	Section ID	Usage Location															
	9313	Services															
	9314	Services/CaseStudy															
	9315	Services/Hosting															
	9316	Services/Project Management															
	9317	Services/Development															
9319	Support																
9324	Company Information																

サイト使用状況レポートには、単一のファイルの詳細なサマリー（特にそのファイルの使用場所）が表示されます。このレポートでは、ファイルが使用されている Web サイトや、ファイルが使用されているセクションなどに基づいて情報が分類されます。

詳細は、5-42 ページの「[Web サイト使用状況レポートの表示](#)」を参照してください。

重要： レポートの生成に使用される基準の 1 つは、各ファイルに割り当てられたメタデータです。したがって、ファイルに不正確なメタデータが含まれると、そのファイルはレポートに間違って表示されるか、またはまったく表示されない可能性があります。メタデータ・モデルが効率的であるほど、サイト・レポートも効率的になります。

5.7.3 コンテンツ追跡レポート

Web Site Content Accesses to Content ID: reh_partners
Dates: 2/7/05 to 3/9/05

Relative URL	Accesses
/Partners/index.htm	14

[Printer-friendly Version](#)

コンテンツ追跡レポートには、任意のコンテンツの閲覧回数が表示されます。Content Tracker を使用すると、特定のニーズに合わせてレポートの表示をカスタマイズできます。

5-43 ページの「[コンテンツ追跡レポートの表示](#)」を参照してください。

5.7.4 Web サイト・オブジェクト・レポートの表示

サイト・オブジェクト・レポートには、サイトで使用されているすべてのファイルが表示されます。レポートを参照すると、カテゴリ別（レイアウト・ページ、コントリビュータ・データ・ファイル、フラグメント・ライブラリなど）に分類されたファイルを確認できます。

Site Studio の様々な場所でレポートを表示できます。

- 5-41 ページの「[デザイナーでのレポートの表示](#)」
- 5-41 ページの「[「Site Studio Administration」 ページでのレポートの表示](#)」

5.7.4.1 デザイナーでのレポートの表示

デザイナーでレポートを表示するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 「File」 → 「Site」 → 「Advanced」 → 「View Web Site Objects Report」 を選択します。
または
- 「Site Hierarchy」 ペインで、Web サイトのルートを右クリックし、「View Web Site Objects Report」 を選択します。

5.7.4.2 「Site Studio Administration」 ページでのレポートの表示

「Site Studio Administration」 ページを使用してレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Studio Administration」 ページを表示します。
2. 「Manage Web Sites」 をクリックします。
3. レポートを表示する Web サイトを選択します。
4. 「View Web Site Objects Report」 をクリックします。

使用可能であれば、ハイパーリンクをクリックすることで、サイトで使用されているファイルをプレビューできます。

ホームページ・アイコン (図 5-55) をクリックすると、サイトのホームページを参照できます。

図 5-55 ホームページ・アイコン



情報アイコン (図 5-56) をクリックすると、ファイルのコンテンツ情報ページを参照できます。

図 5-56 情報アイコン



ファイルがこのレポートに表示されるためには、現在のサイトと一致する必須メタデータがファイルに含まれている必要があります (5-31 ページの「[サイト・アセットの必須メタデータ](#)」を参照)。

5.7.5 Web サイト使用状況レポートの表示

サイト使用状況レポートには、単一のファイルの詳細なサマリー（特にそのファイルが使用されているコンテンツ・サーバーの1つ以上のサイトの場所）が表示されます。レポート自体は、コンテンツ・サーバーに格納されます。レポートを参照すると、ファイルが使用されている Web サイトやセクションなどに基づいて分類された情報を確認できます。

Site Studio の様々な場所でレポートを表示できます。

- 5-42 ページの「[デザイナーでのレイアウト・ページのレポートの表示](#)」
- 5-42 ページの「[デザイナーでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示](#)」
- 5-42 ページの「[Web ページでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示](#)」
- 5-43 ページの「[他のすべてのファイルのレポートの表示](#)」

5.7.5.1 デザイナーでのレイアウト・ページのレポートの表示

デザイナーでレイアウト・ページのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、レポートを表示するレイアウト・ページを含むセクションを展開します。
2. レイアウト・ページ（プライマリまたはセカンダリ）を右クリックし、「View Web Site Usage Report」を選択します。

5.7.5.2 デザイナーでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示

デザイナーでデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. デザイナーで「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを表示します（A-76 ページの「[Assign Region Content](#) ダイアログ・ボックス」を参照）。
2. 「Contribution Region」ボックス（右側の緑色のボックス）で、拡張アイコン（[図 5-57](#)）をクリックします。

図 5-57 拡張アイコン



3. 「View web site usage report」をクリックします。

5.7.5.3 Web ページでのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートの表示

Web ページでデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが表示されている Web ページに移動します。
2. コントリビューション・モードを有効化します。
3. コントリビューション・アイコンを右クリックし、「View Web Site Usage Report」を選択します。

このオプションは、デザイナーの「Contribution Region」ダイアログ・ボックスで有効化されている場合にのみ使用できます（A-43 ページの「[Contribution Region](#) ダイアログ・ボックス」を参照）。

5.7.5.4 他のすべてのファイルのレポートの表示

他のすべてのファイルのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. レポートを表示するファイルのコンテンツ情報ページを表示します。
2. 「Actions」の横のメニューを使用して、「View Web Site Usage Report」を選択します。

使用可能であれば、ハイパーリンクをクリックすることで、ファイルがサイトで使用されている場所をプレビューできます。

ホームページ・アイコン (図 5-58) をクリックすると、サイトのホームページを参照できます。

図 5-58 ホームページ・アイコン



「Show All」をクリックすると、すべての Web サイトでファイルが使用されている場所の詳細が表示され、「Hide All」をクリックすると、それらの詳細が非表示になります。また、「+」アイコンをクリックすると、特定のサイトでファイルが使用されている場所の詳細が表示され、「-」アイコンをクリックすると、それらの詳細が非表示になります。

ファイルがこのレポートに表示されるためには、現在のサイトと一致する必須メタデータがファイルに含まれている必要があります (5-31 ページの「サイト・アセットの必須メタデータ」を参照)。

サイト使用状況レポートは、コントリビュータ・アプリケーションでも表示できます (『Oracle Universal Content Management Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照)。

5.7.6 コンテンツ追跡レポートの表示

コンテンツ追跡レポートには、Web サイトで任意のコンテンツが閲覧された回数のサマリーが表示されます。このレポートは、次の 2 つの方法で表示できます。

- 5-43 ページの「ファイルが表示される Web ページでのレポートの表示」
- 5-43 ページの「サイトにおけるすべてのファイルのレポートの表示」

5.7.6.1 ファイルが表示される Web ページでのレポートの表示

ファイルが表示される Web ページでレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが表示されている Web ページに移動します。
2. コントリビューション・モードを有効化します。
3. コントリビューション・アイコンを右クリックし、「View Content Tracker Report」を選択します。

このオプションは、デザイナの「Contribution Region」ダイアログ・ボックスで有効化されており (A-43 ページの「Contribution Region」ダイアログ・ボックスを参照)、コンテンツ追跡レポート・コンポーネントがコンテンツ・サーバーにインストールされている場合にのみ使用できます。

5.7.6.2 サイトにおけるすべてのファイルのレポートの表示

サイトにおける他のすべてのファイルのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. デザイナで、「View Pages」アイコン (図 5-59) のメニューをクリックします。

図 5-59 「View Pages」アイコン



2. 「Content Tracker Report」を選択します。

これにより、表示するレポートを指定できる「Content Tracker Report Generator」ページが表示されます。

5.8 Web サイトの開始と停止

Site Studio の Web サイトの開始および停止は、Web サーバーの Web サイトの開始および停止と同じ方法で行うことができます。Web サイトの開始と停止は、たとえば、サイトをトラブルシューティングする場合、グローバル更新後にサイトを再起動する場合、またはコンテンツの閲覧やダウンロードを禁止する場合に実行します。

サイトを停止する前に、サイトの停止時にそのサイトのかわりに表示する一時ページを作成しておく必要があります。これにより、ユーザーはサイトにアクセスできない理由を確認できます。

次の操作を実行できます。

- 5-44 ページの「Web サイトの停止」
- 5-44 ページの「停止サイト用の一時ページの構成」

5.8.1 Web サイトの停止

Web サイトを停止するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Studio Administration」ページを表示します。
2. 「Manage Web Sites」をクリックして、「Manage Web Sites」ページを表示します (A-96 ページの「Manage Web Sites」ページを参照)。
3. Web サイトを選択し、「Stop Web Site」をクリックします。
4. サイトで必要な管理タスクを終了したら、「Manage Web Sites」ページに戻ってサイトを選択し、「Start Web Site」をクリックします。

5.8.2 停止サイト用の一時ページの構成

サイトの停止時に表示する一時ページを構成するには、次の手順を実行します。

1. サイトが一時的に停止していることを示す Web ページを作成し、そのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。
2. デザイナの「Site Hierarchy」ペインで、サイトまたはセクションを選択します。
3. 「Properties」ペインを表示します。
4. 「Stopped Site Page」の横にある「Additional Information」アイコン (図 5-60) をクリックし、サイトの停止時に使用する Web ページを指定します。

図 5-60 「Additional Information」アイコン



レイアウト・ページの設計

Site Studio による Web サイトの処理方法は、他の Web サイト開発ツールとは大きく異なっており、特にレイアウト・ページの使用にその違いがはっきりと表れています。

サイトの各セクションに多くの Web ページを追加するかわりに、1つのプライマリ・ページと1つのセカンダリ・ページのみを追加します。これらのレイアウト・ページにより、Web サイトの特定のセクションで発生するコンテンツの変更をすべて処理します。また、同じレイアウト・ページをサイトの他のセクションで再利用することも可能です。つまり、レイアウト・ページは、従来の Web ページのように一度だけ使用するか、テンプレートのように何度でも再利用することができます。

レイアウト・ページには、必要に応じてどのようなコンテンツでも追加できます。ただし、レイアウト・ページでの作業経験を重ねると、直接ページに追加するコンテンツは比較的少なくし、コンテンツの大部分はフラグメントやコントリビューション・リージョンで対応する方が適切であることがわかります（6-33 ページの「[フラグメントとコントリビューション・リージョンの追加](#)」を参照）。

レイアウト・ページに直接追加するコンテンツ（つまり、フラグメントやコントリビューション・リージョンで対応しないコンテンツ）は、通常、サイト全体にわたり静的な（変化しない）背景情報です。これは、サイトの基本的なルック・アンド・フィールを決定するもので、背景色、背景イメージ、HTML 表（テキストやグラフィックの位置決め用）などを含みます。

次の項で、レイアウト・ページについて詳細に説明します。

- 6-2 ページの「[レイアウト・ページのオープンと表示](#)」
- 6-2 ページの「[「Source」ビュー、「Design」ビューおよび「Preview」](#)」
- 6-6 ページの「[レイアウト・ページの編集](#)」
- 6-7 ページの「[テキストの操作](#)」
- 6-11 ページの「[グラフィックの操作](#)」
- 6-13 ページの「[ハイパーリンクの操作](#)」
- 6-21 ページの「[HTML 表の操作](#)」
- 6-29 ページの「[「Properties」ペイン](#)」
- 6-30 ページの「[Web ページの変更の比較](#)」
- 6-33 ページの「[フラグメントとコントリビューション・リージョンの追加](#)」

6.1 レイアウト・ページのオープンと表示

レイアウト・ページは、デザイナーの「Site Hierarchy」ペインから直接開くことができます。レイアウト・ページは、作業領域に表示され、そこで参照および編集できます。

レイアウト・ページを開くには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインを表示し、目的のレイアウト・ページを含むセクションを展開します。

図 6-1 デザイナーのサイト階層



2. レイアウト・ページをダブルクリックします（または、右クリックして「Open」を選択します）。

レイアウト・ページが、デザイナーで使用可能な3つのビューの1つである「Design」ビューに表示されます（6-2 ページの「[「Source」ビュー](#)」、「[「Design」ビュー](#)および「[Preview」](#)」を参照）。

複数のレイアウト・ページの表示

必要に応じて、複数のレイアウト・ページを同時に開くことができます。追加のレイアウト・ページは、レイアウト・ページ・ウィンドウの一番上の新規タブに表示されます。

図 6-2 デザイナーのタブに表示された複数のレイアウト・ページ



レイアウト・ページのタブをクリックすると、そのページを表示できます。

6.2 「Source」ビュー、「Design」ビューおよび「Preview」

レイアウト・ページを開くと、デザイナーの作業領域に表示されますが、一番下に「Source」、「Design」および「Preview」という3つのタブも表示されます。「Source」および「Design」ビューは、レイアウト・ページの編集に使用し、「Preview」はレイアウト・ページが Web ブラウザでどのように表示されるかを参照する際に使用します。

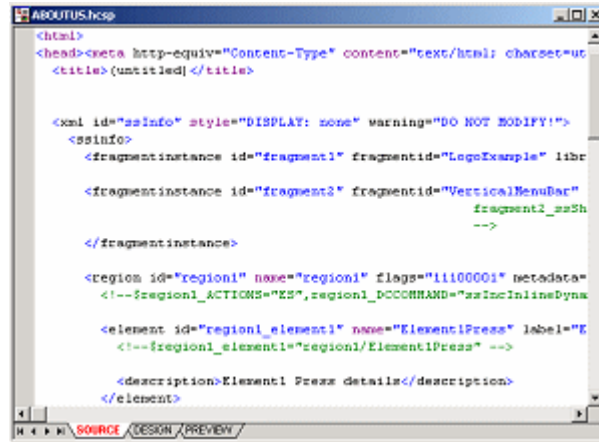
それぞれの説明は次のとおりです。

- 6-3 ページの「[「Source」ビュー](#)」
- 6-4 ページの「[「Design」ビュー](#)」
- 6-6 ページの「[Preview](#)」

6.2.1 「Source」ビュー

「Source」ビューには、レイアウト・ページを構成するコードである HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプトと、オプションで JSP または ASP が表示されます。この情報は、次のように色分けされたテキストとして表示されます。

図 6-3 「Source」ビューにレイアウト・ページが表示された Idoc スクリプト編集ウィンドウ



- 黒は、XML コードと、Web ページに表示されるテキストに使用されます。
- 紫は、HTML コードに使用されます。
- 緑は、Idoc スクリプト、HTML コメント、および Site Studio により挿入されたコードに使用されます。

書体、インデント・レベル、行の折返しなどの設定の多くは、変更できます。

「Source」ビューでは、レイアウト・ページを完全に制御できます。「Design」ビューでの表示に満足できない場合は、いつでも「Source」ビューに切り替えて Web ページの動作を厳密に制御できます。実際の手順では、「Design」ビュー（6-4 ページの「「Design」ビュー」を参照）を使用してページの作成を開始し、その後「Source」ビューに切り替えてページの外観と動作をカスタマイズします。

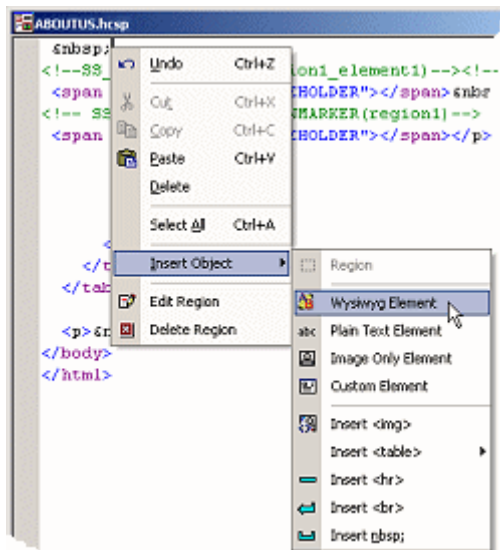
このガイドのほとんどの説明では、ユーザーが「Design」ビューで作業していることを前提としています。「Source」ビューでの作業方法は、必要に応じて説明しています。

注意： Site Studio により自動的に挿入されたコードを編集または削除しないでください。このコードは、SS という文字で始まる HTML コメント・タグを使用しており、緑で表示されます。このコードを変更すると、Web サイトの特定の機能が動作しなくなる可能性があります。

「Source」ビューの機能

Site Studio には、「Source」ビューで使用できる多くのツールバー・オプションおよび右クリック・オプションがあります。たとえば、「Source」ビューでの作業時に、イメージ、ハイパーリンク、フラグメント、コントリビューション・リージョンなどを追加できます。

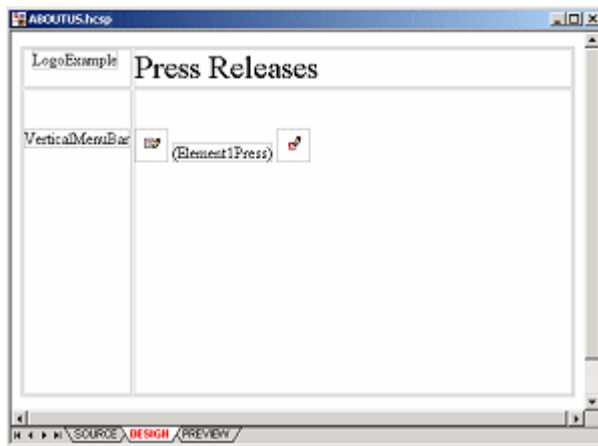
図 6-4 「Source」ビューの右クリック・オプション



6.2.2 「Design」ビュー

「Design」ビューでは、レイアウト・ページが WYSIWYG (What You See Is What You Get) ビューで表示されます。「Design」ビューで作業をすると、ページの設計に合わせてレイアウト・ページの外観を確認できます。実際の Web サイトに表示されるとおりにテキスト、イメージ、色、ハイパーリンクおよび表が表示されます。

図 6-5 レイアウト・ページの「Design」ビュー



ただし、これには例外があります。ほとんどのフラグメントおよびスクリプトは、「Design」ビューでは Web サイトと同じように表示されません。フラグメントやスクリプトには、サーバー側スクリプトと、動的にレンダリングされるコンテンツが含まれるためです。このコンテンツは、「Preview」タブ (6-6 ページの「Preview」を参照) を使用するか、Web ブラウザでページを表示した場合にのみ確認できます。

レイアウト・ページでフラグメントが存在する場所を識別できるように、デザイナーによりプレースホルダ・テキストとイメージが挿入されます。(このプレースホルダ・テキストは、7-15 ページの「フラグメント・スニペットの追加と編集」に説明されているとおり、フラグメント・エディタで変更できます。)

「Design」ビューでは、HTML タグの場所をハイライト表示することもできます。この機能を有効化するには、書式設定ツールバーの「Show/Hide HTML tags」アイコン (図 6-6) をクリックします。

図 6-6 「Show/Hide HTML Tags」アイコン



注意: このガイドのほとんどの説明では、ユーザーが「Design」ビューで作業していることを前提としています。

「Design」ビューの機能

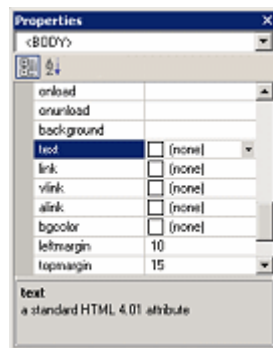
「Design」ビューでは、ツールバー、マウス (ドラッグ・アンド・ドロップと右クリック)、および多くの使い慣れたキーボード・コマンドを使用してレイアウト・ページを作成および編集できます。

図 6-7 「Design」ビューのツールバー



このインターフェースを使用して実行できない編集操作がある場合、「Properties」ペインを使用できます。

図 6-8 「Design」ビューでの <BODY> タグのプロパティ



「Properties」ペインでは、レイアウト・ページの特定の領域 (背景色、ページのマージン、表の幅など) を詳細に調整できます (6-29 ページの「[Properties ペイン](#)」を参照)。

このペインで特定の編集操作を実行できない場合でも、常に「Source」ビュー (6-3 ページの「[Source ビュー](#)」を参照) で実際のコードを編集できます。

6.2.3 Preview

「Preview」タブには、Web ブラウザに表示されるとおりにレイアウト・ページの実際のビューが表示されます。

図 6-9 レイアウト・ページのプレビュー



「Preview」は、レイアウト・ページ（特にレイアウト・ページのフラグメントとコントリビューション・リージョン）をプレビューする場合に便利です。

Web ブラウザでレイアウト・ページをプレビューするには、5-27 ページの「[Web サイト上のレイアウト・ページの表示](#)」を参照してください。

注意： Site Studio では、プレビュー機能を提供するために Internet Explorer 5.5 以上を必要とします。

6.3 レイアウト・ページの編集

レイアウト・ページを初めて作成する場合の主な検討事項は、汎用的なルック・アンド・フィールです。つまり、サイト全体にわたり変化しない、静的な背景情報を作成することです。これを行うため、テキスト、グラフィック、色および HTML 表（コンテンツの位置決め用）をページに直接追加します。

その後で、より動的な性質を持つコンテンツ、ページごとに変化するコンテンツ、または頻繁な更新が必要なコンテンツについて検討を開始します。この時点で、フラグメントやコントリビューション・リージョンの追加について検討する必要があります（6-33 ページの「[フラグメントとコントリビューション・リージョンの追加](#)」を参照）。

次の項で、（フラグメントやコントリビューション・リージョンを追加する前に）レイアウト・ページで直接行う編集作業について説明します。

- 6-7 ページの「[テキストの操作](#)」
- 6-11 ページの「[グラフィックの操作](#)」
- 6-13 ページの「[ハイパーリンクの操作](#)」
- 6-21 ページの「[HTML 表の操作](#)」
- 6-29 ページの「[「Properties」ペイン](#)」

6.4 テキストの操作

「Design」ビューでのテキストの操作は、ワードラップ、改行、書式設定オプションなどの機能を備えたワード・プロセッサ・プログラムでのテキストの操作によく似ています。レイアウト・ページにテキストを追加する場合、単にレイアウト・ページでテキストを追加する場所をクリックし、入力を開始します。必要な HTML コードは、デザイナーによって内部的に処理されます。

テキストを追加して編集したら、書体やフォント・サイズの変更、テキストのインデントまたは中央揃え、記号付きリストや番号付きリストの追加などを行ってテキストを書式設定できます。これを行うには、書式設定ツールバー、HTML ツールバーおよび「Properties」ペインを使用します（詳細は、次の項を参照してください）。

- 6-7 ページの「書式設定ツールバーでのテキストの書式設定」
- 6-7 ページの「書式設定ツールバーについて」
- 6-9 ページの「HTML ツールバーについて」
- 6-10 ページの「「Properties」ペインでのテキストの書式設定」
- 6-10 ページの「テキストへの CSS クラスの適用」

6.4.1 書式設定ツールバーでのテキストの書式設定

テキストは、ほとんどのワード・プロセッサ・プログラムと同じ手順を使用して書式設定できます（書体やフォント・サイズの変更、テキストのインデントまたは中央揃え、記号付きリストや番号付きリストの追加など）。これを行うには、書式設定ツールバーを使用します。

書式設定ツールバーを使用してテキストを書式設定するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページで書式を変更する場所にカーソルを置きます。
2. 書式設定ツールバーの適切なボタンをクリックし（6-7 ページの「書式設定ツールバーについて」を参照）、テキストを入力します。

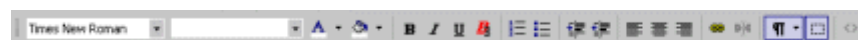
または、マウスを使用して既存のテキストを選択してから、書式設定ツールバーの適切なボタンをクリックします。

テキストは、書式設定ツールバーで選択した書式設定オプションに基づいて、その外観が変化します。

6.4.2 書式設定ツールバーについて

書式設定ツールバーは、「Design」ビューでレイアウト・ページを編集する際に使用できます。書式設定ツールバーを使用するには、レイアウト・ページでテキストを書式設定する場所にカーソルを置き、ツールバーの適切なボタンをクリックしてからテキストを入力します。または、テキストを選択してからツールバーのボタンをクリックし、選択済のテキストを書式設定します。




図 6-10 「Design」ビューのレイアウト・ページの書式設定ツールバー



書式設定ツールバーのオプションは、ユーザーが使い慣れているワード・プロセッサ・プログラムのオプションとほぼ同じです。

それぞれの説明は次のとおりです。

ツールバー・オプション	説明
	テキストの書体を変更します。 使用可能な書体は、使用しているコンピュータから読み取られます (Web セーフ・フォントは反映されません)。
	テキストのサイズを変更します。
	テキストの色を変更します。
	テキストの背景色を変更します。
	テキストを太字に設定するか、選択済テキストの太字設定を解除します。
	テキストを斜体に設定するか、選択済テキストの斜体設定を解除します。
	テキストに下線を追加するか、選択済テキストの下線を削除します。
	太字や斜体など、テキストに適用されているすべての書式設定を解除します。
	番号付きリストを追加または削除します。
	記号付きリストを追加または削除します。
	テキストを右に移動します。
	テキストを左に移動します。
	テキストを左に揃えます。
	テキストを中央に揃えます。
	テキストを右に揃えます。
	Create Hyperlink Wizard を起動します。このウィザードで、サイトの別のセクション、サイトのファイル、または別のサイトの URL を宛先とするリンクを作成できます (6-13 ページの「 ハイパーリンクの操作 」を参照)。
	ハイパーリンクを削除します。

ツールバー・オプション	説明
	レイアウト・ページで使用されている HTML タグの表示と非表示を切り替えます。特定の HTML タグの表示と非表示を切り替えるには、下向き矢印をクリックして適切なタグを選択します。
	枠線のないアイテム（表、フラグメント、コントリビューション・リージョンなど）を囲むプレースホルダの枠線の表示と非表示を切り替えます。
	「Source」ビューで読みやすくなるように、ソース・コードを揃えて整列します。このオプションは、「Source」ビューでのみ使用できます。

書式設定ツールバーに加え、「Edit」メニューを使用して、レイアウト・ページのある部分から別の部分に対してコンテンツの切り取り、コピーおよび貼付け操作を行うこともできます。キーボード・コマンドによる切り取り、コピーおよび貼付け操作も使用できます。

6.4.3 HTML ツールバーについて






HTML ツールバーは、よく使用される（ブロック）書式設定タグをレイアウト・ページのテキストやグラフィックに追加する際に役立ちます。このツールバーは、「Design」ビューでの作業時に他のツールバーとともに表示されます。

図 6-11 「Design」ビューの HTML ツールバー



HTML ツールバーを使用して、見出し、グラフィック、水平線、改行などを追加できます。レイアウト・ページでタグを追加する場所にカーソルを置き、ツールバーの適切なボタンをクリックするか、ドロップダウン・リストから適切なタグを選択します。

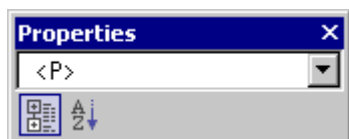
HTML ツールバーの各アイテムの説明は次のとおりです。

ツールバー・オプション	説明
	テキストのブロック書式設定によく使用されるタグ（<H1> や <ADDRESS> など）を追加します。 メニューからいずれかのタグを選択すると、そのタグがレイアウト・ページのカーソル位置に挿入されます。カーソル位置にある同じタグに含まれるすべてのテキストが影響を受けます。
	グラフィックを検索してレイアウト・ページに追加できる「Content Server」ダイアログを表示します。 タグがソース・コードに挿入されます。 6-11 ページの「 グラフィックの操作 」を参照してください。
	水平線を挿入します。<HR> タグがソース・コードに挿入されます。
	改行を挿入します。 タグがソース・コードに挿入されます。
	改行なしの空白を挿入します。コード がソース・コードに挿入されます。

6.4.4 「Properties」ペインでのテキストの書式設定

「Design」ビューでレイアウト・ページに追加するすべてのものは、HTML タグに関連していません。テキストに関連する HTML タグは、「Properties」ペインのメニューに表示されます。「Properties」ペインで HTML タグの属性を直接変更できます。

図 6-12 パラグラフ・タグの <P> が選択されている「Properties」ペイン



「Properties」ペインを使用してテキストを書式設定するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページで書式を変更する場所にカーソルを置きます。
2. 「Properties」ペインを表示します。(ペインが閉じている場合、「View」→「Properties」をクリックします。) テキストに関連する HTML タグは、一番上のメニューに表示されません。
3. HTML タグの各属性の横にあるテキスト・ボックスに新しい値を入力します。

「Properties」ペインには、特定の HTML タグで変更できるすべての属性が表示されます。これらの要素の詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト (<http://www.w3.org/TR/html401/index/elements.html>) の説明を参照してください。

6.4.5 テキストへの CSS クラスの適用

Site Studio のデフォルトでは、フォントとパラグラフの設定が直接 (インラインで) テキストに適用されます。書体として「Arial」を、フォント・サイズとして「Large」を選択すると、指定される HTML は次のようになります。

```
<font face="Arial" size="5"></font>
```

別の方法として、Cascading Style Sheet (CSS) のクラスをテキスト (およびイメージ) に適用できます。CSS クラスを使用して、フォントおよびパラグラフ設定のすべてを 1 つの場所に格納し、それらの設定を Web ページに適用できます。

これにより、見出しやパラグラフごとにフォントおよびパラグラフ設定を変更することなく、それぞれに対応するクラスを指定できるため、作業時間が短縮されます。これらの設定を変更する必要がある場合は、クラスを更新すれば済みます。

CSS クラスを実装するには、レイアウト・ページのヘッドにスタイルシートへの参照を挿入します。これには、次のように相対パスを使用できます。

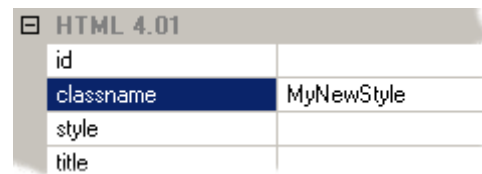
```
<link href="<!--$HttpRelativeWebRoot-->groups/public/documents/adacct/  
stylesheet.css" type="text/css" rel="stylesheet" />
```

または、次のようにフルパスを使用できます。

```
<link href="http://<server>/<instance>/groups/public/documents/adacct/  
stylesheet.css" type="text/css" rel="stylesheet" />
```

次に、「Source」ビューでレイアウト・ページを編集するか、「Design」ビューで「Properties」ペインを使用して、スタイルシートのクラス名をテキストおよびグラフィックに適用します。

図 6-13 「Properties」 ペインを使用した MyNewStyle クラスの適用



デザイナーの「Site Assets」ペインは、コンテンツ・サーバーの Cascading Style Sheet (CSS) へのパスを追加、編集および識別する際に非常に便利です (5-30 ページの「[サイト・アセット](#)」を参照)。

Site Studio に付属するフラグメントの多くには、フラグメントのアセットとして CSS ファイルが含まれます (7-17 ページの「[フラグメント・アセットの追加と編集](#)」を参照)。必要に応じて、これらの CSS ファイルのクラス名を参照することもできます。

コントリビュータ・アプリケーションでの作業時に各コントリビュータがこれらのクラスを使用できるようにすることも可能です (11-18 ページの「[コントリビュータ用の CSS クラスの設定](#)」を参照)。これにより、サイト全体に一貫性のあるスタイルが適用され、サイト全体でのフォントの更新がずっと簡単になります。

6.5 グラフィックの操作

コンテンツ・サーバーに格納されたグラフィックは、HTML ツールバー (6-9 ページの「[HTML ツールバーについて](#)」を参照) を使用して簡単にレイアウト・ページに追加できます。レイアウト・ページに配置したグラフィックに対して、切り取り、コピー、貼付けおよびサイズ変更などの操作を行うことができます。また、「Properties」ペインを使用すると、編集を詳細に調整することや、 タグを直接変更することができます。

この項の内容は次のとおりです。

- 6-11 ページの「[グラフィックの追加](#)」
- 6-12 ページの「[グラフィックのサイズ変更](#)」
- 6-13 ページの「[グラフィックの削除](#)」

6.5.1 グラフィックの追加

HTML ツールバーを使用して、レイアウト・ページにグラフィックを追加できます。この操作は、「Design」ビューまたは「Source」ビューで実行できます。

グラフィックをレイアウト・ページに追加するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページでグラフィックを表示する場所にカーソルを置きます。
2. HTML ツールバーの「Insert Image」アイコン (図 6-14) をクリックします。

図 6-14 イメージ・タグの挿入



3. 「Content Server」ダイアログで、適切なグラフィックの横にある「Select」をクリックします。

レイアウト・ページのカーソル位置にグラフィックが表示されます。

デザイナーの「Site Assets」ペインは、ファイル・システムからコンテンツ・サーバーにグラフィックを追加する場合に非常に便利です (5-30 ページの「[サイト・アセット](#)」を参照)。

注意： デザイナでのグラフィックの追加時に、検索結果にグラフィックが表示されるためには、グラフィックのファイル拡張子が .jpg、.gif、.png または .bmp であるか、コンテンツ・サーバーにチェックインされたグラフィックの WebsiteObjectType が「Image」である必要があります。

6.5.2 グラフィックのサイズ変更

レイアウト・ページで直接グラフィックのサイズやその HTML 属性を変更できます。または、「Properties」ペインを使用して同じ操作を実行できます。

レイアウト・ページでグラフィックのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. マウス・カーソルをグラフィックの上に置くと、カーソルが選択ツール (図 6-15) に変化します。その状態でグラフィックをクリックすると、サイズ変更が可能になります。

図 6-15 選択ツール



2. カーソルをグラフィックの端に合せると、カーソルが二重矢印 (図 6-16) に変化します。

図 6-16 二重矢印



3. クリックしてドラッグし、グラフィックのサイズを変更します。

「Properties」ペインを使用してグラフィックのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. マウス・カーソルをグラフィックの上に置くと、カーソルが選択ツール (図 6-17) に変化します。その状態でグラフィックをクリックすると、編集が可能になります。

図 6-17 選択ツール



2. 「Properties」ペインのメニューに タグが表示された状態で、width と height が見つかるまでリストをスクロールします。
3. 各フィールドに新しいピクセル値を入力し、キーボードの [Enter] を押すか、「Properties」ペインの任意の場所をクリックします。

width および height 以外にも、変更できる HTML 属性があります。 タグの詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト (<http://www.w3.org/TR/html401/struct/objects.html#edef-IMG>) の説明を参照してください。

6.5.3 グラフィックの削除

グラフィックは、レイアウト・ページで直接削除できます。ただし、コンテンツ・サーバーの実際のグラフィックは、削除されません。

レイアウト・ページでグラフィックを削除するには、次の手順を実行します。

1. マウス・カーソルをグラフィックの上に置くと、カーソルが選択ツール (図 6-18) に変化します。その状態でグラフィックを選択します。

図 6-18 選択ツール



2. キーボードの [Del] キーを押してグラフィックを削除します。

「Site Assets」ペインを使用して Web サイトからグラフィックを削除することもできます (5-36 ページの「[サイト・アセットの削除](#)」を参照)。

6.6 ハイパーリンクの操作

ハイパーリンクにより、訪問者は、ある Web ページから別の Web ページに簡単に移動できます。ハイパーリンクが最も一般的に使用される場所は、トップ・メニュー、サイド・メニュー、ブレッドクラムなどのサイト・ナビゲーション内です。Site Studio では、ナビゲーション・フラグメントを使用してこれらのメニューを簡単に作成できます (B-2 ページの「[ナビゲーション・フラグメント](#)」を参照)。

ただし、ユーザーを特定のコンテンツに移動させる追加リンクを作成することもできます。サイトの別のセクション、サイトのコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント、別の Web サイトなどに対するリンクを追加できます。これを行うには、Create Hyperlink Wizard を使用します。

この項の内容は次のとおりです。

- 6-14 ページの「[別のセクションに対するリンクの作成](#)」
- 6-15 ページの「[データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントに対するリンクの作成](#)」
- 6-17 ページの「[URL に対するリンクの作成](#)」
- 6-18 ページの「[ハイパーリンクの編集](#)」
- 6-18 ページの「[ハイパーリンクの削除](#)」
- 6-19 ページの「[デフォルトのリンク形式の選択](#)」
- 6-20 ページの「[ハイパーリンクの形式](#)」

設計者は、デザイナーでハイパーリンクを作成する以外に、コントリビュータ・アプリケーションでのハイパーリンクの作成と編集を各コントリビュータに許可できます。この設定は、コントリビューション・リージョンに要素を追加する際に行います (第 8 章「[コントリビューションの設定](#)」を参照)。

6.6.1 別のセクションに対するリンクの作成

現在のサイトの別のセクション、またはコンテンツ・サーバーの別のサイトのセクションに対するリンクを作成できます。たとえば、Products セクション、Support セクションまたはホームに対するリンクを作成できます。これを行うには、Create Hyperlink Wizard を使用します。

別のセクションに対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. リンクに変換するテキスト（またはイメージ）を選択します。
2. 書式設定ツールバーの「Create Hyperlink」(図 6-19) をクリックします。

図 6-19 「Create Hyperlink」アイコン



3. Create Hyperlink Wizard の最初の画面で、「Link to a section」を選択します。
4. 「Next」をクリックします。
5. リンク先のセクションを選択します。
6. 「Next」をクリックします。
7. リンクの形式を選択します (6-20 ページの「ハイパーリンクの形式」を参照)。

デザイナーで非表示にするよう設定している場合、ウィザードのこのページは表示されないことがあります (6-19 ページの「デフォルトのリンク形式の選択」を参照)。その場合、手順 9 に進んでください。

- **Path-based URL:** リンクでは、次のようにターゲット・セクションに対するフルパスを使用します。

```
<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->products/index.htm
```

(<!--\$ssServerRelativeSiteRoot--> は、Web サイトのルートのパスに置き換えられます。)

- **Generate relative path:** リンクでは、次のようにフルパスのかわりに相対パスを使用します。

```
../products/index.htm
```

- **ID-based URL:** リンクでは、クライアント側またはサーバー側スクリプトを通じて、ターゲット・セクションのコード化された識別子 (ID) を使用します。次のいずれかのオプションを選択します (次の例では、123 がターゲット・セクションを表します)。

- **Client-side script format:** 次のように、クライアント側 JavaScript とターゲット・セクションの ID を使用します。

```
javascript:nodelink('123');
```

- **Server-side script format:** 次のように、サーバー側 Idoc スクリプトとターゲット・セクションの ID を使用します。

```
<!--$ssNodeLink("123")-->
```

- **URL token format:** 次のように、Site Studio トークンとターゲット・セクションの ID を使用します。

```
ssNODELINK/123
```

8. 「Next」をクリックします。

9. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「Open link target in new window」を選択し、メニューの「_blank」を選択します。
10. 「Finish」をクリックしてウィザードを閉じ、レイアウト・ページに戻ります。

ハイパーリンクのデフォルトのリンク形式（前述の手順7）を選択し、すべてのリンクで同じ形式が使用されるようにウィザードでこのオプションを非表示にすることができます（6-19 ページの「デフォルトのリンク形式の選択」を参照）。

6.6.2 データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントに対するリンクの作成

現在のサイトの別のファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）、あるいはコンテンツ・サーバーの別のサイトのファイルに対するリンクを作成できます。リンクを作成するには、リンクに変換するテキストを選択し、Create Hyperlink Wizard を起動します。

データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントに対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。


1. リンクに変換するテキスト（またはイメージ）を選択します。
2. 書式設定ツールバーの「Create Hyperlink」アイコン（ 図 6-20）をクリックします。

図 6-20 「Create Hyperlink」アイコン



3. Create Hyperlink Wizard の最初の画面で、「Link to a data file or native document」を選択します。
4. 「Next」をクリックします。
5. リンク先のファイルに関して次のいずれかのオプションを選択します。
 - コンテンツ・サーバーの既存のファイルを選択するには、「Choose」→「Existing」をクリックします。次に、コンテンツ・サーバーで、使用するファイルの横にある「Select」をクリックします。

図 6-21 コンテンツ・サーバーでの既存のファイル・リストの選択

Select	ID	Title
Select	mydatafile	New Contributor D...

（リストに表示されるのは、WebsiteObjectType として「Data File」または「Native Document」が指定されているファイルのみです。）

- 完全に新規のファイルを作成するには、「Choose」→「New」をクリックし、リストからファイルのタイプを選択します。

図 6-22 新規ファイル作成メニュー



次に、コンテンツ・サーバーでファイルに適切なメタデータを割り当て、「Assign Info」をクリックします。

- コンピュータにある既存のファイルを選択するには、「Choose」→「Local」をクリックします。次に、ファイルを検索して「Open」をクリックし、手順に従ってそのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。
6. これにより、「Choose Region Content」ダイアログ・ボックスに戻ります。この画面には、リージョンに割り当てられたファイルの詳細（コンテンツ ID、タイトル、作成者など）が表示されます。このファイルのコンテンツ情報ページを表示するには、「Document Info」をクリックします。
 7. 「Next」をクリックします。
 8. Web サイトでこのファイルを表示するセクションを選択します（9-12 ページの「ターゲット・セクションの理解」を参照）。次の 2 つのオプションがあります。
 - **Use Web Site Section metadata:** ファイルは、自身が格納されているセクションに表示されます。
 - **Use following section:** ファイルは、指定したセクションに表示されます。現在のサイトのセクションを選択するか、コンテンツ・サーバーの別のサイトのセクションを選択できます。
 9. 「Next」をクリックします。
 10. リンクの形式を選択します（6-20 ページの「ハイパーリンクの形式」を参照）。（次の例では、myfile がリンク先のファイルを表し、123 がターゲット・セクションを表します。）
 デザイナで非表示にするよう設定している場合、ウィザードのこのページは表示されないことがあります（6-19 ページの「デフォルトのリンク形式の選択」を参照）。その場合、手順 12 に進んでください。

- **Path-based URL:** リンクでは、次のようにターゲット・ロケーションに対するフルパスを使用します。

```
<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->products/myfile
```

(<!--\$ssServerRelativeSiteRoot--> は、Web サイトのルートのパスに置き換えられます。)

- **Generate relative path:** リンクでは、次のようにフルパスのかわりに相対パスを使用します。

```
../products/myfile
```

- **ID-based URL:** リンクでは、クライアント側またはサーバー側スクリプトを通じて、ターゲット・セクションのコード化された識別子 (ID) を使用します。次のいずれかのオプションを選択します（手順 8 で選択したオプションに応じて、「Use Web Site Section」または「Use following section」に対応する 2 つの例を示します）。

- **Client-side script format:** 次のように、クライアント側 JavaScript とターゲット・ロケーションの ID を使用します。

```
javascript:link('myfile'); (for "Use Web Site Section"), or  
javascript:link('myfile','123'); (for "Use following section")
```

- **Server-side script format:** 次のように、サーバー側 Idoc スクリプトとターゲット・ロケーションの ID を使用します。

```
<!--$ssLink("myfile")--> (for "Use Web Site Section"), or  
<!--$ssLink("myfile","123")--> (for "Use following section")
```

- **URL token format:** 次のように、Site Studio トークンとターゲット・ロケーションの ID を使用します。

```
ssLINK/myfile (for "Use Web Site Section"), or  
ssLINK/123/myfile (for "Use following section")
```

11. 「Next」をクリックします。
12. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「Open link target in new window」を選択し、メニューの「_blank」を選択します。
13. 「Finish」をクリックしてウィザードを閉じ、レイアウト・ページに戻ります。

コントリビューションに使用されないファイル（PDF、オーディオ・クリップ、ZIP ファイルなど）に対するリンクを作成するには、6-17 ページの「URL に対するリンクの作成」の手順を実行し、Web サイトの URL のかわりにファイルの Web アドレスを指定します。

手順 10 で「Use Web Site Section metadata」を選択した場合、手順 9 では ID ベース URL を使用する必要があります（パスベース URL は無効です）。

新規コントリビュータ・データ・ファイルを作成する場合、設計者またはコントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用してそのファイルを編集する必要があります。この作業を行うまで、Web ページには多少空白の部分が目立ちます。

設計者（および各コントリビュータ）は、サイトに新規データ・ファイルを追加する場合、その新規ファイルを処理するようにサイトが適切に設定されていることを確認する必要があります（9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照）。

6.6.3 URL に対するリンクの作成

別の Web サイト（<http://www.oracle.com> など）、またはコンテンツ・サーバーの別のファイル（PDF、オーディオ・クリップ、ZIP などのコントリビューションに使用されないファイル）に対するリンクを作成できます。これを行うには、Create Hyperlink Wizard を使用します。

Web アドレスに対するリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. リンクに変換するテキスト（またはイメージ）を選択します。
2. 書式設定ツールバーの「Create Hyperlink」アイコン（[図 6-23](#)）をクリックします。

図 6-23 「Create Hyperlink」アイコン



3. Create Hyperlink Wizard の最初の画面で、「Link to following URL」を選択します。
4. 付属のフィールドに Web アドレスを入力します。
コンテンツ・サーバーの管理対象ファイルを使用するには、このフィールドにその Web アドレスを入力します。ファイルの Web アドレスは、コンテンツ・サーバーのコンテンツ情報ページで確認できます。
5. 「Next」をクリックします。
6. リンクをクリックしたときに Web ブラウザの新規ウィンドウで開く場合、「Open link target in new window」を選択し、メニューの「_blank」を選択します。
7. 「Finish」をクリックしてウィザードを閉じ、レイアウト・ページに戻ります。

手順 4 では、URL の検索にグローブ・アイコン（[図 6-24](#)）を使用することもできます。この機能を使用する場合、グローブ・アイコンをクリックし、Web ページに移動します。次に、グローブ・アイコンを再度クリックし、ブラウザを閉じます。

図 6-24 グローブ・アイコン



別の Web サイトに対するリンクを作成する場合、訪問者が不注意で現在の Web サイトから移動しないように、「Open link target in new window」オプション（手順 6）を使用すると便利です。

6.6.4 ハイパーリンクの編集

ハイパーリンクを追加したら、リンクを選択して **Create Hyperlink Wizard** を起動することでそのリンクを編集できます。

ハイパーリンクを編集するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページで、ハイパーリンクとして機能しているテキストまたはグラフィックにカーソルを置きます。
2. 書式設定ツールバーの「**Create Hyperlink**」アイコン (図 6-25) をクリックします。

図 6-25 「**Create Hyperlink**」アイコン



3. これにより、**Create Hyperlink Wizard** が起動します。このウィザードで、追加したときと同じ手順を使用してハイパーリンクを変更できます。
4. 「**Finish**」をクリックしてウィザードを閉じ、レイアウト・ページに戻ります。

ハイパーリンクを編集する場合、リンクとして機能しているテキストまたはグラフィックにカーソルを置き、「**Properties**」ペインで **href** 属性を編集する方法もあります。

6.6.5 ハイパーリンクの削除

ハイパーリンクは、書式設定ツールバーの「**Remove Hyperlink**」ボタンを使用して削除できます。ハイパーリンクを削除すると、ハイパーリンクとして機能しているテキストまたはグラフィックから **<A>** タグ属性が削除されます。

ハイパーリンクを削除するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページで、ハイパーリンクとして機能しているテキストまたはグラフィックを選択します。
2. 書式設定ツールバーの「**Remove Hyperlink**」アイコン (図 6-26) をクリックします。

図 6-26 「**Remove Hyperlink**」アイコン



これにより、選択したテキストまたはグラフィックからハイパーリンク属性が削除されます。

別の方法として、リンクを選択してキーボードの **[Del]** を押すことで、テキストとハイパーリンクの両方を削除できます。

6.6.6 デフォルトのリンク形式の選択

Create Hyperlink Wizard を使用してハイパーリンクを作成する場合、リンク形式に関して様々な選択を行います。リンク形式は、リンクの構成方法に相当します。リンクでは、ターゲット・ロケーションを指定するのにパスベース URL または ID ベース URL を使用します。

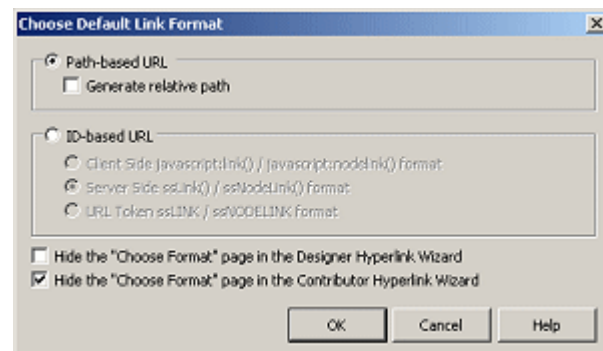
各形式内で、さらに別の選択を行う必要があります（相対パス、クライアント側 ID、サーバー側 ID など）。各オプションには、メリットとデメリットがあります（6-20 ページの「[ハイパーリンクの形式](#)」を参照）。そのため、デフォルトの形式を選択し、Create Hyperlink Wizard で設計者とコントリビュータを対象にこのオプションを非表示にすることができます。

デフォルトのリンク形式を選択するには、次の手順を実行します。

1. 「File」 → 「Site」 → 「Advanced」 → 「Set Default Link Format」 を選択します。

これにより、「Choose Default Link Format」ダイアログ・ボックスが表示されます（A-21 ページの「[Choose Default Link Format](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）。

図 6-27 「Choose Default Link Format」ダイアログ・ボックス



2. リンクでターゲット・ロケーションに対するフルパス（`<!--$ssServerRelativeSiteRoot-->products/index.htm` など）を使用する場合、「**Path-based URL**」を選択します。
 - リンクでターゲット・ロケーションに対する相対パス（`../products/index.htm` など）を使用する場合、「**Generate relative path**」を選択します。
3. リンクで ID ベース・アドレスを使用する場合、「**ID-based URL**」を選択します。
 - リンクでクライアント側 JavaScript とターゲット・ロケーションの ID を使用する場合、「**Client Side javascript:link() / javascript:nodelink() format**」を選択します。
 - リンクでサーバー側 Idoc スクリプトとターゲット・ロケーションの ID を使用する場合、「**Server Side ssLink() / ssNodeLink() format**」を選択します。
 - リンクで Site Studio トークンとターゲット・ロケーションの ID を使用する場合、「**URL Token ssLINK / ssNODELINK format**」を選択します。
4. デザイナーでのリンクの作成時にこのオプションを非表示にする場合、「**Hide the "Choose Format" page in the Designer Hyperlink Wizard**」を選択します。
5. コントリビュータでのリンクの作成時にこのオプションを非表示にする場合、「**Hide the "Choose Format" page in the Contributor Hyperlink Wizard**」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

Create Hyperlink Wizard の「Choose Format」画面は、いくつかの理由から非表示にすることがあります（たとえば、ユーザーの混乱を防ぐため、ユーザーによる不適切なリンク選択を防ぐため、またはサイト全体でハイパーリンクの一貫性を保つためです）。

6.6.7 ハイパーリンクの形式

ハイパーリンクを作成する場合、リンク形式に関して様々な選択を行います。リンク形式は、リンクの構成方法に相当します。リンクには、パスベース URL または ID ベース URL を選択できます。

パスベースを選択する場合、フルパスまたは相対パスを選択できます。ID ベースを選択する場合、クライアント側スクリプト、サーバー側スクリプト、または Site Studio が提供する特殊なトークンを選択できます。

各方法にはメリットとデメリットがあります。次の比較一覧表を確認してください（詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』を参照してください）。

比較一覧

メリット	フルパス	相対パス	サーバー側 ID	クライアント側 ID	URL トークン
自然なサイト・アドレス	✓	✓	✗	✗	✗
わかりにくい siteID および nodeID 値の隠蔽	✓	✓	✓	✗	✗
検索エンジンによる索引付けが可能	✓	✓	✓	✗	✓
サイト階層の変更による影響を受けない	✗	✗	✓	✓	✓
再利用されたレイアウト・ページでの動作	✓	✗	✓	✓	✓
サーバー側スクリプトが不要	✓	✓	✗	✓	✓
クライアント側スクリプトが不要	✓	✓	✓	✗	✓
サーバーでのリダイレクトが不要	✓	✓	✓	✗	✗
ブックマーク・リンクが可能	✓	✓	✗	✗	✗
パラメータの受渡しに対応	✓	✓	✗	✗	✓
ポップアップ・ウィンドウで表示可能	✓	✓	✓	✗	✓
ネイティブ・ドキュメントで使用可能	✓	✓	✗	✓	✓

各カテゴリの説明

カテゴリ	説明
自然なサイト・アドレス	URL にパススペースのわかりやすいアドレスが表示されます。
わかりにくい siteID および nodeID 値の隠蔽	サイトを参照する訪問者とコントリビュータに、URL のわかりにくい Site Studio テクノロジーが表示されません。
検索エンジンによる索引付けが可能	検索エンジンはサイトに索引を付けることができます。
サイト階層の変更による影響を受けない	リンクに影響を与えることなくサイト階層を変更できます (セクション名の変更や、あるセクションの別のセクションへの移動などが可能です)。
再利用されたレイアウト・ページでの動作	サイト全体を通じてレイアウト・ページ、データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを再利用できます。リンクは常に同じように機能します。
サーバー側スクリプトが不要	Web サイトは、サーバー側スクリプト (Idoc スクリプト、JSP、ASP など) に依存する必要がありません。
クライアント側スクリプトが不要	Web サイトは、クライアント側 JavaScript に依存する必要がありません。
サーバーでのリダイレクトが不要	Web サイトは、ID ベースのアドレスをパスベースのアドレスに転送するサーバー側のリダイレクトに依存する必要がありません (このリダイレクトは、サイトのパフォーマンスを低下させる可能性があります)。
ブックマーク・リンクが可能	ユーザーが Web ページの任意の場所にリンクできる、ブックマーク・リンク用のリンクを使用できます。
パラメータの受渡しに対応	適切な結果を得るために、URL にパラメータを追加する (受け渡す) ことができます。
ポップアップ・ウィンドウで表示可能	リンクを使用して、新規ポップアップ・ウィンドウを開くことができます (スクリプト処理が必要)。
ネイティブ・ドキュメントで使用可能	ネイティブ・ドキュメントで同じ形式のリンクを使用できます。

6.7 HTML 表の操作

HTML 表は、Web ページの設計に不可欠な構成要素です。HTML 表により、そのままの状態ではコンテンツの配置が定まらない Web ページに構造がもたらされます。レイアウト・ページでの HTML 表の操作方法は、他の Web ページの表と同じです。HTML 表の使用により、ページ的设计が適切であるか適切でないかがはっきりと分かります。

HTML 表の主な用途は、(1) データを表形式で表示することと、(2) テキストやグラフィックを Web ページ上に適切に配置することの 2 つです。サイトの設計者は、後者の用途で頻繁に表を使用することになります。

表で作業する場合、表のサイズと場所、それぞれの行と列のサイズ、および各セルに配置するコンテンツを指定することで、Web ページでのコンテンツの表示方法を制御できます。表の枠線を非表示にすれば、サイト訪問者に表は表示されません。Site Studio で表が特に役立つのは、コントリビューション・リージョンと、その内部の要素の位置決めを行う場合です。

この項の内容は次のとおりです。

- 6-22 ページの「[デザイナーの表について](#)」
- 6-24 ページの「[表の追加](#)」
- 6-25 ページの「[表のサイズ変更](#)」
- 6-25 ページの「[表への行の追加](#)」
- 6-26 ページの「[表への列の追加](#)」

- 6-26 ページの「表のセルの分割とマージ」
- 6-27 ページの「表の行のサイズ変更」
- 6-28 ページの「表の列のサイズ変更」
- 6-28 ページの「表の枠線の表示と非表示」
- 6-29 ページの「表の削除」

6.7.1 デザイナの表について

「Design」ビューでは、次のような多くのツールを使用して表を追加および編集できます。

- 表ツールバー
- マウス操作
- 「Properties」ペイン
- 既存の表レイアウトの使用

表ツールバー






表ツールバーは、「Design」ビューでの作業時に他のツールバーとともに表示されます。

図 6-28 「Design」ビューの表ツールバー



表ツールバーを使用して、表、行、列、セルを追加および削除できます。変更する表のセルにカーソルを置き、表ツールバーの適切なボタンをクリックします。

それぞれの説明は次のとおりです。

オプション	説明
	レイアウト・ページに新規表を追加します。
	レイアウト・ページから表を削除します。
	表に新規行を挿入します。
	表に新規列を挿入します。
	表のセルを分割します。
	Merge Left: カーソルの置かれているセルと左側のセルをマージします。
	Merge Up: カーソルの置かれているセルと上側のセルをマージします。
	Merge Right: カーソルの置かれているセルと右側のセルをマージします。
	Merge Down: カーソルの置かれているセルと下側のセルをマージします。

マウス操作

列、行およびセルの数に関して表レイアウトに問題がなければ、マウスを使用して表のサイズを変更できます。表の枠線上にマウス・カーソルを置くと、カーソルが二重矢印 (図 6-29) に変化します。その状態でマウスをドラッグし、表の幅または高さのサイズを変更します。

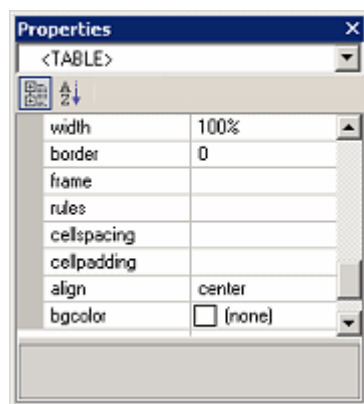
図 6-29 二重矢印ツール



「Properties」ペイン

表で特定の編集を行う場合、「Properties」ペインで HTML <TABLE> タグを直接変更できます。

図 6-30 「Design」ビューでの <TABLE> タグのプロパティ



「Properties」ペインでは、背景色、枠線の幅、セル内の余白、および他の多くの設定を変更できます。<TABLE> タグの詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト (<http://www.w3.org/TR/html401/struct/tables.html#edef-TABLE>) の説明を参照してください。

既存の HTML 表レイアウトの使用

すでにサード・パーティ・エディタ (Microsoft FrontPage や Adobe Dreamweaver など) で表レイアウトを作成済みで、それをレイアウト・ページに使用する場合、次の 2 つの方法があります。

- 作成済の Web ページから HTML コードをコピーし、それを「Source」ビューでレイアウト・ページに貼り付けます。
- サード・パーティ・エディタで初期 Web ページを作成します。次に、デザイナーで、ファイル・システムに格納された既存のレイアウト・ページに基づいて新規レイアウト・ページを作成します (5-23 ページの「[サイト階層へのプライマリ・ページの追加](#)」を参照)。作成する Web ページには、デザイナーで構築中のサイトのタイプに応じて、.hcsp、.jsp または .asp ファイル拡張子を付ける必要があります。

6.7.2 表の追加

デザイナーの「Insert Table」アイコン (図 6-31) には、いくつかのサンプル表が格納されています。アイコンの右側にある下向き矢印をクリックしてメニューを表示し、レイアウト・ページに挿入する表をクリックします。

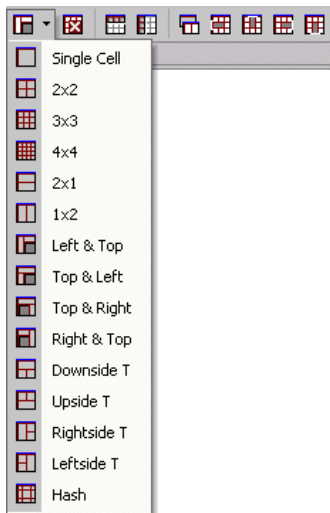
図 6-31 「Insert Table」アイコン



表を追加するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページで表を追加する場所にカーソルを置きます。
2. 表ツールバーで、「Insert Table」アイコン (図 6-31) の横の下向き矢印をクリックします。
3. リストのいずれかの表をクリックします。

図 6-32 「Insert Table」メニュー



新しい表がレイアウト・ページに追加されます。マウスと「Properties」ペインを使用して、サイズや属性の変更を行うことができます。

レイアウト・ページに表を追加したら、表がページの端に合うように、ページのマージンを変更できます。これを行うには、HTML <BODY> タグでマージンを変更します。

6.7.3 表のサイズ変更

レイアウト・ページで直接表のサイズやその HTML 属性を変更できます。または、「Properties」ペインを使用できます。

レイアウト・ページで表のサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. マウス・カーソルを表の上に置くと、カーソルが選択ツール (図 6-33) に変化します。その状態で表をクリックすると、編集が可能になります。

図 6-33 選択ツール



2. カーソルを表の枠線に合せると、カーソルが二重矢印 (図 6-34) に変化します。

図 6-34 二重矢印ツール



3. クリックしてドラッグし、表のサイズを変更します。

「Properties」ペインを使用して表のサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. マウス・カーソルを表の上に置くと、カーソルが選択ツール (図 6-35) に変化します。その状態で表をクリックすると、編集が可能になります。

図 6-35 選択ツール



2. 「Properties」ペインのメニューに <TABLE> タグが表示された状態で、width 属性が見つかるまでリストをスクロールします。
3. width に対して新しいピクセル値またはパーセント値を入力し、キーボードの [Enter] を押すか、「Properties」ペインの任意の場所をクリックします。

表の width 以外にも、変更できる HTML 属性があります。<TABLE> タグの詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト (<http://www.w3.org/TR/html401/struct/tables.html#edef-TABLE>) の説明を参照してください。

6.7.4 表への行の追加

表ツールバーを使用して、既存の表に行を追加できます。「Properties」ペインを使用すると、行の外観を詳細に調整できます。

表に行を追加するには、次の手順を実行します。

1. 新規行を追加する表のセルにカーソルを置きます。
2. 表ツールバーの「Insert Row」アイコン (図 6-36) をクリックします。

図 6-36 「Insert Row」アイコン



新規行が選択したセルの上に挿入されます。

6.7.5 表への列の追加

表ツールバーを使用して、既存の表に列を追加できます。「Properties」ペインを使用すると、列の外観を詳細に調整できます。

表に列を追加するには、次の手順を実行します。

1. 新規列を追加する表のセルにカーソルを置きます。
2. 表ツールバーの「Insert Column」アイコン (図 6-37) をクリックします。

図 6-37 「Insert Column」アイコン



新規列が選択したセルの前に挿入されます。

6.7.6 表のセルの分割とマージ

表ツールバーを使用して、表のセルを分割およびマージできます。セルの分割は新規行または新規列の追加に似ていますが、分割操作はセルのグループではなく単独のセルを対象とします。セルのマージはセルの削除に似ており、隣接するセルどうしを結合します。

セルの分割または別のセルとのマージを行う前に、表のセル内にあるカーソルの位置に注意する必要があります。その位置により、表のセルに含まれる既存のコンテンツの表示場所が決定されるためです。

セルの分割

表のセルを分割するには、次の手順を実行します。

1. 分割する表のセルにカーソルを置きます。
2. 表ツールバーの「Split Cell」アイコン (図 6-38) をクリックします。

図 6-38 「Split Cell」アイコン



3. 「Split Table Cell」ダイアログ・ボックスで、「Columns」または「Rows」をクリックし、このセルから作成する行または列の数を入力します (または、数値の横の上向き矢印または下向き矢印をクリックし、行または列の数を増減します)。
4. 「OK」をクリックしてレイアウト・ページに戻ります。

選択したセルが複数のセルに分割されます。カーソルが最後にあった場所に応じて、セル内の既存のコンテンツの前または後に新規セルが挿入されます。

セルのマージ

表のセルをマージするには、次の手順を実行します。

1. 別のセルとマージする表のセルにカーソルを置きます。
2. 表ツールバーで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 現在選択しているセルと左側のセルをマージする場合、「Merge Left」アイコン (図 6-39) をクリックします。

図 6-39 「Merge Left」アイコン



- 現在選択しているセルと上側のセルをマージする場合、「Merge Up」アイコン (図 6-40) をクリックします。

図 6-40 「Merge Up」アイコン



- 現在選択しているセルと右側のセルをマージする場合、「Merge Right」アイコン (図 6-41) をクリックします。

図 6-41 「Merge Right」アイコン



- 現在選択しているセルと下側のセルをマージする場合、「Merge Down」アイコン (図 6-42) をクリックします。

図 6-42 「Merge Down」アイコン



選択したセルが隣接するセルとマージされます。

特定の方向にマージできないセルにカーソルが置かれていると、表ツールバーのいくつかのマージ・ボタンは使用できなくなります (グレー表示されます)。

6.7.7 表の行のサイズ変更

「Properties」ペインを使用して、表の行のサイズや、表の各セルに関する他の様々な属性を変更できます。

表の行のサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. サイズを変更する表のセルにカーソルを置きます。
2. 「Properties」ペインのメニューに `<TD>` タグが表示された状態で、**width** および **height** 属性が見つかるまでリストをスクロールします。
3. これらの属性に対して新しいピクセル値またはパーセント値を入力し、キーボードの **[Enter]** を押すか、「Properties」ペインの任意の場所をクリックします。

表の行全体のサイズを変更するには、特定の行のすべてのセルに対してこれらの手順を繰り返す必要があります。

行の **width** および **height** 以外にも、変更できる HTML 属性があります。`<TD>` タグの詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト (<http://www.w3.org/TR/html401/struct/tables.html#edef-TD>) の説明を参照してください。

6.7.8 表の列のサイズ変更

「Properties」ペインを使用して、表の列のサイズや、表の各セルに関する他の様々な属性を変更できます。

表の行または列のサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. サイズを変更する表のセルにカーソルを置きます。
2. 「Properties」ペインのメニューに `<TD>` タグが表示された状態で、**width** および **height** 属性が見つかるまでリストをスクロールします。
3. これらの属性に対して新しいピクセル値またはパーセント値を入力し、キーボードの **[Enter]** を押すか、「Properties」ペインの任意の場所をクリックします。

表の行または列全体のサイズを変更するには、特定の行または列のすべてのセルに対してこれらの手順を繰り返す必要があります。

行または列の **width** および **height** 以外にも、変更できる HTML 属性があります。`<TD>` タグの詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト (<http://www.w3.org/TR/html401/struct/tables.html#edef-TD>) の説明を参照してください。

6.7.9 表の枠線の表示と非表示

レイアウト・ページに表を追加すると、その表には自動的に枠線が付けられます。枠線は、データを表形式で表示する場合には便利です。ただし、Web ページ上にテキストとグラフィックを適切に配置するために表を使用する場合、通常は枠線を非表示にします。(表の用途の詳細は、6-21 ページの「HTML 表の操作」を参照してください。) 表の枠線を非表示にするには、**border** 属性を 0 (ゼロ) に設定します。

表の枠線の表示と非表示を切り替えるには、次の手順を実行します。

1. マウス・カーソルを表の上に置くと、カーソルが選択ツール (図 6-43) に変化します。その状態で表をクリックすると、編集が可能になります。

図 6-43 選択ツール



2. 「Properties」ペインのメニューに `<TABLE>` タグが表示された状態で、**border** 属性が見つかるまでリストをスクロールします。
3. 新しい値として 0 (ゼロ) を入力し、キーボードの **[Enter]** を押すか、「Properties」ペインの任意の場所をクリックします。

表から枠線が削除されます。

「Design」ビューでは、表の枠線が削除されないことがあります。これらは、単に非表示の表を示す視覚的な補助線です。現在の Web ページが Web ブラウザにどのように表示されるかを確認するには、「Preview」タブを使用します。または、視覚的な補助線を無効にするには、書式設定ツールバーの「Highlight Borderless Elements」アイコン (図 6-44) をクリックします。

図 6-44 「Highlight Borderless Elements」アイコン



`<TABLE>` タグとその使用可能な属性の詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト (<http://www.w3.org/TR/html401/struct/tables.html#edef-TABLE>) の説明を参照してください。

6.7.10 表の削除

表ツールバーを使用して、レイアウト・ページから簡単に表を削除できます。表を削除すると、表自体と、その内部のすべてのコンテンツ（テキストやグラフィックなど）が削除されます。

表を削除するには、次の手順を実行します。

1. マウス・カーソルを表の上に置くと、カーソルが選択ツール（図 6-45）に変化します。その状態で表をクリックすると、編集が可能になります。

図 6-45 選択ツール



2. 表ツールバーの「Delete Table」アイコン（図 6-46）をクリックします。

図 6-46 「Delete Table」アイコン



または、表を選択した状態で、キーボードの [Del] を押します。

6.8 「Properties」ペイン

「Design」ビューでの作業時に、「Properties」ペインを使用して、Web サイトの様々な設定を表示および編集できます。これには、サイト階層、プライマリ・ページとセカンダリ・ページ（5-16 ページの「Web サイトおよびセクション・プロパティの表示と編集」を参照）、および各レイアウト・ページのコンテンツ（HTML、スクリプト、フラグメントなど）の設定が含まれます。

「Properties」ペインは、特に「Design」ビューで直接変更を行うことができない場合に、レイアウト・ページのコンテンツを編集するのに非常に便利です。たとえば、背景色、ページのマージン、表の幅などを変更する場合です。

「Properties」ペインの一番上のメニューには、HTML タグが表示されます。表示されるタグは、レイアウト・ページでカーソルが置かれている場所に同期します。たとえば、レイアウト・ページの表の各セルにカーソルを移動すると、<TD> タグが表示されます。また、メニューを使用して、レイアウト・ページで使用されている前のタグまたは親タグを選択することも可能です。

「Properties」ペインで使用可能な設定は、メニューで選択されているタグの種類に応じて変化します。たとえば、<BODY> タグが選択されている場合、<BODY> タグに適用されるすべての設定が表示され、<TABLE> タグが選択されている場合、<TABLE> タグに適用されるすべての設定が表示されます。

もちろん、レイアウト・ページを完全に制御する場合は、いつでも「Source」ビューに切り替えて、レイアウト・ページの外観と動作を決定している実際のコードを編集できます（6-3 ページの「「Source」ビュー」を参照）。

HTML タグとその属性の詳細は、次の World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイトの説明を参照してください。

- **HTML タグ:** <http://www.w3.org/TR/html401/index/elements.html>
- **属性:** <http://www.w3.org/TR/html401/index/attributes.html>

HTML のボディ・タグの編集

HTML のボディ・タグ (<BODY>) は、Web ページの多くのプレゼンテーション設定を制御します。このタグは、Web ページに表示されるテキストおよびグラフィックの基本的背景として機能します。ボディ・タグでは、テキストの色、背景色、ページのマージンなどを指定できません。

これらの多くの設定を決定することで、HTML 表レイアウトを補完する必要があります。たとえば、表に背景色が含まれる場合、背景色が Web ページの端と一致するように、通常はボディ・タグに指定されたマージンを削除します。

ボディ・タグは、デザイナーの「Properties」ペインを使用して変更します。

レイアウト・ページでボディ・タグを編集するには、これらのタスクを実行します。

6.9 Web ページの変更の比較

サイト階層のレイアウト・ページを編集していると、自分や他のユーザーが特定のページを編集した前と後でそのページがどのように変化したかを確認したいときがあります。たとえば、削除されたテキストの量、追加された新規テキストの量、編集の多くが発生している場所などを確認できます。

これを行うには、Site Studio のドキュメント比較機能を使用します。この機能を使用して、デザイナーでレイアウト・ページを比較することや、Web ページのコントリビューション・グラフィックを通じて Web ページを比較することができます。使用する方法に応じて、異なる結果を比較することになります。

- **デザイナーでレイアウト・ページを比較する場合**、レイアウト・ページの 2 つのバージョン（メモリー内に格納されているバージョンとコンテンツ・サーバーにチェックインされた最新のバージョン）が比較されます。つまり、ページを保存する前にそのページに加えた変更を確認できます。
- **コントリビューション・グラフィックを使用して Web ページを比較する場合**、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、レイアウト・ページ、フラグメントなどで構成された完全な Web ページの 2 つのバージョンが比較されます。この方法で Web ページを比較すると、ページの現行バージョンと、コンテンツ・サーバーの最新のリリース済バージョンが比較されます。

リリース日付が将来の日時に設定されている場合や、ページがワークフローの一部でまだ承認されていない場合、Web ページの現行バージョンと最新のリリース済バージョン間の差異のみを確認できます。詳細は、第 16 章「ワークフロー」を参照してください。

次の項で、この機能について詳細に説明します。

- 6-31 ページの「Web ページの比較時における差異の色分け」
- 6-31 ページの「変更比較機能の使用」

6.9.1 Web ページの比較時における差異の色分け

デザイナのレイアウト・ページまたは Web サイトの Web ページの 2 つのバージョンを比較する場合、実際の差異を示すなんらかの色分け規則が必要です。Site Studio では、次の規則を使用して変更されたコンテンツを示します。

- 新規テキストは、緑でハイライト表示されます。
- 削除されたテキストは、取消し線とともに赤で表示されます。
- 変更されていないテキストは、黒のまま表示されます。

図 6-47 デザイナで編集されたレイアウト・ページの例

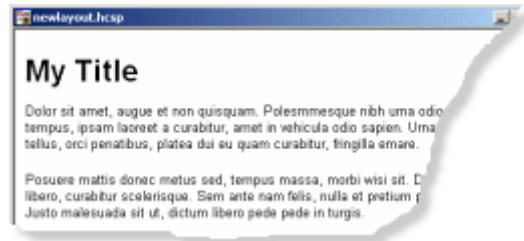
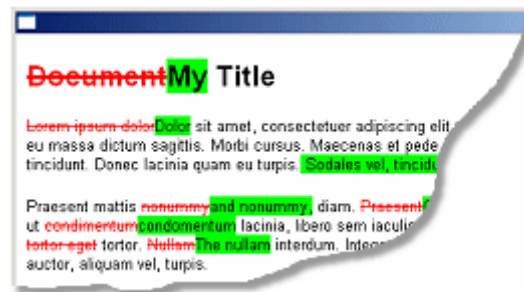


図 6-48 変更がハイライト表示された同じレイアウト・ページ



6.9.2 変更比較機能の使用

デザイナでレイアウト・ページに加えられた変更を比較できます。また、Web サイトの Web ページに加えられた変更を比較できます (6-30 ページの「Web ページの変更の比較」を参照)。

レイアウト・ページの変更の比較

デザイナでレイアウト・ページに加えられた変更を比較するには、次の手順を実行します。

1. デザイナを起動し、通常どおりレイアウト・ページを編集します。
2. レイアウト・ページの未保存のバージョンとコンテンツ・サーバーの保存済のバージョンを比較するには、サイト・ツールバーの「Compare Changes」アイコン (図 6-49) をクリックします。

図 6-49 「Compare Changes」アイコン



3. レイアウト・ページの 2 つのバージョン間の差異を示した新規ウィンドウが表示されます (6-31 ページの「Web ページの比較時における差異の色分け」を参照)。

変更を確認し、ウィンドウを閉じます。

Web ページの変更の比較

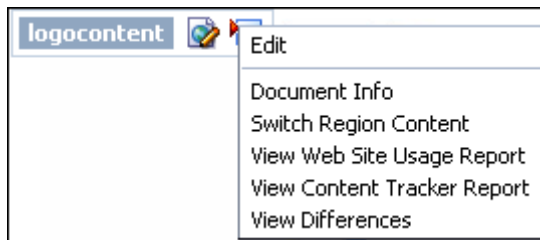
Web サイトの Web ページに加えられた変更を比較するには、次の手順を実行します。

1. 適切な Web ページに移動し、コントリビューション・モードを有効化します。
2. Web ページの 2 つのバージョン（現行バージョンと最新のリリース済バージョン）を比較するには、コントリビューション・グラフィック（[図 6-50](#)）のメニュー・アイコンをクリックし、「View Differences」を選択します。

図 6-50 コントリビューション・グラフィック



図 6-51 コントリビューション・グラフィックのメニュー



3. Web ページの 2 つのバージョン間の差異を示した新規ウィンドウが表示されます（6-31 ページの「[Web ページの比較時における差異の色分け](#)」を参照）。

Web ページの現行バージョンとコンテンツ・サーバーの最新のリリース済バージョン間に差異が存在する場合、新規ウィンドウにはその変更のみが表示されます。通常、この状況が発生するのは、ページに将来のリリース日付が含まれる場合か、ページがワークフローの一部である場合のみです（[第 16 章「ワークフロー」](#)を参照）。変更を確認し、ウィンドウを閉じます。

差異が表示されたページを印刷するには、キーボード・コマンドの **[Ctrl] + [P]** を使用します。

Web ページの 2 つのバージョンを比較する場合、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、レイアウト・ページ、フラグメントなどを含む Web ページ上のすべてのものが比較されます。

この機能では、コンテンツの変更のみが比較され、書式設定の変更は比較されません。たとえば、テキストのフォント・サイズを変更するか、テキストを太字に設定しても、2 つのバージョン間に差異は検出されません。ただし、ある語を別の語に置き換えると、差異として検出されます。イメージについては、多少異なります。イメージのサイズを変更するか、イメージを置き換えると、差異として検出されます。

6.10 フラグメントとコントリビューション・リージョンの追加

レイアウト・ページは、HTML、XML、クライアント側スクリプトおよびサーバー側スクリプトを含むという点において、一般的な Web ページによく似ています。一般的な Web ページに追加するテキスト、グラフィック、表などは、レイアウト・ページにも追加できます（第 6 章「レイアウト・ページ的设计」を参照）。

レイアウト・ページは、次の構成要素を追加した時点で、単なる Web ページとは異なるものになります。

- 6-33 ページの「フラグメント」
- 6-33 ページの「コントリビューション・リージョン」

6.10.1 フラグメント

フラグメントは、Web サイトを構築および管理するための新しいアプローチを提供します。フラグメントは、パッケージされた機能または機能の断片のようなもので、追加前も追加後もレイアウト・ページとは独立して管理できます。

フラグメントは、動的で、頻繁な更新が必要とされ、Web サイト全体または複数の Web サイトで再利用されるコンテンツに最適です。設計者は、扱いにくいと考える任意のコンテンツ（単純なテキスト行からサーバー側スクリプトまで）をフラグメントに変換できます。

フラグメントは、Site Studio の強力な機能です。第 7 章「フラグメントの操作」を参照してください。

6.10.2 コントリビューション・リージョン

コントリビューション・リージョンは、Site Studio のコントリビューション・システムに対して開放された Web サイト上の領域です。これにより、個々のコントリビュータは、真のコンテキスト内編集環境で独自に Web サイトを更新し、Web サイトにコンテンツを追加できます。

レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加したら、そこに 1 つ以上の要素（拡張コントリビューション機能ではフラグメント）を追加し、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てることができます。その後、各コントリビュータは、コントリビューション・リージョンを含む Web ページに移動し、コントリビュータ・アプリケーション（データ・ファイルの場合）またはサード・パーティ・アプリケーション（ネイティブ・ドキュメントの場合）を使用してそのリージョンに割り当てられたコンテンツを編集できます。Web サイト上の変更は、（正式なレビュー・プロセスを有効化していないかぎり）遅延やボトルネックなしに即座に反映されます。

コントリビューション・モデルを確立することで、コンテンツとプレゼンテーションの分離というメリットを確実に得ることができます。第 9 章「コントリビューション・リージョンの操作」を参照してください。

フラグメントの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 7-2 ページの「フラグメントについて」
- 7-2 ページの「フラグメントの追加と編集」
- 7-2 ページの「ツールボックスのフラグメント」
- 7-4 ページの「ツールボックスのフラグメントのフィルタ」
- 7-4 ページの「レイアウト・ページへのフラグメントの追加」
- 7-5 ページの「フラグメントのプレビュー」
- 7-7 ページの「フラグメントの編集」
- 7-10 ページの「新規フラグメントの作成」
- 7-11 ページの「レイアウト・ページのフラグメントの削除」
- 7-11 ページの「ツールボックスのフラグメントの削除」
- 7-12 ページの「フラグメント・エディタの使用」
- 7-23 ページの「フラグメント・ライブラリ」
- 7-12 ページの「フラグメント・エディタの使用」
- 7-23 ページの「フラグメント・ライブラリ」

7.1 フラグメントについて

レイアウト・ページを最初に設計する場合、通常は、背景色、グラフィック、テキストおよび表レイアウトを使用して、サイトの基本的なルック・アンド・フィールを作成することから始めます。この種の情報は、Web サイトのすべてのページに（または Web サイトのセクションに）同じように表示されます。そのため、この情報は、「Source」または「Design」ビューでレイアウト・ページに直接追加できます（6-6 ページの「レイアウト・ページの編集」を参照）。

ただし、ページごとに変化する可能性のあるコンテンツ、頻繁な更新が必要なコンテンツ、複数のページまたはサイトで共有されるコンテンツ、あるいは拡張コントリビューション機能を含むコンテンツを操作する場合、通常はフラグメントを使用します。

フラグメントには、単一行のテキスト（企業のコピーライトを表すテキストなど）を指定することも、クライアント側およびサーバー側のアクションを実行するスクリプトの複雑なコレクション（JavaScript ベースのメニューなど）を指定することもできます。

レイアウト・ページに追加するほぼすべての構成要素は、フラグメントとして追加できます。フラグメントをどの程度使用するかは、自分の好みと Web サイトの要件に応じて変化します。（レイアウト・ページ、フラグメントおよびコントリビューション・リージョンで構成された Web サイトの図は、5-27 ページの「レイアウト・ページのステージ」を参照してください。）

7.2 フラグメントの追加と編集

フラグメントは、デザイナーのツールボックスを使用して追加および編集できます。Site Studio のツールボックスには、独自に使用またはカスタマイズできる多くのサンプル・フラグメントが含まれます（7-2 ページの「ツールボックスのフラグメント」を参照）。フラグメントを使用するには、レイアウト・ページでフラグメントを表示する場所にカーソルを置き、ツールボックスの適切なフラグメントをクリックします。

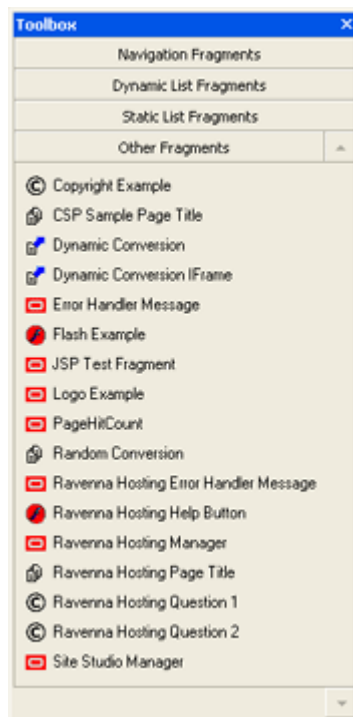
レイアウト・ページでのフラグメントの表示方法をカスタマイズするには、フラグメントをレイアウト・ページに追加する際に表示される「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスでフラグメントのパラメータを変更します。

フラグメントにはパラメータが含まれており、レイアウト・ページで使用するたびにフラグメントをカスタマイズできます。どのパラメータでも変更できない設定がある場合は、いつでもフラグメント・エディタでフラグメントを開いてカスタマイズできます（必要に応じて独自のカスタム・パラメータを追加することも可能です）。

7.3 ツールボックスのフラグメント

Site Studio には、即座に使用できる多くのフラグメントが付属しているため、作成方法や編集方法を知らなくてもすぐにフラグメントの使用を開始できます。サンプル・フラグメントを使用することで、Web サイトに単純な機能を簡単に追加できると同時に、フラグメントの実際の使用法とその応用について学習できます。

図 7-1 ツールボックスのサンプル・フラグメント



サンプル・フラグメントは、ツールボックスにあり、次の4つのカテゴリに分類されています。

- **Navigation Fragments:** このカテゴリには、Web サイトにサイト・ナビゲーションを提供するフラグメントが含まれます (ナビゲーション・バー、ブレッドクラム、検索ボックスなど)。ナビゲーション・フラグメントの優れた点は、既存のサイト階層を自動的に読み取って、各セクションをナビゲーション・メニューに表示されるハイパーリンクに変換できることです。結果として、サイト階層を更新および変更すると、それらの変更は Web サイトに即座に反映されます。これらのフラグメントの詳細は、B-2 ページの「[ナビゲーション・フラグメント](#)」を参照してください。
- **Dynamic List Fragments:** このカテゴリには、拡張コントリビューション機能、特に、コンテンツ・サーバーのコントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントを問い合わせる機能を Web サイトに提供するフラグメントが含まれます。各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用して、リストのファイルを追加、削除および編集できます (14-6 ページの「[動的リスト](#)」および B-21 ページの「[動的リスト・フラグメント](#)」を参照)。
- **Static List Fragments:** このカテゴリには、拡張コントリビューション機能、特に、要素 (WYSIWYG、プレーン・テキストおよびイメージ) の構造化されたレイアウトを作成する機能を Web サイトに提供するフラグメントが含まれます。各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用して、リストに含まれる情報の行および列を追加、削除および編集できます (14-2 ページの「[静的リスト](#)」および B-25 ページの「[静的リスト・フラグメント](#)」を参照)。
- **Other Fragments:** このカテゴリには、サイトにとって役立つ可能性のあるその他のフラグメントが含まれます (コピーライト行、埋込み Flash プレゼンテーション、動的変換ネイティブ・ドキュメント、マネージャなど)。これらのフラグメントの詳細は、B-26 ページの「[その他のフラグメント](#)」を参照してください。

7.4 ツールボックスのフラグメントのフィルタ

デザイナーのツールボックスには、Web サイトの構築時に使用可能なフラグメントがすべて表示されます。ただし、各設計者が1つ以上のサイトに新規フラグメントを導入することで、ツールボックスのフラグメントの合計数は、すぐに管理が困難なほどに増加する可能性があります。

ツールボックスに表示されるフラグメントを制御するために、フラグメントのスクリプト言語、フラグメントがサイトに属しているかどうか、およびフラグメントが設計者により導入されたものか、Site Studio に付属しているものかに基づいてフラグメントをフィルタできます。

ツールボックスのフラグメントをフィルタするには、次の手順を実行します。

1. 「View」メニューで、「Customize」を選択します。
2. 「Miscellaneous」タブをクリックします。
3. 現在のサイトと同じ言語（HCSP/JSP または ASP）で記述されているフラグメントのみを表示する場合、「Filter fragments in other languages」を選択します。
4. 現在のサイトに属している（他のサイトに属していない）フラグメントのみを表示する場合、「Filter libraries from other sites」を選択します。

サイトの一部として識別されないフラグメント・ライブラリのフラグメントは、ツールボックスに表示されなくなります。フラグメントをサイトの一部にするには、そのフラグメントをサイト・アセットとして「Fragment Libraries」カテゴリに追加します（5-33 ページの「[サイト・アセットの追加](#)」を参照）。

5. 自分で作成したフラグメントのみを表示する（Site Studio に付属するデフォルトのフラグメントを表示しない）場合、「Filter default libraries」を選択します。
6. 「Close」をクリックして「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

サーバーで使用可能なフラグメントをすべて表示する可能性があるのは、それらのフラグメントの1つをコピーしてサイトの一部にする場合です。

7.5 レイアウト・ページへのフラグメントの追加

「Design」または「Source」ビューでの作業時に、ツールボックスを使用してレイアウト・ページに直接フラグメントを追加できます。

フラグメントをレイアウト・ページに追加するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページでフラグメントを表示する場所にカーソルを置きます。
リスト・フラグメントを追加する場合、状況によっては最初にコントリビューション・リージョンを作成し、そのリージョン内にフラグメントを配置する必要があります（第14章「[リストの操作](#)」を参照）。
2. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「Navigation Fragments」、「Dynamic List Fragments」、「Static List Fragments」または「Other Fragments」をクリックします。
3. 適切なフラグメントをクリックします（各フラグメントの詳細は、[付録 B 「サンプル・フラグメント」](#)を参照してください）。
4. フラグメントにパラメータが含まれる場合、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスで追加情報を指定するよう求められます（A-91 ページの「[Fragment Parameter Values](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）。
または、コントリビューション・リージョンにリスト・フラグメントを追加する場合、「Element」ダイアログ・ボックスが表示されます（第14章「[リストの操作](#)」を参照）。
5. 付属のフィールドに適切な値を入力し、「OK」をクリックしてフラグメントを追加します。
フラグメントが、レイアウト・ページで最後にカーソルを置いていた場所に表示されます。

レイアウト・ページ上のフラグメントの場所を示すため、多くのサンプル・フラグメントでは、視覚的な目印となるプレースホルダ・テキストまたはグラフィックが挿入されます。多くのフラグメントに含まれる動的コンテンツやサーバー側スクリプトは、Web サイト上で Web ブラウザを使用して表示しなければ適切に表示されないため、このようなプレースホルダが使用されます。

プレースホルダは、Web サイトでフラグメントがどのように表示されるかを正確に表すものではありません。プレースホルダは、必要に応じてフラグメント・エディタで変更できます (7-15 ページの「[フラグメント・スニペットの追加と編集](#)」の手順 5 を参照)。

7.6 フラグメントのプレビュー

フラグメントのプレビューは、フラグメントをレイアウト・ページの一部にする前に、その外観と動作を確認するのに役立ちます。フラグメントをプレビューするには、ツールボックスの右クリック・メニューの「Preview」オプションを使用するか、フラグメント・エディタの「Preview」ボタンを使用します (7-12 ページの「[フラグメント・エディタの使用](#)」を参照)。

この項の内容は次のとおりです。

- 7-5 ページの「[フラグメントのプレビュー](#)」
- 7-6 ページの「[フラグメントの異なるパラメータの選択](#)」
- 7-6 ページの「[フラグメント追加時の異なるパラメータの選択](#)」
- 7-7 ページの「[レイアウト・ページでのフラグメントのパラメータの変更](#)」

7.6.1 フラグメントのプレビュー

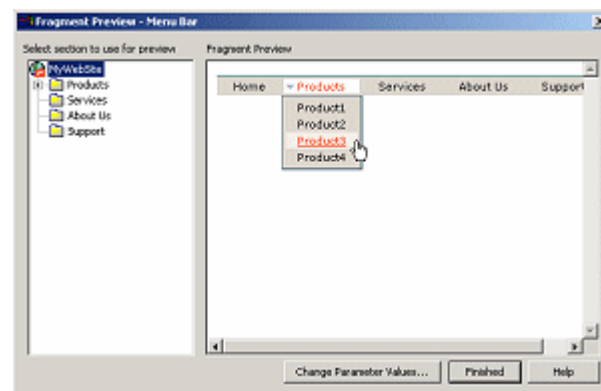
フラグメントをプレビューするには、次の手順を実行します。

1. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「**Navigation Fragments**」、「**Dynamic List Fragments**」、「**Static List Fragments**」または「**Other Fragments**」をクリックします。
2. 適切なフラグメントを右クリックし、「**Preview**」を選択します。
3. フラグメントにパラメータが含まれる場合、「**Fragment Parameter Values**」ダイアログ・ボックスが表示されます (A-91 ページの「[「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス](#)」を参照)。

付属のフィールドに適切な値を入力し、「**OK**」をクリックします。

4. 「**Fragment Preview**」ダイアログ・ボックスが表示されます (A-92 ページの「[「Fragment Preview」ダイアログ・ボックス](#)」を参照)。このダイアログ・ボックスで、フラグメントの外観を確認できます。

図 7-2 「Fragment Preview」ダイアログ・ボックス



5. サイト階層ペインでセクションをクリックすると、Web サイトの異なるセクションでフラグメントがどのように表示されるかを確認できます。

サイト階層のセクションがサイト・ナビゲーションに含まれていない場合、プライマリ・ページがセクションに関連付けられていない場合、またはセクションが外部 URL を参照している場合、そのセクションを選択してこのダイアログ・ボックスでプレビューすることはできません。

6. 異なるパラメータ値を選択してフラグメントの外観を確認するには、「**Change Parameter Values**」をクリックして付属のフィールドに適切な値を入力してから、「**OK**」をクリックして「**Fragment Preview**」ダイアログ・ボックスに戻ります。
7. フラグメントのプレビューが終了したら、「**Finished**」をクリックします。

ツールボックスのすべてのサンプル・フラグメントとそのパラメータの詳細は、[付録 B 「サンプル・フラグメント」](#) を参照してください。

静的リスト・フラグメントは、適切に表示するにはコンテンツを含んだコントリビュータ・データ・ファイルが必要なため、「**Fragment Preview**」ダイアログ・ボックスではプレビューできません。

7.6.2 フラグメントの異なるパラメータの選択

フラグメントの表示方法をカスタマイズするには、フラグメントをプレビューするかレイアウト・ページに追加する際に、「**Fragment Parameter Values**」ダイアログ・ボックスでそのパラメータを変更します。これらの値は、フラグメントをレイアウト・ページに追加した後でも変更できます。

7.6.3 フラグメント追加時の異なるパラメータの選択

フラグメントの追加時に異なるパラメータを選択するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページでフラグメントを表示する場所にカーソルを置きます。
2. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「**Navigation Fragments**」、「**Dynamic List Fragments**」、「**Static List Fragments**」または「**Other Fragments**」をクリックします。次に、適切なフラグメントをクリックします。
3. 「**Fragment Parameter Values**」ダイアログ・ボックスで (A-91 ページの「[「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス](#)」を参照)、付属のフィールドに適切な値を入力し、「**OK**」をクリックします。

または

コントリビューション・リージョンにリスト・フラグメントを追加する場合、「**Element**」ダイアログ・ボックスに適切な値を入力し、「**Parameters**」をクリックしてそのパラメータを変更します (第 14 章「[リストの操作](#)」を参照)。

「**OK**」を 2 回クリックして「**Fragment Parameter Values**」ダイアログ・ボックスと「**Element**」ダイアログ・ボックスを閉じます。

7.6.4 レイアウト・ページでのフラグメントのパラメータの変更

レイアウト・ページでフラグメントのパラメータを変更するには、次の手順を実行します。

レイアウト・ページにフラグメントを追加した後でも、そのパラメータを修正して Web ページ上の外観を変更できます。

1. 「Design」ビューで、フラグメントをダブルクリックします。

または

「Source」ビューで、フラグメントを右クリックし、「Edit Fragment Instance」を選択します。

2. 「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスで適切なパラメータ値を変更します (A-91 ページの「[Fragment Parameter Values](#)」ダイアログ・ボックスを参照)。
3. 「OK」をクリックします。

フラグメントに「simple」というタイプでインクルードされたスニペットが含まれる場合、レイアウト・ページに追加されているフラグメントのパラメータ値を変更することはできません (7-15 ページの「[フラグメント・スニペットの追加と編集](#)」を参照)。

サンプル・フラグメントに含まれる各パラメータの詳細は、[付録 B「サンプル・フラグメント」](#)を参照してください。(ただし、一部のフラグメントにはパラメータは含まれません。)

フラグメントに新規パラメータを追加するか、フラグメントを詳細にカスタマイズする場合、フラグメント・エディタでフラグメントを編集できます (7-7 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照)。

注意: 「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスで選択したオプションは、フラグメントを追加したレイアウト・ページ上の 1 つのインスタンスにのみ適用されます。レイアウト・ページにフラグメントを追加するたびに、サイト上の別の場所で使用されている同じフラグメントの外観に影響を与えることなく、異なる値を選択できます。

7.7 フラグメントの編集

Web サイトのフラグメントの外観を変更する方法は 2 つあります。パラメータを変更する方法 (7-6 ページの「[フラグメントの異なるパラメータの選択](#)」を参照) とフラグメントを変更する方法です。

フラグメントを編集すれば、その外観や機能をニーズに合わせて完全に変更できます。また、フラグメントを実際にレイアウト・ページに追加する際に、後から一定の編集上の選択ができるように、独自のパラメータを作成することも可能です。

フラグメントを編集するには、次の 2 つの方法があります。

- 7-8 ページの「[フラグメントのコピーの編集](#)」
- 7-9 ページの「[フラグメントの編集](#)」

7.7.1 フラグメントのコピーの編集

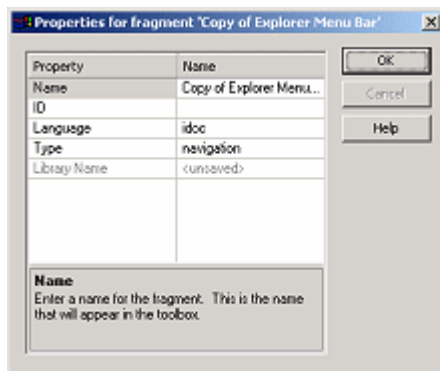
元のフラグメントを変更せずにフラグメントを編集する場合、フラグメントのコピーを編集すると便利です。フラグメントが含まれるフラグメント・ライブラリが、別のユーザーによりチェックアウトされている場合や、読取り専用として設定されている場合も（7-25 ページの「[読取り専用フラグメント・ライブラリの設定](#)」を参照）、フラグメントのコピーを編集する必要があります。

注意： Site Studio に付属するフラグメントは読取り専用のため、フラグメントを編集する場合はこのオプションを選択する必要があります。

フラグメントのコピーを編集するには、次の手順を実行します。

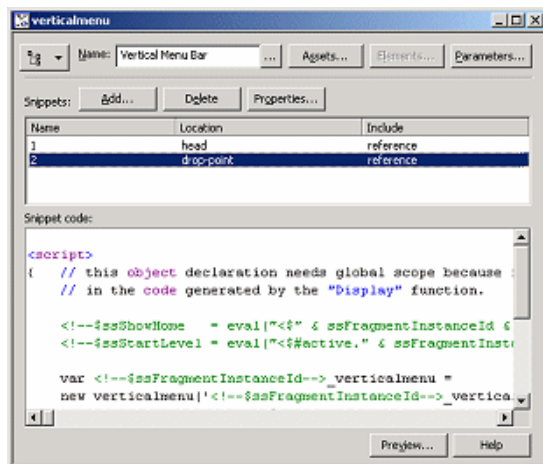
1. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「**Navigation Fragments**」、「**Dynamic List Fragments**」、「**Static List Fragments**」または「**Other Fragments**」をクリックします。
2. 適切なフラグメントを右クリックし、「**Copy and Edit**」を選択します。
3. 「**Properties for Fragment**」ダイアログ・ボックスが表示されます（A-82 ページの「[「Properties for Fragment」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）。このダイアログ・ボックスで、フラグメントの個々のプロパティを指定できます。

図 7-3 「Properties for Fragment」ダイアログ・ボックス



4. 「**OK**」をクリックしてフラグメント・プロパティ・ダイアログ・ボックスを閉じます。
5. フラグメントがフラグメント・エディタに表示されます。このエディタでフラグメントを変更できます（7-12 ページの「[フラグメント・エディタの使用](#)」を参照）。

図 7-4 フラグメントが表示されたフラグメント・エディタ



6. 変更作業が終了したら、ツールバーの「Save」アイコン（[図 7-5](#)）をクリックするか、「File」→「Save」を選択し、7-24 ページの「フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存」に記載された手順に従います。

図 7-5 「Save」アイコン



新規フラグメントが他のフラグメントとともにツールボックスに表示されます。この新規フラグメントは、コンテンツ・サーバーのすべてのサイトで使用できます。

7.7.2 フラグメントの編集

自分または他の設計者がツールボックスにフラグメントを追加した時点から、そのフラグメントの編集をすぐに開始できます。

注意： Site Studio に付属するフラグメントは、読取り専用であるため、直接編集することはできません。

フラグメントを編集するには、次の手順を実行します。

1. ツールボックスで、フラグメント・カテゴリの「Navigation Fragments」、**「Dynamic List Fragments」**、「Static List Fragments」または「Other Fragments」をクリックします。
2. 適切なフラグメントを右クリックし、「Edit」を選択します。
3. フラグメントがフラグメント・エディタに表示されます。このエディタでフラグメントを変更できます（7-12 ページの「フラグメント・エディタの使用」を参照）。
4. 作業が終了したら、ツールバーの「Save」アイコン（[図 7-6](#)）をクリックするか、「File」→「Save」を選択します。

図 7-6 「Save」アイコン



5. コンテンツ・サーバーの情報割当てフォームで、ライブラリの適切なメタデータを入力し、「Assign Info」をクリックします。

注意： フラグメント・エディタでフラグメントを編集する場合、（フラグメントが格納されている）フラグメント・ライブラリは、コンテンツ・サーバーからチェックアウトされ、フラグメント・エディタが閉じられると再度チェックインされます。（フラグメントが保存される場合も、毎回チェックアウトとチェックインが行われます。）これにより、各設計者は、共有違反を起こすことや、お互いの作業を上書きすることがなくなります（組織内に複数の設計者がいる場合）。

状況によっては、ツールボックスに最新のフラグメント・リスト（コンテンツ・サーバーから読み取られます）を表示するため、デザイナーの「Refresh」アイコン（[図 7-7](#)）をクリックする必要があります。

図 7-7 「Refresh」アイコン



Site Studio の作業では、フラグメントのコピーを作成して、元のフラグメントのかわりにそのコピーを編集することをお勧めします。これには、次のようにいくつかの理由があります。

- 編集中のフラグメントになんらかの問題が発生しても、必要に応じて元のフラグメントに迅速かつ簡単に戻ることができます。
- 既存のフラグメントに含まれるすべてのコードを再作成することなく、独自のフラグメントの作成を迅速に開始できます（既存のレイアウト・ページに基づいて新しいレイアウト・ページを作成する場合と同様です）。
- 他の設計者の作業が上書きされることで、Web サイトで予期しない結果が発生する危険性が低下します。デザイナーで作成および編集されるフラグメントは、コンテンツ・サーバーの1つの場所に格納されることから、このような事態が発生します。これらのフラグメントは、同じコンテンツ・サーバーに接続しているデザイナーのすべてのインスタンスに表示されるため、結果として複数の設計者が異なる Web サイトで同じフラグメントを使用できます。

7.8 新規フラグメントの作成

フラグメントを編集するか、既存のフラグメントから新規フラグメントを作成する以外に（7-7 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照）、完全に新規のフラグメントを作成してそのフラグメントに独自のコンテンツを追加できます。この方法は、まったく新しい機能を導入する場合や、（Site Studio で作成していない）別の Web サイトに含まれる既存のコンテンツを使用する場合に適しています。

新規フラグメントを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「File」メニューで、「Fragment」→「New」を選択します。
2. 「New Fragment」ダイアログ・ボックスで、フラグメントの新規プロパティ値を入力します（A-82 ページの「[Properties for Fragment](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）。
3. 「OK」をクリックしてフラグメント・プロパティ・ダイアログ・ボックスを閉じると、フラグメント・エディタが表示されます。
4. フラグメント・エディタで、適切なスニペット、アセット、パラメータおよび要素（静的リストの場合）をフラグメントに追加します。7-12 ページの「[フラグメント・エディタの使用](#)」を参照してください。
5. 変更作業が終了したら、ツールバーの「Save」アイコン（[図 7-8](#)）をクリックするか、「File」→「Save」を選択し、7-24 ページの「[フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存](#)」に記載された手順に従います。

図 7-8 「Save」アイコン



新規フラグメントが他のフラグメントとともにツールボックスに表示されます。この新規フラグメントは、コンテンツ・サーバーのすべてのサイトで使用できます。

7.9 レイアウト・ページのフラグメントの削除

レイアウト・ページからフラグメントを削除する方法は、レイアウト・ページから表、グラフィック、およびその他のオブジェクトを削除する方法と同じです。

レイアウト・ページのフラグメントを削除するには、次の手順を実行します。

1. マウス・カーソルをレイアウト・ページのフラグメントの上に置くと、カーソルが選択ツール (図 7-9) に変化します。その状態でフラグメントを選択し、キーボードの [Del] キーを押します。

図 7-9 選択ツール



または

「Source」ビューで、フラグメント・コードを右クリックし、「Delete Fragment Instance」を選択します。

2. 「Yes」をクリックして削除を確認します。

フラグメント・インスタンスがレイアウト・ページから削除されます。フラグメント自体は、ツールボックスに残るため、他のレイアウト・ページで引き続き使用できます。

7.10 ツールボックスのフラグメントの削除

ツールボックスのフラグメントを削除できます (この場合、そのフラグメントはコンテンツ・サーバーからも削除されます)。

注意: Site Studio のフラグメントは、Content Server に格納されており、サーバーのすべての Web サイトで使用できます。ある Web サイトのフラグメントを削除すると、その同じフラグメントを使用している他の Web サイトも影響を受けます。そのため、フラグメントを削除する前に、そのフラグメントが別の場所で使用されていないことを確認する必要があります。

ツールボックスのフラグメントを削除するには、次の手順を実行します。

1. ツールボックスで、適切なフラグメントを右クリックします。
2. 「Delete」を選択します。
3. 「Yes」をクリックして削除を確認します。

フラグメントがツールボックスに表示されなくなります。

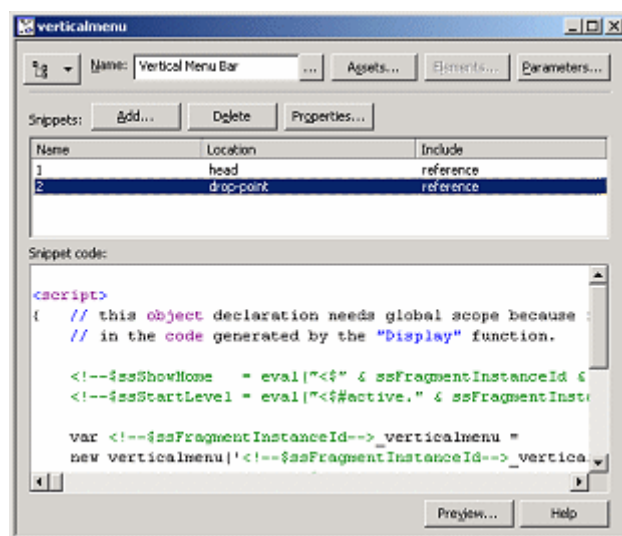
7.11 フラグメント・エディタの使用

フラグメントは、コード（HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプトと、オプションで JSP または ASP）、そのコードに参照されるファイル（グラフィック、CSS、追加スクリプトなど）、およびレイアウト・ページに対するそのコードの追加方法を制御するパラメータのコンテナです。

この情報を含むファイルは、XML で記述され、フラグメント・アセットとともにコンテンツ・サーバーに格納されます。XML ファイルとフラグメント・アセットは、まとめてフラグメント・ライブラリと呼ばれます。

フラグメントと、そのフラグメントに参照されるファイルは、フラグメント・エディタで表示および編集できます。

図 7-10 フラグメント・エディタの Vertical Menu Bar フラグメント



フラグメント・エディタを使用して、既存のフラグメントを変更することや、独自のフラグメントを作成することができます。任意のコードや機能をフラグメントに変換できます。フラグメントは、レイアウト・ページに追加しますが、レイアウト・ページとは別に管理できます。

フラグメント・エディタで実行できるタスクは、次のとおりです。

- 7-13 ページの「フラグメント・エディタの起動」
- 7-13 ページの「フラグメント・プロパティの指定」
- 7-14 ページの「フラグメントに関連付けられたアイコンの変更」
- 7-15 ページの「フラグメント・スニペットの追加と編集」
- 7-17 ページの「フラグメント・アセットの追加と編集」
- 7-19 ページの「フラグメント・パラメータの追加と編集」
- 7-22 ページの「フラグメント要素の追加と編集」

フラグメント・エディタの「Preview」ボタンをクリックすると、ツールボックスの右クリック・メニューの「Preview」オプションを使用したときと同じアクションが実行されます (7-5 ページの「フラグメントのプレビュー」を参照)。

フラグメント・エディタを使用してフラグメントを作成および編集する前に、『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』に目を通し、Site Studio の内部的な動作と、関連するスクリプト言語（HTML、Idoc スクリプト、JavaScript と、オプションで JSP および ASP）の必須構文について理解しておく必要があります。

7.11.1 フラグメント・エディタの起動

フラグメント・エディタは、フラグメントの表示と編集に使用しているデザイナー・アプリケーション内で起動できます。フラグメント・エディタは、レイアウト・ページと同じように作業領域に表示されます。実際、デザイナー・ツールバーのいくつかのオプション（切り取り、コピー、貼付け、保存、ウィンドウ制御など）は、フラグメントにも適用されます。

フラグメント・エディタは、次の2つの方法で起動できます。

- ツールボックスの既存のフラグメントを右クリックし、「Edit」または「Copy and Edit」を選択します（7-7 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照）。
または
- 「File」メニューで、「Fragments」→「New」を選択します（7-10 ページの「[新規フラグメントの作成](#)」を参照）。

7.11.2 フラグメント・プロパティの指定

デザイナーで新規フラグメントを作成するたびに、フラグメントの個々のプロパティを確認または作成するよう求められます。追加情報アイコン（[図 7-11](#)）をクリックして、フラグメント・エディタ内で既存のプロパティを表示および変更することもできます。

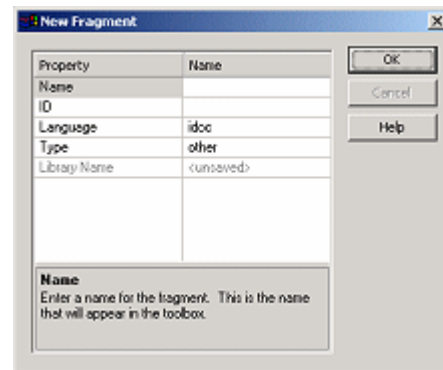
図 7-11 「Additional Information」アイコン



フラグメントのプロパティを指定するには、次の手順を実行します。

1. 「Properties for Fragments」ダイアログ・ボックスを表示します（A-82 ページの「[Properties for Fragment](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）。

図 7-12 「Properties for Fragment」ダイアログ・ボックス



2. 「Name」フィールドにフラグメントの名前を入力します。この名前は、ツールボックスに表示されます。
3. 「ID」フィールドに識別子を入力します。これにより、フラグメントとその多くの構成要素（スニペット、フラグメント・アセット、パラメータなど）が識別されます。IDは、XML 属性として、およびフラグメントのクラス、ファイル、ディレクトリのベース名としても機能します。一度 ID をフラグメントに割り当てたら、変更することはできません。

注意： ID は、空白や非 ASCII 文字を含まない、簡潔な文字列にする必要があります。

4. 「**Language**」フィールドで、フラグメントの言語を選択します。この言語は、サーバー側スクリプトで使用されるもので、Web サイト・タイプと関連している必要があります。
 - hcomp/jsp サイトの場合、「**idoc**」または「**jsp**」を選択します。
 - asp サイトの場合、「**asp**」を選択します。
5. 「**Type**」フィールドで、フラグメント・タイプを選択します。タイプにより、ツールボックスでフラグメントが表示される場所（7-2 ページの「[ツールボックスのフラグメント](#)」を参照）と、フラグメント・エディタで使用できる特定の編集オプションが決定されます。次の4つのタイプから選択します。
 - **navigation**: ナビゲーション・フラグメントは、Web サイトにサイト・ナビゲーション（ナビゲーション・バー、ブレッドクラム、検索ボックスなど）を提供します。
 - **dynamiclist**: 動的リスト・フラグメントは、コントリビュータが編集できるデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのリストを表示することで、拡張コントリビューション機能を提供します。
 - **staticlist**: 静的リスト・フラグメントは、コントリビュータが情報の行および列を追加、編集および削除できる、要素の構造化されたレイアウトを表示することで、拡張コントリビューション機能を提供します。
 - **other**: フラグメントのこのカテゴリは、前述したもの以外のすべてのフラグメント、つまり、その他のフラグメント用として設計されています（コピーライト、埋込みFlashプレゼンテーション、動的変換ドキュメントなど）。
6. 「**OK**」をクリックしてプロパティ・ダイアログ・ボックスを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。

プロパティ・ダイアログ・ボックスの「**Library Name**」は、フラグメントが格納されるフラグメント・ライブラリを示しています。フラグメントを最初に保存するときに、この場所を選択します（7-24 ページの「[フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存](#)」を参照）。

注意: フラグメント ID、アセット・ファイル名およびフォルダ名には、ASCII 文字のみを使用する必要があります。アセット用として自動的に作成される ZIP ファイル内のフォルダの名前は、フラグメント ID から導出されますが、ZIP 形式では拡張文字がサポートされないためです。この制限は、アセットに使用されるすべてのフォルダの名前と、アセット・ファイル自体の名前にも適用されます。

7.11.3 フラグメントに関連付けられたアイコンの変更

ツールボックスの各フラグメントには、他のフラグメントとの区別に使用できるアイコンが関連付けられています。このアイコンは、フラグメントの用途をより反映した別のアイコンに変更できます。

フラグメントに関連付けられたアイコンを変更するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、左上の変更アイコン（[図 7-13](#)）をクリックします。（このアイコンは、選択したフラグメントごとに変化します。ここに表示されているアイコンが、新規フラグメントに表示されるアイコンになります。）

図 7-13 変更アイコン



2. メニューにある適切なアイコンをクリックします。

アイコンは、フラグメント・エディタではこのボタン内に表示され、フラグメントを保存するとツールボックスに表示されます。

7.11.4 フラグメント・スニペットの追加と編集

スニペットは、フラグメントによりレイアウト・ページに追加される実際のテキストまたはコードです。フラグメントには、レイアウト・ページの挿入ポイント（ページのヘッド、ボディ、ドロップポイントなど）により定義されたスニペットを1つ以上含める必要があります。

たとえば、フラグメントでページの1つの場所にテキストを追加する必要がある場合、そのフラグメントには1つのスニペットのみを作成します。ただし、フラグメントでページの複数の場所にテキストまたはコードを挿入する必要がある場合（たとえば、ヘッドとボディにスクリプトを配置する必要がある場合）、フラグメントにはヘッド用とボディ用の2つのスニペットを作成します。

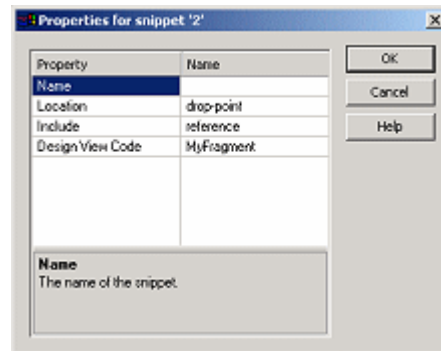
フラグメント・エディタを使用して、フラグメント・スニペットを追加、編集および削除できます。

スニペットを追加または編集するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Add」をクリックして新規スニペットを作成するか、既存のスニペットを選択して「Properties」をクリックします。

これにより、スニペット・プロパティ・ダイアログ・ボックスが表示されます（A-89ページの「[Snippet Properties] ダイアログ・ボックス」を参照）。

図 7-14 スニペット・プロパティ・ダイアログ・ボックス



2. 「Name」フィールドにスニペットの名前を入力します。（名前には、必要に応じて空白と特殊文字を含めることができます。）
3. 「Location」で、次の4つの使用可能なオプションのいずれかを選択します。
 - **drop-point**: レイアウト・ページのカーソルが置かれている場所にスニペットを挿入します。
 - **head**: レイアウト・ページのヘッド（具体的には <HEAD> タグの最後）にスニペットを挿入します。
 - **top-of-body**: レイアウト・ページのボディの最初（<BODY> タグの直後）にスニペットを挿入します。
 - **bottom-of-body**: レイアウト・ページのボディの最後（</BODY> タグの直前）にスニペットを挿入します。
4. 「Include」で、次の3つの使用可能なオプションのいずれかを選択します。
 - **simple**: スニペットのコンテンツ全体をレイアウト・ページに追加します。パラメータが存在する場合、それらの値はレイアウト・ページに直接追加され、永続的にページの一部となります。結果として、フラグメントは、フラグメントとして認識されなくなるため、そのパラメータは変更できません（7-6ページの「フラグメントの異なるパラメータの選択」を参照）。

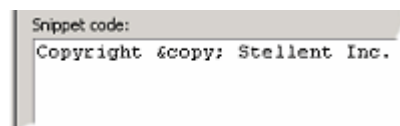
- **inline:** スニペットのコンテンツ全体をレイアウト・ページに追加します。ただし、インライン・スニペットでは、フラグメントとそのパラメータが引き続きフラグメントとして認識されます。フラグメントの移動および削除と、そのパラメータの変更が可能です。
 - **reference:** スニペットへの参照をレイアウト・ページに追加します。参照スニペットでは、フラグメントが引き続きフラグメントとして認識および管理されるだけでなく、フラグメント・エディタでフラグメントを編集すると、その変更がレイアウト・ページに即座に反映されます（複数の場所でフラグメントを使用している場合は、複数のレイアウト・ページに反映されます）。この動作は、他の Web サイトにおけるインクルード・ファイル（HTML、CSS、スクリプトなど）の動作に似ています。
5. 「**Design View Code**」に、レイアウト・ページの「**Design**」ビューでフラグメントのプレースホルダとして表示するテキストを入力します。（この機能は、レイアウト・ページの（ヘッドではなく）ドロップポイントまたはボディに挿入されるスニペット用です。）
- テキスト・エディタを開くには「**Additional Information**」アイコン（[図 7-15](#)）をクリックします。テキストを入力し、「**OK**」をクリックしてテキスト・エディタを閉じます。

図 7-15 「Additional Information」アイコン



6. 「**OK**」をクリックしてスニペット・プロパティを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。
7. スニペットを選択し、「**Snippet code**」テキスト・ボックスでスニペットのコンテンツを追加および編集します。

図 7-16 「Snippet Code」テキスト・ボックス



このフラグメントで追加または編集するすべてのスニペットに対して前述の手順を繰り返します。必要な数だけスニペットを追加できます。

スニペットを削除するには、そのスニペットを選択して「**Delete**」をクリックします。

フラグメント・スニペットは、HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプト、JavaServer Pages (JSP) および Active Server Pages (ASP) で記述できます。ただし、ASP と JSP では、フラグメント・アセットにコードを配置し（7-17 ページの「[フラグメント・アセットの追加と編集](#)」を参照）、そのコードをインライン・フラグメント・スニペットから参照する必要があります。

インライン・ヘッド・スニペットで **BODY** という語を使用することは避けてください。この名前は、Site Studio がレイアウト・ページのヘッド部分とボディ部分を管理するために使用しているコードと競合するためです。この語をスニペットで使用する必要がある場合、(a) スニペットのインクルード方法をインラインから参照に変更するか、(b) フラグメント・アセットにコードを配置し（7-17 ページの「[フラグメント・アセットの追加と編集](#)」を参照）、それをフラグメントに所定の方法でインクルードするか、(c) **BODY** という語を 2 つの部分（2 つの連結文字列）に分割するようにコードを変更します。

コンテンツ・サーバーの複数の Web サイトで参照スニペットを含む同じフラグメントを使用している場合、フラグメントに加えた変更は、そのフラグメントが使用されているすべての Web サイトに即座に反映されます。この動作に問題がある場合、サイトごとに異なるフラグメントを作成する必要があります（7-8 ページの「[フラグメントのコピーの編集](#)」を参照）。

フラグメント・エディタを使用してフラグメントを作成および編集する前に、『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』に目を通し、Site Studio の内部的な動作と、関連するスクリプト言語（HTML、Idoc スクリプト、JavaScript と、オプションで JSP および ASP）の必須構文について理解しておく必要があります。

注意： ASP フラグメントで使用できるスニペットのインクルード方法は、「simple」または「inline」のみです。「reference」によるインクルードは、ASP コードのインクルード処理方法が原因で使用できません。

7.11.5 フラグメント・アセットの追加と編集

アセットは、フラグメント内（特にフラグメントのスニペット内）から参照されるファイルです。グラフィック、Cascading Style Sheet (CSS) およびスタンドアロン JavaScript ファイルは、すべて一般的に使用されるアセットです（ASP または JSP の実装については、後続の最初の「注意」を参照してください）。フラグメントにアセットを追加すると、アセットはそのフラグメントの一部となり、コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリで管理されます。フラグメントを移動またはコピーする場合、そのアセットもすべて含まれます。

フラグメント・エディタの「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスで、フラグメント・アセットを追加、編集および削除できます。

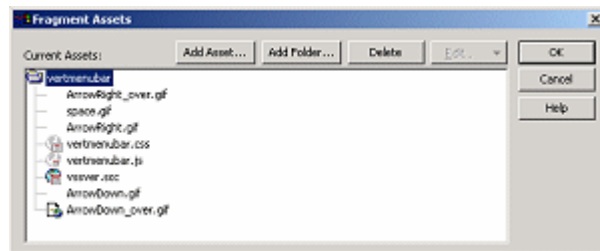
- 7-17 ページの「アセットの追加」
- 7-18 ページの「アセットの編集」
- 7-18 ページの「アセットの削除」

7.11.5.1 アセットの追加

アセットを追加するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Assets」をクリックします。これにより、「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスが表示されます（A-83 ページの「[「Fragment Assets」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）。

図 7-17 「Fragment Assets」ダイアログ・ボックス



2. アセットのサブフォルダを作成するには（オプション）、「Add Folder」をクリックしてフォルダ名を入力し、キーボードの [Enter] を押します。

デフォルトでは、Site Studio によりフラグメントの ID に基づいてアセット・フォルダが作成されます（7-13 ページの「[フラグメント・プロパティの指定](#)」を参照）。すべてのプラットフォーム（特に UNIX）でフラグメントが確実に動作するように、フォルダ名にはすべて小文字が使用されます。サブフォルダを作成する場合も、すべて小文字を使用する必要があります。また、ASCII 文字のみを使用する必要があります（後続の説明を参照）。

3. アセットを追加するフォルダを選択し、「Add Asset」をクリックします（アセットのデフォルトの場所は、ルート（最上位フォルダ）です）。
4. ファイル・システムのファイルを検索し、Windows のダイアログで「開く」をクリックします。

5. 「OK」をクリックして「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。

フラグメントを保存すると、アセットはフラグメントとともにパッケージされ、コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリに格納されます。これで、フラグメントの各スニペットからアセットを参照できます。

7.11.5.2 アセットの編集

アセットを編集するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Assets」をクリックします。
2. 「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスで、アセットを選択し、「Edit」をクリックして 2 つの編集オプションを表示します。

図 7-18 「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスの編集オプション



- 「Edit」をクリックすると、そのファイル・タイプに関連付けられたデフォルト・アプリケーションでアセットが開かれます（たとえば、Cascading Style Sheet (CSS) はメモ帳などで開かれます）。
 - 「Edit with」をクリックすると、「Edit With」ダイアログ・ボックスが表示され、異なるアプリケーションを使用してファイルを編集できます。
3. アセットを変更したら、アセットの編集に使用したアプリケーションを閉じます。
 4. 「OK」をクリックして「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。

7.11.5.3 アセットの削除

アセットを削除するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Assets」をクリックします。
2. 「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスで、アセットを選択し、「Delete」をクリックします。
3. 「OK」をクリックして「Fragment Assets」ダイアログ・ボックスを閉じ、フラグメント・エディタに戻ります。

フラグメント ID、アセット・ファイル名およびフォルダ名には、ASCII 文字のみを使用する必要があります。アセット用として自動的に作成される ZIP ファイル内のフォルダの名前は、フラグメント ID から導出されますが、ZIP 形式では拡張文字がサポートされないためです。この制限は、アセットに使用されるすべてのフォルダの名前と、アセット・ファイル自体の名前にも適用されます。

フラグメントにすでに含まれている Cascading Style Sheet (CSS) アセットを編集するかわりに、フラグメント・スニペットの CSS 宣言を変更して、独自の CSS を参照できます。

Cascading Style Sheet (CSS) や JavaScript ファイルなどのテキストベースのアセットには、フラグメント ID で使用しているものと同じ名前を使用することをお勧めします (7-13 ページの「フラグメント・プロパティの指定」を参照)。たとえば、フラグメント ID が myfragment の場合、myfragment.css や myfragment.js などの名前を使用します。これにより、フラグメントに関連付けられたファイルの識別が簡単になるだけでなく、「Copy and Edit」機能を使用してこのフラグメントに基づいて新規フラグメントを作成すると、すべてのアセットとアセット内のコードが、新しいフラグメント名を反映するように更新されます。そのため、アセットは、新規フラグメントでもシームレスに動作します。

注意：JSP または ASP でフラグメントを記述する場合、フラグメント・アセットにコードを配置し、そのコードをインライン・フラグメント・スニペットから参照します。

7.11.6 フラグメント・パラメータの追加と編集

パラメータは、レイアウト・ページに追加されるフラグメントの外観と動作を制御する属性のセットです。フラグメントにパラメータが含まれる場合、フラグメントをレイアウト・ページに追加する前に、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスに情報を入力するよう求められます。パラメータは、テキスト、色、サイズ、コンテンツ・サーバーでの問合せなどを追加するために使用できます。レイアウト・ページにフラグメントを追加するたびに、パラメータの値を変更できます。

パラメータは、フラグメント作成時には省略できますが、フラグメントのカスタマイズと再利用を可能にする場合には非常に便利です。フラグメントの機能の大部分は、フラグメントのソースに追加するか、フラグメントの実際の使用時に変更できるパラメータとして追加できます。

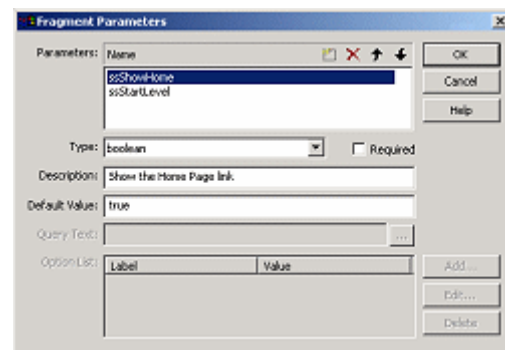
パラメータを使用すると、同じレイアウト・ページの同じフラグメントで、インスタンスごとに異なるパラメータを使用してフラグメントの複数のレンディションを保持できます。さらに、パラメータは、Web サイト用の新規コードを記述し、そのコードをパッケージされた機能（カスタマイズ可能なフラグメント）としてサイト設計者に配布する予定の開発者にとっても役立ちます。（これは、デザイナーに複数のユーザーが存在する場合の使用例です。）

7.11.6.1 フラグメントのパラメータの編集

フラグメントのパラメータを編集するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Parameters」をクリックします。
2. 「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスで（A-82 ページの「[「Properties for Fragment」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）、「Name」リストからいずれかのパラメータを選択します。

図 7-19 「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスでのパラメータの選択



3. 「Type」、「Description」、「Default Value」、「Query Text」および「Option List」で適切な変更を行います（「Query Text」および「Option List」は、すべてのパラメータ・タイプに適用されるわけではありません）。A-82 ページの「[「Properties for Fragment」ダイアログ・ボックス](#)」を参照してください。

4. 「Parameter Up」アイコン (図 7-20) または「Parameter Down」アイコン (図 7-21) をクリックして、リスト内のパラメータを上または下に移動します (この順序は、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスでのパラメータの位置にも影響します)。

図 7-20 「Parameter Up」アイコン



図 7-21 「Parameter Down」アイコン



5. 「OK」をクリックして「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスを閉じます。
サンプル・フラグメントのパラメータの詳細は、付録 B 「サンプル・フラグメント」を参照してください。

7.11.6.2 フラグメントへの新規パラメータの追加

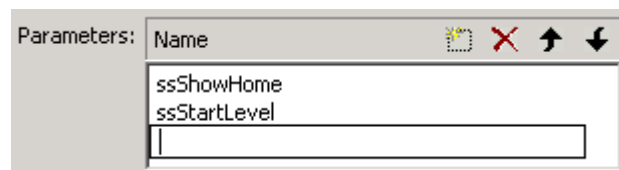
フラグメントに新規パラメータを追加するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Parameters」をクリックします。
2. 「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスで (A-82 ページの「「Properties for Fragment」ダイアログ・ボックス」を参照)、「New Parameter」アイコン (図 7-22) をクリックし、指定されたテキスト・ボックスにパラメータの名前を入力します。

図 7-22 「New Parameter」アイコン



図 7-23 「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスでのパラメータ名の入力



3. 「Type」メニューからタイプを選択します (各タイプの詳細は、A-85 ページの「「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックス」を参照してください)。
4. 「Description」フィールドに説明を入力します。
説明は、フラグメントの使用時に、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスの一番下に表示されます。
5. 「Default Value」に値を入力します。
この値は、レイアウト・ページへのフラグメントの追加時に、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスで) パラメータ値を選択しない場合に使用されます。
6. 「Query Text」および「Option List」に値を入力します (このオプションは、「text」、「manageddoc」および「managedurl」タイプのパラメータにのみ適用されます)。

7. 「Parameter Up」アイコン (図 7-24) または「Parameter Down」アイコン (図 7-25) をクリックして、リスト内のパラメータを上または下に移動します (この順序は、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスでのパラメータの位置にも影響します)。

図 7-24 「Parameter Up」アイコン



図 7-25 「Parameter Down」アイコン



8. 「OK」をクリックして「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスを閉じます。

スニペットへのパラメータおよびパラメータ宣言の挿入

「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスで 1 つ以上のパラメータを作成したら、それらのパラメータをフラグメントの個々のスニペットに挿入できます (スニペットの詳細は、7-15 ページの「フラグメント・スニペットの追加と編集」を参照してください)。

フラグメント・エディタには、パラメータとパラメータ宣言を直接スニペット・コードに挿入するための便利なオプションがあります。パラメータまたはパラメータ宣言を挿入するには、それらを追加するコードにカーソルを置き、右クリックして適切なアクションを選択します。

図 7-26 パラメータ宣言の挿入用メニュー

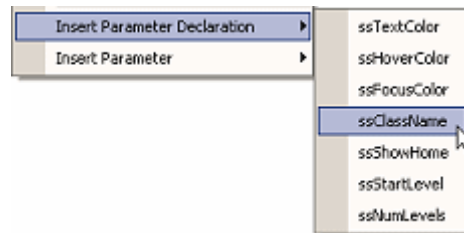
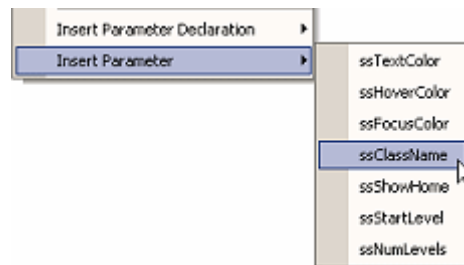


図 7-27 パラメータの挿入用メニュー



パラメータの作成方法と使用方法を習得するには、ツールボックスのサンプル・フラグメントのいずれかを開き、そのパラメータがどのように使用されているかを確認することをお勧めします。これらのフラグメントとそのパラメータの詳細は、付録 B 「サンプル・フラグメント」を参照してください。

7.11.7 フラグメント要素の追加と編集

要素は、コントリビュータ・アプリケーションを使用して編集できるコントリビューション・リージョン内の領域です。これらの要素は、コントリビュータ・アプリケーションではフィールドとして表示され、そこでユーザー（コントリビュータ）はテキスト、グラフィック、およびその他のコンテンツを編集できます（第7章「フラグメントの操作」を参照）。

要素の最も一般的な使用方法では、最初にレイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを作成し、次にそのリージョンに1つ以上の要素（WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージまたはカスタム）を追加します。各コントリビュータは、リージョンを含む Web ページを開き、各フィールドでテキストやグラフィックを追加および編集できます。

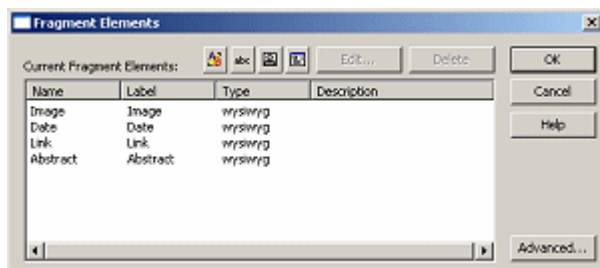
要素のより高度な使用方法では、要素をフラグメントに挿入して静的リストを作成します。静的リストにより、複数の要素が表形式のレイアウトにまとめられるため、各コントリビュータは要素の行および列を追加、編集、削除および再編成できます（B-25 ページの「静的リスト・フラグメント」を参照）。

7.11.7.1 フラグメントへの要素の追加

フラグメントに要素を追加するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Elements」をクリックします。
これにより、「Fragments Elements」ダイアログ・ボックスが表示されます（A-84 ページの「Fragments Elements」ダイアログ・ボックス」を参照）。

図 7-28 「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス



2. フラグメントに追加する要素のタイプ（WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージまたはカスタム）をクリックします。

図 7-29 WYSIWYG 要素アイコン



図 7-30 プレーン・テキスト要素アイコン



図 7-31 イメージ要素アイコン



図 7-32 カスタム要素アイコン



3. 「Element」ダイアログ・ボックスで、コントリビューション・リージョンに要素を追加する場合と同じ手順を実行します（第11章「要素の操作」を参照）。
4. 「OK」をクリックして「Element」ダイアログ・ボックスを閉じ、再度「OK」をクリックして「Fragment Elements」ダイアログ・ボックスを閉じます。

7.11.7.2 フラグメントの要素の編集

フラグメントの要素を編集するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Elements」をクリックします。
2. A-84 ページの「[「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス](#)」で、適切な要素を選択して「Edit」をクリックします。
3. 「Element」ダイアログ・ボックスで、コントリビューション・リージョンの要素を編集する場合と同じ手順を実行します（第 11 章「[要素の操作](#)」を参照）。
4. 「OK」をクリックして「Element」ダイアログ・ボックスを閉じ、再度「OK」をクリックして「Fragment Elements」ダイアログ・ボックスを閉じます。

7.11.7.3 フラグメントの要素の削除

フラグメントの要素を削除するには、次の手順を実行します。

1. フラグメント・エディタでフラグメントを開いた状態で、「Elements」をクリックします。
2. 「Fragments Element」ダイアログ・ボックスで（A-84 ページの「[「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）、適切な要素を選択して「Delete」をクリックします。
3. 「OK」をクリックして「Fragment Elements」ダイアログ・ボックスを閉じます。

フラグメント・エディタの「Elements」ボタンは、フラグメントのタイプが「staticlist」である場合にのみ表示されます（7-13 ページの「[フラグメント・プロパティの指定](#)」を参照）。

「Fragment Elements」ダイアログ・ボックスには、「Advanced」ボタンが含まれます。このボタンをクリックすると、要素を詳細にカスタマイズできるテキスト・エディタが表示されます。ただし、一度この方法で要素の編集を開始したら、「Fragment Elements」ダイアログ・ボックスのグラフィカル・ユーザー・インタフェースに戻ることはできません（これらの編集作業にはインタフェース・サポートが存在しないためです）。

静的リスト・フラグメントは、コントリビュータ・アプリケーションでの使用を目的として設計されています。そのため、レイアウト・ページに静的リストを追加する場合、静的リストをコントリビューション・リージョンに追加して、そのリージョンにデータ・ファイルを割り当てる必要があります（14-3 ページの「[レイアウト・ページへの静的リストの追加](#)」を参照）。

7.12 フラグメント・ライブラリ

フラグメントは、コード（HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプトと、オプションで JSP または ASP）、そのコードに参照されるファイル（グラフィック、CSS、追加スクリプトなど）、およびレイアウト・ページに対するそのコードの追加方法を制御するパラメータのコンテナです。

フラグメント・ライブラリは、1 つ以上のフラグメントのコンテナであり、Site Studio ではフラグメント・ライブラリを使用してフラグメントを格納および管理します。

フラグメント・ライブラリの操作方法は、次のとおりです。

- 7-24 ページの「[フラグメント・ライブラリについて](#)」
- 7-24 ページの「[フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存](#)」
- 7-25 ページの「[読取り専用フラグメント・ライブラリの設定](#)」
- 7-26 ページの「[フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード](#)」
- 7-27 ページの「[「Manage Fragment Libraries」ページを使用したフラグメントのデプロイ](#)」

7.12.1 フラグメント・ライブラリについて

フラグメントは、フラグメント・ライブラリに格納されます。フラグメント・ライブラリは、管理対象コンテンツ・アイテムとしてコンテンツ・サーバーに格納されます。

ライブラリは、2つの部分（XML ファイルと ZIP ファイル）で構成されます。XML ファイルでは、ライブラリのすべてのフラグメントが記述され、ZIP ファイルには、ライブラリの各フラグメントに参照されるすべてのフラグメント・アセットが格納されます。

コンテンツ・サーバーでは、XML ファイルは代替ファイル（Web ロケーション）として機能し、ZIP ファイルはネイティブ・ファイルとして機能します。フラグメント・ライブラリの `SS_Fragments_Examples`（Site Studio に付属するライブラリの1つ）を検索すると、コンテンツ情報ページに次のデータが表示されます。

メタデータ	割当て値
Content ID:	SS_Fragments_Examples
Title:	SS_Fragments_Examples
WebsiteObjectType:	Fragment
Web Location:	HTTP://<Site>/groups/public/documents/adacct/ss_fragments_examples.xml
Native File:	SS_Fragments_Examples.zip

Site Studio に付属するデフォルト・フラグメントは、次のフラグメント・ライブラリに格納されています。

- SS_Fragments_IDOC
- SS_Fragments_JSP
- SS_Fragments_ASP
- SS_Fragments_Examples
- SS_Fragments_Dynamic
- SS_Fragments_Plain
- SS_Fragments_CSP_Examples

7.12.2 フラグメント・ライブラリへのフラグメントの保存

フラグメント・エディタで作成したフラグメントを保存する場合、フラグメントを格納するフラグメント・ライブラリを選択する必要があります。フラグメントは、それぞれ独自のライブラリに格納するか、他のいくつかのフラグメントとともに同じライブラリに格納できます。新規フラグメントを最初に保存する場合、フラグメント・ライブラリを選択するよう求められます。

フラグメント・ライブラリにフラグメントを保存するには、次の手順を実行します。

1. フラグメントの変更が終了したら（7-7 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照）、デザイナー・ツールバーの「Save」アイコン（[図 7-33](#)）をクリックするか、「File」→「Save」を選択します。

図 7-33 「Save」アイコン



「Save Fragment」ダイアログ・ボックスが表示されます（A-93 ページの「[Save Fragment](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）。

2. 「New」をクリックしてフラグメントの新規ライブラリを作成します。
または、すでにライブラリを作成している場合、リストからそのライブラリを選択して「OK」をクリックします。
3. 情報割当てフォームで、ライブラリの適切なメタデータ（コンテンツ ID、タイプ、タイトルなど）を入力し、「Assign Info」をクリックします。

新規ライブラリがコンテンツ・サーバーに作成され、次回「Save Fragment」ダイアログ・ボックスを開いたときに、「server:」というテキストの後に表示されます。

注意: 「Save Fragment」ダイアログ・ボックスは、新規フラグメントを最初に保存する場合にのみ表示されます。その後の保存作業では、情報割当てフォームに直接移動します。

フラグメントは個別に移動、バックアップまたは配布できないため、新規フラグメントを作成および管理する際には、関連するフラグメントを比較的少ない数ごとにまとめるか、状況によっては1つのフラグメントをそれ独自のライブラリに格納すると扱いが容易になります。これらは、フラグメント・ライブラリとして処理および管理されます（7-26 ページの「[フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード](#)」および7-27 ページの「[Manage Fragment Libraries](#)」ページを使用したフラグメントのデプロイを参照）。

Site Studio に付属するデフォルト・フラグメントは、読取り専用フラグメント・ライブラリに格納されているため、「Save Fragment」ダイアログ・ボックスには表示されません（したがって、個々のフラグメントを編集することもできません）。

他のユーザーが誤ってフラグメントを上書きまたは消去しないように、独自のフラグメント・ライブラリを読取り専用を設定できます（7-25 ページの「[読取り専用フラグメント・ライブラリの設定](#)」を参照）。

7.12.3 読取り専用フラグメント・ライブラリの設定

同じ組織内の複数の設計者と共同で作業をしている場合など、フラグメント・ライブラリを読取り専用を設定すると非常に便利です。Site Studio に付属するサンプル・フラグメントは、誤って消去または上書きされないように、すべて読取り専用フラグメント・ライブラリに格納されています。

フラグメント・ライブラリを読取り専用を設定すると、次の効果が得られます。

- 他のユーザーは、フラグメント・ライブラリのフラグメントを上書きまたは削除できなくなります（コピーして編集することのみが許可されます）。
- フラグメント・ライブラリは、「Save Fragment」ダイアログ・ボックスに表示されなくなります。そのため、他のユーザーは、ライブラリに新規フラグメントを追加できなくなります。

フラグメントを読取り専用を設定するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーにログインし、フラグメント・ライブラリを検索します。
2. フラグメント・ライブラリのコンテンツ情報ページを表示します。
3. (.xml ファイル拡張子付きの) Web ロケーション・ファイルを右クリックし、「Save Target As」を選択して自分のマシンに保存します。
4. コンテンツ・サーバーからフラグメント・ライブラリをチェックアウトし、(.zip 拡張子付きの) ネイティブ・ファイルをダウンロードします。
5. .xml ファイルをテキスト・エディタで開き、`readonly="true"` というテキストをルート要素の `<fragments>` タグに追加します。追加後のタグは次のようになります。

```
<fragments name="SS_Fragments" readonly="true">
```

6. ファイルを保存して閉じ、2つのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。その際、.zip ファイルは**プライマリ・ファイル**として、.xml ファイルは**代替ファイル**として指定します。

状況によっては、読取り専用フラグメントを表示するために、デザイナーのツールボックスをリフレッシュする必要があります。

前述の手順のかわりに、デザイナーの「Download Fragment Library」機能を使用して、ダウンロードした ZIP から .xml ファイルを抽出し、その後 ZIP に再アーカイブしてから、デザイナーの「Upload Fragment Library」機能を使用してライブラリをコンテンツ・サーバーに戻すこともできます。(7-26 ページの「フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード」を参照してください。)

7.12.4 フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード

フラグメントまたはフラグメントのコレクションを作成および編集したら、フラグメントが格納されているフラグメント・ライブラリを、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーに移動できます。これは、他の設計者や開発者と共同作業をしており、全員でフラグメントを共有する場合に特に便利です。または、単に保管用としてフラグメント・ライブラリのバックアップを作成できます。

これを行うには、デザイナーの「Download Fragment Library」および「Upload Fragment Library」機能を使用します。

7.12.4.1 フラグメント・ライブラリのダウンロード

フラグメント・ライブラリをダウンロードすると、Site Studio によってそのライブラリ（現在コンテンツ・サーバーに存在するライブラリ）は単一の ZIP ファイルに格納され、使用中のマシンにダウンロードされます。その後、その ZIP ファイルを簡単に転送できます。

サーバーからフラグメント・ライブラリをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. 「File」 → 「Fragments」 → 「Download Fragment Library」を選択します。
2. 「Content Server」ダイアログで、ダウンロードするフラグメント・ライブラリの横の「Select」をクリックします。
3. Windows の「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで、ファイル・システム上の場所を指定し、「保存」をクリックします。

7.12.4.2 フラグメント・ライブラリのアップロード

(前述の手順に従ってダウンロードした後に) フラグメント・ライブラリをアップロードすると、Site Studio によって ZIP ファイルがコンテンツ・サーバーにチェックインされ、Web サイトで使用できる適切なディレクトリ（¥weblayout¥fragments¥）にその内容が抽出されます。

サーバーにフラグメントをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. 「File」 → 「Fragments」 → 「Upload Fragment Library」を選択します。
2. Windows の「ファイルを開く」ダイアログ・ボックスで、ファイル・システム上のフラグメント・ライブラリ（ZIP ファイル）を検索し、「開く」をクリックします。
3. 情報割当てフォームで、フラグメント・ライブラリのコンテンツ ID、タイプおよびタイトルを入力します。

注意： WebsiteObjectType メタデータは変更しないでください。Web サイトで認識されるためには、このメタデータは Fragment に設定されている必要があります。

4. 「Assign Info」をクリックして「Content Server」ダイアログを閉じ、デザイナーに戻ります。

デザイナーの「Upload Fragment Library」機能を使用するかわりに、フラグメント・ライブラリを直接コンテンツ・サーバーにチェックインし、「Site Studio Administration」ページを使用して必要な場所にフラグメント・ライブラリをデプロイすることもできます (7-27 ページの「[Manage Fragment Libraries](#)」ページを使用したフラグメントのデプロイを参照)。

7.12.5 「Manage Fragment Libraries」ページを使用したフラグメントのデプロイ

「Site Studio Administration」ページで使用可能なオプションの1つに、「Manage Fragment Libraries」があります。このページで、コンテンツ・サーバーの適切な場所にフラグメント・ライブラリをデプロイできます。また、このページで JSP サポートを構成できます (JSP フラグメントを使用している場合)。

7.12.5.1 サーバーへのフラグメント・ライブラリのデプロイ

サーバーにフラグメント・ライブラリをデプロイするには、次の手順を実行します。

フラグメント・ライブラリをコンテンツ・サーバーにチェックインしているが、サイトで使用できる適切なディレクトリにデプロイしていない場合、この機能を使用してフラグメントをデプロイできます。

1. 「Site Studio Administration」ページを開きます (A-94 ページの「[Site Studio Administration](#)」ページを参照)。
2. 「Manage Fragment Libraries」をクリックして「Manage Fragment Libraries」ページを表示します (A-99 ページの「[Manage Fragment Libraries](#)」ページを参照)。
3. デプロイするフラグメント・ライブラリを選択します。
4. 「Deploy Fragment Library」をクリックします。

フラグメントが `weblayout\fragments` ディレクトリにデプロイされ、ページがリフレッシュされます。「Deploy Fragment Library」ボタンは無効になります。

これらの手順を実行するかわりに、デザイナーの「Upload Fragment Library」および「Download Fragment Library」機能を使用できます。7-26 ページの「[フラグメント・ライブラリのアップロードとダウンロード](#)」を参照してください。

7.12.5.2 サーバーでの JSP フラグメントの構成

サーバーで JSP フラグメントを構成するには、次の手順を実行します。

Site Studio コンポーネントのインストール後に、コンテンツ・サーバーの JSP 対応グループのリストにグループを追加する場合、Site Studio で JSP フラグメントが適切に動作するように、JSP サポート・ファイルを再デプロイ (抽出) する必要があります。

1. 「Site Studio Administration」ページを開きます (A-94 ページの「[Site Studio Administration](#)」ページを参照)。
2. 「Manage Fragment Libraries」をクリックして「Manage Fragment Libraries」ページを表示します (A-99 ページの「[Manage Fragment Libraries](#)」ページを参照)。
3. 「Configure JSP Support」をクリックします。

必要なサポート・ファイルが、コンテンツ・サーバーの適切な場所に抽出されます。

コントリビューションの設定

初期の設計作業の大部分は、背景色、グラフィック、テキスト、表レイアウトの挿入など、サイトのルック・アンド・フィールの構築に費やされます（6-6 ページの「[レイアウト・ページの編集](#)」を参照）。この作業が終了したら、フラグメントの使用を通じて実行機能、対話機能および動的コンテンツを追加します（第7章「[フラグメントの操作](#)」を参照）。

次の手順では、これらの Web ページ上に役に立つ最新のコンテンツを追加します。これは、Site Studio により導入された Web サイトを管理するためのまったく新しい方法です。Site Studio では、Web マスターや Web チームに企業全体にわたるサイトの更新を任せずに、コンテンツを最もよく把握しているマネージャやコントリビュータなどの個々の担当者に各 Web ページを開放します。

マネージャは、通常、部課長であり、サイト階層全体の管理を担当します。コントリビュータは、組織内の任意の担当者ですが、一般的には特定の製品、サービスまたは部門に関する知識を持つユーザーです。

サイトを更新する準備のできたマネージャとコントリビュータは、更新が必要な Web ページに直接移動し、ビューをコントリビューション・モードに移行して変更作業を開始できます。ページを更新することに関連するパブリッシュ・ボトルネックや遅延は発生しません。設計者は、複数のマネージャやコントリビュータの下で、サイトが独自に成長していくのを確認できます。

このコントリビューション・モデルを活用するため、設計者は、レイアウト・ページに1つ以上のマネージャ・フラグメントとコントリビューション・リージョンを追加し、各マネージャおよびコントリビュータに Web サイトの更新準備が完了したことを通知する必要があります。

次の項で、コントリビューション・プロセスについて説明します。

- 8-2 ページの「[設計者 - コントリビュータ・モデル](#)」
- 8-7 ページの「[マネージャおよびコントリビュータの役割](#)」
- 8-7 ページの「[デザイナーでのコントリビューションの設定](#)」
- 8-8 ページの「[コントリビュータ専用セクションの指定](#)」
- 8-9 ページの「[コントリビュータへの情報提供](#)」

8.1 設計者 - コントリビュータ・モデル

Site Studio は、Site Studio の 3 つの異なるユーザーに対応する 3 つのアプリケーション（デザイナー、マネージャおよびコントリビュータ）から構成されます。デザイナー・アプリケーションは、個人ユーザー（設計者）が Web サイトを設計、構築および管理できる開発環境を提供します。マネージャ・アプリケーションは、個人ユーザーがサイト階層を管理できる強力な Web ベースの環境を提供します。コントリビュータ・アプリケーションは、コントリビュータがサイト上で直接 Web ページを作成および編集できるコンテキスト内編集環境を提供します。

Site Studio は、この設計者 - コントリビュータ・モデルに基づいて設計されています。このモデルでは、作業負荷の高い最初の開発タスクはデザイナー・アプリケーションで実行し、より単純で継続的な編集タスクはコントリビュータ・アプリケーションで実行します。1人で両方の作業を行う場合は、1人のユーザーが設計者とコントリビュータの両方の役割を兼ね、各アプリケーションを使用してサイトを作成および管理する必要があります。

次に、単純な Web ページを例として取り上げ、設計者 - コントリビュータ・モデルの概要を示します。

- 8-3 ページの「[手順 1: レイアウト・ページへのコントリビューション・リージョンおよびフラグメントの追加](#)」
- 8-4 ページの「[手順 2: 各リージョンへのコンテンツの割当て](#)」
- 8-5 ページの「[手順 3: レイアウト・ページの表示とマネージャおよびコントリビュータへの通知](#)」
- 8-6 ページの「[手順 4: コントリビュータ・アプリケーションを使用した Web ページの更新](#)」
- 8-7 ページの「[手順 5: Web ブラウザでの完成した Web ページの表示](#)」

デザイナーで実行する手順の詳細は、8-7 ページの「[デザイナーでのコントリビューションの設定](#)」を参照してください。

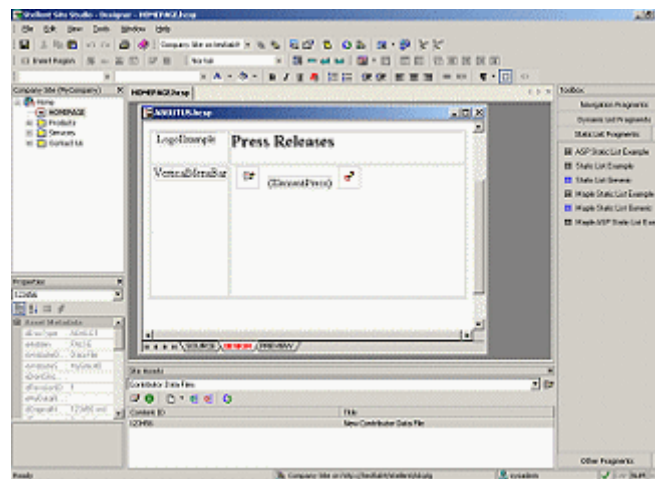
8.1.1 手順 1: レイアウト・ページへのコントリビューション・リージョンおよびフラグメントの追加

デザイナでは、基本的な背景情報を使用してレイアウト・ページを作成できます（次の図には、HTML 表レイアウトと、Press Releases というタイトルが示されています）。次に、コントリビューション・リージョンと 1 つ以上の要素を追加できます（データ・ファイルを使用する場合）。

サイト上にサイト・ナビゲーションやその他の機能を作成する場合、ツールボックスから 1 つ以上のフラグメントを追加します（次の図では、左側の表のセルにロゴ・フラグメントと垂直ナビゲーション・メニュー・フラグメントが追加されています）。

サイト管理タスクをサイト・マネージャに委任する場合、この時点で Site Studio マネージャ・フラグメントを追加します。これにより、各マネージャおよびコントリビュータは、独自にサイトを変更できるようになります。

図 8-1 デザイナの画面ビュー

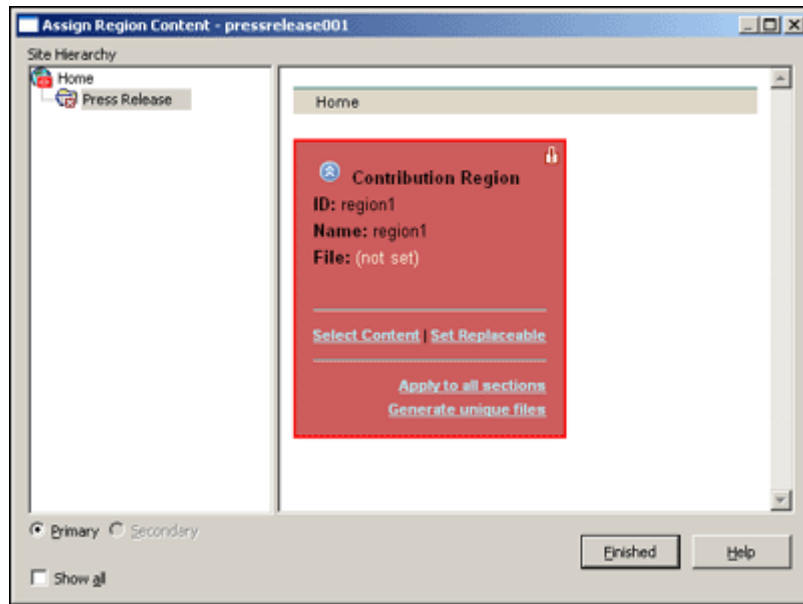


8.1.2 手順 2: 各リージョンへのコンテンツの割当て

レイアウト・ページを保存し、コントリビュータ・データ・ファイル（リージョン・コンテンツとも呼ばれる）をリージョンに割り当てます。コントリビュータ・データ・ファイルには、コントリビュータによりこのページに発行されるコンテンツが格納されます。

リージョン・コンテンツは、「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを使用してコントリビューション・リージョンに割り当てます。

図 8-2 「Assign Region Content」ダイアログ・ボックス

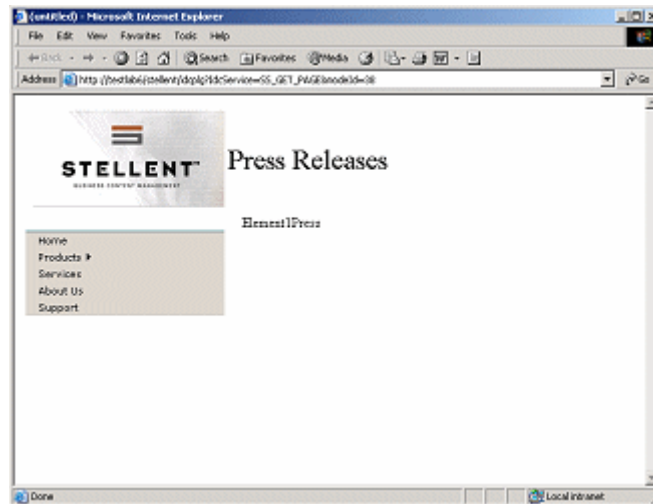


注意： この例では、コントリビュータ・データ・ファイルがリージョンに割り当てられています。リージョンには、ネイティブ・ドキュメントを割り当てることもできます。ネイティブ・ドキュメントは、（コントリビュータではなく）ファイルに関連付けられたアプリケーションを使用して開かれます。

8.1.3 手順 3: レイアウト・ページの表示とマネージャおよび コントリビュータへの通知

この段階で、レイアウト・ページを Web ブラウザで表示できます。レイアウト・ページは、最初は空の状態です。マネージャやコントリビュータによりまだコンテンツが追加されていないため、プレースホルダ・テキスト（WYSIWYG 要素の名前）のみが表示されます。

図 8-3 レイアウト・ページの表示



設計者は、Web ページの更新準備が完了したことをマネージャまたはコントリビュータに通知するため、Web ページの URL を担当者へ送信するか、ワークフローを使用した自動プロセスを実装する必要があります。

コントリビュータ専用セクションを使用して、サイトのコンテキスト内で指示を提供することも可能です。

8.1.4 手順 4: コントリビュータ・アプリケーションを使用した Web ページの更新

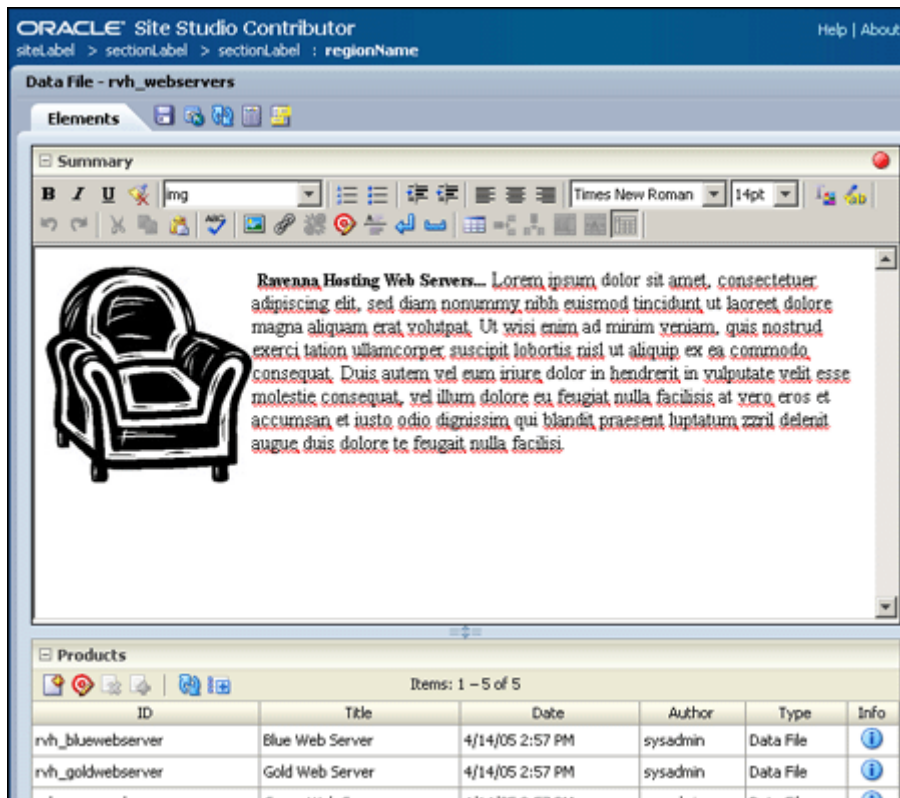
コントリビュータは、Web ページに移動し、コントリビューション・モードに移行します。コントリビューション・モードでは、各コントリビューション・リージョンにコントリビューション・グラフィック (図 8-4) が表示されます (この例では 1 つのみです)。コントリビュータは、グラフィックの編集アイコンをクリックしてリージョンを編集します。

図 8-4 コントリビューション・アイコン



コントリビュータ・アプリケーションでは、個々のコントリビュータがテキストやグラフィックなどを追加および編集できます。作業が終了したら、作業内容を保存し、コントリビュータ・アプリケーションを閉じます。

図 8-5 コントリビュータ・エディタ



注意: コントリビュータが最初にコントリビューション・モードの Web ページに移動すると、コントリビュータ・アプリケーションのセキュリティ認証を受けるよう求められます。また、状況によってはコントリビュータとしてサイトにログインするよう求められます。

8.1.5 手順 5: Web ブラウザでの完成した Web ページの表示

エディタでページを保存し、エディタ・ウィンドウを閉じます。Web ページに対する変更は、即座に反映されます。ページはまだコントリビューション・モードに設定されているため、ページにはコントリビューション・グラフィックが残っています。Web ページに問題がなければ、同じキーストロークの組合せを使用してコントリビューション・モードを解除し、Web ページの通常のビューに戻ります。

実際の操作では、複数の要素を含んだ複数のコントリビューション・リージョンの確保、各リージョンへの一意のリージョン・コンテンツの割当て、各コントリビュータに対する（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントから導出した）新規 Web ページの追加権限の付与、各リージョンへのコントリビューション・リスト・フラグメントの追加などが可能です。

8.2 マネージャおよびコントリビュータの役割

サイトの設計者は、そのほとんどの作業時間をデザイナー・アプリケーションの操作に費やします。コントリビュータおよびマネージャ・アプリケーションは、主にサイトのコントリビューション関連の領域をプレビューおよびテストするのに使用します。ただし、デザイナーでの作業と、マネージャおよびコントリビュータでの作業を分離できるわけではありません。

デザイナーで実行する作業のほとんどは、マネージャおよびコントリビュータの動作に影響しません。サイトにマネージャ・フラグメントやコントリビューション・リージョンを導入すると、設計者は、自分の役割（創造的な役割）を他のユーザーと共有することになります。設計者は、これらのユーザーによるサイトの各セクションの検索および更新方法、更新するページの数、および関与するユーザーの数について検討する必要があります。

最も重要な手順は、各マネージャおよびコントリビュータに Site Studio の動作方法とサイトにおける各自の役割に関して情報提供することです。場合によっては、『Oracle Universal Content Management Site Studio マネージャ・ガイド』および『Oracle Universal Content Management Site Studio コントリビュータ・ガイド』のコピーを配布して、作業の開始前にマネージャおよびコントリビュータに作業プロセスを指示できます。

マネージャおよびコントリビュータ・アプリケーションでの作業の詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio マネージャ・ガイド』および『Oracle Universal Content Management Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照してください。

8.3 デザイナーでのコントリビューションの設定

Site Studio の強力なコントリビューション・モデルを活用するには（つまり、個々のコントリビュータにサイトのコンテンツの追加、編集および管理を任せるには）、デザイナーで次の作業を実行する必要があります。

1. レイアウト・ページに 1 つ以上のコントリビューション・リージョンを追加します。コントリビューション・リージョンは、コントリビュータ・アプリケーションで変更できる Web ページ上の指定された領域です（第 9 章「[コントリビューション・リージョンの操作](#)」を参照）。
2. 各コントリビューション・リージョンに 1 つ以上の要素を追加します。リージョン内の各要素は、コントリビュータ・アプリケーションではフィールドとなり、個々のコントリビュータはそこでテキストやグラフィックなどのコンテンツを追加および編集できます。（第 11 章「[要素の操作](#)」を参照してください。）この手順は、コントリビュータ・データ・ファイルのかわりにネイティブ・ドキュメントを使用する場合、必須ではありません（次の手順を参照）。

リージョンに要素を個別に追加する以外に、特定のコントリビューション機能がまとめられたフラグメントを追加することで、ユーザーにより高度なコントリビューション・システムを提供することもできます（第 14 章「[リストの操作](#)」を参照）。

3. 各リージョンにコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント（リージョン・コンテンツとも呼ばれる）を割り当てます。コントリビュータ・データ・ファイルには、コントリビュータ・アプリケーションを使用してサイトに発行されるコンテンツが格納されます（10-8 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルの操作](#)」を参照）。ネイティブ・ドキュメントにも、各コントリビュータにより発行されるコンテンツが格納されますが、ネイティブ・ドキュメントを開いて編集する場合、それを最初に作成したときのアプリケーションが使用されます（第 13 章「[ネイティブ・ドキュメントの操作](#)」を参照）。
4. サイトへの新規ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の追加を各コントリビュータに許可する場合、新規コンテンツを扱うための特定のセクションにセカンダリ・ページと呼ばれる追加のレイアウト・ページを設定する必要があります。セカンダリ・ページは、新規コンテンツのテンプレート（背景）として機能します（9-11 ページの「[置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定](#)」を参照）。
5. サイトにマネージャ・アプリケーションの 1 つ以上のインスタンスを追加します。マネージャ・アプリケーションの各インスタンスにより、サイト・マネージャは、サイト階層を更新し、サイトに他の構造的な変更を加えることができます（第 15 章「[マネージャの設定](#)」を参照）。
6. 最後に最も重要な作業として、各コントリビュータに Site Studio の動作方法とサイトにおける各自の役割について情報提供する必要があります。各コントリビュータは、移動先や、コントリビュータ・アプリケーションを使用した Web ページの編集方法について把握しておく必要があります（8-9 ページの「[コントリビュータへの情報提供](#)」を参照）。

8.4 コントリビュータ専用セクションの指定

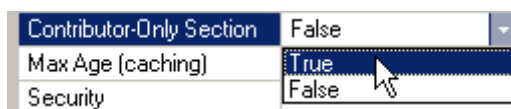
サイト階層のセクションを、コントリビューション・モードでのみ参照できるように指定できます。この設定にすると、Web ページをコントリビューション・モードで参照するまで、そのセクションはサイト・ナビゲーションに表示されません。

たとえば、設計者がコントリビュータと直接コミュニケーションする場合、コントリビュータ専用セクションを作成すると便利です。コントリビュータ専用セクションを使用して、各コントリビュータに Web サイトを紹介し、Site Studio Web サイトにコンテンツを投稿する方法を指示できます（8-9 ページの「[コントリビュータへの情報提供](#)」を参照）。

コントリビュータ専用セクションを作成するには、次の手順を実行します。

1. Web サイトに新規セクションを追加します（5-11 ページの「[サイト階層へのセクションの追加](#)」を参照）。
2. そのセクションをサイト・ナビゲーションに含めます（5-13 ページの「[サイト・ナビゲーションへのセクションの表示](#)」を参照）。
3. 「Properties」ペインを開き、「Contributor-Only Section」が表示されるまで下にスクロールします。

図 8-6 「Contributor-Only Section」の値の選択



4. 右側のフィールドをクリックし、メニューから「True」を選択します。
5. セクションにプライマリ・ページを追加します（5-23 ページの「[サイト階層へのプライマリ・ページの追加](#)」を参照）。
6. コントリビュータ専用コンテンツにコンテンツを追加します。カスタム・エラー・メッセージを作成するか、ツールボックスに付属するサンプル・フラグメントを使用します。

8.5 コントリビュータへの情報提供

サイトの設計者が Site Studio で実行する作業は、CD からのソフトウェアのインストール、サーバーでの Web サイトの設定、サイト階層、レイアウト・ページ、フラグメント、コントリビューション・リージョンの作成、および企業または顧客へのサイトの配信です。設計者は、作業の開始点と終了点を明確に把握しており、動作しているテクノロジーも全体的に理解しています。

コントリビュータとマネージャは、これらをまったく把握していません。両者の作業は、設計者からコントリビューションの必要な Web ページの URL を送信された瞬間から（またはワークフローの電子メール・メッセージを受け取った瞬間から）始まります。

そのため、コントリビュータとマネージャには、最低でも次の情報を提供する必要があります。

1. 設計者 - コントリビュータ・モデル
2. 組織でのコントリビュータおよびマネージャの役割
3. 組織での設計者の役割
4. コントリビュータとマネージャが提供する必要のあるサイトの部分
5. サイトを移動し、編集する必要があるページを識別する方法
6. コントリビューション・モードへの移行方法 ([Ctrl]+[Shift]+[F5] またはそれに類するキーストロークの使用)
7. マネージャ・アプリケーションとコントリビューション・アイコンの場所の特定方法
8. コントリビュータおよびマネージャ・アプリケーションで使用可能なオプション
9. カスタム要素フォームやプロパティ・フォームなどのカスタマイズされた機能の使用方法
10. コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントの用途
11. ターゲット・セクションの使用方法
12. 設計者、マネージャおよびコントリビュータ間の（ワークフローなどを使用した）作業調整
13. ドキュメントの格納場所

この種の情報を提供する場所が必要な場合、コントリビュータ専用セクションを設定し、そのページに指示を追加できます（8-8 ページの「[コントリビュータ専用セクションの指定](#)」を参照）。

これらすべての手順により、マネージャとコントリビュータは、サイトでの作業に安心して取り組むことができるようになります。

コントリビューション・リージョンの操作

初期の設計作業の大部分は、背景色、グラフィック、テキスト、表レイアウトの挿入など、サイトのルック・アンド・フィールの構築に費やされます（6-6 ページの「[レイアウト・ページの編集](#)」を参照）。この作業が終了したら、フラグメントの使用を通じて実行機能、対話機能および動的コンテンツを追加します（第7章「[フラグメントの操作](#)」を参照）。

次の手順では、これらの Web ページ上に役に立つ最新のコンテンツを追加します。これは、Site Studio により導入された Web サイトを管理するためのまったく新しい方法です。Site Studio では、Web マスターや Web チームに企業全体にわたるサイトの更新を任せずに、コンテンツを最もよく把握しているマネージャやコントリビュータなどの個々の担当者に各 Web ページを開放します。

マネージャは、通常、部課長であり、サイト階層全体の管理を担当します。コントリビュータは、組織内の任意の担当者ですが、一般的には特定の製品、サービスまたは部門に関する知識を持つユーザーです。

サイトを更新する準備のできたマネージャとコントリビュータは、更新が必要な Web ページに直接移動し、ビューをコントリビューション・モードに移行して変更作業を開始できます。ページを更新することに関連するパブリッシュ・ボトルネックや遅延は発生しません。設計者は、複数のマネージャやコントリビュータの下で、サイトが独自に成長していくのを確認できます。

このコントリビューション・モデルを活用するため、設計者は、レイアウト・ページに1つ以上のマネージャ・フラグメントとコントリビューション・リージョンを追加し、各マネージャおよびコントリビュータに Web サイトの更新準備が完了したことを通知する必要があります。

次の項で、コントリビューション・プロセスについて説明します。

- 9-2 ページの「[コントリビューション・リージョンの設定](#)」
- 9-2 ページの「[コントリビューション・リージョンの追加](#)」
- 9-4 ページの「[コントリビューション・リージョンの編集](#)」
- 9-4 ページの「[コントリビューション・リージョンの削除](#)」
- 9-5 ページの「[コントリビューション・リージョンの移動またはサイズ調整](#)」
- 9-5 ページの「[コントリビュータによるリージョン内のメタデータの変更の許可](#)」
- 9-6 ページの「[コントリビュータによるリージョン・コンテンツの切替えの許可](#)」
- 9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」

9.1 コントリビューション・リージョンの設定

コントリビューション・リージョンは、コントリビュータが編集できる Web ページ上の指定された領域です。Web ページには、1 つ以上のコントリビューション・リージョンを確保できます。Web ページがコントリビューション・モードで表示されると、各コントリビューション・リージョンの横にコントリビューション・グラフィック (図 9-1) が表示されます。

図 9-1 コントリビューション・グラフィック



各コントリビューション・リージョンには、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てる必要があります (データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントは、リージョン・コンテンツとも呼ばれます)。コントリビュータがリージョンの横にあるコントリビューション・グラフィック内の編集アイコンをクリックすると、データ・ファイルがリージョンに割り当てられている場合はコントリビュータ・アプリケーションが、ネイティブ・ドキュメントがリージョンに割り当てられている場合はそのファイルを作成したときのアプリケーションがそれぞれ起動します。これにより、各コントリビュータは、真のコンテキスト内編集環境でサイトに直接変更を加えることができます。

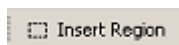
9.2 コントリビューション・リージョンの追加

デザイナーのツールバーを使用して、レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加します。コントリビューション・リージョンを追加することで、各コントリビュータは Web ページのその部分を編集できるようになります。

デザイナーのツールバーを使用して、コントリビューション・リージョンと要素を追加できます。コントリビューション・リージョンを追加するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページでコントリビューション・リージョンを作成する場所にカーソルを置きます。
2. ツールバーの「Insert Region」 (図 9-2) をクリックします。「Source」ビューでは、この同じボタンと右クリック・メニューを使用してリージョンを挿入できます。

図 9-2 「Insert Region」 ボタン



「Contribution Region」ダイアログ・ボックスが表示されます (A-43 ページの「[Contribution Region] ダイアログ・ボックス」を参照)。

3. リージョンの名前を入力します。(リージョンの名前は、コーディング目的で使用されるため、空白、非 ASCII 文字または特殊文字を含めないでください。)

複数のレイアウト・ページで同じデータ・ファイルを再利用する場合、各ページのリージョン名も同じにする必要があります。

4. 「Contributor edit」を選択すると、各コントリビュータによるリージョンの編集が許可されます。選択すると、各コントリビュータはリージョンに割り当てられたコンテンツを編集できます。各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用してデータ・ファイルを編集し、サード・パーティ・アプリケーションを使用してネイティブ・ドキュメントを編集します。
5. 「Document info」を選択すると、コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Document Info」リンクが追加されます。このリンクにより、各コントリビュータは、リージョンに割り当てられたコンテンツ・アイテム (データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント) のコンテンツ情報ページに移動できます。

6. 「**Workflow approve**」を選択すると、コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「**Approve Document**」リンクが追加されます。このリンクにより、各レビューア（ワークフローにおいてレビューアまたはコントリビュータとして指定されたコントリビュータ）は、リージョンに割り当てられたコンテンツを承認できます。
7. 「**Workflow reject**」を選択すると、コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「**Reject Document**」リンクが追加されます。このリンクにより、各レビューア（ワークフローにおいてレビューアまたはコントリビュータとして指定されたコントリビュータ）は、リージョンに割り当てられたコンテンツを却下できます。
8. 「**Modify metadata**」を選択すると、各コントリビュータは、リージョンに割り当てられたファイルのメタデータを保存する前に変更できます。これにより、コントリビュータは、コンテンツ・サーバーの情報割当てフォームに移動します（9-5 ページの「[コントリビュータによるリージョン内のメタデータの変更の許可](#)」を参照）。
「**Define**」をクリックすると、「**Enable Metadata Modification**」ダイアログ・ボックスが表示され（A-45 ページの「[Enable Metadata Modification](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）、そこでコントリビュータに変更を許可するメタデータを指定できます。
9. 「**Switch region content**」を選択すると、コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「**Switch Region Content**」リンクが追加されます。このリンクにより、各コントリビュータは、コンテンツ・サーバーを検索し、リージョンに割り当てられたコンテンツ（データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を変更できます（9-6 ページの「[コントリビュータによるリージョン・コンテンツの切替えの許可](#)」を参照）。
「**Define**」をクリックすると、「**Region Content Options**」ダイアログ・ボックスが表示され（A-46 ページの「[Region Content Options](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）、そこでリージョンのコンテンツを切り替える（リージョンに新規コンテンツを割り当てる）際にコントリビュータが使用できるファイルを指定できます。
10. 「**View Web Site Usage Report**」を選択すると、コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「**View Web Site Usage Report**」リンクが追加されます。このリンクにより、各コントリビュータは、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのサイト使用状況レポートを表示できます（5-42 ページの「[Web サイト使用状況レポートの表示](#)」を参照）。
11. 「**View Content Tracker Report**」を選択すると、コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「**View Content Tracker Report**」リンクが追加されます。このリンクにより、各コントリビュータは、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントのコンテンツ追跡レポートを表示できます（5-43 ページの「[コンテンツ追跡レポートの表示](#)」を参照）。
12. 「**Settings**」をクリックすると、リージョンでネイティブ・ドキュメントを使用する場合の変換テンプレートを指定できます（13-3 ページの「[ネイティブ・ドキュメント用の変換テンプレートの指定](#)」を参照）。
13. 「**OK**」をクリックして「**Contribution Region**」ダイアログ・ボックスを閉じます。コントリビューション・リージョンが、最後にカーソルを置いていた場所に表示されます。

図 9-3 コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダ



レイアウト・ページの特定の部分にコントリビューション・リージョンを配置する場合、HTML 表を使用してそのセルの 1 つにコントリビューション・リージョンを挿入できます。

リージョンに（ネイティブ・ドキュメントではなく）コントリビュータ・データ・ファイルを割り当てる場合、次の手順では、リージョンに 1 つ以上の要素を追加します。要素により、ユーザーがテキストやグラフィックなどを追加および編集できるコントリビュータ・アプリケーションのフィールドが作成されます（第 11 章「[要素の操作](#)」を参照）。

コントリビューション・リージョンを追加したら、そのリージョンにコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てる必要があります（第10章「リージョン・コンテンツの操作」を参照）。

9.3 コントリビューション・リージョンの編集

レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加したら、いつでもそのリージョンを編集して、名前やそのリージョンで可能なアクションなどを変更できます。

コントリビューション・リージョンを編集するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページで、コントリビューション・リージョンの開始または終了プレースホルダをクリックし、コントリビューション・ツールバーの「Edit Selected Object Properties」アイコン（図9-4）をクリックします（または、単にレイアウト・ページのコントリビューション・リージョンをダブルクリックします）。

図 9-4 「Edit Selected Object Properties」アイコン



図 9-5 コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダ



「Source」ビューで、ツールバーや右クリック・メニューを使用してコントリビューション・リージョンを編集することもできます。

2. 「Contribution Region」ダイアログ・ボックスで（A-43 ページの「[「Contribution Region」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）、リージョンの異なる名前の入力、リージョンで可能なアクションの変更、またはネイティブ・ドキュメントの変換設定の編集を行うことができます。
3. 「OK」をクリックして「Contribution Region」ダイアログ・ボックスを閉じます。

9.4 コントリビューション・リージョンの削除

レイアウト・ページに追加したコントリビューション・リージョンは、簡単に削除できます。

コントリビューション・リージョンを削除するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページで、コントリビューション・リージョンの開始または終了プレースホルダをクリックします。

図 9-6 コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダ



2. コントリビューション・ツールバーの「Delete Selected Object」アイコン（図9-7）をクリックします（または、単にキーボードの [Del] キーを押してコントリビューション・リージョンを削除します）。

図 9-7 「Delete Selected Object」アイコン



「Source」ビューで、ツールバーや右クリック・メニューを使用してコントリビューション・リージョンを削除することもできます。

3. 「Yes」をクリックして削除を確認します。

注意: リージョン・コンテンツ（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を割り当てた後にコントリビューション・リージョンを削除した場合、そのリージョン・コンテンツはコンテンツ・サーバーに残ります。削除したリージョンと同じ ID を使用して新規リージョンを作成すると、そのリージョン・コンテンツはレイアウト・ページで引き続き動作します。

9.5 コントリビューション・リージョンの移動またはサイズ調整

コントリビューション・リージョンを移動またはサイズ調整するには、次の手順を実行します。

1. レイアウト・ページ上のある場所から別の場所へコントリビューション・リージョンを移動するには、コントリビューション・リージョンの開始および終了プレースホルダをマウスで選択し、新しい場所にドラッグします（切り取って貼り付けることもできます）。

図 9-8 コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダ



- コントリビューション・リージョンのサイズを調整するには、コントリビューション・リージョンの開始または終了プレースホルダを選択し、新しい場所まで移動して必要な領域を作成します。

または、コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダの間にカーソルを置き、ハード・リターンを入力します。これにより、HTML のパラグラフ・タグ（<p></p>）を使用して必要な領域が作成されます。

コントリビューション・リージョンの開始および終了プレースホルダは、その順序どおりに表示される必要があります。開始プレースホルダの前に終了プレースホルダを移動すると、エラーが発生します。

9.6 コントリビュータによるリージョン内のメタデータの変更の許可

「Contribution Region」ダイアログ・ボックスでは、リージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルのメタデータの変更をコントリビュータに許可できます。これにより、各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションに作業内容を保存する際に表示される情報割当てフォームを使用して、ファイルの特定のメタデータを入力できます。

コントリビュータにコントリビュータ・データ・ファイルのメタデータの変更を許可するには、次の手順を実行します。

1. 「Contribution Region」ダイアログ・ボックスで（9-2 ページの「[コントリビューション・リージョンの追加](#)」を参照）、可能なアクションとして「**Modify metadata**」を選択します。
2. 「Define」をクリックして「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスを表示します（A-45 ページの「[Enable Metadata Modification](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）。

3. このダイアログ・ボックスで、コンテンツ・サーバーのメタデータ値の名前、キャプションおよびタイプを参照できます。
 - メタデータ値の横にあるボックスを選択すると、各コントリビュータは、データ・ファイルの保存時にその値を変更できるようになります。

または

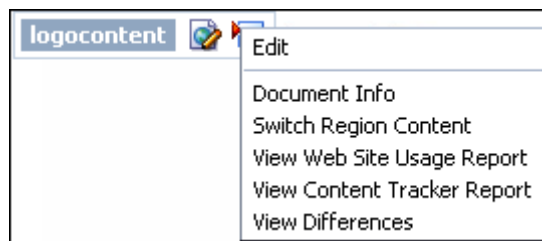
 - メタデータ値の横にあるボックスを選択解除すると、各コントリビュータは、データ・ファイルの保存時にその値を変更できなくなります。

すべてのメタデータ値を有効または無効にするには、「Check All」または「Clear All」をクリックします。
4. 「OK」を2回クリックして「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスと「Contribution Region」ダイアログ・ボックスを閉じます。

9.7 コントリビュータによるリージョン・コンテンツの切替えの許可

「Contribution Region」ダイアログ・ボックスでは、リージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの切替えや、新規ファイルの作成とそのファイルのリージョンへの割当てをコントリビュータに許可できます。これにより、各コントリビュータは、コントリビューション・グラフィックのメニューで「Switch Region Content」オプションを使用できます。

図 9-9 コントリビュータ用の「Switch Region Content」オプション



コンテンツ・サーバーでの問合せを指定することで、コントリビュータが元のファイルと置換できるファイルを指定できます（これを行うには、「Contribution Region」ダイアログ・ボックスの「Define」ボタンを使用します）。

リージョンに割り当てられたコンテンツの切替えをコントリビュータに許可するには、次の手順を実行します。

1. 「Contribution Region」ダイアログ・ボックスで (9-2 ページの「[コントリビューション・リージョンの追加](#)」を参照)、可能なアクションとして「Switch region content」を選択します。
2. 「Define」をクリックして「Region Content Options」ダイアログ・ボックスを表示します (A-46 ページの「[Region Content Options](#)」ダイアログ・ボックス」を参照)。
3. 「Create new contributor data file」を選択すると、各コントリビュータは、新規データ・ファイルを作成してリージョンに割り当てることができます。
4. 「Create new native document」を選択すると、各コントリビュータは、新規ネイティブ・ドキュメントを作成してリージョンに割り当てることができます。
5. 「Document Types」フィールドに、コントリビュータが使用できるドキュメントのタイプを入力します。
 - 「Additional Information」アイコン (図 9-10) をクリックすると、「Choose Document Types」ダイアログ・ボックスが表示され、使用するネイティブ・ドキュメントを選択できます。終了したら「OK」をクリックします。

図 9-10 「Additional Information」 アイコン



6. 「Choose existing in the content server」を選択すると、各コントリビュータは、既存のデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントをコンテンツ・サーバーで検索し、リージョンに割り当てることができます。
7. 「Query Text」フィールドに、コントリビュータにファイルを表示するために使用する問合せを指定します。
 - 「Additional Information」アイコン (図 9-11) をクリックすると、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスが表示され (A-48 ページの「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス」を参照)、問合せを作成、取得およびテストできます。終了したら「OK」をクリックします。

図 9-11 「Additional Information」 アイコン



- 「Show Results Only」を選択すると、検索結果のみが表示され、コンテンツ・サーバー環境は表示されません。(これは、コントリビュータがコンテンツ・サーバーの他のコンテンツを参照できないようにする場合に便利です。)
8. 「Browse for content locally」を選択すると、各コントリビュータは、自分のファイル・システムからファイルを選択してチェックインし、リージョンに割り当てることができます。
 9. 「Remove region content association」を選択すると、各コントリビュータは、リージョンに割り当てられた既存のファイルを削除できます。(これにより、「Choose Region Content」ダイアログ・ボックスに「None」オプションが追加されます。)
 10. 「Default Metadata」をクリックすると、使用可能にするメタデータと、コントリビュータによる新規ファイルの作成時にデフォルトで割り当てるメタデータを指定できます。終了したら「OK」をクリックします。
 11. 「OK」をクリックして「Region Content Options」ダイアログ・ボックスを閉じ、再度「OK」をクリックして「Contribution Region」ダイアログ・ボックスを閉じます。

各コントリビュータにリージョン・コンテンツの切替えを許可している状態で、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートする場合、切り替えられたリージョン・コンテンツをターゲット・サーバーで維持できます (17-7 ページの「ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定」を参照)。この設定を行わない場合、コントリビュータによる変更は上書きされます。

各コントリビュータは、プライマリ・ページでは一般的にこの機能のみを使用します。セカンダリ・ページでは、リージョンが置換え可能として指定されるため、データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントはそのリージョンに表示されます (9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照)。

9.8 コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可

各コントリビュータは、コントリビューション・リージョンを含んだ Web ページをプレビューしてから編集する場合、リージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント（リージョン・コンテンツとも呼ばれる）を開き、ファイルを編集して作業内容を保存します。この変更は、Web サイトに即座に反映されます。

設計者は、新規セクションを作成し、各セクションに 1 つ以上のコントリビューション・リージョンとリージョン・コンテンツを含むプライマリ・ページを割り当て、ページの更新が必要であることを各コントリビュータに通知するという手順を繰り返すことができます。

別の方法として、新規コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントの追加をコントリビュータ自身に任せることもできます。これらのファイルは、セカンダリ・ページの使用を通じて、最終的に Web サイトの新規 Web ページになります。サイトをこのように設定すると、設計者が新規セクション、新規レイアウト・ページ、新規コントリビューション・リージョンなどを追加しなくても、サイトは独自に成長していくことが可能になります。これにより、サイトは、ボトルネックやパブリッシュによる遅延のないスケラビリティを獲得します。

次の項で、Web サイトへの新規ファイルの追加を各コントリビュータに許可する場合の必須手順と、特別な考慮事項について説明します。

- 9-8 ページの「[コントリビュータによる新規ファイルに対するリンクの作成の許可](#)」
- 9-9 ページの「[コントリビュータによる動的リストへのファイルの追加の許可](#)」
- 9-11 ページの「[置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定](#)」
- 9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」

9.8.1 コントリビュータによる新規ファイルに対するリンクの作成の許可

ファイルに対するハイパーリンクの作成をコントリビュータに許可することで、Web サイトへの新規ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント）の追加をコントリビュータに任せることができます。これにより、各コントリビュータは、Create Hyperlink Wizard（デザイナで使用されるウィザードと同じ）を起動してファイルへのリンクを作成し、新規ファイルを追加するか、既存のファイルを指定できます。

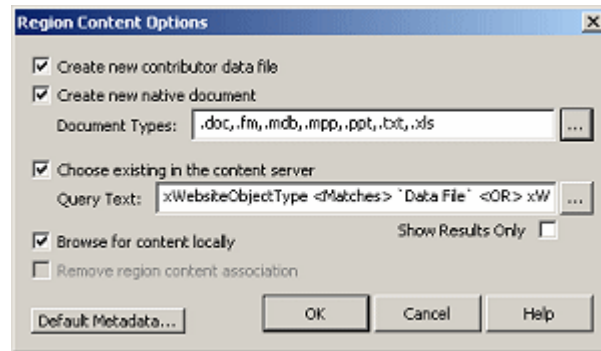
この特定のアクションを使用可能にするには、コントリビューション・リージョンに WYSIWYG 要素、イメージ要素または静的リストを追加し、「Insert Link」オプションを選択します。

図 9-12 要素でのコントリビュータ用のリンク・オプション



コントリビュータが作成できるファイルのタイプを指定するには、「Link Settings」をクリックし、「Region Content Options」ダイアログ・ボックスで選択作業を行います。

図 9-13 コントリビュータが作成できるファイルのタイプ



これらの手順の詳細は、9-8 ページの「コントリビュータによる新規ファイルに対するリンクの作成の許可」を参照してください。

コントリビュータにサイトへのファイルの追加を許可したら、コントリビュータがファイルを追加する可能性のあるすべてのセクションに、置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページを設定していることを確認する必要があります (9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照)。

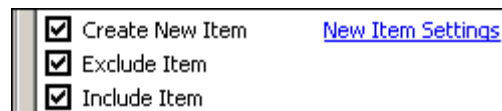
フラグメント・エディタで静的リストを開き、そのリストに追加アクションを指定することもできます (7-22 ページの「フラグメント要素の追加と編集」を参照)。

9.8.2 コントリビュータによる動的リストへのファイルの追加の許可

コントリビュータに動的リストへの新規ファイル (コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント) の追加を許可すると、コントリビュータは事実上 Web サイトに新規 Web ページを追加できることとなります。具体的には、各コントリビュータはコントリビュータ・アプリケーションでリストを開き、(動的リスト・ツールバーの「Create New in List」をクリックして) リストにファイルを追加し、そのファイルを編集します。結果として、新規 Web ページを宛先とする新規ハイパーリンクが生成されます。

この特定のアクションを使用可能にするには、コントリビューション・リージョンに動的リストを追加し、「Create New Item」オプションを選択します。

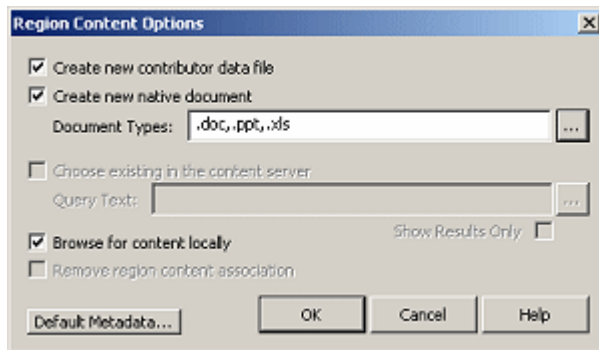
図 9-14 要素でのコントリビュータ用のリンク・オプション



9.8.3 動的リストでのコントリビュータ用のリンク・オプション

コントリビュータがリストに追加できるファイルのタイプを指定するには、「New Item Settings」をクリックし、「Region Content Options」ダイアログ・ボックスで選択作業を行います。

図 9-15 コントリビュータが作成できるファイルのタイプ



コントリビュータ・アプリケーションの動的リスト・ツールバーに加え、コントリビュータは、動的リスト問合せに同じメタデータを使用してファイルをチェックインすることで、リストにそのファイルを追加できます。各コントリビュータは、Content Server のチェックイン・フォーム、WebDAV Client または Web Folders を使用してファイルを追加できます。これは、データ・ファイルとは異なるネイティブ・ドキュメントではより一般的な操作です。

動的リストの詳細は、14-7 ページの「レイアウト・ページへの動的リストの追加」を参照してください。

コントリビュータにリストへのファイルの追加を許可したら、リストと同じセクションに、置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページを設定していることを確認する必要があります (9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照)。

9.8.4 置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定

サイト階層はプライマリ・ページのみで構成することもできますが、その場合、コントリビュータが新規トピック、プレス・リリース、製品ページなどを追加しようとするたびに、設計者が新規セクションとプライマリ・ページを追加する必要があります。

各コントリビュータが Web ページを編集できるだけでなく、新規 Web ページを追加できる真にスケーラブルなサイトを構築するため、コントリビュータにファイルの追加を許可し (9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照)、それらのファイルの表示場所を確保するようにサイトを構成できます。このとき役に立つのが、セカンダリ・ページと置換え可能なリージョンです。

置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページを追加することで、コントリビュータによりサイトに追加されるすべての新規ファイルの背景を作成します。コントリビュータがプライマリ・ページのコンテンツを編集して新規ファイルへのリンクを作成すると、そのファイルはセカンダリ・ページの置換え可能なリージョンに表示されます。

図 9-16 プライマリ・ページのリンク



プライマリ・ページのリンクは、通常、セカンダリ・ページのデータ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントをターゲットとします。

各コントリビュータは、必要な数だけファイルを追加できます。そのたびに、Web サイトのセカンダリ・ページにそれらのファイルのコンテンツが表示されます。したがって、セカンダリ・ページは、コントリビュータにより追加されるすべての新規ファイルで再利用されます。サイト訪問者には、Web サイト上に複数の Web ページが存在するように見えます。

設計者は、コントリビュータがファイルを追加する可能性のあるサイトのすべてのセクションに、(置換え可能なリージョンを含む) セカンダリ・ページを追加する必要があります。この作業を行う場合、各コントリビュータは、**Create Hyperlink Wizard** を使用してファイルを表示するサイトのセクションを任意に選択できるように注意してください (9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照)。そのため、設計者は、単純にサイトのすべてのセクションにセカンダリ・ページを追加することもできます。

置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページを設定するには、次の手順を実行します。

1. サイト階層のセクションにセカンダリ・ページを追加します (5-25 ページの「[サイト階層へのセカンダリ・ページの追加](#)」を参照)。
2. セカンダリ・ページに 1 つ以上のコントリビューション・リージョンを追加します (9-2 ページの「[コントリビューション・リージョンの追加](#)」を参照)。

3. コントリビュータがこのセクションでコントリビュータ・データ・ファイルを作成する予定の場合、リージョンに1つ以上の要素を追加します（第11章「要素の操作」を参照）。
置換え可能なリージョン内の要素により、最終的にそこに表示されるデータ・ファイルに構造がもたらされます。
4. 「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを表示し（A-76 ページの「[Assign Region Content](#)」ダイアログ・ボックスを参照）、「Contribution Region」ボックスで「Set Replaceable」をクリックします。

注意：セカンダリ・ページに複数のコントリビューション・リージョンが存在する場合、置換え可能として指定できるのは、そのうちの1つのみです（通常はページの中央に存在するリージョン）。他のすべてのリージョンについては、ユーザーが置換え可能なリージョンのコンテンツを参照したときに何か表示されるように、データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てておく必要があります。

5. 「Finished」をクリックして「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。

9.8.5 ターゲット・セクションの理解

別のファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）へのリンクを作成する場合、通常予想される動作は、現在自分が存在するサイトの一部から、ターゲット・ファイルが存在するサイトの一部（またはファイルが存在する別の Web サイト）へと移動することです。

Site Studio には、独自の機能があり、他のファイルへのリンクを作成できるだけでなく、リンクのクリック時にファイルを表示する現在のサイト（または別のサイト）のセクションを選択できます。これは、ターゲット・セクションと呼ばれます。

ターゲット・セクションを使用すると、設計者とコントリビュータは、ファイルの実際の場所（ファイルのメタデータ）にかかわらず、コンテンツ・サーバーの現在のサイトまたは別のサイトのどの場所にもデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを表示できます。また、逆の動作も可能です。コンテンツ・サーバーの別の Web サイトの別のファイルに対するリンクを作成し（このファイルは Web サイトに関連付けられていなくてもかまいません）、そのファイルを現在のサイトに表示できます。

ターゲット・セクションにより、設計者とコントリビュータは、現在のサイト全体またはコンテンツ・サーバーの複数のサイト全体でリージョン・コンテンツを簡単かつシームレスに共有できます。

9.8.6 ターゲット・セクションを指定する場所

ターゲット・セクションは、Web サイトのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントへのリンクを作成する際にいつでも指定できます。通常は、次のいずれかの場所で指定します。

- 設計者とコントリビュータは、Create Hyperlink Wizard でターゲット・セクションを選択できます（A-42 ページの「[Create Hyperlink Wizard - 「Choose Target Section」](#)」を参照）。
- 設計者は、動的リスト・フラグメントおよび検索結果フラグメントでターゲット・セクションを指定できます（付録 B「[サンプル・フラグメント](#)」の `ssTargetNodeID` パラメータの説明を参照）。

一部のサンプル・フラグメントの `ssTargetSiteId` パラメータを指定して、ターゲット Web サイトを決定することもできます。

9.8.7 Site Studio によるターゲット・セクションの評価方法

Site Studio では、特定のデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを表示する Web サイト上の場所を決定するために、次の順序でターゲット・セクションを判別します。

1. **設計者またはコントリビュータに指定されたターゲット・セクションの使用**: 設計者またはコントリビュータがファイルのターゲット・セクションを指定している場合 (9-12 ページの「[ターゲット・セクションを指定する場所](#)」を参照)、ファイルはサイトのそのセクションに表示されます。
2. **ファイルが格納されているセクションの使用**: 設計者またはコントリビュータがターゲット・セクションを指定していない場合、ファイルはファイルが格納されている (関連付けられている) セクションに表示されます (コンテンツ・サーバーにおけるファイルの「Website Section」メタデータ値が使用されます)。
3. **リンク元のセクションの使用**: 設計者またはコントリビュータがターゲット・セクションを指定しておらず、ファイルがセクションに格納されていない場合 (「Website Section」メタデータ値が含まれない場合)、ファイルはリンク元のセクションに表示されます。

たとえば、Products セクションのハイパーリンクが、セクションに関連付けられていないファイルをターゲットとしている場合、そのターゲット・ファイルは、元のハイパーリンクが存在する Products セクションに表示されます。

Site Studio が特定のファイルを表示する場所を決定する場合、該当セクションに置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページがあるかどうかはチェックされません (置換え可能なリージョンは、そのセクションにファイルを表示するために必要です)。そのため、設計者自身が責任を持って、サイトに追加される新規ファイルを処理できるようにサイト階層を構成する必要があります (9-11 ページの「[置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定](#)」を参照)。

10

リージョン・コンテンツの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 10-2 ページの「[リージョン・コンテンツについて](#)」
- 10-2 ページの「[リージョン・コンテンツに関する考慮事項](#)」
- 10-3 ページの「[コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て](#)」
- 10-5 ページの「[各リージョンに対する一意のデータ・ファイルの生成](#)」
- 10-6 ページの「[サイト階層にリージョン・コンテンツが存在するかどうかの確認](#)」
- 10-8 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルの操作](#)」

10.1 リージョン・コンテンツについて

レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加するたびに、そのリージョンにコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てる必要があります（または、リージョンにこれらのファイルのいずれかを割り当てるよう各コントリビュータに指示する必要があります）。

コントリビュータ・データ・ファイルは、**Site Studio** で導入されている XML ファイルです。各コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションを使用してこのファイルを表示および編集できます。編集の結果は Web サイトに即座に反映され、Web ページのコントリビューション・リージョン内にコンテンツとして表示されます（10-8 ページの「[コントリビュータ・データ・ファイルの操作](#)」を参照）。

ネイティブ・ドキュメントは、設計者またはコントリビュータによって導入される任意のビジネス・アプリケーション・ファイルです。このファイルは、サイトで使用する前にコンテンツ・サーバーにチェックインしておく必要があります。また、このファイルは、**Dynamic Converter** を使用して Web ページに変換し、**Check Out and Open** コンポーネントを使用して Web サイトから直接開いて編集することができます（第 13 章「[ネイティブ・ドキュメントの操作](#)」を参照）。

これら 2 つのファイルは、**Site Studio** ではリージョン・コンテンツと呼ばれます。どちらのファイルも、コントリビューション・リージョンに割り当て、コントリビューション・グラフィック（[図 10-1](#)）を使用してアクセスできます（ページをコントリビューション・モードで表示した場合）。また、どちらのファイルも最終的にはコントリビュータによって（コントリビュータ・アプリケーションまたはネイティブ・ドキュメントに関連付けられたアプリケーションを使用して）編集されます。

図 10-1 コントリビューション・グラフィック



10.2 リージョン・コンテンツに関する考慮事項

レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加する場合、そのリージョンに割り当てるリージョン・コンテンツの種類（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）に関して考慮する必要があります。

考慮する必要があるのは、次の理由からです。

- コントリビュータ・データ・ファイルを使用する場合、そのリージョンに 1 つ以上の要素を追加する必要があります（11-3 ページの「[ツールバーの要素](#)」を参照）。各要素は、コントリビュータがコンテンツを追加、編集および削除できるコントリビュータ・アプリケーションのフィールドになります。つまり、これらの要素により、コントリビュータ・データ・ファイルに構造がもたらされます。
- ネイティブ・ドキュメントを使用する場合、要素について考慮する必要はありませんが、ドキュメントを（**Site Studio** を使用して）コンテンツ・サーバーにチェックインする必要があります。また、ドキュメントを Web ページに変換する際に使用する **Dynamic Converter** テンプレートまたはルールを構成する必要があります（13-3 ページの「[ネイティブ・ドキュメント用の変換テンプレートの指定](#)」を参照）。

これらの考慮事項は、Web サイトの計画ステージに含まれることがあります。

10.3 コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て

すべてのコントリビューション・リージョンには、コントリビューター・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント（どちらもリージョン・コンテンツと呼ばれる）を割り当てる必要があります。これにより、各コントリビューターは、コントリビューター・アプリケーション（コントリビューター・データ・ファイルの場合）またはサード・パーティ・アプリケーション（ネイティブ・ドキュメントの場合）を使用してそのファイルを開き、編集できます。

設計者は、「Assign Region Content」ダイアログ・ボックス（後続の説明を参照）を使用してこれらのファイルをリージョンに割り当てるか、リージョンへのコンテンツの割当てを各コントリビューターに任せることができます（9-6 ページの「[コントリビューターによるリージョン・コンテンツの切替えの許可](#)」を参照）。

コントリビューション・リージョンにコンテンツを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、コンテンツを割り当てるコントリビューション・リージョンを含むレイアウト・ページを選択し、ツールバーの「Assign Region Content」アイコン（[図 10-2](#)）をクリックするか、レイアウト・ページを右クリックして「Assign Region Content」を選択します。

図 10-2 「Assign Region Content」アイコン



2. 「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスで（A-76 ページの「[「Assign Region Content」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）、「Contribution Region」ボックスにある拡張ボタン（[図 10-3](#)）をクリックします。

図 10-3 拡張アイコン



「Contribution Region」ボックスは、右側のプレビュー領域に表示されるフローティング・ウィンドウです。複数のコントリビューション・リージョンがあり、相互に邪魔になる場合は、ボックスの位置を調整できます。

3. 「Select Content」をクリックして「Choose Region Content」ダイアログ・ボックスを表示し（A-78 ページの「[「Choose Region Content」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）、次のいずれかを実行します。
 - コンテンツ・サーバーの既存のファイルを選択するには、「Choose」→「Existing」をクリックします。次に、コンテンツ・サーバーで、使用するファイルの横にある「Select」をクリックします。（このリストに表示されるのは、WebsiteObjectType として「Data File」または「Native Document」が指定されているファイルのみです。）
 - 新規ファイルを作成してチェックインするには、「Choose」→「New」をクリックし、リストからファイルのタイプを選択します。次に、コンテンツ・サーバーでファイルに適切なメタデータを割り当て、「Assign Info」をクリックします。
 - ファイル・システムの既存のファイルを選択するには、「Choose」→「Local」をクリックします。次に、ファイルを検索して「Open」をクリックし、手順に従ってそのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。
 - リージョンに関連付けられている既存のファイルを削除するには、「None」をクリックします。

「OK」をクリックして「Choose Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。（「Document Info」リンクをクリックすると、選択したファイルのコンテンツ情報ページが表示されます。）

4. 「Apply to all sections」をクリックすると、この同じレイアウト・ページが使用されるすべてのセクションで同じコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを使用できます。
5. 「Generate unique files」をクリックすると、このレイアウト・ページが使用されるすべてのセクションに対して一意のデータ・ファイルが自動的に生成されます (10-5 ページの「各リージョンに対する一意のデータ・ファイルの生成」を参照)。
6. 「View web site usage report」をクリックすると、このファイルが使用されるすべてのセクションが記載されたサイト・レポートを表示できます (5-42 ページの「Web サイト使用状況レポートの表示」を参照)。
7. サイトの別の場所にあるリージョンにコンテンツを割り当てるには、サイト階層でセクションをクリックし、(一番下近くにある)「Primary」または「Secondary」を選択して前述の手順を繰り返します。
8. 「Show all」を選択すると、サイト階層にリージョン・コンテンツが欠落しているセクションがあるかどうかを確認できます (10-6 ページの「サイト階層にリージョン・コンテンツが存在するかどうかの確認」を参照)。
9. 「Finished」をクリックして「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。

初め、「Contribution Region」ボックスは、コンテンツが割り当てられるまで (または、置換え可能として指定されるまで) 赤で表示されますが、設定後は緑で表示されます。また、サイト階層のコンテンツ欠落アイコン (図 10-4) は、フォルダ・アイコン (図 10-5) に変化します。

図 10-4 コンテンツ欠落アイコン

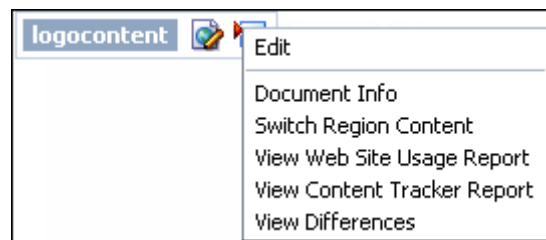


図 10-5 フォルダ・アイコン



設計者がコンテンツをリージョンに割り当てないと、各コントリビュータは、コンテンツがリージョンに割り当てられるまで、生成される Web ページのコントリビューション・グラフィック (図 10-6) のメニューで「Edit」または「Check Out and Open」を使用できません。そのため、コントリビュータは、編集の前にコンテンツを割り当てるため、「Switch Region Content」オプション (このアクションを設計者が使用可能にしている場合) を使用する必要があります (9-6 ページの「コントリビュータによるリージョン・コンテンツの切替えの許可」を参照)。

図 10-6 コントリビューション・アイコン



必要に応じて、サイト全体を通じて同じデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを再利用できます (企業フッター、コピーライト文、企業ロゴを表示する場合など)。

ログイン資格証明に基づいて各コントリビュータにリージョン・コンテンツの使用を許可するには、リージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントに異なるセキュリティ・グループを入力する必要があります。これにより、適切な権限を持つユーザーのみが、コントリビューション・アイコンを使用してコンテンツを編集できます。

「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスには、「Set replaceable」オプションもあります。このオプションは、セカンダリ・ページのコントリビューション・リージョン用です (9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照)。

10.4 各リージョンに対する一意のデータ・ファイルの生成

Web サイトの複数のセクションで同じレイアウト・ページを再利用し、セクションごとに一意のコントリビュータ・データ・ファイルを生成する場合、次の 2 つの方法があります。1 つは、各レイアウト・ページを「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスで開き、「Select Content」をクリックする方法です。もう 1 つは、「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスでレイアウト・ページの 1 つを開き、「Generate unique files」をクリックする方法です。

このオプションにより、指定したネーミング規則を使用して各セクションに一意のコントリビュータ・データ・ファイルが作成されます。

セクションごとに一意のコントリビュータ・データ・ファイルを生成するには、次の手順を実行します。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、コンテンツを割り当てるコントリビューション・リージョンを含むレイアウト・ページを選択し、ツールバーの「Assign Region Content」アイコン (図 10-7) をクリックするか、レイアウト・ページを右クリックして「Assign Region Content」を選択します。

図 10-7 「Assign Region Content」アイコン



2. 「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスで (A-76 ページの「Assign Region Content」ダイアログ・ボックス」を参照)、「Contribution Region」ボックスにある拡張ボタン (図 10-8) をクリックします。

図 10-8 拡張アイコン



「Contribution Region」ボックスは、右側のプレビュー領域に表示されるフローティング・ウィンドウです。複数のコントリビューション・リージョンがあり、相互に邪魔になる場合は、ボックスの位置を調整できます。

3. 「Generate unique files」をクリックして「Generate Unique Region Content」ダイアログ・ボックスを表示します (A-79 ページの「Generate Unique Region Content」ダイアログ・ボックス」を参照)。
4. コンテンツ ID (dDocName) を生成するため、次の 2 つのオプションのいずれかを選択します。
 - **自動生成されたコンテンツ ID を使用**: Site Studio では、コンテンツ・サーバーで自動生成されたコンテンツ ID を使用して、各ファイルの ID を生成します。このオプションは、コンテンツ・サーバーがコンテンツ ID を自動生成するように設定されていない場合は無効です (詳細は、Content Server のヘルプを参照してください)。
 - **次のオプションを使用してコンテンツ ID を生成**: Site Studio では、指定されたネーミング規則を使用してコントリビュータ・データ・ファイルのコンテンツ ID を生成します。

「Prepend with」フィールドを使用して独自の接頭辞を指定し、次のいずれかのネーミング規則を選択します。

- **Use timestamp to ensure uniqueness:** ファイルが作成されてコンテンツ・サーバーにチェックインされたときの時刻を反映した一意のタイムスタンプを適用します。
 - **Use section and region to ensure uniqueness:** サイト階層でコントリビュータ・データ・ファイルが表示されるセクションとリージョンの名前を反映した一意の名前を適用します。
5. 追加のデフォルト・メタデータ値を定義するには、「Define」をクリックします。情報割当てフォームで、使用するメタデータ（タイプ、作成者、セキュリティ・グループなど）を入力します。最後に「Assign Info」をクリックします。
 6. 各ファイルのタイトルとコメントを自動生成するには、「Auto-generate title」および「Auto-generate comments」オプションを選択します。
 7. 「OK」をクリックして「Generate Unique Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。
コントリビュータ・データ・ファイルが生成されて割り当てられると、「Contribution Region」ボックスは緑で表示されます。また、コンテンツ欠落アイコンは、サイト階層のセクションに表示されなくなります。コントリビュータ・データ・ファイルの名前は、「File」の横に表示されます。
 8. 「Finished」をクリックして「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。

注意： この機能により、レイアウト・ページのリージョンにすでに割り当てられているコントリビュータ・データ・ファイルが上書きされることはありません。

10.5 サイト階層にリージョン・コンテンツが存在するかどうかの確認

「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスで、リージョン・コンテンツ（データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）が欠落しているコントリビューション・リージョンや、置換え可能として指定されていないコントリビューション・リージョン（セカンダリ・ページの場合）がサイト階層に存在するかどうかを簡単に確認できます。このようなページは、訂正しないと Web サイトで問題を起こす可能性があります。

コンテンツが欠落しているコントリビューション・リージョンが存在するかどうかを確認するには、次の手順を実行します。


1. 「Site Hierarchy」ペインで、コンテンツを割り当てるコントリビューション・リージョンを含むレイアウト・ページを選択し、ツールバーの「Assign Region Content」アイコン（ 図 10-9）をクリックするか、レイアウト・ページを右クリックして「Assign Region Content」を選択します。

図 10-9 「Assign Region Content」アイコン

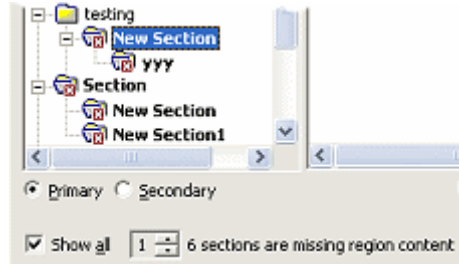


2. 「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスで（A-76 ページの「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを参照）、左下の「Show all」を選択し、確認メッセージに対して「OK」をクリックします。

注意： リージョン・コンテンツが欠落しているかどうかについて、サイト階層全体が調査されます。Web サイトのサイズによっては、この作業に数分間かかることがあります。

3. コンテンツが欠落している各セクションは、太字で表示され（最初はプライマリ・ページから表示されます）、そのセクションにはコンテンツ欠落アイコンが表示されます。ダイアログ・ボックスの一番下に、リージョン・コンテンツが欠落しているセクションの数が表示されます。

図 10-10 リージョン・コンテンツが存在および欠落している階層



4. 適切なセクションを選択してリージョン・コンテンツを割り当てます（10-3 ページの「コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て」を参照）。
参照コントロール（図 10-11）を使用すると、コンテンツが欠落しているセクションをナビゲートできます。

図 10-11 参照コントロール



5. 作業が終了したら、「Secondary」を選択し、コンテンツが欠落しているか、置換え可能として指定されていないセカンダリ・ページを表示します。
6. 適切なセクションを選択し、少なくとも1つのリージョンを置換え可能として指定します（9-11 ページの「置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定」を参照）。そのページに含まれる残りのすべてのリージョンには、コンテンツを割り当てる必要があります（10-3 ページの「コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て」を参照）。

注意： 置換え可能なリージョンには、かわりに他のファイル（データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント）が表示されるため、コンテンツを割り当てる必要はありません。

参照コントロール（図 10-12）を使用すると、コンテンツが欠落しているか、置換え可能として指定されていないセクションをナビゲートできます。

図 10-12 参照コントロール



7. 各リージョンを適切に設定すると、「Contribution Region」ボックスは緑で表示され（ファイル名は「File」の横に表示されます）、サイト階層のコンテンツ欠落アイコン（[図 10-13](#)）はフォルダ・アイコン（[図 10-14](#)）に変化します。

図 10-13 コンテンツ欠落アイコン



図 10-14 フォルダ・アイコン



8. 「Finished」をクリックして「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。

10.6 コントリビュータ・データ・ファイルの操作

コントリビュータ・データ・ファイルは、Site Studio で導入されているファイルです。これは、各コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションを使用して開き、編集できるように設計された XML ファイルです。ファイルは、レイアウト・ページとは別に管理されるため、結果として（コントリビュータにより作成される）コンテンツと（設計者により作成される）プレゼンテーションを分離できます。

設計者は、コントリビュータ・データ・ファイルをレイアウト・ページに割り当てる場合（10-3 ページの「[コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て](#)」を参照）、またはその作業をコントリビュータに許可する場合（9-6 ページの「[コントリビュータによるリージョン・コンテンツの切替えの許可](#)」および 9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照）、データ・ファイルとレイアウト・ページを関連付けます。コントリビュータ・データ・ファイルが Web サイトによってリクエストされると、そのファイルは、レイアウト・ページ（具体的にはレイアウト・ページのコントリビューション・リージョン）にシームレスに挿入されて表示されます。

コントリビュータ・データ・ファイルとレイアウト・ページの間には、次のような協調関係があります。

- 同じコントリビュータ・データ・ファイルを複数の異なるレイアウト・ページで再利用できます。そのため、コントリビュータにより作成された 1 つのコンテンツを、サイト全体に表示しながら 1 つの場所で更新できます。
- 異なるコントリビュータ・データ・ファイルをサイト全体の同じレイアウト・ページで使用できます。そのため、コントリビュータにより作成された一意のコンテンツを維持しながら、複数のレイアウト・ページで効果的に再利用できます。
- サイト全体で一意のコントリビュータ・データ・ファイルと一意のレイアウト・ページを組み合わせることもできます（従来の Web サイトとよく似た使用方法です）。

コントリビュータ・データ・ファイルが設計者によりサイトに割り当てられると、各コントリビュータは、Web ページに移動して（キーストロークの組合せの使用により）コントリビューション・モードを起動し、コントリビューション・アイコンをクリックして（コントリビュータ・アプリケーションの使用により）ファイルに変更を加えることができます。

コントリビュータ・データ・ファイルをコントリビュータ・アプリケーションで使用するためには、コントリビューション・リージョンに 1 つ以上の要素を追加する必要があります。各要素は、個々のコントリビュータがテキストやグラフィックなどのコンテンツを追加、編集および削除できるコントリビュータ・アプリケーションのフィールドとして表示されます。したがって、要素は、コントリビュータ・データ・ファイルにのみ適用され、ネイティブ・ドキュメントには適用されません（[第 11 章「要素の操作」](#)を参照）。

11

要素の操作

この項の内容は次のとおりです。

- 11-2 ページの「[要素の概要](#)」
- 11-3 ページの「[ツールバーの要素](#)」
- 11-3 ページの「[WYSIWYG 要素の操作](#)」
- 11-9 ページの「[プレーン・テキスト要素の操作](#)」
- 11-10 ページの「[イメージ要素の操作](#)」
- 11-12 ページの「[カスタム要素の操作](#)」
- 11-14 ページの「[要素で使用可能なオプション](#)」

11.1 要素の概要

Web ページをコントリビュータ・アプリケーションで編集可能にするには、レイアウト・ページに 1 つ以上のコントリビューション・リージョンを追加してから各リージョンに 1 つ以上の要素を追加し、最後にコントリビュータ・データ・ファイルを各リージョンに割り当てる必要があります（またはこの作業をコントリビュータに許可します）。

コントリビューション・リージョンの要素がコントリビュータ・アプリケーションのフィールドになります。コントリビュータは、各フィールドでテキストやグラフィックなどのコンテンツを追加、編集、削除できます。コントリビューション・リージョンに要素を 1 つのみ追加する場合はコントリビュータのフィールドが 1 つになり、リージョンに複数の要素を追加する場合は複数のフィールドになります。

複数の要素を作成する場合、コントリビュータが発行したコンテンツのレイアウトが制御しやすくなるというメリットがあります。たとえば、コントリビューション・リージョンを作成してから HTML 表を作成し、表の各セル内に要素を配置できます（タイトル用の要素、イメージ用の要素、ボディ・テキスト用の要素など）。

各要素内では、コントリビュータが使用可能な書式設定オプション（フォント、背景色、CSS クラスなどを変更できるオプションなど）を指定できます。また、イメージ、表、新規ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を追加および編集できるアクションなども指定できます。

要素はプライマリ・ページで終わるわけではありません。コントリビューション・リージョンと要素は、セカンダリ・ページにも構成し、これらのリージョンを置換え可能としてマークしておく必要があります。置換え可能なリージョン内の要素は、コントリビュータによってサイトに追加される新規のコントリビュータ・データ・ファイルを形成する際に重要な役割を果たします（9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照）。

コントリビュータでのユーザーの操作状況は、主にコントリビューション・リージョンでの要素の設定状況に基づきます。

要素が必要とされるのは、コントリビュータ・データ・ファイルをリージョンに割り当てる場合のみです。ネイティブ・ドキュメントをかわりに使用する場合は、要素を追加する必要はなく、リージョンへのネイティブ・ドキュメントの割当てを省略できます（第 13 章「[ネイティブ・ドキュメントの操作](#)」を参照）。

11.2 ツールバーの要素

ツールバーの「Insert Region」(図 11-1) ボタンのそばに、4つのタイプの要素 (WYSIWYG 要素、プレーン・テキスト要素、イメージ要素、カスタム要素) が表示されます。

図 11-1 「Insert Region」アイコン



レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加すると (9-2 ページの「[コントリビューション・リージョンの追加](#)」を参照)、そのリージョンにこれらの要素を追加できます (同じ要素を複数回追加することも可能です)。

それぞれの説明は次のとおりです。

ツールバー・アイコン	要素名
	WYSIWYG 要素: コントリビュータが使用可能な書式設定オプションと編集オプションがすべて表示されます (フォントの変更、テキストの中央揃え、サイトの他の部分へのリンク作成など)。各オプションは、要素のダイアログ・ボックスで有効または無効にできます (11-3 ページの「 WYSIWYG 要素の操作 」を参照)。
	プレーン・テキスト要素: 書式設定オプションは表示されず、コントリビュータが使用する最小限の編集オプション (切り取り、コピー、貼付け、スペル・チェッカーなど) のみが表示されます。コントリビュータに Web ページのテキストを書式設定させないようにする場合に役立ちます (11-9 ページの「 プレーン・テキスト要素の操作 」を参照)。
	イメージ要素: コントリビュータが使用する、イメージの追加に固有のオプションが表示されます (イメージの追加、イメージの置換え、イメージのリンク化など)。Web ページでイメージのみ (テキストなし) を表示できる領域を指定する場合に役立ちます (11-10 ページの「 イメージ要素の操作 」を参照)。
	カスタム要素: 設計者が、コントリビュータ・アプリケーションからアクセスできるカスタム・インタフェースを作成できます。コントリビュータはこのインタフェースを使用して、テキスト、グラフィック、マルチメディア、ソース・コードなどを追加できます。ツールバーからこの要素を追加する場合、コントリビュータが使用するカスタム・インタフェースとして機能する Web ベースのフォームを指定する必要があります (11-12 ページの「 カスタム要素の操作 」を参照)。

ツールバーの要素以外に、ツールボックスからリスト・フラグメントを追加して、より高度なコントリビューション機能 (テキストやグラフィックの新しい行および列の追加、リストへの新規ファイルの追加、リスト内のファイルの編集など) を備えることもできます (B-21 ページの「[動的リスト・フラグメント](#)」を参照)。

11.3 WYSIWYG 要素の操作

コントリビュータ・アプリケーションのテキスト・フィールドになる WYSIWYG 要素には、コントリビュータが使用する最大数の書式設定オプションと編集オプションがあります。当然のことながら、各オプションを有効または無効にして、コントリビュータの使用状況をカスタマイズできます。

この項の内容は次のとおりです。

- 11-4 ページの「[コントリビューション・リージョンへの WYSIWYG 要素の追加](#)」
- 11-5 ページの「[WYSIWYG 要素の編集および削除](#)」
- 11-6 ページの「[WYSIWYG 要素のアクション](#)」

11.3.1 コントリビューション・リージョンへの WYSIWYG 要素の追加

WYSIWYG 要素は、ツールバーからコントリビューション・リージョンに直接追加できます。コントリビューション・リージョンに WYSIWYG 要素を追加するには、次の作業を行います。

1. レイアウト・ページ上のコントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダの間にカーソルを置きます。

図 11-2 コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダ



コントリビューション・リージョンのプレースホルダは、前述の図のように隣同士に配置できます。または、レイアウト・ページのテキスト、グラフィック、その他の部分ごとに分類できます。要素は、リージョンの 2 つのプレースホルダの間に配置されているかぎり機能します。

2. ツールバーの「Insert WYSIWYG Element」アイコン (図 11-3) をクリックします (「Source」ビューでは、同じボタンまたは右クリック・メニューを使用して要素を追加できます)。

図 11-3 「Insert WYSIWYG Element」アイコン



「WYSIWYG Element」ダイアログ・ボックスが開きます (A-51 ページの「[WYSIWYG Element](#) ダイアログ・ボックス」を参照)。

3. 「Name」フィールドに要素の名前を入力します。(この名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。名前は、コントリビューターが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとしても表示されます。)

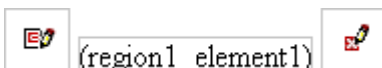
注意： 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンと要素の名前を同じにする必要があります。

4. 「Label」フィールドに要素のラベルを入力します。(ラベルはコントリビューター・アプリケーションのフィールドのそばに表示され、その場所のコンテンツを説明します。)
5. 「Info」フィールドに要素の説明を入力します。コントリビューターで要素名の上にマウスを置くと、この説明がツールチップとして表示されます。
6. 各ボックスを選択または選択解除して、適切なアクションを選択します。(選択したアクションは、コントリビューター・アプリケーションで使用可能なオプションとして表示されます。詳細は、11-6 ページの「[WYSIWYG 要素のアクション](#)」を参照してください。)

使用可能なアクションをすべて選択または選択解除するには、ダイアログ・ボックスの下部にある「Check All」または「Clear All」をクリックします。
7. 要素のダイアログ・ボックスを閉じてレイアウト・ページに戻るには、「OK」をクリックします。

WYSIWYG 要素は、要素に割り当てた名前を使用して、コントリビューション・リージョンのプレースホルダの間に表示されます。

図 11-4 コントリビューション・リージョンの要素 region1_element1



11.3.2 WYSIWYG 要素の編集および削除

WYSIWYG 要素は常時編集できます。編集するには、レイアウト・ページのプレースホルダを選択し、コントリビューション・ツールバーの「Edit Object Properties」アイコン (図 11-5) をクリックします。または、プレースホルダをダブルクリックします。この操作を行うと、「WYSIWYG Element」ダイアログ・ボックス (A-51 ページの「[「WYSIWYG Element」ダイアログ・ボックス](#)」を参照) が開き、このダイアログ・ボックスで、要素の「Name」、「Label」、「Info」および「Actions」を変更できます。

図 11-5 「Edit Object Properties」アイコン



同様に要素を削除できます。削除するには、そのプレースホルダを選択してから、「Delete Selected Object」アイコン (図 11-6) をクリックします。または、選択して、キーボードで [Delete] を押します。

図 11-6 「Delete Selected Object」アイコン



「Source」ビューで作業する場合は、ツールバーと右クリック・メニューを使用してこれらのアクションを実行できます。

要素が含まれたコントリビューション・リージョンをレイアウト・ページに追加した後、リージョンにデータ・ファイルを割り当てる必要があります (10-3 ページの「[コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て](#)」を参照)。

前述のいずれかのアクションとして、新規および既存のデータ・ファイルとネイティブ・ドキュメントへのリンクの挿入をコントリビュータに許可する場合、ファイルを追加できるセクションのセカンダリ・ページを設定したことを確認する必要があります (9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照)。

コントリビュータが書式設定したテキストをコピーして、コントリビュータの WYSIWYG 要素フィールドに貼り付ける場合、予想外の結果になることがあります。これは、Site Studio でサード・パーティ製アプリケーションのバイナリ形式が認識されないためです。コントリビュータのフィールドに頻繁に貼り付ける場合は、貼付けを可能にするカスタム・フォームの書式設定や作成を無効にすることを検討します (11-12 ページの「[カスタム要素の操作](#)」を参照)。

11.3.3 WYSIWYG 要素のアクション

コントリビューション・リージョンに WYSIWYG 要素を追加すると、「WYSIWYG Element」ダイアログ・ボックスが表示されます（A-51 ページの「[「WYSIWYG Element」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）。この中の「Actions」の下には多くのチェック・ボックスがあります。コントリビュータ・アプリケーションでの作業中にコントリビュータが使用できるオプションは、これらのアクションによって決まります。

次のアクションは、名前、説明、および各アクションが有効な場合にコントリビュータに表示されるアイコンごとにリストされています。

アクション	説明	コントリビュータのアイコン
Undo	最後の編集を元に戻すことができます。	
Redo	最後の編集をやりなおすことができます。	
Cut	テキスト、グラフィックなどのコンテンツを切り取ることができます。	
Copy	テキスト、グラフィックなどのコンテンツをコピーできます。	
Paste	テキスト、グラフィックなどのコンテンツを貼り付けることができます。 Formatted (on/off): テキストをコントリビュータに貼り付ける際の書式設定を許可または削除できます。	
Insert Link	サイトの別のセクションへのハイパーリンク、データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントへのハイパーリンク、または指定した URL へのハイパーリンクを作成できます。 Link Settings: リンクの設定先を指定する「Region Content Options」ダイアログ・ボックス（A-60 ページの「 「Region Content Options」ダイアログ・ボックス 」を参照）を開きます。	
Remove Link	ハイパーリンクを削除できます。	
Edit hyperlink targets	ハイパーリンクのターゲットのデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを編集できます。	
Bold	テキストを太字にします。	
Italic	テキストをイタリックにします。	
Underline	テキストに下線を引きます。	
Remove Formatting	既存のテキストに適用されている書式設定をすべて削除できます。	
Ordered List	順序付けられた（番号付き）リストを追加できます。	
Unordered List	順序付けられていない（箇条書き）リストを追加できます。	

アクション	説明	コントリビュータのアイコン
Indent	テキスト、グラフィックなどのコンテンツをインデント（右に移動）できます。	
Outdent	テキスト、グラフィックなどのコンテンツをアウトデント（左に移動）できます。	
Left Justify	テキスト、グラフィックなどのコンテンツを左に揃えることができます。（これらのコンテンツはデフォルトで左揃えになっています。）	
Center Justify	テキスト、グラフィックなどのコンテンツを中央に揃えることができます。	
Right Justify	テキスト、グラフィックなどのコンテンツを右に揃えることができます。	
Insert Image	<p>イメージ（gif、jpg および png）の追加と置換えが可能です。</p> <p>Set QueryText: 「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを開きます（A-48 ページの「「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス」を参照）。このダイアログ・ボックスでは、コントリビュータにイメージを表示するためにコンテンツ・サーバーで使用される問合せを指定します（11-16 ページの「コントリビュータ用の問合せテキストの指定」を参照）。</p> <p>Show Results Only (off): コントリビュータがイメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。</p>	
Insert Horizontal Rule	水平ルールを追加できます。	
Insert Line Break	改行（HTML では タグ）を追加できます。	
Insert Non-Breaking Space	ハード・スペース（HTML では ）を追加できます。	
Change Font Face	書体（Arial、Times New Roman、Verdana など）を変更できます。	
Change Font Size	フォント・サイズを変更できます（サイズは HTML 内でブラウザを基準にします）。	
Change Foreground Color	テキストの色を変更できます。	
Change Background Color	テキストの背景色を変更できます。	
Spell Checker	作業内容に対してスペル・チェックを実行できます。	
Required	コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報入力を必須にします。	（アイコンなし）

アクション	説明	コントリビューターのアイコン
Apply CSS Classes	<p>テキストやグラフィックに Cascading Style Sheet (CSS) のクラスを適用できます。</p> <p>Set Class Names: クリックして、コントリビュータに表示するクラスを指定します (11-18 ページの「コントリビュータ用の CSS クラスの設定」を参照)。</p>	
Table Support	表を追加および編集できます。	(複数のアイコン)
Validation	<p>コントリビュータがコンテンツを追加する際に、設計者が定めた要件を満たすことが必要になります (コンテンツは検証された後で初めて保存可能になります)。</p> <p>Validation Settings: 検証するコンテンツを指定する「WYSIWYG Element」ダイアログ・ボックス (A-64 ページの「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ・ボックス」を参照) を開きます。</p>	(アイコンなし)
Accessibility Report	アクセシビリティ・レポートを表示します。このレポートでは、Web ページが W3C で設定されたアクセシビリティの基準を満たしている状況が比較されます。	
Design Mode	「Design Mode」の編集リージョン (WYSIWYG エディタとも呼ばれる) を表示します。	
Source Mode	<p>編集リージョン内のコンテンツを HTML で表示します。</p> <p>コントリビュータが編集に使用できる HTML タグの制限については、A-66 ページの「Select HTML Tags」ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>	
Expand Editor	サイズ変更可能な個別ウィンドウに編集リージョンを表示します。	

「Insert Link」アクションが有効な場合、デザイナーには同じ Create Hyperlink Wizard が表示されます。

「Insert Link」アクションの一環として、新規および既存のファイルへのリンクの作成をコントリビュータに許可する場合、新規のファイルがサイトに正しく表示されるようにサイト階層をさらに変更する必要があります (9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照)。

「Apply CSS Classes」を有効にする場合、CSS スタイルの使用と実行の一貫性を高めるために、その他の書式設定オプションの一部 (書体やフォント・サイズの変更など) を無効にできます。

WYSIWYG 要素では使用できない Web ページの処理をコントリビュータに許可する場合、カスタム要素をかわりに使用できます (11-12 ページの「[カスタム要素の操作](#)」を参照)。

11.4 プレーン・テキスト要素の操作

コントリビュータ・アプリケーションのテキスト・フィールドになるプレーン・テキスト要素には、コントリビュータが使用する最小限の編集オプション（切り取り、コピー、貼付けなど）があります。この中から、各オプションを有効または無効にして、コントリビュータの使用状況をカスタマイズできます。

この項の内容は次のとおりです。

- 11-9 ページの「[コントリビューション・リージョンへのプレーン・テキスト要素の追加](#)」
- 11-10 ページの「[プレーン・テキスト要素の編集および削除](#)」

11.4.1 コントリビューション・リージョンへのプレーン・テキスト要素の追加

プレーン・テキスト要素は、ツールバーからコントリビューション・リージョンに直接追加できます。

コントリビューション・リージョンにプレーン・テキスト要素を追加するには、次の作業を行います。

1. レイアウト・ページ上のコントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダの間にカーソルを置きます。

図 11-7 コントリビューション・リージョンのプレースホルダ



コントリビューション・リージョンのプレースホルダは、前述の図のように隣同士に配置できます。または、レイアウト・ページのテキスト、グラフィック、その他の部分ごとに分類できます。要素は、リージョンの2つのプレースホルダの間に配置されているかぎり機能します。

2. ツールバーの「Insert Plain Text Element」アイコン（[図 11-8](#)）をクリックします。（「Source」ビューでは、同じボタンまたは右クリック・メニューを使用して要素を追加できます。）

図 11-8 「Insert Plain Text Element」アイコン



「Plain Text Element」ダイアログ・ボックスが開きます（A-54 ページの「[Plain Text Element](#)」ダイアログ・ボックスを参照）。

3. 「Name」フィールドに要素の名前を入力します。（この名前はコーディングに使用されません。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。名前は、コントリビュータが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとしても表示されます。）

注意： 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンと要素の名前を同じにする必要があります。

4. 「Label」フィールドに要素のラベルを入力します。（ラベルはコントリビュータ・アプリケーションのフィールドのそばに表示され、その場所のコンテンツを説明します。）
5. 「Info」フィールドに要素の説明を入力します。コントリビュータで要素名の上にマウスを置くと、この説明がツールチップとして表示されます。

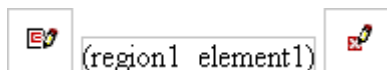
- 各ボックスを選択または選択解除して、適切な**アクション**を選択します（各ボックスについては、A-54 ページの「**Plain Text Element**」ダイアログ・ボックス」を参照してください）。

使用可能なアクションをすべて選択または選択解除するには、ダイアログ・ボックスの下部にある「**Check All**」または「**Clear All**」をクリックします。

- 要素のダイアログ・ボックスを閉じてレイアウト・ページに戻るには、「**OK**」をクリックします。

プレーン・テキスト要素は、要素に割り当てた名前を使用して、コントリビューション・リージョンのプレースホルダの間に表示されます。

図 11-9 コントリビューション・リージョンの要素 region1_element1



11.4.2 プレーン・テキスト要素の編集および削除

プレーン・テキスト要素は常時編集できます。編集するには、レイアウト・ページのプレースホルダを選択し、コントリビューション・ツールバーの「**Edit Object Properties**」アイコン（図 11-10）をクリックします。または、プレースホルダをダブルクリックします。この操作を行うと、「**Plain Text Element**」ダイアログ・ボックス（A-54 ページの「**Plain Text Element**」ダイアログ・ボックス」を参照）が開き、このダイアログ・ボックスで、要素の「**Name**」、「**Label**」、「**Info**」および「**Actions**」を変更できます。

図 11-10 「**Edit Object Properties**」アイコン



同様にして要素を削除できます。削除するには、そのプレースホルダを選択してから、「**Delete Selected Object**」アイコン（図 11-11）をクリックします。または、選択して、キーボードで「**Delete**」を押します。

図 11-11 「**Delete Selected Object**」アイコン



「**Source**」ビューで作業する場合は、ツールバーと右クリック・メニューを使用してこれらのアクションを実行できます。

プレーン・テキスト要素は、書式設定されていないテキストをコントリビュータに追加する場合に役立ちます。

要素が含まれたコントリビューション・リージョンをレイアウト・ページに追加した後、リージョンにコントリビュータ・データ・ファイルを割り当てる必要があります（10-3 ページの「**コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て**」を参照）。

11.5 イメージ要素の操作

コントリビュータ・アプリケーションのテキスト・フィールドになるイメージ要素では、Web ページ上のイメージの追加、削除およびサイズ変更を行うことができます。これらのオプションの一部を有効または無効にして、コントリビュータの使用状況を制御できます。

この項の内容は次のとおりです。

- 11-11 ページの「**コントリビューション・リージョンへのイメージ要素の追加**」
- 11-12 ページの「**イメージ要素の編集および削除**」

11.5.1 コントリビューション・リージョンへのイメージ要素の追加

イメージ要素は、ツールバーからコントリビューション・リージョンに直接追加できます。

コントリビューション・リージョンにイメージ要素を追加するには、次の作業を行います。

1. レイアウト・ページ上のコントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダの間にカーソルを置きます。

図 11-12 コントリビューション・リージョンのプレースホルダ



注意：コントリビューション・リージョンのプレースホルダは、前述の図のように隣同士に配置できます。または、レイアウト・ページのテキスト、グラフィック、その他の部分ごとに分類できます。要素は、リージョンの2つのプレースホルダの間に配置されているかぎり機能します。

2. ツールバーの「Insert Image Only Element」アイコン (図 11-13) をクリックします。(「Source」ビューでは、同じボタンまたは右クリック・メニューを使用して要素を追加できます。)

図 11-13 「Insert Image Only Element」アイコン



「Image Element」ダイアログ・ボックスが開きます (A-56 ページの「「Image Element」ダイアログ・ボックス」を参照)。

3. 「Name」フィールドに要素の名前を入力します。(この名前はコーディングに使用されず。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。名前は、コントリビューターが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとしても表示されます。)

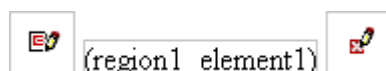
同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンと要素の名前を同じにする必要があります。
4. 「Label」フィールドに要素のラベルを入力します。(ラベルはコントリビューター・アプリケーションのフィールドのそばに表示され、その場所のコンテンツを説明します。)
5. 「Info」フィールドに要素の説明を入力します。コントリビューターで要素名の上にマウスを置くと、この説明がツールチップとして表示されます。
6. 各ボックスを選択または選択解除して、適切なアクションを選択します (各アクションについては、A-56 ページの「「Image Element」ダイアログ・ボックス」を参照してください)。

使用可能なアクションをすべて選択または選択解除するには、ダイアログ・ボックスの下部にある「Check All」または「Clear All」をクリックします。

7. 要素のダイアログ・ボックスを閉じてレイアウト・ページに戻るには、「OK」をクリックします。

イメージ要素は、要素に割り当てた名前を使用して、コントリビューション・リージョンのプレースホルダの間に表示されます。

図 11-14 コントリビューション・リージョンの要素 region1_element1



11.5.2 イメージ要素の編集および削除

イメージ要素は常時編集できます。編集するには、レイアウト・ページのプレースホルダを選択し、コントリビューション・ツールバーの「Edit Object Properties」アイコン (図 11-17) をクリックします。または、プレースホルダをダブルクリックします。この操作を行うと、「Image Element」ダイアログ・ボックス (A-56 ページの「[「Image Element」ダイアログ・ボックス](#)」を参照) が開き、このダイアログ・ボックスで、要素の「Name」、「Label」、「Info」および「Actions」を変更できます。

図 11-15 「Edit Object Properties」アイコン



同様にして要素を削除できます。削除するには、そのプレースホルダを選択してから、「Delete Selected Object」アイコン (図 11-16) をクリックします。または、選択して、キーボードで [Delete] を押します。

図 11-16 「Delete Selected Object」アイコン



「Source」ビューで作業する場合は、ツールバーと右クリック・メニューを使用してこれらのアクションを実行できます。

コントリビュータでイメージ処理機能を使用する他に、イメージの幅、高さ、代替テキストなどの変更をコントリビュータに許可することもできます。この作業を行うにはプロパティ・フォームを使用します (12-3 ページの「[プロパティ・フォーム](#)」を参照)。

コントリビュータには各自でイメージを追加することを許可するため、イメージ・サイズに関するガイドラインを作成します。大きなサイズのイメージによって、同じ Web ページ上の他のコンテンツが簡単に歪められたり、バランスが崩されたりすることがあります。ガイドラインを作成する 1 つの方法として検証機能を使用します (12-8 ページの「[要素の検証](#)」を参照)。

要素が含まれたコントリビューション・リージョンをレイアウト・ページに追加した後、リージョンにコントリビュータ・データ・ファイルを割り当てる必要があります (10-3 ページの「[コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て](#)」を参照)。

イメージを追加および編集する機能も、そのアクションの 1 つとして WYSIWYG 要素に含まれます (11-3 ページの「[WYSIWYG 要素の操作](#)」を参照)。イメージ要素により、イメージ専用のフィールドをコントリビュータにすばやく設定できます。

11.6 カスタム要素の操作

カスタム要素は、コントリビュータから開くカスタム・インタフェース (カスタム・フォーム) の作成に使用される点で他の要素 (WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージ) とは異なります。各コントリビュータはこのインタフェースを使用して、マルチメディア・ファイル (ビデオやオーディオ)、Web プレゼンテーション (Adobe Flash および Shockwave)、ソース・コードといった各種コンテンツを Web ページに追加します。カスタム要素を使用すると、他の要素タイプではサポートされないコンテンツをサポートできます。

この設定を行うには、(他の要素と同様に) コントリビューション・リージョンにカスタム要素を追加してから、「Custom Element Settings」ダイアログ・ボックスで、カスタム・インタフェースとして機能する Web ベースのフォームを参照します。

この項の内容は次のとおりです。

- 11-13 ページの「[コントリビューション・リージョンへのカスタム要素の追加](#)」
- 11-14 ページの「[カスタム要素の編集および削除](#)」

11.6.1 コントリビューション・リージョンへのカスタム要素の追加

コントリビューション・リージョンにカスタム要素を追加するには、次の作業を行います。

1. レイアウト・ページ上のコントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダの間にカーソルを置きます。

図 11-17 コントリビューション・リージョンのプレースホルダ



注意： コントリビューション・リージョンのプレースホルダは、前述の図のように隣同士に配置できます。または、レイアウト・ページのテキスト、グラフィック、その他の部分ごとに分類できます。要素は、リージョンの2つのプレースホルダの間に配置されているかぎり機能します。

2. ツールバーの「**Insert Custom Element**」(図 11-18) をクリックして、「Custom Element」ダイアログ・ボックス (A-58 ページの「**Custom Element**」ダイアログ・ボックス) を参照) を開きます。(「Source」ビューでは、同じボタンまたは右クリック・メニューを使用して要素を追加できます。)

図 11-18 「Insert Custom Element」アイコン



3. 「Name」フィールドに要素の名前を入力します。(この名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。名前は、コントリビューターが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとしても表示されません。)

注意： 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンと要素の名前を同じにする必要があります。

4. 「Label」フィールドに要素のラベルを入力します。(ラベルはコントリビューター・アプリケーションのフィールドのそばに表示され、その場所のコンテンツを説明します。)
5. 「Info」フィールドに要素の説明を入力します。コントリビューターで要素名の上にマウスを置くと、この説明がツールチップとして表示されます。
6. コントリビューターを終了する前にこのフィールドを必須フィールドにする場合は、「Actions」の下で「Required」を選択します。
7. 「Settings」をクリックして、「Custom Element Settings」ダイアログ・ボックスを開きます (A-59 ページの「**Custom Element Settings**」ダイアログ・ボックス) を参照)。
8. 「Form Url」のそばにある「Additional Information」アイコンをクリックして、コントリビューターのユーザー・インタフェースとして機能する Web ベースのフォームを参照します (12-2 ページの「**カスタム要素フォーム**」を参照)。

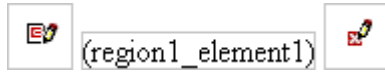
図 11-19 「Additional Information」アイコン



9. 「Custom Element Settings」ダイアログ・ボックスを閉じるには「OK」をクリックし、「Custom Element」ダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「OK」をクリックします。

カスタム要素は、要素に割り当てた名前を使用して、コントリビューション・リージョンのプレースホルダの間に表示されます。

図 11-20 コントリビューション・リージョンの要素 region1_element1



11.6.2 カスタム要素の編集および削除

カスタム要素は常時編集できます。編集するには、レイアウト・ページのプレースホルダを選択し、コントリビューション・ツールバーの「Edit Object Properties」アイコン (図 11-21) をクリックします。または、プレースホルダをダブルクリックします。この操作を行うと、「Custom Element」ダイアログ・ボックス (A-58 ページの「「Custom Element」ダイアログ・ボックス」を参照) が開き、このダイアログ・ボックスで、要素の「Name」、「Label」、「Info」および「Actions」を変更できます。

図 11-21 「Edit Object Properties」アイコン



同様にして要素を削除できます。削除するには、そのプレースホルダを選択してから、「Delete Selected Object」アイコン (図 11-22) をクリックします。または、選択して、キーボードで [Delete] を押します。

図 11-22 「Deleted Selected Object」アイコン



「Source」ビューで作業する場合は、ツールバーと右クリック・メニューを使用してこれらのアクションを実行できます。

コントリビュータがこの機能を使用するには、作成された新しいインタフェース (Web ベースのフォーム) の使用方法について設計者から訓練を受ける必要があります。

要素が含まれたコントリビューション・リージョンをレイアウト・ページに追加した後、リージョンにコントリビュータ・データ・ファイルを割り当てる必要があります (10-3 ページの「コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て」を参照)。

11.7 要素で使用可能なオプション

要素 (WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージおよびカスタム) を追加すると、コントリビュータに対して数多くのアクションの使用を許可できます。これらのオプションの多くは比較的簡単で、フォントの変更、テキストへの下線の付加、水平ルールの追加などをコントリビュータに許可します。ただし、コントリビュータの使用状況をカスタマイズするために、設計者による追加の手順が必要なオプションもあります。

- 11-15 ページの「コントリビュータへのリンク作成の許可」
- 11-16 ページの「コントリビュータ用の問合せテキストの指定」
- 11-17 ページの「新規ファイルのメタデータの指定」
- 11-18 ページの「コントリビュータ用の追加のアクセシビリティの設定」
- 11-18 ページの「コントリビュータ用の CSS クラスの設定」
- 11-19 ページの「コントリビュータ用の HTML タグの定義」

11.7.1 コントリビュータへのリンク作成の許可

設計者が許可できる要素内のアクションとして、Web サイトの他のファイルにリンクを挿入する機能があります。コントリビュータに対して、新規および既存のコントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントへのリンクの作成を許可できます。また、コンテンツ・サーバー内のファイルやファイル・システム上のファイルの参照と、コンテンツ・サーバーにチェックインしてリンクのターゲットとする新規ファイルの作成も許可できます。

これらのオプションは、「Region Content Options」ダイアログ・ボックスで指定します。

他のファイルへのリンクの作成をコントリビュータに許可するには、次の作業を行います。

1. 要素のダイアログ・ボックスを開きます (11-3 ページの「[WYSIWYG 要素の操作](#)」、11-10 ページの「[イメージ要素の操作](#)」および 14-3 ページの「[レイアウト・ページへの静的リストの追加](#)」を参照)。
2. 「Insert Link」アクションを選択します。
3. 「Link Settings」をクリックします。
「Region Content Options」ダイアログ・ボックスが開きます (A-60 ページの「[Region Content Options](#)」ダイアログ・ボックス」を参照)。
4. 「Create new contributor data file」をクリックして、リンクの設定先の新規データ・ファイルの作成をコントリビュータに許可します。
5. 「Create new native document」をクリックして、リンクの設定先の新規ネイティブ・ドキュメントの作成をコントリビュータに許可します。
 - 「Document Types」フィールドに、コントリビュータに作成を許可するドキュメントのタイプを入力します。
 - 「Additional Information」アイコン (図 11-23) をクリックして、「Choose Document Types」ダイアログ・ボックス (A-47 ページの「[Choose Document Types](#)」ダイアログ・ボックス」を参照) を開きます。このダイアログ・ボックスでは、コントリビュータが作成できるネイティブ・ドキュメントを選択します。「OK」をクリックします。

図 11-23 「Additional Information」アイコン



6. 「Choose existing in the content server」をクリックして、リンクの設定先となる既存のファイルのコンテンツ・サーバーでの検索をコントリビュータに許可します。
 - 「Query Text」フィールドで、コントリビュータに既存のファイルを表示するための問合せを指定します。
 - 「Additional Information」アイコン (図 11-24) をクリックすると、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスが表示され (A-48 ページの「[Edit Query Text](#)」ダイアログ・ボックス」を参照)、問合せを作成、取得およびテストできます。終了したら「OK」をクリックします。

図 11-24 「Additional Information」アイコン



- 「Show Results Only」を選択すると、検索結果のみが表示され、コンテンツ・サーバー環境は表示されません。(これは、コントリビュータがコンテンツ・サーバーの他のコンテンツを参照できないようにする場合に便利です。)
7. リンクの設定先となるファイル (コンテンツ・サーバーにチェックインしたファイル) のファイル・システムからの選択をコントリビュータに許可するには、「Browse for content locally」をクリックします。

8. 使用可能なメタデータと、コントリビュータが新規ファイルを作成する際にデフォルトで割り当てられるメタデータを指定するには、「**Default Metadata**」をクリックします (11-17 ページの「**新規ファイルのメタデータの指定**」を参照)。
9. 「**Region Content Options**」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「**OK**」をクリックし、要素のダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「**OK**」をクリックします。

このダイアログ・ボックスは、コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントをターゲットとするハイパーリンクを対象としています。コントリビュータがコントリビューションに使用されないファイル (PDF、オーディオ・クリップ、ZIP ファイルなど) へのリンクを作成する場合は、ハイパーリンク・ウィザードで URL へのリンクを作成して、コンテンツ・サーバーでそのファイルの Web アドレスを値として入力できます。

Web サイトの新規および既存のファイルへのリンクの作成をコントリビュータに許可する場合、新規ファイルを処理するようにサイトを正しく設定したことを確認する必要があります (9-8 ページの「**コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可**」を参照)。

11.7.2 コントリビュータ用の問合せテキストの指定

各種コンテンツ (データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、イメージなど) のコンテンツ・サーバーでの検索をコントリビュータに許可する場合、ファイルがコントリビュータに表示されるように、コンテンツ・サーバーで実行される問合せを指定する必要があります。

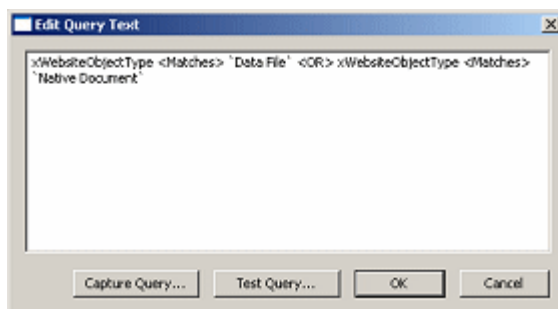
これは、コントリビュータが Web サイトに追加できるコンテンツのタイプを制御する場合に特に便利です。

問合せ (問合せテキスト) は「**Edit Query Text**」ダイアログ・ボックスで指定します。このダイアログ・ボックスには、A-51 ページの「**WYSIWYG Element**」ダイアログ・ボックス、A-56 ページの「**Image Element**」ダイアログ・ボックス、A-60 ページの「**Region Content Options**」ダイアログ・ボックスなどのデザインの様々な場所からアクセスできます。

コントリビュータへのファイルの表示に使用される問合せテキストを指定するには、次の作業を行います。

1. 「**Edit Query Text**」ダイアログ・ボックスを開きます (A-48 ページの「**Edit Query Text**」ダイアログ・ボックス」を参照)。

図 11-25 「**Edit Query Text**」ダイアログ



2. 表示されたテキスト・ボックスで問合せを指定します。または、次の手順を実行して、「**Content Query Capture**」ページで問合せを作成します。
 - 「**Capture Query**」をクリックします。
 - 「**Content Query Capture**」ページで、問合せに使用するメタデータを選択します。
 - 「**Search**」をクリックします。
 - 検索結果のページの「**Actions**」メニューで「**Select Query**」を選択します。

図 11-26 「Actions」メニュー



問合せが表示される「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスに戻ります。

3. 「Test Query」をクリックして、問合せの結果がコンテンツ・サーバーでどのように表示されるかを確認します。
4. 「OK」をクリックして問合せを保存し、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを閉じます。

11.7.3 新規ファイルのメタデータの指定

サイトへの新規ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメント）の追加をコントリビュータに許可する場合、該当ファイルに割り当てられるデフォルトのメタデータと、コントリビュータが値の変更を選択するときを使用できるメタデータを指定する必要があります。

メタデータは「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスで指定します。このダイアログ・ボックスには、デザイナの「Region Content Options」ダイアログ・ボックスからアクセスできます。

新規ファイルのメタデータを指定するには、次の作業を行います。

1. 要素のダイアログ・ボックスで「Link Settings」（WYSIWYG、イメージまたは静的リストの場合）をクリックします。あるいは、動的リストの場合は、「New Item Settings」をクリックします。
2. 「Region Content Options」ダイアログ・ボックスで（A-60 ページの「[Region Content Options](#) ダイアログ・ボックス」を参照）、「Default Metadata」をクリックします。
3. 「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス（A-45 ページの「[Enable Metadata Modification](#) ダイアログ・ボックス」を参照）には、コンテンツ・サーバーのメタデータの値「Name」、「Caption」および「Type」が表示されます。
 - コントリビュータが新規ファイルを作成する際に値を変更できるようにするには、メタデータの値のそばにあるボックスを選択します。

または

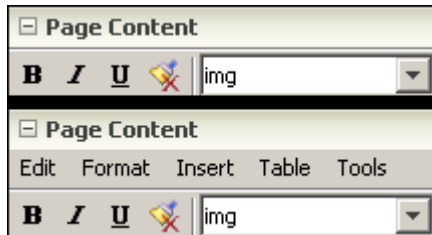
 - コントリビュータが新規ファイルを追加する際に値を変更できないようにするには、メタデータの値のそばにあるボックスの選択を解除します。

すべてのメタデータ値を有効または無効にするには、「Check All」または「Clear All」をクリックします。
4. 新規ファイルに使用するデフォルトのメタデータを指定するには、「Default Values」をクリックします。（これは、前述の手順でいずれかのメタデータの値を無効にした場合は特に重要です。）
5. デフォルトの値を削除するには、「Clear Defaults」をクリックします。
6. 「Assign Info Form」で適切なメタデータの値を選択し、「Assign Info」をクリックします。選択したデフォルトのメタデータの値は、「Default」列に表示されます。
7. 「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「OK」をクリックし、要素のダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「OK」をクリックします。

11.7.4 コントリビュータ用の追加のアクセシビリティの設定

コントリビュータのインタフェースでは、キーボード（テキストを入力する場合）とマウス（ツールバーのアイコンをクリックする場合）の両方を使用できます。ただし、一部のコントリビュータにはアクセシビリティのヘルプを追加する必要があります。ツールバーにテキスト・メニューを追加し（図 11-27）、コントリビュータがキーボードのみですべてのエントリにナビゲートできるようにします。

図 11-27 アクセシビリティのツールバーがある場合とない場合の WYSIWYG エディタ（一部）



コントリビュータが使用するアクセシビリティのツールバーを挿入するには、「File」→「Site」を選択してから、「Advanced」→「Show Contributor Accessibility Menus」を選択します。この操作により、現在のサイトのすべてのコントリビューション・リージョンが使用可能になります。

11.7.5 コントリビュータ用の CSS クラスの設定

コントリビュータでは、書体、フォント・サイズおよびフォントの色を変更して、テキストを手動で書式設定できます。テキストを中央に寄せたり、右に寄せたりすることができます。ただし、これらの書式設定オプションがすべて使用可能になると、コントリビュータがページの見た目を Web サイトの他の Web ページと合っていない部分に変更してしまう可能性が高くなります。

このような事態を防ぎ、サイト間の整合性を確保するには、レイアウト・ページに Cascading Style Sheet を追加して、そのスタイル・シートのクラスをコントリビュータが使用できるようにします。コントリビュータが使用する CSS クラス名は「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックスで指定します。このダイアログ・ボックスには、デザイナーの様々な場所（WYSIWYG 要素、イメージ要素、静的リスト要素など）からアクセスできます。

コントリビュータが使用する CSS クラス名を設定するには、次の作業を行います。

1. コントリビューション・リージョンに WYSIWYG 要素またはイメージ要素を追加します（11-3 ページの「WYSIWYG 要素の操作」と 11-10 ページの「イメージ要素の操作」を参照）。
これらの要素をフラグメントの一部として追加することもできます（14-3 ページの「レイアウト・ページへの静的リストの追加」を参照）。
2. 要素のダイアログ・ボックスで、「Apply CSS Classes」アクションを選択してから「Set Class Names」をクリックします。
「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックスが開きます（A-63 ページの「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックス」を参照）。
3. デフォルトでは「Allow all classes」オプションが選択されています。すべてのクラスがコントリビュータに表示されるようにする場合は、このオプションを選択したままにします。
または、「Allow selected classes」をクリックしてから、コントリビュータに表示する各クラスのそばにあるボックスを選択します。
4. 「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「OK」をクリックし、要素のダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「OK」をクリックします。

この機能は、使用するスタイル・シートのカスタム（汎用の）クラス（.myclass など）を対象とするものであり、スタイル・シートのタグに固有のクラス（H1.myclass、TD.myclass および SPAN.myclass など）を対象とするものではありません。この点に対応するには、既存の CSS ファイルを編集する必要があります。

レイアウト・ページにフラグメントがあり、その中に CSS ファイルが含まれる場合（フラグメントにアセットとして挿入されている）、その CSS ファイルのクラス名もコントリビュータのスタイル・メニューに表示されます。コントリビュータが混乱しないように、これらのクラスを無効にできます。

CSS の使用とレイアウト・ページへの CSS の埋込みについては、6-10 ページの「[テキストへの CSS クラスの適用](#)」を参照してください。

11.7.6 コントリビュータ用の HTML タグの定義

デザイナーで WYSIWYG リージョンの「Source Mode」が有効な場合、ユーザーはコントリビュータで Web ページの HTML を手動で書式設定できます（11-6 ページの「[WYSIWYG 要素のアクション](#)」を参照）。このため、ユーザーは HTML で Web ページを編集しやすくなります。ただし、コントリビュータが Web サイトの他のページと合っていない部分に HTML タグを変更してしまう可能性もあります。

このような事態を防ぎ、サイト間の整合性を確保するために、「Source」ビューでの作業中にコントリビュータが使用できる HTML タグを制限できます。

コントリビュータが使用する HTML タグのリストを設定するには、次の作業を行います。

1. コントリビューション・リージョンに WYSIWYG 要素を追加します（11-3 ページの「[WYSIWYG 要素の操作](#)」）。
2. 要素のダイアログ・ボックスで、「Apply HTML Tags」アクションを選択してから「Set Tag Names」をクリックします。
「Select HTML Tags」ダイアログ・ボックスが開きます（A-66 ページの「[Select HTML Tags](#) ダイアログ・ボックス」を参照）。
3. デフォルトでは「Allow default HTML tags」オプションが選択されています。デフォルト・タグ（ダイアログにリストされているタグ）をコントリビュータで使用できるようにする場合は、このオプションを選択したままにします。
または、「Allow selected HTML tags」をクリックしてから、コントリビュータに表示する各タグのそばにあるボックスを選択します。
4. 追加のタグを含めるには、「New」アイコン（[図 11-28](#)）をクリックして、「Additional tags」フィールドにタグ（山括弧なし）を入力します。

図 11-28 「New」アイコン



5. 追加のタグを削除するには、削除するタグを選択して、「Delete」アイコン（[図 11-29](#)）をクリックします。

図 11-29 「Delete」アイコン



6. 「Select HTML Tags」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「OK」をクリックし、要素のダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「OK」をクリックします。

カスタム・フォームとスクリプトの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 12-2 ページの「[カスタム・フォームとスクリプトの概要](#)」
- 12-2 ページの「[カスタム要素フォーム](#)」
- 12-3 ページの「[プロパティ・フォーム](#)」
- 12-3 ページの「[デフォルトの検証オプション](#)」
- 12-4 ページの「[Adobe Flash ファイルのサンプル・フォーム](#)」
- 12-5 ページの「[Site Studio のサンプル・フォーム](#)」

12.1 カスタム・フォームとスクリプトの概要

コントリビュータが要素（または要素を含むフラグメント）ですぐに使用可能な動作よりもさらに多くの操作を行うことができるようにするには、要素に適用するカスタム・フォームまたはスクリプトを使用できます。

たとえば、WYSIWYG 要素でサポートされないオブジェクトの追加をコントリビュータに許可する場合や、ページで使用される HTML タグの値を変更する場合、またはコンテンツの要件や制限をコントリビュータに対して実施する場合に設計者が使用するメカニズムとしてカスタム・フォームやスクリプトを使用します。

次の3つのカテゴリのフォームとスクリプトを使用できます。

- 12-2 ページの「[カスタム要素フォーム](#)」
- 12-3 ページの「[プロパティ・フォーム](#)」
- 12-8 ページの「[要素の検証](#)」

Site Studio は、すぐに使用できる複数のサンプル・フォームとスクリプトをコンテンツ・サーバーに備えています（前述のトピックを参照）。これらのファイルの編成、編集、および管理に役立つように、サイトに各フォームやスクリプトをサイト・アセット（5-33 ページの「[サイト・アセットの追加](#)」を参照）として追加できます。

Site Studio には `ss_script_extensions.hcsp` という特殊なスクリプトがあり、これを使用すると、カスタム要素フォームやプロパティ・フォームで使用可能なメソッドについて学習できます。サイトにこのスクリプトをサイト・アセット（5-33 ページの「[サイト・アセットの追加](#)」を参照）として追加してデザイナーで開き、使用可能なメソッドを表示およびテストできます。

メソッドの詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』を参照してください。

12.2 カスタム要素フォーム

カスタム要素フォームは、カスタム要素を操作するために設計されたもので、他の要素と同様にコントリビューション・リージョンに追加します。このフォームの一意性は、コントリビュータが Web サイトに各種コンテンツを追加する際に使用するカスタム・インタフェースを作成できる点にあります。

たとえば、特定のファイル・タイプについてコンテンツ・サーバーに問合せを実行するカスタム・フォームを作成したり、その中のいずれかのファイルをユーザーが選択できるようにしたり、ユーザーをコントリビュータに戻したりすることができます。あるいは、コントリビュータがソース・コードや書式設定されたテキストをコピーして Web ページに貼り付けるためのテキスト・ボックスを表示するフォームを作成できます。

このフォームはユーザーから任意の情報を収集するブラウザベースの汎用フォームで、ホスト（この場合はコントリビュータ）に値を返します。

12.3 プロパティ・フォーム

プロパティ・フォームを要素に適用すると、コントリビュータは Web ページを制御しやすくなります。プロパティ・フォームを使用する場合、コントリビュータは Web ページで使用される各 HTML タグの値を編集できるため、ツールバーのみを使用するときよりも多くの書式設定オプションが提供されます。その結果、コントリビュータは表の枠線の値、セルの背景色、およびイメージの alt タグを変更できます。

プロパティ・フォームを設定するには、次の作業を行います。

1. コントリビューション・リージョンに WYSIWYG 要素またはイメージ要素を追加します (11-3 ページの「[WYSIWYG 要素の操作](#)」と 11-10 ページの「[イメージ要素の操作](#)」を参照)。

これらの要素をフラグメントの一部として追加することもできます (14-3 ページの「[レイアウト・ページへの静的リストの追加](#)」を参照)。

2. 要素のダイアログ・ボックスで「**Edit Object Properties**」アクションを選択します。
3. 「**Select Properties Form**」をクリックします。
4. 「Content Server Dialog」で、使用するプロパティ・フォームのそばにある「**Select**」をクリックします。

使用可能なサンプル・フォームのリストについては、12-5 ページの「[Site Studio のサンプル・フォーム](#)」を参照してください。

5. 要素のダイアログ・ボックスを閉じるには、「**OK**」をクリックします。

この操作を行った後、コントリビュータの「Properties Form」アイコン (図 12-1) ボタンをクリックしてプロパティ・フォームを開き、そのフォームで使用可能な HTML タグを変更できます。

図 12-1 「Properties Form」アイコン



12.4 デフォルトの検証オプション

「Element Validation」ダイアログ・ボックスのデフォルトの検証オプションは、操作する要素のタイプに応じて異なります (次を参照)。

要素タイプ	検証オプション
WYSIWYG	<p>min: 最小量のテキスト (最小文字数) を規定します。</p> <p>max: 最大量のテキスト (最大文字数) を規定します。</p> <p>Disallowed characters: ここで指定する文字をコントリビュータが使用できないようにします。</p> <p>Allow line breaks
: 選択した場合、コントリビュータは改行 (ソフト・リターン) を作成できます。作成するには、通常キーボードで [Shift] + [Enter] を押します。</p> <p>Allow paragraphs <p>: 選択した場合、コントリビュータは新しい段落 (ハード・リターン) を作成できます。作成するには、通常キーボードで [Enter] を押します。</p> <p>Allow images : 選択した場合、コントリビュータはイメージを追加できます。</p>

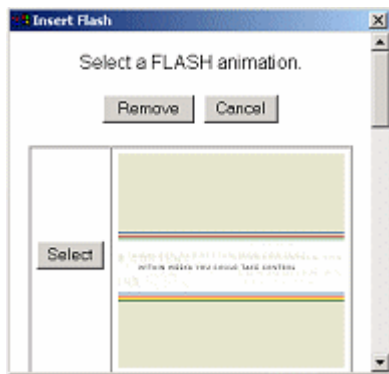
要素タイプ	検証オプション
プレーン・テキスト	<p>min: 最小量のテキスト（最小文字数）を規定します。</p> <p>max: 最大量のテキスト（最大文字数）を規定します。</p> <p>Disallowed characters: ここで指定する文字をコントリビュータが使用できないようにします。</p> <p>Allow multiple lines: 選択した場合、コントリビュータはテキストの新しい行を追加できます（キーボードで [Enter] を押します）。</p>
イメージ	<p>Width:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ min: 最小幅（ピクセル単位）を規定します。 ■ max: 最大幅（ピクセル単位）を規定します。 <p>Height:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ min: 最低の高さ（ピクセル単位）を規定します。 ■ max: 最大の高さ（ピクセル単位）を規定します。
静的リスト	<p>Number Rows</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ min: 最小行数を規定します。 ■ max: 最大行数を規定します。

12.5 Adobe Flash ファイルのサンプル・フォーム

Site Studio には、`ss_flash_form.hcsp` というサンプル・フォームがあります。このフォームはコンテンツ・サーバーで Adobe Flash ファイル（拡張子が `.swf` のファイル）を検索し、Web ページに結果を戻します。この Web ページには各アイテムのそばに「Select」ボタンがあります。

コントリビュータはこのフォームを使用して、コンテンツ・サーバー内のいずれかのファイルを選択し、コントリビュータの作業内容に戻ることができます。

図 12-2 Site Studio で提供される Flash カスタム要素フォームのサンプル



このフォームをそのまま使用すると、サイトへの Adobe Flash ファイルの追加をコントリビュータに許可できます。または、フォームをカスタマイズして、様々な問合せを実行したり、コントリビュータに異なる形式でコンテンツを表示したりすることができます。

フォームは HTML、Idoc スクリプト、および JavaScript で作成されているため、これらの言語に精通している場合は、フォームをすぐにカスタマイズできます。フォームではコントリビュータ内のウィンドウを制御するために多くのメソッドが使用されています。これらのメソッドについて学び、各メソッドをテストするには、学習用ツール `ss_script_extensions.hcsp` を開くことができます。Site Studio に付属のこのツールは、コンテンツ・サーバーに格納されています（12-2 ページの「カスタム・フォームとスクリプトの概要」を参照）。

カスタム要素でサンプル・フォームを使用する場合、次の作業を行います。

1. カスタム要素を追加する手順を実行します (11-12 ページの「[カスタム要素の操作](#)」を参照)。
2. 「Custom Element Settings」ダイアログ・ボックス (A-59 ページの「[「Custom Element Settings」ダイアログ・ボックス](#)」を参照) で、「Form Url」のそばにある「Additional Information」アイコン (図 12-3) をクリックします。

図 12-3 「Additional Information」アイコン



3. 「Content Server Dialog」で、「SS_FLASH_FORM」(ss_flash_form.hcsp) のそばにある「Select」をクリックします。
4. 「Button Text」の値を入力します。(テキストは、フォームの起動に使用するボタンとしてコントリビュータに表示されます。「Add File」、「Select File」、「Browse」などを使用できます。)
5. 「Display Type」で「HTML」を選択します。(つまり、コンテンツは Web ブラウザでの表示と同様に HTML がレンダリングされて表示されます。)
6. 「Custom Element Settings」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「OK」をクリックし、「Custom Element」ダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「OK」をクリックします。

注意： コントリビュータがこのフォームを使用できるようにするには、コンテンツ・サーバーに必要なファイル (この場合は Flash ファイル) をチェックインする方法や、このフォームを使用してサイトにファイルを追加する方法について、設計者からコントリビュータに教育を施します。

12.6 Site Studio のサンプル・フォーム

Site Studio には、設計者が使用可能な 5 つのサンプル・プロパティ・フォームが用意されています。そのまま使用したり、カスタマイズして機能性を高めたり、いずれかのフォームをベースにして独自のフォームを作成したりすることができます。

- 12-5 ページの「[イメージ・プロパティ・フォーム \(ss_img_properties_form.hcsp\)](#)」
- 12-6 ページの「[表のプロパティ・フォーム \(ss_table_properties_form.hcsp\)](#)」
- 12-6 ページの「[表のセルのプロパティ・フォーム \(ss_td_properties_form.hcsp\)](#)」
- 12-7 ページの「[汎用プロパティ・フォーム \(ss_generic_properties_form.hcsp\)](#)」

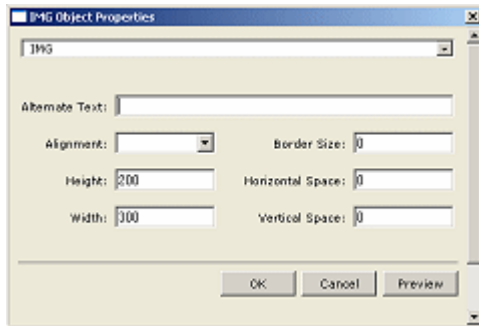
コントリビュータはこれらのフォーム (リダイレクト・フォームを除く) を使用して、HTML タグの値の変更やコントリビュータ内での変更のプレビューを行い、「OK」または「Cancel」をクリックできます。

12.6.1 イメージ・プロパティ・フォーム (ss_img_properties_form.hcsp)

イメージ・プロパティ・フォームは、イメージ (IMG) タグ専用に調整されています。このフォームには、代替テキスト、高さ、および枠線のサイズといった頻繁に使用される値が表示されます。

12.6.2 表のプロパティ・フォーム (ss_table_properties_form.hcsp)

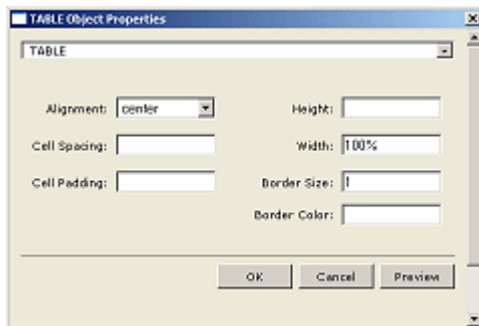
図 12-4 表のプロパティ・フォーム (ss_table_properties_form.hcsp)



表のプロパティ・フォームは、表のタグ専用に調整されています。このフォームには、位置揃え、セル内の余白、および枠線のサイズといった頻繁に使用される値が表示されます。

12.6.3 表のセルのプロパティ・フォーム (ss_td_properties_form.hcsp)

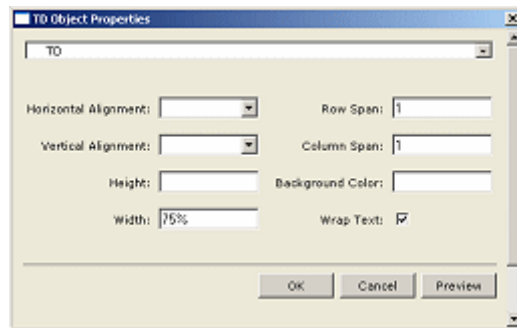
図 12-5 表のセルのプロパティ・フォーム (ss_td_properties_form.hcsp)



表のセルのプロパティ・フォームは、表のセル (TD) タグ専用に調整されています。このフォームには、垂直方向の位置合せ、背景色、およびテキストの折返しといった頻繁に使用される値が表示されます。

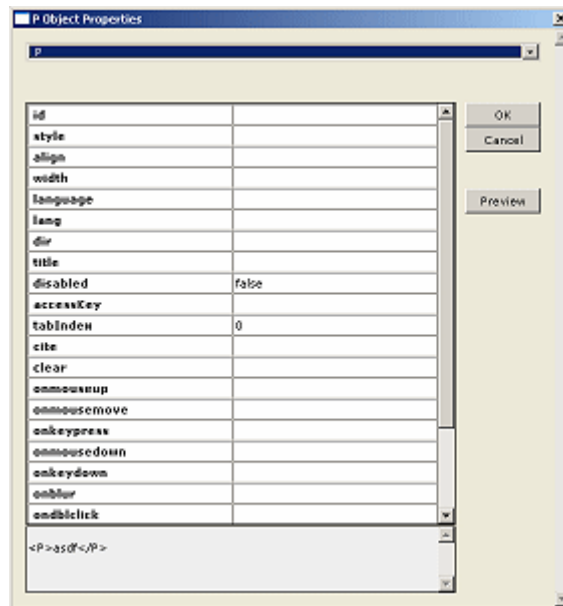
12.6.4 汎用プロパティ・フォーム (ss_generic_properties_form.hcsp)

図 12-6 汎用プロパティ・フォーム (ss_generic_properties_form.hcsp)



汎用プロパティ・フォームには、コントリビュータ内で使用可能なタグがすべて表示されるため、コントリビュータはメニューでタグを選択して、そのタグの値を表示または変更できます。

図 12-7 リダイレクト・プロパティ・フォーム (ss_redirect.hcsp)



リダイレクト・プロパティ・フォームはコントリビュータに表示されません。このフォームの役割は、コントリビュータ内でのカーソルの配置場所を検出してから、フォームを開いたときに選択した内容に応じて適切なフォームをロードすることです。たとえば、プロパティ・ボタンをクリックしたときにカーソルが表のセル内にある場合は、ss_td_properties_form.hcsp が開きます。

Web サイトにこの機能を組み込むには、前述の手順 4 のプロパティ・フォームでこのフォームを選択します。

12.6.5 要素の検証

サイトの設計者は、場合によっては Web ページに追加されるコンテンツに対して一定の制限や要件を課す必要があります。たとえば、ページ上のテキストの量、イメージのサイズ、または（静的）リスト内の行数を制限する場合などです。このような作業を行うには、要素の検証を使用します。

要素の検証機能は、`ss_default_validation_script.js` スクリプトから抽出されます。Site Studio に付属のこのスクリプトはコンテンツ・サーバーに格納されています。このスクリプトには、各要素タイプ（WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージ、静的リスト）に一意の検証設定があります。（動的リストの場合は、問合せテキストや結果の件数でこのような設定を実施できるため検証機能はありません。）

デフォルトの要素の検証を使用したり、独自の検証スクリプトを作成したりすることができます。

要素の検証を指定するには、次の作業を行います。

1. コントリビューション・リージョンに要素を追加します（11-3 ページの「[WYSIWYG 要素の操作](#)」、11-9 ページの「[プレーン・テキスト要素の操作](#)」または 11-10 ページの「[イメージ要素の操作](#)」を参照）。

これらの要素をフラグメントの一部として追加することもできます（14-3 ページの「[レイアウト・ページへの静的リストの追加](#)」を参照）。

2. 要素のダイアログ・ボックスで「**Validation**」アクションを選択します。
3. 「**Validation Settings**」をクリックして、「**Element Validation**」ダイアログ・ボックスを開きます。
4. 「**Use Default Validation**」を選択した状態で、この要素の検証設定を選択します（12-3 ページの「[デフォルトの検証オプション](#)」を参照）。

または、「**Use External Validation**」をクリックしてから「**Settings**」をクリックして、「**Advanced Element Validation**」ダイアログ・ボックスを開きます（A-68 ページの「[Advanced Element Validation](#)」ダイアログ・ボックス」を参照）。このダイアログ・ボックスでは、各自の検証スクリプトと、そのスクリプトの実行方法を指定できます。ダイアログ・ボックスを閉じるには、「**OK**」をクリックします。

5. 「**Element Validation**」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「**OK**」をクリックし、要素のダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「**OK**」をクリックします。

注意： Site Studio に付属の検証スクリプト（`ss_default_validation_script.js`）がコンテンツ・サーバーで削除されると、デフォルトの検証機能は機能しなくなります。

ネイティブ・ドキュメントの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 13-2 ページの「[ネイティブ・ドキュメントの概要](#)」
- 13-2 ページの「[ネイティブ・ドキュメントの要件](#)」
- 13-3 ページの「[ネイティブ・ドキュメント用の変換テンプレートの指定](#)」
- 13-4 ページの「[Dynamic Converter テンプレートの選択ルール](#)」
- 13-5 ページの「[ネイティブ・ドキュメントのフラグメント](#)」

13.1 ネイティブ・ドキュメントの概要

Site Studio では、コントリビューション・リージョンにコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当て、各コントリビュータは、Web サイト上でコントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントを追加および編集できます。

コントリビュータ・データ・ファイルは Site Studio で生成されます。これは、コントリビュータ・アプリケーションで編集するように設計された XML ファイルです。Web 対応形式の XML ファイルであり、Web ページに簡単に挿入できます（インクルード・ファイルを別の Web ページに挿入する方法と似ています）。

一方で、ネイティブ・ドキュメントはサード・パーティ製アプリケーション（Microsoft Word、Excel、PowerPoint など）で生成され、通常は設計者やいずれかのコントリビュータによって導入されます。このドキュメントは元の状態では Web ページで表示できないため、ファイルを保存して閉じるときに（Dynamic Converter を使用して）Web ページに変換します。

コントリビュータ・データ・ファイルを使用する場合は、そのファイルが表示されるコントリビューション・リージョンに 1 つ以上の要素を作成する必要があります。その要素がコントリビュータ内のフィールドになり、各コントリビュータはそのフィールドでテキスト、グラフィックなどを追加および編集できます。

一方で、ネイティブ・ドキュメントはコントリビュータを必要としないため、そのドキュメントが表示されるリージョンに要素を追加する必要はありません。要素が存在する場合でも、変換されたドキュメントがそのリージョンに表示されるため、要素は無視されます。

13.2 ネイティブ・ドキュメントの要件

ネイティブ・ドキュメントは、コントリビュータ・データ・ファイルをコントリビューション・リージョンに割り当てる方法と同様にリージョンに割り当てることができます。また、サイトにコントリビュータ・データ・ファイルを追加する方法（ファイルへのリンクの作成、動的リストへのファイルの追加、およびメタデータが動的リストまたはサイトに対して実行される問合せに一致するようにファイルをチェックインするなど）と同様にネイティブ・ドキュメントを追加することもできます。

ただし、ネイティブ・ドキュメントの場合は、コントリビュータ・データ・ファイルとは異なり、ドキュメントが意図したとおりに Web サイトに表示されるように、サーバーで追加の設定手順を行う必要があります。次の手順を行います。

- ネイティブ・ドキュメントを Dynamic Converter で Web ページに変換できるように、Dynamic Converter をインストールしてコンテンツ・サーバー上で実行する必要があります。
- コントリビュータが、コントリビューション・グラフィックのメニューを使用して Web サイトから直接ネイティブ・ドキュメントをチェックアウトして編集できるように、Check Out and Open をインストールしてコンテンツ・サーバー上で実行する必要があります。
- ネイティブ・ドキュメントは、Dynamic Converter でサポートされるファイル形式である必要があります。
- デフォルトでは、空の Dynamic Converter テンプレート（最小限の設定が行われているテンプレート）を使用して、ドキュメントの見た目が元の状態に近くなるようにドキュメントを変換します。Web ページがサイトと一致するようにその外観をさらにカスタマイズするには、ドキュメントの変換に使用するテンプレートを微調整する必要があります（13-3 ページの「ネイティブ・ドキュメント用の変換テンプレートの指定」を参照）。
- 設計者またはコントリビュータは、関連するサード・パーティ製アプリケーション（ファイルの編集に使用する）をコンピュータ上にインストールしておく必要があります。
- 設計者またはコントリビュータが Site Studio の外部メソッド（Content Server チェックイン・フォーム、WebDAV クライアント、Web フォルダなど）を使用してサイトにネイティブ・ドキュメントを追加する場合は、サイトおよび必要に応じてサイトのセクションで使用される同じメタデータとともに該当ファイルをチェックインする必要があります。（必要なメタデータの詳細は、5-31 ページの「サイト・アセットの必須メタデータ」を参照してください。）

13.3 ネイティブ・ドキュメント用の変換テンプレートの指定

コントリビューション・リージョンにネイティブ・ドキュメントを割り当てる場合（またはサイトへのネイティブ・ドキュメントの追加をコントリビュータに許可する場合）、Dynamic Converter ではいずれかの組み変換テンプレートを使用してそのファイルを Web ページに変換します。変換をカスタマイズするには、各自のテンプレートやルール（Dynamic Converter のテンプレートを管理するためのルール）を指定します。

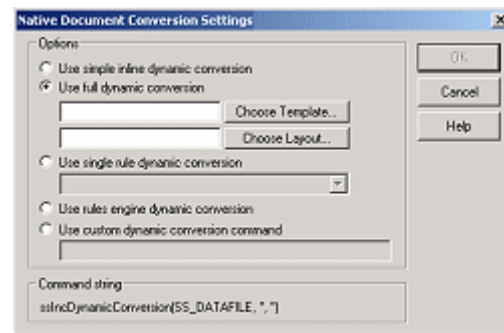
これは、「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックス（「Contribution Region」ダイアログ・ボックスからアクセス可能）で行います。実際の変換テンプレートを編集するには、コンテンツ・サーバーで「Dynamic Converter Admin」ページを開きます。

ネイティブ・ドキュメント用の変換テンプレートを指定するには、次の作業を行います。

1. 「Contribution Region」ダイアログ・ボックスで（9-2 ページの「コントリビューション・リージョンの追加」を参照）、「Native Document Conversion」のそばにある「Settings」をクリックします。

「Native Document Conversion」ダイアログ・ボックスが表示されます（A-49 ページの「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックスを参照）。

図 13-1 「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックス



2. 次のいずれかのオプションを選択して、ネイティブ・ドキュメントを変換します。
 - **Use simple inline dynamic conversion:** 空の Dynamic Converter テンプレートを使用してドキュメントを変換します。このテンプレートには最小限の変換設定があり、結果として作成される Web ページは元のドキュメントに近い状態で表示されます。
 - **Use full dynamic conversion:** ドキュメントを変換する特定の Dynamic Converter テンプレートとレイアウトを示します。
変換テンプレートを検索するには、「Choose Template」をクリックします。
レイアウト・ファイルを検索するには、「Choose Layout」をクリックします。
(Dynamic Converter に付属のレイアウト・ファイル snippet_layout.txt を使用して、HTML の開始タグと終了タグをストリッピングできます。これは、変換されたドキュメントを別の Web ページに表示する際に必要です。)
 - **Use single rule dynamic conversion:** 変換に使用する Dynamic Converter のルールを指定します。（詳細は、13-4 ページの「Dynamic Converter テンプレートの選択ルール」を参照してください。）
 - **Use rules engine dynamic conversion:** Dynamic Converter が通常のルール評価を実行してドキュメントを変換します。（詳細は、13-4 ページの「Dynamic Converter テンプレートの選択ルール」を参照してください。）
 - **Use custom dynamic conversion command:** ネイティブ・ドキュメントの変換に使用するカスタム Idoc スクリプトを指定します。これを選択する場合、「Command string」ステータス領域から既存の変換構文をコピーして、各自のカスタム動的変換に貼り付けることができます。

注意： 変換コマンドが欠落しているか、無効な場合、動的変換は行われません。

3. 「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックスと「Contribution Region」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「OK」を2回クリックします。

ネイティブ・ドキュメントを使用する場合、（要素内で正確に制御できる）コントリビュータ・データ・ファイルのように、最終的な Web ページで書式設定を制御することはできません。

そのため、サイトに固有の変換テンプレートを設計し、変換テンプレートのスタイルにマップできるスタイルをネイティブ・ドキュメントで使用するようコントリビュータに促すには、かなりの時間を費やす必要があります。

13.4 Dynamic Converter テンプレートの選択ルール

サイトでネイティブ・ドキュメントを使用する場合、Web サイト上のドキュメントのルック・アンド・フィールを制御する変換テンプレートを最初に指定する必要があります。変換テンプレートまたは（変換テンプレートの使用を制御する）ルールは、「Native Document Conversion Settings」ダイアログ（A-49 ページの「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックス」を参照）で指定できます。

使用可能なテンプレートとルールがこのダイアログ・ボックスに表示されますが、これらのテンプレートとルールは「Dynamic Converter Template Selection Rules」ページで事前に設定しておく必要があります。

図 13-2 「Dynamic Converter Template Selection Rules」 ページ

Template Selection Rules

Template Selection Rules (In order of evaluation)

Move Up
Move Down
Delete Rule

New rule name:

Criteria for selected rule

Field = Value And

Template and layout for selected rule

Template Available Templates Template Types

Layout Available Layouts

File Extension

File extension of the dynamic converted page.

Forced Conversion
Indicates that this rule is to be used for forced conversions. This rule will always be applied to content items as long as the content items match the rule criteria. The conversion results can be retrieved using the `incDynamicConversionByRule` Idoc Script function or the `GET_DYNAMIC_CONVERSION` service with the `conversionRule` parameter specified.

Exclude From User Request
Use this option to prevent the rule to be used when a user clicks on the HTML Rendition link or menu item. Rules designed for fragments and used by the `incDynamicConversionByRule` Idoc Script function should be excluded from Dynamic Converter's rule evaluation during a user request.

このページには、Dynamic Converter コンポーネントをインストールするとコンテンツ・サーバーで使用可能になる「Dynamic Converter Admin」ページからアクセスします。

「Dynamic Converter Template Selection Rules」ページでは、ルール、GUI テンプレート、レイアウト・テンプレートなどを作成および編集できます。詳細は、『Dynamic Converter System Administration Guide』を参照してください。

13.5 ネイティブ・ドキュメントのフラグメント

ツールボックスの「Other Fragments」の下には、設計者が使用可能な、ネイティブ・ドキュメント用に特殊設計された複数のフラグメントがあります。各フラグメントを使用すると、レイアウト・ページ（コントリビューション・リージョンの外部）にネイティブ・ドキュメントを直接追加し、Dynamic Converter の変換テンプレートとレイアウト・テンプレートを使用して動的変換を実行できます。

- **Dynamic Conversion:** 変換されたドキュメントをレイアウト・ページに追加します。この中には、ドキュメント、変換テンプレートおよび変換レイアウトを指定できる3つのパラメータがあります。
- **Dynamic Conversion IFrame:** 最初のフラグメントと似ていますが、変換されたドキュメントを IFrame で追加する点が異なります（このため、Web ページを下にスクロールしないでドキュメント全体をスクロールできます）。この中には、ドキュメント、変換テンプレートおよび IFrame の属性を指定できる複数のパラメータがあります。
- **Random Conversion:** コンテンツ・サーバーで指定された問合せに基づいて、ネイティブ・ドキュメントのランダムな動的変換を実行します。この中には、問合せ、問合せの制限および変換テンプレートを指定できる4つのパラメータがあります。

これらのフラグメントの詳細は、B-26 ページの「[その他のフラグメント](#)」を参照してください。

14

リストの操作

この項の内容は次のとおりです。

- 14-2 ページの「[リストの概要](#)」
- 14-2 ページの「[静的リスト](#)」
- 14-6 ページの「[動的リスト](#)」

14.1 リストの概要

サイトに対するコントリビューションを有効にするには、コントリビューション・リージョンを作成してからそのリージョンに要素を追加する方法が最も簡単です。次に、そのリージョンにデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当て、最後にコンテンツの編集をコントリビュータに許可します。

サイトへのコントリビューションを有効にするには、リスト・フラグメントを使用するさらに強力な方法があります。リスト・フラグメントとは、コントリビューション機能（コントリビュータ・データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメント、要素など）と、強力で柔軟性のあるフラグメント（スニペット、アセット、パラメータなど）を組み合わせたものです。

リスト・フラグメントはフラグメントとして作成、編集されます。レイアウト・ページにリスト・フラグメントを追加する準備ができれば、（スタンドアロンの要素と同様に）最初にコントリビューション・リージョンを追加してからフラグメントを追加します。実際に、コントリビューション・リージョンにフラグメントを追加すると、通常のコントリビュータ・アクションが設定された要素のダイアログ・ボックスが表示され、フラグメントのパラメータを変更できるパラメータ・ボタンも表示されます。

リスト・フラグメントには、静的リストと動的リストの2種類があります。ツールボックスには各リストの複数のサンプルがあり、他のサンプル・フラグメントと同様に、そのまま使用したり、パラメータを変更したり、カスタマイズしたり、新しいフラグメントを作成したりすることができます（第7章「フラグメントの操作」を参照）。

14.2 静的リスト

静的リスト・フラグメントでは、固定数の行と列が表示され、各行と列には要素（WYSIWYG 要素、プレーン・テキスト要素、イメージ要素またはカスタム要素）が含まれます。コントリビュータが静的リストを含むリージョンを編集する場合、コントリビュータ内に静的リストのツールバーが表示されます。

図 14-1 コントリビュータの静的リストのツールバー



静的リストのフィールドも表示されます。このフィールドは、(WYSIWYG 要素、プレーン・テキスト要素、イメージ要素のように) 直接編集するのではなく、コントリビュータ内の個別のウィンドウで各行を開いて編集します。

図 14-2 コントリビュータの静的リスト

Partner List		
Partner Name	Partner Logo	Partner Description
123, Inc		Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed diam nonummy nibh euismod tincidunt ut laoreet dolore magna aliquam erat volutpat. Ut wisi enim ad minim veniam, quis nostrud exerci tation ullamcorper suscipit lobortis nisi ut aliquip ex ea commodo consequat. Duis autem vel eum iriure dolor in hendrerit in vulputate velit esse molestie consequat, vel illum dolore eu feugiat nulla facilisis at vero eros et accumsan et justo odio dignissim qui blandit praesent luptatum zzril delenit augue duis dolore te feugait nulla facilisi.
ABC, Inc		Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed diam nonummy nibh euismod tincidunt ut laoreet dolore magna aliquam erat volutpat. Ut wisi enim ad minim veniam, quis nostrud exerci tation ullamcorper suscipit lobortis nisi ut aliquip ex ea commodo consequat. Duis autem vel eum iriure dolor in hendrerit in vulputate velit esse molestie consequat, vel illum dolore eu feugiat nulla facilisis at vero eros et accumsan et justo odio dignissim qui blandit praesent luptatum zzril delenit augue duis dolore te feugait nulla facilisi.
XYZ, Inc		Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed diam nonummy nibh euismod tincidunt ut laoreet dolore magna aliquam erat volutpat. Ut wisi enim ad minim veniam, quis nostrud exerci tation ullamcorper suscipit lobortis nisi ut aliquip ex ea commodo consequat. Duis autem vel eum iriure dolor in hendrerit in vulputate velit esse molestie consequat, vel illum dolore eu feugiat nulla facilisis at vero eros et accumsan et justo odio dignissim qui blandit praesent luptatum zzril delenit augue duis dolore te feugait nulla facilisi.

静的リストでは、複数の要素が表のようなレイアウトでまとめられています。コントリビュータは、HTML 表と同様に、情報を示す行と列を追加、編集、削除、および再配置できます。

各要素では、スタンドアロンの WYSIWYG 要素、プレーン・テキスト要素、イメージ要素またはカスタム要素と同じ編集機能を使用できます。

- 14-3 ページの「レイアウト・ページへの静的リストの追加」
- 14-4 ページの「静的リストの編集および削除」
- 14-5 ページの「静的リストのアクション」

14.2.1 レイアウト・ページへの静的リストの追加

コントリビューション・リージョンへの静的リストの追加は、レイアウト・ページに他のフラグメントを追加する方法と同様に行うことができます (7-4 ページの「レイアウト・ページへのフラグメントの追加」を参照)。

ツールボックスには、選択可能な 2 つのサンプルがあります (B-25 ページの「静的リスト・フラグメント」を参照)。各フラグメントは、静的リストで使用できる各種設定とパラメータを示しています。

レイアウト・ページに静的リストを追加するには、次の作業を行います。

1. レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加し (9-2 ページの「コントリビューション・リージョンの追加」を参照)、コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダの間にカーソルを置きます。

図 14-3 コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダ



注意：プレースホルダは、前述の図のように隣同士に配置できます。または、テキスト、グラフィック、その他のコンテンツごとに分類できます。静的リストは、2 つのプレースホルダの間に配置されているかぎり機能します。

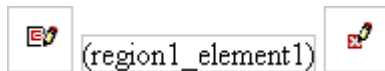
2. ツールボックスの「Static List Fragments」をクリックして、そのカテゴリを開きます。

3. いずれかの静的リスト・フラグメントをクリックします (B-25 ページの「静的リスト・フラグメント」を参照)。

コントリビューション・リージョンにリスト・フラグメントを追加すると、要素のダイアログ・ボックスが開きます。(対照的に「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスは他のフラグメントとともに表示されます)。フラグメントのパラメータにアクセスするには、「Parameters」ボタンをクリックします (手順9を参照)。
 4. 「Name」フィールドに静的リストの名前を入力します。(この名前はコーディングに使用されます。空白や特殊文字は使用しないでください。)
 5. 「Label」フィールドに静的リストのラベルを入力します。(ラベルは、コントリビューター・アプリケーションの静的リスト・フィールドのそばに表示されます。その場所で追加するコンテンツを説明するラベルを使用してください。)
 6. 「Info」フィールドに静的リストの説明を入力します。説明は、コントリビューターの要素名にマウスを置くとツールチップとして表示されます。
 7. 各ボックスを選択または選択解除して、適切なアクションを選択します (14-5 ページの「静的リストのアクション」を参照)。選択したアクションは、コントリビューター内の静的リストのツールバーで使用可能なオプションとして表示されます。

アクションをすべて選択または選択解除するには、ダイアログ・ボックスの下部にある「Check All」または「Clear All」をクリックします。
 8. 「Parameters」をクリックして、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスを開きます (A-91 ページの「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス」を参照)。
 9. リストの外観を変更する場合は、フラグメントのパラメータを変更します (パラメータの詳細は、B-25 ページの「静的リスト・フラグメント」を参照してください)。
 10. 「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「OK」をクリックし、要素のダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「OK」をクリックします。
- リスト・フラグメントは、フラグメントに選択した名前を使用して、コントリビューション・リージョンのプレースホルダの間に表示されます。

図 14-4 静的リスト・フラグメント region1_element1 のコントリビューション・リージョン



14.2.2 静的リストの編集および削除

静的リストは常時編集できます。編集するには、レイアウト・ページのプレースホルダを選択し、コントリビューション・ツールバーの「Edit Object Properties」アイコン (図 14-5) をクリックします。または、プレースホルダをダブルクリックします。この操作を行うと、要素のダイアログ・ボックスが開きます。このボックスでは、「Name」、「Label」、「Info」、「Actions」および「Parameters」を変更できます。

図 14-5 「Edit Object Properties」アイコン



同様にしてリストを削除できます。削除するには、そのプレースホルダを選択してから、「Delete Selected Object」アイコン (図 14-6) をクリックします。または、選択して、キーボードで [Delete] を押します。

図 14-6 「Delete Selected Object」アイコン



ツールバーと右クリック・メニューを使用して、「Source」ビューでもこれらのアクションを実行できます。

WYSIWYG 要素、プレーン・テキスト要素、イメージ要素およびカスタム要素と同様に、静的リストではそのコンテンツがコントリビュータ・データ・ファイルに格納されます。そのため、設計者（またはコントリビュータ）は、リストが表示されるリージョンにデータ・ファイルを割り当てる必要があります（10-3 ページの「[コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て](#)」を参照）。

各行の個々の要素（各要素のラベル、情報およびアクション）を編集するには、フラグメント・エディタで静的リストを開き、「Elements」をクリックして、そこでこれらの要素を変更します（7-22 ページの「[フラグメント要素の追加と編集](#)」を参照）。

新規または既存のファイルへのリンクの追加をコントリビュータに許可する場合は（いずれかの要素で許可されるアクション）、同じセクションでセカンダリ・ページを作成して新規ファイルを処理する必要があります（9-11 ページの「[置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページの設定](#)」を参照）。

注意： コントリビュータでは、静的リストは、Web ページの実際のレイアウトに関係なくフィールドが垂直方向にグループ分けされて表示されます。

14.2.3 静的リストのアクション





ツールボックスから静的リストを追加する場合、複数のアクションを含む要素のダイアログ・ボックスが表示されます。（他の要素タイプのアクションと同様に）コントリビュータが使用する編集オプションはこれらのアクションによって決まります。

オプションは、コントリビュータの静的リストのツールバーに表示されます。

図 14-7 コントリビュータの静的リストのツールバー



次に、（名前、説明、コントリビュータに表示されるアイコン別に）静的リストのアクションを示します。

ツールバーのオプション	説明
	リストに新しい行を追加します。
	リストから行を削除します。
	リストの行を編集できる新規ウィンドウを開きます。
	リストの行を上または下に移動します。

リストのその他のアクション（書体、フォント・サイズ、テキストの中央揃えなど）をカスタマイズするには、フラグメント・エディタで静的リスト・フラグメントを編集します（7-22 ページの「[フラグメント要素の追加と編集](#)」を参照）。

アクションをすべて選択または選択解除するには、要素のダイアログ・ボックスで「Check All」または「Clear All」をクリックします。

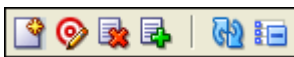
14.3 動的リスト

動的リスト・フラグメントは、コンテンツ・サーバーで問合せを実行し、その問合せに一致するすべてのファイルを適切に書式設定された Web ページに表示します。コントリビュータは、リストに新規ファイルを追加したり、既存のファイルを編集したりすることができます。

静的リストとは異なり、動的リストでは要素を実際に格納することはありません。かわりに、問合せに一致するコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを表示します。(動的リストのコントリビュータ・データ・ファイルでは、セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンに格納されている要素が使用されます。これは、そのリージョンが Web サイトでのデータ・ファイルの表示場所であるためです。)

ツールボックスから動的リストを追加する場合、複数のアクションが含まれた要素のダイアログ・ボックスが表示されます。コントリビュータが使用できるリスト・オプションはこのアクションによって決まります。コントリビュータには、動的リストのツールバーが表示されます。

図 14-8 コントリビュータの動的リストのツールバー



動的リストのフィールドも表示されます。このフィールドは、(WYSIWYG 要素、プレーン・テキスト要素、イメージ要素のように) 直接編集するのではなく、リストにファイルを追加して、リスト内のファイルを編集し、ファイルの挿入や除外などを行います。

図 14-9 コントリビュータの動的リスト

Products					
Items: 1 – 5 of 5					
ID	Title	Date	Author	Type	Info
rvh_bluewebserver	Blue Web Server	4/14/05 2:57 PM	sysadmin	Data File	i
rvh_goldwebserver	Gold Web Server	4/14/05 2:57 PM	sysadmin	Data File	i
rvh_greenwebserver	Green Web Server	4/14/05 2:57 PM	sysadmin	Data File	i
rvh_redwebserver	Red Web Server	4/14/05 2:58 PM	sysadmin	Data File	i
rvh_yellowwebserver	Yellow Web Server	4/14/05 2:58 PM	sysadmin	Data File	i

コントリビュータがリストにファイルを追加するには、動的リストの問合せで使用する同じメタデータとともにコンテンツ・サーバーにファイルをチェックインする方法もあります。たとえば、Content Server チェックイン・フォーム、WebDAV クライアントまたは Web フォルダを使用してファイルを追加できます。

- 14-7 ページの「レイアウト・ページへの動的リストの追加」
- 14-8 ページの「動的リストの編集および削除」
- 14-9 ページの「動的リストのアクション」

14.3.1 レイアウト・ページへの動的リストの追加

コントリビューション・リージョンへの動的リスト・フラグメントの追加は、レイアウト・ページに他のフラグメントを追加する方法と同様に行うことができます（7-4 ページの「[レイアウト・ページへのフラグメントの追加](#)」を参照）。

ツールボックスには動的リストのサンプルがいくつかあります（各サンプルの詳細は、B-21 ページの「[動的リスト・フラグメント](#)」を参照してください）。各フラグメントは、動的リストで使用できる各種設定とパラメータを示しています。

レイアウト・ページに動的リストを追加するには、次の作業を行います。

1. レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加し（9-2 ページの「[コントリビューション・リージョンの追加](#)」を参照）、コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダの間にカーソルを置きます。

注意：プレースホルダは、次の図のように隣同士に配置できます。または、テキスト、グラフィック、その他のコンテンツごとに分類できます。動的リストは、2つのプレースホルダの間に配置されているかざり機能します。

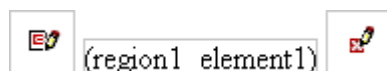
図 14-10 コントリビューション・リージョンの開始プレースホルダと終了プレースホルダ



2. ツールボックスの「**Dynamic List Fragments**」をクリックして、そのカテゴリを開きます。
3. いずれかの動的リスト・フラグメントをクリックします（B-21 ページの「[動的リスト・フラグメント](#)」を参照）。
4. 「**Name**」フィールドに動的リストの名前を入力します。（この名前はコーディングに使用されます。空白や特殊文字は使用しないでください。）
5. 「**Label**」フィールドに動的リストのラベルを入力します。（ラベルは、コントリビューター・アプリケーションの動的リスト・フィールドのそばに表示されます。その場所で追加するコンテンツを説明するラベルを使用してください。）
6. 「**Info**」フィールドに動的リストの説明を入力します。説明は、コントリビューターの要素名にマウスを置くとツールチップとして表示されます。「**Info**」フィールドを使用して動的リストを説明します。
7. 各ボックスを選択または選択解除して、適切な**アクション**を選択します。選択したアクションは、コントリビューター内の動的リストのツールバーで使用可能なオプションとして表示されます（14-9 ページの「[動的リストのアクション](#)」を参照）。
アクションをすべて選択または選択解除するには、ダイアログ・ボックスの下部にある「**Check All**」または「**Clear All**」をクリックします。
8. 「**Parameters**」をクリックして、「**Fragment Parameter Values**」ダイアログ・ボックスを開きます（A-91 ページの「[「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）。
9. リストの外観と動作を変更する場合は、フラグメントのパラメータを変更します（パラメータの詳細は、B-21 ページの「[動的リスト・フラグメント](#)」を参照してください）。
10. 「**Fragment Parameter Values**」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「**OK**」をクリックし、要素のダイアログ・ボックスを閉じるには、再度「**OK**」をクリックします。

リスト・フラグメントは、要素に割り当てた名前を使用して、コントリビューション・リージョンのプレースホルダの間に表示されます。

図 14-11 動的リスト・フラグメント region1_element1 のコントリビューション・リージョン



14.3.2 動的リストの編集および削除

動的リストは常時編集できます。編集するには、レイアウト・ページのプレースホルダを選択し、コントリビューション・ツールバーの「Edit Object Properties」アイコン (図 14-12) をクリックします。または、プレースホルダをダブルクリックします。この操作を行うと、要素のダイアログ・ボックスが開きます。このボックスでは、「Name」、「Label」、「Info」、「Actions」および「Parameters」を変更できます。

図 14-12 「Edit Object Properties」アイコン



同様にしてリストを削除できます。削除するには、そのプレースホルダを選択してから、「Delete Selected Object」アイコン (図 14-13) をクリックします。または、選択して、キーボードで [Delete] を押します。

図 14-13 「Delete Selected Object」アイコン



「Source」ビューでもツールバーと右クリック・メニューを使用できます。

静的リストとは異なり、動的リストでは、リストが表示されるリージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルにそのコンテンツ (要素) が格納されません。正確には、この情報はリストに表示される各データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントに格納されません。ただし、リスト・コントロールはデータ・ファイルに格納されるため、リージョンにデータ・ファイルを割り当てるか、割り当てるようにコントリビュータに指示する必要があります (詳細は 10-3 ページの「[コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当て](#)」を参照)。

(「Create New Item」アクションを使用して) リストへのファイルの追加をコントリビュータに許可する場合、置換え可能なリージョンを含むセカンダリ・ページをサイトの適切な部分に設定して、新規ファイルが正しく表示されるようにする必要があります (9-8 ページの「[コントリビュータによる Web サイトへのファイルの追加の許可](#)」を参照)。

動的リストは、レイアウト・ページのコントリビューション・リージョンに追加できます。または、レイアウト・ページ (コントリビューション・リージョンの外部) に直接追加できます。レイアウト・ページにリストを直接追加する場合、そのページではファイルが正しく表示されますが、コントリビュータが使用するコントリビューション機能はありません。また、リージョンの外部にリストを追加する場合、後からリージョンにリストを移動することはできません。

14.3.3 動的リストのアクション








コントリビューション・リージョンに動的リストを追加すると、複数のアクションが設定された要素のダイアログ・ボックスが表示されます。(他の要素タイプのアクションと同様に) コントリビュータが使用可能なオプションは、これらのアクションによって決まります。

オプションは、コントリビュータの動的リストのツールバーに表示されます。

図 14-14 コントリビュータの動的リストのツールバー



次に、(名前、説明、コントリビュータに表示されるアイコン別に) 各アクションを示します。

ツールバーのオプション	説明
	動的リストに新しいコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを追加します。
	リストからファイルを除外します。除外すると、ファイルは Web サイトのすべての動的リストから削除されます。
	動的リストから以前に除外された既存のファイルを追加します。再度挿入すると、そのファイルは Web サイトのすべての動的リストで使用できます (リストの基準を満たす場合)。
	動的リストのコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを編集します。
	新しい結果がすべて表示されるようにリストをリフレッシュします。
	動的リストに関連付けられた行をすべて表示します。
	動的リストに挿入されていない行を表示しないようにします。

アクションをすべて選択または選択解除するには、要素のダイアログ・ボックスで「**Check All**」または「**Clear All**」をクリックします。

マネージャの設定

この項の内容は次のとおりです。

- 15-2 ページの「[Site Studio マネージャの概要](#)」
- 15-2 ページの「[マネージャの表示場所と表示時間の選択](#)」
- 15-2 ページの「[マネージャの表示時間](#)」
- 15-3 ページの「[サイトへのマネージャの追加](#)」
- 15-4 ページの「[マネージャ設定ファイルの作成](#)」
- 15-5 ページの「[マネージャ設定のカスタマイズ](#)」
- 15-7 ページの「[マネージャ設定ファイルの説明](#)」

15.1 Site Studio マネージャの概要

マネージャは Web ベースのアプリケーションで、サイト階層の変更や各セクションの変更に使用できます。ユーザー（サイト・マネージャ）はこのアプリケーションを使用して、セクションの追加と削除、レイアウト・ページの割当て、サイト・プロパティの変更などを行います。

マネージャは、サイトからアプリケーションを直接開いて変更を開始する点でコントリビュータと似ています。コントリビュータと異なるのは、全体が Web ベースであるため、ダウンロードやインストールが不要な点です。

また、サイトに追加する方法も異なります。コントリビューション・リージョンはありません。ツールボックスから、Site Studio マネージャのフラグメントを追加するのみです。マネージャの外観をカスタマイズするには、フラグメントを変更します。マネージャの機能をカスタマイズするには、マネージャの設定ファイルを編集します（15-5 ページの「[マネージャ設定のカスタマイズ](#)」を参照）。

注意： マネージャの使用の詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio マネージャ・ガイド』を参照してください。

15.2 マネージャの表示場所と表示時間の選択

サイトでのマネージャの表示場所と表示時間の選択は、サイト・マネージャによるサイトの使用に影響を与えるため、重要な決定になります。コントリビュータとは異なり、コントリビューション・アイコンを使用してコンテンツとすぐに関連付けられるわけではありません。かわりに、マネージャを使用して、ページ全体またはサイト全体に影響を与える設定（レイアウト・ページの割当てやセクション・プロパティの変更など）を変更します。

そのため、マネージャ用の論理的な場所を作成して、その表示に適切な時間を選択します（コントリビューション・モードでは常に有効または表示のみ）。

マネージャは次の 3 箇所に表示できます。

- **サイトのすべてのページ：**サイトのすべてのページにマネージャを追加して、すでに表示されているセクションやページをユーザーが変更できるようにします。
- **指定したセクション：**ユーザーがすべてのコンテンツを管理するために移動するサイトの指定のセクションにマネージャを追加できます。この操作により、ユーザーは中央の位置からサイトを管理できます。
- **「Site Studio Administration」 ページ：**マネージャには「Manage Web Sites」ページから常にアクセスできます（A-96 ページの「[「Manage Web Sites」 ページ](#)」を参照）。これは「Site Studio Administration」ページ（A-94 ページの「[「Site Studio Administration」 ページ](#)」を参照）の一部です。マネージャに行うカスタマイズによって、このページが影響を受けることはありません。

セクションにマネージャを追加する場合、そのセクションをコントリビューション・モードでのみ表示可能にします（8-8 ページの「[コントリビュータ専用セクションの指定](#)」を参照）。また、マネージャ用のレイアウト・ページの設計に特に時間を費します。

15.3 マネージャの表示時間

マネージャは次の 2 つの状態が表示できます。

- **コントリビューション・モード：**一般のユーザーには表示されず、コントリビューションのアクセス権を持つユーザーのみに表示されるように、コントリビューション・モードでのみマネージャを表示できます。
- **すべての時間：**一般のユーザーを含む全員に表示されるように、サイトにマネージャが常に表示されるようにします。

マネージャのデフォルト設定はすべての時間での表示です。

15.4 サイトへのマネージャの追加

サイトにマネージャを追加する場合、サイト階層の変更と様々なサイト管理タスクの実行をユーザー（サイト・マネージャ）に許可します。次の2つの方法でサイトにマネージャを追加できます。

- 15-3 ページの「[デフォルト設定によるマネージャの追加](#)」
- 15-3 ページの「[カスタム設定によるマネージャの追加](#)」

15.4.1 デフォルト設定によるマネージャの追加

サイトにマネージャを追加するには、レイアウト・ページに Site Studio マネージャのフラグメントを追加します。追加する場合、ユーザーに対して最大限の設定を有効にしてマネージャを追加します。

デフォルト設定でマネージャを追加するには、次の作業を行います。

1. サイト階層からレイアウト・ページを開き、マネージャを表示するページ上の場所にカーソルを置きます。
2. ツールボックスの「**Other Fragments**」をクリックします。
3. 「**Site Studio Manager**」フラグメントをクリックします。
4. 「**Fragment Parameter Values**」ダイアログ・ボックスでテーマ「**blue**」、「**red**」または「**grey**」を選択します。

これらのテーマで使用できる設定以外でロック・アンド・フィールドを変更するには、フラグメント・エディタを使用して「**Site Studio Manager**」フラグメントを編集します（7-7 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照）。

5. 「**Fragment Parameter Values**」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「**OK**」をクリックします。

ブラウザで参照すると、マネージャ・アプリケーションがページに表示されます。

15.4.2 カスタム設定によるマネージャの追加

ユーザーが使用可能な設定を変更する場合、最初にマネージャ設定ファイルを作成してファイルを編集し、Site Studio マネージャのフラグメントを追加する必要がありますが、今回は作成したマネージャ設定ファイルを参照します。

マネージャ設定ファイルでマネージャを追加するには、次の作業を行います。

1. マネージャ設定ファイルを作成する手順を実行します（15-4 ページの「[マネージャ設定ファイルの作成](#)」を参照）。
2. サイト階層からレイアウト・ページを開き、マネージャを表示するページ上の場所にカーソルを置きます。
3. ツールボックスの「**Other Fragments**」をクリックします。
4. 「**Site Studio Manager**」フラグメントをクリックします。

5. 「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス (図 15-1) でテーマ「blue」、「red」または「grey」を選択します。

これらのテーマで使用できる設定以外でロック・アンド・フィールドを変更するには、フラグメント・エディタを使用して「Site Studio Manager」フラグメントを編集します (7-7 ページの「フラグメントの編集」を参照)。

図 15-1 「Fragment Parameter Values」ボックス

Property	Name
theme	blue
settings	

6. 「settings」の横の「Additional Information」アイコン (図 15-2) をクリックして、作成したマネージャ設定ファイルを参照します。

図 15-2 「Additional Information」アイコン



7. コンテンツ・サーバーで、目的のファイルのそばにある「Select」をクリックします。
8. 「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。

マネージャ・アプリケーションが、マネージャ設定ファイルで有効にしたオプションが含まれた状態でレイアウト・ページに表示されます。

15.5 マネージャ設定ファイルの作成

編集可能な XML ファイルのマネージャ設定ファイルはマネージャで読み取られ、ユーザー (サイト・マネージャ) が使用する編集オプションの数を決定します。マネージャで有効なデフォルトのオプションで十分な場合は、マネージャ設定ファイルを作成せずに、Site Studio マネージャのフラグメントを追加するのみで構いません。

ただし、どのオプションを有効にして、どのオプションを無効にするかを制御する場合は、マネージャ設定ファイルを作成する必要があります。作成は「Site Assets」ペイン (5-30 ページの「サイト・アセット」を参照) で行います。2 種類のマネージャ設定ファイルを作成できます。1 つは最小限の設定が有効になっているファイル、もう 1 つは最大限の設定が有効になっているファイルです。必要な数のマネージャ設定ファイルを作成できます。

マネージャ設定ファイルを作成するには、次の作業を行います。

1. デザイナで「Site Assets」ペインを開きます。
2. 上部のメニューをクリックして、「Manager Configuration Settings」を選択します。
3. 「New File」アイコン (図 15-3) をクリックします。

図 15-3 「New File」アイコン



4. 新しいマネージャ設定ファイルを作成するには、次のいずれかの作業を行います。
 - 「New」 → 「Minimal Enabled」を選択して、最小限のユーザー設定を備えるマネージャ・インタフェースを作成します。
 - 「New」 → 「Maximum Enabled」を選択して、最大限のユーザー設定を備えるマネージャ・インタフェースを作成します。

詳細は、15-7 ページの「マネージャ設定ファイルの説明」を参照してください。

または、既存のマネージャ設定ファイルのコピーを作成するには、次の作業を行います。

- 「Copy」 → 「from Server」 を選択して、コンテンツ・サーバーの既存のファイルをコピーします。
- 「Copy」 → 「from Local」 を選択して、ファイル・システムの既存のファイルをコピーします。

5. コンテンツ・サーバーにファイルをチェックインする手順を実行します。

マネージャ設定ファイルが「Site Assets」ペインに表示され、このペインでファイルを編集したり、フラグメントからファイルを参照したりすることができます。

設定ファイルのカスタマイズの詳細は、15-5 ページの「マネージャ設定のカスタマイズ」を参照してください。

15.6 マネージャ設定のカスタマイズ

マネージャで使用可能なオプションをカスタマイズするには、マネージャ設定ファイルを編集します。これはマネージャで読み取られる XML ファイルで、ユーザー（サイト・マネージャ）が使用可能なオプションを決定します。このファイルを変更する場合、セクションの追加、レイアウト・ページの割当て、サイト・プロパティの変更などをユーザーが行えるかどうかを制御できます。

マネージャ設定ファイルを編集するには、次のように「Site Assets」ペインを使用します。

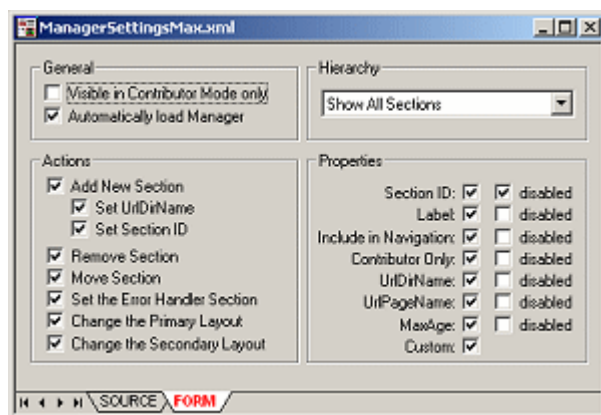
1. 「Site Assets」ペインで、アセット・タイプ「Manager Configuration Settings」を選択します。
2. 目的のマネージャ設定ファイルを選択して、「Edit」アイコン (図 15-4) をクリックします。

図 15-4 「Edit」アイコン



「Form」ビューにマネージャ設定ファイルが開きます。

図 15-5 マネージャ設定ファイルの「Form」ビュー

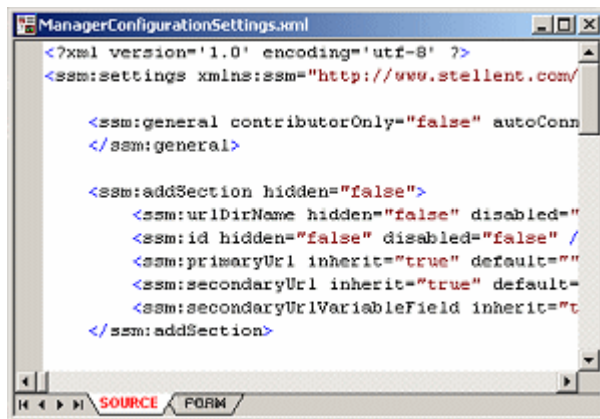


注意： 編集しているマネージャ設定ファイルに非表示の階層がある場合、前述の設定の多くは無効（グレー表示）になっています。

- 有効または無効にする各設定のそばにあるボックスを選択または選択解除します（各設定の詳細は、15-7 ページの「[マネージャ設定ファイルの説明](#)」を参照）。

あるいは、「**Source**」タブをクリックして、マネージャ設定ファイルの XML ソース・コードを直接編集します。

図 15-6 「Source」ビューでのマネージャ設定ファイルの編集



詳細は、15-7 ページの「[マネージャ設定ファイルの説明](#)」を参照してください。また、ソース・コード、タグ、属性などの詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』を参照してください。

- 作業内容を保存して、マネージャ設定ファイルを閉じます。

色のスキーム、フォント、その他のレイアウト設定などのマネージャの外観を変更するには、フラグメント・エディタで Site Studio マネージャのフラグメントを編集します（7-7 ページの「[フラグメントの編集](#)」を参照）。

15.7 マネージャ設定ファイルの説明

マネージャ設定ファイルはマネージャ・アプリケーションで読み取られ、ユーザー（サイト・マネージャ）が使用可能な編集オプションを決定します。セクションの追加と削除、レイアウト・ページの割当て、セクション・プロパティの変更などのオプションがあります。サイトの設計者の場合は、各オプションを有効または無効にできます。

次に、「Form」ビューで参照した場合のマネージャ設定ファイルの各設定について説明します。

設定	説明
Visible in Contributor Mode only	コントリビューション・モードで参照した場合のみマネージャが表示されます。
Automatically load Manager	ブラウザで参照すると、マネージャがページに自動的に表示されます。
Hierarchy	<p>ユーザーは、サイト階層のこの部分のみを変更できます。次の3つのオプションのいずれかを選択します。</p> <p>Hide: サイト階層を変更することはできません。</p> <p>Show All Sections: サイト階層全体を変更できます。</p> <p>Show Current Section Only: 現在のセクション（マネージャを表示しているセクション）のみを変更できます。</p>
Add New Section	<p>サイト階層に新しいセクションを追加して、新しいセクションの作成時に次の情報を指定できます。</p> <p>Set UrlDirName: Web サイトのアドレスでセクションを表す URL。</p> <p>Set Section ID: サイトのセクションを呼び出すために Site Studio で使用されるセクションの ID。</p>
Remove Section	サイト階層からセクションを削除できます。
Move Section	サイト階層でセクションを移動できます。
Set the Error Handler Section	セクションをエラー・ハンドラとして指定できます（カスタム・エラー・ページで使用する場合）。
Change the Primary Layout	セクションに関連付けられたプライマリ・レイアウト・ページを変更できます。
Change the Secondary Layout	セクションに関連付けられたセカンダリ・レイアウト・ページを変更できます。
Section ID	<p>セクションに関連付けられた ID を変更できます。</p> <p>disabled: 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。</p>
Label	<p>セクションに関連付けられたラベルを変更できます。</p> <p>disabled: 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。</p>
Include in Navigation	<p>このセクションをサイト・ナビゲーションに表示するかどうかを制御できます。</p> <p>disabled: 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。</p>
Contributor Only	<p>サイトがコントリビューション・モードで参照される場合のみにこのセクションを表示するかどうかを制御できます。</p> <p>disabled: 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。</p>
UrlDirName	<p>Web サイトのアドレスでセクションを表す URL を指定できます。</p> <p>disabled: 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。</p>

設定	説明
UrlPageName	<p>このセクションのプライマリ・ページを表す URL を指定できます。(設計者またはサイト・マネージャが) 名前を指定しない場合は、index.htm が使用されます。</p> <p>disabled: 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。</p>
MaxAge	<p>ページをキャッシュできる最大時間を指定できます。これは、サイトで配信用にリバース・プロキシ・キャッシュを使用している場合に特に役立ちます。</p> <p>disabled: 値を表示しますが、ユーザーが値を変更することはできません。</p>
Custom	<p>サイトに作成されたカスタム・プロパティを変更できます。</p>

16

ワークフロー

Content Server のワークフロー機能と Site Studio を一緒に使用して、サイトを作成および管理できます。ワークフローにより、設計者からマネージャ、または設計者からコントリビュータへの情報の流れが円滑になります。レイアウト・ページ、Cascading Style Sheet またはフラグメントなどの設計者同士の間で渡される情報も制御できます。

この項の内容は次のとおりです。

- 16-2 ページの「ワークフローの概要」
- 16-2 ページの「ワークフローのタイプ」
- 16-2 ページの「ワークフローのロール」
- 16-3 ページの「コントリビュータのワークフローの使用状況」
- 16-3 ページの「ワークフローの例」
- 16-5 ページの「ワークフローの設定」

16.1 ワークフローの概要

Site Studio のワークフローを設計するには、ほとんどの場合、コンテンツ・サーバーの他のコンテンツ・アイテムのワークフローを作成する場合と同じプロセスや手順を実行します。1つの主な違いは、ワークフローを構成するコントリビューション・リージョンと、そのリージョンのコンテンツにアクセスできるユーザーを決定する必要がある点です。

コントリビュータがワークフローにアクセスして Web サイトの一部を確認する方法を学ぶには、『Oracle Universal Content Management Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照してください。ワークフローの詳細は、Content Server のヘルプを参照してください。

16.2 ワークフローのタイプ

ワークフローには、次の2つのタイプがあります。

- **基本**ワークフローでは、確認プロセスが特定のコンテンツ・アイテムに対して手動で開始されます。
- **基準**ワークフローでは、コンテンツ・アイテムをコンテンツ・サーバーにチェックインして、そのメタデータがデザイナーやコンテンツ・サーバーで指定した定義済の基準と一致する場合、そのアイテムが自動的にワークフローに挿入されます。

Site Studio で最も使用頻度の高いタイプは基準ワークフローです。

16.3 ワークフローのロール

基準ワークフローを使用する場合、参加者に2つのロールのうちのいずれかを割り当てます。これは、ワークフローの設定時にコンテンツ・サーバーで定義します（ロールの詳細は、Content Server で「**Help**」をクリックしてください）。

- レビューア。参加者はコンテンツ・アイテムを承認または却下できますが、編集はできません。
- レビューア / コントリビュータ。参加者はコンテンツ・アイテムを編集、承認または却下できます。

注意：基本ワークフローを使用する場合も、コンテンツ・サーバーでコントリビュータにロールを割り当てます。これがワークフローの最初の手順になります。

ワークフローの参加者は、ワークフローでページのコントリビューション・アイコンを右マウス・クリックすると、その参加者に割り当てられているロールに基づいて様々なオプションが表示されます。「Edit」オプションが表示される場合、参加者にはレビューア / コントリビュータの権限があります。「Edit」オプションが表示されない場合は、レビューアの権限のみが割り当てられているため、コンテンツは変更できません。

16.4 コントリビュータのワークフローの使用状況

Web サイトのコンテンツを追加または編集するには、通常、コントリビュータはコントリビューション・モードでコントリビューション・グラフィックの編集アイコンをクリックしてコントリビュータを開きます。コントリビュータでは、コントリビューション・リージョンに割り当てられているコンテンツが編集可能なフォームで利用できます。ワークフローを使用する場合、参加者は確認する Web ページへのリンクが含まれたメール・メッセージを最初に受信します。このリンクをクリックすると、Web ページがコントリビューション・モードで開きます。

コントリビューション・グラフィックでメニューを開くと、ワークフロー関連のオプションが最大で3つ（「Approve Document」、「Reject Document」、「Edit」）表示されます。これは、ワークフローの設定状況と、コンテンツ・サーバーで割り当てられているワークフローの権限によって異なります。

参加者が「Approve Document」をクリックすると、ワークフローの次の参加者に自動的にメールで通知が送信されます。ワークフローの最後の参加者が、Web ページのコンテンツを格納するファイルを承認すると、コントリビューション・リージョンは最後の宛先にリリースされます。

参加者が「Reject Document」をクリックする場合、「Rejection Form」に入力して、コンテンツを却下する理由を説明できます。メールは、ワークフローの以前のレビューアに送信されません。

「Edit」をクリックする場合、ワークフローが設定されていない状況でコントリビューション・アイコンをクリックする場合と同じです。つまり、コントリビューション・リージョンのコンテンツを含むコントリビュータが編集可能なフォームで開きます。

マネージャに固有のワークフローの機能はありません。マネージャがワークフローに参加するには、コントリビュータと同じワークフロー・オプションを使用します（主に、コントリビューション・アイコンのメニューを右クリックします）。

16.5 ワークフローの例

次に、デザイナーで作成または使用する次のコンテンツ・アイテムを含める場合の例について説明します。

- 16-3 ページの「ワークフローのコントリビュータ・データ・ファイル」
- 16-4 ページの「ワークフローのネイティブ・ドキュメント」
- 16-5 ページの「ワークフローのイメージ」

これらのファイルには、Web サイトの一部と認識されるように Site Studio の適切なメタデータを含める必要があります（5-31 ページの「サイト・アセットの必須メタデータ」を参照）。

組織で認識可能な値を含めたワークフローのカスタム・メタデータ・フィールドを使用して、いずれかのコンテンツ・タイプをワークフローに入力できます。

注意： レイアウト・ページ、フラグメントおよびスクリプトは、ワークフローの一部になっている場合、デザイナーで編集することはできません。

16.5.1 ワークフローのコントリビュータ・データ・ファイル

基準ワークフローへのコントリビュータ・データ・ファイルの追加は、Web サイトに対してコントリビュータが使用する最も一般的なワークフローの形態です。ファイルは Web ページのコンテンツ（コントリビューション・リージョン）を表すため、このファイルは、コントリビュータで Web ページを編集すると必ず新しい情報で更新されます。

ワークフローにコントリビュータ・データ・ファイルを追加する場合、Web サイトのコントリビューション・リージョンに対して行う変更がワークフロー・プロセスを経由してから現在の Web サイトにポストされることを実際に確認します。

16.5.2 ワークフローのネイティブ・ドキュメント

基準ワークフローへのネイティブ・ドキュメントの追加は、次の場合に役立ちます。

- インライン動的変換
- ランダム動的変換
- 動的変換済ドキュメントを使用する動的リスト

ネイティブ・ドキュメントを変換するには、コンテンツ・サーバーに Dynamic Converter をインストールしておく必要があります（詳細は、『Oracle Universal Content Management Site Studio インストール・ガイド』を参照してください）。

インライン動的変換

基準ワークフローへのネイティブ・ドキュメントの追加でインライン動的変換（ドキュメントはサイト・レイアウトに挿入される）が使用される場合、Web サイトにネイティブ・ドキュメントを挿入する前に、そのネイティブ・ドキュメントの変更がワークフロー・プロセスの対象となるかどうかを確認する際に役立ちます。

ランダム動的変換

基準ワークフローへのネイティブ・ドキュメントの追加でランダム動的変換（問合せを含むランダムな動的変換フラグメントが Web サイトに追加される）が使用される場合、コンテンツ・サーバーにチェックインした新しいコンテンツ・アイテムがサイトの一部になる前にワークフローを必ず経由する必要があることを確認する場合に役立ちます。

注意： コンテンツ・アイテムは、ワークフローからリリースされるとコンテンツ・サーバーの検索結果に表示されます。このため、コンテンツ・アイテムは、そのアイテムのリリースされたリビジョンがある場合のみ動的リストに表示されます。

たとえば、ランダムに選択された引用句を動的変換して Web サイトに表示できます。この場合、新しい引用句で追加されたすべての新しいネイティブ・ドキュメントが順不同でサイトに挿入されます。基準ワークフローにこれらのドキュメントを配置する場合、新しいドキュメントがリリースされると、そのドキュメントを動的変換の結果に挿入して、Web サイトに表示できます。

このインスタンスでワークフローを設定する場合、コントリビューション・モードでメニュー・オプションを設定しないようにできます。このようなドキュメントがコントリビューション・リージョンの一部である必要がないためです。

動的変換済ドキュメントを使用する動的リスト

基準ワークフローへのネイティブ・ドキュメントの追加で、動的変換済ドキュメントをターゲットとする動的リストを使用すると便利です。この方法では、コンテンツ・サーバーにチェックインしたネイティブ・ドキュメントで動的な問合せの結果に一致するすべてのドキュメントが、Web サイトに表示される動的リストに追加される前にワークフローを経由するかどうかを確認できます。これは、動的変換済ドキュメントをターゲットとするプレス・リリースの動的リストを Web サイトに表示する場合に役立ちます。

このインスタンスでワークフローを設定する場合、コントリビューション・モードでメニュー・オプションを設定しないようにできます。このようなドキュメントがコントリビューション・リージョンの一部である必要がないためです。

注意： コンテンツ・アイテムは、ワークフローからリリースされるとコンテンツ・サーバーの検索結果に表示されます。このため、コンテンツ・アイテムは、そのアイテムのリリースされたリビジョンがある場合のみ動的リストに表示されます。

16.5.3 ワークフローのイメージ

基準ワークフローへのイメージの追加は、たとえば、コンテンツ・サーバーにチェックインしたすべてのイメージを、現在の Web サイトに追加する前にグラフィック・デザイナーが確認および承認する場合に役立ちます。

16.6 ワークフローの設定

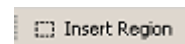
ワークフローの設定は、Site Studio の場合も Content Server の場合も同じです。ただし、Site Studio の場合、デザイナーでコントリビューション・リージョンを設定する際に、ワークフローのコントリビューション・リージョンを有効にする必要があります。

ページをコントリビューション・モードで参照するときに、コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューにワークフロー・オプションを追加します。

ワークフローのコントリビューション・リージョンを有効にするには、次の作業を行います。

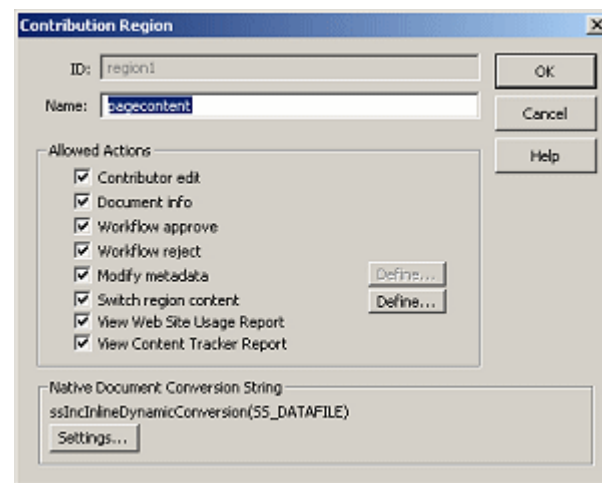
1. デザイナーで、コントリビューション・リージョンを作成するレイアウト・ページにカーソルを置きます。
2. ツールバーで、「Insert Region」アイコン (図 16-1) をクリックします。「[Source] ビュー」では、同じボタンおよび右クリック・メニューを使用してリージョンを挿入できます。)

図 16-1 「Insert Region」 ボタン



3. 「Contribution Region」ダイアログ・ボックス (A-43 ページの「[Contribution Region] ダイアログ・ボックス」を参照) の「Allowed Actions」で適切なワークフローのボックスを選択します。

図 16-2 「Contribution Region」ダイアログ・ボックスのワークフローのボックス



- **Workflow approve:** このボックスをクリックしてコントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Approve Document」オプションを追加すると、レビューア (ワークフローのレビューアまたはコントリビューターとして指定されたコントリビューター) はリージョン・コンテンツを承認できます。
 - **Workflow reject:** このボタンをクリックして、コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Reject Document」オプションを追加すると、レビューア (ワークフローのレビューアまたはコントリビューターとして指定されたコントリビューター) はリージョン・コンテンツを却下できます。
4. 「OK」をクリックします。

サイトのレプリケート

Site Studio で作成した Web サイトは、コンテンツ・サーバーの 1 つのインスタンスに存在します。ある時点で、コンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをコピーできます。このプロセスをレプリケーションと言います。レプリケーションは、多くの場合、2 つ（またはそれ以上）のコンテンツ・サーバー、たとえば開発用サーバーと本番用サーバーでサイトを複製する際に管理者によって使用されます。このコピー・プロセスは、すべてのサーバーでサイトが現在の状態で維持されるように自動化できます。

この項の内容は次のとおりです。

- 17-2 ページの「[レプリケーションの概要](#)」
- 17-4 ページの「[レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成](#)」
- 17-5 ページの「[ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定](#)」
- 17-7 ページの「[インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成](#)」
- 17-10 ページの「[サイト・レプリケーションの開始](#)」
- 17-10 ページの「[環境プロパティの指定](#)」
- 17-11 ページの「[サイトの各セクションのレプリケート](#)」
- 17-11 ページの「[Site Studio レプリケータの使用](#)」

17.1 レプリケーションの概要

レプリケーションの理解を深めるには、関連用語とプロセスを把握する必要があります。Site Studio ではコンテンツ・サーバーのアーカイバ / レプリケータ・ツールを使用してサイトをレプリケートするため、詳細はコンテンツ・サーバーのドキュメントで確認できます。

サイトをレプリケートするには、複数の手順を実行して、サイトのコピー先のサーバー（ターゲット・サーバー）でそのサイトが適切に機能するかどうかを確認する必要があります。また、ターゲット・サーバーの環境を準備して、2つのサーバーが相互対話するように構成し、両方のサーバーでアーカイブを設定して、最後にレプリケーションを実行する必要があります。

ほとんどのレプリケーション機能は、コンテンツ・サーバーの「Manage Site Replication」ページにあります（A-101 ページの「[Manage Site Replication](#) ページ」を参照）。Site Studio レプリケータを使用して、レプリケーションをさらにカスタマイズすることも可能です。4つのパートで構成されるこのウィザードでは、サイトの各セクションをレプリケートし、ターゲット・サーバーでセクションをマージして、環境プロパティを上書きすることができます。

サイトをレプリケートする場合、サイト階層、レイアウト・ページ、フラグメント、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントおよびアセットなどをコピーします。Site Studio のレプリケーション機能では、コンテンツ・サーバーの既存のレプリケーション・フレームワーク（アーカイバ / レプリケータ）を使用します。そのため、以前にこのツールを使用したことがある場合は、Site Studio での手順にほとんど慣れていないはずではありません。

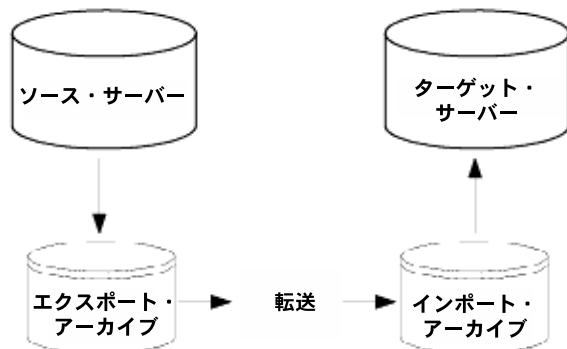
次の項で、レプリケーションについてさらに詳しく説明します。

- 17-2 ページの「[レプリケーション・プロセス](#)」
- 17-3 ページの「[レプリケーションの対象](#)」
- 17-3 ページの「[含まれるリビジョン](#)」
- 17-3 ページの「[エクスポートのその他の設定](#)」

17.1.1 レプリケーション・プロセス

Site Studio のレプリケーション・プロセスには、ソース・サーバー、ターゲット・サーバー、エクスポート・アーカイブ、インポート・アーカイブおよび転送があります。

図 17-1 レプリケーションに関連するステージング



*レプリケーション = 転送の自動化

- **エクスポート**: ネイティブ・ファイル、Web で参照可能なファイル、コンテンツ・タイプおよびユーザー属性が、ソース・コンテンツ・サーバーからエクスポート・アーカイブにコピーされます。
- **インポート**: ファイルとコンテンツ・サーバーの情報が、インポート・アーカイブからターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーされます。

- **転送:** コンテンツが、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーに転送されます。この機能を使用すると、ファイアウォールを越えて、または同じファイル・システムにアクセスできない2つのサーバー間でコンテンツをコピーできます。また、同じファイル・システムにアクセスできる2つのコンテンツ・サーバー間でアーカイブを転送することもできます。
- **レプリケート:** エクスポート、インポートおよび転送の各手順を自動化します。レプリケーションを使用すると、あるコンテンツ・サーバーからのエクスポート、別のコンピュータへのアーカイブの転送、別のコンテンツ・サーバーへのインポートを自動で行うことができます。

レプリケーション・プロセスは次の手順で構成されます。

1. 17-4 ページの「レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成」
2. 17-5 ページの「ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定」
3. 17-7 ページの「インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成」
4. 17-10 ページの「サイト・レプリケーションの開始」
5. 17-10 ページの「環境プロパティの指定」

17.1.2 レプリケーションの対象

Site Studio のレプリケーション機能を使用して、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートする場合、次のアイテムがレプリケートされます。

- **プロジェクト・ファイル** (プロジェクト・ファイルの dDocName)
- **Web サイトの ID** («xWebsites» フィールドにはサイトのサイト ID が含まれる)
- **Web サイトのセクション** («xWebsiteSection» フィールドにはサイトのサイト ID が含まれる)
- **フラグメント・ライブラリ** («xWebsiteObjectType» フィールドには値「fragment」が含まれる)

サイトのコンテンツをレプリケートするには、「xWebsites」、「xWebsiteSection」および「xWebsiteObjectType」のメタデータの値がサイトで正しく使用されることが重要です。

17.1.3 含まれるリビジョン

最新のエクスポート日より遅いリリース日のリビジョンがエクスポートされます。このため、すでにエクスポートされたコンテンツがアーカイブでエクスポートされることはありません。これにより、コンテンツは確実に1回のみ移行され、アーカイブのサイズが無制限に大きくなることはありません。さらに、エクスポートの間合せに一致するコンテンツの選択されたリビジョンがすべてアーカイブにエクスポートされます。これはリリース日のフィルタと連動し、必要な Web サイトのコンテンツが確実にレプリケートされます。

17.1.4 エクスポートのその他の設定

Site Studio のレプリケーション機能にはその他に便利な設定が多数あり、サイトの正常なレプリケートが保証されます。

- コンテンツの構成情報は、2つのコンテンツ・サーバー間でメタデータ・モデルを同期化する管理者のためにあります。(Site Studio ではこの情報は使用されません。)
- ソース・アーカイブは、転送の所有者 (ソース・アーカイブからターゲット・アーカイブへの転送を開始するコンテンツ・サーバー) とみなされます。
- ターゲット・サーバーのインポート・アーカイブは、ターゲット・アーカイブとみなされます。ターゲット・アーカイブは、ソース・サーバーからエクスポートおよび転送されたコンテンツを受信してから、ターゲット・サーバーにそのコンテンツをインポートします。

17.2 レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成

Site Studio のレプリケーション機能は、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをコピーします。ただし、ソース・サーバーからターゲット・サーバーへのコンテンツ・サーバー環境のコピーは行いません。

サイトをレプリケートする前に、ターゲット・サーバー上のコンテンツ・サーバー環境がソース・サーバーと同様に設定されているかどうか（少なくともサイトで使用される部分）を確認する必要があります。この手順を省略すると、レプリケーション・プロセス中に Web サイトで問題が発生します。

コンテンツ・サーバー環境を複製する手順は、組織や Web サイトごとに異なります。そのため、ここでは一般的なガイドラインを示します。

ターゲット・サーバー環境を手動で構成するには、次の作業を行います。

1. ソース・サーバーで使用されるメタデータ・モデルを再作成します。このモデルには、すべてのカスタム・メタデータ・フィールドと新規ファイルの形式があります。サイトが適切に機能するには、このメタデータが必要です。たとえば、ファイルのチェックインは一般的にメタデータ設定に依存し、サイトの特定の機能はカスタム・メタデータ・フィールドに依存します。
2. サイトで使用するすべてのコンポーネントをソース・サーバーに再インストールします。再インストールの対象コンポーネントは、**Dynamic Converter**（ネイティブ・ドキュメントの場合）と **Check Out and Open**（コントリビューション・アイコンを使用してネイティブ・ドキュメントをチェックアウトする場合）です。システム要件の詳細は、『**Oracle Universal Content Management Site Studio インストレーション・ガイド**』を参照してください。
3. 管理対象外のリソースを再作成します。再作成の対象リソースは、サイトで使用されるカスタム ActiveX コントロールまたは JSP オブジェクトなどです。
4. サーバーに導入したその他の構成設定を再作成します。再作成の対象は、サーバーの動作を変更したすべての設定です。

バージョン 7.5 以降の **Content Server**（10g リリース 3 など）を実行している場合は、**Content Server** の構成移行ユーティリティを使用して、コンテンツ・サーバー環境をレプリケートできます。次の手順では、外部プロバイダを設定します（17-5 ページの「**ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定**」を参照）。

17.3 ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定

Content Server でのプロバイダは、2 つ以上のコンテンツ・サーバー間の接続を確立する API (Application Programming Interface) になります。Web サイトをレプリケートするには、ソース・サーバーとターゲット・サーバー間の接続を確立する外部プロバイダをソース・サーバーで作成する必要があります。

ターゲット・サーバーを構成すると (17-4 ページの「レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成」を参照)、ソース・サーバーで外部プロバイダを設定する準備ができます。

ソース・サーバーで外部プロバイダを設定するには、次の作業を行います。

1. ソース・コンテンツ・サーバーに管理者としてログインし、「Administration Applets」→「Providers」ページに移動します。

図 17-2 Content Server のユーザー・インタフェースのプロバイダ・ページ

Providers				
Provider	Type	Connection State	Last Activity Date	Actions
SystemDatabase System Database	database	5 out of 5 connections are good	1/8/04 8:49 AM	Info Test
SystemServerSocket System Server Socket	incoming	good	1/8/04 8:49 AM	Info Test

Create a New Provider		
Provider Type	Description	Action
outgoing	Configuring an outgoing provider.	Add
database	Configuring a database provider.	Add
incoming	Configuring an incoming provider.	Add
preview	Configuring a preview provider.	Add
ldapuser	Configuring an LDAP user provider.	Add

2. 「Create a New Provider」 の下のプロバイダ・タイプ「outgoing」のそばにある「Add」をクリックします。

「Add Outgoing Provider」ページが開きます。

図 17-3 「Add Outgoing Provider」 ページ

Add Outgoing Provider	
Provider Name	<input type="text" value="Archiver_Provider"/>
Provider Description	<input type="text" value="Provider to web sites"/>
Provider Class	<input type="text" value="intradoc.provider.SocketOutgoingProvider"/>
Connection Class	<input type="text" value="intradoc.provider.SocketOutgoingConnection"/>
Configuration Class	<input type="text"/>
Server Host Name	<input type="text" value="TargetServer"/>
HTTP Server Address	<input type="text"/>
Server Port	<input type="text" value="4444"/>
Instance Name	<input type="text" value="idc_production_server"/>
Relative Web Root	<input type="text" value="/stellent/"/>
Server Options:	<input type="checkbox"/> Proxied <small>Web access and security of a remote server is controlled by this server. Only enable this option if you are the master server in a master and proxied server relationship. Do not enable this option if you only wish to transfer archives.</small>
	<input type="checkbox"/> Notify Target <small>Use this option if you are the proxied server in a master and proxied server relationship. The <code>U/rsrc</code> subject gives the master server's web server access to the security configuration of this server and guarantees that its copy is kept up to date. It should be checked if you wish static content on the proxied server to be directly available through the master server's web server. The <code>Advanced Documents</code> subject should be checked if you wish to perform an enterprise search from the master server which includes this proxied server.</small>
	<input type="checkbox"/> Users <input type="checkbox"/> Released Documents

3. 「Provider Name」には、プロバイダを特定する名前を入力します（前述の図を参照）。名前はこのページの「Providers」リストに表示され（名前の追加後）、ソース・サーバーの `<install_dir>/data/providers/` のサブディレクトリになります。
4. 「Provider Description」には、プロバイダに適切な説明を入力します（前述の図を参照）。
5. 「Provider Class」には、**intradoc.provider.SocketOutgoingProvider**（外部プロバイダの Java クラスの名前）を入力します。
6. 「Connection Class」には、**intradoc.provider.SocketOutgoingConnection**（プロバイダ接続を実装する Java クラスの名前）を入力します。
7. 「Configuration Class」は空白のままで構いません（その他の構成設定の Java クラスを特定します。データベース・プロバイダの場合に役立ちます）。
8. 「Server Host Name」には、ターゲット・サーバーの名前（通常はマシンの名前または IP アドレス）を入力します。
このホストに対するソケット接続が確立されます。
9. 「HTTP Server Address」（ターゲット・サーバーの HTTP アドレス。このタイプの接続には必要ありません）は空白のままで構いません。
10. 「Server Port」には、ターゲット・サーバーとの通信に使用するポート（通常は 4444）を入力します。
ポートを決定するには、コンテンツ・サーバーの開始時にサーバー出力を表示します。
11. 「Instance Name」には、ターゲット・コンテンツ・サーバーの名前（IDC_Name）を入力します。
12. 「Relative Web Root」には、ターゲット・コンテンツ・サーバーの相対 Web ルート（`/stellent/` など）を入力します。
残りのオプションは、このタイプの接続に不要な場合は省略できます。
13. 「Add」を押して、プロバイダ情報を保存し、「Providers」ページに戻ります。（「Providers」リストに外部プロバイダが表示されます。）

14. コンテンツ・サーバーを再起動します。

プロバイダをテストして、プロバイダが適切に設定されたことを確認するには、「Providers」ページに戻り、外部プロバイダのそばにある「Test」をクリックします。

外部プロバイダを設定する他に、ソース・サーバーがターゲット・サーバーと通信できるように、ターゲット・マシンでサーバー IP アドレスのフィルタを構成する必要があります（詳細は、Content Server のヘルプを参照してください）。

ファイアウォールが配置されている場合は、手順 10 で定義したポートでのソース・サーバーからターゲット・サーバーへの接続を許可する必要があります。

次の手順では、インポート・アーカイブを作成します（17-7 ページの「ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定」を参照）。

17.4 インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成

あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートする場合、Site Studio のレプリケーション機能では、サイトのコンテンツをエクスポート・アーカイブにエクスポートします。エクスポート・アーカイブのコンテンツは、ターゲット・サーバーに存在するインポート・アーカイブにコピーされます。その後、インポート・アーカイブがそのターゲット・サーバーに抽出されるため、新しいサーバーでサイトを参照して再度使用できます。

エクスポート・アーカイブはソース・サーバーで作成し、インポート・アーカイブはターゲット・サーバーで作成します。最初にインポート・アーカイブをターゲット・サーバーで作成する必要があります。これにより、エクスポート・アーカイブの設定時にインポート・アーカイブの場所を示すようにエクスポート・アーカイブを指定できます。

- 17-7 ページの「ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定」
- 17-8 ページの「ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定」

17.4.1 ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定

インポート・アーカイブは、ターゲット・コンテンツ・サーバーに存在します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブのコンテンツ（ソース・サーバーに存在）はインポート・アーカイブにコピーされます。その後、インポート・アーカイブはコンテンツをターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーして、レプリケーション・プロセスが完了します。

プロバイダ接続を設定すると（17-5 ページの「ソース・サーバーでの外部プロバイダの設定」を参照）、インポート・アーカイブを作成する準備ができます。ターゲット・サーバーの「Manage Site Replication」ページでインポート・アーカイブを作成（または編集）します。

インポート・アーカイブを設定するには、次の作業を行います。

1. ターゲット・コンテンツ・サーバーにログインして、「Site Studio Administration」ページを開きます。
2. 「Manage Site Replication」をクリックします。
「Manager Site Replication」ページが開きます（A-101 ページの「[Manage Site Replication](#)」ページを参照）。
3. 「Add Import Archive」をクリックします。
「Add Import Archive」ページが開きます（A-105 ページの「[Add Import Archive](#)」ページを参照）。

または、既存のインポート・アーカイブを更新する場合は、アーカイブのリストでそのアーカイブをハイライト表示して、「**Change Settings**」をクリックします。

1. 「**Archive Name**」のそばにアーカイブの名前を入力します（この名前は、「**Manage Site Replication**」ページで使用可能なアーカイブのリストに表示されます）。
アーカイブ名には、空白や特殊文字を使用しないでください。
2. 「**Archive Description**」のそばにアーカイブの説明を入力します。
3. コントリビュータがターゲット・サイトの各リージョンに割り当てるコンテンツを保持するには、「**Retain switched region content on target server during import**」を選択します。
これらは、リージョンに割り当てられているデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントをコントリビュータが切り替える領域です（9-6 ページの「**コントリビュータによるリージョン・コンテンツの切替えの許可**」を参照）。
4. コントリビュータがターゲット・サイトの各リージョンで編集するコンテンツを保持するには、「**Retain region content on target server during import**」を選択します。
これにより、データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントがソース・サーバーからターゲット・サーバーにコピーされたり、場合によってはコントリビュータが編集するファイルが上書きされたりすることがなくなります。
5. 「**Add Archive**」をクリックします。

または、既存のインポート・アーカイブを更新する場合は、「**Update**」をクリックします。
通常、開発用サーバー（ソース）からコントリビューション・サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合、そのシナリオではコントリビュータが行った変更が失われないようにするため、リージョン・コンテンツと切り替えたリージョン・コンテンツの保持を選択します。

コントリビューション・サーバー（ソース）から消費サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合、そのシナリオでは消費サーバーで変更した内容をすべて上書きするため、これらのオプションを無効にします（選択を解除します）。

次の手順では、エクスポート・アーカイブを作成します（17-8 ページの「**ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定**」を参照）。

17.4.2 ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定

エクスポート・アーカイブは、ソース・コンテンツ・サーバーに存在します。エクスポート・アーカイブは Web サイトから情報を収集します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブはターゲット・サーバーに存在するインポート・アーカイブにコピーされます。（インポート・アーカイブを最初に作成する必要があります。これにより、エクスポート・アーカイブの作成時にそのインポート・アーカイブを指し示すことができます。）

インポート・アーカイブを作成すると（17-7 ページの「**ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定**」を参照）、エクスポート・アーカイブを作成する準備ができます。ソース・サーバーの「**Manage Site Replication**」ページでエクスポート・アーカイブを作成（または編集）します。

エクスポート・アーカイブを設定するには、次の作業を行います。

1. ソース・コンテンツ・サーバーにログインして、「**Site Studio Administration**」ページを開きます。
2. 「**Manage Site Replication**」をクリックします。
「**Manage Site Replication**」ページが開きます（A-101 ページの「**Manage Site Replication**」ページ）を参照）。

3. 「**Add Export Archive**」をクリックします。

「Add Export Archive」ページが開きます (A-102 ページの「[「Add Export Archive」ページ](#)」を参照)。

または、既存のエクスポート・アーカイブを更新する場合は、アーカイブのリストでそのアーカイブをハイライト表示して、「**Change Settings**」をクリックします。

4. 「Archive Name」のそばにアーカイブの名前を入力します (この名前は、「Manage Site Replication」ページで使用可能なアーカイブのリストに表示されます)。

アーカイブ名には、空白や特殊文字を使用しないでください。

5. 「**Archive Description**」のそばにアーカイブの説明を入力します。

6. レプリケートする Web サイトを「**Web Site**」メニューで選択します。

7. サイト階層全体をレプリケートするには、「**Include project file in export archive**」を選択します。

サイト階層全体ではなく各セクションをレプリケートするには、このオプションの選択を解除して、次の手順に進み、17-11 ページの「[サイトの各セクションのレプリケート](#)」の手順を実行します。

8. 「**Transfer to Collection**」では、このアーカイブのコピー先のターゲット・コンテンツ・サーバーでコレクションを選択します。

ターゲット・サーバーでコレクションを参照するには、「**Open Collection**」をクリックします。

9. 「**Transfer to Archive**」では、このエクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバーでアーカイブを選択します (17-7 ページの「[ターゲット・サーバーでのインポート・アーカイブの設定](#)」を参照)。

10. ソース・サーバーのコンテンツが変更されるとレプリケーション・プロセスが自動的に行われるようにするには、「**Automatically export new and changed content**」を選択します。(このオプションを選択しない場合は、レプリケーションを手動でトリガーする必要があります。)

11. 「**Add Archive**」をクリックします。

または、既存のエクスポート・アーカイブを更新する場合は、「**Update**」をクリックします。

エクスポート・アーカイブの Web サイトを選択する場合 (手順 7)、Site Studio ではサイトに関連するコンテンツをすべてアーカイブしてレプリケートします (17-3 ページの「[レプリケーションの対象](#)」を参照)。アーカイブされたコンテンツをカスタマイズするか、またはアーカイブにアイテムを追加するには、アーカイバ・アプレットを使用してアーカイブの問合せを直接微調整できます。

次の手順では、レプリケーションを開始します (17-10 ページの「[サイト・レプリケーションの開始](#)」を参照)。

Site Studio レプリケーターを使用してサイトの各セクションをレプリケートする場合、次の手順で Site Studio レプリケーターを開きます (17-11 ページの「[Site Studio レプリケーターの使用](#)」を参照)。

17.5 サイト・レプリケーションの開始

エクスポート・アーカイブを設定すると（17-8 ページの「[ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定](#)」を参照）、「Manage Site Replication」ページを使用してソース・サーバーでレプリケーション・プロセスを開始する準備ができます。

Web サイトをレプリケートするには、次の作業を行います。

1. ソース・コンテンツ・サーバーにログインして、「Site Studio Administration」ページを開きます。
2. 「Manage Site Replication」をクリックします。
「Manage Site Replication」ページが開きます（A-101 ページの「[Manage Site Replication](#)」ページを参照）。
3. 目的のエクスポート・アーカイブを選択します。
4. 「Export」をクリックします。

新規コンテンツおよび変更されたコンテンツを自動的にエクスポートするように選択した場合（17-8 ページの「[ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定](#)」の手順 10）、アーカイブをエクスポートするとレプリケーション・プロセスが自動的に行われます。

サイトのサイズと複雑さに応じて、レプリケーションの完了後にターゲット・コンテンツ・サーバーでサイトを再索引付けするには十分な時間が必要になる場合があります。

17.6 環境プロパティの指定

ある場所から別の場所にサイトをレプリケートする場合、1つのサーバーの特定の設定を保存して、次のサーバーにその設定をレプリケートしないようにできます。このような設定を環境プロパティと言います。

たとえば、あるサーバー（コントリビューション・サイト）で一意のキャッシュ値を指定し、次のサーバー（カスタマ・サイト）では指定しない場合、最大有効期間プロパティが環境プロパティになるように指定します。その結果、このキャッシュ値は次のサーバーにレプリケートされません。

環境プロパティはデザイナーで指定し、その値はレプリケータで上書きできます。

環境プロパティを指定するには、次の作業を行います。

1. デザイナーでサイトを開いた状態で、「File」→「Site」→「Advanced」→「Environment Properties」をクリックします。
「Environment Properties」ダイアログ・ボックスが開きます（A-22 ページの「[Define Environment Properties](#)」ダイアログ・ボックスを参照）。
2. 環境プロパティになるプロパティ（レプリケートされないプロパティ）のそばにあるボックスを選択します。
3. 正常に処理されて次の場所にレプリケートされるプロパティ（アプリケーション・プロパティと呼ばれる）のそばにあるボックスの選択を解除します。
4. 「OK」をクリックします。

レプリケーション中に環境プロパティを上書きすることもできます（17-18 ページの「[環境プロパティの上書き](#)」を参照）。

17.7 サイトの各セクションのレプリケート

1回のアクションで Web サイト全体をレプリケートするのではなく、サイトの各セクションをレプリケートできます。これは、公開する準備ができていないセクションがあり、準備ができるまでそのセクションのレプリケートを保留にしておく場合などに便利です。

または、消費環境ではなく本番環境のみを対象とするセクションがある場合などです。この場合、サイト階層をレプリケートする際にそのセクションを省略できます。

サイトの各セクションをレプリケートするには、Site Studio レプリケータを使用します。詳細は、17-11 ページの「[Site Studio レプリケータの使用](#)」を参照してください。

先に進む前に、エクスポート・アーカイブでプロジェクト・ファイルの選択を解除したことを確認する必要があります（17-8 ページの「[ソース・サーバーでのエクスポート・アーカイブの設定](#)」の手順7）。解除していないと、Site Studio レプリケータのレプリケーション設定が、サイト階層全体のレプリケーションで上書きされます。

17.8 Site Studio レプリケータの使用

Site Studio レプリケータは、Site Studio で使用し、あるコンテンツ・サーバー（ソース・サーバー）から別のコンテンツ・サーバー（ターゲット・サーバー）にサイト階層の一部をレプリケートするツールです。Site Studio レプリケータを使用しない場合は、サイト階層全体をレプリケートする必要があります。Site Studio レプリケータを使用すると、サイト上の環境プロパティを上書きすることもできます。

Site Studio レプリケータでは、サイト階層のみをレプリケートします。つまり、サイト上のコンテンツ（レイアウト・ページ、データ・ファイル、フラグメントなど）はレプリケートしません。このコンテンツは、「[Manage Site Replication](#)」ページを使用する場合にレプリケートされます（A-101 ページの「[Manage Site Replication](#)」ページを参照）。

Site Studio レプリケータの開始

Site Studio レプリケータは、Site Studio をインストールする際にデザイナーとともにマシンにローカルでインストールされます。このプログラムを起動するには、「スタート」メニューから「**プログラム**」を選択して、「**Oracle Universal Content Management**」→「**Site Studio 10gR3**」→「**Site Studio Replicator**」を選択します。

プログラムを開くと、ウィザードを経由してサイト階層をレプリケートする準備ができます。レプリケーション・プロセスは次の手順で構成されます。

- 17-12 ページの「[手順 1: ソース・サーバーと Web サイトの選択](#)」
- 17-13 ページの「[手順 2: ターゲット・サーバーの選択](#)」
- 17-15 ページの「[手順 3: レプリケートするアイテムの選択](#)」
- 17-16 ページの「[手順 4: Site Studio レプリケータの終了](#)」

17.8.1 手順 1: ソース・サーバーと Web サイトの選択

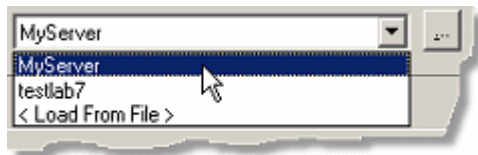
Site Studio レプリケータの最初の画面で、ソース・サーバーの選択が求められます。このサーバーは、サイト階層のレプリケート元のサーバーです。ソース・サーバーを選択するには、実際のサーバー、またはソース・サーバーで作成されたプロジェクト・ファイルを選択します。サーバーを選択する場合は、Web サイトを選択します。

サーバーのソースとしての選択

サーバーをソースとして選択するには、次の作業を行います。

1. 「Source Content Server」ドロップダウン・リストからサーバーを選択します。

図 17-4 サーバーの選択



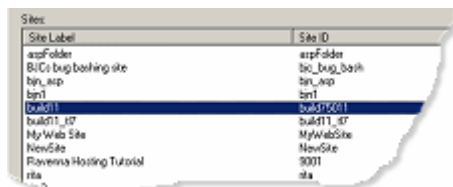
新しいサーバーの追加、既存のサーバーの編集、または既存のサーバーの削除を行うには、ドロップダウン・リストのそばにある「Additional Information」アイコン (図 17-5) をクリックします (17-17 ページの「サーバー接続の変更」を参照)。

図 17-5 「Additional Information」アイコン



2. 「Next」をクリックします (プロンプトが表示された場合は、コンテンツ・サーバーにログインします)。
3. ソース・サーバーで Web サイトを選択します。

図 17-6 Web サイトの選択



4. 「Next」をクリックして、次の手順に進みます (17-13 ページの「手順 2: ターゲット・サーバーの選択」を参照)。

プロジェクト・ファイルのソースとしての選択

プロジェクト・ファイルをソースとして使用できますが、最初にソース・サーバーからプロジェクト・ファイルをダウンロードする必要があります (5-10 ページの「プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示」を参照)。ソース・サーバーではなくプロジェクト・ファイルを使用すると、ネット・ワークでソース・サーバーにアクセスできないために階層を手動で転送する必要がある場合に便利です。

プロジェクト・ファイルをソースとして選択するには、次の作業を行います。

1. 「Source Content Server」ドロップダウン・リストから「<Load From File>」を選択します。
2. 「Next」をクリックします。
3. 「Open」ダイアログ・ボックスで、ソース・サーバーからダウンロードしたプロジェクト・ファイルを選択して、「OK」をクリックします。
4. 「Next」をクリックして、次の手順に進みます（17-13 ページの「手順 2: ターゲット・サーバーの選択」を参照）。

ウィザードの後半では、レプリケートする Web サイトの各セクションを選択できます。

17.8.2 手順 2: ターゲット・サーバーの選択

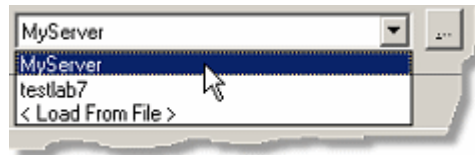
Site Studio レプリケータの次の画面で、ターゲット・サーバーの選択が求められます。これは、サイト階層のレプリケート先のサーバーです。サーバーを選択するには、実際のサーバー、またはターゲット・サーバー上のプロジェクト・ファイルを選択します。

サーバーのターゲットとしての選択

サーバーをターゲットとして選択するには、次の作業を行います。

1. 「Target Content Server」ドロップダウン・リストからサーバーを選択します。（「Target Content Server」フィールドを空白にしておくことはできません。）

図 17-7 サーバーの選択



新しいサーバーの追加、既存のサーバーの編集、または既存のサーバーの削除を行うには、サーバー・リストのそばにある「Additional Information」アイコン（図 17-8）をクリックします（17-17 ページの「サーバー接続の変更」を参照）。

図 17-8 「Additional Information」アイコン



2. 「Advanced」をクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「Replicate hierarchy information directly to the target content server」を選択して、ターゲット・コンテンツ・サーバーに直接レプリケートします。
このオプションは、（プロジェクト・ファイルではなく）サーバーをターゲットとして選択した場合のみ使用可能です。
 - 「Generate a hierarchy information file for manual replication」を選択して、階層情報ファイルを生成します。
階層情報ファイルの「Output File Name」を指定するか、または「Browse」をクリックしてファイルを検索します。
このオプションを選択すると、コンテンツ・サーバーに後でチェックインできるプロジェクト・ファイルが作成されます。
3. 「OK」をクリックして、Site Studio レプリケータに戻ります。
4. 「Next」をクリックします（プロンプトが表示された場合は、コンテンツ・サーバーにログインします）。

5. 新しい Web サイト (プロジェクト・ファイル) を作成するプロンプトが表示された場合は、「Yes」をクリックします。
6. 次の手順に進みます (17-15 ページの「[手順 3: レプリケートするアイテムの選択](#)」を参照)。

プロジェクト・ファイルのターゲットとしての選択

プロジェクト・ファイルをターゲットとして使用できますが、最初にターゲット・サーバーからプロジェクト・ファイルをダウンロードする必要があります (5-10 ページの「[プロジェクト・ファイルのコンテンツ情報ページの表示](#)」を参照)。ターゲット・サーバーではなくプロジェクト・ファイルを使用すると、ネット・ワークでターゲット・サーバーにアクセスできないために階層を手動で転送する必要がある場合に便利です。

プロジェクト・ファイルをターゲットとして選択するには、次の作業を行います。

1. 「Target Content Server」ドロップダウン・リストから「<Load From File>」を選択します。
2. 「Next」をクリックします。
3. 出力ファイル名が必要であることを示すプロンプトが表示されたら、「OK」をクリックします。
4. 「Output File Name」フィールドで、階層情報ファイルの名前を指定します。
または、「Browse」をクリックして、既存のファイルを検索します。
5. 「OK」をクリックして、Site Studio レプリケータに戻ります。
6. 「Next」をクリックします。
7. 「Open」ダイアログ・ボックスで、使用する階層情報ファイルを選択して、「Open」をクリックします。
8. 次の手順に進みます (17-15 ページの「[手順 3: レプリケートするアイテムの選択](#)」を参照)。

17.8.3 手順 3: レプリケートするアイテムの選択

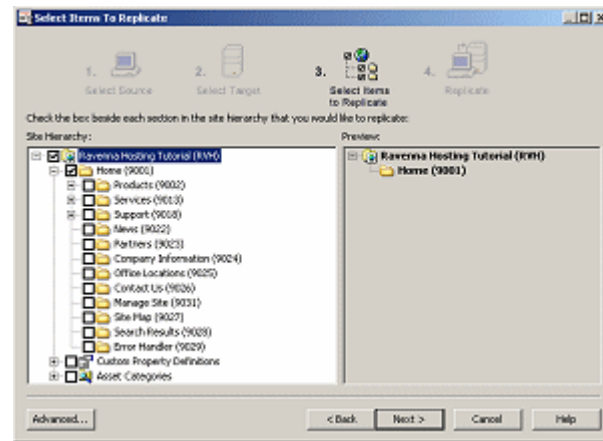
ソース・サーバーとターゲット・サーバー（またはプロジェクト・ファイル）を選択すると次の画面が表示され、この画面でレプリケートする各セクション、カスタム・プロパティ、およびアセット・カテゴリを選択できます。サイト上の環境プロパティを上書きすることもできます。

ソースの階層は、左側の「Site Hierarchy」ペインに表示され、マージされた階層は、右側の「Preview」ペインに表示されます。

レプリケートするアイテムを選択するには、次の作業を行います。

1. 「Site Hierarchy」ペインで、レプリケートする目的のセクション、カスタム・プロパティおよびアセット・カテゴリのそばにあるボックスを選択します。

図 17-9 レプリケート対象の選択



初めてサイトをレプリケートする際は、ソースで何も選択していない場合でも「Preview」ペインにサイト階層全体（ルートを含む）が表示されます。サイト階層をレプリケートするには、ソースでサイト階層とルート・セクションを選択する必要があります。

2. 「Advanced」をクリックして、階層をレプリケートする次のいずれかのオプションを選択します。
 - サイトの各セクションをレプリケートするには、「Replicate the selected folders」を選択します。
 - サイト全体をレプリケートするには、「Replicate the entire source hierarchy」を選択します。

注意：サイトを初めてレプリケートする場合は、階層全体をレプリケートするのが一般的です。次にレプリケートする際は、選択したフォルダを選択します。

- デザイナーの「Environment Properties」ダイアログ・ボックスで行った環境設定を上書きするには、「Override Environment Properties」をクリックします（17-18 ページの「環境プロパティの上書き」を参照）。
- コントリビュータがターゲット・サーバーで切り替えたコンテンツを保存して、そのコンテンツが上書きされないようにするには、「Preserve the target's switched region associations」を選択します。

「OK」をクリックして、Site Studio レプリケータに戻ります。

- （ソース・サーバーまたはターゲット・サーバー上の）特定のセクションの現在のプロパティを表示するには、そのセクションを右クリックして「**Properties**」を選択します。
「Properties」ダイアログ・ボックスが開きます。

図 17-10 「Properties」ダイアログ・ボックス

Name	Value
PageTitle	SRC-Ravenna Hosting Tutorial Site
active	SRC-TRUE
errornodeId	9029
label	SRC-SRCHome
navLabel	SRC-Home
nodeId	9001
primaryUrl	SRC-rvh_defaul?region1=rvh_homecontent®ion2=rvh...
siteType	SRC-abc
urlName	SRC-RVH

このウィンドウが開いている場合、サイト階層の様々なセクションをクリックして、引き続きそのセクションのプロパティを表示できます。

- ターゲット・サーバーからセクションを削除するには、そのセクションを右クリックして「**Delete**」を選択します。
ターゲット・サーバーからのセクションの削除は、セクションが不要になった場合や、セクションをサイトの別の部分に移動した場合に便利です。
- 「**Next**」をクリックして、次の手順に進みます（17-16 ページの「[手順 4: Site Studio レプリケータの終了](#)」を参照）。

サイト階層の詳細を表示する必要がある場合は、このダイアログ・ボックスのサイズを変更できます。

最上位レベルの Web サイト、または最上位レベルのセクションを選択すると、その下のすべてのセクションがレプリケートされます。

ソース・サーバーでサブセクションを選択する場合、そのサブセクションの親はすでにターゲット・サーバーに存在しています。存在しない場合は、ターゲット階層に親が存在しないために選択した階層がマージされないことを示すメッセージが表示されます。これを解決するには、レプリケートするサブセクションの親セクションをソース階層で選択する必要があります。

ターゲット階層（「Preview」ペイン）で太字で表示されるセクションは、レプリケーション・プロセスで作成される新しいセクションを示します。

17.8.4 手順 4: Site Studio レプリケータの終了

ソース・サーバーとターゲット・サーバー（またはプロジェクト・ファイル）を選択して、レプリケートするアイテムを選択すると次の画面が表示されます。この画面で選択内容を確認し、サイト階層をレプリケートできます。

この画面では、ソース・サーバーとターゲット・サーバーの場所および URL、レプリケーションのタイプ、レプリケートするサイト階層が表示されます。

サイト階層をレプリケートするには、次の作業を行います。

- 「**Preview**」をクリックして、ターゲット・サーバーで行われるサイト階層の変更を確認します。確認が終わったら、「**Close**」をクリックします。
- 「**Finish**」をクリックします。
- ターゲット・サーバーにレプリケートするかどうかを尋ねるメッセージに対して「**Yes**」をクリックします。
- ターゲット・サーバーで新しいサイトを作成している場合は、「**Assign Info Form**」に移動し、ここでプロジェクト・ファイルに割り当てられるメタデータを指定します。

指定したら、「**Assign Info**」をクリックします。

5. 確認メッセージに対して「OK」をクリックします。

初めてサイトをレプリケートする場合は、「Manage Site Replication」ページに戻り、レプリケーションが終了します（17-10 ページの「[サイト・レプリケーションの開始](#)」を参照）。

17.8.5 サーバー接続の変更

ソースまたはターゲットの場所としてサーバーを選択すると、既存のサーバーのプロパティの変更、新しいサーバーの追加、およびサーバーの削除を行うことができます。

リストへの新しいサーバーの追加

リストに新しいサーバーを追加するには、次の作業を行います。

1. Site Studio レプリケータでソース・サーバーまたはターゲット・サーバーを指定する場合、「Additional Information」アイコン（[図 17-11](#)）をクリックします。

図 17-11 「Additional Information」アイコン



2. 「Add Server」をクリックします。
3. 「Server Configuration」ダイアログ・ボックスで、「Server Name」フィールドにサーバーの名前を入力します（次にサーバーを選択したときに表示される名前です）。
4. 「CGI URL」フィールドにサーバーの URL を入力します。
通常は、フィールドに表示される既存の URL を使用できます。「server」は使用するサーバーの名前に置き換えられます。
5. 「OK」をクリックします。

リストからのサーバーの削除

サーバー・リストからサーバーを削除するには、次の作業を行います。

1. Site Studio レプリケータでソース・サーバーまたはターゲット・サーバーを指定する場合、削除するサーバーを選択して、「Additional Information」アイコン（[図 17-12](#)）をクリックします。

図 17-12 「Additional Information」アイコン



2. 「Remove Server」をクリックします。
3. リストからのサーバーの削除を尋ねる確認メッセージに対して「Yes」をクリックします。

サーバーのプロパティの表示または編集

サーバーのプロパティを表示または編集するには、次の作業を行います。

1. Site Studio レプリケータでソース・サーバーまたはターゲット・サーバーを指定する場合、表示または編集するサーバーを選択して、「Additional Information」アイコン（[図 17-13](#)）をクリックします。

図 17-13 「Additional Information」アイコン



2. 「Properties」をクリックします。

3. 「Server Configuration」ダイアログ・ボックスで、サーバーのプロパティを表示または編集できます。
4. 「OK」をクリックします。

17.8.6 環境プロパティの上書き

デザイナーでサイトの環境プロパティを指定した後（17-10 ページの「[環境プロパティの指定](#)」を参照）、サイトをレプリケートする際にその設定を後から上書きできます。

Site Studio レプリケータにある「Override Environment Properties」ダイアログ・ボックスでプロパティを上書きします（17-15 ページの「[手順 3: レプリケートするアイテムの選択](#)」を参照）。

環境プロパティを上書きするには、次の作業を行います。

1. Site Studio レプリケータの「Selecting items to replicate」画面で「Advanced」をクリックします。
2. 「Advanced」ダイアログ・ボックスで、「Override Environment Properties」をクリックします。
3. 環境プロパティとして扱うプロパティのそばにあるボックスを選択します。
または、アプリケーション・プロパティとして扱うプロパティのそばにあるボックスの選択を解除します。
4. 「OK」をクリックして、Site Studio レプリケータに戻り、レプリケーションを終了します。

サイトのバックアップ

Site Studio の「Site Studio Administration」ページにはバックアップおよびリストア機能が用意されており、この機能を使用すると、サイトのバックアップを（1つの ZIP ファイルで）作成して、そのバックアップをいつでもリストアできます。サイトのバックアップは、ある場所から別の場所にサイトを転送する（特にネットワーク・アクセスがない）場合の最適な方法でもあります。

この項の内容は次のとおりです。

- 18-2 ページの「[バックアップの対象](#)」
- 18-2 ページの「[サイトのバックアップ](#)」
- 18-3 ページの「[サイトのリストア](#)」
- 18-5 ページの「[サーバー構成の詳細の表示](#)」

18.1 バックアップの対象

Site Studio バックアップ・ユーティリティでは、Web サイトのコピーを作成して圧縮ファイルで保存し、そのファイルのある場所から別の場所にコピーできます。サイトに属するファイルを認識するには、次のアイテムの問合せを実行して、インポート・アーカイブにこれらのアイテムを追加します。

- **プロジェクト・ファイル** (プロジェクト・ファイルの dDocName)
- **Web サイトの ID** («xWebsites» フィールドにはサイトのサイト ID が含まれる)
- **Web サイトのセクション** («xWebsiteSection» フィールドにはサイトのサイト ID が含まれる)
- **フラグメント・ライブラリ** («xWebsiteObjectType» フィールドには値「fragment」が含まれる)

サイトのコンテンツをバックアップしてリストアするには、「xWebsites」、「xWebsiteSection」および「xWebsiteObjectType」のメタデータの値がサイトで正しく使用される必要があります。

バックアップ機能では、サイト・レプリケーションで使用されるアーカイブ・プロセスを使用します (第 17 章「サイトのレプリケート」を参照)。

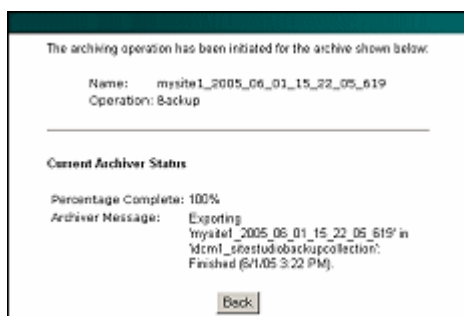
18.2 サイトのバックアップ

サイトのバックアップでは、「Site Studio Administration」ページからアクセスできる「Backup and Restore」ページを使用します。

サイトをバックアップするには、次の作業を行います。

1. 「Site Studio Administration」ページを開きます。
2. 「Backup and Restore」をクリックします。
「Backup and Restore」ページが開きます (A-107 ページの「「Backup and Restore」ページ」を参照)。
3. バックアップする Web サイトを選択して、「Create Web Site Backup」をクリックします。
このページでは、バックアップの進行状況が表示されます。

図 18-1 バックアップの進行状況



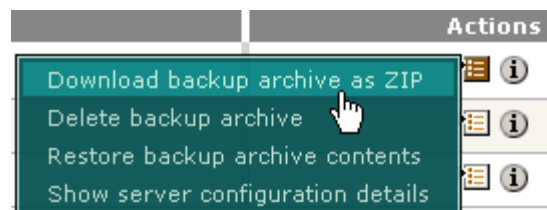
4. 終了したら「Back」をクリックします。
現在のバックアップに影響を与えずに、いつでも前のページに戻ることができます。
5. 「Backup and Restore」ページで「Manage Web Site Backups」をクリックします。

6. このページには、サーバーで作成されたバックアップのリストが表示されます。作成したバックアップをダウンロードするには、そのバックアップのそばにある「Actions Menu」アイコン (図 18-2) をクリックして、「Download backup archive as ZIP」を選択します。

図 18-2 「Actions Menu」アイコン



図 18-3 ZIP ファイルでのバックアップ・アーカイブのダウンロード



サイトのサイズに応じて、ZIP ファイルを作成するまでに数分間待機する必要があります。

7. 「File Download」ダイアログ・ボックスで「Save」をクリックして、ファイルの場所を選択し、「Save」をクリックしてダウンロードを開始します。

注意: Web サイトのサイズが ZIP ファイルの最大ファイル制限である 65,535 を超えると、バックアップ・アーカイブの ZIP は作成されません。かわりに、ファイル・システムからバックアップ・アーカイブを直接開いて、そこからダウンロードする必要があります。バックアップ・アーカイブは [CS-Dir]¥data¥sitestudio¥backuparchives に保存されます ([CS-Dir] は、コンテンツ・サーバー・インスタンスのインストール場所です)。

バックアップ・サイトは常時削除できます。削除するには「Actions」メニューをクリックして「Delete backup archive」を選択します。この操作は、「Web Site Backup Archives」ページ (A-108 ページの「[Web Site Backup Archives](#)」ページ) を参照) と「Backup Archive Information」ページ (A-110 ページの「[Backup Archive Information](#)」ページ) を参照) で行うことができます。

18.3 サイトのリストア

サイトのリストアでは、「Site Studio Administration」ページからアクセスできる「Backup and Restore」ページを使用します。

重要: コンテンツ・サーバーの既存のコンテンツのクラッシュを防ぐには、クリーンなコンテンツ・サーバーにリストアすることをお勧めします。

サイトをリストアするには、次の作業を行います。

1. 「Site Studio Administration」ページを開きます (A-94 ページの「[Site Studio Administration](#)」ページ) を参照)。
2. 「Backup and Restore」をクリックします。
「Backup and Restore」ページが開きます (A-107 ページの「[Backup and Restore](#)」ページ) を参照)。
3. 「Browse」をクリックしてバックアップしたサイト (ZIP ファイル) を検索し、「Choose File」ダイアログ・ボックスで「Open」をクリックします。

4. 「Upload Backup Archive」をクリックします。

「Backup Archive Information」ページが開きます（A-110 ページの「[Backup Archive Information](#)」ページを参照）。このページには、アーカイブ名、説明、Web サイト、およびインポート日などのバックアップの詳細が表示されます。

サイトの作成元のコンテンツ・サーバー環境と一致するようにコンテンツ・サーバーを構成していない場合は、「Actions」をクリックして「Show server configuration details」を選択します。次に、そのページに表示される設定を再作成します（18-5 ページの「[サーバー構成の詳細の表示](#)」を参照）。

5. 「Actions」メニューで「Restore backup archive contents」を選択します。
6. 確認メッセージに対して「OK」をクリックします。
このページには、リストアの進行状況が表示されます。

図 18-4 リストアの進行状況



サイトのサイズに応じて、Web サイトをリストアしてからコンテンツ・サーバーで索引が作成されるまでに数分間待機する必要があります。

7. 終了したら「Back」をクリックします。

現在のリストアに影響を与えずに、前のページにいつでも戻ることができます。

これで、コンテンツ・サーバーでサイトを使用できるようになりました。

バックアップ・サイトは常時削除できます。削除するには「Actions」メニューをクリックして、「Backup Archive Information」ページまたは「Web Site Backup Archives」ページで「Delete backup archive」を選択します。

18.4 サーバー構成の詳細の表示

バックアップ・サイトのサーバー構成の詳細はいつでも表示できます。詳細内容には、使用されるメタデータ、セキュリティ・グループおよびインストールしたコンポーネントなどがあります。この情報は、サイトをリストアする必要があり、サイトの作成元のサーバーと一致するようにコンテンツ・サーバーを構成する場合に特に役立ちます。

バックアップ・サイトのサーバー構成の詳細を表示するには、次の作業を行います。

1. 「Site Studio Administration」ページを開きます。
2. 「Backup and Restore」をクリックします。
「Backup and Restore」ページが開きます（A-107 ページの「[「Backup and Restore」ページ](#)」を参照）。
3. 「Manage Web Site Backups」をクリックします。
4. 目的のサイトのそばにある「Actions Menu」アイコン（[図 18-5](#)）をクリックして、「Show server configuration details」を選択します。

図 18-5 「Actions Menu」アイコン



5. この操作により、「Server Configuration Details」ページが表示されます（A-111 ページの「[「Server Configuration Details」ページ](#)」を参照）。このページでは、サイトの作成元のサーバーの詳細を引用できます。

注意： Content Server の構成移行ユーティリティを使用して、あるサーバーから別のサーバーにコンテンツ・サーバー環境をレプリケートできます。

ユーザー・インタフェース

Site Studio デザイナには、ダイアログ・ボックスや管理ページが多数用意されており、これらを使用してサイトを作成および管理します。

- A-3 ページの「[Customize] ダイアログ・ボックス」
- A-17 ページの「[Site Connection Manager] ダイアログ・ボックス」
- A-18 ページの「[Site Connection Details] ダイアログ・ボックス」
- A-19 ページの「[Create New Site] ダイアログ・ボックス」
- A-20 ページの「[Site Addresses] ダイアログ・ボックス」
- A-21 ページの「[Choose Default Link Format] ダイアログ・ボックス」
- A-22 ページの「[Define Environment Properties] ダイアログ・ボックス」
- A-23 ページの「[New Section] ダイアログ・ボックス」
- A-24 ページの「[Define Custom Section Properties] ダイアログ・ボックス」
- A-25 ページの「[Define Custom Section Property] ダイアログ・ボックス」
- A-26 ページの「[Select (Home) Layout Page] ダイアログ・ボックス」
- A-28 ページの「[Select (Primary) Layout Page] ダイアログ・ボックス」
- A-30 ページの「[Select (Secondary) Layout Page] ダイアログ・ボックス」
- A-32 ページの「[Site Asset Categories] ダイアログ・ボックス」
- A-33 ページの「[Enable Metadata Modification] ダイアログ・ボックス」
- A-34 ページの「[Select Site] ダイアログ・ボックス」
- A-35 ページの「[Select Section] ダイアログ・ボックス」
- A-36 ページの「Create Hyperlink Wizard - 「Choose Type」」
- A-37 ページの「Create Hyperlink Wizard - 「Choose Section」」
- A-38 ページの「Create Hyperlink Wizard - 「Choose Format」」
- A-40 ページの「Create Hyperlink Wizard - 「Confirmation」」
- A-41 ページの「Create Hyperlink Wizard - 「Choose Region Content」」
- A-42 ページの「Create Hyperlink Wizard - 「Choose Target Section」」
- A-43 ページの「[Contribution Region] ダイアログ・ボックス」
- A-45 ページの「[Enable Metadata Modification] ダイアログ・ボックス」
- A-46 ページの「[Region Content Options] ダイアログ・ボックス」
- A-47 ページの「[Choose Document Types] ダイアログ・ボックス」
- A-48 ページの「[Edit Query Text] ダイアログ・ボックス」

-
- A-48 ページの「[Enable Metadata Modification] ダイアログ・ボックス」
 - A-49 ページの「[Native Document Conversion Settings] ダイアログ・ボックス」
 - A-51 ページの「[WYSIWYG Element] ダイアログ・ボックス」
 - A-54 ページの「[Plain Text Element] ダイアログ・ボックス」
 - A-56 ページの「[Image Element] ダイアログ・ボックス」
 - A-58 ページの「[Custom Element] ダイアログ・ボックス」
 - A-59 ページの「[Custom Element Settings] ダイアログ・ボックス」
 - A-60 ページの「[Region Content Options] ダイアログ・ボックス」
 - A-62 ページの「[Enable Metadata Modification] ダイアログ・ボックス」
 - A-63 ページの「[Select CSS Classes] ダイアログ・ボックス」
 - A-64 ページの「[WYSIWYG Element Validation] ダイアログ・ボックス」
 - A-65 ページの「[Plain Text Element Validation] ダイアログ・ボックス」
 - A-66 ページの「[Select HTML Tags] ダイアログ・ボックス」
 - A-67 ページの「[Image Element Validation] ダイアログ・ボックス」
 - A-68 ページの「[Advanced Element Validation] ダイアログ・ボックス」
 - A-69 ページの「[Static List Element] ダイアログ・ボックス」
 - A-71 ページの「[Static List Element Validation] ダイアログ・ボックス」
 - A-72 ページの「[Dynamic List Element] ダイアログ・ボックス」
 - A-74 ページの「[Region Content Options] ダイアログ・ボックス」
 - A-75 ページの「[Enable Metadata Modification] ダイアログ・ボックス」
 - A-76 ページの「[Assign Region Content] ダイアログ・ボックス」
 - A-78 ページの「[Choose Region Content] ダイアログ・ボックス」
 - A-79 ページの「[Generate Unique Region Content] ダイアログ・ボックス」
 - A-80 ページの「フラグメント・エディタ」
 - A-82 ページの「[Properties for Fragment] ダイアログ・ボックス」
 - A-83 ページの「[Fragment Assets] ダイアログ・ボックス」
 - A-84 ページの「[Fragment Elements] ダイアログ・ボックス」
 - A-85 ページの「[Fragment Parameters] ダイアログ・ボックス」
 - A-87 ページの「[Edit Query Text] ダイアログ・ボックス」
 - A-88 ページの「[New Option] ダイアログ・ボックス」
 - A-89 ページの「[Snippet Properties] ダイアログ・ボックス」
 - A-91 ページの「[Fragment Parameter Values] ダイアログ・ボックス」
 - A-92 ページの「[Fragment Preview] ダイアログ・ボックス」
 - A-93 ページの「[Save Fragment] ダイアログ・ボックス」
 - A-94 ページの「[Site Studio Administration] ページ」
 - A-96 ページの「[Manage Web Sites] ページ」
 - A-97 ページの「[Manage Site] ページ」
 - A-98 ページの「[Manage Web Site Addresses] ページ」
 - A-99 ページの「[Manage Fragment Libraries] ページ」

- A-100 ページの「「Set Project Default Document Information」 ページ」
- A-101 ページの「「Manage Site Replication」 ページ」
- A-102 ページの「「Add Export Archive」 ページ」
- A-104 ページの「「Edit Export Archive」 ページ」
- A-105 ページの「「Add Import Archive」 ページ」
- A-106 ページの「「Edit Import Archive」 ページ」
- A-107 ページの「「Backup and Restore」 ページ」
- A-108 ページの「「Web Site Backup Archives」 ページ」
- A-110 ページの「「Backup Archive Information」 ページ」
- A-111 ページの「「Server Configuration Details」 ページ」
- A-112 ページの「「General Component Information」 ページ」

A.1 「Customize」ダイアログ・ボックス

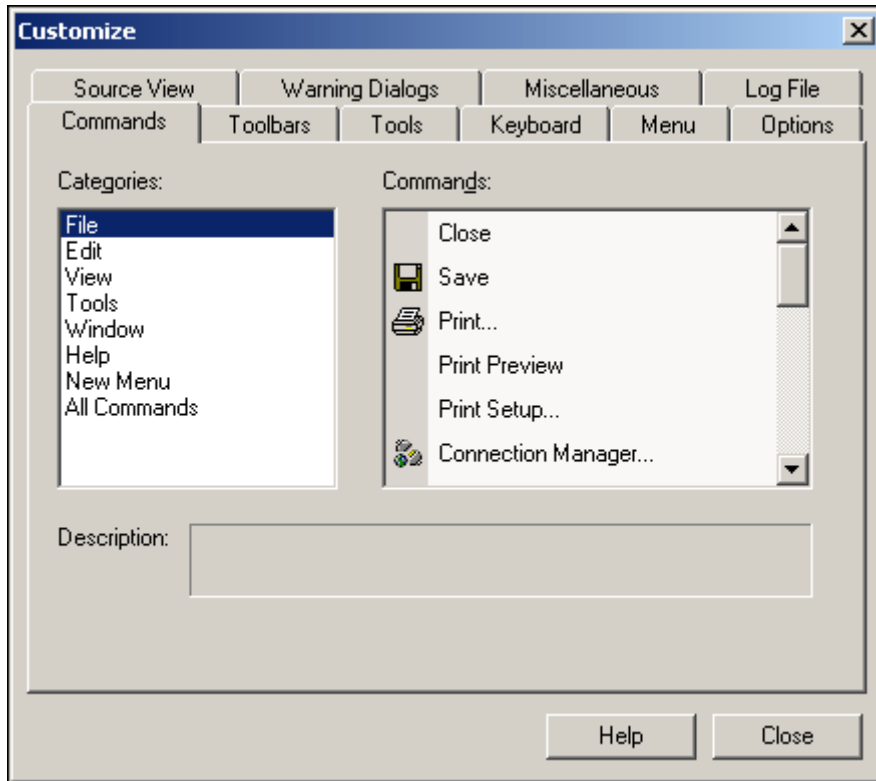
「Customize」ダイアログ・ボックスを使用して、設計者のニーズに合うようにデザイナーのインタフェースを変更します。

- A-4 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Commands」タブ」
- A-5 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Toolbars」タブ」
- A-7 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Tools」タブ」
- A-8 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Keyboard」タブ」
- A-10 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Menu」タブ」
- A-11 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Options」タブ」
- A-12 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Source View」タブ」
- A-14 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Warning Dialogs」タブ」
- A-15 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Miscellaneous」タブ」
- A-16 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Log File」タブ」

A.1.1 「Customize」ダイアログ・ボックス：「Commands」タブ

デザイナ・アプリケーションには、多くのメニューとコマンドがあります。これらのメニューやコマンドの表示方法の変更、新しいメニューの作成、コマンドを伴うメニューの移入を行うことができます。「Toolbars」タブ（A-5 ページの「[「Customize」ダイアログ・ボックス：「Toolbars」タブ](#)」を参照）と連動して、使用頻度の高いコマンドを表示する新しいツールバーを作成できます。

図 A-1 「Commands」タブのダイアログ・ボックス

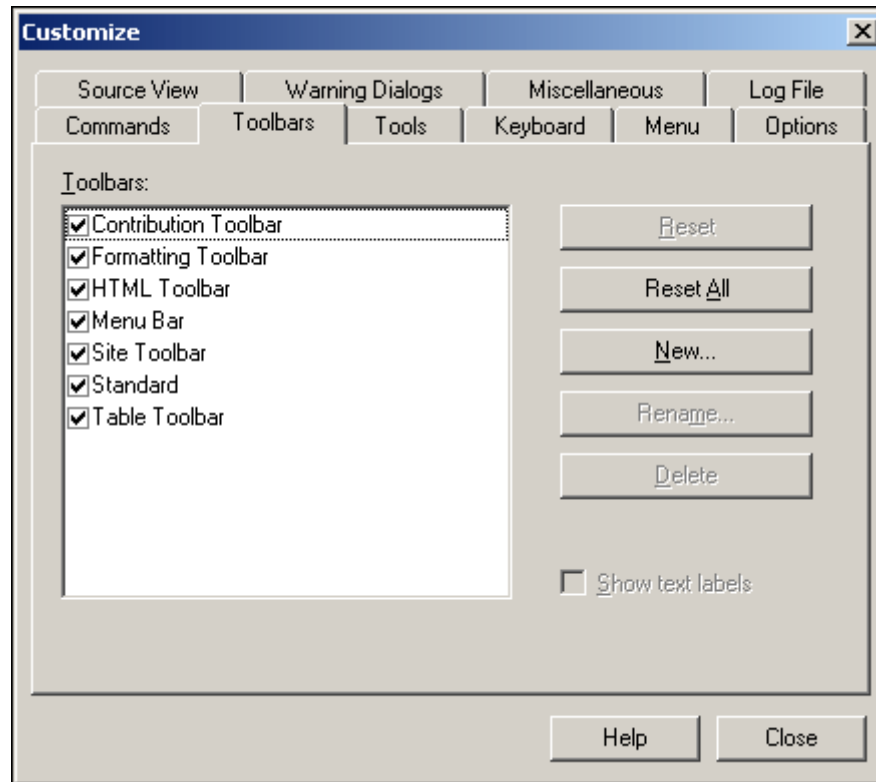


要素	説明
Categories	既存のメニューを表示します。デザイナで新しいメニューを作成するには「 New Menu 」を使用します。
Commands	使用可能なコマンドを表示します。デザイナでメニューの新しいコマンドを作成するには「 New Menu 」を使用します。
Description	選択したメニューの説明を表示します。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。
Close	「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.1.2 「Customize」ダイアログ・ボックス：「Toolbars」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのツールバーがあります。これらのツールバーの表示と非表示、新しいツールバーの作成、コマンドを伴うツールバーの移入（A-4 ページの「「Customize」ダイアログ・ボックス：「Commands」タブ」を参照）、新しいツールバーの削除、元のツールバーから削除されたアイコンのリストアを行うことができます。

図 A-2 「Toolbars」タブのダイアログ

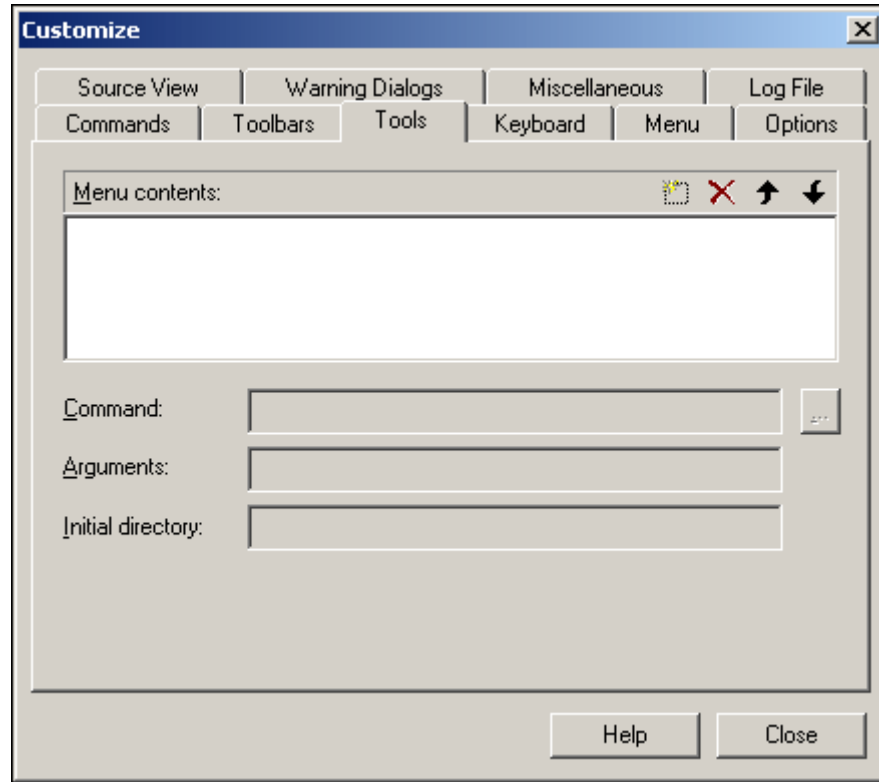






要素	説明
Toolbars	<p>デザイナの各ツールバー・アイテムのチェック・ボックスを表示します。ツールバーの該当アイテムを表示するにはチェック・ボックスを選択し、そのアイテムを非表示にするにはチェック・ボックスの選択を解除します。</p> <p>Contributor Toolbar: 「Insert Region」、「Insert Element」などがあります。</p> <p>Formatting Toolbar: 書体、太字、左揃えなどがあります。</p> <p>HTML Toolbar: HTML スタイル、イメージの挿入、ルールの挿入などがあります。</p> <p>Menu Bar: 「File」、「Edit」、「View」などがあります。</p> <p>Site Toolbar: 「Choose Site」、「Assign Region Content」などがあります。</p> <p>Standard: 「Copy」、「Paste」、「Save」などがあります。</p> <p>Table Toolbar: 「Insert Table」、「Insert Row」、「Insert Column」などがあります。</p>
Reset	<p>既存のツールバーをリセットします。リストアするツールバーを選択してからこのボタンをクリックします。</p> <p>このコマンドは、デザイナに用意されているデフォルトのツールバーのセットにのみ適用されます。新しいツールバーを作成して、そのバーからアイコンを削除した後に、そのアイコンをリストアする場合は、「Commands」タブに移動し、「Commands」ボックスからアイコンをドラッグしてツールバーにドロップする必要があります。</p>
Reset All	<p>デザイナのすべてのツールバーをリセットします。</p> <p>このコマンドは、デザイナに用意されているデフォルトのツールバーのセットにのみ適用されます。新しいツールバーを作成して、そのバーからアイコンを削除した後に、そのアイコンをリストアする場合は、「Commands」タブに移動し、「Commands」ボックスからアイコンをドラッグしてツールバーにドロップする必要があります。</p>
New	<p>新しいツールバーを作成できる「Toolbar Name」ダイアログ・ボックスを開きます。</p> <p>新しいツールバーが「Toolbars」列に表示される場合、そのアイコンを「Toolbars」タブから、デザイナの他のツールバーに関連する目的の位置にドラッグします。</p> <p>ツールバーを移入するには、「Commands」タブを開き、各アイコン（コマンドを表す）を「Commands」ボックスから新しいツールバーにドラッグします。さらにツールバーをカスタマイズするには、アイコンまたはテキストを右クリックして、ポップアップ・メニューで「Button Appearance」をクリックします。</p>
Rename	<p>ツールバーの名前を変更します。作成したツールバーの名前のみを変更できます。デザイナに付属のツールバーの名前は変更できません。</p>
Delete	<p>ツールバーを削除します。作成したツールバーのみを削除できます。デザイナに付属のツールバーは削除できません。</p>
Show text labels	<p>ツールバー・アイコンとともに説明のテキストを表示します。</p>
Help	<p>オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。</p>
Close	<p>「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>

A.1.3 「Customize」ダイアログ・ボックス：「Tools」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのツールバーとメニューがあります。それ以外に、デザイナー・アプリケーションにすぐにアクセスできるように、「Tools」メニューの外部アプリケーションにショートカットを追加できます。

図 A-3 「Tools」タブのダイアログ



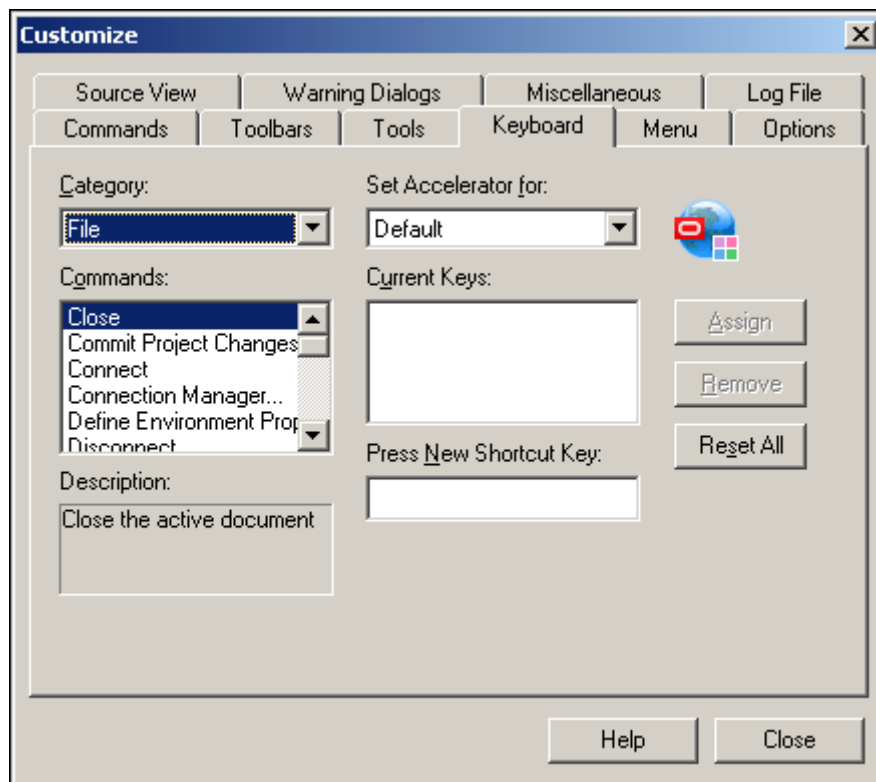
要素	説明
Menu contents	既存のメニューの名前を表示します。
	新しいメニューを作成します。ツールのプレースホルダは、「Menu contents」ペインに表示されます。
	作成したメニューを削除します。
	「Tools」メニューのアイテムを上に移動します。
	「Tools」メニューのアイテムを下に移動します。
Command	このメニューに使用される実行可能ファイル（アプリケーション）のパスを指定します。 フルパスで入力するのではなく、実行可能ファイルを参照するには「Browse」ボタンを使用します。 パスを使用せずに実行可能ファイルの名前を入力し、最初のディレクトリを使用してパスを特定することも可能です。

要素	説明
Arguments	アプリケーションに対して特定のファイルを開くように指示します。この引数では、実行可能ファイルのフルパスとファイル名（ファイルを開く際に使用）の後に該当ファイルのフルパスとファイル名が必要になります。 実行可能ファイルのパスにはフォワード・スラッシュを使用し、2つのパスの間に空白を入れる必要があります。また、パスに含まれないドキュメントは引用符で囲む必要があります。たとえば、次のようになります。 C:/Program Files/Office/winword.exe "C:¥Documents¥sa.doc"
Initial directory	実行可能ファイルが単独で「Command」フィールドに入力された場合のみの実行可能ファイルのディレクトリです。それ以外の場合は、このフィールドは空白のままです。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。
Close	「Customize」 ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.1.4 「Customize」 ダイアログ・ボックス：「Keyboard」 タブ

デザイナー・アプリケーションには多くのコマンドがあり、これらのコマンドには1つ以上のキーボード・ショートカットが割り当てられます。キーボード・ショートカットを作成、変更および削除できます。

図 A-4 「Keyboard」 タブのダイアログ

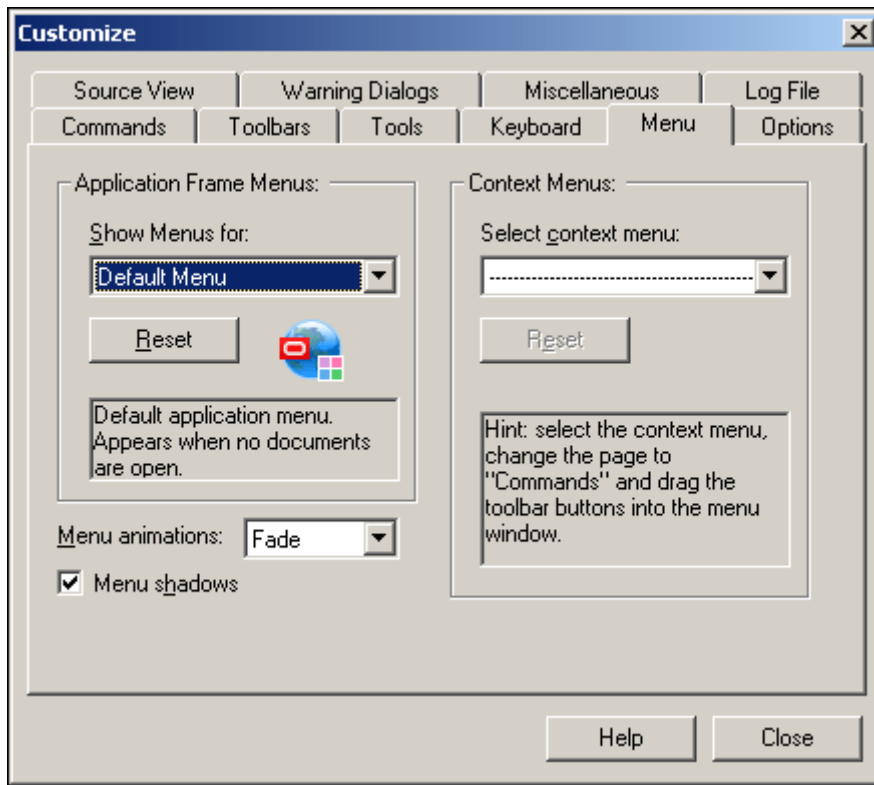


要素	説明
Category	メニューを表示します。ショートカットを割り当てるコマンドを含むメニューを選択します。
Commands	メニューで使用可能なコマンドを表示します。ショートカットを割り当てるコマンドを選択します。
Description	コマンドの説明を表示します。
Set Accelerator for	キーボード・ショートカットが使用可能なときに指定します。デザイナーでの作業中に通常キーボード・ショートカットを使用可能にする場合は、「Default」を選択します。レイアウト・ページでの作業中にのみキーボード・ショートカットを使用可能にする場合は、「Layout Page」を選択します。
Current Keys	コマンドにすでに割り当てられているキーボード・ショートカットを表示します。
Press New Shortcut Key	このテキスト・ボックスにカーソルを置き、キーボードを使用してショートカットに割り当てる実際のキーの組合せを押します。
Assign	コマンドにショートカット・キーを割り当てます。
Remove	キーボード・ショートカットを削除します。
Reset All	デザイナーを初めて起動したときに使用可能なキーボード・ショートカットをすべてリストアします。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。
Close	「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.1.5 「Customize」ダイアログ・ボックス：「Menu」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのポップアップ・メニューがあります。これらのポップアップ・メニューの動作をカスタマイズするには、そのポップアップ・メニューの機能を追加、削除および変更します。

図 A-5 「Menu」タブのダイアログ



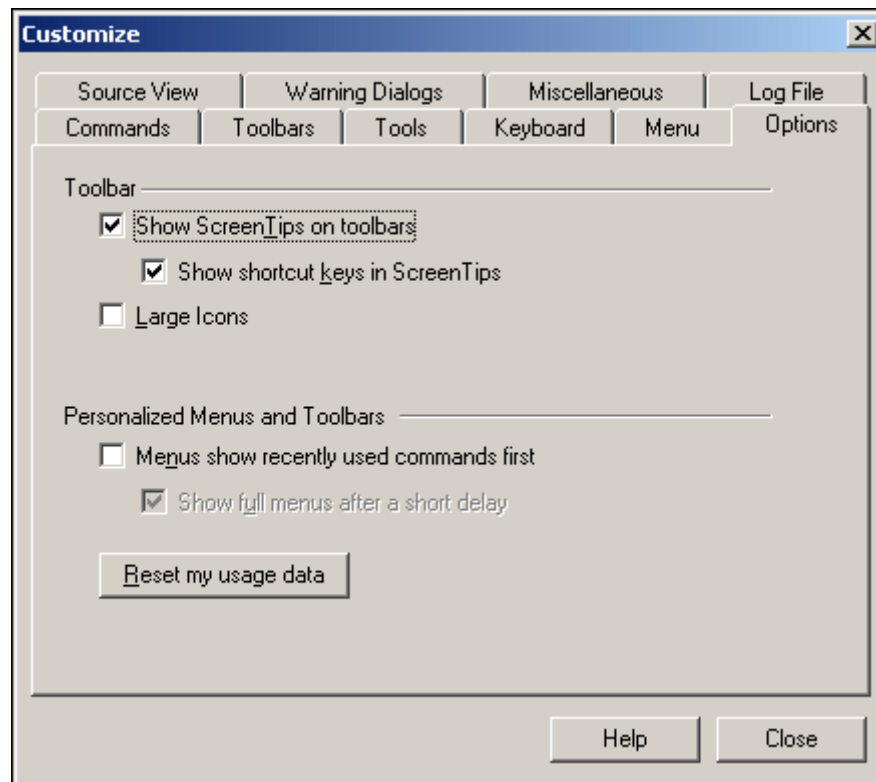
要素	説明
Show Menus for	変更するメニューを選択します。デザイナーでは「Default Menu」が使用されます。
Reset	デザイナーのメニューをリセットします。
Menu animations	メニュー・コマンド（「Menu」バーのメニューやポップアップ・メニューなど）のデザイナーでの表示状況を制御します。次の4つのオプションがあります。 None: メニュー・コマンドのリストが通常どおりに表示されます。 Unfold: メニュー・コマンドのリストが左上から右下に開きます。 Slide: メニュー・コマンドのリストが上から下に開きます。 Fade: メニュー・コマンドのリストが画面上に徐々に表示されます。
Menu shadows	メニューの周囲にシャドウ効果を表示します。

要素	説明
Select context menu	メニュー・コマンドを変更します。 この要素を選択する場合、「Customize」ダイアログ・ボックスの左上隅にポップアップ・メニューが表示されます。「Commands」タブをクリックして、「Categories」の下にある適切なメニューを選択します。 「Commands」の下で、ポップアップ・メニューに追加するコマンドを選択します。 ポップアップ・メニューにコマンドをドラッグして、そのコマンドをメニュー上の表示する場所に配置します。
Reset	「Select Context Menu」ドロップダウン・リストのコマンドをリセットします。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。
Close	「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.1.6 「Customize」ダイアログ・ボックス：「Options」タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くのメニュー、アイコンおよび画面上のヒントがあります。このタブでは、これらの機能を制御できます。

図 A-6 「Options」タブのダイアログ

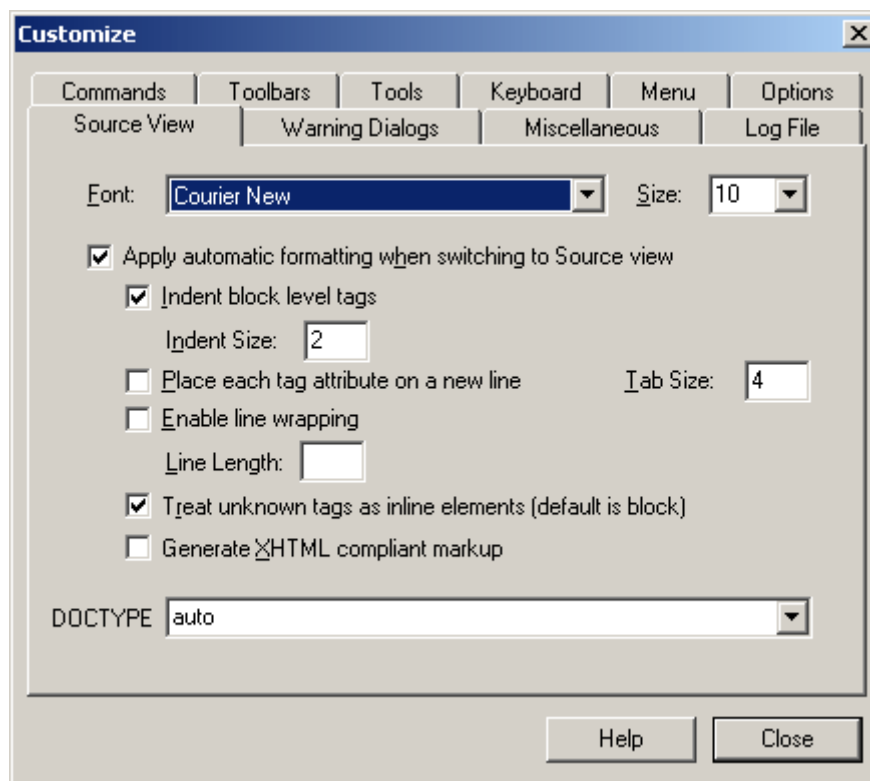


要素	説明
Show ScreenTips on toolbars	カーソルをアイコンの上に置くと、ポップアップ・テキスト（画面上のヒント）が表示されます。
Show shortcut keys in ScreenTips	カーソルをアイコンの上に置くと表示される画面上のヒントには、そのコマンドに割り当てられているショートカット・キーも表示されます。
Large Icons	ユーザー・インタフェースの大きなアイコンを表示します。
Menus show recently used commands first	コマンドが使用頻度に基づいてリストされます。
Show full menus after a short delay	わずかに遅れて、すべてのメニューを表示します。
Reset my usage data	デザイナを元の状態に戻します。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。
Close	「Customize」 ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.1.7 「Customize」 ダイアログ・ボックス：「Source View」 タブ

デザイナ・アプリケーションには、レイアウト・ページとフラグメントの3つのビュー（「Source」ビュー、「Design」ビューおよび「Preview」）が表示されます。ソース・ビューでのコードの表示方法をカスタマイズするには、書体、フォント・サイズ、特定の自動書式設定を変更します。

図 A-7 「Source View」 タブのダイアログ

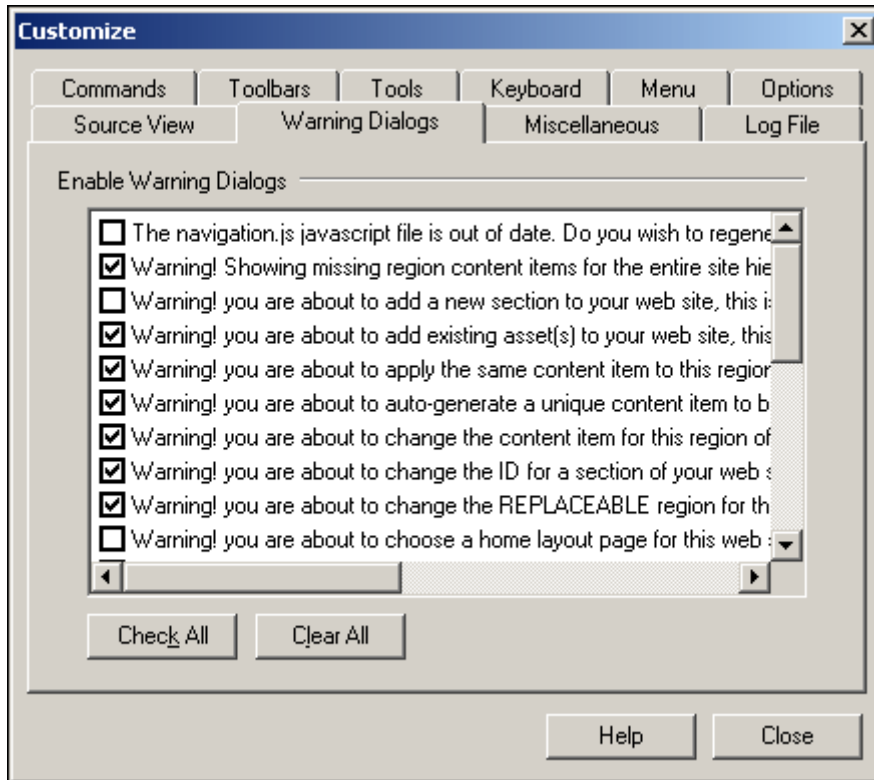


要素	説明
Font	「Source」ビューでのコードの表示に使用するフォントを（コンピュータで使用可能なフォントから）選択します。
Size	「Source」ビューでのコードの表示に使用するフォント・サイズを選択します。
「Source」ビューに切り替えるときに自動書式設定を適用します。	レイアウト・ページでの作業中に「Source」ビューに切り替えるたびに、コードは次の選択内容に応じて自動的に書式設定されます。
Indent block level tags	連続するブロックレベルのタグがインデントされ、テキストが読みやすくなります。
Indent Size	文字数を基準にインデント・サイズを設定します。
Place each tag attribute on a new line	タグの各属性が新しい行に表示されます。属性は、タグ自体と同じ程度でインデントされます。
Tab size	タブ1つ当たりの文字数を特定します。
Enable Line Wrapping	行折返しを有効にします。
Line Length	行折返しを有効にする場合の1行当たりの最大文字数を指定します。
Treat unknown tags as inline elements	HTML Tidy のアクション中に、デザイナーで検出された不明なタグが汎用のインライン要素（SPAN など）として扱われます。
Generate XHTML-compliant markup	既存の HTML を XHTML 準拠のマークアップにします。この結果、HTML の要素と XML を組み合わせ、標準対応言語が作成されます（すべての HTML タグの終了など）。
doctype	指定した doctype を Web ページの HTML のヘッダーに追加します。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。
Close	「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.1.8 「Customize」 ダイアログ・ボックス：「Warning Dialogs」 タブ

デザイナー・アプリケーションには、多くの警告メッセージと確認メッセージが表示されます。どの警告メッセージを表示するか、非表示にしておくかを制御できます。

図 A-8 「Warning Dialogs」 タブのダイアログ

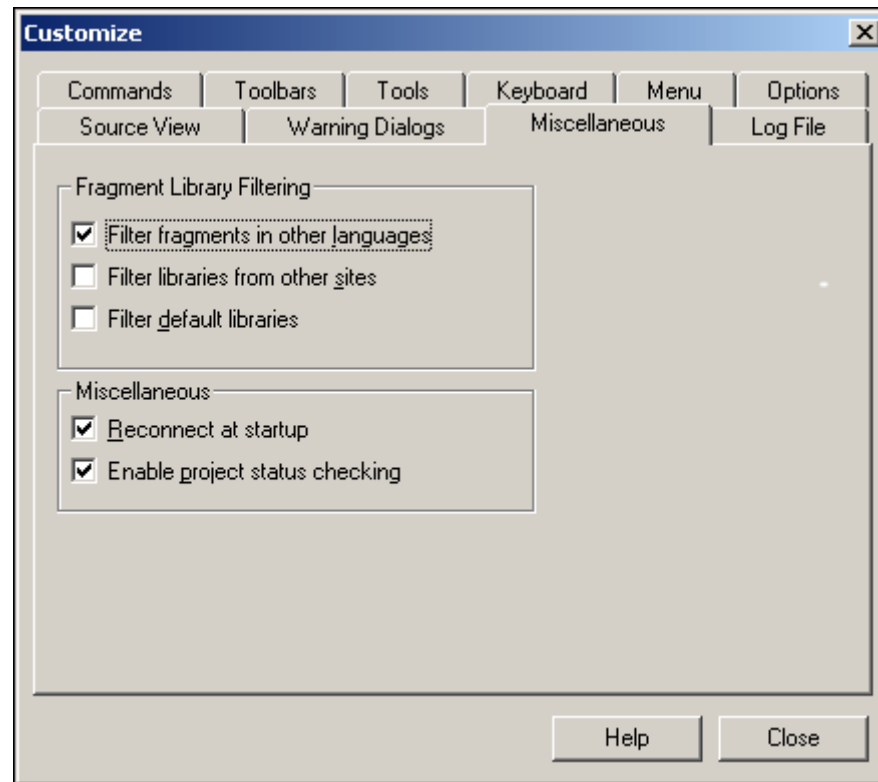


要素	説明
Enable Warning Dialogs	各警告メッセージの近くにチェック・ボックスを表示します。 警告メッセージを表示するにはチェック・ボックスを選択し、警告メッセージを非表示にするにはチェック・ボックスの選択を解除します。 デフォルトでは、デザイナーを初めて開く際に特定の警告メッセージが表示されます。
Check All	すべての警告メッセージが表示されるようにメッセージをすべて選択します。
Clear All	すべての警告メッセージが表示されないようにすべてのメッセージの選択を解除します。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナー・ガイド』) を開きます。
Close	「Customize」 ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.1.9 「Customize」ダイアログ・ボックス：「Miscellaneous」タブ

デザイナを開くと、最後に作業していたサイトに自動的に接続され、表示する特定のフラグメントがツールボックスにダウンロードされます。これらのオプションは、必要に応じて変更できます。

図 A-9 「Miscellaneous」タブのダイアログ

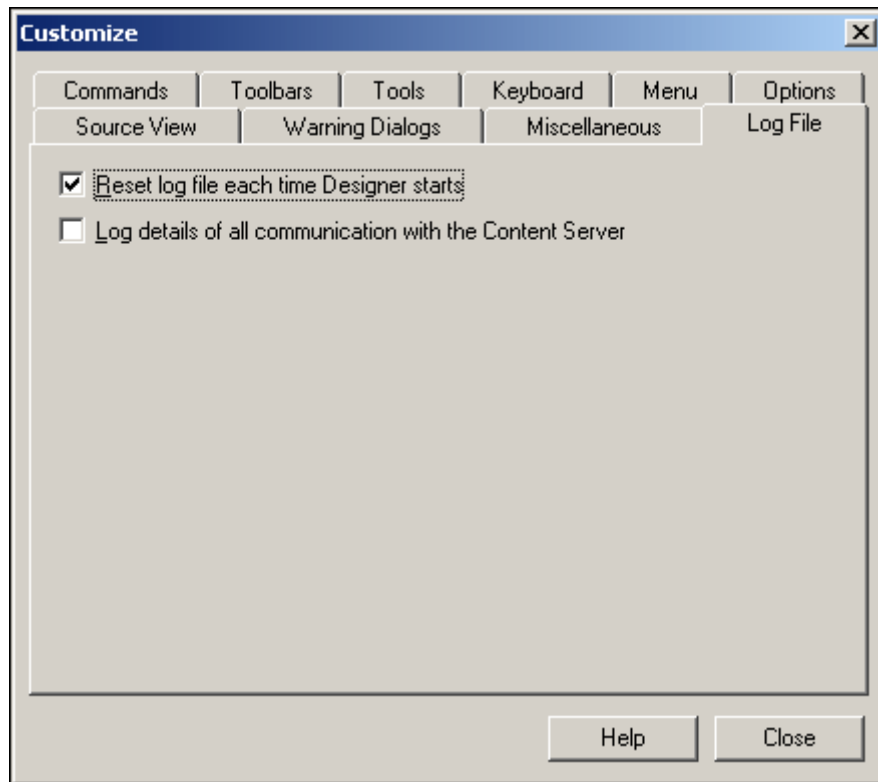


要素	説明
Filter fragments in other languages	選択すると、サイトと同じ言語で作成されたフラグメント（HCSP/JSP または ASP）のみがツールボックスに表示されます。
Filter fragments from other sites	（コンテンツ・サーバーの他のサイトではなく）使用するサイトに属するフラグメントのみがツールボックスに表示されます。 サイトの一部として識別されないフラグメント・ライブラリのフラグメントは、ツールボックスに表示されなくなります。フラグメントをサイトの一部にするには、「Fragment Libraries」カテゴリにそのフラグメントをサイト・アセットとして追加します。
Filter default libraries	（Site Studio に付属のデフォルトのフラグメントではなく）サイトに作成したフラグメントのみがツールボックスに表示されます。
Reconnect at startup	デザイナを開くと、最後に作業したサイトに自動的に接続します。
Enable project status checking	デザイナでの作業中に、プロジェクト・ステータス・アイコンが右下に表示され、サイト階層がコンテンツ・サーバーの最新のプロジェクト・ファイルと一致しているかどうかを知らせます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。
Close	「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.1.10 「Customize」ダイアログ・ボックス：「Log File」タブ

Site Studio では、サイトの詳細ログ・ファイルを作成します。このタブでは、ログの内容やログの詳細を制御できます。

図 A-10 「Log File」タブのダイアログ

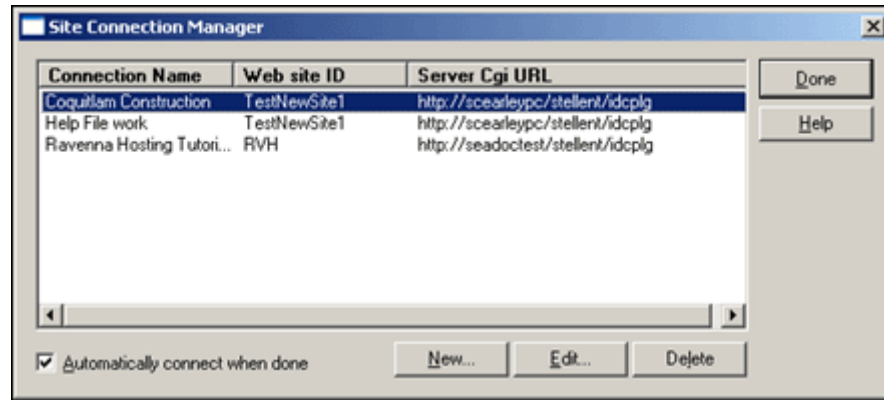


要素	説明
Reset log file each time Designer starts	デザイナを開始するたびに新しいログ・ファイルを作成します。
Log details of all communication with the Content Server	コンテンツ・サーバーとのすべてのやり取りの詳細ログを作成します。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。
Close	「Customize」ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.2 「Site Connection Manager」 ダイアログ・ボックス

デザイナーでは、コンテンツ・サーバーの Web サイトに接続するサイト接続を使用して、その Web サイトを更新します。このダイアログ・ボックスでは、サイト接続を作成、編集および削除できます。

図 A-11 「Site Connection Manager」 ダイアログ



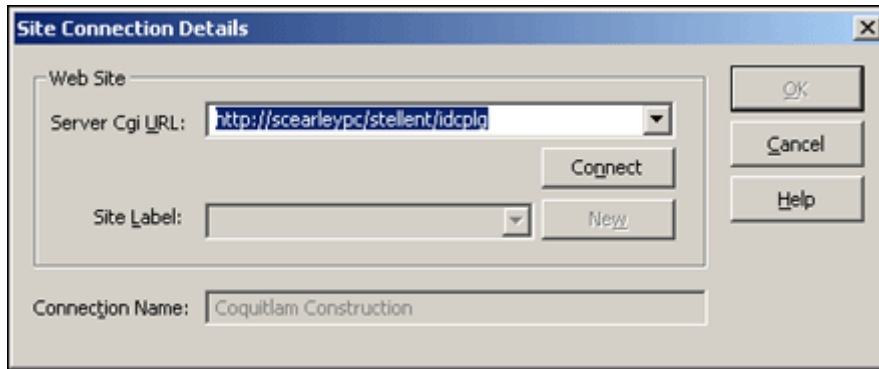
要素	説明
Connection Name Web site ID Server Cgi URL (ステータス領域)	各接続名、対応する Web サイト、およびコンテンツ・サーバーの Cgi の URL を表示します。
Automatically connect when done	「Site Connection Manager」 ダイアログ・ボックスを閉じると、(作成したサイト接続を使用して) サイトに自動的に接続します。
New	「Site Connection Details」 ダイアログ・ボックス (A-18 ページの「 Site Connection Details 」 ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、新しいサイト接続を作成できます。
Edit	「Site Connection Details」 ダイアログ・ボックス (A-18 ページの「 Site Connection Details 」 ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、既存のサイト接続を編集できます。
Delete	既存のサイト接続を削除します。
Done	「Site Connection Manager」 ダイアログ・ボックスを閉じ、(「Automatically connect when done」を選択した場合は) ハイライト表示されたサイト接続を使用して Web サイトに接続します。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

「Site Connection Manager」で Web サイトを編集または削除するには、最初にそのサイトへの接続を解除する必要があります。

A.3 「Site Connection Details」 ダイアログ・ボックス

デザイナーでは、コンテンツ・サーバーの Web サイトに接続するサイト接続を使用して、その Web サイトを更新します。このダイアログ・ボックスでは、サイト接続を作成および編集できます。新しいサイト接続を作成する場合、サイトが存在するコンテンツ・サーバー、実際の Web サイトの名前、および接続名を特定します。

図 A-12 「Site Connection Details」 ダイアログ

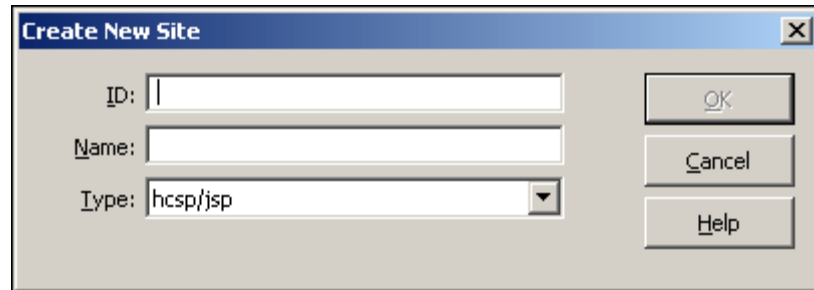


要素	説明
Server Cgi URL	Web サイトをホストするコンテンツ・サーバーのアドレス。 コンテンツ・サーバーの Cgi の完全な URL アドレスを入力できます。または、メニューのいずれかのプレースホルダ・アドレスを選択して、<server> を各自のサーバー名に置き換えます。
Connect	前述で指定した Cgi の URL アドレスを使用してコンテンツ・サーバーに接続します。 サーバーに接続する際にログイン資格証明の入力が求められます。
Site Label	サーバーの既存の Web サイトを表示します。既存のサイトを選択するか、または「New」をクリックして新しいサイトを作成します。
New	「Create New Site」ダイアログ・ボックス (A-19 ページの「 Create New Site 」ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、新しい Web サイトを作成できます。
Connection Name	デザイナーに表示される名前で、このサイト接続を特定します。 用意されているデフォルト名を使用するか、または新しい名前を入力できます。
OK	設定を保存して、「Site Connection Details」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Site Connection Details」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナー・ガイド』) を開きます。

A.4 「Create New Site」ダイアログ・ボックス

デザイナーでは、コンテンツ・サーバーの Web サイトに接続するサイト接続を使用して、その Web サイトを更新します。このダイアログ・ボックスでは新しい Web サイトを作成できます（「Site Connection Details」ダイアログ・ボックス（A-18 ページの「[Site Connection Details](#) ダイアログ・ボックス」を参照）からアクセスできます）。新しいサイトを作成する場合、サイト ID、名前およびタイプを指定します。

図 A-13 「Create New Site」ダイアログ

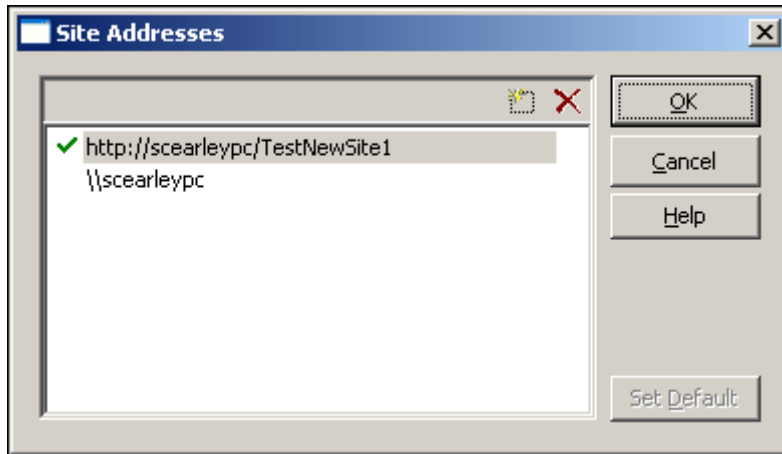


要素	説明
ID	<p>Web サイトの ID。この ID を使用して、このサイトとそれに関連するコンテンツ・サーバーのファイルを一意に特定します（コンテンツ ID と混同しないでください）。</p> <p>有効な文字のみを使用してください（空白、記号などは不可）。このダイアログ・ボックスでは、値の入力時に有効な文字の使用が強制されます。また、値は比較的短くなるようにします。</p> <p>siteid フラグメント・パラメータまたは CSP を操作する際にこの ID が再表示されます。</p>
Name	<p>Web サイトの名前。</p> <p>使用する名前は、コンテンツ・サーバーのプロジェクト・ファイルのタイトルになります。これは、コンテンツ・サーバーの「Web Sites」メニューにサイトのタイトルとして表示されます。（この値がレイアウト・ページの TITLE タグに影響を与えることはありません。）</p>
Type	<p>Web サイトのタイプ（スクリプトの選択）。</p> <p>hjsp/jsp: Idoc スクリプトまたは JavaServer Pages 対応 Web サイトを作成します。これにより、Site Studio での他の選択内容が決まります。</p> <p>asp: Active Server Pages 対応 Web サイトを作成します。これにより、Site Studio での他の選択内容が決まります。</p>
OK	<p>設定を保存して、「Create New Site」ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>
Cancel	<p>設定をキャンセルして、「Create New Site」ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>

A.5 「Site Addresses」 ダイアログ・ボックス

ドメインベースのアドレスまたはフォルダベースのアドレスを使用して、サイトを開くことができます。このダイアログ・ボックスでは、Web サイトを指し示す1つ以上のドメイン名を追加できます（詳細は、次の注意を参照）。

図 A-14 「Site Addresses」 ダイアログ



要素	説明
	Web サイトに解決する新しいドメイン名を追加するには、このオプションをクリックします。 (これをクリックするとテキスト・ボックスが表示され、このボックスでアドレスを入力した後、 [Enter] を押します。)
	選択したサイト・アドレスを削除します。
Set Default	選択したアドレスをデフォルトのアドレスとして設定します。 デフォルトのアドレスは、 Site Studio の様々な場面で使用されます。たとえば、デザイナの接続、サイトのプレビュー、コントリビューション・リージョンへのコンテンツの割当てなどに使用されます。
OK	設定を保存して、「Site Address」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Site Address」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

ドメイン名アドレスが機能するには、ネーム・サーバーでドメイン名 (DNS レコード) を適切に構成する必要があります。

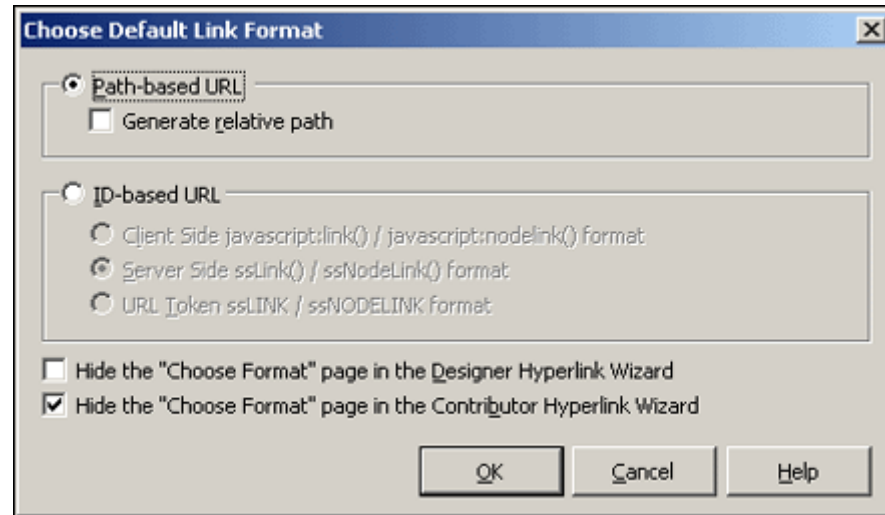
このダイアログ・ボックスを初めて開いたときに表示されるデフォルトのフォルダ・アドレスは、サイトを初めて作成したときに **Site Studio** で使用されるフォルダ・アドレスです。

「Manage Web Site Addresses」 ページ (A-98 ページの「[「Manage Web Site Addresses」 ページ](#)」を参照) を使用して、サイト・アドレスを指定することもできます。このページは、「Site Studio Administration」 ページから使用可能です。

A.6 「Choose Default Link Format」ダイアログ・ボックス

デザイナーやコントリビュータでハイパーリンクを作成する場合、リンクの形式に関する多くの選択肢があります。このダイアログ・ボックスでは、設計者やコントリビュータが使用するデフォルトのリンク形式を選択できます。また、このオプションが Create Hyperlink Wizard に表示されないように非表示にすることができます。

図 A-15 「Choose Default Link Format」ダイアログ



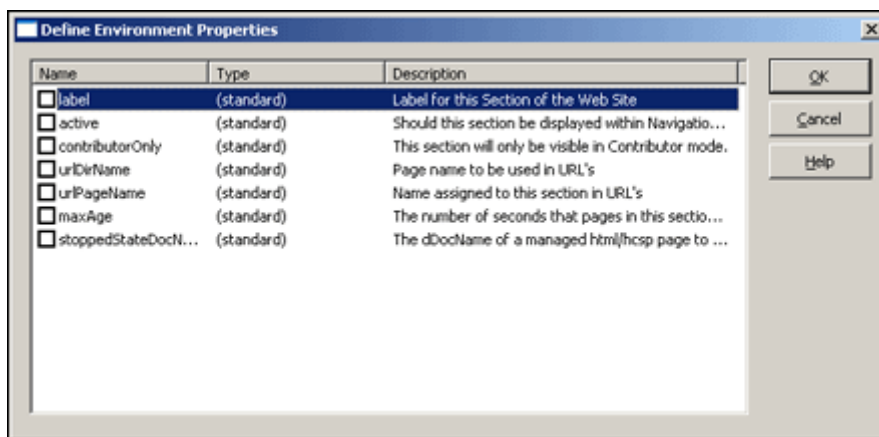
要素	説明
Path-based URL	<p>ターゲット・セクションまたはファイルのフルパスが含まれます。たとえば、次のようになります。</p> <pre><!--\$ssServerRelativeSiteRoot-->products/index.htm</pre> <p>(<code><!--\$ssServerRelativeSiteRoot--></code> は、Web サイトのルートのパスに置き換えられます。)</p> <p>Generate relative path: フルパスではなく相対パスを使用します。たとえば、次のようになります。</p> <pre>../products/index.htm</pre>
ID-based URL	<p>セクション名やラベルを参照せずに、ターゲットの場所のハードコードされた ID が含まれます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>Client Side javascript:link() / javascript:nodelink() format: クライアント側の JavaScript およびターゲットの場所の ID を使用します。</p> <p>Server Side ssLink() / ssNodeLink() format: サーバー側の Idoc スクリプトおよびターゲットの場所の ID を使用します。</p> <p>URL Token ssLINK / ssNODELINK format: Site Studio トークンおよびターゲットの場所の ID を使用します。</p>
Hide the "Choose Format" page in the Designer Hyperlink Wizard	<p>設計者用の Create Hyperlink Wizard で「Create Hyperlink Wizard - Choose Format」画面 (A-38 ページの「Create Hyperlink Wizard - Choose Format」を参照) が表示されないようにします。</p>
Hide the "Choose Format" page in the Contributor Hyperlink Wizard	<p>コントリビュータ用の Create Hyperlink Wizard で「Create Hyperlink Wizard - Choose Format」画面 (A-38 ページの「Create Hyperlink Wizard - Choose Format」を参照) が表示されないようにします。</p>
OK	<p>設定を保存して、「Choose Default Link Format」ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>

要素	説明
Cancel	設定をキャンセルして、「Choose Default Link Format」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.7 「Define Environment Properties」 ダイアログ・ボックス

Web サイトをレプリケートする場合、サイトのプロパティも、サーバーから次のサーバーにレプリケートされます。このダイアログ・ボックスでは、レプリケートされずに、ソース・サーバーに残るプロパティを指定できます。この設定を環境プロパティと言います。

図 A-16 「Define Environment Properties」 ダイアログ

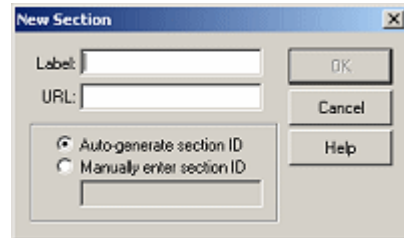


要素	説明
Name	プロパティの名前。 環境プロパティにする名前そばにあるボックスを選択します。
Type	プロパティのタイプ。
Description	プロパティの説明。
OK	設定を保存して、「Environment Properties」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Environment Properties」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.8 「New Section」 ダイアログ・ボックス

サイト階層の各セクションには、ラベル、URL のディレクトリ名、およびセクション ID があります。これらの値は、サイト全体で繰り返し使用されます。セクションを初めて作成するときにこれらの値を選択でき、セクションを作成した後に（「Site Hierarchy」ペインと「Properties」ペインを使用して）値を編集できます。

図 A-17 「New Section」 ダイアログ・ボックス

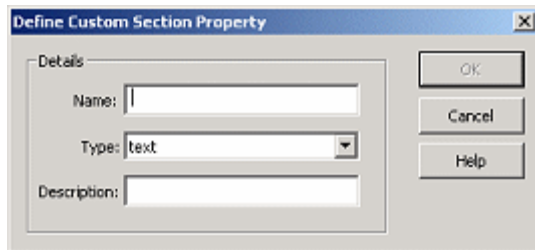


要素	説明
Label	セクション・ラベルは、Web サイトの「Site Hierarchy」ペインとナビゲーション・メニュー（ナビゲーション・フラグメントで生成）に表示されます。
URL	URL は Web ブラウザのアドレス・バーで使用され、セクションをターゲットとするすべての（パスベースの）ハイパーリンクに表示されます。この値では、空白や特殊文字は使用しないでください。Web サイトでリンクの問題が発生する可能性があります。 Site Studio では、「Label」と入力すると不正な文字が自動的にストリッピングされます。
Auto-generate section ID	セクションをターゲットとする特定の（ID ベースの）ハイパーリンクで使用されるセクション ID（nodeID と呼ばれる）を自動的に生成します。
Manually enter section ID	セクション ID（nodeID と呼ばれる）を自分で入力できます。この値は、セクションをターゲットとする特定の（ID ベースの）ハイパーリンクで使用されます。
OK	設定を保存して、「New Section」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「New Section」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

A.9 「Define Custom Section Properties」 ダイアログ・ボックス

サイト階層の各セクションには、プロパティ (ID、ラベル、割り当てられたレイアウト・ページなど) があります。この他に、カスタム・プロパティを作成し、Web サイトを変更してその値を読み取り、特定の機能を実行できます。ここでは、サイトに追加するカスタム・セクション・プロパティを示します。このダイアログ・ボックスを使用して、カスタム・セクション・プロパティの編集や削除を常時行うことができます。

図 A-18 「Define Custom Section Properties」 ダイアログ

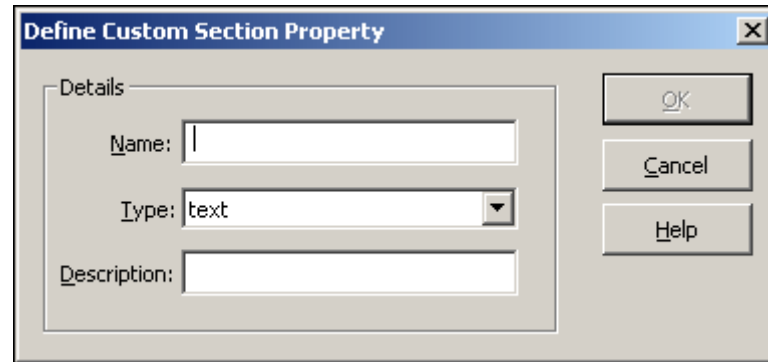


要素	説明
Name Type Description (表示領域)	既存のカスタム・セクション・プロパティを表示します。
Add	「Define Custom Section Property」 ダイアログ・ボックス (A-25 ページの「 Define Custom Section Property 」ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、新しいカスタム・セクション・プロパティを追加できます。
Delete	カスタム・セクション・プロパティを削除します。
Edit	「Define Custom Section Property」 ダイアログ・ボックス (A-25 ページの「 Define Custom Section Property 」ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、カスタム・セクション・プロパティを編集できます。
OK	設定を保存して、「Define Custom Section Properties」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Define Custom Section Properties」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.10 「Define Custom Section Property」ダイアログ・ボックス

サイト階層の各セクションには、プロパティ（ID、ラベル、割り当てられたレイアウト・ページなど）があります。この他に、カスタム・プロパティを作成し、Web サイトを変更してその値を読み取り、特定の機能を実行できます。このダイアログ・ボックスを使用して、カスタム・セクション・プロパティの追加と編集を行うことができます。

図 A-19 「Define Custom Section Property」ダイアログ



要素	説明
Name	カスタム・セクション・プロパティの名前。「Site Hierarchy」ペインでセクションを選択すると、この名前が「Properties」ペインに表示されます。
Type	このプロパティに対して行われるアクションのタイプ（フラグメント・パラメータの機能と似ています）。 text: テキストの追加に使用できる単純なテキスト・ボックスを表示します。 bigtext: テキストを追加および編集できる大きめのテキスト・ボックス（ポップアップ・ウィンドウ）を表示します。 boolean: 選択可能な値として「True」または「False」を表示します。 integer: 整数値を表示します。整数値では小数点は使用できません。 float: 小数点を含む値を表示します。 size: サイズの値をピクセルまたはパーセンテージで表示します。 color: RGB の 16 進数値（0xFF0000 など）とカラー・ピッカーを表示します。 url: URL を参照してその URL を値として選択するダイアログ・ボックス（A-36 ページの「Create Hyperlink Wizard - 「Choose Type」」を参照）を表示します。 manageddoc: コンテンツ・サーバーのドキュメントを参照し、そのドキュメントを値（dDocName）として選択するコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。 managedurl: コンテンツ・サーバーのドキュメントの URL を参照し、その URL を値として選択するコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。 managedquery: 問合せを作成できる「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス（A-48 ページの「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス」を参照）を開きます。 cssstyle: CSS スタイルの値を指定できるテキスト・ボックスを表示します。 siteid: コンテンツ・サーバーの Web サイトを選択するダイアログ・ボックス（A-34 ページの「Select Site」ダイアログ・ボックス」を参照）を表示します。 nodeid: サイト階層のセクションを選択するダイアログ・ボックス（A-35 ページの「Select Section」ダイアログ・ボックス」を参照）を開きます。
Description	「Properties」ペインの下部にプロパティの説明を表示するオプションの設定。

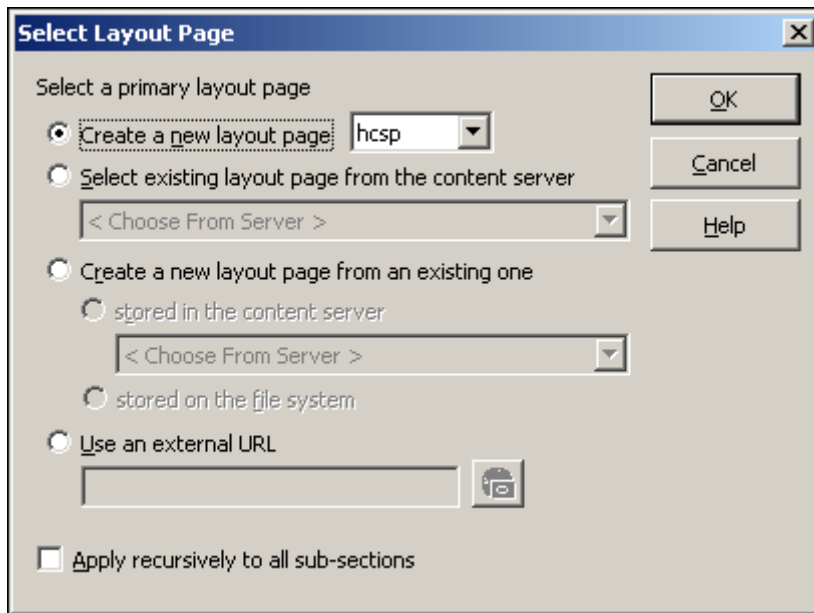
要素	説明
OK	カスタム・セクション・プロパティを追加して、「Define Custom Section Property」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Define Custom Section Property」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

カスタム・セクション・プロパティを追加した後、サイト階層を経由して各セクションの値を入力する必要があります。その後、レイアウト・ページまたはフラグメントを変更してカスタム・プロパティを読み取り、結果として特定の機能を実行する必要があります。

A.11 「Select (Home) Layout Page」 ダイアログ・ボックス

ホームページとプライマリ・ページは似ています。違いは、ホームページには Web サイトのいずれかのセクションではなくそのルートが関連付けられている点です。ホームページは、ビジターがサイトを訪問する際のデフォルト (ランディング) のページになります。このダイアログ・ボックスを使用して、ホームページを追加できます。

図 A-20 「Select Layout Page」 ダイアログ

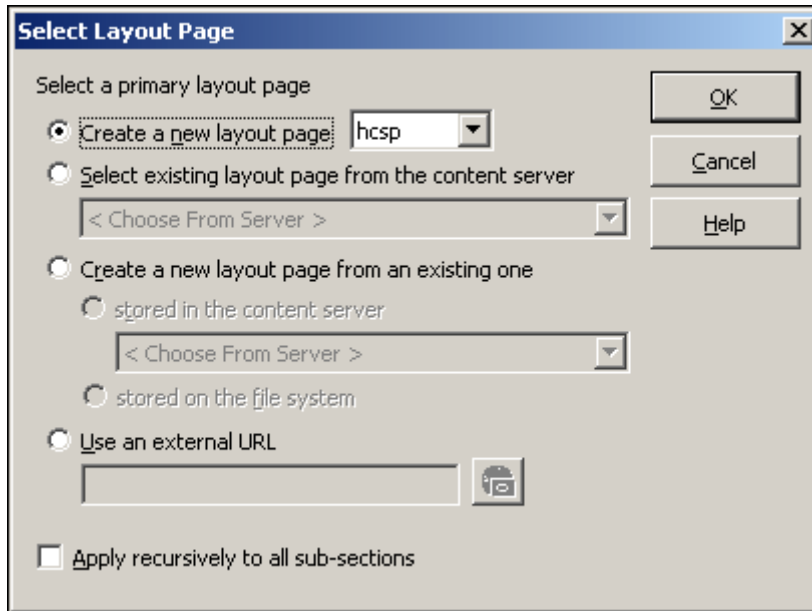


要素	説明
Create a new layout page	次に指定するファイル拡張子で新しいホームページを作成します。 hcsp: Idoc スクリプトの Web サイトに使用します。 jsp: JSP の Web サイトに使用します。 asp: ASP の Web サイトに使用します。 注意: 使用可能なファイル拡張子は、「Site Connection Details」ダイアログ・ボックス (A-18 ページの「 Site Connection Details 」ダイアログ・ボックス) を参照) で作成したサイトのタイプによって決まります。
Select existing layout page from the content server	Web サイトに (コンテンツ・サーバーの) 既存のレイアウト・ページを追加して、そのページをホームページにします。レイアウト・ページが最近作成したページの場合は、メニューから選択できます。最近作成したページではない場合は、このダイアログ・ボックスを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してページを参照します。
Create a new layout page from an existing one	既存のレイアウト・ページのコピーを作成して Web サイトに追加し、そのページをホームページにします。この場合、最初から設計を再作成するのではなく、別のレイアウト・ページから設計を継承するため時間を節約できます。 この作成元のレイアウト・ページは、次の 2 つのソースのいずれかを元としています。 stored in the content server: コンテンツ・サーバーに保存されているレイアウト・ページを選択します。レイアウト・ページが最近作成したページの場合は、メニューから選択できます。最近作成したページではない場合は、このダイアログ・ボックスを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してページを参照します。 stored on the file system: ファイル・システムに保存されているレイアウト・ページを選択します。このオプションは、(サード・パーティ製エディタを使用して) ファイル・システム上のレイアウト・ページを作成し、レイアウト・ページにその設計を使用する場合は特に便利です。ただし、ファイルの拡張子は hcsp、jsp または asp である必要があります。
Use an external URL	このオプションは、プライマリ・ページ (A-28 ページの「 Select (Primary) Layout Page 」ダイアログ・ボックス) を参照) にのみ適用されます。
Apply recursively to all subsections	サイト階層のこのセクションの下にあるすべてのセクションに同じレイアウト・ページを適用します。 これは、サイト階層の各セクションを開いて、レイアウト・ページを追加し、「Select existing layout page from the content server」を選択する場合と同じアクションになります。
OK	「Select Layout Page」ダイアログ・ボックスを閉じて、レイアウト・ページと、サイト階層のルートに関連付けます。
Cancel	レイアウト・ページと、サイト階層のルートに関連付けずに「Select Layout Page」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.12 「Select (Primary) Layout Page」 ダイアログ・ボックス

サイト階層の各セクションには、そのセクションのデフォルト（ランディング）のページとして機能するプライマリ・ページを含める必要があります。サイト階層の各セクションの新しいプライマリ・ページを作成したり、サイト階層全体で同じプライマリ・ページを再利用したりすることができます。このダイアログ・ボックスでプライマリ・ページを追加できます。

図 A-21 「Select Layout Page」 ダイアログ



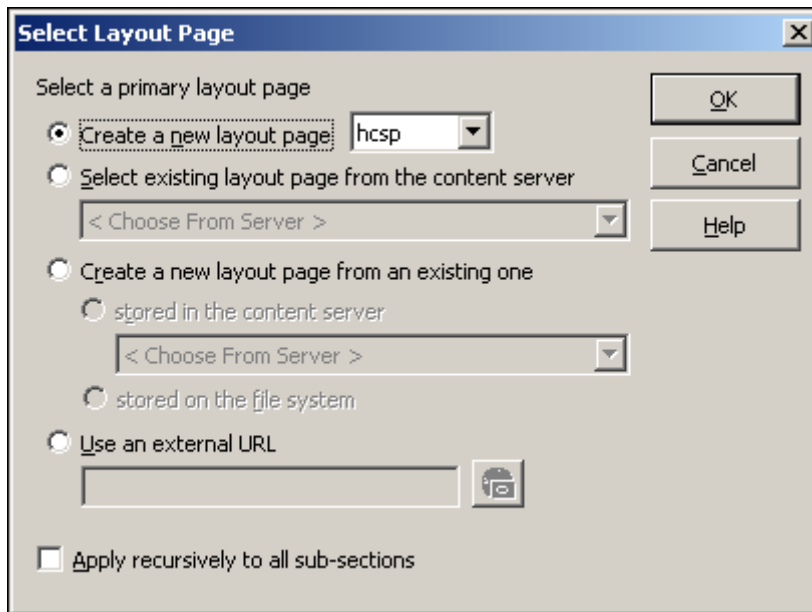
要素	説明
Create a new layout page	次に指定するファイル拡張子を使用して、サイトのこのセクションの新しいプライマリ・ページを作成します。 hjsp: Idoc スクリプトの Web サイトに使用します。 jsp: JSP の Web サイトに使用します。 asp: ASP の Web サイトに使用します。 注意: 使用可能なファイル拡張子は、作成したサイトのタイプによって決まります (A-18 ページの「 Site Connection Details 」ダイアログ・ボックスを参照)。
Select existing layout page from the content server	Web サイトにコンテンツ・サーバーの既存のレイアウト・ページを追加して、そのページをこのセクションのプライマリ・ページにします。レイアウト・ページが最近作成したページの場合は、メニューから選択できます。最近作成したページではない場合は、このダイアログ・ボックスを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してページを参照します。

要素	説明
Create a new layout page from an existing one	<p>既存のレイアウト・ページのコピーを作成して Web サイトに追加し、そのページをこのセクションのプライマリ・ページにします。この場合、最初から設計を再作成するのではなく、別のレイアウト・ページから設計を継承するため時間を節約できます。</p> <p>新しいページの作成に使用するレイアウト・ページは、次の 2 つのソースのいずれかを元にしています。</p> <p>stored in the content server: コンテンツ・サーバーに保存されているレイアウト・ページが使用されます。レイアウト・ページが最近作成したページの場合は、メニューから選択できます。最近作成したページではない場合は、このダイアログ・ボックスを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してページを参照します。</p> <p>stored on the file system: ファイル・システムに保存されているレイアウト・ページが使用されます。このオプションは、(サード・パーティ製エディタを使用して) ファイル・システム上のレイアウト・ページを作成し、レイアウト・ページにその設計を使用する場合は特に便利です。ファイルの拡張子は hcsp、jsp または asp である必要があります。</p>
Use an external URL	レイアウト・ページではなく、別の Web サイト (パートナ・サイトまたは部署レベルのサイト) の Web ページを使用します。ビジターがこのセクションに移動すると、ここで指定した URL に誘導されます。
Apply recursively to all subsections	このセクションの下にあるすべてのセクションに同じレイアウト・ページを適用します。これは、サイト階層のこのセクションの下にある各セクションを開いて、レイアウト・ページを追加し、「Select existing layout page from the content server」を選択する場合と同じアクションになります。
OK	「Select Layout Page」ダイアログ・ボックスを閉じて、プライマリ・ページと、サイト階層のこのセクションを関連付けます。
Cancel	プライマリ・ページと、サイト階層のこのセクションを関連付けずに「Select Layout Page」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.13 「Select (Secondary) Layout Page」 ダイアログ・ボックス

セカンダリ・ページは、コントリビュータがサイトに追加した新規のファイル（データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の背景として機能します。そのため、Web サイトへのファイルの追加をコントリビュータに許可した場合のみセカンダリ・ページが必要になります。セカンダリ・ページは、サイトのルートおよびサイトのセクションに追加できます。さらに、新しいセカンダリ・ページを作成したり、別のセクションからセカンダリ・ページを再利用したりすることができます。このダイアログ・ボックスでセカンダリ・ページを追加します。

図 A-22 「Select Layout Page」 ダイアログ



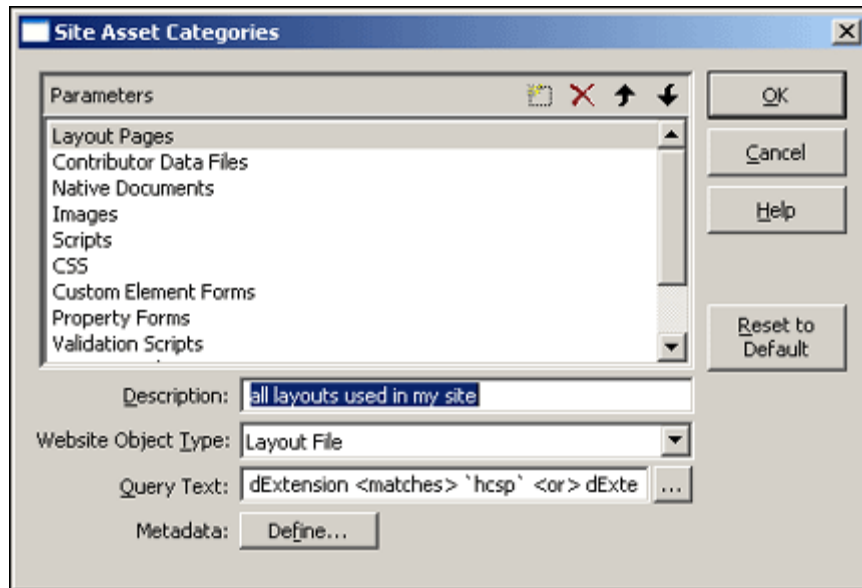
要素	説明
Create a new layout page	次に指定するファイル拡張子を使用して、サイトのこのセクションの新しいセカンダリ・ページを作成します。 hcsp: Idoc スクリプトの Web サイトに使用します。 jsp: JSP の Web サイトに使用します。 asp: ASP の Web サイトに使用します。 注意: 使用可能なファイル拡張子は、作成したサイトのタイプによって決まります (A-18 ページの「 Site Connection Details 」ダイアログ・ボックスを参照)。
Select existing layout page from the content server	Web サイトにコンテンツ・サーバーの既存のレイアウト・ページを追加して、そのページをこのセクションのセカンダリ・ページにします。レイアウト・ページが最近作成したページの場合は、メニューから選択できます。最近作成したページではない場合は、このダイアログ・ボックスを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してページを参照します。

要素	説明
Create a new layout page from an existing one	<p>既存のレイアウト・ページのコピーを作成して Web サイトに追加し、そのページをこのセクションのセカンダリ・ページにします。この場合、最初から設計を再作成するのではなく、別のレイアウト・ページから設計を継承するため時間を節約できます。</p> <p>新しいページの作成に使用するレイアウト・ページは、次の 2 つのソースのいずれかを元としています。</p> <p>stored in the content server: コンテンツ・サーバーに保存されているレイアウト・ページが使用されます。レイアウト・ページが最近作成したページの場合は、メニューから選択できます。最近作成したページではない場合は、このダイアログ・ボックスを終了し、コンテンツ・サーバーで「<Choose From Server>」を選択してページを参照します。</p> <p>stored on the file system: ファイル・システムに保存されているレイアウト・ページが使用されます。このオプションは、(サード・パーティ製エディタを使用して) ファイル・システム上のレイアウト・ページを作成し、レイアウト・ページにその設計を使用する場合は特に便利です。ファイルの拡張子は hcsp、jsp または asp である必要があります。</p>
Use an external URL	このオプションは、プライマリ・ページ (A-28 ページの「「Select (Primary) Layout Page」ダイアログ・ボックス」を参照) にのみ適用されます。
Apply recursively to all subsections	このセクションの下にあるすべてのセクションに同じレイアウト・ページを適用します。これは、サイト階層のこのセクションの下にある各セクションを開いて、レイアウト・ページを追加し、「Select existing layout page from the content server」を選択する場合と同じアクションになります。
OK	「Select Layout Page」ダイアログ・ボックスを閉じて、セカンダリ・ページと、サイト階層のこのセクションを関連付けます。
Cancel	セカンダリ・ページと、サイト階層のこのセクションを関連付けずに「Select Layout Page」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイン・ガイド』) を開きます。

A.14 「Site Asset Categories」 ダイアログ・ボックス

「Site Asset Categories」 ダイアログ・ボックスを使用して、デザイナーでカテゴリをカスタマイズしたり、新しいカテゴリを「Site Assets」 ペインに追加したりします。

図 A-23 「Site Asset Categories」 ダイアログ



要素	説明
	新しいカテゴリを作成します。(テキスト・ボックスが表示され、このボックスでカテゴリを入力した後、キーボードの [Enter] を押します。)
	既存のカテゴリを削除します。(そのカテゴリ内の既存のファイルはコンテンツ・サーバーから削除されません。)
	リストの選択したカテゴリを上に移動します。
	リストの選択したカテゴリを下に移動します。
Description	アセット・カテゴリを説明します。
Website Object Type	アセットの Web サイト・オブジェクト・タイプを示します。
Query Text	<p>コンテンツ・サーバーで実行される問合せ。このカテゴリに属するアセットを表示します。</p> <p>通常、問合せによって (前述の) 適切なタイプが含まれるアセットがすべて取得されますが、この値を使用して、このカテゴリに表示されるアセットをさらにカスタマイズできます。</p> <p>「Additional Information」 ボタンにより、「Edit Query Text」 ダイアログ・ボックス (A-48 ページの「「Edit Query Text」 ダイアログ・ボックス」を参照) が開き、このボックスでカスタム問合せの指定、テキストおよび取得を行います。</p>
Metadata	<p>クリックして「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス (A-33 ページの「「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス」を参照) を開きます。このボックスでは、「Site Assets」 ペインを使用して新しいアセットを追加する際の特定のメタデータを使用可能にすることができます。</p>
OK	設定を保存して、「Site Asset Categories」 ダイアログ・ボックスを閉じます。

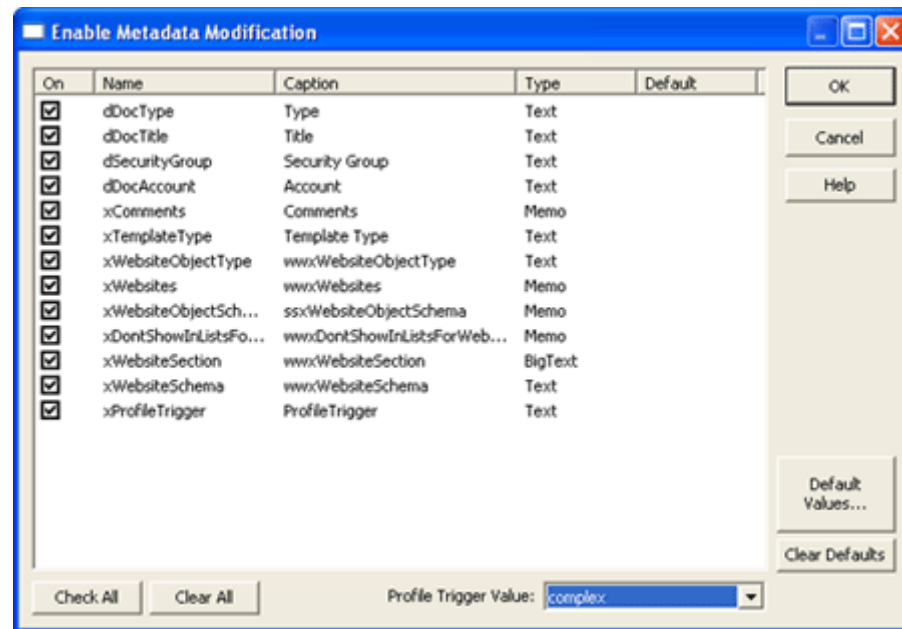
要素	説明
Cancel	設定をキャンセルして、「Site Asset Categories」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナー・ガイド』) を開きます。
Reset to Default	デフォルトの「Site Asset」カテゴリをリセットします (作成した新しいカテゴリを削除します)。

サイト・アセットを「Site Assets」ペインに表示するには、コンテンツ・サーバーで適切な「Websites」メタデータと「Website Object Type」メタデータをそのサイト・アセットに割り当てる必要があります。

A.15 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス

「Site Asset Categories」ダイアログ・ボックスでは、「Site Assets」ペインを使用して新しいアセットを追加するときに使用可能なメタデータを指定できます。また、新しい各アセットに割り当てられるデフォルトのメタデータも指定できます。

図 A-24 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ



要素	説明
On Name Caption Type Default (表示領域)	<p>コンテンツ・サーバーの各メタデータ値のチェック・ボックスを表示します。</p> <p>コントリビュータ・データ・ファイルを保存するときに各メタデータの値の変更をコントリビュータに許可するには、その値のそばにあるボックスを選択します。または、コントリビュータがそのメタデータの値を変更できないようにする場合は、そのチェック・ボックスの選択を解除します。</p> <p>「Default」列には、デフォルトで割り当てられるメタデータの値が表示されます (次の「Default Values」ボタンを参照)。</p>
Check All	メタデータの値をすべて選択して、「Site Assets」ペインでファイルを追加するときにそれらの値がすべて使用できるようにします。

要素	説明
Clear All	すべてのメタデータの値の選択を解除して、「Site Assets」 ペインでファイルを追加するときにそれらの値をすべて変更できないようにします。
OK	設定を保存して、「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。
Default Values...	(コンテンツ・サーバーで) 「Assign Info Form」を開きます。ここでは、「Site Assets」 ペインで追加した新しいサイト・アセットに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定します。これは、「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックスでいずれかのメタデータの値を無効にした場合は特に重要です。
Clear Defaults	デフォルトのメタデータ値の選択を解除します。
Profile Trigger Value	Content Server 上のプロファイルを入力して、選択したプロファイルの設定を有効にするボックスを表示します。このフィールドは、プロファイルが Content Server で有効な場合のみ表示されます。

A.16 「Select Site」 ダイアログ・ボックス

コンテンツの一部が表示される、コンテンツ・サーバーの Web サイト (ターゲットの場所とも呼ばれる) を指定する必要がある場合にこのダイアログ・ボックスを使用します。たとえば、siteid タイプのフラグメント・パラメータやカスタム・セクション・プロパティ内などの場所になります。

要素	説明
Site Label Site ID Site Type	コンテンツ・サーバーの使用可能な Web サイトを表示します。 使用する Web サイトを選択します。
OK	設定を保存して、「Select Site」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Select Site」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.17 「Select Section」ダイアログ・ボックス

コンテンツの一部が表示される場所を特定する場合（nodeid タイプのフラグメント・パラメータの値の指定する場合など）、ターゲットの場所として Web サイト上のセクションを選択する必要があります。このダイアログ・ボックスでセクションを選択できます。

要素	説明
Site Hierarchy	サイト階層の使用可能なセクションを表示します。 セクションをクリックして値として使用します。
Section ID	セクションのノード ID。(前述の) サイト階層ウィンドウでセクションを選択すると、値が自動的に挿入されます。 値を手動で入力することもできます。
OK	設定を保存して、「Select Section」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Select Section」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.18 Create Hyperlink Wizard

Create Hyperlink Wizard を使用して、使用するサイトや他のサイトの様々な場所への各種リンクを作成できます。

- A-36 ページの「[Create Hyperlink Wizard - 「Choose Type」](#)」
- A-37 ページの「[Create Hyperlink Wizard - 「Choose Section」](#)」
- A-38 ページの「[Create Hyperlink Wizard - 「Choose Format」](#)」
- A-40 ページの「[Create Hyperlink Wizard - 「Confirmation」](#)」
- A-41 ページの「[Create Hyperlink Wizard - 「Choose Region Content」](#)」
- A-42 ページの「[Create Hyperlink Wizard - 「Choose Target Section」](#)」

A.18.1 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Type」

Create Hyperlink Wizard で最初に表示される画面では、リンク先のタイプや内容の選択が求められます。ここでの選択内容に応じて、ウィザードに表示されるオプションが異なります。

図 A-25 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Type」 ダイアログ

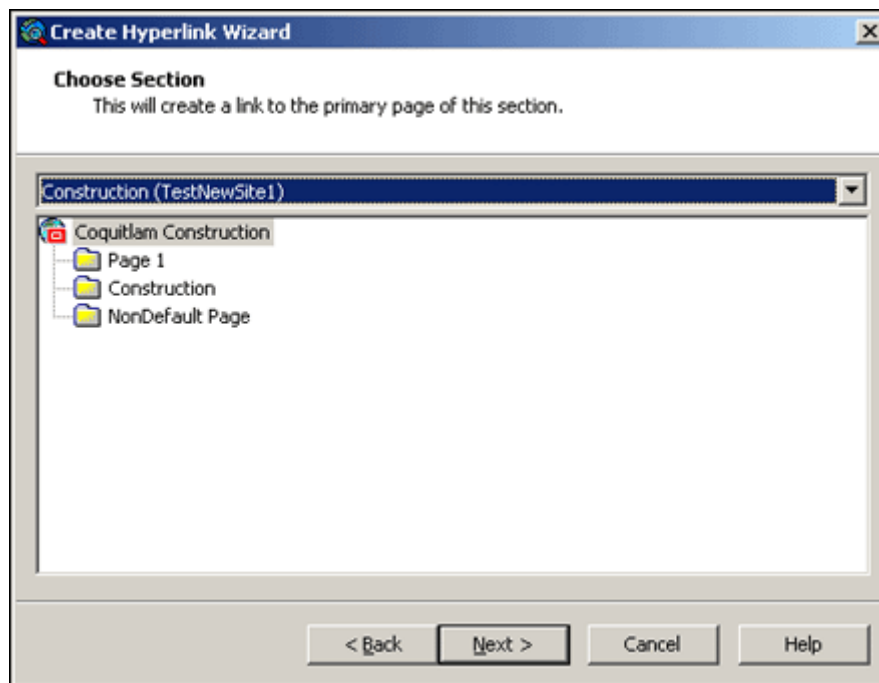


要素	説明
Link to a section	使用するサイト上の別のセクションへのリンク、またはコンテンツ・サーバーの別のサイトのセクションに対するリンクを作成します。
Link to a data file or native document	使用するサイト、またはコンテンツ・サーバーの別のサイトのコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントへのリンクを作成します。 このオプションを後で使用して、新規または既存のファイルへのリンクを作成できます。
Link to following URL	このテキスト・ボックスで指定する URL へのリンクを作成します。 このオプションを使用すると、外部 Web サイトへのリンクや、コンテンツ・サーバーのファイル（コントリビューションに使用されないファイル、PDF、オーディオ・クリップまたは ZIP ファイルなど）へのリンクを作成できます。 この要素を使用するには、グローブ・アイコンをクリックして、使用する Web ページを参照し（ブラウザは閉じません）、グローブ・アイコンを再度クリックします。
Back	この画面では無効です。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Cancel	設定をキャンセルして、Create Hyperlink Wizard を閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

A.18.2 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Section」

Create Hyperlink Wizard のこの画面では、リンク先のセクションを特定します。

図 A-26 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Section」 ダイアログ

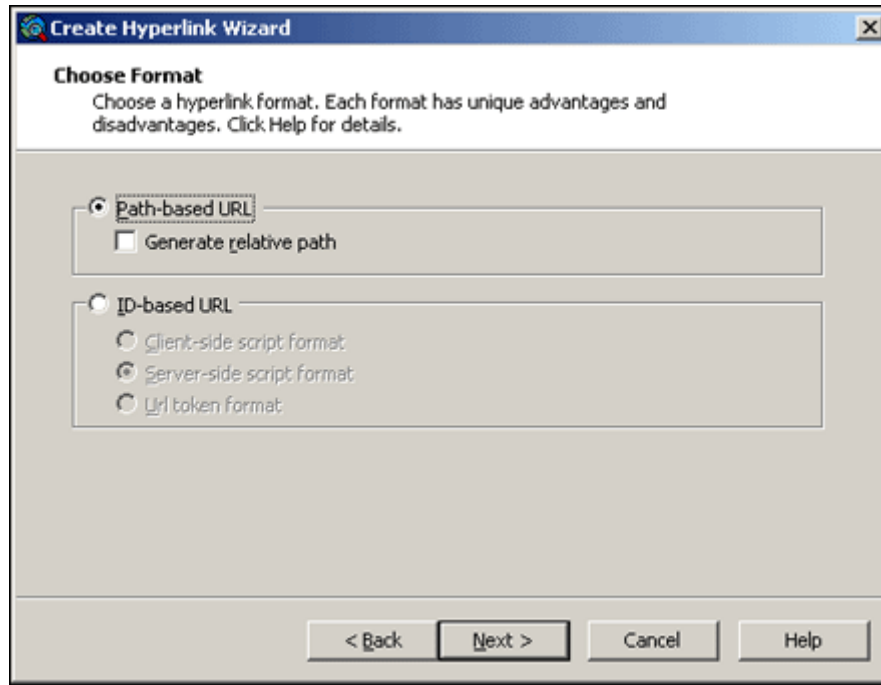


要素	説明
メニュー	リンク先として作成できる、コンテンツ・サーバーの使用可能なサイトをリストします。
Site hierarchy window	リンク先として作成できる、(前述の) 選択したサイトのセクションをリストします。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Cancel	設定をキャンセルして、Create Hyperlink Wizard を閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.18.3 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Format」

Create Hyperlink Wizard では、ハイパーリンク用の様々なリンク形式を使用できます。各形式にはメリットとデメリットがあります。

図 A-27 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Format」 ダイアログ



要素	説明
Path-based URL	<p>リンクには、ターゲットの場所のフルパスが含まれます (<!--\$ssServerRelativeSiteRoot-->products/index.htm など)。</p> <p>Generate relative path: 選択した場合、フルパスではなく相対パスが生成されます (../products/index.htm など)。</p>
ID-based URL	<p>リンクには、パスベースの名前ではなく、ターゲットの場所のコード化された ID が含まれます。このタイプのリンクには 3 つの選択肢があります。</p> <p>Client-side script format: クライアント側の JavaScript を使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します (たとえば、次のようになります。javascript:nodelink('123');、javascript:link('myfile');、または javascript:link('myfile','123');)。</p> <p>Server-side script format: サーバー側の Idoc スクリプトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します (たとえば、次のようになります。<!--\$ssNodeLink("123")-->、<!--\$ssLink("myfile")-->、または <!--\$ssLink("myfile","123")-->)。</p> <p>URL token format: サーバーでリダイレクトを使用して、ターゲットの場所へのリンクを作成します (たとえば、次のようになります。ssNODELINK/123、ssLINK/myfile、または ssLINK/123/myfile)。</p>
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Cancel	設定をキャンセルして、Create Hyperlink Wizard を閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

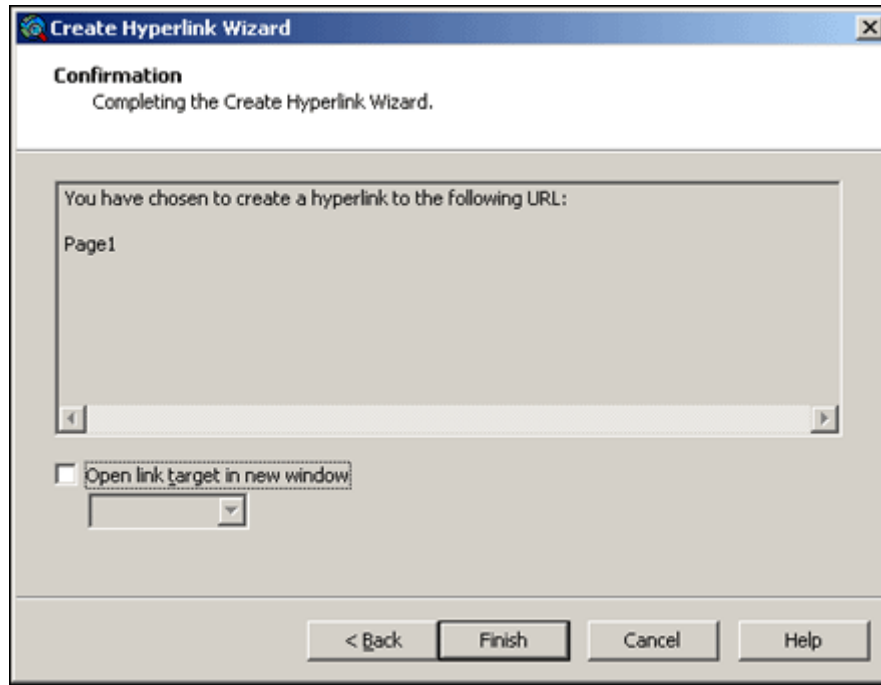
同じ形式を常に選択することが分かっている場合は、「Choose Default Link Format」ダイアログ・ボックス (A-21 ページの「[「Choose Default Link Format」ダイアログ・ボックス](#)」を参照) を使用して、設計者とコントリビュータにこの画面が再表示されないように非表示にしておくことができます。

「Path-based URL」オプションは、以前の画面で選択した内容に応じて無効にできます (たとえば、ファイルへのリンクを作成する際にターゲット・セクションとして「Web Site Section」メタデータを選択した場合など)。

A.18.4 Create Hyperlink Wizard - 「Confirmation」

Create Hyperlink Wizard の最後の画面では、ハイパーリンクの表示状況を確認して、新しいウィンドウでリンクを開くかどうかを制御できます。

図 A-28 Create Hyperlink Wizard - 「Confirmation」 ダイアログ



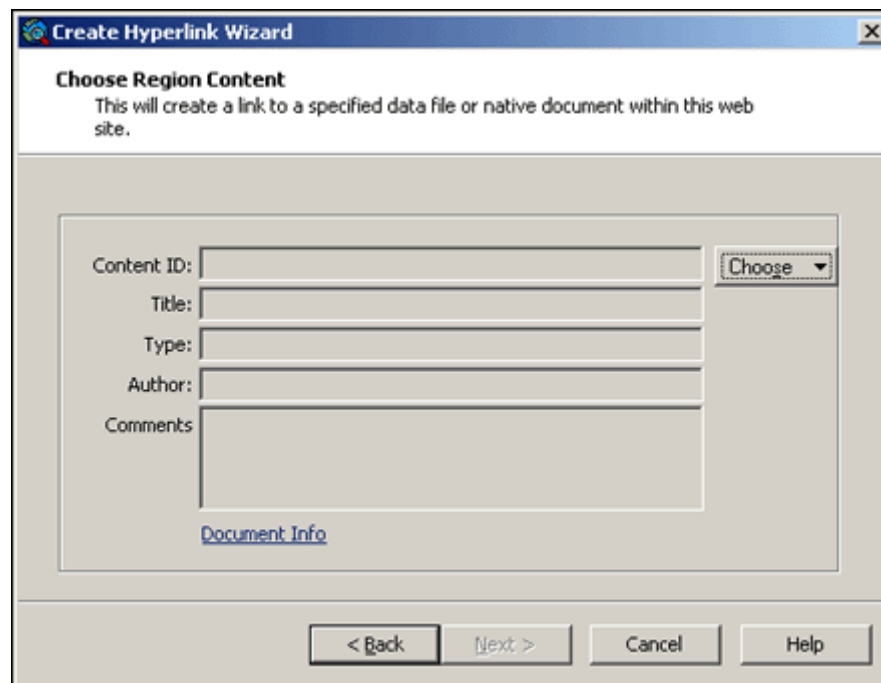
要素	説明
Preview of link	生成されたリンクの表示状況を示します。 このリンクをそのまま表示したり、リンクをコピーして別のファイルに貼り付けたりすることができます（ネイティブ・ドキュメントのハイパーリンクなど）。
Open link target in new window	選択した場合、リンクは新しいブラウザ・ウィンドウで開きます。 _blank: リンクが開くときに指定される値。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Cancel	設定をキャンセルして、Create Hyperlink Wizard を閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

ビジターがリンクをクリックしたときに意図せずに Web ページから離れてしまうことを防ぐには、「Open link target in new window」の選択が便利です。

A.18.5 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Region Content」

Create Hyperlink Wizard では、新規または既存のコントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントへのリンクを作成できます。新規ファイルへのリンクを作成する場合、リストからファイル・タイプを選択でき、Site Studio によってそのタイプがチェックインされます。既存のファイルを選択した場合は、コンテンツ・サーバーからファイルを選択するか、またはローカルでファイルを参照できます。

図 A-29 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Region Content」 ダイアログ



要素	説明
Content ID	リンク先のファイルのコンテンツ ID を表示します。 (この領域と、その後の領域は、ファイルを選択するまでは空白になっています。)
Title	リンク先のファイルのタイトルを表示します。
Type	リンク先のファイルのタイプ (ドキュメント・タイプ) を表示します。
Author	リンク先のファイルの作成者を表示します。
Comments	リンク先のファイルのコメントを表示します。
Document Info	リンク先のファイルの「Content Information」ページを開きます。
Choose	作成するリンク先のファイルを選択します。次の3つから選択します。 Existing: 既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを選択できる「Content Server」ダイアログを開きます。 New: 選択可能なファイル・タイプのリストを表示し、新規ファイルを作成してそのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。 Local: ローカル・ファイル・システムからファイルを選択して、そのファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインするウィンドウを開きます。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。

要素	説明
Cancel	設定をキャンセルして、Create Hyperlink Wizard を閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

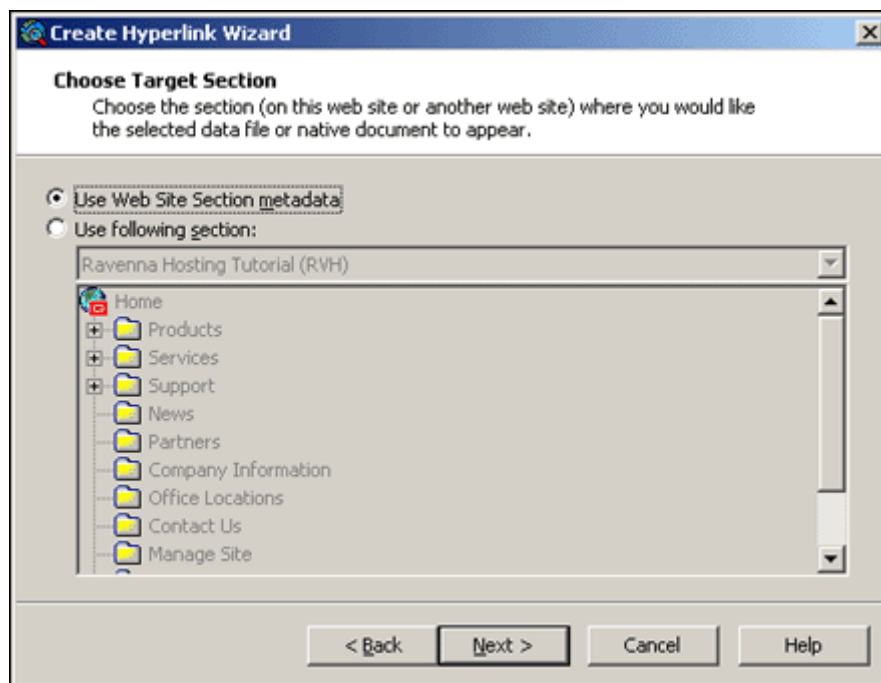
Create Hyperlink Wizard を使用して、ファイルの選択やサイトへのファイルの追加を行う場合、Site Studio では、そのファイルがサイトの構成要素として認識されるように、ファイルに適切なメタデータを自動的に割り当てます。

A.18.6 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Target Section」

Create Hyperlink Wizard では、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントへのリンクを作成し、リンクをクリックしたときにそのファイルが Web サイトのどこに表示されるかを制御できます。そのファイルが実際に Web サイトまたはコンテンツ・サーバーのどこに格納されているかは関係ありません。使用するサイトまたは別のサイト上のどの場所も指定できます。

あるいは、ファイルが現在格納されているセクションを Site Studio で特定して、その場所にファイルを表示させることもできます。

図 A-30 Create Hyperlink Wizard - 「Choose Target Section」 ダイアログ



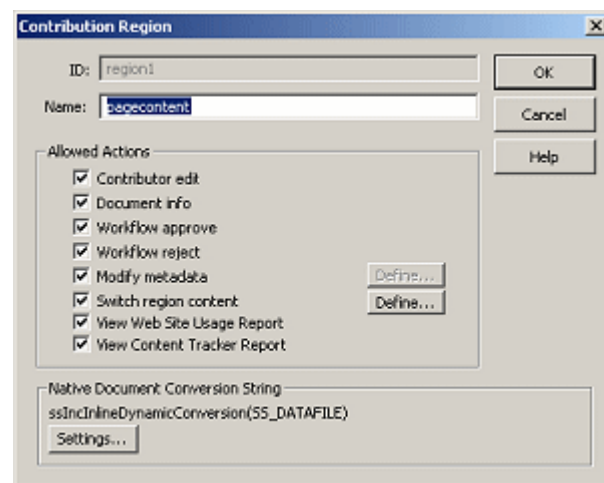
要素	説明
Use Web Site Section metadata	ファイルは、そのファイルが格納されているセクションに表示されます (「Web Site Section」メタデータを使用します)。この値を選択した場合は、次の画面で ID ベースのリンク形式を使用する必要があります (A-38 ページの「Create Hyperlink Wizard - 「Choose Format」」を参照)。
Use following section	ファイルは、次に指定するセクションに表示されます。

要素	説明
メニュー	コンテンツ・サーバーの使用可能なサイトをリストします。 このうちのいずれかのサイトを、ファイルのターゲットの場所として選択します。
Site hierarchy window	(前述の) 選択したサイトで使用可能なセクションをリストします。 このうちのいずれかのセクションを、ファイルのターゲットの場所として選択します。
Back	ウィザードの前の画面に移動します。
Next	ウィザードの次の画面に移動します。
Cancel	設定をキャンセルして、Create Hyperlink Wizard を閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイン・ガイド』) を開きます。

A.19 「Contribution Region」 ダイアログ・ボックス

コントリビューション・リージョンを使用すると、コントリビュータはコントリビュータ・アプリケーションまたはサード・パーティ製アプリケーション (ネイティブ・ドキュメントを使用する場合) を使用して、Web ページの一部を編集できます。このダイアログ・ボックスでは、レイアウト・ページへのコントリビューション・リージョンの追加、コントリビュータが使用可能なオプションの指定、およびドキュメント変換設定のカスタマイズ (ネイティブ・ドキュメントの場合) を行うことができます。

図 A-31 「Contribution Region」 ダイアログ・ボックス



要素	説明
ID	Site Studio で自動生成される ID。
Name	コントリビューション・リージョンに割り当てる名前。名前は「Design」ビューに表示され、リージョンを表します。(リージョンの名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。

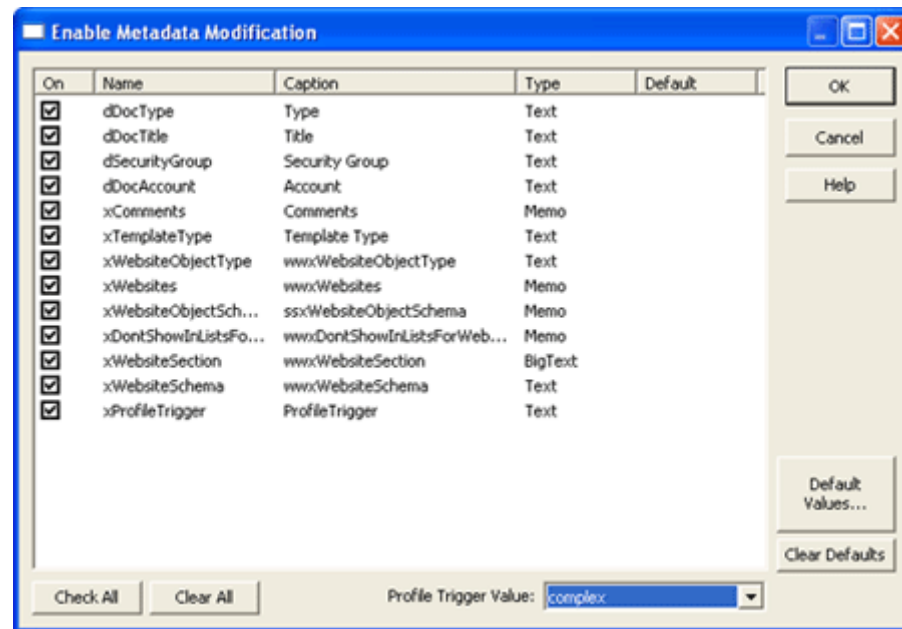
要素	説明
Contributor edit	コントリビューション・リージョンの編集を可能にします。これにより、コントリビュータは、コントリビューション・アイコンを左クリックするか、アイコンを右クリックして「Edit」（データ・ファイル用にコントリビュータを起動する場合）または「Check Out and Open」（ネイティブ・ドキュメント用にサード・パーティ製アプリケーションを起動する場合）を選択することで、リージョンに割り当てられたコンテンツを編集できます。
Document info	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Document info」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの「Content Information」ページに移動できます。
Workflow approve	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Approve Document」リンクを追加します。コントリビュータ（ワークフローのレビューアまたはコントリビュータとして指定されたコントリビュータ）はこのリンクを使用して、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを承認します。
Workflow reject	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Reject Document」リンクを追加します。レビューア（ワークフローのレビューアまたはコントリビュータとして指定されたコントリビュータ）はこのリンクを使用して、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを却下します。
Modify metadata	<p>コントリビュータがデータ・ファイルのメタデータを更新できるように、リージョンに割り当てられたデータ・ファイルを保存する前に「Assign Info Form」ページにコントリビュータを誘導します。</p> <p>Define: 「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス（A-45 ページの「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス）を参照を開きます。このボックスでは、リージョンに割り当てられたファイルを保存するときにコントリビュータが使用可能なメタデータを指定できます。</p>
Switch region content	<p>コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「Switch Region Content」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、新規ファイル（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を作成するか、既存のファイルを参照して、そのファイルをリージョンに割り当てます。</p> <p>Define: 「Region Content Options」ダイアログ・ボックス（A-46 ページの「Region Content Options」ダイアログ・ボックス）を参照を開きます。このボックスでは、コンテンツを切り替えたり、新しいコンテンツをリージョンに割り当てたりするときにコントリビュータが使用可能なオプションを指定します。</p>
View Web Site Usage Report	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「View Web Site Usage Report」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、ファイル（リージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）がサイト全体で使用される場所を示すサイト・レポートを表示します。
View Content Tracker Report	コントリビューション・アイコンの右クリック・メニューに「View Content Tracker Report」リンクを追加します。コントリビュータはこのリンクを使用して、ファイル（リージョンに割り当てられたコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）の参照回数と参照者を示すサイト・レポートを表示します。
Settings	「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックス（A-49 ページの「 Native Document Conversion Settings 」ダイアログ・ボックス）を参照を開きます。このボックスでは、リージョンに割り当てられたネイティブ・ドキュメントの変換に使用される Dynamic Converter のテンプレートまたはルールを指定します。
OK	設定を保存して、「Contribution Region」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Contribution Region」ダイアログ・ボックスを閉じます。

要素	説明
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイン・ガイド』) を開きます。

A.20 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス

コントリビューション・リージョンでは、リージョンに割り当てられたコンテンツを更新するときにコントリビュータが変更可能なメタデータを指定できます。このダイアログ・ボックスでメタデータを指定できます。

図 A-32 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ

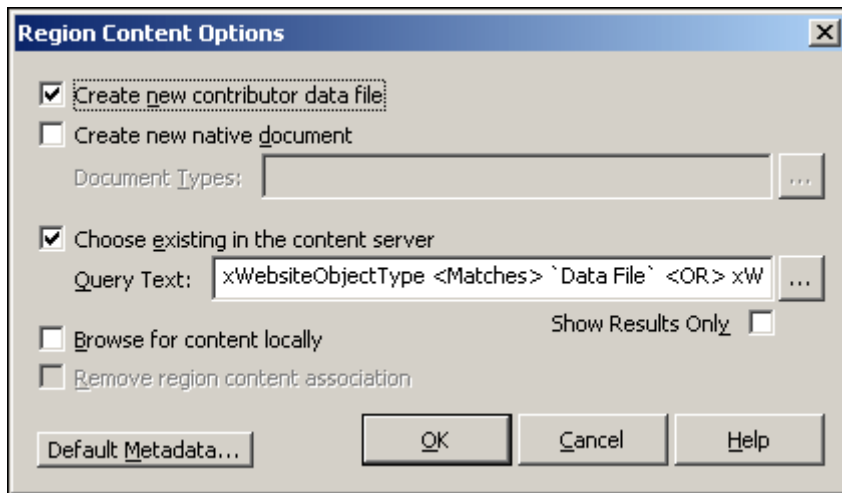


要素	説明
On Name Caption Type Default (表示領域)	コンテンツ・サーバーの各メタデータ値のチェック・ボックスを表示します。コントリビュータ・データ・ファイルを保存するときに各メタデータの値の変更をコントリビュータに許可するには、その値のそばにあるボックスを選択します。または、コントリビュータがそのメタデータの値を変更できないようにする場合は、そのチェック・ボックスの選択を解除します。
Check All	コントリビュータがすべてのメタデータの値を変更できるように、値をすべて選択します。
Clear All	コントリビュータがどのメタデータの値も変更できないように、すべての値の選択を解除します。
OK	設定を保存して、「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイン・ガイド』) を開きます。
Profile Trigger Value	Content Server 上のプロファイルを入力して、選択したプロファイルの設定を有効にするボックスを表示します。このフィールドは、プロファイルが Content Server で有効な場合のみ表示されます。

A.21 「Region Content Options」 ダイアログ・ボックス

コントリビューション・リージョンでは、設計者は、コントリビュータによってリージョンに割り当てることができるファイルのタイプを制御したり、リージョンに割り当てられた既存のファイルの削除をコントリビュータに許可したりすることができます。これらの作業を行うには、このダイアログ・ボックス（「Contribution Region」ダイアログ・ボックス（A-43 ページの「Contribution Region」ダイアログ・ボックス」を参照）からアクセス可能）を使用します。

図 A-33 「Region Content Options」 ダイアログ



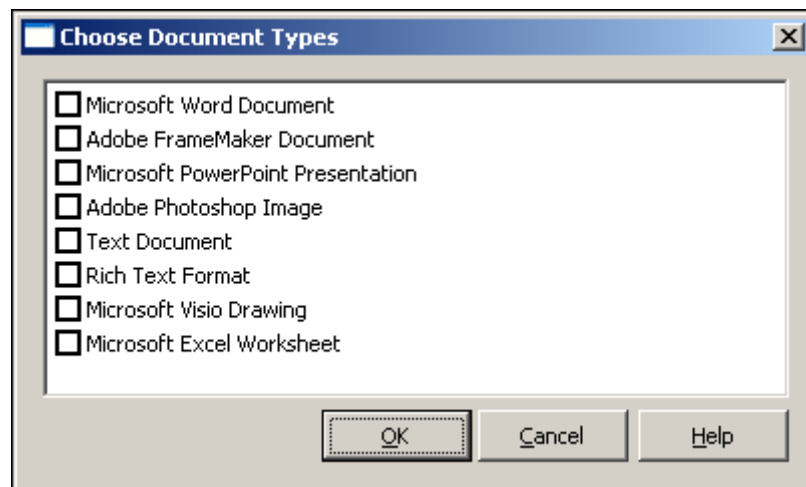
要素	説明
Create new contributor data file	新しいコントリビュータ・データ・ファイルの作成とそのファイルのリージョンへの割当てをコントリビュータに許可します。
Create new native document	新しいネイティブ・ドキュメントの作成とそのファイルのリージョンへの割当てをコントリビュータに許可します。 Document Types: コントリビュータが作成可能なネイティブ・ドキュメントを指定します。 「Additional Information」ボタンにより、「Choose Document Types」ダイアログ・ボックス（A-47 ページの「Choose Document Types」ダイアログ・ボックス」を参照）が開き、このボックスでネイティブ・ドキュメントのタイプをリストから選択できます。
Choose existing in the content server	コンテンツ・サーバーでの既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの検索と、そのファイルのリージョンへの割当てをコントリビュータに許可します。 Query Text: コンテンツ・サーバーで実行されて既存のファイルを表示する実際の間合せを指定します。 「Additional Information」ボタンにより、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス（A-48 ページの「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス」を参照）が開き、このボックスで既存のファイルの表示に使用する間合せを作成、取得およびテストできます。 Show Results Only: コンテンツ・サーバー環境ではなく、検索結果のみを表示します。（これは、コントリビュータがコンテンツ・サーバーの他のコンテンツを参照できないようにする場合に便利です。）
Browse for content locally	ローカル・ファイル・システムでのファイルの参照と、そのファイルのチェックインをコントリビュータに許可します。

要素	説明
Remove region content association	リージョンに割り当てられた既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントの削除をコントリビュータに許可します。(これにより、「Choose Region Content」ダイアログ・ボックスに「None」オプションが追加されます。)
Default Metadata	「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス (A-48 ページの「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、コントリビュータが使用可能なメタデータと、コントリビュータが新しいファイルを作成するときに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定します。
OK	設定を保存して、「Region Content Options」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Region Content Options」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.22 「Choose Document Types」 ダイアログ・ボックス

新しいネイティブ・ドキュメントの作成とそのファイルのサイトへの追加をコントリビュータに許可する場合は、作成可能なネイティブ・ドキュメントのタイプ (Microsoft Word、Excel および PowerPoint など) を指定する必要があります。

図 A-34 「Choose Document Types」 ダイアログ



要素	説明
List of file types	マシンで使用可能なネイティブ・ドキュメントを表示します。コントリビュータに作成を許可するドキュメントのタイプの近くのボックスを選択します。 このダイアログ・ボックスのドキュメント・タイプがすべてコントリビューション用にサポートされるわけではありません (イメージ・オーサリング・ソフトウェアなど)。
OK	設定を保存して、「Choose Document Types」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Choose Document Types」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.23 「Edit Query Text」 ダイアログ・ボックス

コンテンツ・サーバーで実行するカスタム問合せを指定する状況は何度もあります。この問合せでは、1つ以上のメタデータの値と一致するファイルを検索し、デザイナー、コントリビュータまたは Web サイトにその結果を表示します（使用する要素によって異なります）。

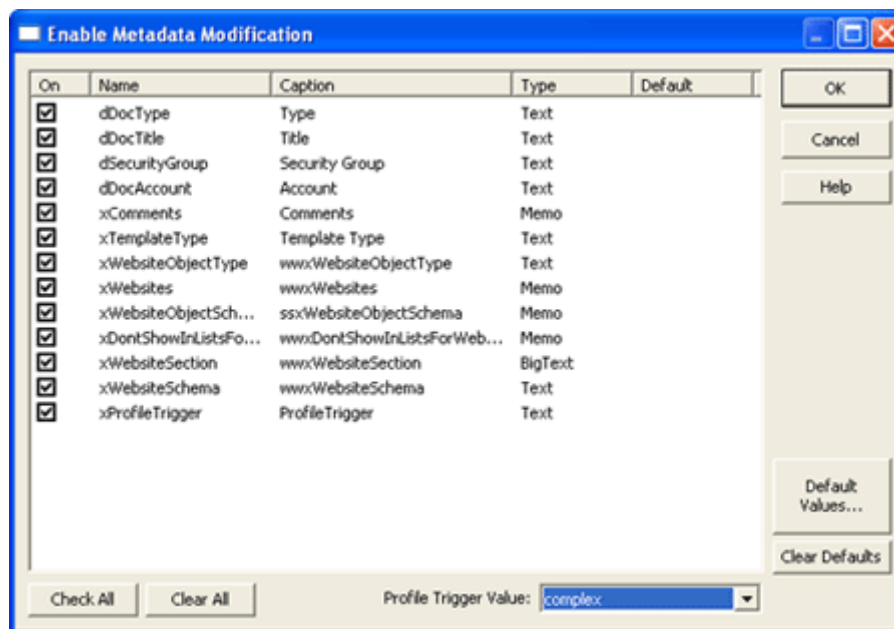
このダイアログ・ボックスで、使用する問合せを指定、テストおよび取得できます。

要素	説明
[Text field]	このテキスト・ボックスで問合せを指定します。
Capture Query	コンテンツ・サーバーで「Content Query Capture」画面を開き、この画面で問合せを実行してからその問合せを保存（取得）します。
Test Query	コンテンツ・サーバーで問合せをテストします。
OK	設定を保存して、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.24 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス

「Region Content Options」ダイアログ・ボックス（A-46 ページの「[「Region Content Options」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）では、コントリビュータがコントリビューション・リージョンに新しいコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを追加するときに使用可能なメタデータを指定できます。このダイアログ・ボックスを使用して、デフォルトでそのコンテンツに割り当てられるメタデータも指定できます。

図 A-35 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ

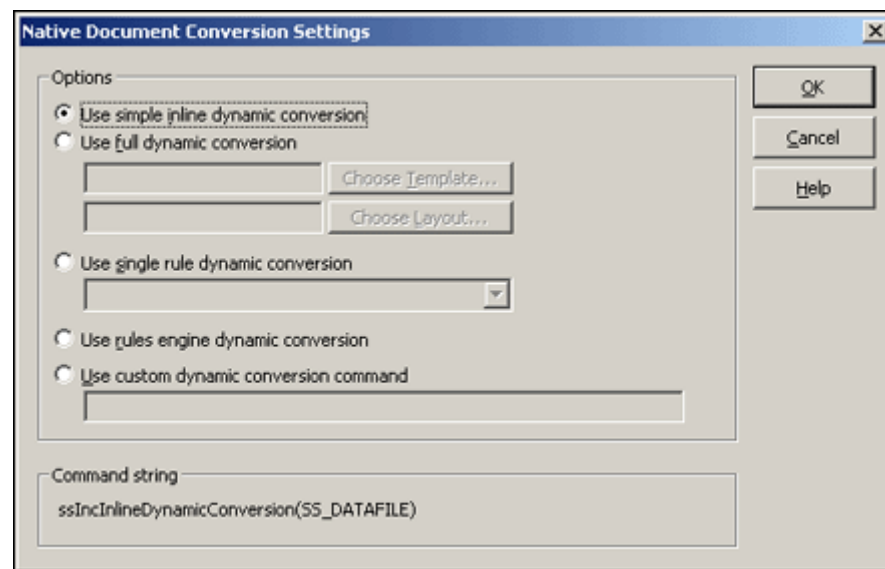


要素	説明
On Name Caption Type Default (表示領域)	<p>コンテンツ・サーバーの各メタデータ値のチェック・ボックスを表示します。</p> <p>リージョンにファイルを割り当てるときに各メタデータの値の変更をコントリビュータに許可するには、その値のそばにあるボックスを選択します。または、コントリビュータがそのメタデータの値を変更できないようにする場合はチェック・ボックスの選択を解除します。</p> <p>「Default」列には、デフォルトで割り当てられるメタデータの値が表示されず（次の「Default Values」ボタンを参照）。</p>
Check All	メタデータの値をすべて選択して、ファイルをリージョンに割り当てるときに値がすべて使用できるようにします。
Clear All	リージョンにファイルを割り当てるときに、コントリビュータがどのメタデータの値も変更できないように、すべての値の選択を解除します。
OK	設定を保存して、「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。
Default Values...	<p>（コンテンツ・サーバーで）「Assign Info Form」を開きます。ここでは、リージョンに割り当てられた新規ファイルに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定します。</p> <p>デフォルトのメタデータの割当ては、このダイアログ・ボックスでいずれかのメタデータの値を無効にする場合は特に重要です。</p>
Clear Defaults	デフォルトのメタデータ値の選択を解除します。

A.25 「Native Document Conversion Settings」 ダイアログ・ボックス

コントリビューション・リージョンにネイティブ・ドキュメントを割り当てる場合は、Web ページへのドキュメントの変換に使用される Dynamic Converter のテンプレートまたはルールを指定できます。このダイアログ・ボックスでテンプレートやルールを指定します。

図 A-36 「Native Document Conversion Settings」 ダイアログ



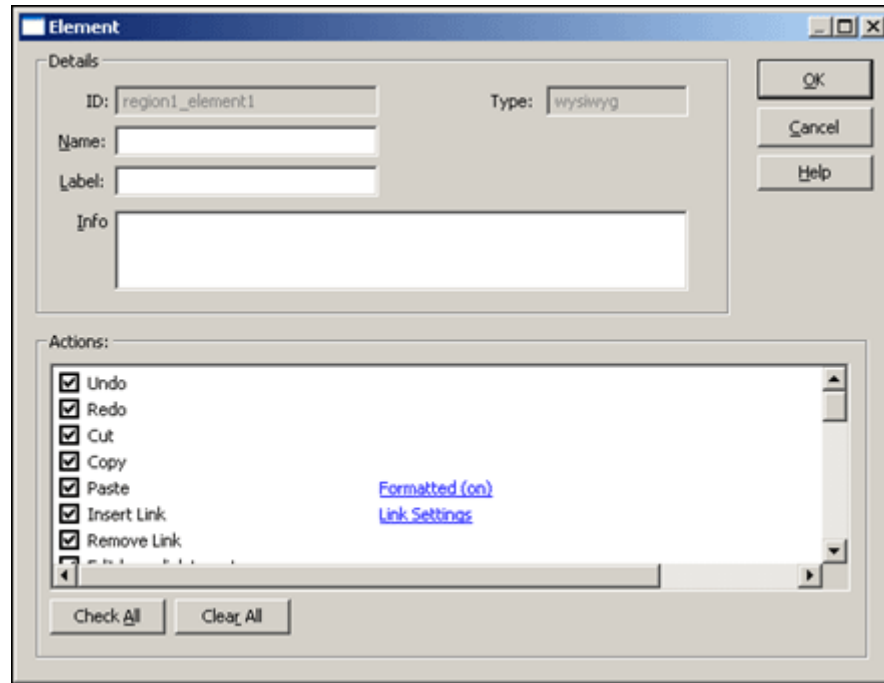
要素	説明
Use simple inline dynamic conversion	空のテンプレートをを使用して、ネイティブ・ドキュメントを変換します。このテンプレートの変換設定は最小限に抑えられているため、結果として作成される Web ページは（望ましいかどうかを問わず）元のドキュメントに近い状態で表示されます。
Use full dynamic conversion	<p>コンテンツ・サーバーに現在チェックインしている変換テンプレートとレイアウト・ページを指定します。</p> <p>Choose Template: 変換テンプレートを選択できるコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。</p> <p>Choose Layout: レイアウト・ページを選択できるコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。</p> <p>注意: レイアウトについては、<code>snippet_layout.txt</code> を使用することをお勧めします。これは HTML の開始タグと終了タグをストリッピングするためです。<code>snippet_layout.txt</code> を使用すると、変換されたドキュメントを別の Web ページに挿入できます。これは Site Studio に必要な作業です（『Dynamic Converter System Administration Guide』を参照）。</p>
Use single rule dynamic conversion	ネイティブ・ドキュメントを評価および変換する 1 つの変換ルールを指定します。メニューからルールを選択できます。
Use rules engine dynamic conversion	デフォルトのルール評価がネイティブ・ドキュメントの評価と変換に適用されることを指定します。
Use custom dynamic conversion command	<p>ネイティブ・ドキュメントの変換に使用されるカスタム・スクリプトを指定します。</p> <p>このオプションを使用して、変換シーケンスに独自の Idoc スクリプトを追加できます。これを選択する場合、「Command string」領域（次を参照）から既存の変換構文をコピーして、このフィールドに貼り付け、その構文にカスタム・スクリプトを追加できます。</p> <p>変換コマンドが欠落しているか、無効な場合、動的変換は行われません。</p>
Command string	ネイティブ・ドキュメントの変換に使用される変換構文を表示します。
OK	設定を保存して、「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

この機能を使用するには、Dynamic Converter で変換テンプレートまたはルールを作成する必要があります。

A.26 「WYSIWYG Element」 ダイアログ・ボックス

WYSIWYG 要素はコントリビュータ内のフィールドになります。このフィールドでユーザー（コントリビュータ）は、テキスト、グラフィックなどの追加、編集および削除を行います。このダイアログ・ボックスでは、コントリビュータの使用状況を制御できます。

図 A-37 「WYSIWYG Element」 ダイアログ・ボックス



要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前は、コントリビュータが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとして表示されます。コーディングにも使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。

要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p>Undo: 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p>Redo: 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p>Cut: テキストとイメージを切り取ることができます。</p> <p>Copy: テキストとイメージをコピーできます。</p> <p>Paste: テキストとイメージを貼り付けることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Formatted (on/off): テキストをコントリビュータに貼り付ける際に、書式設定を許可または削除します。 <p>Insert Link: ハイパーリンクを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Link Settings: 「Region Content Options」ダイアログ・ボックス (A-60 ページの「Region Content Options」ダイアログ・ボックス) を参照を開き、このボックスでコントリビュータのリンクのオプションを指定します。 <p>Remove Link: ハイパーリンクを削除できます。</p> <p>Edit hyperlink targets: ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p> <p>Bold: テキストを太字にします。</p> <p>Italic: テキストをイタリックにします。</p> <p>Underline: テキストに下線を引きます。</p> <p>Remove Formatting: テキストの書式設定を削除できます。</p> <p>Ordered List: 順序付けられた (番号付き) リストを追加できます。</p> <p>Unordered List: 順序付けられていない (箇条書き) リストを追加できます。</p> <p>Indent: テキストとイメージをインデント (右に移動) できます。</p> <p>Outdent: テキストとイメージをアウトデント (左に移動) できます。</p> <p>Left Justify: テキストとイメージを左に揃えることができます。</p> <p>Center Justify: テキストとイメージを中央に揃えることができます。</p> <p>Right Justify: テキストとイメージを右に揃えることができます。</p>

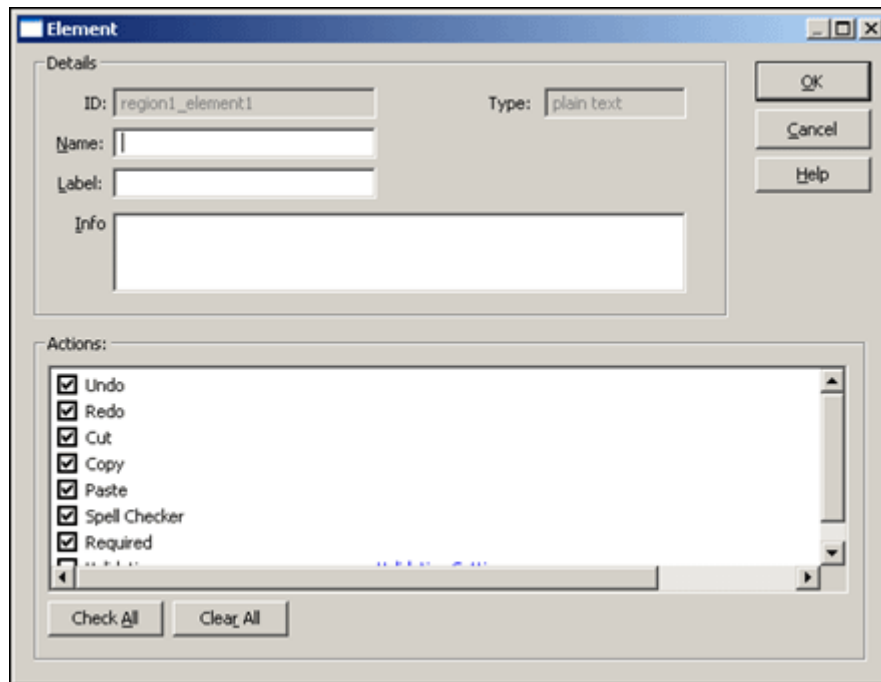
要素	説明
Actions (続き)	<p>Insert Image: イメージ (gif、jpg および png) の追加と置換えを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set QueryText: 「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを開きます (A-48 ページの「「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス」を参照)。このダイアログ・ボックスでは、コントリビュータへのイメージの表示に使用される問合せを指定します。 ■ Show Results Only (On/Off): イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。 <p>Insert Horizontal Rule: 水平ルールを追加できます。</p> <p>Insert Line Break: 改行を追加できます。</p> <p>Insert Non-Breaking Space: ハード・スペースを追加できます。</p> <p>Change Font Face: 書体を変更できます。</p> <p>Change Font Size: フォント・サイズを変更できます。</p> <p>Change Foreground Color: テキストの色を変更できます。</p> <p>Change Background Color: テキストの背景色を変更できます。</p> <p>Spell Checker: スペル・チェックを実行できます。</p> <p>Required: コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力が必要不可欠です。</p> <p>Apply CSS Classes: 様々な CSS クラスを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Class Names: 「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックス (A-63 ページの「「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックス」を参照) を開きます。このダイアログ・ボックスでは、コントリビュータで使用可能なクラスを指定します。 <p>Table Support: 表を追加および編集できます。</p> <p>Validation: コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Validation Settings: 「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ・ボックス (A-64 ページの「「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ・ボックス」を参照) を開き、このボックスで検証するコンテンツを指定します。 <p>Accessibility Report: 選択すると、コントリビュータは Web ページに関するアクセシビリティ・レポートを WYSIWYG ツールバーから実行して、そのページが複数のアクセシビリティの基準を満たしているかどうかを判断できます。</p> <p>Source Mode: WYSIWYG または HTML での編集の選択をコントリビュータに許可します。選択を解除すると、コントリビュータは WYSIWYG でのみ編集できます。</p> <p>Expand Editor: 編集領域の全画面表示をコントリビュータに許可します。</p> <p>Apply HTML Tags: HTML で編集するコントリビュータが使用可能なタグを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Tag Names: コントリビュータに許可する特定のタグを選択します。詳細は、A-66 ページの「「Select HTML Tags」ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <p>Set Element Height: 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Height: 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、ピカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。

要素	説明
OK	設定を保存して、「WYSIWYG Element」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「WYSIWYG Element」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.27 「Plain Text Element」 ダイアログ・ボックス

プレーン・テキスト要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドでは、切取り、コピー、貼付けなどの基本的な（ある程度制限された）編集を行います。コントリビュータがテキストを書式設定できないようにする（一貫した Web ページや場合によってはクリーンな Web ページを作成する）場合に役立ちます。

図 A-38 「Plain Text Element」 ダイアログ・ボックス



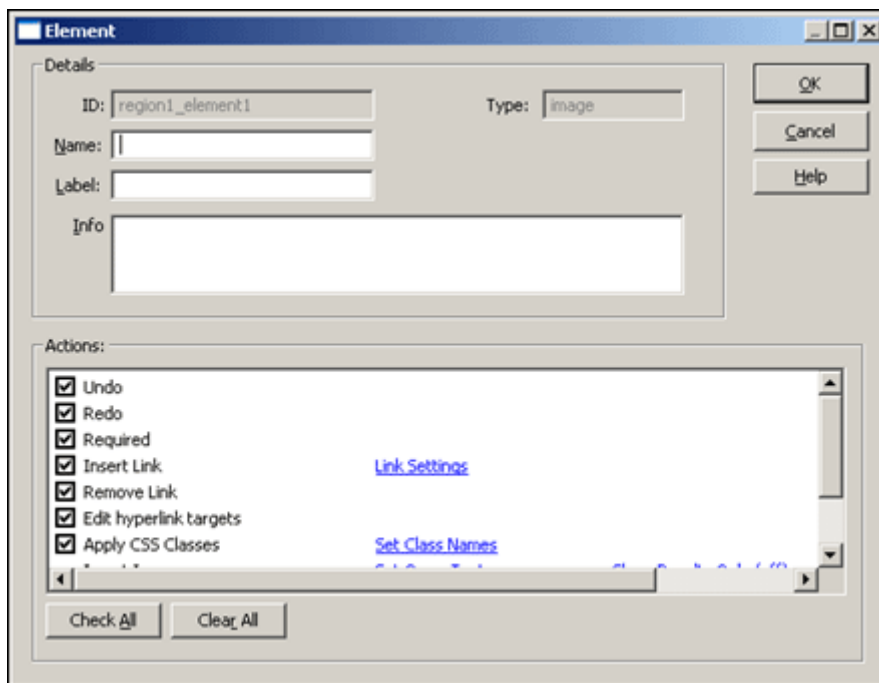
要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前は、コントリビュータが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとして表示されます。コーディングにも使用されず。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。

要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p>Undo: 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p>Redo: 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p>Cut: テキストを切り取ることができます。</p> <p>Copy: テキストをコピーできます。</p> <p>Paste: テキストを貼り付けることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Formatted (on/off): テキストをコントリビュータに貼り付ける際に、書式設定を許可または削除します (プレーン・テキスト要素の場合、テキストには HTML 書式設定タグが含まれるか、書式設定タグが含まれません)。 <p>Spell Checker: 作業内容のスペル・チェックを実行できます。</p> <p>Required: コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力を必須にします。</p> <p>Validation: コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Validation Settings: 「Plain Text Element Validation」ダイアログ・ボックス (A-65 ページの「Plain Text Element Validation」ダイアログ・ボックス」を参照) を開き、このボックスで検証するコンテンツを指定します。 <p>Set Element Height: 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Height: 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。
OK	設定を保存して、「Plain Text Element」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Plain Text Element」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.28 「Image Element」 ダイアログ・ボックス

イメージ要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドでは、イメージとリンクの挿入、および CSS クラスの適用といったイメージの処理に関連する基本的な編集を実行できます。これは、コントリビュータの権限を制限してイメージの編集を簡単にする場合に役立ちます。

図 A-39 「Image Element」 ダイアログ・ボックス



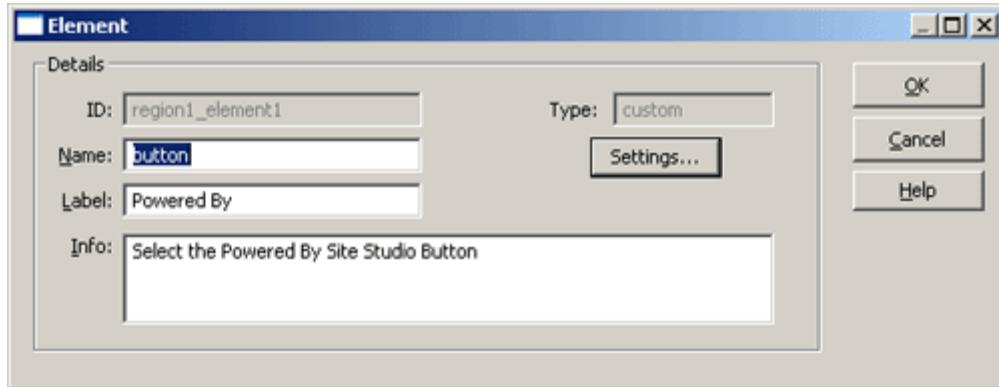
要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前は、コントリビュータが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとして表示されます。コーディングにも使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 注意： 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。

要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p>Undo: 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p>Redo: 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p>Required: コントリビュータを終了する前に、フィールドへの情報の入力が必要です。</p> <p>Insert Link: ハイパーリンクを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Link Settings: 「Region Content Options」ダイアログ・ボックス (A-60 ページの「Region Content Options」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスでコントリビュータのリンクのオプションを指定します。 <p>Remove Link: ハイパーリンクを削除できます。</p> <p>Edit hyperlink targets: ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p> <p>Apply CSS Classes: 様々な CSS クラスを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Class Names: 「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックス (A-63 ページの「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックス) を開きます。このダイアログ・ボックスでは、コントリビュータで使用可能なクラスを指定します。 <p>Insert Image: イメージ (gif、jpg および png) の追加と置換えを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set QueryText: 「Edit Query Test」ダイアログ・ボックスを開きます (A-48 ページの「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス) を参照)。このダイアログ・ボックスでは、コンテンツ・サーバーで使用してイメージをコントリビュータに表示する問合せを指定します。 ■ Show Results Only (On/Off): イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。 <p>Validation: コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Validation Settings: 「Image Element Validation」ダイアログ・ボックス (A-67 ページの「Image Element Validation」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスで検証するコンテンツを指定します。 <p>Edit Object Properties: プロパティ・フォームを使用して、コントリビュータで HTML タグを編集できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Select Properties Form: コントリビュータが使用可能な (コンテンツ・サーバーの) プロパティ・フォームを選択します。 <p>Set Element Height: 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Height: 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。
Check All	<p>コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。</p>
Clear All	<p>コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。</p>
OK	<p>設定を保存して、「Image Element」ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>
Cancel	<p>設定をキャンセルして、「Image Element」ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>
Help	<p>オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。</p>

A.29 「Custom Element」 ダイアログ・ボックス

カスタム要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドを使用すると、ユーザー（コントリビュータ）は他の要素（WYSIWYG、プレーン・テキストおよびイメージ）では追加できないコンテンツを追加できます。具体的には、カスタム要素によって、各種コンテンツ（マルチメディア・ファイル、ソース・コードなど）の追加に使用されるカスタム・インタフェース（カスタム要素フォームとも呼ばれる）を作成できます。

図 A-40 「Custom Element」 ダイアログ

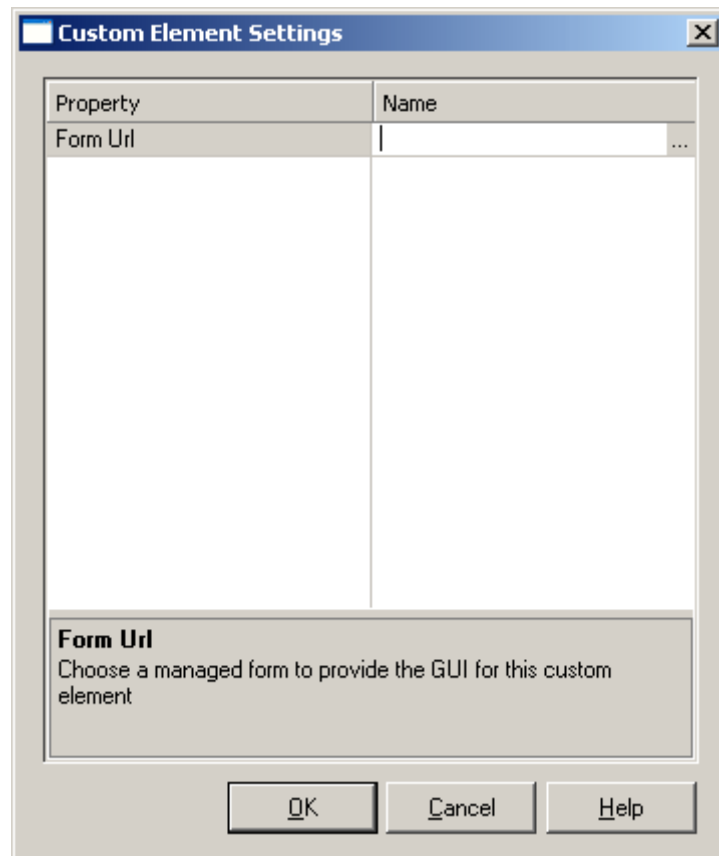


要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前は、コントリビュータが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとして表示されます。コーディングにも使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。
Settings	「Custom Element Settings」ダイアログ・ボックス（A-59 ページの「 Custom Element Settings 」ダイアログ・ボックス）を開きます。このボックスでは、コントリビュータが使用するカスタム要素フォームを指定できます。
OK	設定を保存して、「Custom Element」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Custom Element」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

A.30 「Custom Element Settings」 ダイアログ・ボックス

カスタム要素はコントリビュータのフィールドになります。このフィールドを使用すると、ユーザー（コントリビュータ）は他の要素（WYSIWYG、プレーン・テキストおよびイメージ）では追加できないコンテンツを追加できます。具体的には、カスタム要素によって、各種コンテンツ（マルチメディア・ファイル、ソース・コードなど）の追加に使用されるカスタム・インタフェース（カスタム要素フォームとも呼ばれる）を作成できます。このダイアログ・ボックスを使用して、カスタム要素にカスタム要素フォームを追加します。

図 A-41 「Custom Element Settings」 ダイアログ

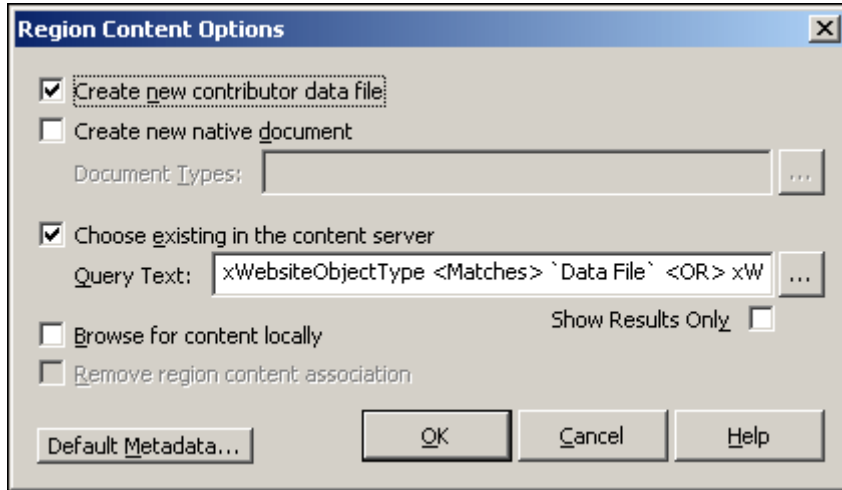


要素	説明
Form Url	カスタム要素で使用するカスタム要素フォームを指定します。
Button Text	コントリビュータのボタンに表示されるテキストを指定します。このボタンを使用して、カスタム要素フォームを起動します。
Display Type	<p>コントリビュータのコンテンツの外観を制御します。</p> <p>HTML: (Web ブラウザでの表示と同様に) HTML がレンダリングされて表示されます。</p> <p>Text: 実際のテキスト (場合によってはソース・コード) を表示します。</p>
OK	設定を保存して、「Custom Element Settings」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Custom Element Settings」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.31 「Region Content Options」 ダイアログ・ボックス

ハイパーリンクの作成をコントリビュータに許可する場合、ハイパーリンク・ウィザード（デザイナーで使用できるウィザードと同じ）を使用して、別のセクションへのリンク、別のサイトへのリンク、または別のファイルへのリンクを作成できます。このダイアログ・ボックス（「WYSIWYG Element」ダイアログ・ボックス、「Image Element」ダイアログ・ボックスおよび「Static List Element」ダイアログ・ボックスからアクセス可能）では、コントリビュータがリンク設定できるファイルのタイプ（コントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント）や、新規ファイルと既存ファイルのどちらにリンク設定するかを制御できます。

図 A-42 「Region Content Options」 ダイアログ



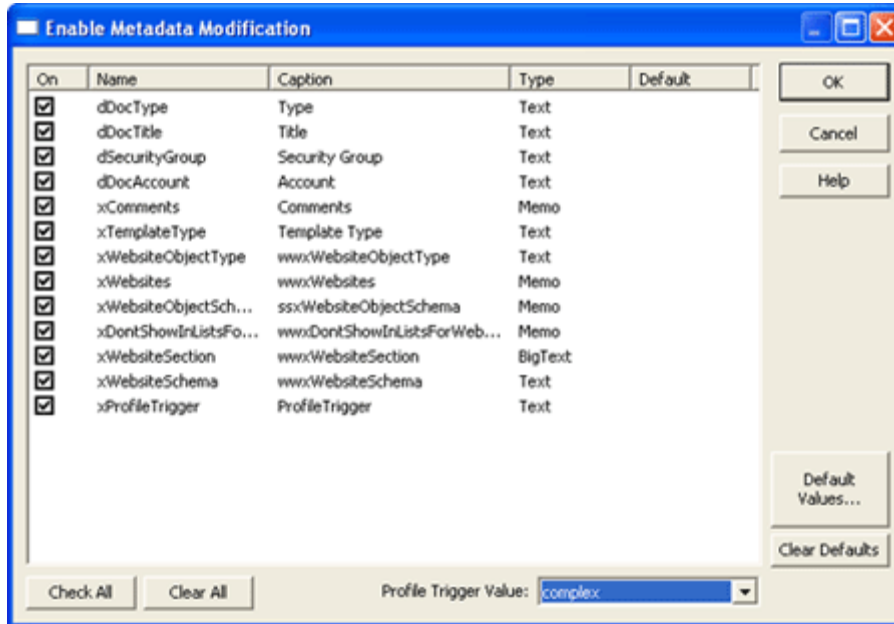
要素	説明
Create new contributor data file	リンク設定可能な新しいコントリビュータ・データ・ファイルの作成をコントリビュータに許可します。
Create new native document	リンク設定可能な新しいネイティブ・ドキュメントの作成をコントリビュータに許可します。 Document Types: コントリビュータが作成可能なネイティブ・ドキュメントを指定します。 「Additional Information」ボタンにより、「Choose Document Types」ダイアログ・ボックス（A-47 ページの「 Choose Document Types 」ダイアログ・ボックス）を参照が開き、このボックスでコントリビュータが使用可能なドキュメント・タイプを選択できます。
Choose existing in the content server	リンク設定可能な既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントをコンテンツ・サーバーで検索することをコントリビュータに許可します。 Query Text: コンテンツ・サーバーで実行されて既存のファイルを表示する実際の間合せを指定します。 「Additional Information」ボタンにより、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス（A-48 ページの「 Edit Query Text 」ダイアログ・ボックス）を参照が開き、このボックスで既存のファイルの表示に使用する間合せを作成、取得およびテストできます。 Show Results Only: 通常のコンテンツ・サーバー環境ではなく、検索結果のみを表示します。（これは、コンテンツ・サーバーの他のコンテンツをコントリビュータが参照できないようにする場合に便利です。）
Browse for content locally	リンク設定可能なファイルをローカル・ファイル・システムで参照することをコントリビュータに許可します。

要素	説明
Remove region content association	設計者がリンク設定を指定する場合、このオプションは無効です。これは、コントリビュータ用にコントリビューション・リージョンのオプションを設定する場合のみ使用できます。
Default Metadata	「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックス (A-62 ページの「 Enable Metadata Modification 」ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、使用可能なメタデータと、コントリビュータが新しいファイルを作成するときに使用されるデフォルトのメタデータを指定できます。
OK	設定を保存して、「Region Content Options」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Region Content Options」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.32 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス

新しいファイルへのリンクの作成をコントリビュータに許可する場合（A-60 ページの「Region Content Options」ダイアログ・ボックスを参照）、新しいファイルに割り当てられるメタデータを制御できます。デフォルトで割り当てられるメタデータと、コントリビュータが変更できるメタデータを指定できます。このダイアログ・ボックスでは、これらの値を指定できます。

図 A-43 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ

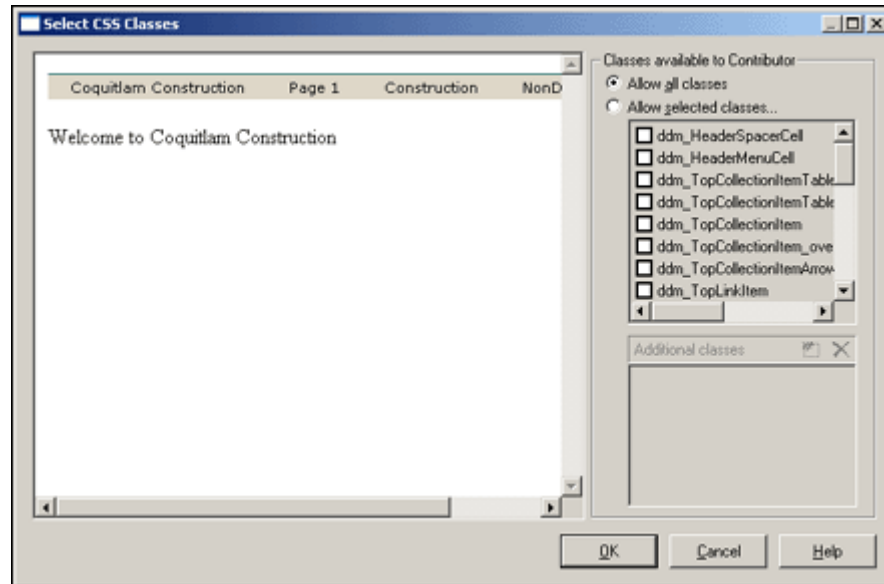




要素	説明
On Name Caption Type Default (表示領域)	コンテンツ・サーバーで使用可能なメタデータを表示します。各メタデータの近くにはチェック・ボックスがあります。 新しいコントリビュータ・データ・ファイルを作成するときにメタデータの値の設定をコントリビュータに許可する場合はこのボックスを選択します。または、新しいコントリビュータ・データ・ファイルを作成するときにコントリビュータがその値を設定できないようにする場合は、ボックスの選択を解除します。 「Default」列には、デフォルトで割り当てられるメタデータの値が表示されます（次の「Default Values」ボタンを参照）。
Check All	コントリビュータがすべてのメタデータの値を変更できるように、値をすべて選択します。
Clear All	コントリビュータがどのメタデータの値も変更できないように、すべてのメタデータの値の選択を解除します。
OK	設定を保存して、「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。
Default Values	（コンテンツ・サーバーで）「Assign Info Form」を開きます。ここでは、新しいコントリビュータ・データ・ファイルに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定します。 これは、このダイアログ・ボックスでいずれかのメタデータの値を無効にする場合は特に重要です。
Clear Defaults	デフォルトのメタデータ値の選択を解除します。

A.33 「Select CSS Classes」 ダイアログ・ボックス

レイアウト・ページに Cascading Style Sheet (CSS) を追加する場合、コントリビュータでテキストとグラフィックを編集する際にコントリビュータが選択できるスタイル・シートの特定のクラスを指定できます。これは、Web ページの適切な設計と一貫性を確保する場合に便利です。このダイアログ・ボックスで、使用できるクラス名を指定できます。

図 A-44 「Select CSS Classes」 ダイアログ

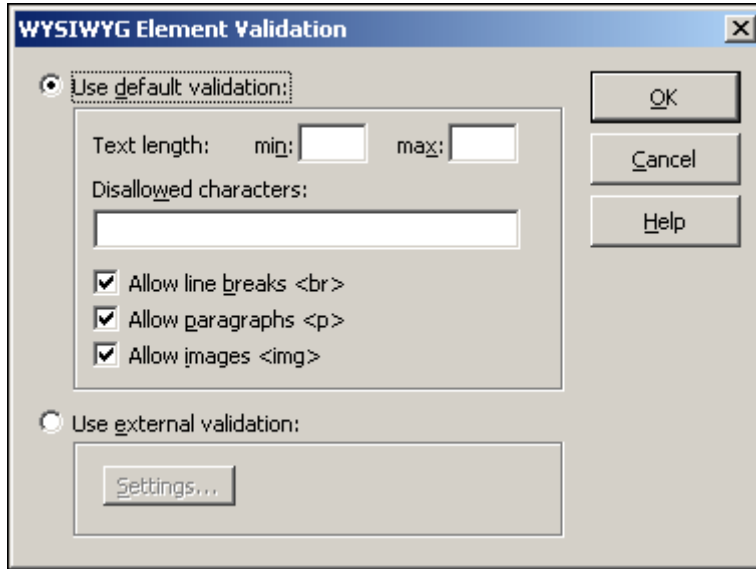


要素	説明
Allow all classes	すべてのクラスをコントリビュータで使用可能にします。
Allow selected classes	選択したクラス名をコントリビュータで使用可能にします。
Additional classes	コントリビュータで使用可能にする新しいクラス名を指定します。 この方法でクラス名を追加する場合は、このクラスを含む CSS ファイルをレイアウト・ページまたはフラグメントに追加する必要があります。
	新しいクラス名を作成します。
	(以前のオプションで) 追加したクラス名を削除します。
OK	設定を保存して、「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.34 「WYSIWYG Element Validation」 ダイアログ・ボックス

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションで作業する場合、通常はどのようなテキスト、グラフィックおよびその他のコンテンツも自由に追加できます。ただし、設計者の場合は、Web ページ間の一貫性（特に書式設定の一貫性）の確保が目的になります。また、特定のページに対するコンテンツを最小限に抑える場合もあります。（「WYSIWYG Element」ダイアログ・ボックスで使用可能な）要素の検証を使用して、このような基準を実施できます。

図 A-45 「WYSIWYG Element Validation」 ダイアログ



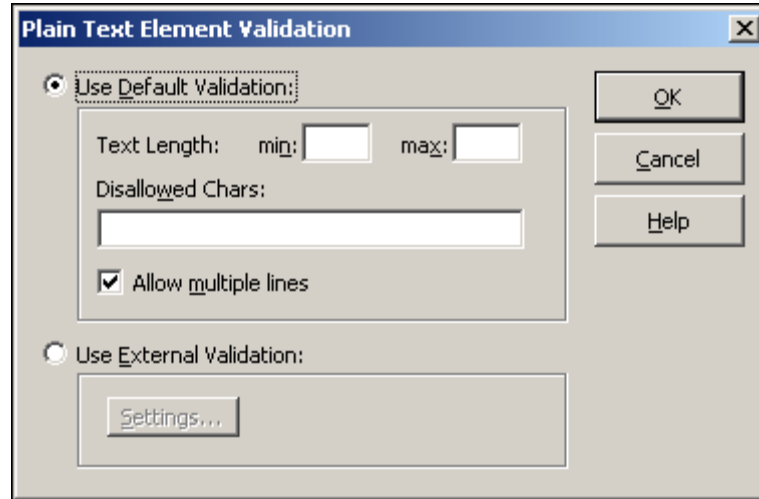
要素	説明
Use default validation	Site Studio に付属のデフォルトの検証オプションを使用します。次の中から選択します。 min: 最小量のテキスト（最小文字数）を規定します。 max: 最大量のテキスト（最大文字数）を規定します。 Disallowed characters: ここで指定する文字を使用できないようにします。 Allow line breaks
: 選択した場合、コントリビュータは改行（ソフト・リターン）を作成できます。作成するには、通常キーボードで [Shift] + [Enter] を押します。 Allow paragraphs <p>: 選択した場合、コントリビュータは新しい段落（ハード・リターン）を作成できます。作成するには、通常キーボードで [Enter] を押します。 Allow images : 選択した場合、コントリビュータはイメージを追加できます。
Use external validation	指定した外部の検証スクリプトを使用します。 Settings: 「Advanced Element validation」ダイアログ・ボックス（A-68 ページの「Advanced Element Validation」ダイアログ・ボックス）を参照）を開きます。このボックスでは、使用するスクリプトの値を入力できます。
OK	設定を保存して、「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「WYSIWYG Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

このダイアログ・ボックスのデフォルトの検証オプションは、Site Studio に付属のスクリプト `ss_default_validation_script.js` から派生したものです。

A.35 「Plain Text Element Validation」 ダイアログ・ボックス

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションで作業する場合、通常はどのようなテキストも（プレーン・テキスト要素の書式設定の制限がある場合でも）自由に追加できます。ただし、設計者の場合は、一貫性の確保（特に特定のページに対してコンテンツを最小限に抑える必要がある場合）が目的になります。（「Plain Text Element」ダイアログ・ボックスで使用可能な）要素の検証を使用して、このような基準を実施できます。

図 A-46 「Plain Text Element Validation」 ダイアログ



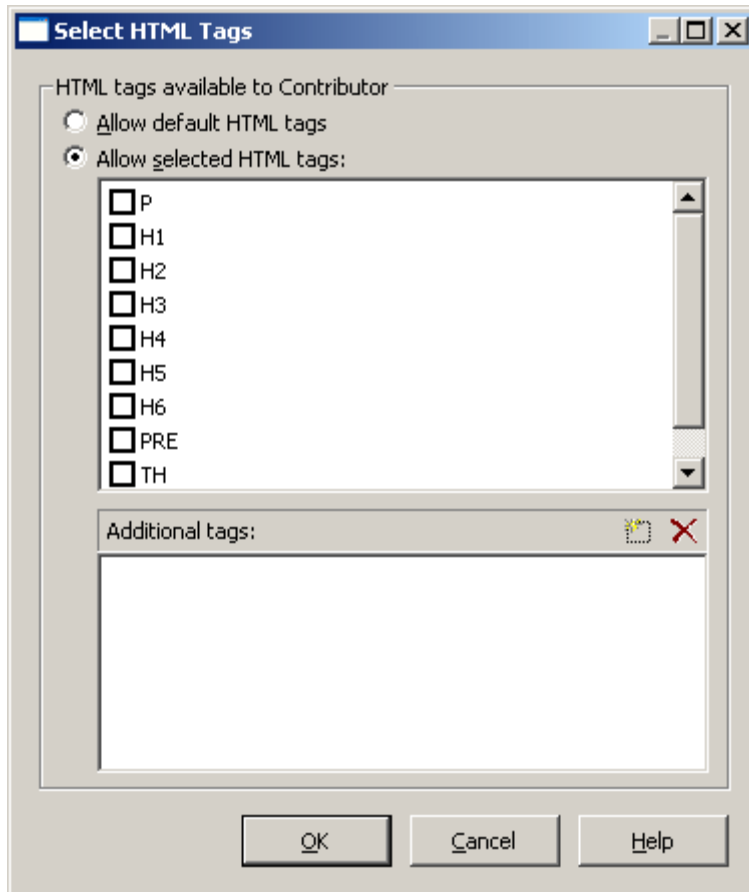
要素	説明
Use default validation	Site Studio に付属のデフォルトの検証オプションを使用します。次の中から選択します。 min: 最小量のテキスト（最小文字数）を規定します。 max: 最大量のテキスト（最大文字数）を規定します。 Disallowed characters: ここで指定する文字を使用できないようにします。 Allow multiple lines: 選択した場合、コントリビュータはテキストの新しい行を追加できます（キーボードで [Enter] を押します）。
Use external validation	指定した外部の検証スクリプトを使用します。 Settings: 「Advanced Element Validation」ダイアログ・ボックス（A-68 ページの「 Advanced Element Validation ダイアログ・ボックス」を参照）を開きます。このボックスでは、使用するスクリプトの値を入力できます。
OK	設定を保存して、「Plain Text Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Plain Text Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。



このダイアログ・ボックスのデフォルトの検証オプションは、Site Studio に付属のスクリプト `ss_default_validation_script.js` から派生したものです。

A.36 「Select HTML Tags」 ダイアログ・ボックス

コントリビュータが WYSIWYG インタフェースを使用せずに HTML で Web ページを編集できる場合、指定したリージョンの HTML での編集をコントリビュータに許可できます。設計者は、コントリビュータがリージョンの編集で使用できるタグを制限できます。これは、一部のコントリビュータが保持する高度な機能のバランスを保ち、Web ページ間で基準を実施する場に役立ちます。

図 A-47 「Select HTML Tags」 ダイアログ

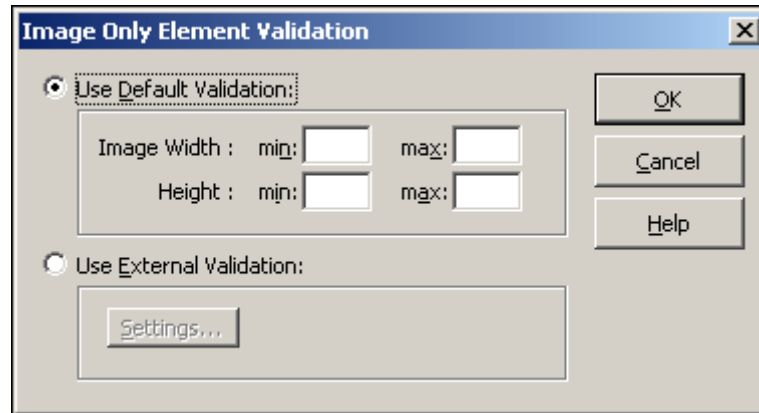


要素	説明
Allow default HTML tags	HTML タグのデフォルト・セットの使用をコントリビュータに許可します。
Allow selected HTML tags	選択するタグのみの使用をコントリビュータに許可します。
	許可された新しい HTML タグを作成します。
	(以前のオプションで) 追加した HTML タグを削除します。
OK	設定を保存して、「Plain Text Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Plain Text Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.37 「Image Element Validation」 ダイアログ・ボックス

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーション（特にイメージ要素）で作業する場合、通常はどのようなイメージも自由に追加できます。ただし、設計者の場合は、ページ間での一貫性（特にイメージ・サイズ）の確保が目的になります。（「Image Element」ダイアログ・ボックスで使用可能な）要素の検証を使用して、このような基準を実施できます。

図 A-48 「Image Only Element Validation」 ダイアログ



要素	説明
Use default validation	Site Studio に付属のデフォルトの検証オプションを使用します。次の中から選択します。 Width: <ul style="list-style-type: none"> ■ min: 最小幅（ピクセル単位）を規定します。 ■ max: 最大幅（ピクセル単位）を規定します。 Height: <ul style="list-style-type: none"> ■ min: 最低の高さ（ピクセル単位）を規定します。 ■ max: 最大の高さ（ピクセル単位）を規定します。
Use external validation	指定した外部の検証スクリプトを使用します。 Settings: 「Advanced Element Validation」ダイアログ・ボックス（A-68 ページの「 Advanced Element Validation ダイアログ・ボックス」を参照）を開きます。このボックスでは、使用するスクリプトの値を入力できます。
OK	設定を保存して、「Image Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Image Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

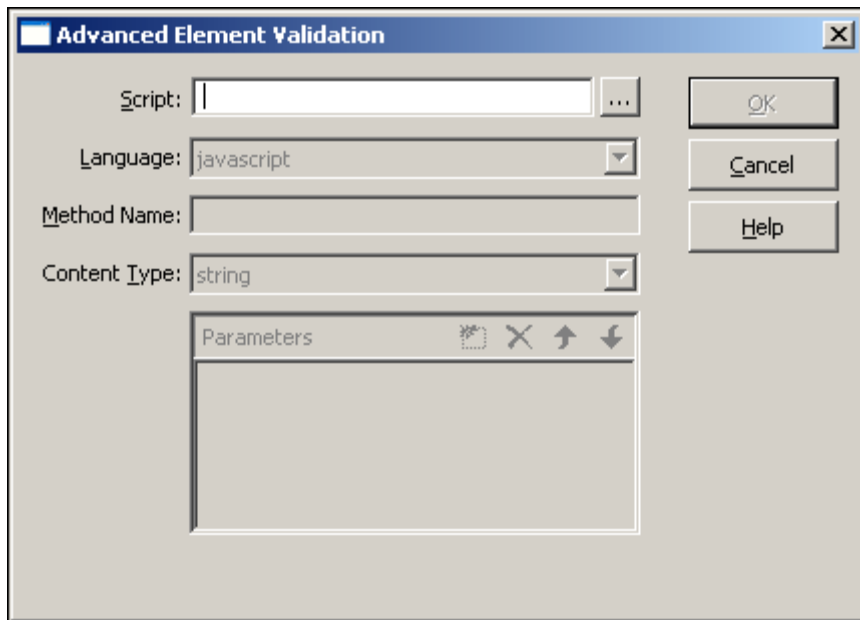
特定のイメージ・サイズをピクセル単位にする場合、イメージ・プロパティ・フォームを使用してイメージのサイズの変更方法をコントリビュータに指示できます。





このダイアログ・ボックスのデフォルトの検証オプションは、Site Studio に付属のスクリプト `ss_default_validation_script.js` から派生したものです。

A.38 「Advanced Element Validation」 ダイアログ・ボックス

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションで作業する場合、通常はどのようなテキスト、グラフィックおよびその他のコンテンツも自由に追加できます。ただし、設計者の場合は、一貫性の確保や、Web ページに投稿されるコンテンツの量の制限が目的になります。このダイアログ・ボックスでは、デザイナーでデフォルトの検証オプションを使用したり、独自の検証スクリプトを作成して要素に追加したりすることができます。

図 A-49 「Advanced Element Validation」 ダイアログ

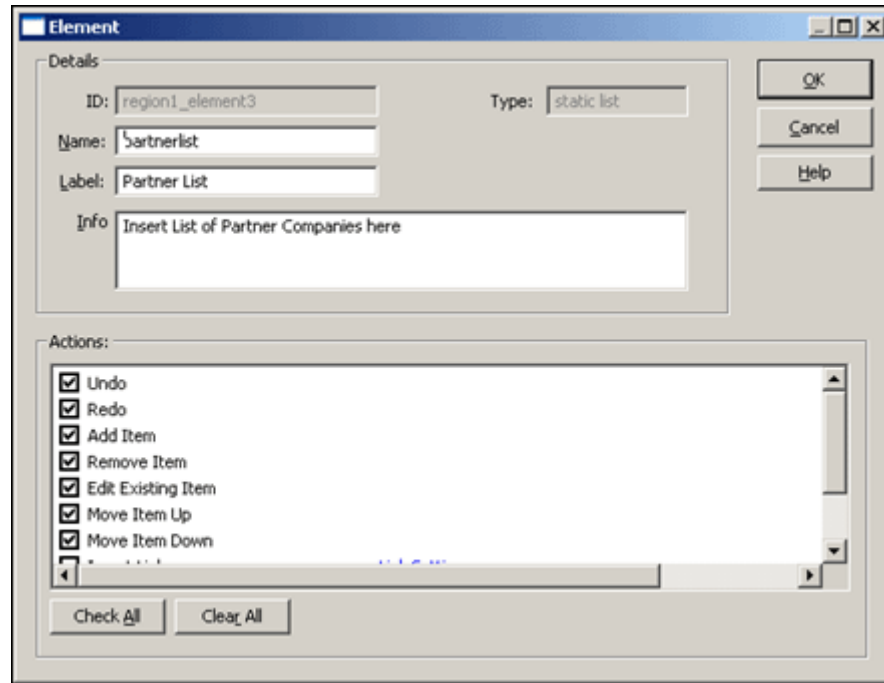


要素	説明
Script	要素に使用するカスタム検証スクリプトを指定します。 「Additional Information」 ボタンによって「Content Server Dialog」が開き、このダイアログで、コンテンツ・サーバーから検証スクリプトを選択できます。
Language	検証で使用されるスクリプト言語（「JavaScript」または「VBScript」）を指定します。
Method Name	検証の実行に使用するメソッドを指定します。
Content Type	検証で使用されるコンテンツ・タイプ（「string」、「XML」、「HTML」）を指定します。
	新しいパラメータを追加します。
	既存のパラメータを削除します。
	リストのパラメータを上に移動します。
	リストのパラメータを下に移動します。
OK	設定を保存して、「Advanced Element Validation」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Advanced Element Validation」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

A.39 「Static List Element」ダイアログ・ボックス

静的リストとは、強力で柔軟性のあるフラグメントと、コントリビュータでの要素のコントリビューション機能を組み合わせたものです。静的リストは、複数の要素を表のようなレイアウトでまとめることができます。コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集、削除、および再配置できます。このダイアログ・ボックスでは、コントリビュータが使用可能な静的リストのオプションを制御できます。

図 A-50 「Static List Element」ダイアログ・ボックス



要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前は、コントリビュータが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとして表示されます。コーディングにも使用されません。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	要素の詳細な説明を表示します。この説明は、コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示されます。
Type	追加する要素のタイプを示します。

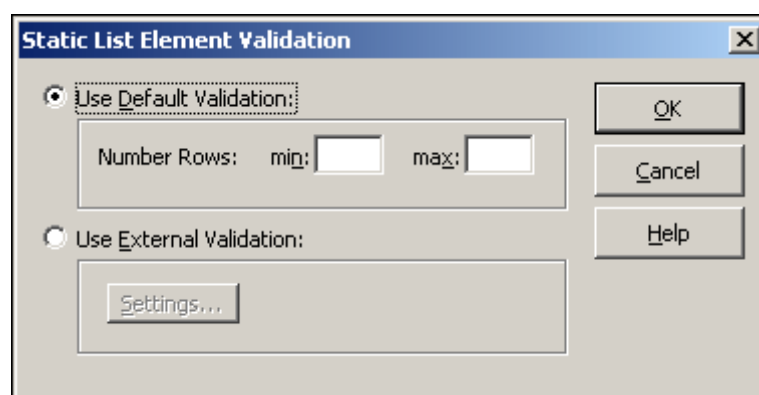
要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p>Undo: 最後の編集を元に戻すことができます。</p> <p>Redo: 最後の編集をやりなおすことができます。</p> <p>Add Item: リストに新しい行または列を追加できます。</p> <p>Remove Item: リストから行または列を削除できます。</p> <p>Edit Existing Item: リストの行または列を編集できます。</p> <p>Move Item Up: リストの行を上に移動できます。</p> <p>Move Item Down: リストの行を下に移動できます。</p> <p>Insert link: ハイパーリンクを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Link Settings: 「Region Content Options」ダイアログ・ボックス (A-60 ページの「Region Content Options」ダイアログ・ボックス) を開き、このボックスでコントリビュータのリンクのオプションを指定します。 <p>Remove link: ハイパーリンクを削除できます。</p> <p>Edit hyperlink targets: ハイパーリンクのターゲットのファイルを編集できます (「Element」メニューを使用してメニューを右クリックします)。</p> <p>Insert Image: イメージ (gif、jpg および png) の追加と置換えを行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set QueryText: 「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを開きます (A-48 ページの「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス) を参照)。このダイアログ・ボックスでは、コンテンツ・サーバーで使用してコントリビュータにイメージを表示する問合せを指定します。 ■ Show Results Only (On/Off): イメージを検索する際に、コンテンツ・サーバー環境を表示または非表示にします。 <p>Apply CSS Classes: テキストやグラフィックに Cascading Style Sheet (CSS) の様々なクラスを適用できます。このオプションを有効にする場合、CSS クラスをさらに厳密に実行するために、その他の書式設定オプションの一部 (書体、フォント・サイズ、太字、イタリックなど) を無効にする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Class Names: 「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックス (A-63 ページの「Select CSS Classes」ダイアログ・ボックス) を開きます。このダイアログ・ボックスでは、コントリビュータで使用可能なクラスを指定します。 <p>Validation: コントリビュータで追加されたコンテンツを検証します (コントリビュータに対して特定のコンテンツ要件を課すことができます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Validation Settings: 「Static List Element Validation」ダイアログ・ボックス (A-71 ページの「Static List Element Validation」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスで検証するコンテンツを指定します。 <p>Apply HTML Tags: HTML で編集するコントリビュータが使用可能なタグを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Tag Names: コントリビュータに許可する特定のタグを選択します。 <p>Set Element Height: 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Height: 数値と測定単位 (センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント) を入力して、要素の高さを設定します。
Check All	<p>コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。</p>
Clear All	<p>コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。</p>
Parameters	<p>「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス (A-91 ページの「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス) を開き、このボックスで静的リストの外観と動作を変更できます。</p>
OK	<p>設定を保存して、「Static list element」ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>

要素	説明
Cancel	設定をキャンセルして、「Static list element」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

A.40 「Static List Element Validation」 ダイアログ・ボックス

コントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションで作業する場合、通常はどのようなコンテンツも自由に追加できます。ただし、設計者の場合は、特定の基準（コントリビュータが静的リストに追加できる行数を制限するなど）の実施が目的になります。（「Static List Element」ダイアログ・ボックス（A-69 ページの「[「Static List Element」ダイアログ・ボックス](#)」を参照）で使用可能な）要素の検証を使用して、このような基準を実施できます。

図 A-51 「Static List Element Validation」 ダイアログ



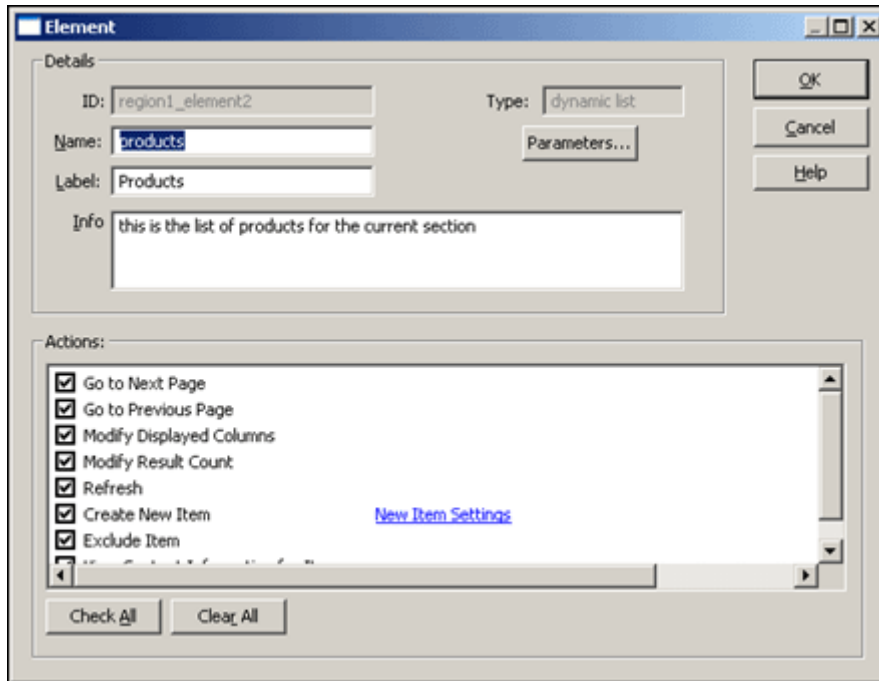
要素	説明
Use default validation	<p>Number Rows</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ min: 最小行数を規定します。 ■ max: 最大行数を規定します。
Use external validation	<p>指定した外部の検証スクリプトを使用します。</p> <p>Settings: 「Advanced Element Validation」ダイアログ・ボックス（A-68 ページの「「Advanced Element Validation」ダイアログ・ボックス」を参照）を開きます。このボックスでは、使用するスクリプトの値を入力できます。</p>
OK	設定を保存して、「Static List Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Static List Element Validation」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

このダイアログ・ボックスのデフォルトの検証オプションは、Site Studio に付属のスクリプト `ss_default_validation_script.js` から派生したものです。

A.41 「Dynamic List Element」 ダイアログ・ボックス

動的リストとは、強力で柔軟性のあるフラグメントと、コントリビューション機能を組み合わせたものです。動的リストは、コンテンツ・サーバーで問合せを実行してその問合せに一致するファイルを表示します。このリストを使用すると、コントリビュータは該当ファイルの変更や新規ファイルの追加を行うことができます。このダイアログ・ボックスでは、動的リストで使用可能なコントリビューション・オプションを制御できます。

図 A-52 「Dynamic List Element」 ダイアログ



要素	説明
ID	Site Studio によって要素に割り当てられる ID。
Name	要素に割り当てる名前。この名前は、コントリビュータが変更するまで Web ページ上のプレースホルダ・テキストとして表示されます。コーディングにも使用されず。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。 同じデータ・ファイルを複数のレイアウト・ページで再利用する場合は、各ページのリージョンとその要素の名前を同じにする必要があります。
Label	要素を簡単に説明します。ラベルはコントリビュータのフィールドのそばに表示され、どのようなコンテンツがその場所に表示されるのかを各コントリビュータに知らせます。
Info	コントリビュータの「Info」アイコンにマウスを置くとツールチップとして表示される詳細な説明。
Type	追加する要素のタイプを示します。

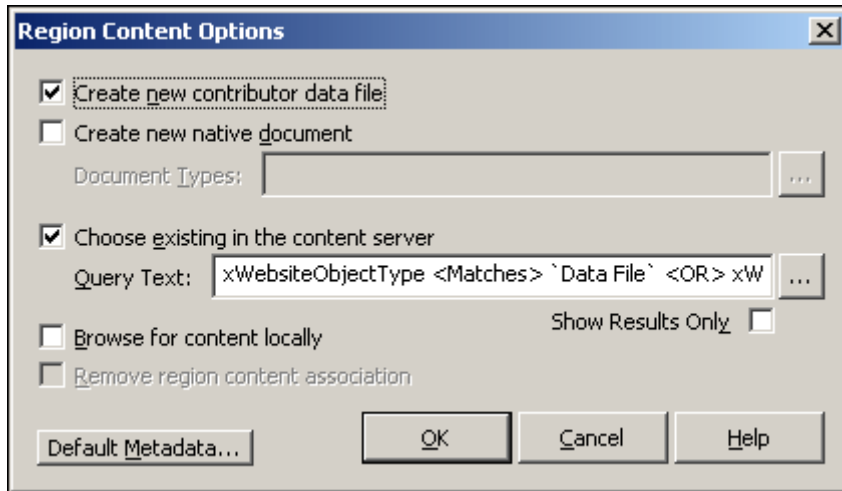
要素	説明
Actions	<p>コントリビュータが使用可能な編集オプションを決定します。</p> <p>Go to Next Page: 該当する場合、次の一致内容をコントリビュータで参照できます。</p> <p>Go to Previous Page: 該当する場合、前の一致内容をコントリビュータで参照できます。</p> <p>Refresh: コントリビュータで動的リストをリフレッシュできます。多くの場合、リストに新しいアイテムを追加した後にリフレッシュします。</p> <p>Create New Item: 動的リストに新しいアイテム（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ New Item Settings: 「Region Content Options」ダイアログ・ボックス（A-74 ページの「Region Content Options」ダイアログ・ボックス）を開きます。このボックスでは、コントリビュータがリストに追加できるファイルのタイプを指定します。 <p>Exclude Item: 動的リストからアイテムを削除できます。（アイテムは、Web サイトのすべての動的リストから削除されますが、コンテンツ・サーバーからは削除されません。）</p> <p>Include Item:（以前に除外した）アイテムを動的リストに挿入できます。</p> <p>View Content Information for Item: リストのアイテムの「Content Information」ページを参照できます。</p> <p>Edit Target Content Item: リストにファイルを追加した後、そのファイルを編集できます。</p> <p>Show Excluded Items: 動的リストに含まれていないアイテムを参照して、リストに再適用できます。</p> <p>Set Element Height: 要素の固定の高さを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Set Height: 数値と測定単位（センチメートル、ミリメートル、インチ、パーセント、パイカ、ピクセル、ポイント）を入力して、要素の高さを設定します。
Check All	コントリビュータがすべての編集オプションを使用できるように、アクションをすべて選択します。
Clear All	コントリビュータが編集オプションも使用できないように、メタデータの値の選択をすべて解除します。
Parameters	「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス（A-91 ページの「 Fragment Parameter Values 」ダイアログ・ボックス）を開き、このボックスで動的リストの外観と動作を変更できます。
OK	設定を保存して、「Dynamic list element」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Dynamic list element」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

リストへの新しいアイテムの追加をコントリビュータに許可する場合、最終的にはコントリビュータが Web サイトに新しい Web ページを追加することになります。

A.42 「Region Content Options」 ダイアログ・ボックス

動的リストへの新しいアイテムの追加をコントリビュータに許可する場合、コントリビュータは新規または既存のコントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントを追加できます。（「Dynamic List Element」 ダイアログ・ボックスからアクセス可能な）このダイアログ・ボックスでは、追加できるファイルのタイプを正確に制御できます。

図 A-53 「Region Content Options」 ダイアログ



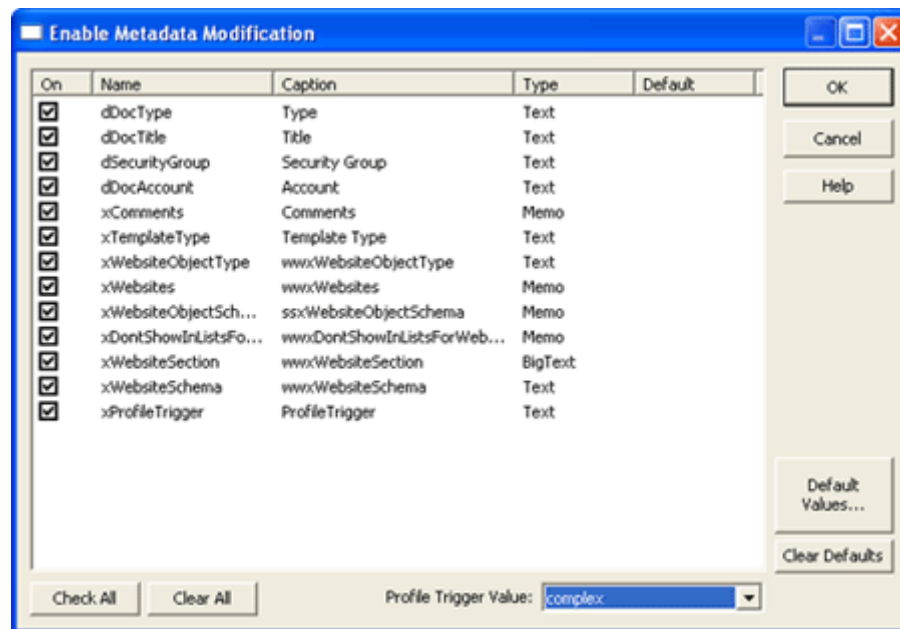
要素	説明
Create new contributor data file	新しいコントリビュータ・データ・ファイルの作成と、そのファイルのリストへの追加をコントリビュータに許可します。
Create new native document	新しいネイティブ・ドキュメントの作成と、そのファイルのリストへの追加をコントリビュータに許可します。 Document Types: コントリビュータが作成可能なネイティブ・ドキュメントを指定します。 「Additional Information」 ボタンにより、「Choose Document Types」 ダイアログ・ボックス (A-47 ページの「 Choose Document Types 」ダイアログ・ボックス) を参照) が開き、このボックスでコントリビュータが使用可能なドキュメント・タイプを選択できます。
Choose existing in the content server	このオプションは、動的リストの間合せでコンテンツ・サーバー内の既存のファイルがすでに取得されるため、動的リストのコンテキストでは無効になります。 コントリビュータがリストに表示されていないコンテンツ・サーバーの既存のファイルを追加するには、リストで使用されるメタデータと一致するようにそのファイルのメタデータを変更する必要があります。
Browse for content locally	ローカル・ファイル・システムでのファイルの参照と、そのファイルのリストへの追加をコントリビュータに許可します。
Remove region content association	このオプションは、動的リストのコンテキストでは無効です。これは、コントリビュータ用にコントリビューション・リージョンのオプションを設定する場合のみ使用できます。
Default Metadata	「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス (A-75 ページの「 Enable Metadata Modification 」ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、使用可能なメタデータと、リストに追加する新しいファイルに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定できます。
OK	設定を保存して、「Region Content Options」 ダイアログ・ボックスを閉じます。

要素	説明
Cancel	設定をキャンセルして、「Region Content Options」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイン・ガイド』) を開きます。

A.43 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ・ボックス

動的リストへの新しいアイテムの追加をコントリビュータに許可する場合 (A-72 ページの「[Dynamic List Element](#)」ダイアログ・ボックス) を参照)、新しいファイル (コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント) に割り当てられるメタデータを制御できます。デフォルトで割り当てられるメタデータと、コントリビュータが変更できるメタデータを指定できます。このダイアログ・ボックスでは、これらの値を指定できます。

図 A-54 「Enable Metadata Modification」 ダイアログ



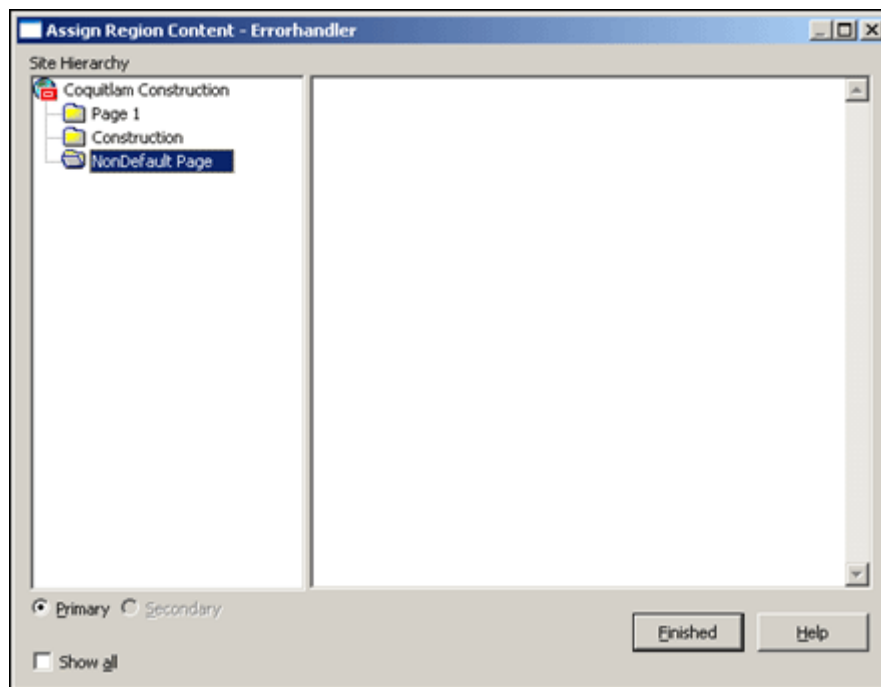
要素	説明
On Name Caption Type Default (表示領域)	コンテンツ・サーバーで使用可能なメタデータを表示します。各メタデータの近くにはチェック・ボックスがあります。 新しいコントリビュータ・データ・ファイルを作成するときにメタデータの値の設定をコントリビュータに許可する場合はこのボックスを選択します。または、新しいコントリビュータ・データ・ファイルを作成するときにコントリビュータがその値を設定できないようにする場合は、ボックスの選択を解除します。 「Default」列には、デフォルトで割り当てられるメタデータの値が表示されます (次の「Default Values」ボタンを参照)。このダイアログ・ボックスでオプションを無効にする場合は、特にデフォルトのメタデータの値を指定することが重要です。
Check All	コントリビュータがすべてのメタデータの値を変更できるように、値をすべて選択します。
Clear All	コントリビュータがどのメタデータの値も変更できないように、すべてのメタデータの値の選択を解除します。

要素	説明
OK	設定を保存して、「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Enable Metadata Modification」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。
Default Values	(コンテンツ・サーバーで)「Assign Info Form」を開きます。ここでは、新しいコントリビュータ・データ・ファイルに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定します。 コントリビュータによって追加された新しいファイルが確実にリストに表示されるように、指定したデフォルトのメタデータの値が、動的リストの間合せ (ssQueryText パラメータ) と一致することが重要です。
Clear Defaults	デフォルトのメタデータ値の選択を解除します。

A.44 「Assign Region Content」 ダイアログ・ボックス

プライマリ・ページの各コントリビューション・リージョンには、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てる必要があります。セカンダリ・ページの各コントリビューション・リージョンには、ファイルを割り当てるか、ファイルを置換え可能として指定する必要があります。このダイアログ・ボックスでこれらのタスクを実行します。コントリビュータは、ファイルの割当てと、リージョンに割り当てられたファイルの編集も可能です (設計者がこれらのアクションを許可している場合)。

図 A-55 「Assign Region Content」 ダイアログ



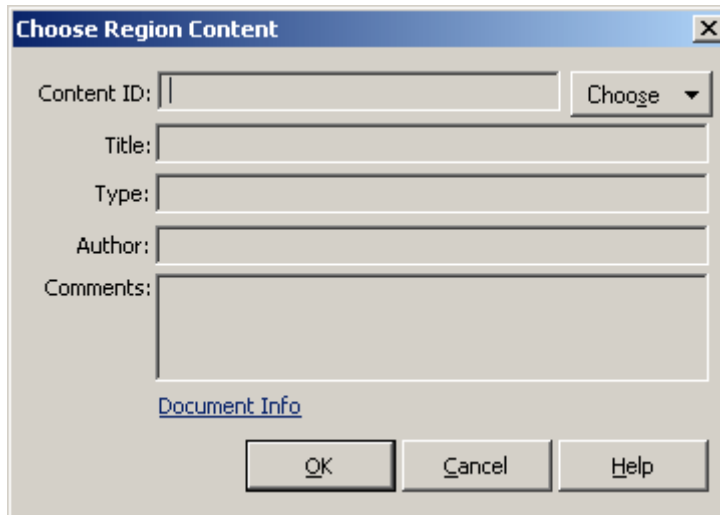
要素	説明
Site Hierarchy	<p>サイト階層を表示して、コンテンツが割り当てられているレイアウト・ページを示します。</p> <p>フォルダ・アイコンは、セクションにコンテンツが割り当てられているか、またはセクションが置換えとして指定されていることを示します。</p> <p>Xフォルダ・アイコンは、セクションにコンテンツが存在しないか、またはセクションを置換え可能として指定する必要があることを示します。</p> <p>セクションをクリックして、プライマリ・ページとセカンダリ・ページのコントリビューション・リージョンを表示および構成します。</p>
	<p>コントリビューション・リージョン・ボックスはプレビュー・ペインの流動的なウィンドウで、ページ上の各リージョンを表示するためにサイズと位置を変更できます（これは、複数のコントリビューション・リージョンを使用する場合に特に便利です）。</p> <p>コントリビューション・リージョン・ボックスは、コンテンツをリージョンに割り当てるか、またはコンテンツを置換え可能として指定するまでは赤で表示され、その後は緑で表示されます。次の設定を使用できます。</p> <p>Select Content: 「Choose Region Content」ダイアログ・ボックス (A-78 ページの「Choose Region Content」ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、新規または既存のデータ・ファイルやネイティブ・ドキュメントを選択して、そのファイルをリージョンに割り当てることができます。（リージョンに割り当てられている現在のファイルの削除も可能です。）</p> <p>Set replaceable: 新しいコントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントがこの場所に表示されるように、リージョンを置換え可能にします。セカンダリ・ページのいずれかのリージョンにこの選択を行います。</p> <p>Apply to all sections: 同じレイアウト・ページが使用されるすべてのセクションに同じコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを適用します。</p> <p>Generate unique files: 「Generate Unique Region Content」ダイアログ・ボックス (A-79 ページの「Generate Unique Region Content」ダイアログ・ボックス) を開きます。このボックスでは、このレイアウト・ページが使用されるすべてのセクションに一意のデータ・ファイルを自動的に生成できます。</p> <p>View web site usage report: このファイルが使用されるすべてのセクションを示すサイト・レポートを開きます。</p>
Primary	サイト階層にプライマリ・ページを表示します。
Secondary	サイト階層にセカンダリ・ページを表示します。
Show all	<p>サイト階層を展開し、コンテンツが存在しないセクションや置換え可能として指定されていないセクションを表示します。このようなリージョンが複数ある場合は、各リージョンの経由に使用できるナビゲーション・コントロール（次を参照）が表示されます。</p> <p>上向き矢印または下向き矢印をクリックして各リージョンを経由し、コンテンツを割り当てるか、または置換え可能にします。</p>
Finished	設定を保存して、「Assign Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

リージョンにコンテンツを割り当てるのではなく、コントリビュータにこのタスクを実行するように選択できます。

A.45 「Choose Region Content」 ダイアログ・ボックス

プライマリ・ページの各コントリビューション・リージョンには、コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てる必要があります。セカンダリ・ページの各コントリビューション・リージョンには、ファイルを割り当てるか、ファイルを置換え可能として指定する必要があります。(A-76 ページの「[「Assign Region Content」ダイアログ・ボックス](#)」から使用可能な) このダイアログ・ボックスでは、リージョンに新規または既存のコントリビュータ・データ・ファイルやネイティブ・ドキュメントを割り当てることができます。

図 A-56 「Choose Region Content」 ダイアログ



要素	説明
Content ID	リージョンに割り当てられたファイルのコンテンツ ID を表示します。 (このフィールドと、その後のフィールドは、リージョンにファイルを割り当てるまでは空白になっています。)
Title	リージョンに割り当てられたファイルのタイトルを表示します。
Type	リージョンに割り当てられたファイルのタイプ (ドキュメント・タイプ) を表示します。
Author	リージョンに割り当てられたファイルの作成者を表示します。
Comments	リージョンに割り当てられたファイルのコメントを表示します。
Document Info	リージョンに割り当てられたファイルの「Content Information」 ページを開きます。
Choose	リージョンに割り当てられるファイルを選択します。次の 4 つから選択します。 Existing: 「Content Server」 ダイアログを開き、このダイアログで既存のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを選択して、そのファイルをリージョンに割り当てることができます。 New: 作成してリージョンに割り当てることができるファイル・タイプのリストを表示します。 Local: ローカル・ファイル・システムからファイルを選択して、そのファイルをチェックインし、リージョンに割り当てるウィンドウを開きます。 None: リージョンに割り当てられた既存のファイルを削除します。
OK	設定を保存して、「Choose Region Content」 ダイアログ・ボックスを閉じます。

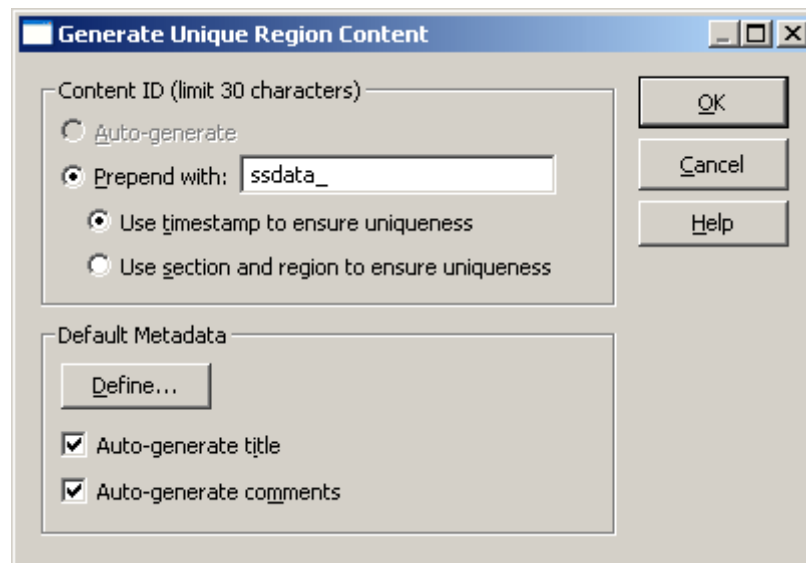
要素	説明
Cancel	設定をキャンセルして、「Choose Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.46 「Generate Unique Region Content」 ダイアログ・ボックス

Site Studio では、サイト階層全体で同じレイアウト・ページの各リージョンに対して一意のコントリビュータ・データ・ファイルを自動的に生成できます。これは、レイアウト・ページを再利用して、そのページにコントリビューション・リージョンを移入する場合（該当ページがサイトのどこで使用される場合でも）に便利です。この機能を使用する際は、それぞれのネーミング規則を指定できます。

すでにリージョンに割り当てられているコントリビュータ・データ・ファイルは上書きされません。

図 A-57 「Generate Unique Region Content」 ダイアログ



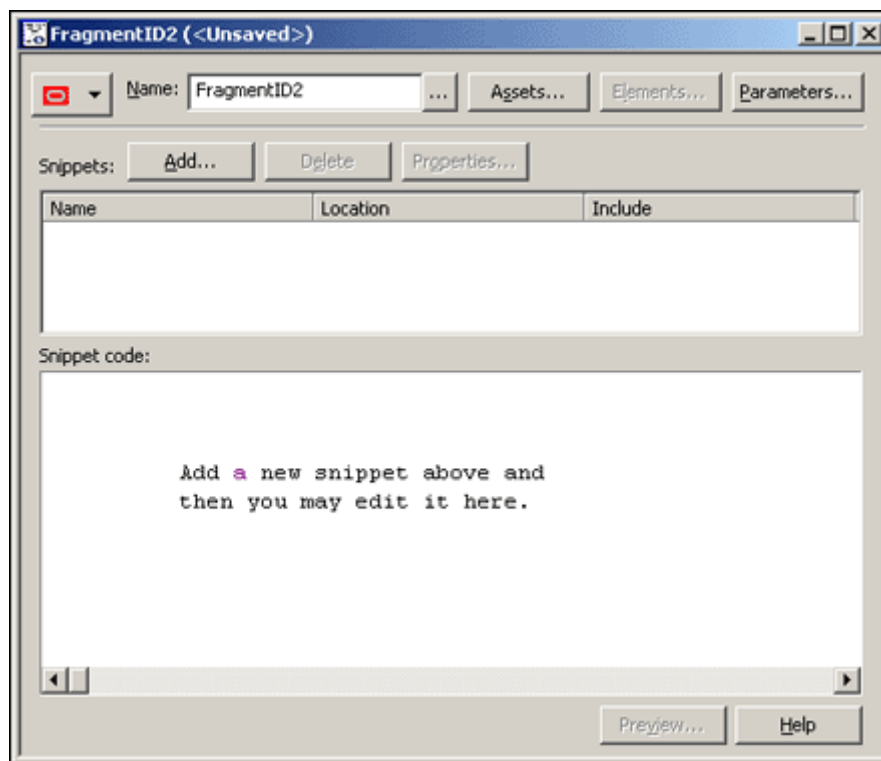
要素	説明
Use auto-generated Content IDs	コンテンツ ID は、コンテンツ・サーバーの設定に基づいて自動的に生成されます。 このオプションは、コンテンツ・サーバーがコンテンツ ID を自動生成するように設定されていない場合は無効です。
Create Content IDs from the following	コンテンツ ID は、ここで指定したネーミング規則に基づいて自動的に生成されます。 Prepend with: この接頭辞が使用された後、次に指定するネーミング規則が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Use timestamp to ensure uniqueness: 名前は一意のタイムスタンプ（ファイルが作成されてコンテンツ・サーバーにチェックインされた時間）に基づきます。 ■ Use section and region to ensure uniqueness: 名前は、ファイルが Web サイトに配置されるセクションとリージョンに基づきます。
Define	コンテンツ・サーバーの「Assign Info Form」を使用して、各ファイルの追加のデフォルトのメタデータ値を定義します。

要素	説明
Auto-generate title	セクションの名前とリージョンの名前に基づいて、タイトルを自動生成します。 たとえば、次のようなタイトルになります。 セクション Products、リージョン Region1 のコントリビューション・データ
Auto-generate comments	セクションの名前とリージョンの名前に基づいて、コメントを自動生成します。 たとえば、次のようなコメントになります。 コメント: これは、Site Studio の Web サイト・セクション Products、リージョン Region1 のリージョン・コンテンツです。
OK	設定を保存して、「Generate Unique Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Generate Unique Region Content」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.47 フラグメント・エディタ

フラグメント・エディタは、フラグメントのすべての部分（スニペット、アセット、パラメータ、要素など）を編集できる編集オプション一式で構成されています。「File」メニューからフラグメント・エディタを開き、ツールボックスでいつでもフラグメントを編集できます。

図 A-58 「Fragment Editor」ダイアログ

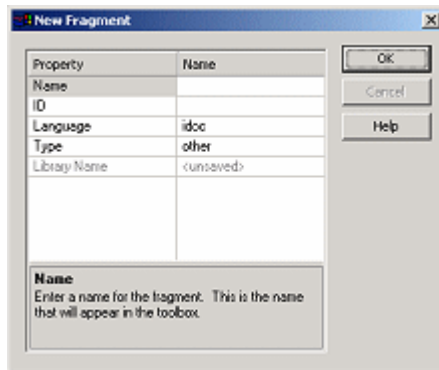


要素	説明
	フラグメントに関連付けられているアイコンを変更します。アイコンは、フラグメントを保存するとツールボックスに表示されます。 使用可能なアイコンを表示して、その中のいずれかのアイコンを選択するには、このボタンをクリックします。
	「Properties for Fragment」ダイアログ・ボックス (A-82 ページの「 Properties for Fragment 」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスでフラグメントの名前、言語およびタイプを変更できます。
Assets	「Fragment Assets」ダイアログ・ボックス (A-83 ページの「 Fragment Assets 」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスでフラグメントのアセットを追加、編集および削除できます。
Elements	「Fragment Elements」ダイアログ・ボックス (A-84 ページの「 Fragment Elements 」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスでフラグメントの各要素を追加、編集および削除できます。 要素は、静的リストのフラグメントにのみ使用できます。そのため、フラグメント・タイプが「staticlist」(A-82 ページの「 Properties for Fragment 」ダイアログ・ボックス) を参照) ではない場合、このボタンは無効です。
Parameters	「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックス (A-85 ページの「 Fragment Parameters 」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスでフラグメントの各パラメータを追加、編集および削除できます。
Add	「Snippet Properties」ダイアログ・ボックス (A-89 ページの「 Snippet Properties 」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスでフラグメントに新しいスニペットを追加できます。
Delete	フラグメントからスニペットを削除します。
Properties	「Snippet Properties」ダイアログ・ボックス (A-89 ページの「 Snippet Properties 」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスでフラグメントのスニペットを編集できます。
Name Location Include (ステータス領域)	フラグメントの既存のスニペットを表示します。
Snippet code	スニペット・コードを表示します。このウィンドウでテキストを編集できます。
Preview	「Fragment Preview」ダイアログ・ボックス (A-92 ページの「 Fragment Preview 」ダイアログ・ボックス) を参照) を開き、このボックスでフラグメントをプレビューできます。 フラグメントをプレビューするには、一連のパラメータの値の選択が求められます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.48 「Properties for Fragment」 ダイアログ・ボックス

フラグメントのプロパティには、フラグメントの名前、ID、言語およびタイプなどがあります。新しいフラグメントを作成するたびに、これらの値の入力が求められます。このダイアログ・ボックスでは、フラグメントの作成後にこのような値の変更も可能です。

図 A-59 「Properties for Fragment」 ダイアログ



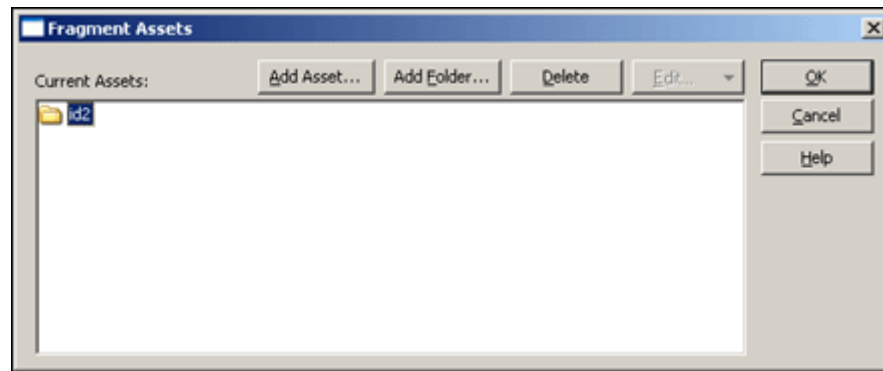
要素	説明
Name	フラグメントを特定します。 フラグメントの名前がツールボックスに表示されます。空白や特殊文字などを使用したわかりやすい名前にします。
ID	フラグメントとその各部分（スニペット、アセット、パラメータなど）を特定します。 初めてフラグメントを作成する場合は ID のみを変更できます。フラグメントでは、XML 属性、およびクラス、ファイル、ディレクトリのベース名としても機能します。ID は簡潔にして、空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。
Language	サーバー側スクリプトのフラグメントで使用される言語を特定します。 サイトのタイプが「hcomp/jsp」の場合、使用可能な言語は「idoc」または「jsp」になります。サイトのタイプが「asp」の場合、使用可能な言語は「asp」になります。
Type	フラグメントのタイプと使用目的を特定します。この選択により、フラグメントに使用可能なオプションと、ツールボックスでのフラグメントの場所が決まります。次の 4 つのタイプがあります。 navigation: フラグメントは、サイト・ナビゲーション（ナビゲーション・バー、ブレッドクラム、検索など）に使用されます。 staticlist: フラグメントを使用して、コントリビュータが各要素を編集できる高度なコントリビューション機能が提供されます。 dynamic list: フラグメントを使用して、コントリビュータがリストに表示されるファイルを変更できる高度なコントリビューション機能が提供されます。 other: フラグメントは、著作権の行、埋め込まれたマルチメディア、またはログイン・スクリプトなどの目的に使用されます。
Library Name	フラグメントが格納されているライブラリを特定します。 注意: 初めてフラグメントを保存するまでは「<unsaved>」が表示され無効になっています。
OK	設定を保存して、「Fragment Properties」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Fragment Properties」ダイアログ・ボックスを閉じます。

要素	説明
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.49 「Fragment Assets」 ダイアログ・ボックス

アセットとは、フラグメントで参照されるファイルで、通常はフラグメントのスニペット内にあります。グラフィック、Cascading Style Sheet (CSS) およびスタンドアロンのスクリプトはすべて、使用頻度の高いアセットになります。このダイアログ・ボックスでは、アセットを追加、編集および削除できます。

図 A-60 「Fragment Assets」 ダイアログ

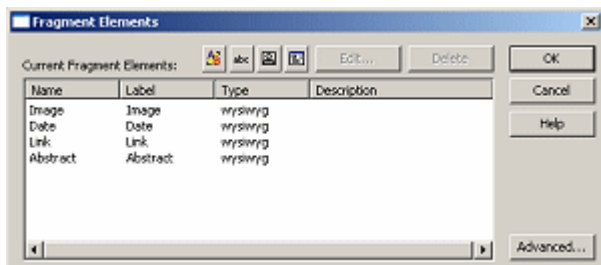


要素	説明
Current Assets	既存のフラグメント・アセットを表示します。
Add Asset	フラグメントにアセットを追加します。 ファイル・システムのアセットを追加します。その後、Site Studio でファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインして、このフラグメントとともにパッケージ化します。
Add Folder	アセットのサブフォルダを追加します。このサブフォルダを使用すると、ファイルをさらに適切に編成できます。 すべてのプラットフォーム（特に UNIX）での互換性を確保するために、サブフォルダではすべて小文字を使用してください。
Delete	フラグメントからアセットを削除します。
Edit	(サード・パーティ製アプリケーションを使用して) アセットを編集します。2つのオプションを使用できます。 Edit: そのファイル・タイプに関連付けられているアプリケーションでアセットを開きます。 Edit With: ファイルを開くアプリケーションを選択するダイアログ・ボックスを開きます。
OK	設定を保存して、「Fragment Assets」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Fragment Assets」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.50 「Fragment Elements」 ダイアログ・ボックス

要素はコントリビュータ内のフィールドになります。このフィールドでユーザーはコンテンツ（テキストとグラフィック）を追加および編集できます。要素をフラグメントでまとめて、静的リストを作成することもできます。静的リストを使用すると、コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集、削除、および再配置できます。このダイアログ・ボックスでは、要素を追加、編集および削除できます。

図 A-61 「Fragment Elements」 ダイアログ

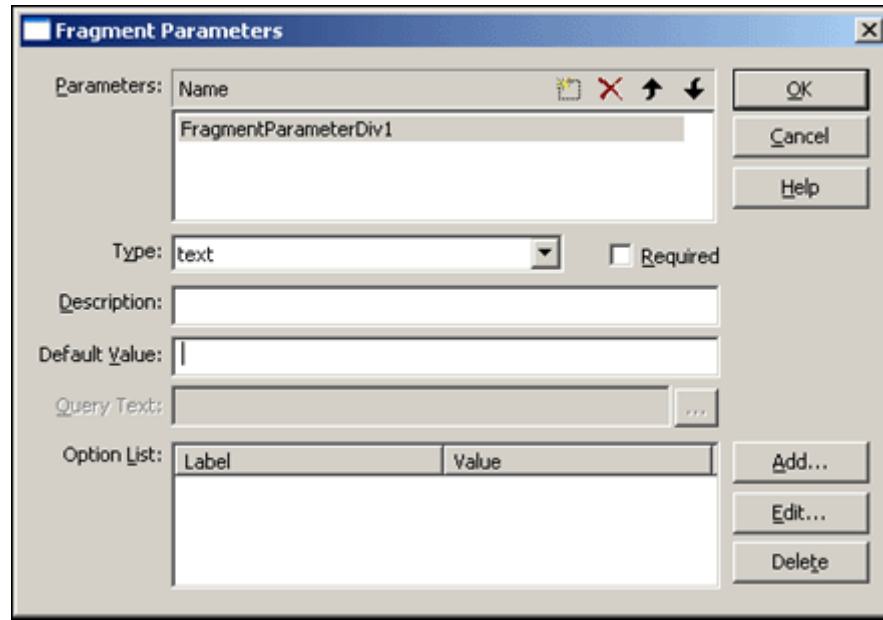






要素	説明
	「WYSIWYG Element」 ダイアログ・ボックス (A-51 ページの「 「WYSIWYG Element」 ダイアログ・ボックス 」を参照) を開き、このボックスでフラグメントに要素を追加します。
	「Plain Text Element」 ダイアログ・ボックス (A-54 ページの「 「Plain Text Element」 ダイアログ・ボックス 」を参照) を開き、このボックスでフラグメントに要素を追加します。
	「Image Element」 ダイアログ・ボックス (A-56 ページの「 「Image Element」 ダイアログ・ボックス 」を参照) を開き、このボックスでフラグメントに要素を追加します。
	「Custom Element」 ダイアログ・ボックス (A-58 ページの「 「Custom Element」 ダイアログ・ボックス 」を参照) を開き、このボックスでフラグメントに要素を追加します。
Edit	フラグメントの選択した要素を編集します。
Delete	フラグメントの選択した要素を削除します。
Name Label Type Description	フラグメントの既存の要素を表示します。
OK	設定を保存して、「Fragment Elements」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Fragment Elements」 ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。
Advanced	要素のカスタマイズなどに使用するテキスト・エディタを開きます。 この方法で要素を編集すると、「Fragment Elements」 ダイアログ・ボックスのグラフィカル・ユーザー・インタフェースに戻ることはできません。サポートされているインタフェースを使用できないためです。

A.51 「Fragment Parameters」 ダイアログ・ボックス

パラメータとは、レイアウト・ページにフラグメントを追加するときにその外観と動作を制御する属性です。このダイアログ・ボックスでパラメータを作成してから、フラグメントを使用する際にこれらのパラメータから選択します (A-91 ページの「[「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス](#)」を参照)。

図 A-62 「Fragment Parameters」 ダイアログ



要素	説明
Parameters: Name	フラグメントの既存のパラメータを表示します。
	フラグメントの新しいパラメータを作成します。 注意: 名前はコーディングに使用されます。空白、ASCII 以外の文字または特殊文字は使用しないでください。また、like (Idoc スクリプトで文字列の比較演算子として使用される) などのコーディング目的で一般的に使用される用語も使用しないでください。
	フラグメントのパラメータを削除します。
	リストのパラメータを上に移動します。移動すると、このダイアログ・ボックスと「 Fragment Parameter Values 」ダイアログ・ボックス (A-91 ページの「 「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス 」を参照) でのパラメータの位置が変わります。
	リストのパラメータを下に移動します。移動すると、このダイアログ・ボックスと「 Fragment Parameter Values 」ダイアログ・ボックス (A-91 ページの「 「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス 」を参照) でのパラメータの位置が変わります。

要素	説明
Type	<p>パラメータの機能（目的）を定義します。次の複数のタイプがあります。</p> <p>text: フラグメントを使用する場合にテキストを挿入できる単純なテキスト・ボックスを表示します。（「Option List: Label Value」で、テキストのオプション・リストを作成できます）。</p> <p>bigtext: フラグメントを使用する場合にテキストを追加および編集できる大きめのテキスト・ボックスを（ポップアップ・ウィンドウに）表示します。</p> <p>boolean: フラグメントを使用する場合に指定できる値「True」または「False」を表示します。</p> <p>integer: フラグメントを使用する場合に指定できる整数値を表示します。（この値では小数点は使用できません。）</p> <p>float: フラグメントを使用する場合に指定できる値（小数点を含む）を表示します。</p> <p>size: フラグメントを使用する場合に指定できるサイズの値（ピクセルまたはパーセンテージ）を表示します。</p> <p>color: フラグメントを使用する場合に色の選択に使用できる RGB の 16 進数値（0xFF0000 など）とカラー・ピッカーを表示します。</p> <p>url: フラグメントを使用する場合に URL を参照して、その URL を値として選択できるダイアログを表示します。</p> <p>manageddoc: フラグメントを使用する場合にコンテンツ・サーバーのドキュメントを参照して、そのドキュメントを値（dDocName）として選択するコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。（次の「Query Text」フィールドを使用して問合せを取得します。）</p> <p>managedurl: フラグメントを使用する場合にコンテンツ・サーバーのドキュメントの URL を参照して、その URL を値として選択するコンテンツ・サーバーのウィンドウを開きます。（次の「Query Text」フィールドを使用して問合せを取得します。）</p> <p>managedquery: 「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス（A-48 ページの「「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス」を参照）を開き、このボックスでフラグメントを使用する場合に問合せを作成できます。このパラメータは、動的リスト・フラグメントの場合に最も役立ちます。</p> <p>cssstyle: フラグメントを使用する場合に CSS スタイルの値を指定できるテキスト・ボックスを表示します。</p> <p>siteid: フラグメントを使用する場合にコンテンツ・サーバーの Web サイトを選択するダイアログ・ボックス（A-34 ページの「「Select Site」ダイアログ・ボックス」を参照）を表示します。</p> <p>nodeid: フラグメントを使用する場合にサイト階層のセクションを選択するダイアログ・ボックス（A-35 ページの「「Select Section」ダイアログ・ボックス」を参照）を開きます。</p> <p>custom: フラグメント・パラメータの高度な機能を表示します。（『Oracle Universal Content Management Site Studio テクニカル・リファレンス・ガイド』を参照。）</p>
Required	<p>パラメータを必須にします。</p> <p>フラグメントを使用する場合、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス（A-91 ページの「「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス」を参照）の前に、各パラメータの値を入力する必要があります。</p> <p>パラメータを必須にして、受入れ可能なデフォルトの値を指定することもできます。</p>
Description	<p>パラメータの説明を表示します。</p> <p>説明は、フラグメントの使用時に、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスの一番下に表示されます。</p>
Default Value	フラグメントを実際に使用する場合、パラメータのデフォルトの値を表示します。

要素	説明
Query Text	(前述の) パラメータ・タイプ「manageddoc」または「managedurl」を使用して、ドキュメントを参照する場合に使用される問合せを指定します。 問合せを指定しない場合は、コンテンツ・サーバーのすべてのコンテンツが検索されます。 「Additional Information」ボタンにより、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス (A-87 ページの「「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス」を参照) が開きます。このボックスでは、コンテンツ・サーバーでの問合せの入力、取得、テストを行うことができます。
Option List: Label Value	フラグメントの既存のオプション・リストを表示します。 オプション・リストを使用して、(前述の) パラメータ・タイプ「text」に可能な値のリストを指定します。フラグメントを使用する場合、値は「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスのオプションのポップアップ・リストに表示されます。
Add	「New Option」ダイアログ・ボックス (A-88 ページの「「New Option」ダイアログ・ボックス」を参照) を開き、このボックスで新しいオプション・リストを追加できます。
Edit	「New Option」ダイアログ・ボックス (A-88 ページの「「New Option」ダイアログ・ボックス」を参照) を開き、このボックスでオプション・リストを編集できます。
Delete	オプション・リストを削除します。
OK	設定を保存して、「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.52 「Edit Query Text」ダイアログ・ボックス

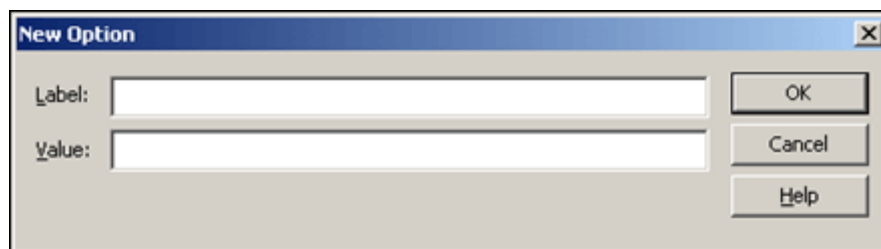
コンテンツ・サーバーの検索に使用されるパラメータ (たとえば、「manageddoc」、「managedurl」、「managedquery」のパラメータ) をフラグメントに追加する場合、実行する問合せを指定する必要があります。このダイアログ・ボックスを使用して、問合せを指定、取得およびテストできます。

要素	説明
[Text field]	このテキスト・ボックスで問合せを指定します。
Capture Query	コンテンツ・サーバーで「Content Query Capture」画面を開き、この画面で問合せを実行してからその問合せを保存 (取得) します。
Test Query	コンテンツ・サーバーで問合せをテストします。
OK	設定を保存して、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Edit Query Text」ダイアログ・ボックスを閉じます。

A.53 「New Option」 ダイアログ・ボックス

フラグメントで「text」タイプのパラメータを作成する場合（A-85 ページの「[Fragment Parameters](#)」ダイアログ・ボックスを参照）、値のリストをオプション・リストの形式で作成できます。フラグメントをレイアウト・ページに追加すると、これらの値は「[Fragment Parameter Values](#)」ダイアログ・ボックスのポップアップ・リストで表示されます。このダイアログ・ボックスでは、オプション・リストを作成できます。

図 A-63 「New Option」 ダイアログ

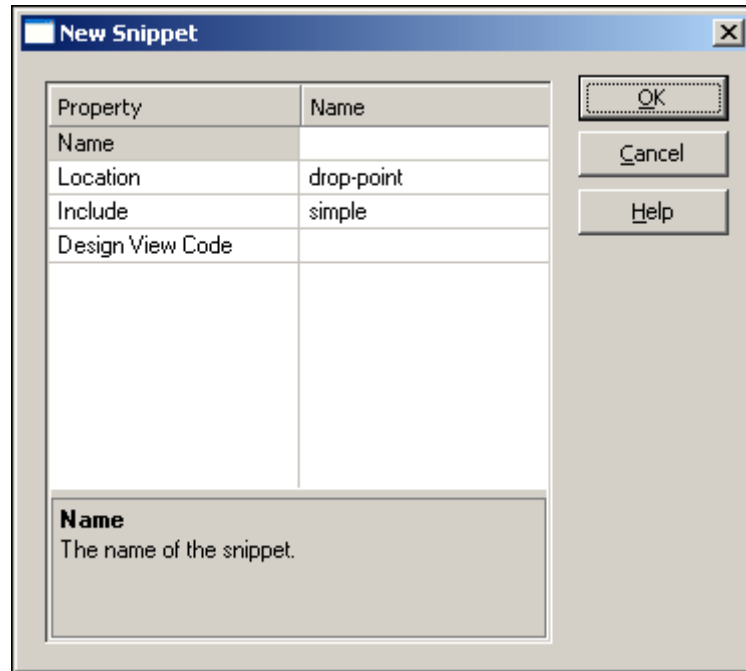


要素	説明
Label	オプション・リストの名前を表示します。
Value	オプション・リストの値（レイアウト・ページに追加されている値）を表示します。
OK	設定を保存して、「New option」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「New option」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

A.54 「Snippet Properties」ダイアログ・ボックス

スニペットとは、フラグメントがレイアウト・ページ（4つの場所のいずれか）に追加するテキストまたはコードです。フラグメントには1つ以上のスニペットが必要です。このダイアログ・ボックスでスニペットのプロパティを定義して、フラグメント・エディタでそのスニペットのコンテンツを編集できます。

図 A-64 「Snippet Properties」ダイアログ



要素	説明
----	----

Name	スニペットの名前。 (名前には、必要に応じて空白と特殊文字を含めることができます。)
Location	スニペットをレイアウト・ページのどこに追加するかを決定します。 次の4つのオプションがあります。 drop-point: レイアウト・ページのカーソルを置いた場所にスニペットを挿入します。 head: レイアウト・ページのヘッド (<HEAD> タグの終了地点) にスニペットを挿入します。 top-of-body: レイアウト・ページの本文の開始地点 (<BODY> タグの直後) にスニペットを挿入します。 bottom-of-body: レイアウト・ページの本文の終了地点 (</BODY> タグの直前) にスニペットを挿入します。

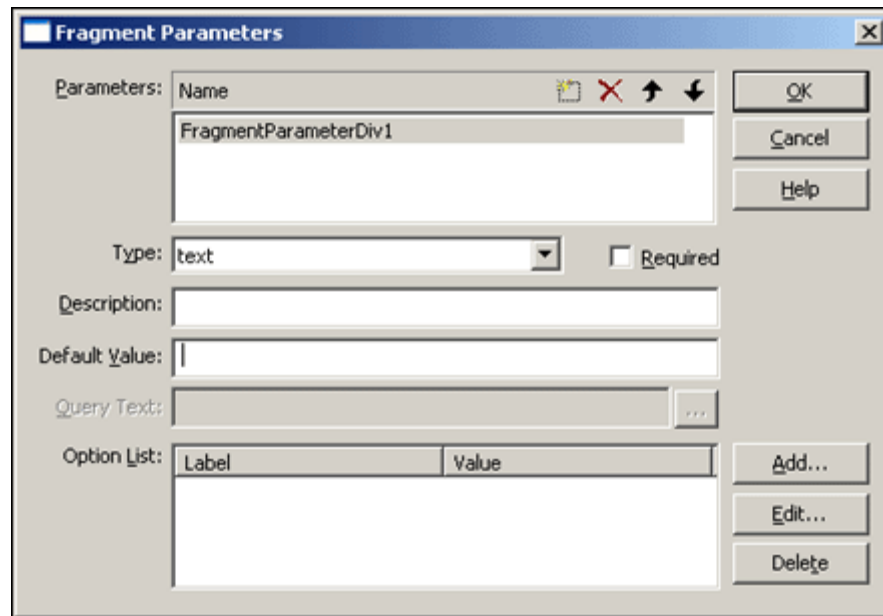
要素	説明
Include	<p>スニペットをレイアウト・ページに追加する方法を決定します。</p> <p>次の3つのオプションがあります。</p> <p>simple: レイアウト・ページにスニペット全体を追加します。パラメータが存在する場合、その値はページに直接追加され、ページの永続的な構成要素となります。フラグメントはフラグメントとみなされなくなり、そのパラメータは変更できません。</p> <p>inline: レイアウト・ページにスニペット全体を追加します。ただし、インライン・スニペットでは、フラグメントとそのパラメータが引き続きフラグメントとして認識されます。フラグメントの移動と削除、そのパラメータの変更を引き続き行うことができます。</p> <p>reference: レイアウト・ページのスニペットに参照を追加します（インクルード・ファイルと類似します）。参照スニペットの場合、引き続きフラグメントとみなされて管理されます。また、フラグメント・エディタでフラグメントを編集したり、レイアウト・ページで変更内容を確認したりすることもできます。</p>
Design View Code	<p>スニペットを「Design」ビューで参照するときにフラグメントのスニペットのプレースホルダ・テキストを作成します。</p> <p>「Additional Information」ボタンにより、プレースホルダ・テキストの入力に使用するテキスト・エディタが開きます。</p> <p>注意: この要素の目的は、「drop-point」、「top-of-body」および「bottom-of-body」の各位置にスニペットを挿入することです（「head」は除外）。</p>
OK	設定を保存して、「Snippet Properties」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Snippet Properties」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。

A.55 「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス

パラメータとは、レイアウト・ページにフラグメントを追加するときにその外観と動作を制御する属性です。フラグメントを使用する場合、フラグメント・エディタでパラメータを作成し (A-85 ページの「[「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックス](#)」を参照)、このダイアログ・ボックスでこれらのパラメータから選択できます。

パラメータはオプションのため、すべてのフラグメントに存在するわけではありません。

図 A-65 「Fragment Parameter Values」ダイアログ



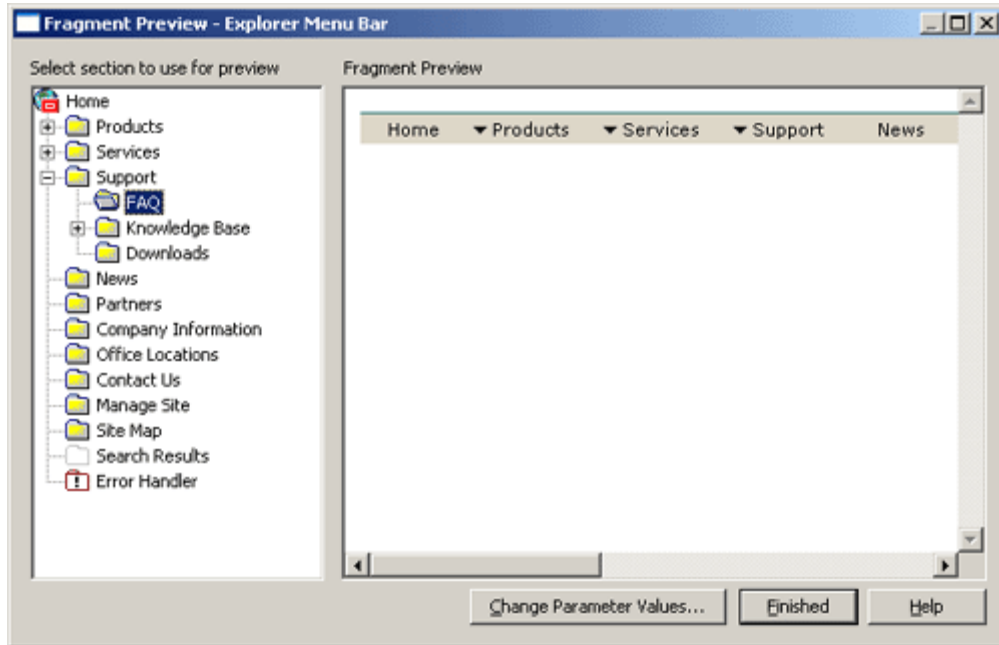
要素	説明
Property	フラグメントで使用可能なパラメータをリストします。 各フラグメントには様々なパラメータがあり (パラメータが存在しないフラグメントもある)、パラメータはフラグメントごとに異なります。
Name	各パラメータの値をリストします。
OK	設定を保存して、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Cancel	設定をキャンセルして、「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックスを閉じます。 この操作により、フラグメントがレイアウト・ページに追加されなくなります。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックスでは、使用できるパラメータの変更、新しいパラメータの追加、およびデフォルトの値の変更が可能です。

A.56 「Fragment Preview」 ダイアログ・ボックス

レイアウト・ページに追加する前に、フラグメントをプレビューできます。このダイアログ・ボックスを開くには、ツールボックスでフラグメントを右クリックしてから「Preview」を選択するか、フラグメント・エディタで「Preview」ボタンを使用します。フラグメントをプレビューするには、最初の一連のパラメータの値の選択が求められます（A-91 ページの「[「Fragment Parameter Values」 ダイアログ・ボックス](#)」を参照）。

図 A-66 「Fragment Preview」 ダイアログ

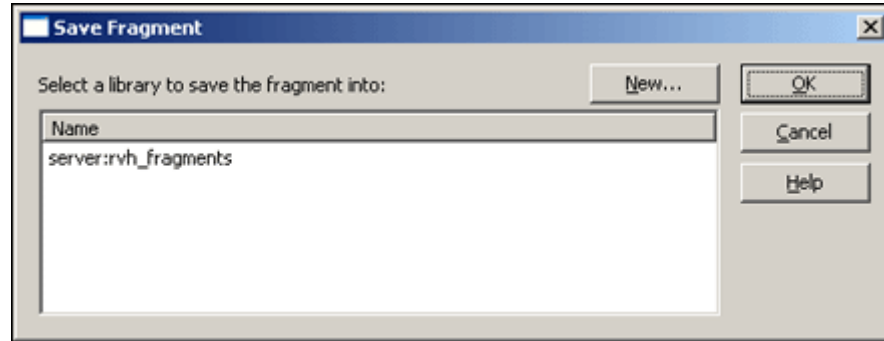


要素	説明
Select section to use for preview	<p>サイト階層を表示します。選択したセクションを使用して、「Fragment Preview」領域にフラグメントを表示します。</p> <p>サイト・ナビゲーションから除外されるセクション、プライマリ・ページのないセクション、または外部 URL がプライマリ・ページとして含まれるセクションを選択することはできません。</p>
「Fragment Preview」	<p>（前述の）サイト階層でハイライト表示されるセクションを使用してフラグメントをプレビューします。</p> <p>静的リスト・フラグメントはプレビューできません。静的リスト・フラグメントを適切に表示するには、コントリビュータ・データ・ファイルにコンテンツが含まれている必要があるためです。</p>
Change Parameter Values	<p>「Fragment Parameter Values」ダイアログ・ボックス（A-91 ページの「「Fragment Parameter Values」 ダイアログ・ボックス」を参照）を開き、このボックスでプレビューに使用されるパラメータの値を変更できます。</p>
Finished	<p>「Fragment Preview」ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>
Help	<p>オンライン・ヘルプ（『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』）を開きます。</p>

A.57 「Save Fragment」ダイアログ・ボックス

フラグメントは、フラグメント・ライブラリに格納されます。フラグメントは、他のフラグメントと同じライブラリに保存したり、各自のライブラリに保存したりすることもできます。このダイアログ・ボックスでは、フラグメントの新しいライブラリも作成できます。

図 A-67 「Save Fragment」ダイアログ



要素	説明
New	フラグメントの新しいライブラリを作成します。 新しいライブラリはコンテンツ・サーバーで作成され、次にサーバーを開いたときに「Save Fragment」ダイアログ・ボックスに表示されます。
Name	コンテンツ・サーバーの既存のフラグメント・ライブラリを表示します。 いずれかのライブラリを選択して、そのライブラリにフラグメントを格納します。
OK	「Save Fragment」ダイアログ・ボックスを閉じて、フラグメント・ライブラリのメタデータを更新できるコンテンツ・サーバーの「Assign Info Form」にユーザーを誘導します。
Cancel	フラグメントを保存せずに「Save Fragment」ダイアログ・ボックスを閉じます。
Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

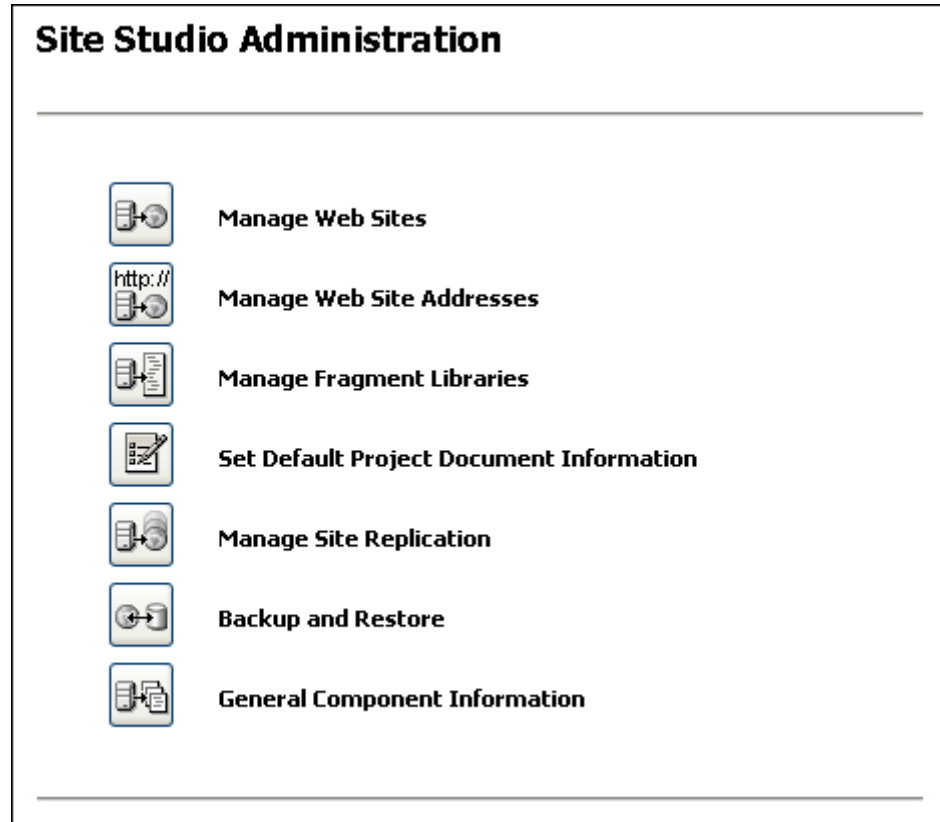
新しいフラグメントを初めて保存するときは「Save Fragment」ダイアログ・ボックスのみが表示されます。以降の保存時には、毎回コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリの「Assign Info Form」に直接移動します。

A.58 「Site Studio Administration」 ページ

サイトを管理するには、デザイナー、マネージャおよびコントリビュータの各アプリケーションを使用する以外に、コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」 ページを使用できます。サイトの開始と終了、プロジェクト・ファイルへのデフォルトのメタデータの割当て、サイトのレプリケート、サイトのバックアップなどの管理タスクを実行できます。

注意：「Top Menus」 レイアウトで Content Server を実行する場合、このページは表示されません。

図 A-68 Site Studio Administration



「Site Studio Administration」 ページでは、次のオプションを使用できます。

要素	説明
Manage Web Sites	「Manage Web Sites」 ページ (A-96 ページの「 Manage Web Sites ページ」を参照) を開きます。このページでは、各サイトの表示、ナビゲーションの更新、サイト・レポートの参照、サイトの開始と終了、サイトのリロードを行うことができます。
Manage Web Site Addresses	「Manage Web Site Addresses」 ページ (A-98 ページの「 Manage Web Site Addresses ページ」を参照) を開きます。このページでは、Web サイトを指し示すドメイン・アドレスを追加できます。
Manage Fragment Libraries	「Manage Fragment Libraries」 ページ (A-99 ページの「 Manage Fragment Libraries ページ」を参照) を開きます。このページでは、フラグメント・ライブラリのデプロイ、JSP サポートの構成を必要に応じて行うことができます。

要素	説明
Set Default Project Document Information	「Set Project Default Document Information」 ページ (A-100 ページの「 Set Project Default Document Information ページ」を参照) を開きます。このページでは、(デザイナーで作成された) 新規のプロジェクト・ファイルに割り当てられるデフォルトのメタデータを指定できます。
Manage Site Replication	「Manage Site Replication」 ページ (A-101 ページの「 Manage Site Replication ページ」を参照) を開きます。このページでは、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートできます。
Backup and Restore	「Backup and Restore」 ページ (A-107 ページの「 Backup and Restore ページ」を参照) を開きます。このページでは、Web サイトのバックアップを作成して、Web サイトのバックアップからリストアできます。
General Component Information	「General Component Information」 ページ (A-112 ページの「 General Component Information ページ」を参照) を開きます。このページでは、サイトに関する便利な情報 (バージョン、Site Studio に固有のメタデータ、ディレクトリ・パスなど) を参照できます。

「Site Studio Administration」 ページは、「Content Server Administration」 ページ、またはデザイナーの「Preview Menu」アイコン (図 A-69) を使用して開くことができます。

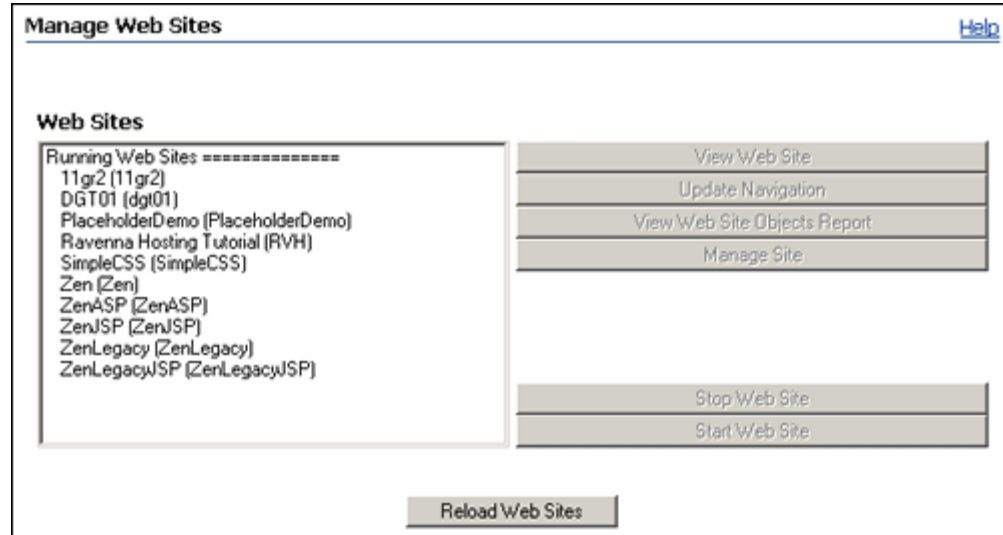
図 A-69 「Preview Menu」 アイコン



A.59 「Manage Web Sites」 ページ

このページでは、Web サイトでの各種管理タスク（各サイトの表示、ナビゲーションの更新、サイト・レポートの参照、サイトの開始と終了、サイトのリロードなど）を実行できます。

図 A-70 「Manager Web Sites」 ページ

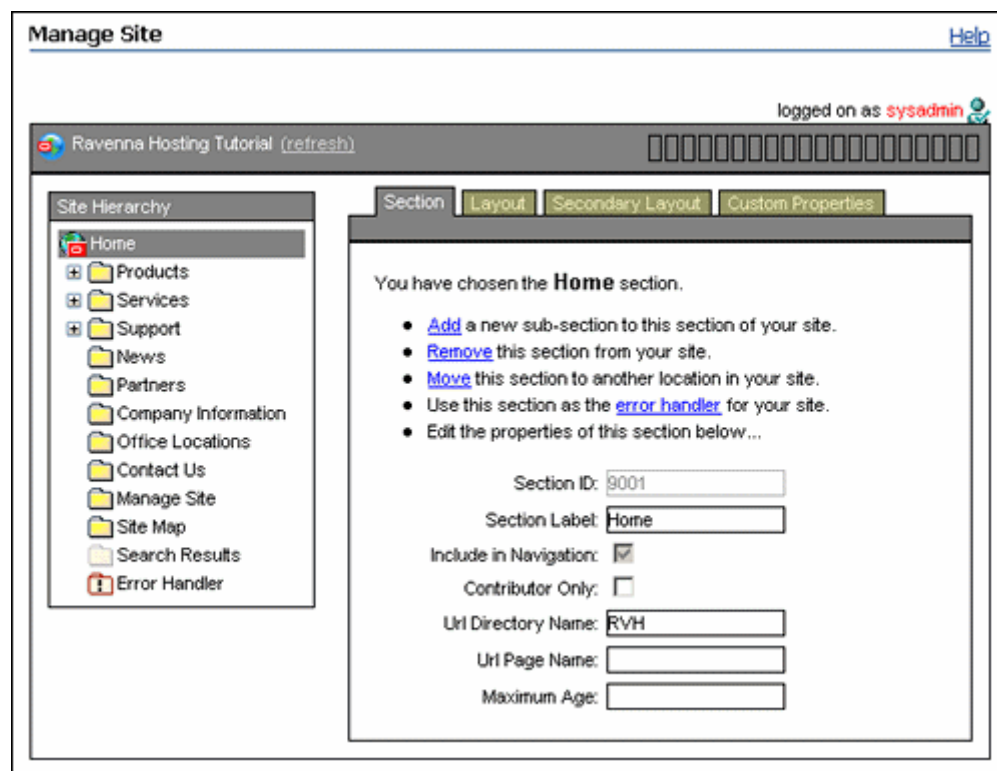


要素	説明
Web Sites	コンテンツ・サーバーの既存の Web サイトを表示します。
View Web Site	Web サイトを開きます（コンテンツで「Web Sites」メニューを使用する場合と同様です）。
Update Navigation	選択した Web サイトのナビゲーション・ファイルを更新します。 デザイナーで同じアクションを実行するには、「Site」 ツールバーの「Update Navigation」 ボタンを使用します。
View Web Site Objects Report	サイト・レポート・ページを開き、サイトで使用されるすべてのファイルとそのファイルの使用場所を示します。
Manage Site	「Site Studio Manager」 ページ（A-97 ページの「 Manage Site ページ」を参照）を開きます。このページでは、サイト階層のすべての面を管理できます。
Stop Web Site	選択した Web サイトを終了します。 このアクションは、Web サーバー上の Web サイトを終了するアクションと非常に似ています。違いは、選択したサイトのみを対象とする点です。
Start Web Site	選択した Web サイトを開始します。 このアクションは、Web サーバー上の Web サイトを終了するアクションと非常に似ています。違いは、選択したサイトのみを対象とする点です。
Reload Web Sites	ページをリフレッシュして、実行中のすべての Web サイトを示します。
Go to Web Sites Update Page	バージョン 7.2 以前の Web サイトが検出された場合に表示します。 レガシー Web サイトの更新の詳細は、インストレーション・ガイドを参照してください。

A.60 「Manage Site」 ページ

マネージャを使用して、サイト階層のすべての面を変更できます。セクションの追加と削除、セクションへの別のレイアウト・ページの割当て、セクションに関連付けられたプロパティの変更などを行うことができます。

図 A-71 「Manage Site」 ページ

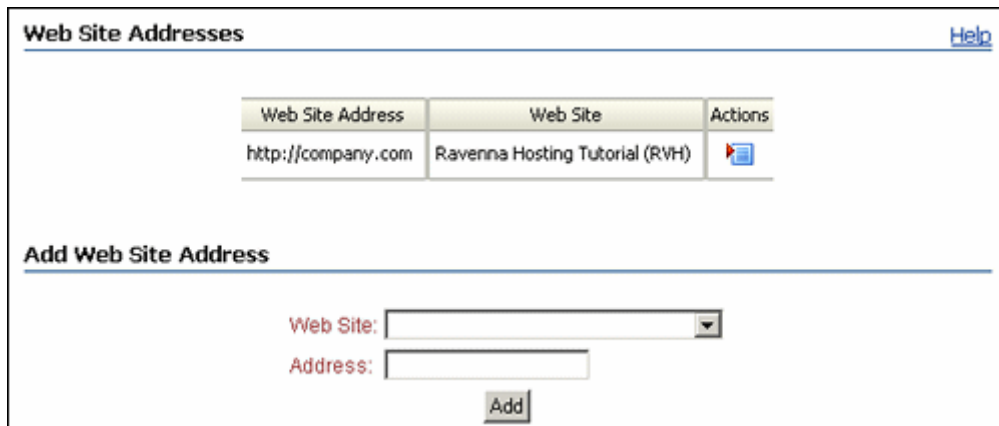


要素	説明
(Manage Site) (Refresh)	「Manage Site」は、マネージャが折りたたまれた状態で開く場合に表示されます。リンクをクリックしてマネージャを展開します。 「Refresh」は、マネージャが展開された状態の場合に表示されません。リンクをクリックし、マネージャをリフレッシュして変更内容を確認します。
Site Hierarchy	サイト階層を表示して、サイト階層の変更に使用します。 ここで実行されるタスクには、マウスと場合によっては右マウス・クリックが必要です。
Section	セクションの追加と削除、セクションのプロパティの変更といった、サイト階層の一般的な変更を行います。
Layout	プライマリ・ページのプレビュー、別のプライマリ・ページ（または外部 URL）の割当て、プライマリ・ページのコンテンツ情報ページの表示を行います。
Secondary Layout	セカンダリ・ページのプレビュー、別のセカンダリ・ページの割当て、セカンダリ・ページのコンテンツ情報ページの表示を行います。
Custom Properties	セクションのカスタム・プロパティを表示および変更します。 カスタム・プロパティは設計者によって作成され、通常はコンテンツ・サーバーの1つのサイトあるいは関連サイトに適用されます。

A.61 「Manage Web Site Addresses」 ページ

サイトにアクセスするには、フォルダ・アドレスとドメイン・アドレスの2つの方法があります。初めてサイトを設定する場合は、`http://UserPC/mysite` (UserPC はマシンの名前、mysite はサイト ID) などのフォルダ・アドレスを使用できます。これがデフォルトです。ただし、サイトにアクセスするには、遅かれ早かれ利便性の高い一般的な方法のドメイン・アドレス (`http://www.mycompany.com` など (mycompany.com はドメイン名)) を使用することが多くなります。

図 A-72 「Manage Web Site Addresses」 ページ



要素	説明
Web Site Addresses	<p>このサイトに構成されている既存のサイト・アドレスを表示します。詳細オプションを表示するには、メニュー・アイコンをクリックします。</p> <p>Select As Default Address: このアドレスをデフォルトのサイト・アドレスにします。</p> <p>Remove Site Address: Web サイトからこのアドレスを削除します。</p>
Add Web Site Address	<p>Web Site: このメニューで、コンテンツ・サーバーの Web サイトを選択します。</p> <p>Address: 使用するドメイン名を入力します。(サイトに複数のドメイン名を追加できます。)</p>
Add	サイトに新しいドメイン名を追加します。

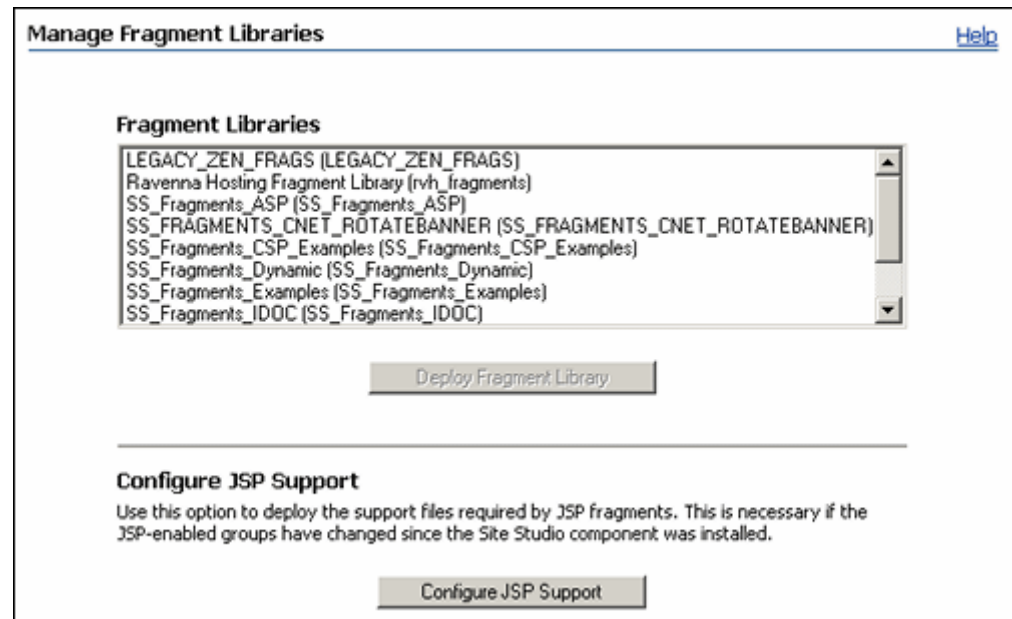
ドメイン・アドレスには、設計者またはサイト管理者が実行する必要がある追加の DNS 構成が必要です。

また、デザイナーで「Site Address」ダイアログ・ボックス (A-20 ページの「[Site Addresses](#)」ダイアログ・ボックス) を使用して、ドメイン・アドレスを構成することもできます。

A.62 「Manage Fragment Libraries」 ページ

Web サイトでフラグメント・ライブラリを使用できるようにするには、コンテンツ・サーバーの特定のディレクトリ (¥weblayout¥fragments¥) にそのライブラリを配置する必要があります。フラグメント・ライブラリは、Site Studio をインストールするとデフォルトでこの場所にデプロイされます。ただし、コンテンツ・サーバーにフラグメント・ライブラリを手動でチェックインする場合は、ライブラリをこの場所にデプロイする必要があります。作業はこのページで行うことができます。また、このページで JSP 対応 Web サイトの JSP サポートも構成できます。

図 A-73 「Manage Fragment Libraries」 ページ



要素	説明
Fragment Libraries	コンテンツ・サーバーにチェックインした既存のフラグメント・ライブラリを表示します。
Deploy Fragment Library	¥weblayout¥fragments¥ディレクトリにフラグメント・ライブラリをデプロイします。フラグメント・ライブラリは、このディレクトリで Site Studio によって使用されます。 また、これらの手順を実行するかわりに、デザイナーで「Upload Fragment Library/Download Fragment Library」要素を使用する方法もあります。
Configure JSP Support	JSP フラグメントが適切に機能するように、コンテンツ・サーバーの必要な場所に JSP サポート・ファイルを再デプロイします。

A.63 「Set Project Default Document Information」 ページ

デザイナーで新しい Web サイトを作成する場合、Site Studio ではプロジェクト・ファイルを生成し、そのファイルを特定のメタデータの値とともにコンテンツ・サーバーにチェックインします。これらの値はこのページで指定できます。

図 A-74 「Set Default Project Document Information」 ページ

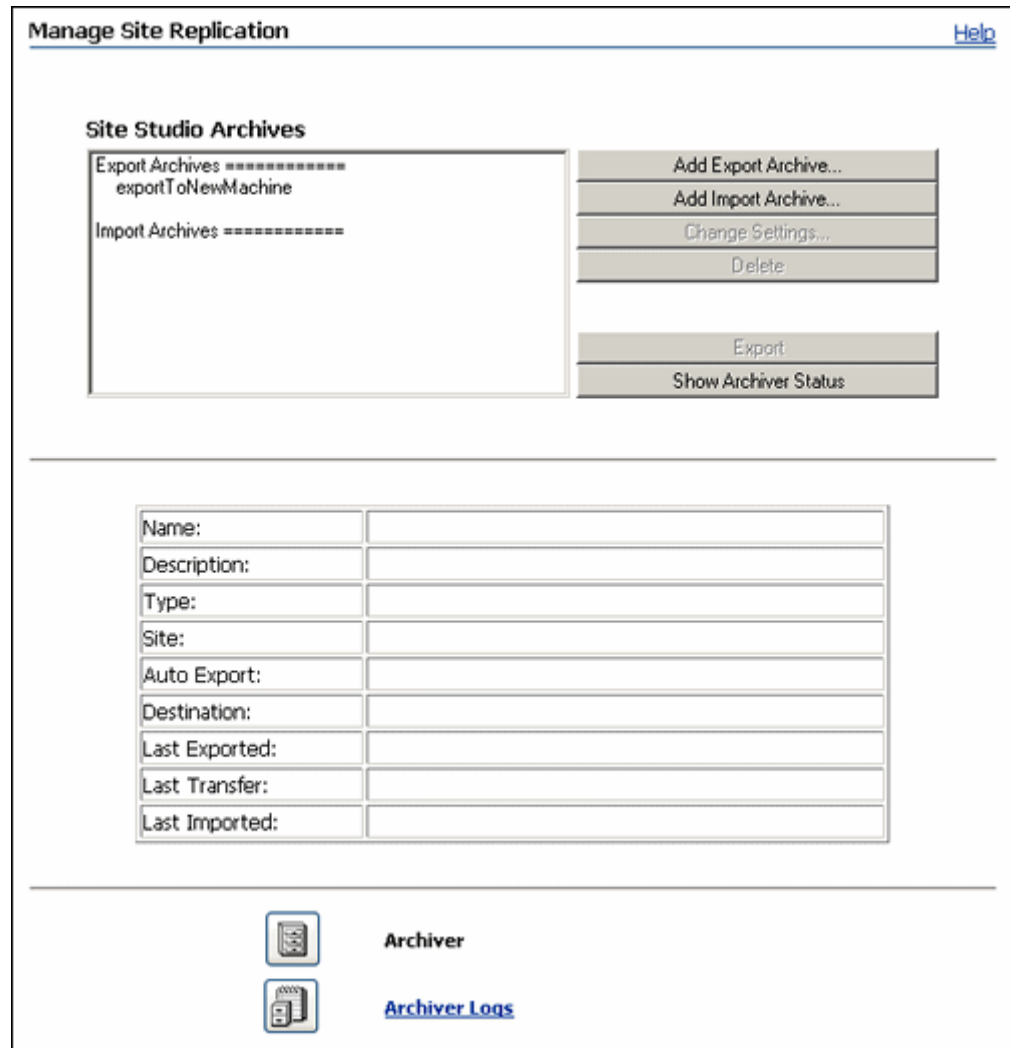
要素	説明
メタデータの値（複数のフィールド）	プロジェクト・ファイルに割り当てることができる、コンテンツ・サーバーの使用可能なメタデータの値をすべて表示します。
Update	プロジェクト・ファイルに割り当てられるメタデータを更新します。
Reset	ページのメタデータをリセットします。

A.64 「Manage Site Replication」 ページ

あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにサイトをレプリケートする場合、ソース・サーバーでエクスポート・アーカイブを作成し、ターゲット・サーバーでインポート・アーカイブを作成する必要があります。このページでは、アーカイブを作成してレプリケーションを開始できます。

これらの手順を実行するには、コンテンツ・サーバー同士が相互通信するようにサーバーを構成する必要があります。

図 A-75 「Manage Site Replication」 ページ



要素	説明
Site Studio Archives	サーバーの既存のエクスポート・アーカイブとインポート・アーカイブを表示します。
Add Export Archive	「Add Export Archive」ページ (A-102 ページの「 Add Export Archive 」ページ) を開きます。このページでは、(ソース・サーバーで) エクスポート・アーカイブを作成できます。
Add Import Archive	「Add Import Archive」ページ (A-105 ページの「 Add Import Archive 」ページ) を開きます。このページでは、(ターゲット・サーバーで) インポート・アーカイブを作成できます。

要素	説明
Change Settings	「Edit Export Archive」 ページ (A-104 ページの「 Edit Export Archive 」 ページ) を参照) または「Edit Import Archive」 ページ (A-106 ページの「 Edit Import Archive 」 ページ) を参照) を開きます。これらのページで既存のアーカイブを編集できます。
Delete	既存のアーカイブを削除します。
Export	ターゲット・サーバーにアーカイブをエクスポートして、レプリケーション・プロセスを開始します。 アーカイブをエクスポートすると、レプリケーション・プロセスが自動で開始されます。ターゲット・サーバーでのアーカイブのインポートや、手動によるアーカイブの転送などは必要ありません。
Show Archiver Status	(ターゲット・サーバーにレプリケートされる) 既存のアーカイブの進行状況を表示します。

A.65 「Add Export Archive」 ページ

エクスポート・アーカイブは、ソース・サーバーに存在します。ここで、エクスポート・アーカイブは Web サイトから情報を収集します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブは、ターゲット・サーバーに存在するインポート・アーカイブにコピーされます。

ソース・サーバーでエクスポート・アーカイブを作成する前に、ターゲット・サーバーでインポート・アーカイブを作成する必要があります。

エクスポート・アーカイブはこのページで作成できます。

図 A-76 「Add Export Archive」 ページ

要素	説明
Archive Type	これがエクスポート・アーカイブとインポート・アーカイブのどちらであるかを指定します（このオプションはすでに選択されています）。
Archive Name	アーカイブの名前。この名前は、「Manage Site Replication」 ページ（A-101 ページの「 Manage Site Replication ページ」を参照）で使用可能なアーカイブのリストに表示されます。 アーカイブ名には、空白や特殊文字を使用しないでください。
Archive Description	アーカイブを説明します。
Web Site	エクスポート・アーカイブの作成元でレプリケートする Web サイトを指定します。このメニューから Web サイトを選択します。 Include project file in export archive: アーカイブにプロジェクト・ファイルが含まれます。つまり、サイト全体をレプリケートします。特定のセクションのみをレプリケートする場合は、このボックスの選択を解除します。
Transfer to Collection	このエクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバーでインポート・アーカイブのコレクションを特定します。 Open Collection: ターゲット・サーバーでコレクションを特定できるブラウザ・ウィンドウを開きます。
Transfer to Archive	このエクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバーでインポート・アーカイブを特定します。 Automatically export new and changed content: ソース・サーバーで変更したコンテンツが、ターゲット・サーバーに自動的にレプリケートされます。
Add Archive	エクスポート・アーカイブを追加し、「Manage Site Replication」 ページ（A-101 ページの「 Manage Site Replication ページ」を参照）に戻ります。
Cancel	設定をキャンセルし、「Manage Site Replication」 ページ（A-101 ページの「 Manage Site Replication ページ」を参照）に戻ります。

A.66 「Edit Export Archive」 ページ

エクスポート・アーカイブは、ソース・サーバーに存在します。ここで、エクスポート・アーカイブは Web サイトから情報を収集します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブは、ターゲット・サーバーに存在するインポート・アーカイブにコピーされます。

既存のエクスポート・アーカイブはこのページで編集できます。

図 A-77 「Edit Export Archive」 ページ

要素	説明
Archive Type	これがエクスポート・アーカイブとインポート・アーカイブのどちらであるかを指定します（このオプションはすでに選択されています）。
Archive Name	アーカイブの名前。この名前は、「Manage Site Replication」ページ（A-101 ページの「 Manage Site Replication 」ページ）を参照）で使用可能なアーカイブのリストに表示されます。 アーカイブ名には、空白や特殊文字を使用しないでください。
Archive Description	アーカイブを説明します。
Web Site	エクスポート・アーカイブの作成元でレプリケートする Web サイトを指定します。
Transfer to Collection	このエクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバーでインポート・アーカイブのコレクションを特定します。 Open Collection: ターゲット・サーバーでコレクションを特定できるブラウザ・ウィンドウを開きます。
Transfer to Archive	このエクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバーでインポート・アーカイブを特定します。 Automatically export new and changed content: ソース・サーバーで変更したコンテンツが、ターゲット・サーバーに自動的にレプリケートされます。
Update	エクスポート・アーカイブを更新し、「Manage Site Replication」ページ（A-101 ページの「 Manage Site Replication 」ページ）を参照）に戻ります。

要素	説明
Cancel	設定をキャンセルし、「Manage Site Replication」 ページ (A-101 ページの「 「Manage Site Replication」 ページ 」を参照) に戻ります。

A.67 「Add Import Archive」 ページ

インポート・アーカイブは、ターゲット・サーバーに存在します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブのコンテンツはインポート・アーカイブにコピーされます。その後、インポート・アーカイブは、そのコンテンツをターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーします。

インポート・アーカイブはこのページで作成できます。

図 A-78 「Add Import Archive」 ページ

要素	説明
Archive Type	これがインポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブのどちらであるかを指定します (このオプションはすでに選択されています)。
Archive Name	アーカイブの名前。この名前は、「Manage Site Replication」 ページ (A-101 ページの「 「Manage Site Replication」 ページ 」を参照) で使用可能なアーカイブのリストに表示されます。 アーカイブ名には、空白や特殊文字を使用しないでください。
Archive Description	アーカイブを説明します。
インポート時に切り替えられたリージョン・コンテンツをターゲット・サーバーで保持します。	選択した場合、コントリビュータがターゲットの Web サイトの各リージョンに割り当てる (切り替える) コンテンツを保持します。 つまり、コントリビュータがリージョンに別のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てた場合のすべてのリージョンが該当し、これらの変更が保持されます。
インポート時にリージョン・コンテンツをターゲット・サーバーで保持します。	選択した場合、コントリビュータがターゲットの Web サイトの各リージョンで編集するコンテンツを保持します。 この操作により、データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントがソース・サーバーからターゲット・サーバーにコピーされたり、コントリビュータが編集するファイルが上書きされたりすることがなくなります。
Add Archive	インポート・アーカイブを追加し、「Manage Site Replication」 ページ (A-101 ページの「 「Manage Site Replication」 ページ 」を参照) に戻ります。
Cancel	設定をキャンセルし、「Manage Site Replication」 ページ (A-101 ページの「 「Manage Site Replication」 ページ 」を参照) に戻ります。

要素	説明
Quick Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.68 「Edit Import Archive」 ページ

インポート・アーカイブは、ターゲット・サーバーに存在します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブのコンテンツはインポート・アーカイブにコピーされます。その後、インポート・アーカイブは、そのコンテンツをターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーします。

既存のインポート・アーカイブはこのページで編集できます。

図 A-79 「Edit Import Archive」 ページ

要素	説明
Archive Type	これがインポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブのどちらであるかを指定します (このオプションはすでに選択されています)。
Archive Name	アーカイブの名前。この名前は、「Manage Site Replication」ページ (A-101 ページの「 Manage Site Replication 」ページ) を参照) で使用可能なアーカイブのリストに表示されます。 アーカイブ名には、空白や特殊文字を使用しないでください。
Archive Description	アーカイブを説明します。
インポート時に切り替えられたリージョン・コンテンツをターゲット・サーバーで保持します。	選択した場合、コントリビュータがターゲットの Web サイトの各リージョンに割り当てる (切り替える) コンテンツを保持します。 つまり、コントリビュータがリージョンに別のコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントを割り当てた場合のすべてのリージョンが該当し、これらの変更が保持されます。
インポート時にリージョン・コンテンツをターゲット・サーバーで保持します。	選択した場合、コントリビュータがターゲットの Web サイトの各リージョンで編集するコンテンツを保持します。 つまり、ターゲット・サーバーでコントリビュータが編集したコントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが保持されます。設計者が導入した新しいデータ・ファイルやネイティブ・ドキュメントのみがインポートされます。

要素	説明
Update	インポート・アーカイブを更新し、「Manage Site Replication」ページ (A-101 ページの「 Manage Site Replication 」 ページ) を参照) に戻ります。
Cancel	設定をキャンセルし、「Manage Site Replication」 ページ (A-101 ページの「 Manage Site Replication 」 ページ) を参照) に戻ります。
Quick Help	オンライン・ヘルプ (『Oracle Universal Content Management Site Studio デザイナ・ガイド』) を開きます。

A.69 「Backup and Restore」 ページ

このページでは、サイトのバックアップの作成、セキュアな場所またはポータブル・デバイスへのバックアップ・ファイルのダウンロード、バックアップからのリストアを行うことができます。バックアップ機能では、Site Studio とコンテンツ・サーバーに組み込まれた既存のアーカイブやレプリケートのフレームワークが使用されます。

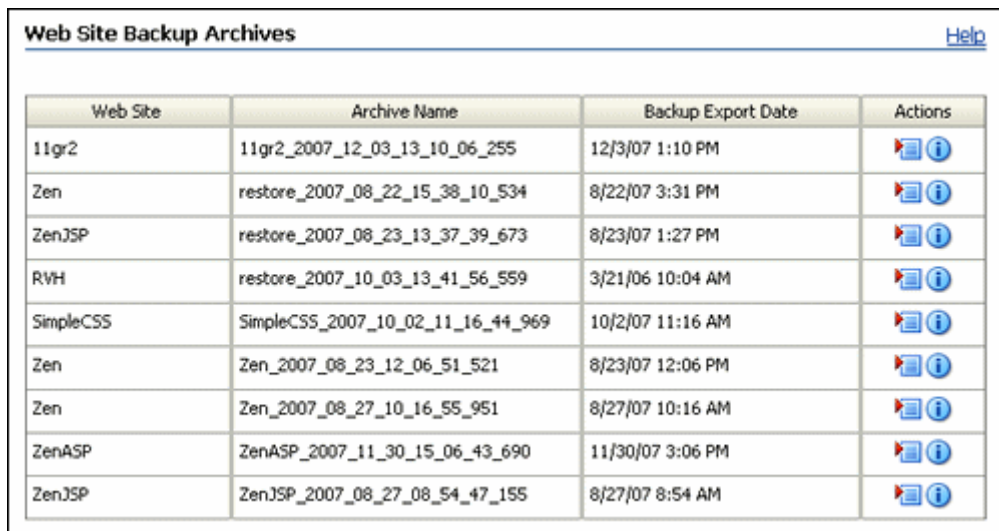
図 A-80 「Backup and Restore」 ページ



















要素	説明
Web Sites	コンテンツ・サーバーにチェックインした既存のフラグメント・ライブラリを表示します。
Create Web Site Backup	¥weblayout¥fragments¥ディレクトリにフラグメント・ライブラリをデプロイします。フラグメント・ライブラリは、このディレクトリで Site Studio によって使用されます。 また、これらの手順を実行するかわりに、デザイナーで「Upload Fragment Library/Download Fragment Library」要素を使用する方法もあります。
Manage Web Site Backups	「Web Site Backup Archives」 ページ (A-108 ページの「「Web Site Backup Archives」 ページ」を参照) にユーザーを誘導します。このページでは、既存のバックアップを表示して、それらのバックアップに対する様々なアクションを選択できます。
Backup Zip File	ファイル・システムから以前のバックアップをアップロードします。 Browse: 「Windows Choose File」ダイアログを開き、このダイアログでファイルを選択できます。
Upload Backup Archive	ファイル・システムからバックアップをアップロードします。


A.70 「Web Site Backup Archives」 ページ

このページでは、既存のバックアップの表示、バックアップのダウンロード、バックアップからのリストア、バックアップの削除を行うことができます。

図 A-81 「Web Site Backup Archives」 ページ



Web Site Backup Archives Help			
Web Site	Archive Name	Backup Export Date	Actions
11gr2	11gr2_2007_12_03_13_10_06_255	12/3/07 1:10 PM	 
Zen	restore_2007_08_22_15_38_10_534	8/22/07 3:31 PM	 
ZenJSP	restore_2007_08_23_13_37_39_673	8/23/07 1:27 PM	 
RVH	restore_2007_10_03_13_41_56_559	3/21/06 10:04 AM	 
SimpleCSS	SimpleCSS_2007_10_02_11_16_44_969	10/2/07 11:16 AM	 
Zen	Zen_2007_08_23_12_06_51_521	8/23/07 12:06 PM	 
Zen	Zen_2007_08_27_10_16_55_951	8/27/07 10:16 AM	 
ZenASP	ZenASP_2007_11_30_15_06_43_690	11/30/07 3:06 PM	 
ZenJSP	ZenJSP_2007_08_27_08_54_47_155	8/27/07 8:54 AM	 

要素	説明
Web Site	このサーバーの既存のバックアップを表示します。
Archive Name	バックアップで使用されるアーカイブの名前を表示します。
Backup Export Date	バックアップの作成日を表示します。
Actions	<p>「Menu」アイコンをクリックして、「Actions」メニューを開きます。</p> <p>Download backup archive as ZIP: バックアップの ZIP ファイルを作成して、そのファイルをファイル・システムにダウンロードします。</p> <p>Delete backup archive: コンテンツ・サーバーのバックアップを削除します。</p> <p>Restore backup archive contents: バックアップからこのサーバーにリストアします。</p> <p>Show server configuration details: 「Server Configuration Details」ページ (A-111 ページの「Server Configuration Details ページ」を参照) を開きます。このページでは、特定のサイトのコンテンツ・サーバー環境を参照できます。</p>
	コンテンツ・サーバーのバックアップ・アーカイブの「Content Information」ページを開きます。
Upload Backup Archive	ファイル・システムからバックアップをアップロードします。

各カテゴリを読み取れるようにこのページの列のサイズを変更するには、枠線の上にマウスを置き、表示が両向き矢印に変わったら、マウスをドラッグして列のサイズを変更します (図 A-82)。

図 A-82 列のサイズ変更



A.71 「Backup Archive Information」 ページ

このページには、アーカイブ名、説明、Web サイト、インポートの日付などのバックアップの詳細が表示されます。

図 A-83 「Backup Archive Information」 ページ

Backup Archive Information [Help](#)

Actions:

Collection: rvh_sitestudiobackupcollection
 Archive Name: restore_2007_10_03_13_41_56_559
 Archive Description: Restore Archive on 10/3/07 1:41 PM

Web Site: RVH
 Archive Type: backup
 Last Exported: 3/21/06 10:04 AM
 Last Imported: 10/3/07 1:42 PM
 Last Export File Count: 346
 Has Server Configuration Information: TRUE
 Export Content Configuration Information: TRUE

Batch Files

Batch File	Instance Name	Number	State
06-mar-21_10.04.03_083/0680100403~1.hda	rvh	346	NEW

要素	説明
Actions	<p>Show server configuration details: 「Server Configuration Details」 ページ (A-111 ページの「Server Configuration Details ページ」を参照) を開きます。このページでは、特定のサイトのコンテンツ・サーバー環境を参照できます。</p> <p>Download backup archive as ZIP: バックアップの ZIP ファイルを作成して、そのファイルをファイル・システムにダウンロードします。</p> <p>Restore backup archive contents: バックアップからこのサーバーにリストアします。</p> <p>Delete backup archive: コンテンツ・サーバーのバックアップを削除します。</p>
Backup Archive Information	バックアップ・サイトの詳細を表示します。
Batch Files	バックアップで使用するバッチ・ファイルの詳細を表示します。

各カテゴリを読み取れるようにこのページの列のサイズを変更するには、枠線の上にマウスを置き、表示が両向き矢印に変わったら、マウスをドラッグして列のサイズを変更します (図 A-84)。

図 A-84 列のサイズ変更



A.72 「Server Configuration Details」 ページ

このページでは、特定のバックアップ・サイトに関するサーバー構成の詳細（使用されたメタデータ、セキュリティ・グループ、インストール済のコンポーネントなど）を参照できます。これは、特定のサイトをリストアする前にそのサイトのコンテンツ・サーバー環境を把握する必要がある場合に便利です。

図 A-85 「Server Configuration Details」 ページ

Server Configuration Details Help										
DocMetaDefinition										
dName	dType	dIsRequired	dIsEnabled	dIsSearchable	dCaption	dIsOptionList	dOptionList	dDefaultValue	dOrder	dOptionListType
xComments	Memo	0	1	1	Comments	0			1	
xExcludeFromSearch	Memo	0	1	1	Exclude From Search	0			45	
xTemplate	Text	0	1	0	Template	1	TemplateList		43	combo
xWebsite	Text	0	1	1	Web Site	1	WebsiteObjectList		43	choice
xWebsites	Memo	0	1	1	Web Sites	0			45	
xWebsitesBigText	BigText	0	1	1	Web Sites	0			47	

OptionsList		
dKey	dOption	dOrder
TemplateTypeList	GUI Template	1
TemplateTypeList	Layout Template	2
TemplateTypeList	Script Template	3
TemplateTypeList	Wireless Template	4
WebsiteObjectTypeList		1
WebsiteObjectTypeList	Data File	2
WebsiteObjectTypeList	Layout File	3
WebsiteObjectTypeList	Native Document	4

要素	説明
DocMetaDefinition	コンテンツ・サーバーで使用されたドキュメント・タイプを表示します。
OptionsList	コンテンツ・サーバーで使用されたオプション・リストを表示します。
QdocTypes	コンテンツ・サーバーで使用されたデフォルトのドキュメント・タイプを表示します。
Qroles	コンテンツ・サーバーで使用されたユーザーを表示します。
QsecurityGroups	コンテンツ・サーバーで使用されたセキュリティ・グループを表示します。
DocFormats	コンテンツ・サーバーで使用されたドキュメント形式を表示します。
ConfigCfg	コンテンツ・サーバーで使用された構成設定を表示します。
GeneralConfig	コンテンツ・サーバーで使用された一般的な構成設定を表示します。
ServerEnvironment	コンテンツ・サーバーで使用されたサーバー環境を表示します。
ComponentConfiguration	コンテンツ・サーバーで使用されたインストール済のコンポーネントを表示します。
Providers	コンテンツ・サーバーで使用されたプロバイダを表示します。

特定のカテゴリを展開してそのカテゴリを別のページで表示するには、そのカテゴリの見出しをクリックします。

各カテゴリを読み取れるようにこのページの列のサイズを変更するには、枠線の上にマウスを置き、表示が両向き矢印に変わったら、マウスをドラッグして列のサイズを変更します (図 A-86)。

図 A-86 列のサイズ変更



A.73 「General Component Information」 ページ

このページでは、インストールされた Site Studio コンポーネント、Site Studio に固有のメタデータ、ディレクトリ・パス、バージョンなどの詳細について確認できます。

図 A-87 「General Component Information」 ページ

General Component Information Help	
Product Version:	7.7.0.1
Component Build Version:	[ant:buildnumber]
Disable Contribution:	FALSE
Web Site Object Type Field:	xWebsiteObjectType
Web Site ID Field:	xWebsiteID
Web Sites Field:	xWebsites
Web Site Section Field:	xWebsiteSection
Do not Show In Lists For Web Sites Field:	xDontShowInListsForWebsites
Relative Web Sites Root:	/10gR3_1/websites/
Relative Fragments Root:	/10gR3_1/fragments/
Unique Section Counter Value:	36

要素	説明
Product Version	コンポーネントのバージョンを表示します。
Component Build Version	コンポーネント・バージョンの特定のビルドを表示します。
Disable Contribution	コントリビューションが無効かどうか (値は TRUE または FALSE) を示します。
Web Site Object Type Field	メタデータ・フィールド (「xWebsiteObjectType」) を表示します。
Web Site ID Field	メタデータ・フィールド (「xWebsiteID」) を表示します。
Web Sites Field	メタデータ・フィールド (「xWebsites」) を表示します。
Web Site Section Field	メタデータ・フィールド (「xWebsiteSection」) を表示します。
Do not Show In Lists For Web Sites Field	メタデータ・フィールド (「xDontShowInListsForWebsites」) を表示します。
Relative Web Sites Root	Web サイトのパス (/stellent/websites/) を表示します。
Relative Fragments Root	フラグメントのパス (/stellent/fragments/) を表示します。
Unique Section Counter Value	サイト階層の新しく作成されたセクションに使用される ID (設計者が手動でセクション ID を入力する場合を除く)。

サンプル・フラグメント

Site Studio には、すぐに使用できるサンプル・フラグメントが多数用意されています。フラグメントの作成に使用されたコードを把握する必要はありません。サンプル・フラグメントをそのまま使用したり、そのソース・コードを編集したり、既存のフラグメントをベースに新しいフラグメントを作成したりすることができます。フラグメントの構造や実用的用途を学ぶには、サンプル・フラグメントから始めるのが最善の方法です。

レイアウト・ページにフラグメントを追加する場合、多くのサンプル・フラグメントに含まれているパラメータを使用して各フラグメントをカスタマイズできます。

サンプル・フラグメントは、ツールボックスで4つのカテゴリに分類されます。次に、各フラグメントと、そのフラグメントの使用可能なパラメータについて説明します。

- B-2 ページの「ナビゲーション・フラグメント」
- B-21 ページの「動的リスト・フラグメント」
- B-25 ページの「静的リスト・フラグメント」
- B-26 ページの「その他のフラグメント」

B.1 ナビゲーション・フラグメント

ナビゲーション関連のフラグメントは次のとおりです。

- B-3 ページの「[ブレッドクラム・プレーン](#)」
- B-3 ページの「[エクスプローラ・メニュー・バー](#)」
- B-3 ページの「[ログイン・サンプル](#)」
- B-4 ページの「[ナビゲーション・ホーム・ロゴ](#)」
- B-4 ページの「[水平方向のナビゲーション・マルチ](#)」
- B-5 ページの「[垂直方向のナビゲーション・マルチ](#)」
- B-5 ページの「[水平方向のナビゲーション・プレーン](#)」
- B-6 ページの「[垂直方向のナビゲーション・プレーン](#)」
- B-6 ページの「[トップ・ナビゲーション・タブ](#)」
- B-6 ページの「[水平方向のナビゲーション・ラップ](#)」
- B-7 ページの「[検索ボックス・プレーン](#)」
- B-7 ページの「[検索結果ページ](#)」
- B-8 ページの「[検索結果プレーン](#)」
- B-8 ページの「[サイト・マップ・プレーン](#)」
- B-9 ページの「[サイト・マップ・ツリー](#)」
- B-9 ページの「[垂直方向のメニュー・バー](#)」
- B-9 ページの「[ASP ブレッドクラム・プレーン](#)」
- B-10 ページの「[ASP ブレッドクラム・プレーン \(サーバー\)](#)」
- B-10 ページの「[ASP エクスプローラ・メニュー・バー](#)」
- B-10 ページの「[水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ](#)」
- B-11 ページの「[垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ](#)」
- B-11 ページの「[ASP 検索ボックス・プレーン](#)」
- B-12 ページの「[ASP 検索ボックス・プレーン \(サーバー\)](#)」
- B-12 ページの「[ASP 検索結果プレーン](#)」
- B-13 ページの「[ASP サイト・マップ・プレーン](#)」
- B-13 ページの「[CSP サンプル・ナビゲーション \(クライアント\)](#)」
- B-14 ページの「[CSP サンプル・ナビゲーション \(サーバー\)](#)」
- B-14 ページの「[JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ](#)」
- B-15 ページの「[水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン](#)」
- B-15 ページの「[垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン](#)」
- B-15 ページの「[JSP 検索ボックス・プレーン](#)」
- B-16 ページの「[JSP 検索結果ページ](#)」
- B-17 ページの「[JSP サイト・マップ・プレーン](#)」
- B-17 ページの「[IDOC ブレッドクラム・プレーン](#)」
- B-17 ページの「[IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ](#)」
- B-18 ページの「[水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ](#)」
- B-18 ページの「[水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン](#)」

- B-19 ページの「[IDOC トップ・ナビゲーション・タブ](#)」
- B-19 ページの「[IDOC 検索ボックス・プレーン](#)」
- B-19 ページの「[IDOC サイト・マップ・プレーン](#)」
- B-20 ページの「[RSET ブレッドクラム・プレーン](#)」
- B-20 ページの「[水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ](#)」
- B-21 ページの「[水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン](#)」
- B-21 ページの「[RSET サイト・マップ・プレーン](#)」

B.1.1 ブレッドクラム・プレーン

階層パスを表すナビゲーション・リンク（ブレッドクラムとも呼ばれる）を追加します。ブレッドクラムは、多くの場合、Web ページの上部または下部に配置され、ユーザーが Web サイトでの自分の正しい位置を把握するのに役立ちます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは > です。

B.1.2 エクスプローラ・メニュー・バー

階層メニュー・バー（Windows ベース・アプリケーションのメニュー・バーと類似）をエミュレートするナビゲーション・メニューを追加します。（このフラグメントでは DHTML が使用されます。）

パラメータ

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。

B.1.3 ログイン・サンプル

ユーザーのログイン資格証明に基づいてパブリック・サイトからセキュアなサイトにユーザーを誘導する方法を示す Web サイトのログイン・ボタンとログイン・スクリプトを追加します。

パラメータ

ssButtonText: ログイン・ボタンのテキスト。デフォルトは Login です。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス。

ssTargetSiteId: ターゲット（セキュアな）・サイトのサイト ID。

B.1.4 ナビゲーション・ホーム・ロゴ

Web サイトのホームページへのハイパーリンクとして機能するイメージを追加します。

パラメータ

ssLogo: コンテンツ・サーバーで使用するグラフィックの URL を指定します。この設定が空白の場合、フラグメント・アセット・ディレクトリの `logo.gif` というプレースホルダのイメージが使用されます。

ssWidth: イメージの幅（ピクセル単位）。空白の場合、幅の属性は使用されません。

ssHeight: イメージの高さ（ピクセル単位）。空白の場合、高さの属性は使用されません。

B.1.5 水平方向のナビゲーション・マルチ

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、カスタマイズした範囲のレベルを表示できます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

ssShowHome: 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。（ホームページは、実際に Web サイトのルート（本来は最上位レベルの上）に配置されますが、同レベルと捉えられる場合もあります。）

ssStartLevel: メニューの表示を開始する表示レベル。

ssNumLevels: 表示する（セクション）レベルの数。

特記事項

水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。

B.1.6 垂直方向のナビゲーション・マルチ

レイアウト・ページのどの場所にも移動できるサイド・ナビゲーション・バーを追加しますが、左側に配置して左から右にインデントするのが一般的です。このフラグメントは、カスタマイズされた範囲のレベルを表示できます（第2レベルのみを表示する垂直方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントとは異なります）。これは現在のフォーカス・レベルで表示されます。このフラグメントで指定したサブレベル・セクションがサイトに存在しない場合は何も表示されません。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssShowHome: 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

ssStartLevel: メニューの表示を開始する表示レベル。

ssNumLevels: 表示する（セクション）レベルの数。

特記事項

垂直方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。

B.1.7 水平方向のナビゲーション・プレーン

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントでは、サイト・ナビゲーションの最上位レベルのみ（サイトのルートにあるセクション）が表示されます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは `|` です。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。（ホームページは、実際に Web サイトのルート（最上位レベルの上）にあります。ここでは同レベルと捉えられる場合もあります。）

特記事項

水平方向のナビゲーション・マルチ・フラグメントでは、このメニューがさらに複雑なバージョンで提供されます。

B.1.8 垂直方向のナビゲーション・プレーン

レイアウト・ページのどの場所にも移動できるサイド・ナビゲーション・バーを追加しますが、左側に配置して左から右にインデントするのが一般的です。このフラグメントでは、第2レベルのサイト・ナビゲーションのみが表示されます。サイトに第2レベルのセクションがない場合は何も表示されません。サイト階層は展開した状態で表示されます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

特記事項

垂直方向のナビゲーション・マルチ・フラグメントでは、このメニューがさらに複雑なバージョンで提供されます。

B.1.9 トップ・ナビゲーション・タブ

最大2つのレベルのナビゲーションを表示する表スタイルのナビゲーション・バーを追加します。このタブでは各イメージがレンダリングされたテキストで使用されます（このフラグメントでは DHTML は使用されません）。様々なイメージを使用して別のテーマを好みで選択できます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。

ssShowNext: 第2レベルのナビゲーションを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。有効な場合、水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントと同様に、第2レベルのナビゲーションがタブの下にテキスト・リンクとして表示されます。

ssTheme: テーマの名前を指定します。具体的には、このフラグメントのアセットのテーマ・ディレクトリを参照します。

B.1.10 水平方向のナビゲーション・ラップ

2行に分割可能な最上位レベル・ナビゲーション（上の行の方が重要度が高い）を追加します。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

ssLineWrap: 最上位レベルの見出しの後の表示を分割するかどうかを指定します。これは整数値でデフォルトは4に設定されています。ホーム・リンク（使用される場合）はこの条件に組み込まれません。

B.1.11 検索ボックス・プレーン

検索キーワードを送信する HTML フォームを使用して、レイアウト・ページに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページにリンクする必要があります。

パラメータ

ssResultsPage: 検索結果を表示するレイアウト・ページを指定します（「検索結果プレーン・フラグメント」を参照）。

ssButtonText: 検索ボタンのテキスト。デフォルトは Search。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

特記事項

このフラグメントは、検索結果プレーン・フラグメント、または検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用してください。

B.1.12 検索結果ページ

レイアウト・ページに検索結果の領域を追加します。このフラグメントは、検索ボックス・プレーン・フラグメントとともに使用するよう設計されています。検索ボックスで指定した URL パラメータ **ssUserText** を取ります。その値と、このフラグメントにパラメータとして指定した制限句を組み合わせます。検索を実行し、必要に応じて一連の結果を（検索結果プレーン・フラグメントで使用される **more...** ボタンのかわりに）ページ・リストで表示します。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssQueryText: 問合せ制限句として使用されます。検索ボックスから受信した **ssUserText** の値と組み合わせられます。問合せのどちらのコンポーネントも指定する場合、最終的な問合せは (**ssQueryText**) AND (**ssUserText**) になります。

ssLimitScope も組み合わせる場合、問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText) AND (ssLimitScope)"
```

どのコンポーネントも空白または **false** の場合、そのコンポーネントはアセンブリから除外されます。

ssLimitScope: 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

ssSortField: 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは **dInDate** です。

ssSortOrder: 検索をソートする順序。デフォルトは **desc** です。

ssResultCount: 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは 25 です。

ssDisplayField: 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

ssTargetNodeID: セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます (9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照)。

特記事項

このフラグメントは、サイト・ナビゲーションに含まれていないサイト階層の新しいセクションに追加してください。検索結果のプレースホルダ・ページが作成されます。

B.1.13 検索結果プレーン

レイアウト・ページに検索結果の領域を追加します。このフラグメントは、検索ボックス・プレーン・フラグメントとともに使用するように設計されています。検索ボックスで指定した URL パラメータ `ssUserText` を取ります。その値と、このフラグメントにパラメータとして指定した制限句を組み合せます。検索を実行し、必要に応じて一連の結果を `more...` ボタンで表示します。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssQueryText: 問合せ制限句として使用されます。検索ボックスから受信した `ssUserText` の値と組み合されます。問合せのどちらのコンポーネントも指定する場合、最終的な問合せは (`ssQueryText`) AND (`ssUserText`) になります。

`ssLimitScope` も組み合せる場合、問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText) AND (ssLimitScope)"
```

どのコンポーネントも空白または `false` の場合、そのコンポーネントはアセンブリから除外されます。

ssLimitScope: 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

ssSortField: 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dInDate` です。

ssSortOrder: 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

ssResultCount: 1 ページ当りに表示する結果の数。デフォルトは `25` です。

ssDisplayField: 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

ssTargetNodeID: セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます (9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照)。

特記事項

このフラグメントは、サイト・ナビゲーションに含まれていないサイト階層の新しいセクションに追加してください。検索結果のプレースホルダ・ページが作成されます。

B.1.14 サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このタイプのナビゲーションは、ビジターが急いで情報を検索する場合のナビゲーションとして特に役立ちます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

ssShowNext: フォーカス・ポイント、またはサイト階層の現在の場所をハイライト表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

B.1.15 サイト・マップ・ツリー

サイト階層全体の展開可能なツリー・ビューを追加します。ツリー・ビューは自動展開して、サイト階層の現在の場所を示します。その場所から他のセクションを参照できます。(このフラグメントでは DHTML が使用されます。)

パラメータ

ssTheme: テーマの名前を指定します。具体的には、フラグメントのアセットのテーマ・ディレクトリを参照します。デフォルトは `explorer1` です。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。

特記事項

階層のアイコンでは、このフラグメントのアセットに格納されているイメージが使用されます。様々なイメージを使用して別のテーマを好みで選択できます。

B.1.16 垂直方向のメニュー・バー

サイト階層全体を表示する階層メニュー・バーをエミュレートするナビゲーション・メニューを追加します。(このフラグメントでは DHTML が使用されます。)

パラメータ

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。

B.1.17 ASP ブレッドクラム・プレーン

階層パスを表すナビゲーション・リンク (ブレッドクラムとも呼ばれる) を追加します。ブレッドクラムは、多くの場合、Web ページの上部または下部に配置され、ユーザーが Web サイトでの自分の正しい位置を把握するのに役立ちます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは `>` です。

特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.18 ASP ブレッドクラム・プレーン（サーバー）

階層パスを表すナビゲーション・リンクを追加します。このフラグメントは、ASP ブレッドクラム・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、サーバー側スクリプトを使用する点です。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは > です。

特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.19 ASP エクスプローラ・メニュー・バー

階層メニュー・バー（Windows ベース・アプリケーションのメニュー・バーと類似）をエミュレートするナビゲーション・メニューを追加します。（このフラグメントでは DHTML が使用されます。）

パラメータ

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。

特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.20 水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、カスタマイズした範囲のレベルを表示できます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

ssShowHome: 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。（ホームページは、実際に Web サイトのルート（本来は最上位レベルの上）に配置されますが、同レベルと捉えられる場合もあります。）

ssStartLevel: メニューの表示を開始する表示レベル。

ssNumLevels: 表示する（セクション）レベルの数。

特記事項

- 水平方向の ASP ナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。
- このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.21 垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ

レイアウト・ページのどの場所にも移動できるサイド・ナビゲーション・バーを追加しますが、左側に配置して左から右にインデントするのが一般的です。このフラグメントは、カスタマイズされた範囲のレベルを表示できます（第2レベルのみを表示する垂直方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントとは異なります）。これは現在のフォーカス・レベルで表示されません。このフラグメントで指定したサブレベル・セクションがサイトに存在しない場合は何も表示されません。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssShowHome: 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

ssStartLevel: メニューの表示を開始する表示レベル。

ssNumLevels: 表示する（セクション）レベルの数。

特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.22 ASP 検索ボックス・プレーン

検索キーワードを送信する HTML フォームを使用して、レイアウト・ページに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページにリンクする必要があります。

パラメータ

ssResultsPage: 検索結果を表示するレイアウト・ページを指定します（「ASP 検索結果プレーン・フラグメント」を参照）。

ssButtonText: 検索ボタンのテキスト。デフォルトは `Search`。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

特記事項

- このフラグメントは、ASP 検索結果プレーン・フラグメント、または検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用してください。
- このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.23 ASP 検索ボックス・プレーン（サーバー）

レイアウト・ページに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページとリンクする必要があります。このフラグメントは、ASP 検索ボックス・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、サーバー側スクリプトを使用する点です。

パラメータ

ssResultsPage: 検索結果を表示するレイアウト・ページを指定します（「検索結果プレーン・フラグメント」を参照）。

ssButtonText: 検索ボタンのテキスト。デフォルトは Search。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

特記事項

- このフラグメントは、ASP 検索結果プレーン・フラグメント、または検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用してください。
- このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.24 ASP 検索結果プレーン

レイアウト・ページに検索結果の領域を追加します。このフラグメントは、ASP 検索ボックス・プレーン・フラグメントとともに使用するよう設計されています。検索ボックスで指定した URL パラメータ **ssUserText** を取ります。その値と、このフラグメントにパラメータとして指定した制限句を組み合わせます。検索を実行し、必要に応じて一連の結果を **more...** ボタンで表示します。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssQueryText: 問合せ制限句として使用されます。検索ボックスから受信した **ssUserText** の値と組み合わせられます。問合せのどちらのコンポーネントも指定する場合、最終的な問合せは (**ssQueryText**) AND (**ssUserText**) になります。

ssLimitScope も組み合わせる場合、問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText) AND (ssLimitScope)"
```

どのコンポーネントも空白または **false** の場合、そのコンポーネントはアセンブリから除外されます。

ssLimitScope: 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

ssSortField: 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは **dlnDate** です。

ssSortOrder: 検索をソートする順序。デフォルトは **desc** です。

ssResultCount: 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは **25** です。

ssDisplayField: 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

ssTargetNodeID: セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます (9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照)。

特記事項

- このフラグメントは、サイト・ナビゲーションに含まれていないサイト階層の新しいセクションに追加してください。検索結果のプレースホルダ・ページが作成されます。
- このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.25 ASP サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このタイプのナビゲーションは、ビジターが急いで情報を検索する場合のナビゲーションとして特に役立ちます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

ssShowNext: フォーカス・ポイント、またはサイト階層の現在の場所をハイライト表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

特記事項

このフラグメントは ASP ページ用に設計されています。

B.1.26 CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント)

クライアント側スクリプトを使用して、カスタム・セクション・プロパティへのアクセス方法を示すサンプル・ナビゲーションです。このサンプルでは、階層の最上位レベルのリンクのみが表示され、子セクションへのリンクは表示されません。各リンクをカスタマイズできます。

サイト・ナビゲーション表示を調整できるように、カスタマイズ可能なナビゲーション・オプションが追加されます。たとえば、各セクションの様々な色の表示、表示するテキストの置換え、テキストからイメージへの置換えなどを行うことができます。

特記事項

次の 4 つのカスタム・セクション・プロパティがあることを前提とします。

Name: `cspNavInclude`

Type: `boolean`

Description: デフォルトの動作「ナビゲーションにセクションを含める」を上書きする方法の例を示します。値は `true` または `false` になり、このセクションがナビゲーションに表示されるかどうかを決定します。

Name: `cspNavLabel`

Type: `Text`

Description: ナビゲーション・プレゼンテーションでセクション名を表示するデフォルトの動作を上書きするオプションのラベル。

Name: `cspNavImage`

Type: `managedurl`

Description: テキスト・ラベルのかわりに、ナビゲーションで使用されるイメージ・ファイルのオプションの URL。

Name: `cspNavColor`

Type: Color

Description: 各セクションについて、ナビゲーション・フラグメントの左側の表セルのリード色を指定するオプションのオーバーライド。

注意: CSP (カスタム・セクション・プロパティ) フラグメントを使用する場合、プロパティを定義してから、フラグメントを含むすべてのセクションの各カスタム・セクション・プロパティの値を設定する必要があります。

詳細は、5-18 ページの「[セクションのカスタム・プロパティの定義](#)」を参照してください。

B.1.27 CSP サンプル・ナビゲーション (サーバー)

サーバー側スクリプトを使用して、カスタム・セクション・プロパティへのアクセス方法を決定するサンプル・ナビゲーションです。このサンプルでは、階層の最上位レベルのリンクのみが表示され、子セクションへのリンクは表示されません。各リンクをカスタマイズできます。

サイト・ナビゲーション表示を調整できるように、カスタマイズ可能なナビゲーション・オプションが追加されます。たとえば、各セクションの様々な色の表示、表示するテキストの置換え、テキストからイメージへの置換えなどを行うことができます。

特記事項

CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント) と同じです。詳細は、B-13 ページの「[CSP サンプル・ナビゲーション \(クライアント\)](#)」を参照してください。

注意: CSP (カスタム・セクション・プロパティ) フラグメントを使用する場合、プロパティを定義してから、フラグメントを含むすべてのセクションの各カスタム・セクション・プロパティの値を設定する必要があります。

カスタム・プロパティの詳細は、5-18 ページの「[セクションのカスタム・プロパティの定義](#)」を参照してください。

B.1.28 JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ

Web サイトのホームページへのハイパーリンクとして機能するイメージを追加します。

パラメータ

ssLogo: コンテンツ・サーバーで使用するグラフィックの URL を指定します。この設定が空白の場合、フラグメント・アセット・ディレクトリの `logo.gif` というプレースホルダのイメージが使用されます。

ssWidth: イメージの幅 (ピクセル単位)。空白の場合、幅の属性は使用されません。

ssHeight: イメージの高さ (ピクセル単位)。空白の場合、高さの属性は使用されません。

特記事項

このフラグメントは JSP レイアウト・ページ用に設計されています。

B.1.29 水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントでは、サイト・ナビゲーションの最上位レベルのみ（サイトのルートにあるセクション）が表示されます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。（ホームページは、実際に Web サイトのルート（最上位レベルの上）にあります。ここでは同レベルと捉えられる場合もあります。）

特記事項

このフラグメントは JSP レイアウト・ページ用に設計されています。

B.1.30 垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン

レイアウト・ページのどの場所にも移動できるサイド・ナビゲーション・バーを追加しますが、左側に配置して左から右にインデントするのが一般的です。このフラグメントでは、第 2 レベルのサイト・ナビゲーションのみが表示されます。サイトに第 2 レベルのセクションがない場合は何も表示されません。サイト階層は展開した状態で表示されます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

特記事項

このフラグメントは JSP レイアウト・ページ用に設計されています。

B.1.31 JSP 検索ボックス・プレーン

レイアウト・ページに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページにリンクする必要があります。

パラメータ

ssResultsPage: 検索結果を表示するレイアウト・ページを指定します（「検索結果プレーン・フラグメント」を参照）。

ssButtonText: 検索ボタンのテキスト。デフォルトは Search。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

特記事項

このフラグメントは、JSP 検索結果プレーン・フラグメント、または検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用してください。

このフラグメントは JSP レイアウト・ページ用に設計されています。

B.1.32 JSP 検索結果ページ

レイアウト・ページに検索結果の領域を追加します。このフラグメントは、検索ボックス・ブレン・フラグメントとともに使用するよう設計されています。検索ボックスで指定した URL パラメータ `ssUserText` を取ります。その値と、このフラグメントにパラメータとして指定した制限句を組み合せます。検索を実行し、必要に応じて一連の結果を（検索結果ブレン・フラグメントで使われる `more...` ボタンのかわりに）ページ・リストで表示します。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssQueryText: 問合せ制限句として使われます。検索ボックスから受信した `ssUserText` の値と組み合されます。問合せのどちらのコンポーネントも指定する場合、最終的な問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText)"
```

`ssLimitScope` も組み合せる場合、問合せは次のようになります。

```
"(ssQueryText) AND (ssUserText) AND (ssLimitScope)"
```

どのコンポーネントも空白または `false` の場合、そのコンポーネントはアセンブリから除外されます。

ssLimitScope: 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

ssSortField: 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dInDate` です。

ssSortOrder: 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

ssResultCount: 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは 25 です。

ssDisplayField: 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

ssTargetNodeID: セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます (9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照)。

特記事項

- このフラグメントは、サイト・ナビゲーションに含まれていないサイト階層の新しいセクションに追加してください。検索結果のプレースホルダ・ページが作成されます。
- このフラグメントは JSP レイアウト・ページ用に設計されています。

B.1.33 JSP サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このタイプのナビゲーションは、ビジターが急いで情報を検索する場合のナビゲーションとして特に役立ちます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

ssShowNext: フォーカス・ポイント、またはサイト階層の現在の場所をハイライト表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。

特記事項

このフラグメントは JSP レイアウト・ページ用に設計されています。

B.1.34 IDOC ブレッドクラム・プレーン

階層パスを表すナビゲーション・リンク（ブレッドクラムとも呼ばれる）を追加します。ブレッドクラムは、多くの場合、Web ページの上部または下部に配置され、ユーザーが Web サイトでの自分の正しい位置を把握するのに役立ちます。このフラグメントは、ブレッドクラム・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは `>` です。

B.1.35 IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ

Web サイトのホームページへのハイパーリンクとして機能するイメージを追加します。このフラグメントは、ナビゲーション・ホーム・ロゴ・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

パラメータ

ssLogo: コンテンツ・サーバーで使用するグラフィックの URL を指定します。この設定が空白の場合、フラグメント・アセット・ディレクトリの `logo.gif` というプレースホルダのイメージが使用されます。

ssWidth: イメージの幅（ピクセル単位）。空白の場合、幅の属性は使用されません。

ssHeight: イメージの高さ（ピクセル単位）。空白の場合、高さの属性は使用されません。

B.1.36 水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、カスタマイズした範囲のレベルを表示できます。このフラグメントは、水平方向のナビゲーション・マルチ・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

ssShowHome: 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (本来は最上位レベルの上) に配置されますが、同レベルと捉えられる場合もあります。)

ssStartLevel: メニューの表示を開始する表示レベル。

ssNumLevels: 表示する (セクション) レベルの数。

特記事項

水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。

B.1.37 水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントでは、サイト・ナビゲーションの最上位レベルのみ (サイトのルートにあるセクション) が表示されます。このフラグメントは、水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (最上位レベルの上) にありますが、ここでは同レベルと捉えられる場合もあります。)

特記事項

水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ・フラグメントでは、このメニューがさらに複雑なバージョンで提供されます。

B.1.38 IDOC トップ・ナビゲーション・タブ

最大 2 つのレベルのナビゲーションを表示する表スタイルのナビゲーション・バーを追加します。このタブでは各イメージがレンダリングされたテキストで使用されます（このフラグメントでは DHTML は使用されません）。様々なイメージを使用して別のテーマを好みに選択できます。このフラグメントは、トップ・ナビゲーション・タグ・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。

ssShowNext: 第 2 レベルのナビゲーションを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `false` です。有効な場合、水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントと同様に、第 2 レベルのナビゲーションがタブの下にテキスト・リンクとして表示されます。

ssTheme: テーマの名前を指定します。具体的には、このフラグメントのアセットのテーマ・ディレクトリを参照します。

B.1.39 IDOC 検索ボックス・プレーン

検索キーワードを送信する HTML フォームを使用して、レイアウト・ページに検索ボックスを追加します。検索ボックスは、検索を実行して結果を表示する別のページにリンクする必要があります。このフラグメントは、検索ボックス・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

パラメータ

ssResultsPage: 検索結果を表示するレイアウト・ページを指定します（「検索結果プレーン・フラグメント」を参照）。

ssButtonText: 検索ボタンのテキスト。デフォルトは `Search`。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

特記事項

このフラグメントは、IDOC 検索結果プレーン・フラグメント、または検索を実行して結果を表示する同様のカスタム製のページと一緒に使用してください。

B.1.40 IDOC サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このフラグメントは、サイト・マップ・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、コンテンツ・サーバーで `Idoc` スクリプトを使用することと、サービス・コールに大きく依存する点です。

パラメータ

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

B.1.41 RSET ブレッドクラム・プレーン

階層パスを表すナビゲーション・リンクを追加します。このフラグメントは、ブレッドクラム・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、`Idoc` スクリプトを使用することと、結果セットの値を使用する点です。IDOC ブレッドクラム・プレーンと比較してください。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: リンクの区切りに使用されるテキスト。デフォルトは > です。

B.1.42 水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、水平方向のナビゲーション・マルチ・フラグメントと非常に似ています。違いは、`Idoc` スクリプトを使用することと、結果セットの値を使用する点です。水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチと比較してください。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

ssShowHome: 最上位レベルのナビゲーションの構成要素として、ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (本来は最上位レベルの上) に配置されますが、同レベルと捉えられる場合もあります。)

ssStartLevel: メニューの表示を開始する表示レベル。

ssNumLevels: 表示する (セクション) レベルの数。

特記事項

水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン・フラグメントでは、このメニューがさらに簡単なバージョンで提供されます。

B.1.43 水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン

ページのどの場所にも配置できるトップ・ナビゲーション・バーを追加します。このフラグメントは、水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、Idoc スクリプトを使用することと、結果セットの値を使用する点です。水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーンと比較してください。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssFocusColor: リンクが選択された場合のテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssSeparator: バーの構成要素の区切りに使用されるテキスト。デフォルトは | です。

ssShowHome: ホームページへのリンクを表示するかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。(ホームページは、実際に Web サイトのルート (最上位レベルの上) にありますが、ここでは同レベルと捉えられる場合もあります。)

特記事項

水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ・フラグメントでは、このメニューがさらに複雑なバージョンで提供されます。

B.1.44 RSET サイト・マップ・プレーン

Web サイトのすべてのセクションを表示するサイト・マップを追加して、そのマップを階層形式で表示します。階層は展開した状態で表示されます。このフラグメントは、サイトマップ・プレーン・フラグメントと非常に似ています。違いは、Idoc スクリプトを使用することと、結果セットの値を使用する点です。IDOC サイト・マップ・プレーンと比較してください。

パラメータ

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

B.2 動的リスト・フラグメント

動的リスト・フラグメントは次のとおりです。

- B-22 ページの「動的リスト一般」
- B-22 ページの「動的リスト・ページ」
- B-22 ページの「動的リスト・プレーン」
- B-23 ページの「ASP 動的リスト・ページ」
- B-23 ページの「ASP 動的リスト・シンプル」
- B-24 ページの「CSP サンプル動的リスト」
- B-24 ページの「JSP 動的リスト・プレーン」

B.2.1 動的リスト一般

レイアウト・ページのコンテンツ・レビュー・リージョンに動的リストを追加します。動的リストはコンテンツ・サーバーで検索を実行し、特定の基準に一致するコンテンツをすべて表示します。コンテンツ・サーバーは、検索基準に一致する新しいコンテンツ・アイテムをメタデータと一緒にチェックインして、リストにアイテムを追加できます。

パラメータ

このフラグメントのパラメータの多くは、動的リスト・プレーン・フラグメント (B-22 ページの「動的リスト・プレーン」を参照) のパラメータと同じです。

B.2.2 動的リスト・ページ

動的リスト・プレーンと似ていますが、次のような検索ページ・リストが提供されます。

[\[prev\]](#) [1](#) | [2](#) | [3](#) | [4](#) | [5](#) [\[next\]](#)

前述の例では、検索の 2 ページ目が表示されています。

パラメータ

次のパラメータ以外は動的リスト・プレーンと同じです。

ssWantMore: 必要に応じて、検索ページ・リストを含めるかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは `true` です。(一括結果を制限する場合は、値を `false` に設定します。)

ssMoreText: 使用されません。

ssTargetNodeID: セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます (9-12 ページの「ターゲット・セクションの理解」を参照)。

B.2.3 動的リスト・プレーン

レイアウト・ページのコンテンツ・レビュー・リージョンに動的リストを追加します。動的リストはコンテンツ・サーバーで検索を実行し、特定の基準に一致するコンテンツをすべて表示します。コンテンツ・サーバーは、検索基準に一致する新しいコンテンツ・アイテムをメタデータと一緒にチェックインして、リストにアイテムを追加できます。

この動的リスト・サンプルでは、検索結果のページを複数のセクションに分割して、各セクションを個々の `<div>` タグで表し、各セクションに表示するプレーン・テキスト (または複雑な HTML) を指定するパラメータを使用できます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssQueryText: コンテンツ・サーバーで実行される問合せを指定します。

ssLimitScope: 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

ssSortField: 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dInDate` です。

ssSortOrder: 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

ssResultCount: 1 ページあたりに表示する結果の数。デフォルトは 25 です。

ssCaptionText: 結果表示の見出しに表示するキャプションのテキスト。デフォルトは `List Results` です。

ssReportText: キャプションの下に表示するレポート・テキスト。結果をまとめます。デフォルトは次のとおりです。TotalRows は、検索を実行する場合の Idoc 変数基準、ssFirstHit 変数と ssLastHit 変数は、表示が簡単になるようにフラグメント・コードで計算されます。

```
Total: <${TotalRows$}>
Items: <${ssFirstHit$} - <${ssLastHit$}>
```

ssDisplayStart: コア・リストの開始地点に表示するテキスト。デフォルトは "" です。

ssRowStart: 各行の開始地点に表示するテキスト。デフォルトは "" です。

ssRowLink: 各行のリンクのラベルとして表示するテキスト。デフォルトは <\${dDocTitle\$}> です。

ssRowEnd: 各行の最終地点に表示するテキスト。デフォルトは "" です。

ssDisplayEnd: コア・リストの最終地点に表示するテキスト。デフォルトは "" です。

ssWantMore: 必要に応じて、more... ボタンを含めるかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。(検索を一括の結果に制限する場合は、値を false に設定します。)

ssMoreText: 必要に応じて、more... リンクのラベルとして表示するテキスト。デフォルトは more... です。

ssNoResults: 検索で結果が生成されない場合に表示するテキスト。デフォルトは No items match your search criteria です。

ssTargetNodeID: セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます (9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照)。

B.2.4 ASP 動的リスト・ページ

動的リスト・プレーンと似ていますが、次のような検索ページ・リストが提供されます。

```
[prev] 1 | 2 | 3 | 4 | 5 [next]
```

前述の例では、検索の 2 ページ目が表示されています。

パラメータ

次のパラメータ以外は、動的リスト・プレーン・フラグメント (B-22 ページの「[動的リスト・プレーン](#)」を参照) と同じです。

ssWantMore: 必要に応じて、検索ページ・リストを含めるかどうかを指定するブール型フラグ。デフォルトは true です。(一括結果を制限する場合は、値を false に設定します。)

B.2.5 ASP 動的リスト・シンプル

動的リスト・シンプルと似ていますが、ASP に使用されます。

パラメータ

ssTargetNodeID: セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます (9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照)。

B.2.6 CSP サンプル動的リスト

カスタム・セクション・プロパティとともに使用される動的リスト・フラグメントのサンプルです。ページを使用するすべてのセクションで1つの問合せを使用するのではなく、各セクションで異なる問合せを使用できる動的リストを追加します。

パラメータ

ssQueryText: コンテンツ・サーバーで実行される問合せを指定します。

ssSortField: 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dInDate` です。

ssSortOrder: 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

ssResultCount: 1 ページ当りに表示する結果の数。デフォルトは `25` です。

ssLimitScope: 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

特記事項

このサンプルでは、次のカスタム・セクション・プロパティがあることを前提とします。

Name: `cspQueryText`

Type: `managedquery`

Description: 各セクションで一意的な問合せテキストを定義できるように、定期的な問合せテキスト・パラメータ（ある場合）に追加するオプションの問合せテキスト文字列。

注意: CSP（カスタム・セクション・プロパティ）フラグメントを使用する場合、プロパティを定義してから、フラグメントを含むすべてのセクションの各カスタム・セクション・プロパティの値を設定する必要があります。

B.2.7 JSP 動的リスト・プレーン

レイアウト・ページのコントリビューション・リージョンに動的リストを追加します。動的リストはコンテンツ・サーバーで検索を実行し、特定の基準に一致するコンテンツをすべて表示します。コントリビュータは、検索基準に一致する新しいコンテンツ・アイテムをメタデータと一緒にチェックインして、リストにアイテムを追加できます。

この動的リスト・サンプルでは、検索結果のページを複数のセクションに分割して、各セクションを個々の `<div>` タグで表し、各セクションに表示するプレーン・テキスト（または複雑な HTML）を指定するパラメータを使用できます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

ssQueryText: コンテンツ・サーバーで実行される問合せを指定します。

ssLimitScope: 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

ssSortField: 検索をソートするメタデータ・フィールドの名前。デフォルトは `dInDate` です。

ssSortOrder: 検索をソートする順序。デフォルトは `desc` です。

ssResultCount: 1 ページ当りに表示する結果の数。デフォルトは `25` です。

ssDisplayField: 結果のリンクのラベルを形成するメタデータ・フィールドの名前。

ssTargetNodeID: セカンダリ・ページの置換え可能なリージョンで、コンテンツが特定のノードに表示されるようにリンクのターゲットをフォーカスします。通常、コンテンツの共有に使用されます。この場合、複数の Web サイトに同じコンテンツ・アイテムを含めます (9-12 ページの「[ターゲット・セクションの理解](#)」を参照)。

特記事項

このフラグメントは JSP レイアウト・ページ用に設計されています。

B.3 静的リスト・フラグメント

静的リスト・フラグメントは次のとおりです。

- B-25 ページの「[静的リスト・サンプル](#)」
- B-25 ページの「[静的リスト一般](#)」
- B-26 ページの「[ASP 静的リスト・サンプル](#)」

B.3.1 静的リスト・サンプル

レイアウト・ページのコントリビューション・リージョンに 4 つの列で構成される静的リストを追加します。静的リストは固定数の列で構成され、各列にはコントリビュータで編集可能なテキストまたはグラフィックが含まれます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

B.3.2 静的リスト一般

レイアウト・ページのコントリビューション・リージョンに静的リストを追加します。静的リストは固定数の列で構成され、各列にはコントリビュータで編集可能なテキストまたはグラフィックが含まれます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

Column1_Name (1-6): 列の名前を指定します。簡潔な名前にして、空白や特殊文字を使用しないでください。

Column1_Label (1-6): 列のラベルを指定します。簡潔な名前にして、空白や特殊文字を使用しないでください。

ssCaptionText: ページのキャプションを表示します。

ssDisplayStart: 表示ループの開始を指定します。

ssDisplayRow: 1 行を表示します。

ssDisplayEnd: 表示ループの終了を指定します。

ssBottomText: ページのボタンを指定します。

B.3.3 ASP 静的リスト・サンプル

レイアウト・ページのコントリビューション・リージョンに4つの列で構成される静的リストを追加します。静的リストは固定数の列で構成され、各列にはコントリビューターで編集可能なテキストまたはグラフィックが含まれます。

パラメータ

ssTextColor: テキストの色を変更します。

ssHoverColor: マウスオーバーのテキストの色を変更します。

ssClassName: CSS クラス名を指定します。

B.4 その他のフラグメント

次のフラグメントには、様々な機能やサンプルがあります。

- B-26 ページの「[コピーライト・サンプル](#)」
- B-26 ページの「[動的変換](#)」
- B-27 ページの「[動的変換 IFrame](#)」
- B-27 ページの「[エラー・ハンドラ・メッセージ](#)」
- B-27 ページの「[Flash サンプル](#)」
- B-27 ページの「[ロゴ・サンプル](#)」
- B-28 ページの「[ランダム変換](#)」
- B-28 ページの「[ASP エラー・ハンドラ・メッセージ](#)」
- B-28 ページの「[CSP サンプル・ページ・タイトル](#)」
- B-29 ページの「[PageHitCount](#)」
- B-29 ページの「[Site Studio マネージャ](#)」

B.4.1 コピーライト・サンプル

ロゴ・サンプル・フラグメントと同様に、コピーライトをレイアウト・ページに挿入します。

パラメータ

パラメータはありません。

B.4.2 動的変換

Dynamic Converter を使用して、動的に変換されたネイティブ・ドキュメントをレイアウト・ページに追加します。ネイティブ・ドキュメントを選択する場合、変換に使用する GUI テンプレートまたはレイアウト・テンプレートを指定できます。どちらも指定しない場合は、空の変換テンプレートとレイアウト・テンプレートで特殊変換が使用されます。

パラメータ

ssDocName: 変換するドキュメントの dDocName。

ssTemplate: Dynamic Converter の GUI テンプレートの dDocName。

ssLayout: Dynamic Converter のレイアウト・テンプレートの dDocName。

特記事項

サイトにネイティブ・ドキュメントを追加するには、リージョンにドキュメントを割り当て、そのドキュメントへのリンクを作成して、そのドキュメントの追加と編集をコントリビューターに許可する方法もあります。

B.4.3 動的変換 IFrame

動的変換フラグメント (B-26 ページの「動的変換」を参照) と似ていますが、ドキュメント全体をスクロールできる IFrame を追加します。

パラメータ

ssDocument: 変換するドキュメントの dDocName。

ssTemplate: Dynamic Converter の GUI テンプレートの dDocName。

ssLayout: Dynamic Converter のレイアウト・テンプレートの dDocName。

ssHeight: IFrame の高さ (ピクセルまたはパーセント単位)。

ssWidth: IFrame の幅 (ピクセルまたはパーセント単位)。

ssBorder: 枠線を付ける場合は 1、付けない場合は 0 を選択します。

ssScrolling: (必要に応じて) スクロール・バーを yes、no または auto に設定できます。

特記事項

サイトにネイティブ・ドキュメントを追加するには、リージョンにドキュメントを割り当て、そのドキュメントへのリンクを作成して、そのドキュメントの追加と編集をコントリビュータに許可する方法もあります。

B.4.4 エラー・ハンドラ・メッセージ

コンテンツ・サーバーのエラー・メッセージ (Idoc メッセージ変数) を Web サイトのセクションに表示する機能を追加します。

パラメータ

パラメータはありません。

特記事項

このフラグメントは、Web サイト・セクションを選択してコンテンツ・サーバーのエラーを表示する場合に使用できます (5-14 ページの「エラー・ハンドラ・セクションの指定」を参照)。

B.4.5 Flash サンプル

レイアウト・ページに Flash プレゼンテーションを追加します。

パラメータ

ssAnimation: コンテンツ・サーバーに Flash プレゼンテーションを配置します。

ssWidth: Flash アニメーションの幅を指定します。

ssheight: Flash アニメーションの高さを指定します。

B.4.6 ロゴ・サンプル

ロゴを参照オブジェクトとしてレイアウト・ページに追加し、コンテンツをレイアウト・ページとは別に管理できる方法を示します。

パラメータ

パラメータはありません。

B.4.7 ランダム変換

ランダムに変換されたネイティブ・ドキュメントをレイアウト・ページに追加します。特に Web バナーに便利です。変換には **Dynamic Converter** が必要です。ネイティブ・ドキュメントを選択する場合、変換に使用する GUI テンプレートまたはレイアウト・テンプレートを指定できます。どちらも指定しない場合は、空の変換テンプレートとレイアウト・テンプレートで特殊変換が行われます。

パラメータ

ssQueryText: 完全な問合せ句を指定します。

ssLimitScope: 検索の範囲を Web サイト内に制限します。

ssTemplate: Dynamic Converter の GUI テンプレートの dDocName。

ssLayout: Dynamic Converter のレイアウト・テンプレートの dDocName。

B.4.8 ASP エラー・ハンドラ・メッセージ

コンテンツ・サーバーのエラー・メッセージ（メッセージ変数）を Web サイトのセクションに表示する機能を追加します。

パラメータ

パラメータはありません。

特記事項

このフラグメントは、Web サイト・セクションを選択して Web サイトのエラーを表示する場合に使用できます（5-14 ページの「[エラー・ハンドラ・セクションの指定](#)」を参照）。

B.4.9 CSP サンプル・ページ・タイトル

レイアウト・ページを使用する各セクションについて、各セクションが Web ページに表示する <title> タグを変更する機能を追加します。

特記事項

このサンプルでは、次のカスタム・セクション・プロパティがあることを前提とします。

Name: cspPageTitle

Type: Text

Description: レイアウトの <title> タグの値ではなく、このセクションを表示する際のページ・タイトルとして使用します。

注意: CSP（カスタム・セクション・プロパティ）フラグメントを使用する場合、プロパティを定義してから、フラグメントを含むすべてのセクションの各カスタム・セクション・プロパティの値を設定する必要があります。

B.4.10 PageHitCount

Content Tracker と Site Studio との統合を示すフラグメントです。

パラメータ

contributorOnly: ヒット数を常に表示するか、またはコントリビューション・モードでのみ表示するかを指定するブール型フラグ。デフォルトは **false** です（ヒット数は常に表示されます）。

注意: この機能は、SQL Server を使用する HCSP/Idoc Web サイトの場合に最大限の効果を発揮します。

B.4.11 Site Studio マネージャ

ユーザーは、マネージャと呼ばれる Web ベース・アプリケーション（[第 15 章「マネージャの設定」](#)を参照）と『Oracle Universal Content Management Site Studio マネージャ・ガイド』を使用してサイト階層を管理できます。

パラメータ

theme: ルック・アンド・フィールをテーマにした CSS。デフォルトは **blue** です。

settings: サイト・マネージャの構成設定ファイル。

サード・パーティ・ライセンス

この付録では、この製品に含まれるすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスを示します。

- C-2 ページの「[Apache Software License](#)」
- C-2 ページの「[W3C Software Notice and License](#)」
- C-3 ページの「[Zlib License](#)」
- C-3 ページの「[General BSD License](#)」
- C-4 ページの「[General MIT License](#)」
- C-4 ページの「[Unicode License](#)」
- C-5 ページの「その他の帰属」

C.1 Apache Software License

- * Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.
- * Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the
- * "License"); you may not use this file except in compliance
- * with the License.
- * You may obtain a copy of the License at
- * <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>
- *
- * Unless required by applicable law or agreed to in writing,
- * software distributed under the License is distributed on an
- * "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND,
- * either express or implied.
- * See the License for the specific language governing
- * permissions and limitations under the License.

C.2 W3C Software Notice and License

- * Copyright 1994-2000 World Wide Web Consortium,
- * (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
- * Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
- * All Rights Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>
- *
- * This W3C work (including software, documents, or other related
- * items) is being provided by the copyright holders under the
- * following license. By obtaining, using and/or copying this
- * work, you (the licensee) agree that you have read, understood,
- * and will comply with the following terms and conditions:
- *
- * Permission to use, copy, modify, and distribute this software
- * and its documentation, with or without modification, for any
- * purpose and without fee or royalty is hereby granted, provided
- * that you include the following on ALL copies of the software
- * and documentation or portions thereof, including
- * modifications, that you make:
- *
- * 1. The full text of this NOTICE in a location viewable to
- * users of the redistributed or derivative work.
- *
- * 2. Any pre-existing intellectual property disclaimers,
- * notices, or terms and conditions. If none exist, a short
- * notice of the following form (hypertext is preferred, text is
- * permitted) should be used within the body of any redistributed
- * or derivative code: "Copyright [date-of-software] World
- * Wide Web Consortium, (Massachusetts Institute of Technology,
- * Institut National de Recherche en Informatique et en
- * Automatique, Keio University). All Rights Reserved.
- * <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>"
- *
- * 3. Notice of any changes or modifications to the W3C files,
- * including the date changes were made. (We recommend you
- * provide URIs to the location from which the code is derived.)
- *
- * THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND
- * COPYRIGHT HOLDERS MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES,
- * EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES
- * OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE OR
- * THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT
- * INFRINGE ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR
- * OTHER RIGHTS.
- *
- * COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT,

* SPECIAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE
 * SOFTWARE OR DOCUMENTATION.
 *
 * The name and trademarks of copyright holders may NOT be used
 * in advertising or publicity pertaining to the software without
 * specific, written prior permission. Title to copyright in this
 * software and any associated documentation will at all times
 * remain with copyright holders.
 *

C.3 Zlib License

* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.3,
 July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org

Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

C.4 General BSD License

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California
 All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

"Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

"Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

"Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

C.5 General MIT License

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

C.6 Unicode License

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories

<http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and

<http://www.unicode.org/cldr/data/> . Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

C.7 その他の帰属

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.

FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.

HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.

IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.

Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.

Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.

Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.

Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.

MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.

Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.

Portions Copyright 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright 1988, 1997 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

Portions Copyright 1997 Soft Horizons. All rights reserved.

Portions Copyright 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.

Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.

Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.

Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.

UNIX is a registered trademark of The Open Group.

Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc

用語集

ここでは、Site Studio のデザイナーおよびコントリビュータで使用頻度の高い用語をまとめています。用語はアルファベット順に並べられています。

ASP (Active Server Pages)

1 つ以上のスクリプト (小さな埋込みプログラム) が含まれる HTML ページ。Web ブラウザに送信される前に Microsoft Web サーバーで処理される。ファイルの拡張子は .asp。Site Studio では、Idoc スクリプト、JSP (JavaServer Pages) または ASP による Web サイトの作成が可能。

Cascading Style Sheet (CSS)

ある場所のコンテンツの書式設定とレイアウトを制御できるように、プレゼンテーションから構造を分割する方法。スタイル・シートを HTML ドキュメントに挿入するには、外部のスタイル・シートへのリンクを作成するか、ドキュメントの <HEAD> タグにドキュメントワイド・スタイルを埋め込むか、または必要な箇所にインラインでスタイルを埋め込む。Site Studio では、ツールボックスの多くのフラグメントにリンクされた CSS を実装している。設計者はコントリビュータが使用可能な CSS からクラス名を作成できる。これはコントリビューション要素で指定する。

「Design」ビュー (Design view)

デザイナーでレイアウト・ページを表示するための 3 つのビューのうちの 1 つ。「Design」ビューでは、ユーザーが設計したレイアウト・ページの状況が表示される (「WYSIWYG (What You See Is What You Get)」も参照)。書式設定ツールバー、「Properties」ペイン、ドラッグ・アンド・ドロップ、右クリック・マウス・オプション、および使い慣れたワード・プロセッサのコマンドを使用して、ページ上のコンテンツを編集できる。Site Studio では、フラグメント、コントリビューション・リージョン、および WYSIWYG 環境で正しく表示されない動的コンテンツに対して特殊なプレースホルダを使用する。

FAST

FAST (Fast Search & Transfer™)。コンテンツ・サーバーでサポートされる検索エンジン。リアルタイムの検索とフィルタ・テクノロジー・ソリューションが提供され、コンテンツ・サーバー、および Site Studio で作成されるサイトのパフォーマンスが向上する。

HCSP

Hyper Content Server Page。HTML および適切なスクリプト言語 Idoc スクリプトが含まれる動的 Web ページ。HCSP ページではコンテンツ・サーバーからのサービスのリクエストが可能。ファイルの拡張子は .hcsp。Site Studio では、Idoc スクリプトを使用してレイアウト・ページとフラグメントを構築できる。

HTML (Hypertext Markup Language)

World Wide Web (WWW) でドキュメントに使用される整形言語。HTML ファイルは書式設定のコードを含むプレーン・テキスト・ファイルで、テキストの表示方法、グラフィックおよびオブジェクトの配置方法、その他の Web ページへのリンクの表示方法を Web ブラウザ (または Web 対応デバイス) に伝える。

HTML 表 (HTML table)

表形式でコンテンツを表示する方法。Web サイトでは、コンテンツの配置、および Web ページの設計に頻繁に使用される。Site Studio では、HTML 表を使用してレイアウト・ページを設計できる (表の各セルにフラグメントやコントリビューション・リージョンを配置するなど)。

Idoc スクリプト (Idoc Script)

Content Server の動的 Web ページの作成に使用するスクリプト言語。Idoc スクリプトでは、変数を参照して、条件付きで HTML ページにコンテンツを挿入し、問合せから返された結果をループ処理できる。Site Studio では、Idoc スクリプトを使用してレイアウト・ページとフラグメントを構築できる。Idoc スクリプトのレイアウト・ページのファイル拡張子は .hcsip。

JavaScript

Netscape 社および Sun 社で開発されたクロスプラットフォームのスクリプト言語。Web ページの既存の HTML に JavaScript を追加して、基本的なオンラインの機能および双方向性を作成できる。Site Studio では、ツールボックスのフラグメントの多くが JavaScript で作成されている。

JSP (JavaServer Pages)

サーブレットをサーバー側で使用するためのスクリプト言語。または Web サーバーで実行する小さなプログラム。Microsoft 社の Active Server Pages (ASP) と類似するもので、どちらも Web ブラウザに結果を表示する前に Web サーバーからプログラムをリクエストする。JSP ページのファイル拡張子は .jsp。Site Studio では、Idoc スクリプト、JSP、または ASP を使用して Web サイトを作成できる。

Preview

レイアウト・ページを表示するためのデザイナーの 3 つのビューのうちの 1 つ。「Preview」タブでは、Web ブラウザに表示されるように、レイアウト・ページの実際のビューが表示される。レイアウト・ページの動的 (サーバー側) コンテンツ、フラグメントおよびコントリビューション・リージョンのプレビューに有用である。

「Properties」ペイン (Properties pane)

セクション、レイアウト・ページ、コントリビューション・リージョン、要素、フラグメント、HTML タグなどのプロパティをまとめたデザイナーのペイン。「Properties」ペインでは、レイアウト・ページの HTML タグを表示および編集できる。レイアウト・ページで直接行う変更は、多くの場合、「Properties」ペインでも行うことが可能。特に「Design」ビューで直接実行できないアクション (背景色、ページのマージン、表の幅の指定など) の場合に有用である。

「Site Assets」ペイン (Site Assets pane)

Web サイトで使用するファイルをまとめたデザイナーのペイン。ファイルは、用途に基づいてグループ化される (レイアウト・ページ、イメージ、データ・ファイル、ネイティブ・ドキュメントなど)。「Site Assets」ペインを使用すると、アセットのプレビュー、編集および場所の特定が可能。また、「Site Assets」ペインに新規のファイルおよび既存のファイルを追加できるため、これらのファイルがサイトの構成要素となる。

「Site Hierarchy」ペイン (Site Hierarchy pane)

デザイナーおよびマネージャのペインで、Web サイトのサイト階層の作成と管理が可能。

Site Studio

強力で柔軟性の高い Web サイト開発スイート。企業規模の Web サイトを設計、構築および管理するためのまったく新しい方法を提供する。Web サイトの作成とコンテンツの管理の両方がオールインワンで行われる。レイアウト・ページ、フラグメント、コントリビューション・リージョンなどの新しい概念が Web サイト開発に導入されている。

「Site Studio Administration」ページ (Site Studio Administration page)

コンテンツ・サーバーの Site Studio のインタフェース。「Site Studio Administration」ページを使用すると、Site Studio の主なタスク (Web サイトの公開、フラグメント・ライブラリのデプロイ、JSP サポートの構成など) を管理できる。

「Source」ビュー (Source view)

レイアウト・ページを表示するためのデザイナーの3つのビューのうちの1つ。「Source」ビューでは、ページを編成するコードが表示される。「Source」ビューで作業している間は、ページを完全に制御できる。「Design」ビューでの表示を好まない場合は、「Source」ビューに常時切り替えて変更することができる。実際に、「Design」ビューでレイアウト・ページを最初に作成してから、「Source」ビューに切り替えてページの外観や動作をカスタマイズすることが可能。

URL 形式 (URL format)

Site Studio には、サイトのコンテンツにアクセスできる2つの URL 形式 (パスベース URL および ID ベース URL) がある。パスベース URL にはサイト上の各セクションやファイルへのパスが含まれ、ID ベース URL にはクライアント側またはサーバー側のスクリプトと、サイト上のターゲット・セクションやファイルの ID が含まれる。どちらの形式にもメリットとデメリットがある。

Web サイト (web site)

リンクで結合され、サーバーに格納される HTML またはスクリプトベースの Web ページの集合。Site Studio の Web サイトは、そのサイト階層、ナビゲーション・スキームおよびレイアウト・ページで定義される。Web サイトの格納、管理および処理は Content Server で行われる (サーバーでは組込みのコンテンツ管理機能が利用可能)。

Web ページ (web page)

HTML、場合によってはスクリプトを含むファイル。Web ブラウザでの表示を目的とする。Site Studio では、レイアウト・ページがフラグメントおよびコントリビューション・リージョンと結合して、Web ブラウザに表示される Web ページを形成する。

WYSIWYG 要素 (WYSIWYG element)

コントリビューション・リージョンの要素がコントリビュータ・アプリケーションのフィールドになり、コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションでコンテンツを追加、編集および削除できる。WYSIWYG では可能な書式設定オプションと編集オプションがすべて表示される (フォントの変更、テキストの中央揃え、新規ファイルおよび既存のファイルへのリンクの作成など)。各オプションを有効または無効にして、コントリビュータの使用経験に合わせてカスタマイズすることができる。

XML (eXtensible Markup Language)

広く使用されているプログラミング言語 (W3C の標準) で、コンピュータ・アプリケーション間のデータの交換を容易にする。HTML (Web ページに使用される言語) と類似する言語で、どちらもマークアップ・タグを使用する。コンピュータ・プログラムでは、関連付けられた DTD をガイドとして使用し、XML ドキュメントからデータを自動的に抽出する。

アプリケーション・プロパティ (application properties)

サイト・レプリケーションのコンテキストでは、Web サイトに関連付けられ、次のサーバーにレプリケートされるプロパティを示す。

イメージ要素 (Image element)

コントリビューション・リージョンの要素がコントリビュータ・アプリケーションのフィールドになり、コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションでコンテンツを追加、編集および削除できる。イメージ要素ではイメージ追加に固有のオプション (イメージに関するコンテンツ・サーバーの参照、既存のイメージの置換え、イメージへの CSS クラスの適用など) が表示される。この要素は、Web ページでイメージのみ (テキストなし) が表示される領域を指定する場合に有用である。

置換え可能なリージョン (replaceable region)

置換え可能として特定される、セカンダリ・ページのリージョン。置換え可能なリージョンを使用すると、その他のファイル（具体的には、新規のコントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント）をレイアウト・ページのリージョンに表示できる。コントリビュータがサイトに新しいリージョン・コンテンツを追加すると、コンテンツはセカンダリ・ページの置換え可能なリージョンに表示される。結果として、設計者が新しいセクションや新しいレイアウト・ページを毎回作成せずに、コントリビュータはサイトに新しい Web ページを追加できる。

カスタム要素 (Custom element)

コントリビューション・リージョンの要素がコントリビュータ・アプリケーションのフィールドになり、コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションでコンテンツを追加、編集および削除できる。カスタム要素は、コントリビュータ・アプリケーションから開くカスタム・インタフェース (Web ベースのフォーム) の作成に使用される点で他の要素 (WYSIWYG、プレーン・テキスト、イメージ) とはまったく異なる。コントリビュータはこのインタフェースを使用して各種コンテンツを追加し、他の要素で実行できないアクションを実行する。

環境プロパティ (environment properties)

サイト・レプリケーションのコンテキストでは、ホスティング環境に関連付けられているため、レプリケートされないプロパティを示す。Site Studio のライフサイクル管理機能の構成要素。

コンテンツ追跡レポート (Content Tracker reports)

コンテンツが参照された回数を示す詳細レポート。レポートは Site Studio と Content Tracker を一体化することで利用可能となる。

コントリビューション・アイコン (contribution icon)

コントリビューション・モードでページを参照する際に、Web ページ上の各コントリビューション・リージョンのそばに表示されるアイコン。アイコンをクリックするとコントリビュータ (ネイティブ・ドキュメントの場合は確認して開くためのダイアログ) が開き、コントリビュータは、リージョンに割り当てられたリージョン・コンテンツ (コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントとも呼ばれる) を編集できる。コントリビューション・アイコンを右クリックすると、リージョンに割り当てられているファイルを切り替えるオプションや、ドキュメントの承認または却下を行うワークフローのオプションが表示される。

コントリビューション・モード (Contribution mode)

Web ブラウザに Web ページを表示する方法。ページ上でコントリビューション・リージョン (およびマネージャのインスタンス) を表示して編集できる。ページをコントリビューション・モードで参照すると、編集可能な各リージョンのそばにコントリビューション・グラフィックが表示される。このグラフィックをクリックして、リージョンのコンテンツ (データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント) の編集、コンテンツの承認または却下 (ワークフローを使用する場合)、メタデータの更新などを行う。コントリビューション・モードにするには、キーストロークの組合せ (デフォルトは [Ctrl] + [Shift] + [F5]) を使用する。

コントリビューション・リージョン (contribution region)

コントリビュータがコンテンツを追加および編集できるレイアウト・ページの領域。レイアウト・ページにコントリビューション・リージョンを追加した後、リージョンにリージョン・コンテンツ (コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント) を割り当てる。Web ページをコントリビューション・モードで参照する場合、コントリビュータはコントリビュータ・アプリケーション (コントリビュータ・データ・ファイルの場合) またはコンテンツに関連付けられているアプリケーション (ネイティブ・ドキュメントの場合) のいずれかを使用してリージョン内のコンテンツを編集できる。コントリビュータ・データ・ファイルを使用する場合は、コントリビューション・リージョンに 1 つ以上の要素を含める必要がある。

コントリビュータ (Contributor)

Site Studio の3つのアプリケーションのうちの1つ。コントリビューション・リージョンに割り当てられているコントリビュータ・データ・ファイルの編集に使用する。コントリビュータ・アプリケーションの外観と動作は、デザイナーでのコントリビューション・リージョンおよびコントリビューション要素の設定方法によって決定する。通常は、多数の異なるコントリビュータがコントリビュータ・アプリケーションを使用する。

コントリビュータ (contributor)

コントリビュータ・アプリケーションまたはサード・パーティ製アプリケーションを使用して、Web サイトのコンテンツを編集する個人ユーザー。Web サイトのコンテンツに習熟しているユーザーであれば、誰もがコントリビュータになり得る（マネージャ、販売チームまたはマーケティング・チームのメンバー、人事部のメンバーなど）。Site Studio を使用する場合、一般的に複数のコントリビュータが少数のマネージャおよび1名の設計者とともに作業を行う。

コントリビュータ専用セクション (contributor-only section)

サイト階層のセクション。コントリビューション・モードで参照する場合、このセクションのみがサイトに表示される。このセクションは、サイトへのコントリビューションの手順などの情報を設計者からマネージャ、マネージャからコントリビュータといった形で伝達する場合に有用である。

コントリビュータ・データ・ファイル (contributor data file)

Site Studio で導入されたテキスト・ファイルまたはXML ファイル。コントリビュータ・アプリケーションを使用して開き、編集するように設計されている。ファイルはレイアウト・ページのコントリビューション・リージョンに割り当てることができる。この場合、このデータ・ファイルが Web サイトに表示される。ただし、ファイル自体は、レイアウト・ページとは別に管理対象コンテンツ・アイテムとしてコンテンツ・サーバーに保存される。そのため、(コントリビュータが作成した) コンテンツと (設計者が作成した) プレゼンテーションを区別することが可能。Web サイトではコントリビュータ・データ・ファイルとネイティブ・ドキュメントの両方を使用できる。

サイト・アセット (site asset)

Web サイトで参照されるファイル。なんらかの方法でレイアウト・ページをサポートする場合に使用される (レイアウト・ページのフラグメントやコントリビューション・リージョンも含まれる)。使用頻度の高いサイト・アセットは、グラフィック、Cascading Style Sheet およびカスタム・スクリプト。デザイナーの「Site Assets」ペインを使用して、ファイルを追加および編集する。

サイト階層 (site hierarchy)

サイトの構造を編成する各セクションおよびレイアウト・ページの集合。フラット階層の場合、すべてのセクションは階層の最上部に配置される。深さがある場合、セクションは他のセクション内に配置される。フォルダ階層のフォルダと類似し、関連するコンテンツの格納にはサイト階層の各セクションを使用する必要がある。サイト階層はサイトのコンテンツをカテゴリ分けして管理する場所として捉えられるが、さらに Site Studio では Web サイトの編成に不可欠なレイアウト・ページの管理と Web サイト上のナビゲーション・リンクの生成を行うためにサイト階層が使用される。

サイト接続 (site connection)

デザイナーが Content Server に格納されている Web サイトへの接続およびそのサイトの更新に使用するもの。サイト接続は、一般的なショートカットと同様に機能し、デスクトップに追加してリモート・ファイルへのクイック・アクセスを可能にする。コンテンツ・サーバーの Web サイトに実際の影響を与えずに、サイト接続を追加、変更および削除できる。同じコンテンツ・サーバーの別の Web サイトへの接続や、別のコンテンツ・サーバーへの接続など、必要な数のサイト接続の追加が可能。

サイト・レポート (site reports)

Web サイトで使用されているファイルの総数をすばやく効率的に判断し、それらのファイルの使用場所を確認するための方法。表示可能なサイト・レポートには、Web サイト・オブジェクト・レポート、Web サイト使用状況レポートおよびコンテンツ追跡レポートの3種類がある。

作業領域 (workspace)

デザイナーの (中間) 領域で、レイアウト・ページやフラグメントを操作する。デフォルトでは、このスペースでレイアウト・ページとフラグメント・エディタを開く。

スニペット (snippet)

フラグメントに格納するテキストまたはコード。レイアウト・ページ内の挿入ポイントによって定義される。フラグメントを作成する場合、1つ以上のスニペットをフラグメントに追加する必要がある。各スニペットでは、レイアウト・ページへの挿入方法 (ドロップポイント、ヘッド、本文の上部、本文の下部) を指定する必要がある。フラグメントを使用して、レイアウト・ページの一箇所にテキストまたはコードを挿入する場合、作成できるスニペットは1つのみである。ただし、フラグメントの一部をレイアウト・ページの複数箇所に挿入する必要がある場合は、それぞれにスニペットを作成する必要がある。スニペットはフラグメント・エディタで追加、編集、削除する。

静的リスト (static list)

固定数の行と列で、各行と列にはコントリビューション要素 (WYSIWYG、プレーン・テキストまたはイメージ) が含まれる。静的リストを使用すると、表のようなレイアウトで複数の要素をまとめることができる。そのため、コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集、削除、および再配置できる。各要素内では、スタンドアロンの要素と同じ編集を行うことが可能。デザイナーのツールボックスには「Static List Fragments」というカテゴリがあり、この中に静的リストのサンプルが含まれている。

セカンダリ・ページ (secondary page)

サイト階層のセクションに関連付けられている2種類のレイアウト・ページのうちの1つ (もう1つはプライマリ・ページ)。コントリビュータがサイトに追加した新規のファイル (具体的には、新規のコントリビュータ・データ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメント) の背景として機能する。コントリビュータがサイトに新規のファイルを追加すると、実際は、新規のファイルに移動するハイパーリンクがプライマリ・ページに作成され、ファイルはセカンダリ・ページに表示される。最終的には、設計者が作業を行うことなく、コントリビュータが Web サイトに新規の Web ページを追加できる。サイト全体での再利用も可能。また、他のセクションのコンテンツのテンプレートとしても機能する。

セクション (section)

サイト階層内のカテゴリまたは特定の領域。通常は、Web サイトの共通部分 (「Products」、 「Services」 および 「About Us」 など) を表すセクションをサイト階層に作成する。サイト階層のセクションは、Web サイトのナビゲーション・メニューに表示される。ユーザーはセクションを使用してサイトを編成し、訪問者はセクションを使用してサイトをナビゲートする。デザイナーおよびマネージャでは、「Site Hierarchy」 ペインでセクションを作成し、各セクションにプライマリ・ページおよびセカンダリ・ページ (オプション) を追加する。

設計者 (designer)

デザイナー・アプリケーションを使用して Web サイトを構築する個人ユーザー。Web マスター、Web 開発者、または Web チームのメンバーが該当する。Site Studio を使用する場合、一般的に1名の設計者が複数のマネージャやコントリビュータとともに作業を行う。設計者はサイトの最初のフレームワーク (構造) を作成し、マネージャやコントリビュータがサイトのコンテンツの追加および編集に使用できるコントリビューション・モデルを設定する。

ターゲット・セクション (target section)

コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが表示されるサイトのセクションで、ユーザーがリンクをクリックすると該当ファイルに移動する。サイトでこれらのファイルのターゲット・セクションを指定するか、Site Studio でコンテンツの表示場所を決定するリンク評価を実行できる。ターゲット・セクションを使用する場合、ファイルを移動したり、コンテンツ・サーバーのメタデータ属性を変更したりすることなく、自分の Web サイトでファイルを表示できる。そのため、ターゲット・セクションを使用する1つ以上の Web サイトでのコンテンツの共有および再利用が可能。

ツールボックス (Toolbox)

コンテンツ・サーバーのすべてのフラグメントを表示するデザイナーのウィンドウ。4つのカテゴリ「Navigation Fragments」、「Dynamic List Fragments」、「Static List Fragments」および「Other Fragments」に分類される。レイアウトにフラグメントを追加するにはツールボックスを使用し、フラグメントを直接編集するにはフラグメント・エディタを使用する。場合によっては、デザイナーをリフレッシュして、コンテンツ・サーバーで使用可能な最新のフラグメントを確認する必要がある（組織に複数の設計者が存在する場合）。

デザイナー (Designer)

Site Studio の3つのアプリケーションのうちの1つ。設計者がサイトの作成、レイアウト・ページ的设计、フラグメントおよびコントリビューション・リージョンの追加などを行うことができる開発環境が提供される。デザイナー・アプリケーションをマネージャおよびコントリビューターと一緒に使用して、サイトの構築と管理を行う。

動的リスト (dynamic list)

コンテンツ・サーバーで実行される問合せに基づくファイルのリスト（コントリビューター・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）。たとえば、ドキュメント・タイプ「プレス・リリース」のファイルについてコンテンツ・サーバーに問合せを実行し、その項目をページに表示する動的リストを使用できる。リストはハイパーリンクのリストのように単純なものや、タイトル、引用長、および各ファイルのハイパーリンクを示すリストのように複雑なものもある。デザイナーのツールボックスには「Dynamic List Fragments」というカテゴリがあり、この中に動的リストのサンプルが含まれている。

ナビゲーション (navigation)

Web サイトで訪問者がサイトを閲覧する方法。Web サイト上のナビゲーションは、通常、各メイン・カテゴリまたはサイトのセクションを指し示すハイパーリンクの集合になる。Site Studio では、ツールボックスからナビゲーション・フラグメントを追加でき、サイト階層の各セクションを指し示すナビゲーション・メニューがすぐに作成される。

ネイティブ・ドキュメント (native document)

Microsoft Word や Microsoft Excel などのサード・パーティ製アプリケーションで作成されるドキュメント。Site Studio では、コントリビューター・データ・ファイルの場合はコントリビューター・アプリケーションで開いて編集し、ネイティブ・ドキュメントの場合は最初にそのドキュメントの作成に使用したアプリケーションで開いて編集する。ネイティブ・ドキュメントはコンテンツ・サーバーにチェックインした後、サイトで使用できるように（Dynamic Converter を使用して）Web ページに変換される。

ハイパーリンク (hyperlink)

ある Web ページから別の Web ページにユーザーを誘導するリンク。ハイパーリンクを使用して、訪問者は Web サイトをナビゲートできる。デザイナーでは、レイアウト・ページにナビゲーション・フラグメントを追加するとハイパーリンクが自動的に作成される。通常は、サイトの別の部分や別のサイトを相互参照させるために自分でハイパーリンクを追加できる。コントリビューターがコントリビューター・アプリケーションを使用して Web サイト上にハイパーリンクを作成したり、コントリビューターのハイパーリンク・ウィザードを使用してサイトに新しい Web ページを追加することも可能。

ハイパーリンク・ウィザード (hyperlink wizard)

Site Studio（デザイナーおよびコントリビューター）の機能で、他のセクションへのリンク、他のファイルへのリンク、およびコンテンツ・サーバーの他のサイトへのリンクをすばやく簡単に作成できる。4つまたは5つのパートからなるウィザード（選択する内容によって異なる）を使用して、リンク作成に必要な手順を進み、リンクのターゲット・セクションやファイルを選択して、リンクの形式を選択できる。

バックアップおよびリストア (backup and restore)

「Site Studio Administration」ページからアクセス可能な Site Studio の機能。バックアップおよびリストア機能を使用すると、サイト全体のバックアップをすばやく簡単に実行し、バックアップ内容を圧縮 ZIP ファイルに保存して別の場所に移動し、このファイルからサイトをリストアすることができる。

パラメータ (parameter)

フラグメントの外観と動作を制御する属性。新しいフラグメントの作成時にパラメータのセットを指定し、レイアウト・ページにフラグメントを追加するときに定義済みのパラメータの値を入力できる。

プライマリ・ページ (primary page)

サイト階層のセクションに関連付けられている 2 種類のレイアウト・ページのうちの 1 つ (もう 1 つはセカンダリ・ページ)。各セクションのデフォルト・ページまたはランディング・ページとして機能する。ユーザーがサイトの該当セクションへのリンクをクリックすると、プライマリ・ページに移動する。サイト全体での再利用も可能。また、他のセクションのコンテンツのテンプレートとしても機能する。

フラグメント (fragment)

コード、そのコードで参照されるファイル、レイアウト・ページに対するそのコードの追加方法を制御するパラメータのコンテナ。フラグメントを使用すると、サイトの機能を作成および編集できる。機能はサイトとは別に維持される。Site Studio にはサンプル・フラグメントが数多く用意されており、これらはデザイナーのツールボックスで提供される。フラグメントを開いて編集するにはフラグメント・エディタを使用する。フラグメントは Extensible Markup Language (XML) で記述され、コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリに格納される。

フラグメント・アセット (fragment asset)

フラグメントで参照されるファイル。コンテンツ・サーバーのフラグメント・ライブラリにフラグメントとともに格納される。使用頻度の高いアセットは、グラフィック、Cascading Style Sheet および JavaScript ファイル。フラグメントにアセットを追加すると、フラグメントの各スニペットからアセットを簡単に参照できる。

フラグメント・エディタ (Fragment Editor)

デザイナーの構成要素。フラグメントを開いて編集する際に使用する。フラグメント・エディタを使用すると、フラグメントのプロパティ、スニペット、アセット、パラメータなどを追加および編集できる。デザイナーのツールボックスから新しいフラグメントを作成する場合や、既存のファイルを編集する場合は必ずフラグメント・エディタを開く。

フラグメントのプロパティ (fragment properties)

フラグメントを識別する特性。名前、タイプ、スクリプト言語の選択など。フラグメントを作成または編集する場合は、最初にそのプロパティを指定する。

フラグメント・ライブラリ (fragment library)

1 つ以上のフラグメントおよびそのアセットの集合。コンテンツ・サーバーの管理対象コンテンツ・アイテムとして格納される。フラグメントのすべてのコンテンツを記述する XML (Extensible Markup Language) ファイルと、そのコンテンツを保存する ZIP ファイルで構成される。Site Studio に付属のサンプル・フラグメント・ライブラリは、コンポーネントをインストールするとコンテンツ・サーバーに自動的にチェックインする。

プレーン・テキスト要素 (Plain Text element)

コントリビューション・リージョンの要素がコントリビュータ・アプリケーションのフィールドになり、コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションでコンテンツを追加、編集および削除できる。書式設定オプションは表示されず、最小限の編集オプション (切り取り、コピー、貼付け、スペル・チェッカーなど) のみが表示される。コントリビュータが Web ページのテキスト (タイトルや見出しなど) を手動で書式設定できないようにする場合に有用である。

プロジェクト・ファイル (project file)

XML (eXtensible Markup Language) で記述されるファイルで、Web サイトのサイト階層全体を格納する。プロジェクト・ファイルは、新しいサイトがデザイナーで作成されると Site Studio で作成される。ファイルは管理対象コンテンツ・アイテムとしてコンテンツ・サーバーに格納される。

プロパティ・フォーム (properties form)

コントリビュータがコントリビュータで使用される大部分の HTML タグの値を変更できるように設計者が設定するフォーム。要素 (WYSIWYG またはイメージ) にフォームを適用し、コントリビュータのツールバーでフォームを開くことができる。Site Studio には、すぐに使用可能な複数のフォームが用意されている。

変換テンプレート (conversion template)

Dynamic Converter の構成要素。ネイティブ・ドキュメントを Web ページに変換する際に Site Studio で使用する。デザイナーの「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックスで、様々な変換テンプレートまたはルールを指定できる。

ホームページ (home page)

Web サイトへのエントリ・ポイントとして機能するページ。通常は、サイトの主なセクションへのリンクが含まれる。デザイナーおよびマネージャでは、ホームページはプライマリ・ページと類似する。唯一の違いは、サイト階層のセクションのルートにではなく、サイト階層のルートにページを追加する点である。ツールボックスのナビゲーション・フラグメントには、多くの場合、ホームページへのリンクが含まれている。

マネージャ (Manager)

Site Studio の 3 つのアプリケーションのうちの 1 つ。Web ベースのアプリケーションで、サイト階層の制御や各セクションの編集に使用される。デザイナーを使用する場合、マネージャ・アプリケーションはサイトに追加される。ロック・アンド・フィールドと動作は、マネージャのインスタンスごとに変更できる。

マネージャ (manager)

マネージャ・アプリケーションのユーザー。セクションの追加および削除、レイアウト・ページの割当て、サイトのプロパティの変更といったサイト階層の管理を担当する。一般的に、マネージャは 1 名の設計者および複数のコントリビュータとともに作業を行う。

メタデータ (metadata)

データに関するデータ。コンテンツ・サーバーにチェックインする (ユーザーまたは Site Studio によって自動的に行われる) 各コンテンツ・アイテムには、タイトル、作成者、ドキュメント・タイプなどが割り当てられる。これらの属性はコンテンツ・アイテムのメタデータで編成される。サイトを構築すると、このメタデータを使用して様々な方法でコンテンツを処理できる (特定のドキュメント・タイプまたはセキュリティに一致するコンテンツ・アイテムに問合せを実行する動的リストの作成など)。

要素 (element)

コントリビューション・リージョンの要素がコントリビュータ・アプリケーションのフィールドになり、コントリビュータは、コントリビュータ・アプリケーションでコンテンツを追加、編集および削除できる。サイトでコントリビュータ・データ・ファイルを使用する場合、各コントリビューション・リージョンに 1 つ以上の要素を作成する必要がある。要素を 1 つのみ追加した場合はコントリビュータに 1 つのフィールドが表示され、複数の要素を追加した場合は複数のフィールドが表示される。コントリビュータ・データ・ファイルではなくネイティブ・ドキュメントを使用する場合は、要素は必要ない。

要素の検証 (element validation)

コントリビュータで追加するコンテンツに対して設計者が特定のルールを実行する方法。コンテンツが書式設定されているかどうかを問わず、コンテンツの追加量などを調整できる。要素の検証は要素で設定される。Site Studio に付属するデフォルトの検証スクリプトを使用するか、独自のスクリプトを作成できる。

リージョン・コンテンツ (region content)

レイアウト・ページのコントリビューション・リージョンに割り当てられるコンテンツ。コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメントが該当する。通常は、コントリビュータがリージョン・コンテンツを担当する（設計者がレイアウト・ページやフラグメントを担当する場合と同様）。コントリビューション・リージョンにリージョン・コンテンツを割り当てると、コントリビュータはコントリビュータ・アプリケーション（コントリビュータ・データ・ファイルを使用する場合）またはサード・パーティ製アプリケーション（ネイティブ・ドキュメントを使用する場合）を使用して、コンテンツを編集できる。

リスト・フラグメント (list fragment)

静的リストまたは動的リストのいずれかを表示するフラグメントのタイプ（フラグメントのタイプには、これ以外にナビゲーションとその他の2種類がある）。静的リスト・フラグメントでは、固定数の行と列が表示され、各行と列にはコントリビューション要素（WYSIWYG、プレーン・テキストまたはイメージ）が含まれる。コントリビュータは、情報を示す行と列を追加、編集および削除して、リストを変更することができる。動的リスト・フラグメントでは、コンテンツ・サーバーで実行される問合せに基づくファイルのリスト（コントリビュータ・データ・ファイルまたはネイティブ・ドキュメント）が表示される。コントリビュータは、このリストに表示されるファイルを追加および削除できる。

レイアウト・ページ (layout page)

Site Studio では、サイト階層のセクションに関連付けられる Web ページを示す。HTML、XML、JavaScript、Idoc スクリプト、（オプションで）JSP および ASP が含まれる。ファイル拡張子は .hcsp、.jsp または .asp。サイト全体で再利用できるという点でテンプレートと同様に機能する。通常の Web ページと異なるのは、ほとんどの場合、バックグラウンド情報が追加されるため、フラグメントやコントリビューション・リージョンの大部分のコンテンツが省略される点である。レイアウト・ページには、プライマリ・ページとセカンダリ・ページの2種類がある。サイト階層のセクションにいずれかのページのみを追加する。追加はデザイナーおよびマネージャで行うことができる。

レビューア (reviewer)

サイトのコンテンツを確認し、場合によっては承認する個人ユーザー。レビューアはコントリビューション・アイコンのワークフロー・オプションを使用して、コンテンツを承認および却下できる。レビューアの役割はコンテンツの確認のみの場合と、コントリビュータも兼任して両方の役割を果す場合がある。

レプリケーション (replication)

Site Studio の Web サイトを、あるコンテンツ・サーバーから別のコンテンツ・サーバーにコピーするプロセス。開発環境から本番環境にサイトを配置して、サイトのコンテンツをバックアップする場合などに実行する。Site Studio のサイトをレプリケートするには、Site Studio のレプリケータおよびアーカイバ / レプリケータを使用する。

ワークフロー (workflow)

Site Studio で使用可能な Content Server の機能で、Web サイトのコンテンツを確認する。1つのワークフローで1つの Web ページの構成要素、またはサイトのすべてのコンテンツに対応可能。通常は、複数のワークフローを使用して、Web サイトの様々な構成要素を確認する。指名されたレビューアには、ワークフローでコンテンツを承認または却下する権限がある。

索引

数字

1 行当たりの文字数, 設定, A-13

A

ASP

- Web サイトに対する選択, 4-12
- Web サイトの作成, 4-15
- コンテンツ・サーバーでの構成, 4-15
- 定義, 用語集 -1
- ファイル拡張子, 5-22, 5-23, 5-25
- フラグメントの作成, 4-16
- レイアウト・ページとして, 4-15
- ASP エクスプローラ・メニュー・バー・フラグメント, B-10
- ASP エラー・ハンドラ・メッセージ・フラグメント, B-28
- ASP 検索結果プレーン・フラグメント, B-12
- ASP 検索ボックス・プレーン (サーバー)・フラグメント, B-12
- ASP 検索ボックス・プレーン・フラグメント, B-11
- ASP サイト・マップ・プレーン・フラグメント, B-13
- ASP 静的リスト・サンプル・フラグメント, B-26
- ASP 動的リスト・シンプル・フラグメント, B-23
- ASP 動的リスト・ページ・フラグメント, B-23
- ASP ブレドドクラム・プレーン (サーバー)・フラグメント, B-10
- ASP ブレドドクラム・プレーン・フラグメント, B-9
- 「Assign Region Content」ダイアログ・ボックス, 2-10, 4-11, 8-4, 10-3

C

- Check Out and Open, 4-9, 10-4, 13-2, 17-4
- Check Out and Open コンポーネント有効化, 4-3
- Content Server
 - セキュリティ・モデル, 4-9
 - プロファイル, A-34, A-45
- 「Contribution Region」ボックス, 2-12
- Create Hyperlink Wizard, 2-8, 6-13, 6-15
- 「Create Hyperlink」ダイアログ・ボックス, 6-18
- CSP サンプル動的リスト・フラグメント, B-24
- CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント)・フラグメント, B-13
- CSP サンプル・ナビゲーション (サーバー)・フラグメント, B-14

- CSP サンプル・ページ・タイトル・フラグメント, B-28
- CSS
 - コントリビュータ用のクラス名の指定, 11-18
 - スタイルの参照の挿入, 6-10
- 「Custom Element Settings」ダイアログ・ボックス, 11-12
- 「Customize」ダイアログ・ボックス, 3-3, 3-4, 3-7, 3-11, 3-12

D

- 「Design」ビュー, 6-4
 - 「Properties」ペイン, 6-10, 6-22
 - グラフィックの追加, 6-11
 - 作業, 6-2
 - 書式設定ツールバー, 6-7
 - 定義, 用語集 -1
 - テキストの書式設定, 6-10
 - テキストの操作, 6-7
 - 表ツールバー, 6-22
 - レイアウト・ページ, 2-6
- 「Design」ビューでのテキストの操作, 6-7
- Dynamic Converter, 13-2
 - テンプレートの選択ルール, 13-4
 - 有効化, 4-3

E

- Error Handler, 5-17

F

- Flash サンプル・フラグメント, B-27
- Flash ファイル, Web サイトへの追加, 12-4
- 「Fragment Parameters」ダイアログ・ボックス, A-85

H

- HCSP, 4-13
 - Web サイトに対する選択, 4-12
 - 定義, 用語集 -1
 - ファイル拡張子, 5-22, 5-23, 5-24, 5-25, 5-26
 - ホームページの作成, 5-23
 - レイアウト・ページへの JSP のインクルードに関する制限, 4-3
- HTML
 - フラグメント内, 7-12, 7-23
 - レイアウト・ページ, 6-33

HTML タグ, 11-19

- 表示, 6-29
- 編集, 6-29
- ボディの編集, 6-30
- 要素, 6-10

HTML ツールバー, 6-9

HTML 表

- Web ページの設計, 6-21
- 行のサイズ変更, 6-27
- 行の追加, 6-25
- 削除, 6-29
- サンプル, 6-24
- セルの分割とマージ, 6-26
- 定義, 用語集 -2
- データの表示, 6-21
- テキストとグラフィックの適切な配置, 6-21
- 別のエディタによるレイアウト, 6-23
- ボディ・タグ, 6-30
- マージンの変更, 6-24
- 用途, 6-21
- レイアウト・ページへの追加, 6-24
- 列のサイズ変更, 6-28
- 列の追加, 6-26
- 枠線の表示と非表示, 6-28

I

IdcCommandX, コンテンツ・サーバーへのインストール, 4-15

- IDOC 検索ボックス・プレーン・フラグメント, B-19
- IDOC サイト・マップ・プレーン・フラグメント, B-19
- Idoc スクリプト, 4-3, 4-13
 - jsp 拡張子を使用したレイアウト・ページへのインクルード, 4-3
- JSP のコール, 4-14
 - Web サイトに対する選択, 4-12
 - フラグメント内, 7-12, 7-23
 - フラグメントの言語, 7-14
- IDOC トップ・ナビゲーション・タブ・フラグメント, B-19
- IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ・フラグメント, B-17
- IDOC ブレドクラム・プレーン・フラグメント, B-17
- 「Insert Table」メニュー, 6-24

J

JSP

- .hjsp 拡張子を使用したレイアウト・ページへのインクルードに関する制限, 4-3
- Idoc スクリプトのコール, 4-14
- jsp 拡張子を使用したレイアウト・ページへのインクルード, 4-3
- Web サイトに対する選択, 4-12
- Web サイトの作成, 4-13
- アセットとして, 7-17
- コンテンツ・サーバーでの構成, 4-13
- サポート・ファイルの構成, 7-27
- 定義, 用語集 -2
- ファイル拡張子, 5-22, 5-23, 5-25
- フラグメント, 7-19
- フラグメント内, 7-12, 7-23
- フラグメントの言語, 7-14

ホームページの作成, 5-23

レイアウト・ページとして, 4-14

- JSP 検索結果ページ・フラグメント, B-16
- JSP 検索ボックス・プレーン・フラグメント, B-15
- JSP サイト・マップ・プレーン・フラグメント, B-17
- JSP 動的リスト・プレーン・フラグメント, B-24
- JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ・フラグメント, B-14
- JSP フラグメント, コンテンツ・サーバーでの構成, 7-27

N

- 「Native Document Conversion Settings」ダイアログ・ボックス, 13-3

P

- PageHitCount フラグメント, B-29
- Preview, 2-6, 6-6
 - Internet Explorer 5.5 の使用, 6-6
 - 作業, 6-2
 - 定義, 用語集 -2
- 「Preview」での Internet Explorer 5.5, 6-6
- 「Properties」ペイン, 2-6
 - 説明, 6-29
 - 定義, 用語集 -2
 - テキストの書式設定, 6-10

R

- RSET サイト・マップ・プレーン・フラグメント, B-21
- RSET ブレドクラム・プレーン・フラグメント, B-20

S

- Site Assets, 4-12
 - 「Site Assets」ペイン, 2-7, 5-30
 - 使用されるメタデータ値, 5-31
 - 説明, 5-32
 - 表示, 5-33
- 「Site Connection Manager」ダイアログ・ボックス, 2-3
- 「Site Hierarchy」ペイン, 2-4
 - 定義, 用語集 -2
 - 展開と縮小, 5-19
- Site Studio
 - アプリケーション, 1-3
 - ファイルの管理, 4-11
- Site Studio Administration
 - Configure JSP Support, 7-27
 - Manage Fragment Libraries, 7-27
- Site Studio, 説明, 1-2
- Site Studio マネージャ・フラグメント, B-29
- Site Studio レプリケータ
 - Web サイト階層の選択, 17-15
 - 階層のレプリケート, 17-16
 - コンテンツ・サーバー接続, 17-17
 - 説明, 17-11
 - ソースの場所の選択, 17-12
 - ターゲットの場所の選択, 17-13
 - レプリケートするアイテムの選択, 17-15
- SOAP コンポーネント, コンテンツ・サーバーへのインストール, 4-15

「Source」ビュー
コードの編集, 6-3
作業, 6-2
定義, 用語集-3
右クリック・オプション, 6-3
レイアウト・ページ, 2-6
レイアウト・ページの制御, 6-29

U

URL

レイアウト・ページへの追加, 5-21

W

W3C

<TABLE> タグの説明, 6-23
<TD> タグの説明, 6-27, 6-28
要素の説明, 6-10

「Website Object Type」メタデータ, 5-31

「Website Section」メタデータ, 5-31

WebsiteObjectType メタデータ, 6-11

「Websites」メタデータ, 5-31

Web アドレス, リンク, 6-17

Web サイト

ASP による作成, 4-15
ASP ファイル拡張子, 5-22, 5-23, 5-25
Flash ファイルの使用, 12-4
HCSP ファイル拡張子, 5-22, 5-23, 5-24, 5-25,
5-26
JavaServer Pages による作成, 4-13
JSP ファイル拡張子, 5-22, 5-23, 5-25
開始と停止, 5-44
起動時の再接続, 3-12
計画, 4-1
現在関連付けられていないコンテンツの追加, 4-6
更新, 4-8
コピー, 17-1
コンテンツ・サーバーからのフラグメントのダウン
ロード, 5-3
コンテンツ・サーバーの指定, 2-3
コンテンツ・サーバーへの格納, 4-2, 4-3
コンテンツの共有, 9-12
コントリビュータ専用セクションの作成, 8-8
コントリビュータ・データ・ファイルの共有, 4-6
コントリビュータによるアクセス, 4-9
サイト・コントリビューション, 8-1, 9-1
サイト接続の削除, 5-4
サイト・レプリケーションの開始, 17-10
サイト・レポート, 5-39
作成, 5-2
スクリプト言語, 4-12
ステージ, 1-6
セクションの削除, 5-13
セクションの追加, 5-11
セクションのハイパーリンク, 5-13
セクションの表示, 5-13
セクションの編集, 5-16
セクション名の変更, 5-12
接続, 3-12, 5-2
接続の編集, 5-4
相互リンク, 5-21
定義, 用語集-3

ネイティブ・ドキュメントの共有, 4-6
ネイティブ・ドキュメントの発行, 4-9
バックアップ, 17-1, 18-2
バックアップ・サイトのサーバー構成の詳細, 18-5
バックアップとリストア, 18-1
ホームページの追加, 5-22

命名, 2-3

リストア, 18-3

リンクを使用したナビゲート, 6-13

レプリケート, 4-4, 17-1

Web サイト, セクションへのリンク, 6-14

Web サイトの計画, 4-1

Web サイトのステージ, 1-6

Web サイトのセクション, リンク, 6-14

Web サイトの命名, 2-3

Web サイトのレプリケート, 4-4

Web ページ

2つのバージョンの比較, 6-30, 6-32

HTML 表, 6-21

構造化, 6-21

定義, 用語集-3

リンクのターゲット, 6-18

レイアウト・ページへのリンク, 5-21

WYSIWYG 要素, 11-6

コントリビューション・リージョンへの追加, 11-3

X

XHTML 準拠のマークアップ, 生成, A-13

XML

フラグメント内, 7-12, 7-23

レイアウト・ページ, 6-33

あ

アクセシビリティ

ツールバー, 11-18

アクセシビリティのツールバー, 11-18

アセット

JSP, 7-17

管理, 4-11

定義, 用語集-8

フラグメント, 2-9, 7-17

アプリケーション, ショートカットの追加, 3-7

い

一意のコントリビューション・リージョン・ファイルの
生成, 10-5

イメージ, ワークフローへの追加, 16-5

イメージ要素, コントリビューション・リージョンへの
追加, 11-10

インタフェース

カスタマイズ, 3-1

コントリビュータ, 2-16

デザイン, 2-2

インポート・アーカイブ, 作成, 17-7

インライン・インクルード・スニペット, 7-16

インライン動的変換とワークフロー, 16-4

え

エクスペローラ・メニュー・バー・フラグメント, B-3
エクスポートアーカイブ,作成, 17-7
エラー・ハンドラ, 5-14
 カスタム, 5-14
エラー・ハンドラ・メッセージ, B-27

か

外部ファイル,参照, 4-3
カスタム・エラー・ハンドラ, 5-14
カスタム・セクション・プロパティ, 5-18
カスタム要素
 コントリビューション・リージョンへの追加, 11-13
 サンプル・フォーム, 12-4
カスタム要素フォーム, 12-2
環境プロパティ
 上書き, 17-18
 指定, 17-10
環境プロパティの上書き, 17-18
管理
 Backup and Restore, 2-18
 General Component Information, 2-18
 Manage Fragment Libraries, 2-17
 Manage Site Replication, 2-18
 Manage Web Site, 2-17
 Manage Web Site Addresses, 2-17
 Set Default Project Documentation Information, 2-18

き

既存のレイアウト・ページ
 コピー, 5-22, 5-24, 5-25
 再利用, 5-22, 5-24, 5-25
起動オプション,変更, 3-12
起動時の Web サイトへの再接続, 3-12
起動時の Web サイトへの接続, 3-12
行
 表でのサイズ変更, 6-27
 表への追加, 6-25
行折返し,有効化, A-13
行の長さ,設定, A-13

く

グラフィック
 コンテンツ・サーバーへのチェックイン, 6-11
 削除, 6-13
 レイアウト・ページでのサイズ変更, 6-12
 レイアウト・ページへの追加, 6-11

け

警告メッセージ,表示と非表示, 3-11
検索結果ブレン, B-8
検索結果ページ・フラグメント, B-7
検索ボックス, 5-14
検索ボックス・ブレン, B-7

こ

コード
 レイアウト・ページ, 6-3
 レイアウト・ページでの改変に関する警告, 6-3
コピーライト・サンプル・フラグメント, B-26
コンテンツ・サーバー
 IdcCommandX のインストール, 4-15
 JSP の構成, 4-13
 SOAP コンポーネントのインストール, 4-15
 Web サイトに対する指定, 2-3
 Web サイトの格納, 4-2, 4-3
 Web サイトのレプリケート, 4-4
 外部ファイルの参照, 4-3
 格納されるフラグメント, 7-10
 グラフィックのチェックイン, 6-11
 コントリビュータ用の問合せテキストの指定, 11-16
 サイト階層, 5-1
 フラグメントの削除, 7-11
 フラグメントのダウンロード, 5-3
 フラグメント・ライブラリのアップロード, 7-26
 フラグメント・ライブラリのダウンロード, 7-26
 フラグメント・ライブラリのデプロイ, 7-27
 レイアウト・ページ, 5-1
コンテンツ追跡レポート
 コンテンツ追跡レポートの表示, 5-43
コントリビューション
 アクセス・レベル, 4-9
 デザイナでの設定, 8-7
コントリビューション・アイコン,定義,用語集-4
コントリビューション・グラフィック, 4-9
 メニュー・アイコン, 4-9
コントリビューション・モード, 8-6, 用語集-4
コントリビューション・リージョン, 6-33
 4 種類の要素, 2-10
 Flash ファイルの追加, 12-4
 HTML 表, 6-21
 Preview, 6-6
 WYSIWYG 要素の追加, 11-3
 移動, 9-5
 イメージ要素の追加, 11-10
 カスタム要素の追加, 11-13
 コンテンツの追加, 6-33
 コントリビュータ・データ・ファイル, 4-11, 10-8
 コントリビュータ・データ・ファイルの指定, 2-11
 コントリビュータ・データ・ファイルの割当て, 8-4, 8-8
 コントリビュータによるコンテンツの切替えの許可, 9-6
 コントリビュータによるネイティブ・ドキュメントの追加の許可, 9-8
 コントリビュータによるメタデータの変更の許可, 9-5
 サイズ調整, 9-5
 削除, 9-4, 9-5
 静的リスト, 14-2
 静的リストの追加, 14-3
 セカンダリ・ページの追加, 9-11
 セキュリティ・モデル, 4-9
 追加, 2-10
 定義,用語集-4
 動的リスト, 14-6
 動的リストの追加, 14-7

- ネイティブ・ドキュメントの追加, 13-2
- ネイティブ・ドキュメントの割当て, 10-3
- プレーン・テキスト要素の追加, 11-9
- 編集, 9-4
- 要素, 7-22, 11-2
- 要素の追加, 8-3, 8-7
- リージョン・コンテンツが欠落しているかどうかの確認, 10-6
- リスト要素の追加, 14-2
- レイアウト・ページでのコードの変更, 6-3
- レイアウト・ページへの追加, 5-29, 8-3, 9-2
- ワークフロー, 16-2
- ワークフロー・オプション, 16-5
- コントリビュータ
 - CSS クラス名の指定, 11-18
 - アクセシビリティのツールバー, 11-18
 - アプリケーション, 1-3
 - アプリケーションの動作方法, 2-14
 - インタフェース, 2-16
 - 起動, 2-14
 - コンテンツの切替えの許可, 9-6
 - コントリビューションのレベル, 4-9
 - コントリビュータ・データ・ファイルの作成, 9-8
 - サイトのコントリビュータ閲覧可能セクションの作成, 8-8
 - サイトへの投稿, 8-1, 9-1
 - 情報提供, 8-9
 - 説明, 1-2
 - 定義, 用語集 -5
 - デザイナーでのコントリビューションの設定, 8-7
 - デザイナーとの併用, 2-14
 - 問合せテキストの指定, 11-16
 - 独自のデータ・ファイルおよびネイティブ・ドキュメントの作成, 2-13
 - ネイティブ・ドキュメントの追加の許可, 9-8
 - 役割, 4-8
 - リージョン・コンテンツの変更, 9-3
 - ワークフロー, 2-17, 16-3
 - ワークフローでの使用, 2-17
 - ワークフローの担当, 2-17
- コントリビュータ・データ・ファイル, 2-11, 8-4, 10-8
- Web サイト全体での共有, 4-6
- 一意のファイルの生成, 10-5
- コントリビューション・リージョン, 4-11
- コントリビューション・リージョンへの割当て,
2-12, 8-8
- コントリビュータによる作成, 9-8
- 再利用, 2-13
- 指定, 2-11
- 新規指定, 2-13
- 定義, 用語集 -5
- リージョンでのコントリビュータによる切替えの許可, 9-6
- リンク, 6-17
- ワークフローへの追加, 16-3
- コントリビュータ・データ・ファイルの説明, 2-11
- コントリビュータの役割, 8-7
- コンポーネント
 - Site Studio, 1-4
 - 有効化, 4-3

ル

- サイト・アセット
 - カテゴリの削除, 5-37
 - カテゴリの変更, 5-36
 - カテゴリの編集, 5-38
 - 削除, 5-36
 - 使用, 5-30
 - 新規カテゴリの作成, 5-37
 - 操作, 5-30
 - 追加, 5-33, 5-34
 - 表示, 5-33
 - 編集, 5-35
- サイト階層, 2-4, 7-3
 - カスタム・セクション・プロパティ, 5-18
 - 計画, 4-4
 - コンテンツ・サーバー, 5-1
 - コンテンツの追加, 4-7
 - コントリビューション・モデル, 4-8
 - サイト・ナビゲーション, 5-10
 - サイト・ナビゲーションの決定, 5-10
 - セクション, 2-4
 - セクションの移動, 5-12
 - セクションの削除, 5-13
 - セクションの追加, 5-11
 - セクションの編集, 5-16
 - セクション・プロパティの表示, 5-16
 - セクション名, 4-5
 - セクション名の変更, 5-12
 - 説明, 5-10
 - 定義, 用語集 -5
 - 深さ, 4-5
 - プライマリ・ページの追加, 5-23
 - プロジェクト・ファイルの変更, 5-10
 - ホームページの追加, 5-22
 - 用途, 4-4
 - リージョン・コンテンツが欠落しているかどうかの確認, 10-6
 - レイアウト・ページの管理, 5-10
 - レイアウト・ページの追加, 5-22, 5-24, 5-25
- サイト・コントリビューション, 8-1, 9-1
- サイト接続, 5-2
 - Web サイトの変更, 5-4
 - コンテンツ・サーバーの変更, 5-4
 - 削除, 5-4
 - 作成, 5-2
 - 定義, 用語集 -5
 - 名前の変更, 5-4
 - 編集, 5-4
- サイト接続マネージャ, 2-3
- サイト・タイプ
 - HCSP, 4-13
 - JSP, 4-13
- サイト・ナビゲーション
 - サイト階層による決定, 5-10
 - セクションの表示, 5-13
 - セクションの役割, 4-5
 - ホームページ, 5-22
- サイトのナビゲート, 4-5
- サイト・プロパティ, セキュリティ, 5-15
- サイト・マップ・ツリー・フラグメント, B-9
- サイト・マップ・プレーン・フラグメント, B-8

- サイト・レポート
 - オブジェクト, 5-41
 - 使用状況, 5-40
 - 使用状況レポートの表示, 5-42
 - 説明, 5-39
 - タイプ, 5-39
 - 表示, 5-41
- 再利用可能なレイアウト・ページ, 1-3, 4-6
- 作業領域, 定義, 用語集 -6
- 参照インクルード・スニペット, 7-16
- サンプル・フラグメント, B-1, B-2
 - レイアウト・ページへの追加, 7-4

し

- ショートカット
 - Web サイト, 5-2
 - 外部アプリケーション, 3-7
- 書式設定ツールバー, 6-7
 - Create Hyperlink Wizard, 2-8

す

- 垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ・フラグメント, B-11
- 垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン・フラグメント, B-15
- 垂直方向のナビゲーション・プレーン, B-6
- 垂直方向のナビゲーション・マルチ・フラグメント, B-5
- 垂直方向のメニュー・バー・フラグメント, B-9
- 水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ・フラグメント, B-10
- 水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン・フラグメント, B-18
- 水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ・フラグメント, B-18
- 水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン・フラグメント, B-15
- 水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン・フラグメント, B-21
- 水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ・フラグメント, B-20
- 水平方向のナビゲーション・プレーン・フラグメント, B-5
- 水平方向のナビゲーション・マルチ・フラグメント, B-4
- 水平方向のナビゲーション・ラップ・フラグメント, B-6
- スクリプト・オプション
 - Idoc スクリプト, 4-3
 - JavaScript, 4-3
 - JavaServer Pages, 4-3
 - 言語の選択, 4-12
 - レイアウト・ページ, 4-3
- スタイル
 - CSS の参照, 6-10
 - CSS への格納, 6-10
 - テキストへの適用, 6-10
- スニペット
 - 定義, 用語集 -6
 - パラメータ宣言の挿入, 7-21
 - パラメータの挿入, 7-21

- フラグメント, 2-9
- フラグメントへの追加, 7-15
- 編集, 7-15

せ

- 静的リスト, 14-2
 - コントリビューション・リージョンへの追加, 14-3
 - 定義, 用語集 -6
 - 要素のアクション, 14-5
- 静的リスト一般フラグメント, B-25
- 静的リスト・サンプル・フラグメント, B-25
- セカンダリ・ページ, 2-5, 9-11
 - コントリビューション・リージョンへの追加, 9-11
 - 再利用, 1-3
 - 説明, 4-5
 - 定義, 用語集 -6
- セキュリティ
 - サイト, 5-15
 - セクション, 5-15
- セキュリティ・モデル, 4-9
- セクション
 - ID, 5-12
 - Web サイトへの追加, 5-11
 - カスタム・プロパティの定義, 5-18
 - サイト階層, 2-4, 4-5
 - サイト階層での移動, 5-12
 - サイト・ナビゲーションへの追加, 5-13
 - サイト・ナビゲーションへの表示, 5-13
 - 削除, 5-13
 - セカンダリ・ページ, 2-5
 - 定義, 用語集 -6
 - 名前, 4-5, 5-10
 - 名前のハイパーリンク, 5-12
 - 名前の変更, 5-12
 - ハイパーリンクとしての名前, 5-12
 - プライマリ・ページ, 2-5
 - 編集, 5-16
 - レイアウト・ページ, 5-10
 - レイアウト・ページの追加, 5-20
- セクションの移動, 5-12
- セクション・プロパティ, セキュリティ, 5-15
- セクションまたはサイトのセキュリティの変更, 5-15
- 設計者, 役割, 4-8
- 設計者 - コントリビュータ・モデル, 8-2

た

- ターゲット・セクション
 - 新規リージョン・コンテンツに対する指定, 9-13
- ダイアログ・ボックス
 - Assign Region Content, 2-10, 4-11, 8-4, 10-3
 - Create Hyperlink, 6-18
 - 「Custom Element Settings」, 11-12
 - Customize, 3-3, 3-4, 3-7, 3-11, 3-12
 - 「Fragment Parameters」, A-85
 - 「Native Document Conversion Settings」, 13-3
 - Site Connection Manager, 2-3
 - 要素, 14-9
- タグ, 不明の扱い, A-13
- タグ属性, 新しい行への配置, A-13
- タブ 1 つ当たりの文字数, 設定, A-13

タブ・サイズ, 設定, A-13
単純インクルード・スニペット, 7-15

つ

ツールバー

HTML, 6-9
アクセシビリティ, 11-18
カスタマイズ, 3-5
作成, 3-4
書式設定, 6-7
新規作成, 3-5
表, 6-25
表示と非表示, 3-2

ツールバーの要素のタイプ, 11-3

ツールボックス, 2-7

サンプル・フラグメント, 7-2
静的リスト・フラグメント, 7-3
定義, 用語集-7
動的リスト・フラグメント, 7-3
ナビゲーション・フラグメント, 7-3
フラグメント, 2-7
フラグメント・アイコンの変更, 7-14
フラグメントの追加, 7-4

て

テキスト

書式設定, 6-7, 6-10
スタイルの適用, 6-10

テキストの書式設定, 6-7

デザイナー

「Properties」ペイン, 2-6
「Site Hierarchy」ペイン, 2-4
Web サイトの計画, 4-1
アプリケーション, 1-3
インタフェース, 2-2
インタフェースのカスタマイズ, 3-1
ウィンドウとペインのカスタマイズ, 3-2
起動, 2-2
コントリビュータとの併用, 2-14
サイト階層の計画, 4-4
サイト接続, 5-2
サイト接続マネージャ, 2-3
ツールボックス, 2-7
定義, 用語集-7
フラグメント・エディタ, 2-9
フラグメントの使用, 1-4
フラグメント・ライブラリ, 1-4
デザイナー, 説明, 1-2
デフォルトのリンク形式, 選択, 6-19

と

問合せテキスト, コントリビュータ用の指定, 11-16

動的変換 IFrame フラグメント, B-27

動的変換フラグメント, 13-5, B-26

動的リスト, 14-6

コンテンツの格納方法, 14-8
コントリビューション・リージョンへの追加, 14-7
定義, 用語集-7
要素のアクション, 14-9
ワークフロー, 16-4

動的リスト一般フラグメント, B-22

動的リスト・プレーン・フラグメント, B-22

動的リスト・ページ・フラグメント, B-22

トップ・ナビゲーション・タブ・フラグメント, B-6

ドロップポイント・スニペット, 7-15

な

ナビゲーション

定義, 用語集-7
リンクの使用, 6-13

ナビゲーション・フラグメント, 7-3

ハイパーリンク, 5-10

ナビゲーション・ホーム・ロゴ・フラグメント, B-4

ね

ネイティブ・ドキュメント, 2-11, 4-11

Dynamic Converter のテンプレート選択ルール, 13-4

Web サイト全体での共有, 4-6

コントリビューション・リージョンへの追加, 9-8,
10-3, 13-2

サイトへの発行, 4-9

再利用, 2-13

使用するための要件, 13-2

新規指定, 2-13

説明, 2-11

定義, 用語集-7

動的な変換, 13-5

変換テンプレートの指定, 13-3

リージョンでのコントリビュータによる切替えの許
可, 9-6

リージョンへの割当て, 2-12

リンク, 6-17

ワークフローへの追加, 16-4

ネイティブ・ドキュメントの動的変換, 13-2, 13-5

は

ハイパーリンク

セクション, 5-13

定義, 用語集-7

ハイパーリンク, 「リンク」を参照

パラメータ

新規追加, 7-20

スニペットへの挿入, 7-21

追加, 7-19

定義, 用語集-8

フラグメント, 2-9

フラグメントでのカスタマイズ, 7-6

編集, 7-19

パラメータ化されたフラグメント, 1-4

パラメータ宣言

スニペットへの挿入, 7-21

ひ

表

行の追加, 6-25

サイズ変更, 6-25

削除, 6-29

列の追加, 6-26

枠線の表示と非表示, 6-28

表示されるセクションの順序, 変更, 5-12
表ツールバー, 6-25
表の行のサイズ変更, 6-27
表のセルの分割, 6-26
表のセルのマージ, 6-26
表のマージンの変更, 6-24
表の列のサイズ変更, 6-28
表の枠線, 表示と非表示, 6-28

ふ

ファイル・システム, レイアウト・ページの追加, 5-22, 5-24, 5-25
ファイル・システムからのレイアウト・ページのインポート, 5-22, 5-24, 5-25
複数の Web サイト, 格納, 4-3
複数のレイアウト・ページ
 同じコンテンツの表示, 2-13
 開く, 6-2
不明なタグ, 扱い, A-13
プライマリ・ページ, 2-5
 サイト階層への追加, 5-23
 再利用, 1-3
 説明, 4-5
 定義, 用語集-8
フラグメント, 6-33
 ASP, 4-16
 ASP エクスプローラ・メニュー・バー, B-10
 ASP エラー・ハンドラ・メッセージ, B-28
 ASP 検索結果プレーン, B-12
 ASP 検索ボックス・プレーン, B-11
 ASP 検索ボックス・プレーン (サーバー), B-12
 ASP サイト・マップ・プレーン, B-13
 ASP 静的リスト・サンプル, B-26
 ASP 動的リスト・シンプル, B-23
 ASP 動的リスト・ページ, B-23
 ASP ブレッドクラム・プレーン, B-9
 ASP ブレッドクラム・プレーン (サーバー), B-10
 CSP サンプル動的リスト, B-24
 CSP サンプル・ナビゲーション (クライアント), B-13
 CSP サンプル・ナビゲーション (サーバー), B-14
 CSP サンプル・ページ・タイトル, B-28
 Flash サンプル, B-27
 IDOC 検索ボックス・プレーン, B-19
 IDOC サイト・マップ・プレーン, B-19
 IDOC トップ・ナビゲーション・タブ, B-19
 IDOC ナビゲーション・ホーム・ロゴ, B-17
 IDOC ブレッドクラム・プレーン, B-17
 JSP 検索結果ページ, B-16
 JSP 検索ボックス・プレーン, B-15
 JSP サイト・マップ・プレーン, B-17
 JSP 動的リスト・プレーン, B-24
 JSP ナビゲーション・ホーム・ロゴ, B-14
 JSP の使用, 7-19
 PageHitCount, B-29
 RSET サイト・マップ・プレーン, B-21
 RSET ブレッドクラム・プレーン, B-20
 Site Studio マネージャ, B-29
 アセット, 2-9, 7-17
 アセットの削除, 7-18
 アセットの追加, 7-17
 アセットの編集, 7-18

エクスプローラ・メニュー・バー, B-3
カスタマイズ, 7-6, 7-19
カテゴリ, 2-8, 7-2
管理, 4-11
言語のフィルタ, 3-12, 7-4
検索結果ページ, B-7
コピーの編集, 7-8
コピーライト・サンプル, B-26
コンテンツ・サーバー, 7-10
コンテンツ・サーバーからの削除, 7-11
コンテンツ・サーバーからのダウンロード, 5-3
コントリビューション・リージョン, 6-33
サイト・マップ・ツリー, B-9
サイト・マップ・プレーン, B-8
再利用, 1-4
削除, 7-11
作成, 2-9, 7-10
サンプル, 7-2
新規パラメータの追加, 7-20
垂直方向の ASP ナビゲーション・マルチ, B-11
垂直方向の JSP ナビゲーション・プレーン, B-15
垂直方向のナビゲーション・マルチ, B-5
垂直方向のメニュー・バー, B-9
水平方向の ASP ナビゲーション・マルチ, B-10
水平方向の IDOC ナビゲーション・プレーン, B-18
水平方向の IDOC ナビゲーション・マルチ, B-18
水平方向の JSP ナビゲーション・プレーン, B-15
水平方向の RSET ナビゲーション・プレーン, B-21
水平方向の RSET ナビゲーション・マルチ, B-20
水平方向のナビゲーション・プレーン, B-5
水平方向のナビゲーション・マルチ, B-4
水平方向のナビゲーション・ラップ, B-6
スクリプト言語, 7-14
スニペット, 2-9
スニペットの追加と編集, 7-15
すべての言語の表示, 3-12, 7-4
静的リスト, 7-3
静的リスト一般, B-25
静的リスト・サンプル, B-25
静的リスト・フラグメント, 2-8
説明, 2-9, 7-2
その他のフラグメント, 2-8
タイプ, 7-14
ツールボックスからの削除, 7-11
ツールボックスのアイコンの変更, 7-14
定義, 2-7, 用語集-8
動的変換, 13-5, B-26
動的変換 IFrame, B-27
動的リスト, 7-3
動的リスト一般, B-22
動的リスト・フラグメント, 2-8
動的リスト・プレーン, B-22
動的リスト・ページ, B-22
 トップ・ナビゲーション・タブ, B-6
ナビゲーション, 7-3
ナビゲーション・フラグメント, 2-8
ナビゲーション・ホーム・ロゴ, B-4
ナビゲーション・リンク, 5-10
パラメータ, 2-9, 7-19
パラメータ化, 1-4
パラメータの編集, 7-6, 7-19
含まれるコード, 7-12, 7-23
フラグメント・ライブラリへの保存, 7-24

- プレースホルダ・テキスト, 7-5
- ブレッドクラム・プレーン, B-3
- プレビュー, 7-5
- プロパティ, 2-9, 7-13
- 編集, 2-9, 7-7
- 要素, 2-9
- 要素の削除, 7-23
- 要素の追加, 7-22
- 要素の編集, 7-23
- ライブラリ, 1-4, 7-23
- ライブラリのアップロードとダウンロード, 7-26
- ライブラリ名, 7-14
- ランダム変換, 13-5, B-28
- レイアウト・ページでのコードの変更, 6-3
- レイアウト・ページへのコンテンツの追加, 6-33
- レイアウト・ページへの追加, 2-8, 4-7, 7-4
- ログイン・サンプル, B-3
- ロゴ・サンプル, B-27
- フラグメント・エディタ, 2-9, 7-12
 - 定義, 用語集-8
 - フラグメントの作成, 2-9
 - フラグメントの編集, 2-9
- フラグメント・スニペット
 - 作成に使用される言語, 7-16
- フラグメント内の JavaScript, 7-12, 7-23
- フラグメントのアイコン, 変更, 7-14
- フラグメントのプレースホルダ・テキスト, 7-5
- フラグメントのプレビュー, 7-5
- フラグメントのプロパティ, 定義, 用語集-8
- フラグメント・ライブラリ, 1-4, 4-11
 - アップロードとダウンロード, 7-26
 - コンテンツ・サーバーへのデプロイ, 7-27
 - 説明, 7-23
 - 定義, 用語集-8
 - フラグメントの保存, 7-24
- フラグメント・ライブラリのアップロード, 7-26
- フラグメント・ライブラリのダウンロード, 7-26
- プレーン・テキスト要素, コントリビューション・リージョンへの追加, 11-9
- ブレッドクラム・プレーン・フラグメント, B-3
- プロジェクト・ステータス, 5-9
- プロジェクト・ファイル, 5-8
 - コンテンツ情報ページ, 5-10
 - ステータス, 5-9
 - 説明, 5-8
 - 変更, 5-10
 - メタデータ値の指定, 5-9
- ブロックレベルのタグ, インデント, A-13
- プロパティ
 - カスタム・セクション, 5-18
 - セクション・プロパティの表示, 5-16
 - フラグメント, 2-9, 7-13
 - レイアウト・ページのプロパティの表示, 5-26

へ

- ペイン
 - Properties, 2-6
 - Site Assets, 2-7, 5-30
 - Site Hierarchy, 2-4
 - 移動とドッキング, 3-3
 - サイズ変更, 3-2
 - 表示と非表示, 3-2

- ヘッド・スニペット, 7-15
- 変換テンプレート, ネイティブ・ドキュメント用の指定, 13-3
- 変換テンプレートのテンプレート選択ルール, 13-4

ほ

- ホームページ
 - HCSP ファイル拡張子, 5-23
 - HCSP ページ, 5-23
 - JSP ページ, 5-23
 - サイト階層への追加, 5-22
 - 定義, 用語集-9
- ボディ・スニペット (最後), 7-15
- ボディ・スニペット (最初), 7-15
- ボディ・タグ, 「Properties」ペインでの編集, 6-30

ま

- マネージャ
 - サイトへの投稿, 8-1, 9-1
 - 定義, 用語集-9
- マネージャ, 説明, 1-2
- マネージャの役割, 8-7

め

- メタデータ
 - 「Site Assets」ペインで使用される値, 5-31
 - Website Object Type, 5-31
 - Website Section, 5-31
 - WebsiteObjectType, 6-11
 - Websites, 5-31
 - プロジェクト・ファイルに割り当てる値の指定, 5-9
 - 変更, 11-17
 - ワークフロー, 16-3
- メニュー
 - Insert Table, 6-24
 - カスタマイズ, 3-4
 - 作成, 3-4
- メニュー・バー, 11-18

よ

- 要素
 - HTML タグ, 6-10
 - WYSIWYG, 11-3
 - イメージ, 11-10
 - コントリビューション・リージョン, 11-2
 - コントリビューション・リージョンへの追加, 2-10, 8-7
 - 削除, 7-23
 - 説明, 7-22
 - ツールバー, 11-3
 - 定義, 用語集-9
 - 動的リスト, 14-9
 - フラグメント, 2-9
 - プレーン・テキストの追加, 11-9
 - 編集, 7-23
 - リスト, 14-2
 - リストへの追加, 7-22
- 要素のダイアログ・ボックス, 14-9

ら

ランダム動的変換とワークフロー, 16-4
ランダム変換フラグメント, 13-5, B-28

り

リージョン・コンテンツ, 2-11

Web サイトに関連付けられていないコンテンツの追加, 4-6

コントリビュータによる切替えの許可, 9-6

コントリビュータによる変更の許可, 9-3

サイト階層で欠落しているかどうかの確認, 10-6

サイト全体での共有, 9-12

ターゲット・セクションの指定, 9-13

追加するカスタム要素フォームの使用, 12-2

定義, 用語集 -10

複数のページでの表示, 2-13

レイアウト・ページへの追加, 4-7

リスト

静的, 14-2

動的, 14-6

リスト要素, コントリビューション・リージョンへの追加, 14-2

リンク

Web アドレス, 6-17

Web サイトの別のファイル, 6-15

形式, 6-20

削除, 6-18

タイプの比較, 6-20

編集, 6-18

レイアウト・ページへの追加, 6-13

リンク形式

デフォルトの選択, 6-19

れ

レイアウト・ページ, 2-5

ASP ファイル拡張子, 5-22, 5-23, 5-25

「Design」ビュー, 2-6, 6-2, 6-4

HCSP ファイル拡張子, 4-10, 5-22, 5-23, 5-24, 5-25, 5-26

HTML コード, 6-3

HTML タグの表示, 6-29

HTML タグの編集, 6-29

HTML 表, 6-21

HTML 表の追加, 6-24

Idoc スクリプト, 4-3, 6-3

JavaScript, 6-3

JavaServer Pages, 4-3

JSP の使用, 4-14

JSP ファイル拡張子, 4-10, 5-22, 5-23, 5-25

Preview, 2-6, 6-2, 6-6

「Source」ビュー, 2-6, 6-2, 6-3

「Source」ビューでの制御, 6-29

Web サイトでの表示, 5-10

WYSIWYG ビュー, 6-4

XML コード, 6-3

既存のレイアウト・ページに基づいて作成, 5-22, 5-24, 5-25

グラフィックのサイズ変更, 6-12

グラフィックの追加, 6-11

継承, 5-22, 5-24, 5-25

構成要素, 6-33

コード, 6-3

コードの変更に関する警告, 6-3

コンテンツの直接追加, 5-28

コンテンツの追加, 4-7

コントリビューション・リージョン, 6-33

コントリビューション・リージョンの追加, 2-10, 5-29, 8-3, 9-2

コントリビューション・リージョンの編集, 9-4

コントリビューション・リージョンへのコンテンツの追加, 6-33

コントリビュータ・データ・ファイル, 8-4

サーバー側スクリプト言語, 4-14, 4-15

サイト階層への追加, 5-22, 5-23, 5-24, 5-25

再利用, 6-33

再利用可能, 1-3, 5-20

再利用する場合のメリット, 4-6

削除, 5-26

サンプル, 5-27

書式設定ツールバー, 6-7

スクリプト・オプション, 4-3

セカンダリ, 2-5, 5-20

セクションへの追加, 5-20

説明, 4-5

ターゲットとしてのプライマリ, 5-10

追加コンテンツ用のセカンダリ, 5-10

定義, 用語集 -10

テキストの書式設定, 6-7, 6-10

テキストの追加, 6-7

特殊なコード, 6-33

表の行のサイズ変更, 6-27

表の削除, 6-29

表の列のサイズ変更, 6-28

表の枠線の表示と非表示, 6-28

開く, 6-2

ファイル拡張子の重要性, 4-14, 4-15

ファイル・システムに格納されたファイル, 5-22, 5-24, 5-25

複数作成する場合と再利用する場合の比較, 4-6

複数作成する場合のメリット, 4-6

複数表示, 6-2

プライマリ, 2-5, 5-20

フラグメント, 6-33, 7-2

フラグメントの削除, 7-11

フラグメントの追加, 2-8, 7-4

フラグメントを使用したコンテンツの追加, 6-33

プレビュー, 8-5

プロパティ, 5-26

別の Web サイトの URL の追加, 5-21

別のエディタによる HTML 表レイアウト, 6-23

編集用のビュー, 2-6

ホームページ, 5-22

ボディ・タグ, 6-30

リンクの追加, 6-13

リンクの編集, 6-18

レイアウト・ページの WYSIWYG ビュー, 6-4

レイアウト・ページのクライアント側スクリプト, 6-33

レイアウト・ページのグラフィックのサイズ変更, 6-12

レイアウト・ページの継承, 5-22, 5-24, 5-25

レイアウト・ページのサーバー側スクリプト, 4-14, 4-15, 6-33

レイアウト・ページの再利用, 5-22, 5-24, 5-25

列

- 表でのサイズ変更, 6-28
- 表への追加, 6-26
- レプリケーション用の外部プロバイダ, 設定, 17-5
- レプリケート
 - インポート・アーカイブとエクスポート・アーカイブの作成, 17-7
 - エクスポート・アーカイブの設定, 17-8
 - 開始, 17-10
 - 外部プロバイダの作成, 17-5
 - サイトの各セクション, 17-11
 - 説明, 17-2
 - ターゲット・サーバーの構成, 17-4

ろ

- ログイン・サンプル・フラグメント, B-3
- ロゴ・サンプル・フラグメント, B-27

わ

- ワークフロー
 - 「Approve Document」オプション, 16-3
 - 「Edit」オプション, 16-3
 - 「Reject Document」オプション, 16-3
 - Site Studio, 16-1
 - イメージの追加, 16-5
 - インライン動的変換, 16-4
 - オプション, 16-3
 - カスタム・メタデータ・フィールド, 16-3
 - 基準ワークフロー, 16-2
 - 基本ワークフロー, 16-2
 - コントリビューション・リージョン, 16-2, 16-5
 - コントリビュータ, 2-17
 - コントリビュータ・データ・ファイル, 16-3
 - タイプ, 16-2
 - 定義, 用語集 -10
 - 動的リスト, 16-4
 - ネイティブ・ドキュメント, 16-4
 - ランダム動的変換, 16-4
 - 例, 16-3
 - レビューア, 16-2
 - レビューア / コントリビュータ, 16-2
 - ロール, 16-2
- ワークフローのレビューア, 16-2

